岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第681集

荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

〈第１分冊　本文・図版・表・附編〉

２０１８

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第681集
荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書 第1分冊 2018
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第681集

荷竹日向（にちくひなた）Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

〈第１分冊　本文・図版・表・附編〉

２０１８

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

〈第１分冊　本文・図版・表・附編〉

序

岩手県には旧石器時代から連綿と続く数多くの遺跡が残されております。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して平成26・27年度に発掘調査を行った荷竹日向Ⅰ遺跡の調査結果をまとめたものです。

今回の調査によって古代～中世の竪穴建物や鍛冶炉などの遺構が検出され、その周辺からは生活に使われた土器や鉄製品などの遺物が見つかりました。これらの結果から、当時、この地で暮らしていた人々の様子の一端が明らかになりました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財行政に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成30年３月

公益財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　菅　野　洋　樹

例　　言

1　本報告書は岩手県宮古市津軽石第16地割荷竹ほかに所在する荷竹日向Ⅰ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。

2　本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所との協議を経て、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。

3　本遺跡の調査成果は、すでに『平成26年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集）、及び第661集『平成27年度発掘調査報告書』において発表しているが、内容については本書が優先する。

4　岩手県遺跡登録台帳に登録されている遺跡番号と遺跡略号は次の通りである。

遺跡番号　ＬＧ63－0231／遺跡略号　ＮＨＮⅠ－14・15

5　野外調査の期間・面積・担当者は次の通りである。

調査期間　平成26年４月10日～12月26日、平成27年４月16日～５月15日

調査面積　15,600㎡

担当者　　平成26年度　溜 浩二郎・佐藤 剛・西澤正晴・星 雅之・佐藤淳一・福島正和・小野寺純也・藤本玲子・立花雄太郎・中川重紀・藤田崇志・光井文行・古舘貞身・佐々木隆英・南野龍太郎・久保友咲・鈴木博之・中島康佑

平成27年度　溜 浩二郎・佐藤 剛・立花雄太郎・河村美佳・澤 美咲

6　室内整理の期間・担当者は次の通りである。

整理期間　平成26年12月１日～平成27年３月31日、同27年12月１日～平成28年３月31日、同28年６月１日～７月31日

担当者　　平成26年度　溜 浩二郎・立花雄太郎・藤田崇志・中川重紀

平成27年度　溜 浩二郎・河村美佳

平成28年度　溜 浩二郎

7　遺物の鑑定は次の機関に依頼した。

石材鑑定：花崗岩研究会

炭化材樹種同定：阿部利吉（前木炭協会会員）

火山灰分析：火山灰考古学研究所

放射性炭素年代測定：パリノ・サーヴェイ株式会社

鉄滓の分析：古環境研究所

8　基準点測量は株式会社鈴木測量設計、地形図作成測量は北栄調査設計株式会社に委託した。

9　野外調査・室内整理にあたり、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会、遺跡周辺住民の方々の協力を得た。

10　本報告書の編集については、第Ⅰ章「調査に至る経過」は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所に原稿を依頼し、執筆していただいたものである。第Ⅱ～Ⅵ章については溜が編集・執筆したが、「第Ⅳ章　調査内容」の事実記載については各担当者が記録したデータを元に溜・立花が執筆・編集した。

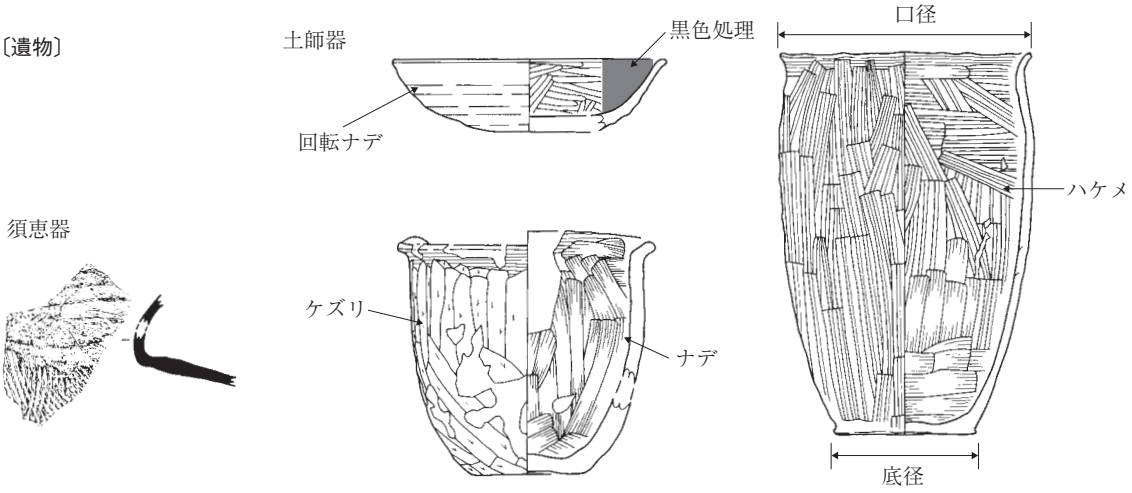
11　本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図などは岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

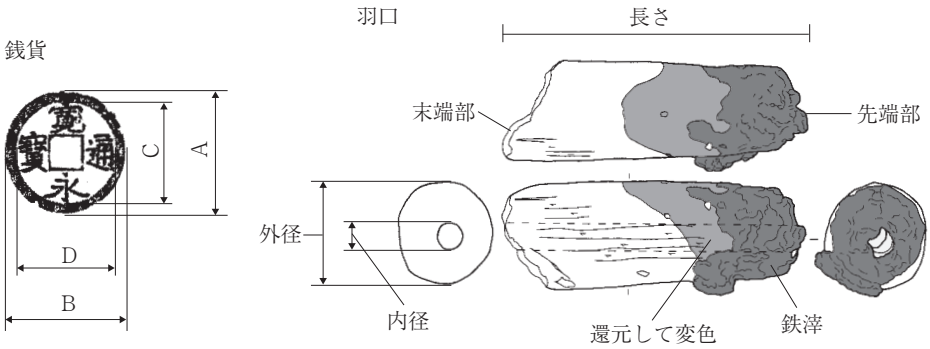
凡　　例

1　遺構実測図の縮尺は各遺構の規模により異なるため、各図版にスケールおよび縮尺を付した。
2　基本土層にはローマ数字、各遺構の堆積層にはアラビア数字を使用した。
3　土層の色調観察は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
4　遺物の実測図の掲載縮尺は土器1/3、礫石器1/3、剥片石器1/2～2/3、羽口1/4～1/5、鉄製品1/2、陶磁器1/3、銭貨1/1、鉄滓1/4を原則とし、各図版にスケールを付した。
5　遺物の技法・表現、遺構に使用したスクリーントーンは下記のとおりである。これ以外のものについては使用箇所に用例を表記した。

〔遺構〕

〔遺物〕





目　　次

分冊構成

第１分冊　本文・遺構図版・遺物図版・表・附編 自然科学分析

第２分冊　写真図版

（第１分冊）

本 文 目 次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　立 地 と 環 境

1　地 理 的 環 境 …… 1

2　歴 史 的 環 境 …… 5

（1）宮古市の遺跡 …… 5

（2）周 辺 の 遺 跡 …… 5

Ⅲ　野外調査と室内整理

1　野　外　調　査 …… 8

（1）野外調査の経緯 …… 8

（2）グリッドの設定 …… 8

（3）基準点の設定 …… 10

（4）表土除去と遺構の検出 …… 10

（5）遺構の精査と実測 …… 10

（6）写　真　撮　影 …… 10

2　室内整理の手順と方法 …… 10

（1）作　業　経　過 …… 10

（2）遺 物 の 整 理 …… 10

（3）掲　載　図 …… 10

（4）写 真 の 整 理 …… 11

Ⅳ　調　査　内　容

1　概　　要 …… 19

2　基　本　層　序 …… 19

3　検出遺構と出土遺物 …… 20
（1）竪穴建物 …… 22
（2）鍛冶工房跡 …… 57
（3）排滓場 …… 58
（4）鍛冶炉 …… 58
（5）焼土遺構 …… 59
（6）焼成遺構 …… 62
（7）土坑 …… 69
（8）溝跡 …… 100
（9）畝間状遺構 …… 100
（10）陥し穴状遺構 …… 101
（11）性格不明遺構 …… 102
（12）柱穴状土坑 …… 103
（13）その他 …… 103
（14）遺構外出土遺物 …… 103

Ⅴ　調査のまとめ …… 331

1　調査区別の概要 …… 331
2　遺構について …… 332
3　遺物について …… 334
4　総括 …… 338

附編　自然科学分析

1　火山灰分析 …… 339
2　放射性炭素年代測定 …… 345
3　鉄滓類の分析 …… 350

報告書抄録 …… 388

図版目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　地形分類図 …… 3
第３図　遺跡周辺の地形と調査範囲 …… 4
第４図　周辺の遺跡分布図 …… 6
第５図　グリッド配置図 …… 9
第６図　鉄滓類の分類 …… 11
第７図　遺構配置図（全体図） …… 12
第８図　Ａ区遺構配置図 ……13・14
第９図　Ｂ区遺構配置図 ……15・16
第10図　Ｃ区遺構配置図 …… 17
第11図　Ｄ区遺構配置図 …… 18
第12図　基本土層 …… 19
第13図　１号竪穴建物１ ……105
第14図　１号竪穴建物２ ……106
第15図　２号竪穴建物１ ……107
第16図　２号竪穴建物２ ……108
第17図　３号竪穴建物１ ……109
第18図　３号竪穴建物２ ……110
第19図　４号竪穴建物１ ……111
第20図　４号竪穴建物２ ……112
第21図　５号竪穴建物 ……113
第22図　６号竪穴建物１ ……114
第23図　６号竪穴建物２ ……115
第24図　７号竪穴建物１ ……116
第25図　７号竪穴建物２ ……117
第26図　７号竪穴建物３ ……118
第27図　８号竪穴建物１ ……119
第28図　８号竪穴建物２ ……120
第29図　９号竪穴建物 ……121
第30図　10号竪穴建物 ……122
第31図　11号竪穴建物１ ……123
第32図　11号竪穴建物２ ……124
第33図　12号竪穴建物１ ……125
第34図　12号竪穴建物２ ……126
第35図　13号竪穴建物１ ……127
第36図　13号竪穴建物２ ……128
第37図　13号竪穴建物３、14号竪穴建物 ……129
第38図　15号竪穴建物 ……130
第39図　16号竪穴建物 ……131
第40図　17号竪穴建物 ……132
第41図　18号竪穴建物 ……133
第42図　19号竪穴建物１ ……134
第43図　19号竪穴建物２、20号竪穴建物１ ……135
第44図　20号竪穴建物２ ……136
第45図　21号竪穴建物１ ……137
第46図　21号竪穴建物２ ……138
第47図　22号竪穴建物１ ……139
第48図　22号竪穴建物２ ……140
第49図　23号竪穴建物１ ……141
第50図　23号竪穴建物２ ……142
第51図　24号竪穴建物 ……143
第52図　25号竪穴建物 ……144
第53図　26号竪穴建物 ……145
第54図　27号竪穴建物 ……146
第55図　28号竪穴建物 ……147
第56図　29号竪穴建物 ……148
第57図　30号竪穴建物１ ……149
第58図　30号竪穴建物２ ……150
第59図　31号竪穴建物 ……151
第60図　32号竪穴建物 ……152
第61図　33・34号竪穴建物 ……153
第62図　35号竪穴建物 ……154
第63図　36号竪穴建物 ……155
第64図　37号竪穴建物 ……156
第65図　38・39号竪穴建物 ……157
第66図　40・41号竪穴建物 ……158
第67図　42号竪穴建物 ……159
第68図　43・44号竪穴建物……160
第69図　45号竪穴建物 ……161
第70図　46号竪穴建物 ……162
第71図　47号竪穴建物 ……163
第72図　48号竪穴建物 ……164
第73図　49号竪穴建物 ……165
第74図　50号竪穴建物 ……166
第75図　51号竪穴建物 ……167
第76図　52号竪穴建物 ……168
第77図　53・54号竪穴建物……169
第78図　55号竪穴建物 ……170
第79図　56～58号竪穴建物 ……171
第80図　59号竪穴建物 ……172
第81図　60号竪穴建物 ……173
第82図　61号竪穴建物 ……174
第83図　62号竪穴建物、63号竪穴建物１ ……175
第84図　63号竪穴建物２ ……176

第85図　64号竪穴建物……177
第86図　65・66号竪穴建物……178
第87図　67・68号竪穴建物……179
第88図　69号竪穴建物……180
第89図　70号竪穴建物……181
第90図　71号竪穴建物……182
第91図　72号竪穴建物……183
第92図　73・74号竪穴建物……184
第93図　75号竪穴建物……185
第94図　１号鍛冶工房跡１……186
第95図　１号鍛冶工房跡２……187
第96図　１号排滓場……188
第97図　１号鍛冶炉……189
第98図　１・２号焼土……190
第99図　３～７号焼土……191
第100図　８～12号焼土……192
第101図　１・２号焼成遺構……193
第102図　３号焼成遺構……194
第103図　４～７号焼成遺構……195
第104図　８号焼成遺構１……196
第105図　８号焼成遺構２……197
第106図　８号焼成遺構３……198
第107図　９・10号焼成遺構……199
第108図　11～14号焼成遺構……200
第109図　15～17・19号焼成遺構……201
第110図　18号焼成遺構……202
第111図　１～４号土坑……203
第112図　５～７号土坑……204
第113図　８～10号土坑……205
第114図　11号土坑……206
第115図　12～15号土坑……207
第116図　16～19号土坑……208
第117図　20・21号土坑……209
第118図　22～24号土坑……210
第119図　25～27号土坑……211
第120図　28～30号土坑……212
第121図　31～33号土坑……213
第122図　34～36・41号土坑……214
第123図　37～40号土坑……215
第124図　42～44号土坑……216
第125図　45～48号土坑……217
第126図　49・50・52号土坑……218
第127図　51・53・54号土坑……219
第128図　55～58号土坑……220
第129図　59～61号土坑……221
第130図　62～65号土坑……222
第131図　66～69号土坑……223
第132図　70～73号土坑……224
第133図　74～76号土坑……225
第134図　77～80号土坑……226
第135図　81～84号土坑……227
第136図　85～87号土坑……228
第137図　88・89号土坑……229
第138図　90～93号土坑……230
第139図　94～97号土坑……231
第140図　98～102号土坑……232
第141図　１号溝跡（南西側）……233
第142図　１号溝跡（北西側）……234
第143図　１号溝跡（北東側）……235
第144図　２号溝跡……236
第145図　３号溝跡……237
第146図　１号畝間状遺構……238
第147図　２号畝間状遺構……239
第148図　３号畝間状遺構、
１号性格不明遺構……240
第149図　２・３号性格不明遺構……241
第150図　１～４号陥し穴状遺構……242
第151図　５～８号陥し穴状遺構……243
第152図　９～11号陥し穴状遺構……244
第153図　12～14号陥し穴状遺構……245
第154図　15～17号陥し穴状遺構……246
第155図　18～21号陥し穴状遺構……247
第156図　22～24号陥し穴状遺構……248
第157図　25～28号陥し穴状遺構……249
第158図　29～32号陥し穴状遺構……250
第159図　33～36号陥し穴状遺構……251
第160図　37～40号陥し穴状遺構……252
第161図　41～44号陥し穴状遺構……253
第162図　45～48号陥し穴状遺構……254
第163図　49～52号陥し穴状遺構……255
第164図　53～57号陥し穴状遺構……256
第165図　柱穴分布図１……257
第166図　柱穴分布図２……258
第167図　遺構内出土遺物１……274
第168図　遺構内出土遺物２……275
第169図　遺構内出土遺物３……276
第170図　遺構内出土遺物４……277
第171図　遺構内出土遺物５……278
第172図　遺構内出土遺物６……279
第173図　遺構内出土遺物７……280

第174図　遺構内出土遺物８……281
第175図　遺構内出土遺物９……282
第176図　遺構内出土遺物10……283
第177図　遺構内出土遺物11……284
第178図　遺構内出土遺物12……285
第179図　遺構内出土遺物13……286
第180図　遺構内出土遺物14……287
第181図　遺構内出土遺物15……288
第182図　遺構内出土遺物16……289
第183図　遺構内出土遺物17……290
第184図　遺構内出土遺物18……291
第185図　遺構内出土遺物19……292
第186図　遺構内出土遺物20……293
第187図　遺構内出土遺物21……294
第188図　遺構内出土遺物22……295
第189図　遺構内出土遺物23……296
第190図　遺構内出土遺物24……297
第191図　遺構内出土遺物25……298
第192図　遺構内出土遺物26……299
第193図　遺構内出土遺物27……300
第194図　遺構内出土遺物28……301
第195図　遺構内出土遺物29……302
第196図　遺構内出土遺物30……303
第197図　遺構内出土遺物31……304
第198図　遺構外出土遺物１（縄文・弥生土器）……305
第199図　遺構外出土遺物２（弥生土器、土師器、陶器、羽口）……306
第200図　遺構外出土遺物３（金属遺物）……307
第201図　遺構外出土遺物４（銭貨・石器）……308
第202図　竪穴建物の規模……333
第203図　標高別の陥し穴状遺構検出数……334
第204図　金属遺物集成図１……336
第205図　金属遺物集成図２……337

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧……6
第２表　遺構一覧……20
第３表　竪穴建物内柱穴一覧……259
第４表　陥し穴状遺構一覧……262
第５表　柱穴状土坑一覧……272
第６表　古代土器観察表……309
第７表　縄文・弥生土器観察表……312
第８表　陶器観察表……313
第９表　石器観察表……313
第10表　土製品観察表……313
第11表　金属遺物観察表……314
第12表　羽口観察表……316
第13表　銭貨観察表……317
第14表　鉄滓観察表……317
第15表　鉄滓一覧表……320
第16表　古代土器重量表……328
第17表　金属遺物重量表……329
第18表　縄文・弥生土器重量表……330
第19表　羽口重量表……330
第20表　鉄滓重量表……330
第21表　調査区別の遺構数……331
第22表　竪穴建物の新旧関係……332

Ⅰ　調査に至る経過

荷竹日向Ⅰ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（山田～宮古）の事業区画内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359㎞の自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年２月22日付け国東整陸一調第1115号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年２月27日～28日にわたり試掘調査を行い、平成25年３月４日付け教生第1674号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成27年4月10日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所）

Ⅱ　立 地 と 環 境

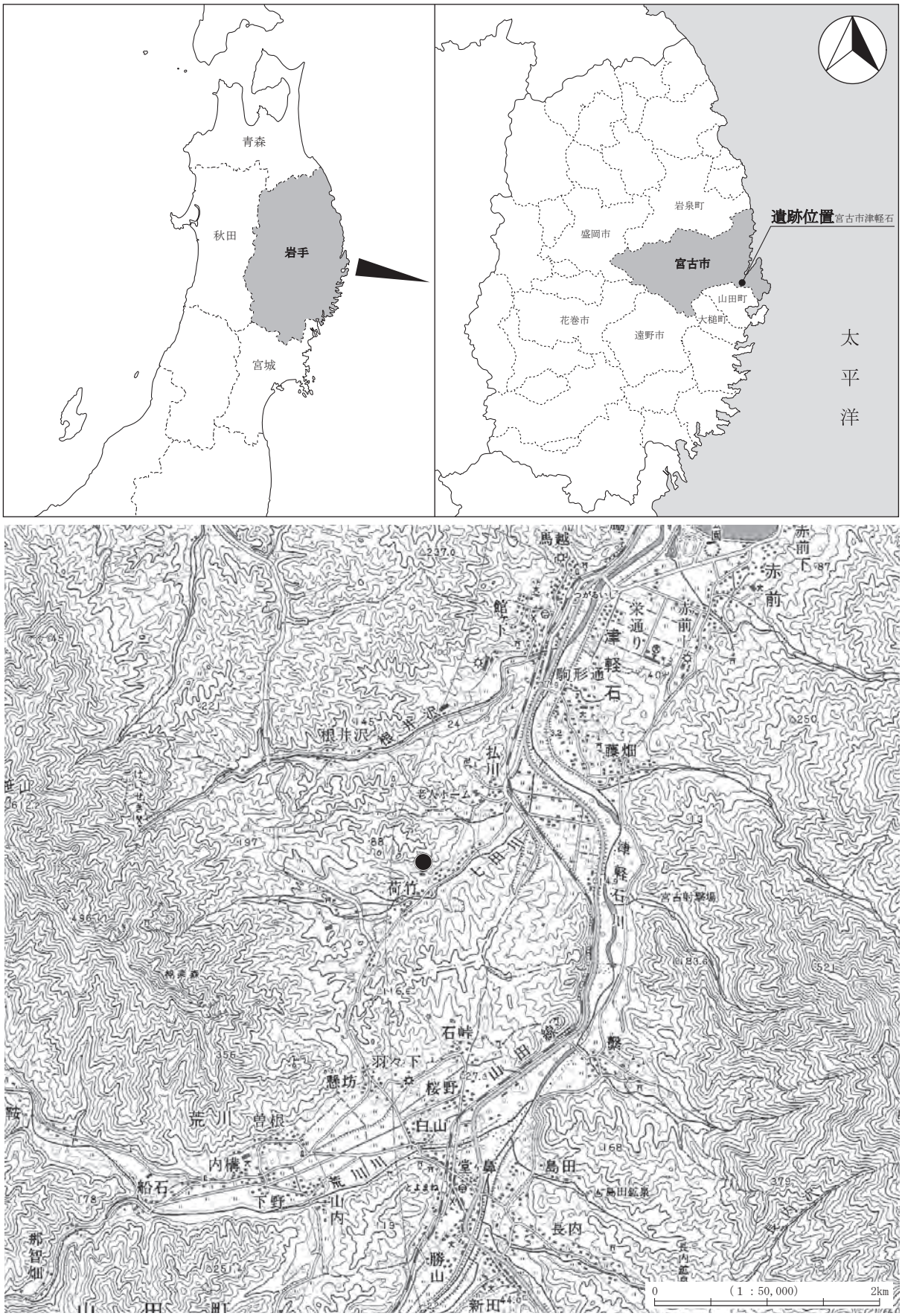
１　地 理 的 環 境

荷竹日向Ⅰ遺跡は、宮古市津軽石第16地割、北緯39度33分49秒、東経141度55分22秒付近の地点に位置し、国土地理院発行の５万分の１地形図「宮古」NJ-54-13-3（盛岡3号）の図幅に含まれる。

宮古市は、岩手県の最東端に位置し、北側で下閉伊郡岩泉町、西側で盛岡市・花巻市、南側で遠野市・下閉伊郡山田町・上閉伊郡大槌町とそれぞれ接し、また東側は太平洋に面している。現在の宮古市は、平成17年６月に下閉伊郡田老町・同新里村、平成22年１月に下閉伊郡川井村と合併し、人口56,080人（平成27年12月１日現在）、面積1,259.89㎢内の東には三陸海岸、西には早池峰山をはじめとした北上山地の山々を有する広大な市となっている。

宮古市の地形は、北上山地東縁から続く山地が大きな割合を占め、市内を東流する閉伊川などの河川が形成する谷上地形に低地や台地が作られる。地質は、宮古花崗岩の通称で知られている、中生代白亜紀前期の磁鉄鉱系列のトーナル岩～花崗閃緑岩で占められている岩体が見られる。一方、東部の重茂半島では様相が異なり、大浦花崗岩として知られている、花崗閃緑岩や花崗岩で占められる中生代白亜紀前期の岩体が見られ、両者は宮古湾近辺で境界を接している。

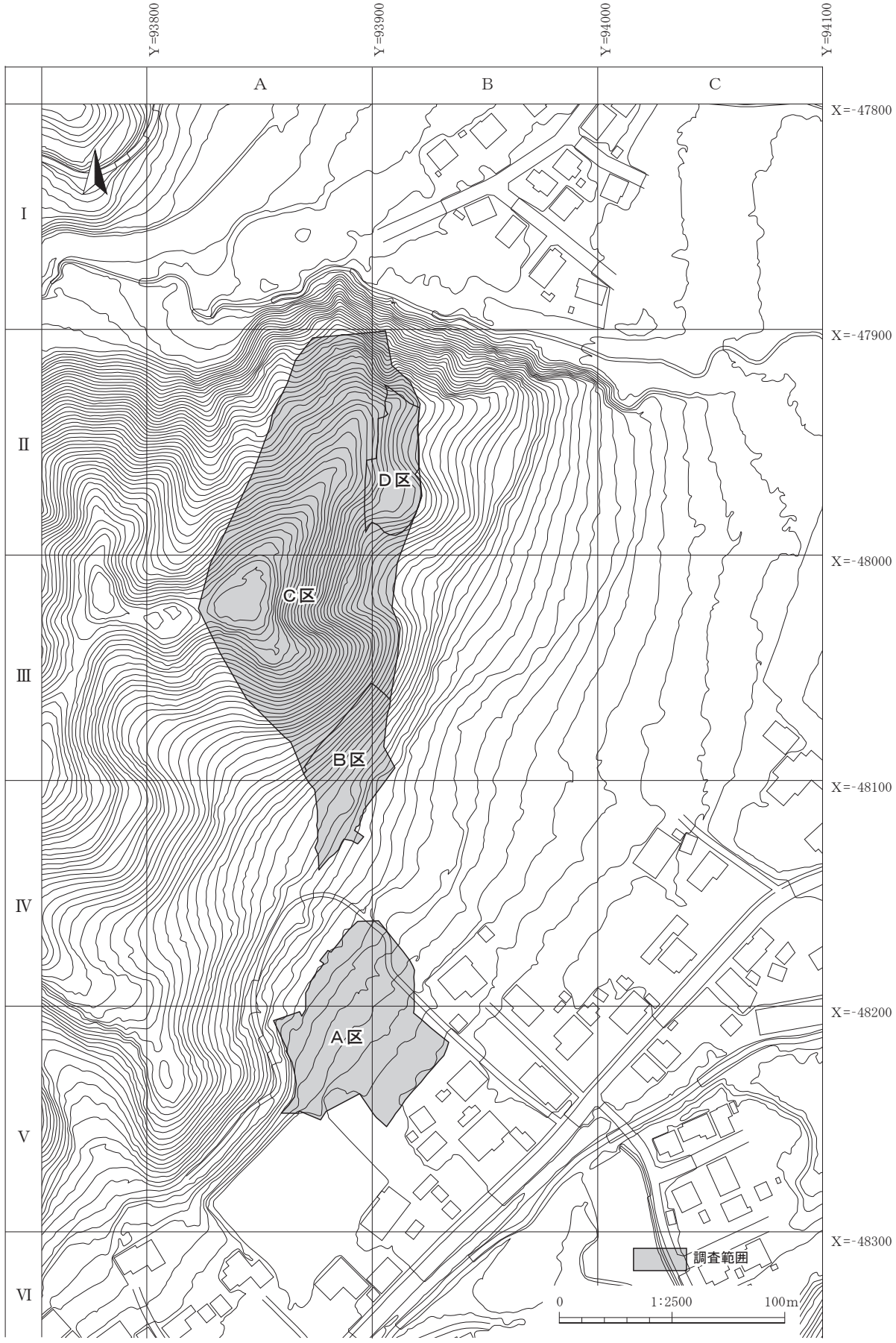
遺跡が所在する宮古市津軽石は、山田町豊間根を源流とし、宮古湾へと注ぐ津軽石川の左岸に位置している。主に津軽石川やその支流の七田川・根井沢川などに開析された豊間根丘陵と呼ばれる丘陵地と、津軽石川沿いに樹枝上に発達した谷底・氾濫平野に分類され、ごく小規模ではあるが段丘や扇状地なども見られるようである。また、西には大笹山（612.2m）をはじめとした、標高400～600mの中規模山地や、それよりも低い標高の小規模山地が形成される。また宮古花崗岩が風化した、風化花崗岩と呼ばれる層が見られる。その中でも遺跡の含まれる荷竹地区は、津軽石川の支流七田川沿いに谷底平野や段丘が形成され、また両岸に、丘陵地が広がる地形となっている。当遺跡は、七田川


青森
秋田
岩手
宮城
岩泉町
盛岡市
宮古市
遺跡位置
宮古市津軽石
山田町
大槌町
花巻市
遠野市
太
平
洋
0
（1：50,000）
2km

第１図　遺跡位置図

八木沢丘陵
宮古湾
花輪山地
津軽石川
十二神山山地
荷竹日向Ⅰ遺跡
豊間根丘陵
0
（1：50,000）
2km
山地
山麓及び他の緩斜面
丘陵地
台地
扇状地
崖錐性扇状地
谷底平野及び氾濫平野
海岸平野及び三角州
旧河道
浜及び河原
裸出砂丘・砂嘴・砂州
人工改変地

第２図　地形分類図



第３図　遺跡周辺の地形と調査範囲

左岸の丘陵頂部からその裾野に位置する、標高20～72m の丘陵南側斜面地～平坦地である。現況は山林・畑地で、調査区頂部から急斜面にかけて風化花崗岩が見られた。

2　歴 史 的 環 境

（1）宮古市の遺跡

宮古市内には、平成27年度現在、岩手県教育委員会が作成した『岩手県遺跡情報検索システム（宮古市地方振興局平成27年3月31日現在）』により、653遺跡が登録されている。全体の19% にあたる122遺跡は複数の時代にまたがる複合遺跡である。時代別にみると複合遺跡も含め、縄文時代477遺跡、弥生時代22遺跡、奈良・平安時代127遺跡、中世78遺跡、近世12遺跡で、縄文時代の遺構・遺物が見つかった遺跡は周知されている遺跡全体の半数を超え、次いで奈良・平安時代と中世の遺跡が多い傾向にある。

縄文時代は最も多くの遺跡数が存在しており、縄文時代早期から晩期まで様々な遺構・遺物が確認されている。早期では、小沢貝塚、宮古市指定史跡の磯鶏蝦夷森貝塚、八木沢野来遺跡、根井沢穴田Ⅳ遺跡（９）などで遺物が確認されている。前期以降遺跡数が増加し、中期で最盛期となり、上村貝塚、国指定史跡崎山貝塚などを代表とする集落遺跡が確認されている。後・晩期になると遺跡数が減少し、遺物の出土は認められるが集落を形成した遺跡の数は少ない。また、弥生時代も同様で上村貝塚で前期集落、木戸井内Ⅲ遺跡、金浜Ⅰ遺跡などで後期集落が確認されている程度である。

奈良・平安時代は、縄文期に次ぐ遺跡数が存在し、長根Ⅰ遺跡、島田Ⅱ遺跡、隠里Ⅲ遺跡、金浜Ⅰ遺跡などがある。特に、集落跡において鉄生産関連遺構が認められる例が多く、縄文期よりも標高の高い山奥に形成される遺跡も見受けられ、これらは鉄生産を行ったことが要因と考えられている。これまでの発掘調査により、９世紀以降に当地域で鉄生産が本格的に始まり、精錬から鉄製品の加工までの一連の生産が盛んに行われていたことが明らかとなっている。荷竹日向Ⅰ遺跡周辺地域でも、製鉄炉やそれに伴う遺物など鉄生産が行われた痕跡が認められている。

中世では、段丘の突端部に遺跡が形成される傾向が認められており、その多くが城館跡である。特に、宮古湾を囲むように多くの城館跡が存在し、赤前館跡（14）、山崎館跡（１）、高平館跡（12）、沼里館跡（５）、払川館跡（18）等がある。また、鉄生産に関連する遺構・遺物が認められる遺跡も多く確認されている。

（2）周 辺 の 遺 跡

本遺跡は、津軽石川左岸の豊間根丘陵上に位置している。津軽石川の支流のひとつである七田川沿いにあり、縄文時代早期から近世にわたるまでの複合遺跡である。丘陵地の頂部～平坦地までの高低差約50m の斜面上に縄文時代の陥し穴、古代～中世の竪穴建物、鍛冶工房跡、鍛冶炉、排滓場、など多くの遺構が確認され、鉄生産に関連する鉄製品や羽口、鉄滓などの遺物が多量出土している。

宮古市の遺跡は、前述のように653遺跡が登録されているが、このうち本遺跡が所在する津軽石地区には45箇所の遺跡が周知されている。全体の33% にあたる15遺跡が複数の時代にまたがる複合遺跡である。時代別にみると複合遺跡も含め、縄文時代27遺跡、弥生時代４遺跡、奈良・平安時代19遺跡、中世７遺跡となっている。当地域の過去の発掘調査成果としては、宮古市教育委員会が平成２年に調査をした払川Ⅰ遺跡（24）、平成15・16年に調査をした払川館跡、平成18年に調査をした荷竹日向Ⅳ遺跡（36）、当埋蔵文化財センターが平成25年に調査をした払川Ⅱ・払川Ⅲ遺跡（25・26）、津軽

第４図　周辺の遺跡分布図

第１表　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代
1	山崎館	城館跡	中世
2	馬越Ⅰ	散布地	縄文・古代
3	津軽石大森	集落跡	縄文・古代・中近世
4	沼里	集落跡	縄文・奈良
5	沼里館	城館跡	中世
6	根井沢穴田Ⅰ	散布地	縄文・古代
7	根井沢穴田Ⅱ	散布地	縄文
8	根井沢穴田Ⅲ	散布地	縄文
9	根井沢穴田Ⅳ	散布地	縄文
10	根井沢穴田Ⅴ	散布地	縄文
11	根井沢寺ヶ沢	散布地	古代
12	高平館	城館跡	中世
13	赤前Ⅲ	集落跡	縄文・平安
14	赤前館	城館跡	中世
15	赤前Ⅰ牛子沢	散布地	縄文
16	久保田	散布地	縄文・古代
17	藤畑	集落跡	縄文・古代
18	払川館（津軽石館）	城館跡	中世
19	根井沢日影Ⅰ	散布地	縄文
20	根井沢日影Ⅱ	散布地	縄文
21	根井沢Ⅰ	製鉄跡	縄文・弥生・平安
22	根井沢Ⅱ	散布地	縄文

番号	遺跡名	種別	時代
23	荷竹米山Ⅵ	散布地	
24	払川Ⅰ	集落跡	縄文・奈良・中世
25	払川Ⅱ	集落跡	縄文・古代
26	払川Ⅲ	散布地	縄文・古代
27	荷竹日向Ⅰ	集落跡	縄文・弥生・古代・中世
28	荷竹日向Ⅱ	散布地	縄文・古代
29	荷竹日向Ⅲ	散布地	縄文・古代
30	荷竹米山Ⅴ	散布地	
31	荷竹米山Ⅱ	散布地	縄文
32	荷竹米山Ⅰ	集落跡	縄文・弥生・古代
33	荷竹米山Ⅳ	散布地	
34	荷竹米山Ⅲ	散布地	
35	荷竹日向Ⅴ	散布地	縄文
36	荷竹日向Ⅳ	散布地	縄文・平安
37	荷竹日影Ⅰ	散布地	
38	荷竹日影Ⅱ	集落跡	弥生・古代
39	荷竹日影Ⅲ	散布地	古代
40	荷竹日影Ⅳ	散布地	
41	荷竹日影Ⅴ	散布地	古代
42	大路	散布地	縄文
43	扇野沢	散布地	縄文
44	石峠Ⅲ	製鉄炉	不明

石大森遺跡（３）、平成26・28年に調査をした沼里遺跡（４）、平成27年に調査をした荷竹日影Ⅱ遺跡（38）などがある。このうち津軽石大森遺跡では、縄文時代と古代の竪穴住居跡が見つかっており、そのうち33棟が古墳時代後期～奈良時代の住居跡と確認されている。集落の主体は７世紀末～８世紀前半とされ、鉄生産をしていない集落である。津軽石大森遺跡と隣接する沼里遺跡では、陥し穴や古代の竪穴住居跡５棟が確認されており、古墳時代末～奈良時代にかけての集落跡である。本遺跡から南に約600ｍの位置にある荷竹日影Ⅱ遺跡は、丘陵地上の斜面に形成され、竪穴住居跡９棟や炭窯、鍛冶炉などが確認され、また羽口や鉄滓などが出土していることから鉄生産に関わりのある集落と考えられる。本遺跡から北に約900ｍの位置にある払川館跡では、遺跡西端の瑞雲寺の裏庭整備に伴い発掘調査を行った際に平安時代の竪穴住居跡や中世の墓跡などが確認され、墓跡から人骨・銅銭・鉄釘・刀子などが出土している。次に本遺跡の北側に隣接する払川Ⅰ～Ⅲ遺跡について述べると、払川Ⅰ遺跡では、縄文時代の陥し穴、奈良時代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡が確認された。払川Ⅱ遺跡では、古代の竪穴住居跡、中世の経塚、近世の墓壙が確認され、土師器や須恵器、銭貨などが出土している。払川Ⅲ遺跡では、縄文時代の陥し穴、古代の竪穴住居跡、中世の柱建物跡、古代と中世の鉄生産関連遺構などが確認されている。いずれの遺跡からも中世の遺構・遺物が見つかっており、同一段丘面に隣接することから、これら払川Ⅰ～Ⅲ遺跡は12世紀～13世紀初頭にかけて存在した同一の集落の可能性が考えられる。また、本遺跡の南西側約600ｍに位置する荷竹日向Ⅳ遺跡では、縄文時代早・前期の遺物包含層が認められ、縄文土器や古代の土師器・須恵器・鉄滓などが出土している。

以上のように、津軽石川沿いの周辺地域では縄文時代～中近世に至るまでの多様な遺跡が存在している。沿岸地域という立地の特性から貝塚をはじめ、縄文期から多くの集落を営んでいることが確認され、古代以降は鉄生産が盛んに行われていることが明らかになってきているが、これらは花崗岩地帯に起因して原料である砂鉄を多く生産することができる地域であったためと考えられる。

引用・参考文献

岩手県企画開発室（北上山系開発） 1976 「北上山系開発地域　土地分類基本調査　宮古」

宮古市教育委員会

1991 『払川Ⅰ遺跡』 宮古市埋蔵文化財調査報告書第29集

2005 『払川館跡』 宮古市埋蔵文化財調査報告書第64集

2008 『荷竹日向Ⅳ遺跡』 宮古市埋蔵文化財調査報告書第74集

2011 『宮古市遺跡分布調査報告書７』 宮古市埋蔵文化財調査報告書第78集

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2010 『金浜Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第553集

2011 『八木沢野来遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第573集

2013 『佐原Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第619集

2015 『払川Ⅱ遺跡・払川Ⅲ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第643集

2017 『荷竹日影Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第675集

Ⅲ　野外調査と室内整理

1　野　外　調　査

（1）野外調査の経緯

平成26年度調査

4月10日　調査開始。

4月11日　人力による試掘および重機による表土除去を開始する。

4月18日　基準点測量開始。（平坦部）

7月上旬　調査区の隣接地の扱いについて協議した結果、調査区が広がり、当初調査予定5,400㎡から15,600㎡へ変更となった。

7月7日　新たに追加された斜面部～山頂部の調査箇所が中世城館跡の可能性が考えられたため、調査着手前の地形測量を委託した。

7月23日　岩手県教育委員会と現地協議を行い、調査手法・優先掘削箇所・雑物置場等について指導を受け、斜面部・山頂部はその方針に従って、作業を進めることとなった。

7月下旬　斜面部・山頂部の重機による雑物撤去と表土の除去を開始した。

10月15日　追加された調査区の基準点測量開始。

10月下旬　委託者との協議により、斜面部・山頂部の調査を優先して行うこととなり、センターの調査方針・調査体制も見直しを行い、11月以降は2ヶ月間で約11,500㎡を調査員16名（順次）体制で進めることとなった。

12月26日　A区以外のB～D区は調査終了し、委託者側に引き渡した。

平成27年度調査

4月16日　調査開始。基準点設置業務委託。重機による表土除去を開始。

4月17日　遺構検出作業開始。

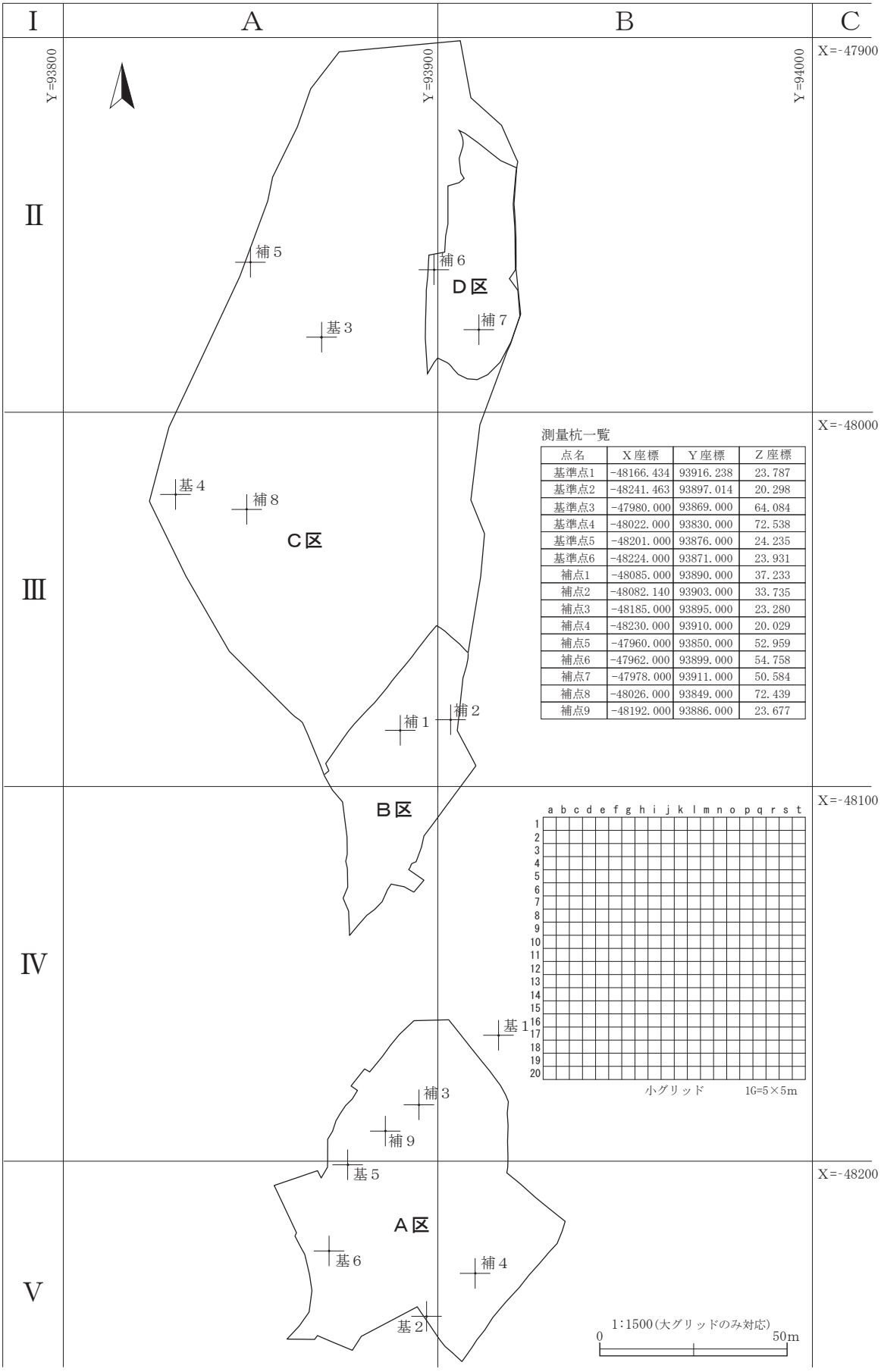
5月12日　終了確認。

5月15日　調査終了。

（＊協議・終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの3者による）

（2）グリッドの設定

遺跡は南北に細長い調査区で南からA～D区の4箇所に分けて調査を行った。グリッドは調査原点を平面直角座標第X系のX＝－47,800.000、Y＝93,800.000とし、100m間隔で北から南方向にⅠ，Ⅱ，Ⅲ・・・とローマ数字をあて、西から東方向へはA，B，C・・・と昇順するアルファベット大文字をあてて100×100mの大グリッドを設定し、さらにこれを5m間隔で20等分し、5×5mの小グリッドとしている。小グリッドの呼称は北から南方向へ1～20のアラビア数字、西から東方向へa～tのアルファベット小文字をあて、これらの組み合わせで小グリッドを表し「ⅠA1a」のように呼称した。



測量杭一覧

点名	X座標	Y座標	Z座標
基準点1	-48166.434	93916.238	23.787
基準点2	-48241.463	93897.014	20.298
基準点3	-47980.000	93869.000	64.084
基準点4	-48022.000	93830.000	72.538
基準点5	-48201.000	93876.000	24.235
基準点6	-48224.000	93871.000	23.931
補点1	-48085.000	93890.000	37.233
補点2	-48082.140	93903.000	33.735
補点3	-48185.000	93895.000	23.280
補点4	-48230.000	93910.000	20.029
補点5	-47960.000	93850.000	52.959
補点6	-47962.000	93899.000	54.758
補点7	-47978.000	93911.000	50.584
補点8	-48026.000	93849.000	72.439
補点9	-48192.000	93886.000	23.677

第5図　グリッド配置図

（３）基準点の設定

遺構の実測に利用するため、調査区内外に３級基準点および補助点の打設を委託し、これをもとに調査を行った。座標値は世界測地系によるもので、成果値は第５図内表のとおりである。

（４）表土除去と遺構の検出

遺跡の調査に先立って、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による事前の試掘調査が実施されている。この試掘により調査対象区内の堆積状況や遺構検出レベルがおおよそ把握されていたため、それを踏まえた上で、重機による表土除去を実施した。その後は人力による遺構検出を行った。

（５）遺構の精査と実測

調査で検出された遺構は以下の手順で調査を進めた。当初、竪穴建物は４分法、土坑類は２分法で精査を行い、堀・溝は適宜に土層確認用の断面ベルトを残し、埋土の堆積状況の確認を行いながら掘り下げた。柱穴状土坑については検出時に柱痕を確認し、平面図作成（株式会社ＣＵＢＩＣの遺構実測支援システムによる）後、セクションベルトを設け、断面確認→完掘の順で作業を行ったが、調査途中から復興調査に関わる調査により、進行を優先する調査手法に切り替えるよう指導されたため、通常は記録として残す断面図・写真の一部を省略することとなった。

（６）写　真　撮　影

調査記録用にデジタル一眼レフカメラ(Canon EOS ５D MARK ⅡおよびCanon EOS ６Dの２台)を使用した。撮影にあたって、整理時の混乱を防ぐため撮影内容を記入した撮影カードを対象遺構撮影前に撮影している。その他、地形測量および調査終了時に併せてセスナ機による航空写真撮影を実施した。

２　室内整理の手順と方法

（１）作　業　経　過

室内整理期間は前述の例言のとおりで、整理作業は遺物の接合・復原・実測図作成・図面合成・原稿執筆・各種観察表の作成等の作業を実施した。

（２）遺 物 の 整 理

洗浄した遺物は注記作業→重量計測→接合・復原の順に作業を行い、その過程で本書に掲載する遺物を抽出し、それらの実測図を作成し、トレースを行った。鉄滓については当センター報告書第625集「松山館跡発掘調査報告書」にならい第６図のとおり分類した。

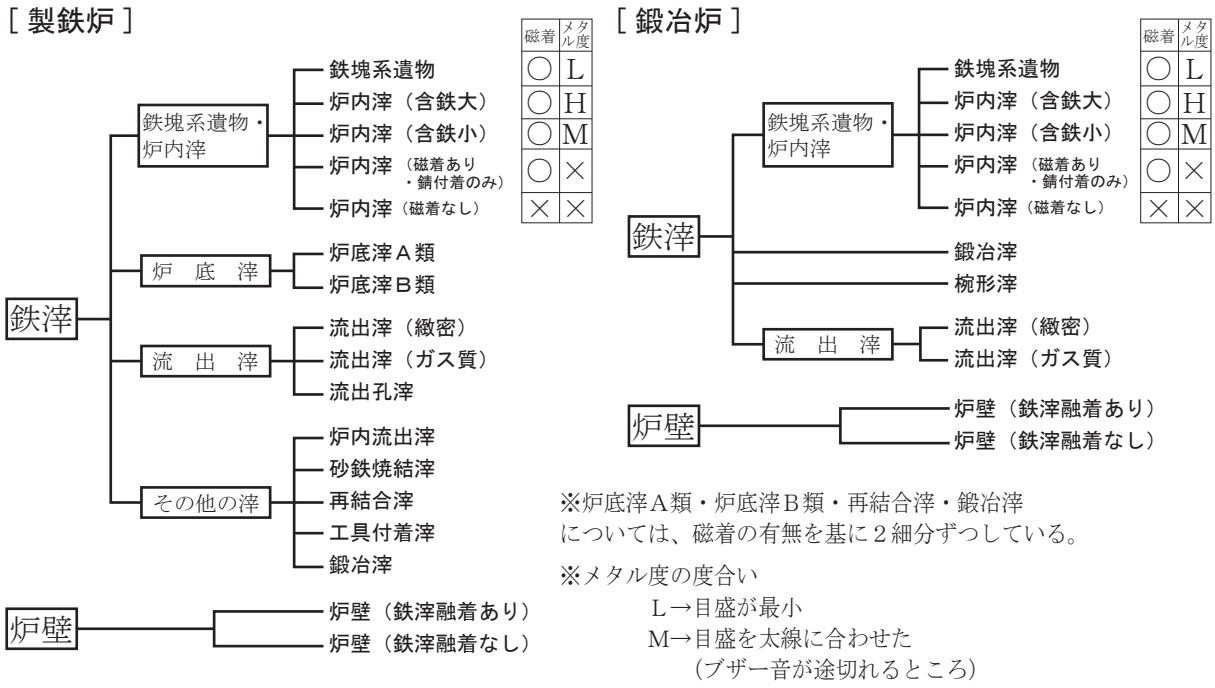
（３）掲　載　図

遺物実測図の掲載縮尺は土器・陶磁器が1/3、礫石器1/3、剥片石器1/2～ 2/3、土製品1/4、羽口1/4～ 1/5、金属遺物1/2、銭貨原寸大を原則としたが、規模により異なるものもあることから各図版にスケールを付した。また、実測図において須恵器の断面は黒色に塗りつぶし、土師器の内面黒色処理は黒色トーンを内面に使用して表した。遺構図面は、野外調査で作成した実測原図を点検の上で第

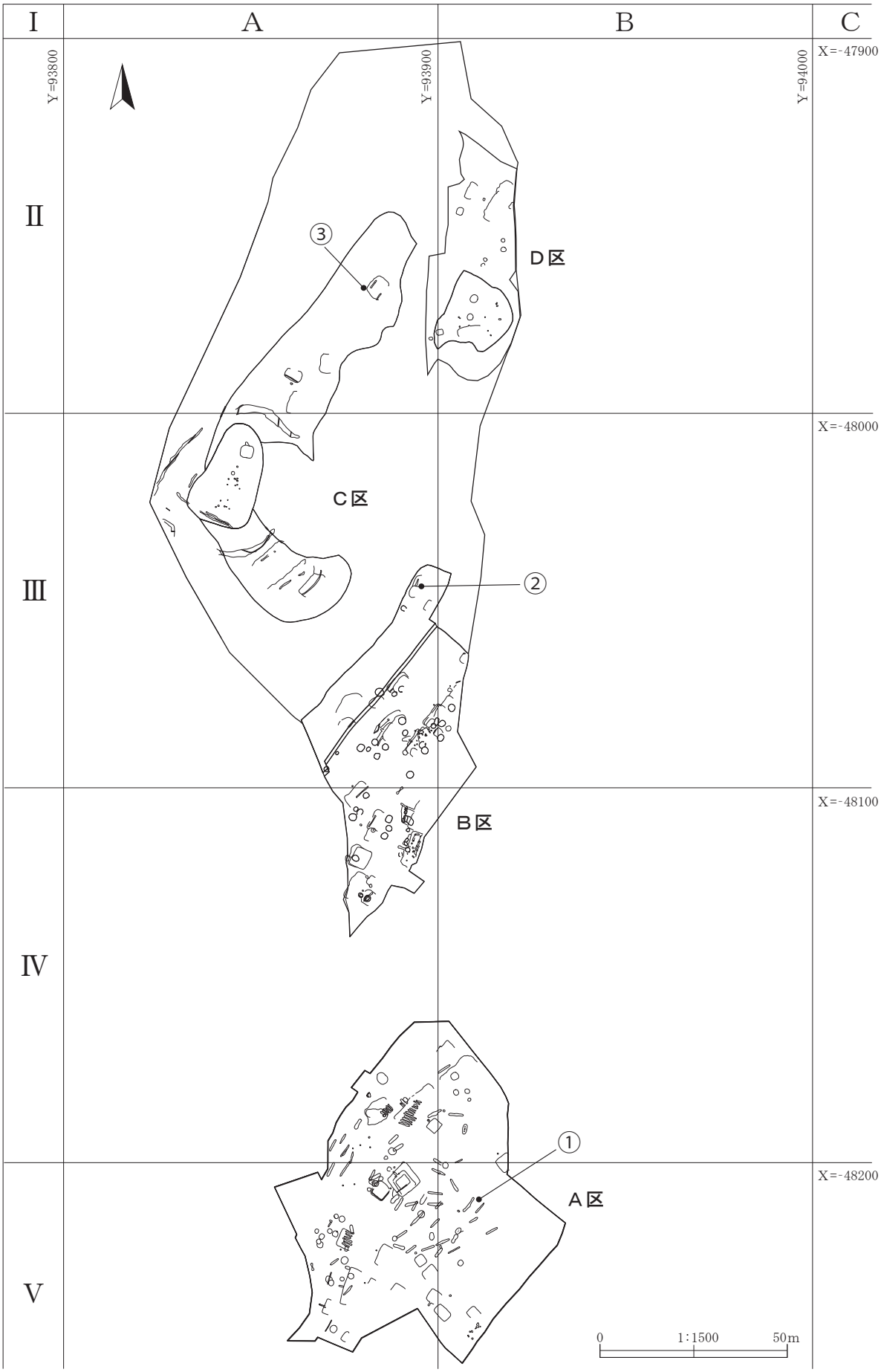
二原図（修正済図）を作成し、トレース後に版下作成を行った。また、遺構図版内におけるスクリーントーンによる表現には、使用箇所に用例を明記した。

（4）写 真 の 整 理

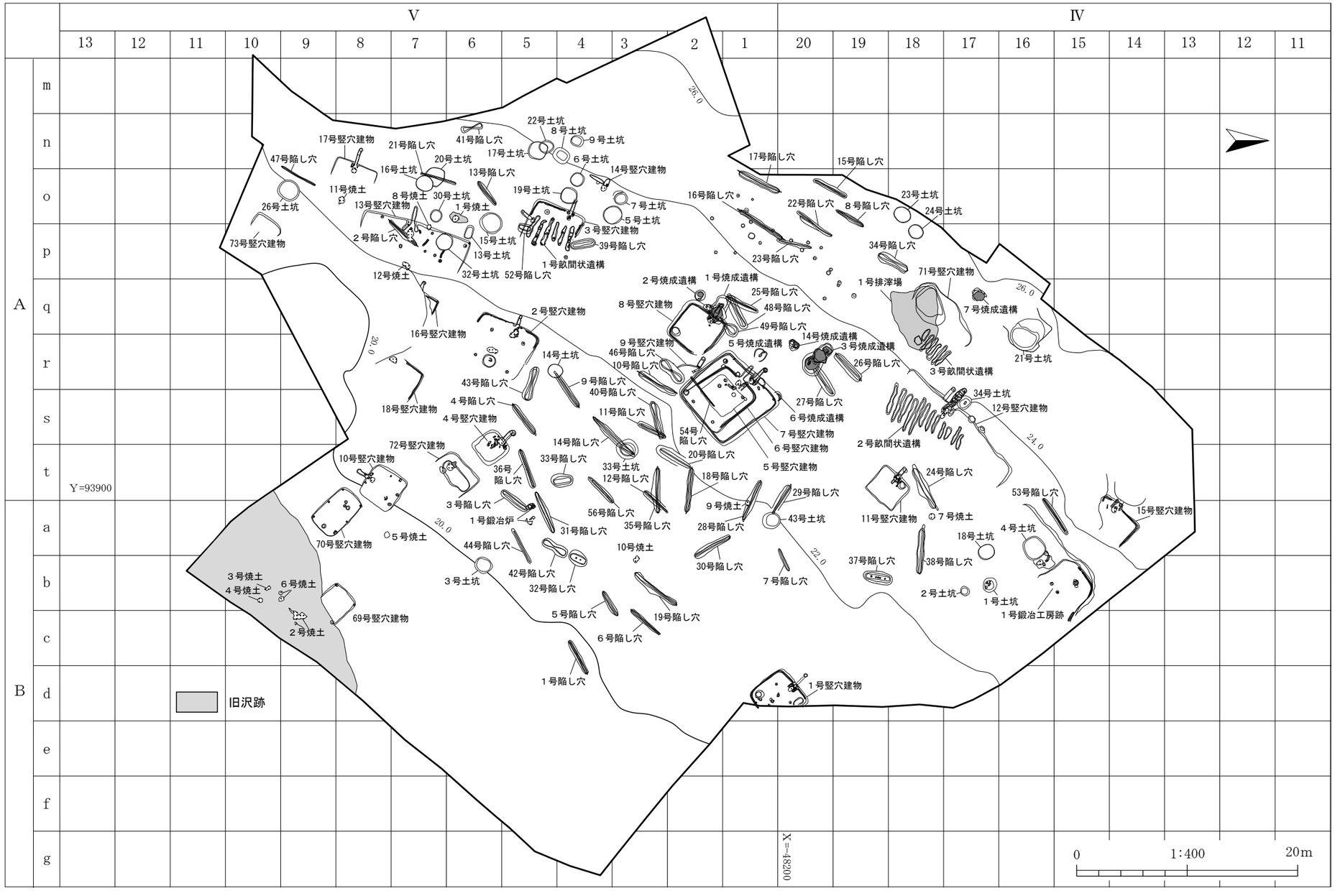
掲載している遺物写真は、当センター写真技師によりデジタルカメラで撮影した。撮影はＲＡＷモードで撮影し、印刷段階でＪＰＥＧに変換している。



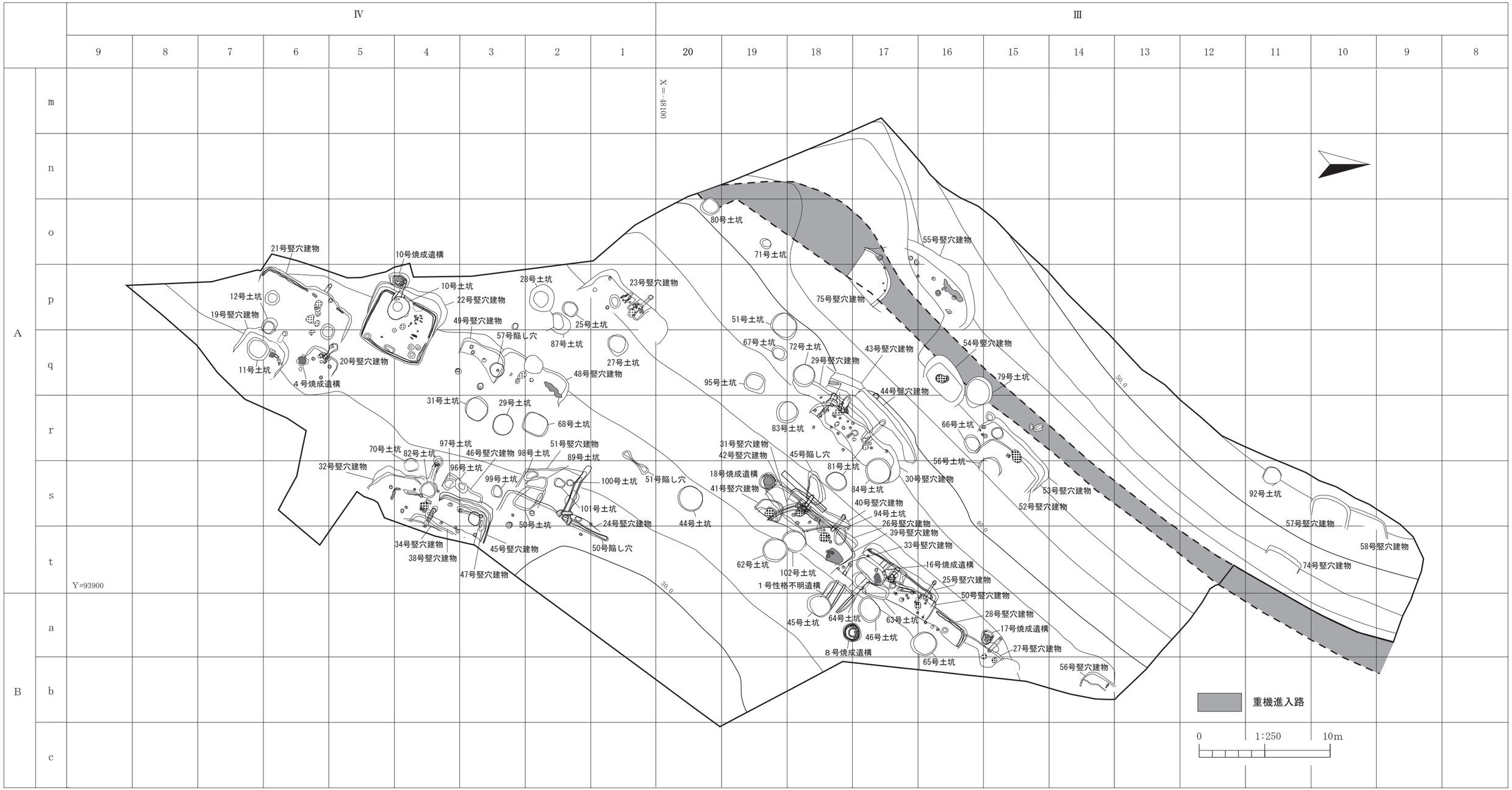
第６図　鉄滓類の分類



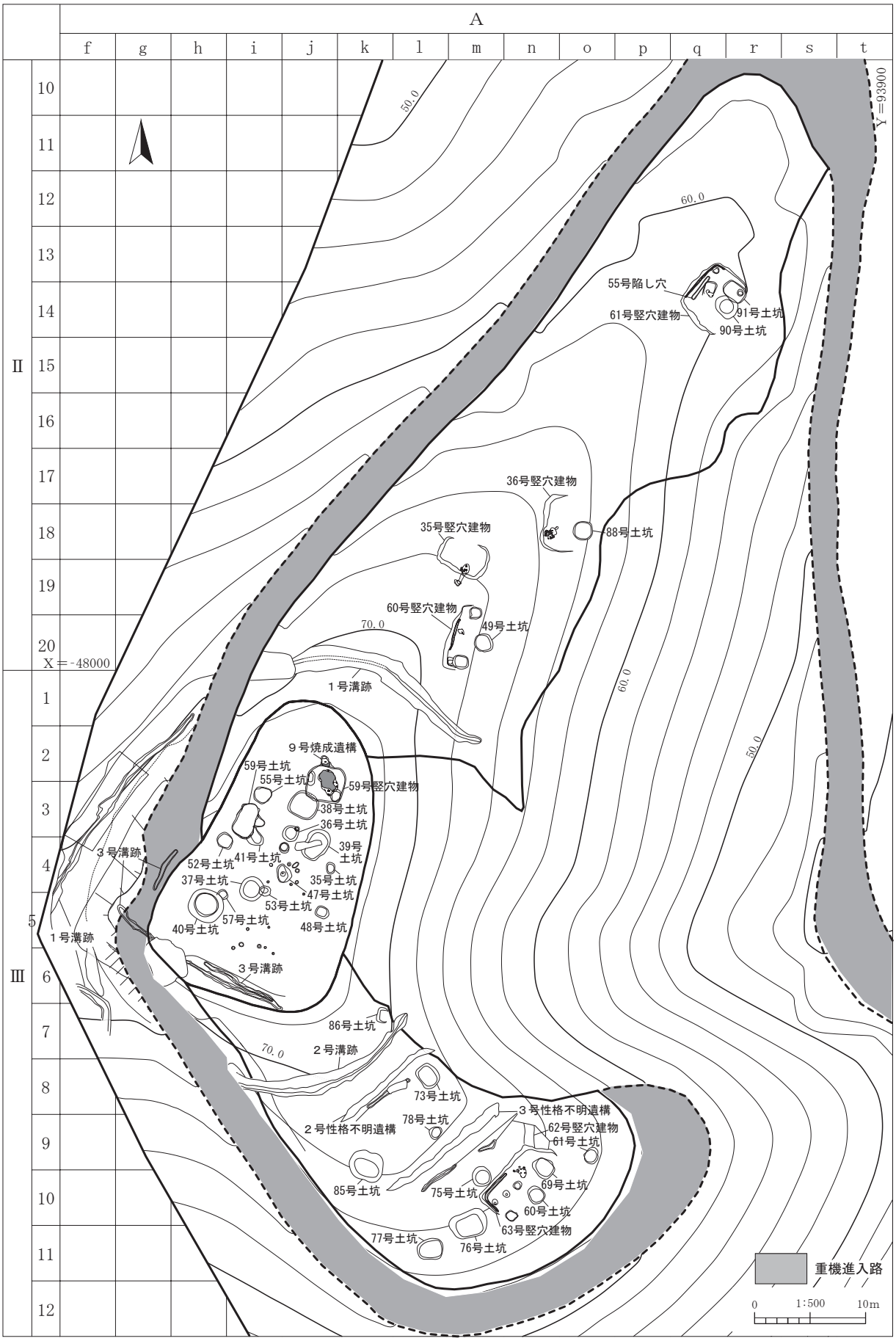
第７図　遺構配置図（全体図）


V
Ⅳ
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
A
B
m
n
o
p
q
r
s
t
a
b
c
d
e
f
g
Y=93900
X=48200
26.0
20.0
22.0
24.0
旧沢跡
0
1:400
20m
17号竪穴建物
47号陥し穴
16号土坑
21号陥し穴
20号土坑
41号陥し穴
22号土坑
8号土坑
9号土坑
17号土坑
6号土坑
14号竪穴建物
13号陥し穴
11号焼土
8号焼土
30号土坑
19号土坑
7号土坑
5号土坑
26号土坑
13号竪穴建物
1号焼土
3号竪穴建物
73号竪穴建物
2号陥し穴
15号土坑
39号陥し穴
13号土坑
1号鍛間状遺構
12号焼土
32号土坑
52号陥し穴
2号焼成遺構
1号焼成遺構
25号陥し穴
8号竪穴建物
48号陥し穴
2号竪穴建物
49号陥し穴
16号竪穴建物
9号竪穴建物
5号焼成遺構
14号焼成遺構
3号焼成遺構
46号陥し穴
14号土坑
10号陥し穴
26号陥し穴
43号陥し穴
9号陥し穴
40号陥し穴
27号陥し穴
18号竪穴建物
4号陥し穴
6号焼成遺構
4号竪穴建物
11号陥し穴
7号竪穴建物
54号陥し穴
6号竪穴建物
72号竪穴建物
14号陥し穴
33号陥し穴
20号陥し穴
5号竪穴建物
10号竪穴建物
36号陥し穴
33号土坑
12号陥し穴
18号陥し穴
3号陥し穴
56号陥し穴
9号焼土
29号陥し穴
1号鍛冶炉
31号陥し穴
35号陥し穴
28号陥し穴
43号土坑
70号竪穴建物
5号焼土
44号陥し穴
10号焼土
30号陥し穴
3号土坑
42号陥し穴
7号陥し穴
3号焼土
6号焼土
4号焼土
32号陥し穴
5号陥し穴
19号陥し穴
69号竪穴建物
2号焼土
6号陥し穴
1号陥し穴
1号竪穴建物
17号陥し穴
15号陥し穴
16号陥し穴
22号陥し穴
8号陥し穴
23号土坑
24号土坑
23号陥し穴
34号陥し穴
1号排滓場
71号竪穴建物
7号焼成遺構
21号土坑
3号鉤間状遺構
34号土坑
12号竪穴建物
2号鉤間状遺構
24号陥し穴
11号竪穴建物
7号焼土
53号陥し穴
4号土坑
18号土坑
15号竪穴建物
37号陥し穴
38号陥し穴
2号土坑
1号土坑
1号鍛冶工房跡

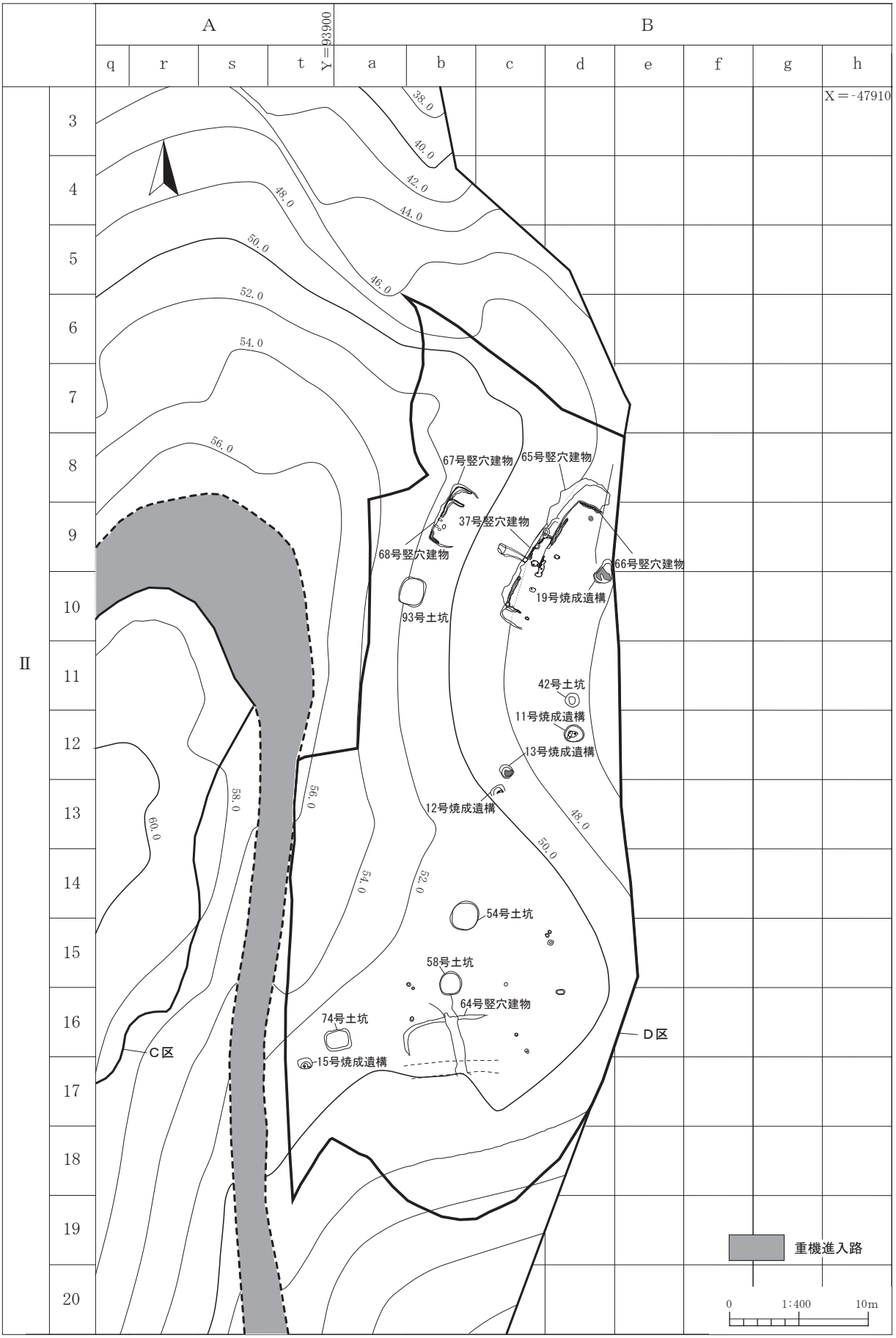
第８図　Ａ区遺構配置図


Ⅳ
Ⅲ
9
8
7
6
5
4
3
2
1
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
A
B
m
n
o
p
q
r
s
t
a
b
c
X=-48100
Y=93900
21号竪穴建物
10号焼成遺構
12号土坑
10号土坑
22号竪穴建物
19号竪穴建物
49号竪穴建物
28号土坑
23号竪穴建物
25号土坑
57号陥し穴
87号土坑
27号土坑
11号土坑
20号竪穴建物
4号焼成遺構
48号竪穴建物
31号土坑
29号土坑
68号土坑
70号土坑
82号土坑
97号土坑
46号竪穴建物
98号土坑
51号竪穴建物
89号土坑
32号竪穴建物
96号土坑
99号土坑
100号土坑
51号陥し穴
101号土坑
50号土坑
24号竪穴建物
44号土坑
34号竪穴建物
38号竪穴建物
45号竪穴建物
50号陥し穴
47号竪穴建物
80号土坑
71号土坑
55号竪穴建物
75号竪穴建物
51号土坑
67号土坑
72号土坑
43号竪穴建物
54号竪穴建物
29号竪穴建物
95号土坑
79号土坑
44号竪穴建物
83号土坑
66号土坑
31号竪穴建物
42号竪穴建物
45号陥し穴
56号土坑
81号土坑
30号竪穴建物
18号焼成遺構
41号竪穴建物
84号土坑
53号竪穴建物
52号竪穴建物
40号竪穴建物
94号土坑
26号竪穴建物
39号竪穴建物
33号竪穴建物
62号土坑
102号土坑
16号焼成遺構
1号性格不明遺構
25号竪穴建物
50号竪穴建物
28号竪穴建物
45号土坑
64号土坑
63号土坑
17号焼成遺構
46号土坑
27号竪穴建物
8号焼成遺構
65号土坑
56号竪穴建物
92号土坑
57号竪穴建物
58号竪穴建物
74号竪穴建物
50.0
40.0
30.0
重機進入路
0
1:250
10m

第９図　Ｂ区遺構配置図



第10図　C区遺構配置図



第11図　D区遺構配置図

Ⅳ 調 査 内 容

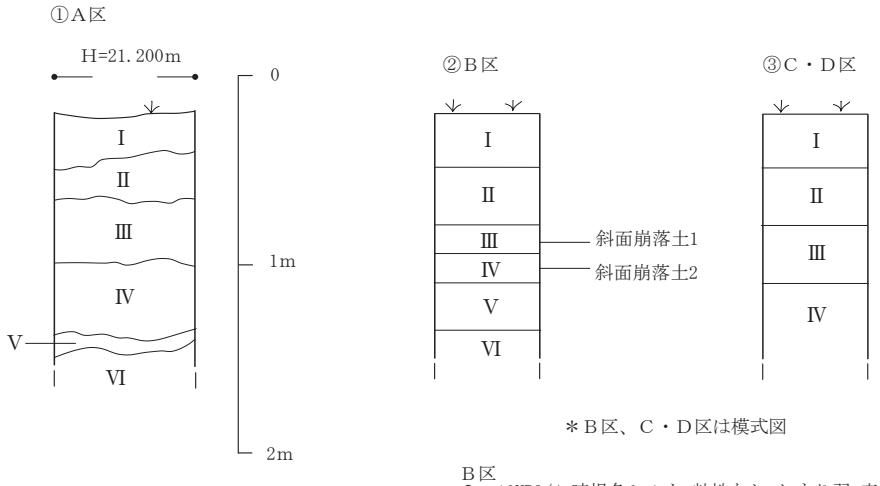
1 概　　要

遺跡は宮古市津軽石第16地割荷竹に所在し、津軽石川の支流である七田川左岸の丘陵頂部からその裾野に位置する、標高20～72m の丘陵南側斜面地～平坦地に立地する。調査前の現況は畑地および山林で調査区頂部から急斜面にかけて風化花崗岩粒が見られた。

調査対象面積は当初5,400㎡であったが、途中で追加となり最終的には15,600㎡となった。このため調査区はＡ～Ｄ区の４箇所に分けて行った。検出遺構は古代～中世の竪穴建物75棟、鍛冶工房跡１棟､排滓場１基、鍛冶炉１基、焼成遺構19基、焼土遺構12基、土坑102基、畝間状遺構３箇所、溝跡３条、性格不明遺構３基、縄文時代（古代も含む可能性あり）の陥し穴状遺構57基である。出土遺物は土師器、須恵器、縄文土器、弥生土器、陶磁器、石器、金属製品、羽口、鉄滓、炭化種子、骨片、琥珀である。

2 基 本 層 序

本遺跡は河岸段丘にあり、水成堆積を主とする平地と、花崗岩を地盤とする丘陵地山頂およびその崩落土の堆積がみられる斜面部にかけては堆積状況が大きくことなることから、平場のＡ区、斜面部のＢ区、山頂平場～尾根部のＣ・Ｄ区と調査区毎に遺構の検出面の表記や遺物の取り上げに使用する基本土層断面を用いた。基本となる断面図の位置は各調査区の第７図遺構配置図（全体図）に示したとおりである。



＊Ｂ区、Ｃ・Ｄ区は模式図

Ａ区
Ⅰ　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
Ⅱ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径２～５㎜の礫７～10%含む 古代～縄文時代の遺構検出面
Ⅲ　10YR5/4～10YR6/6 にぶい黄褐色～明黄褐色シルト 粘性なし しまり中 中掫テフラ検出
Ⅳ　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径２～５㎜の風化花崗岩粒10～15%含む 縄文前期
Ⅴ　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径２～５㎜の風化花崗岩粒１～２%含む 縄文早期中葉(物見台式)の土器出土
Ⅵ　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり中 風化礫１%含む 地山

Ｂ区
Ⅰ　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 表土
Ⅱ　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
Ⅲ　2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 にぶい黄色風化花崗岩粒(2.5Y6/3)15%含む
Ⅳ　2.5Y5/3 黄褐色砂(風化花崗岩粒) 粘性なし しまり強　黒褐色砂質シルト(10YR3/1) ３%含む
Ⅴ　10YR8/3 浅黄橙色 風化花崗岩粒 粘性弱 しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2) ５%混入
Ⅵ　10YR5/8 黄褐色砂 粘性・しまり弱 地山

Ｃ・Ｄ区
Ⅰ　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 表土
Ⅱ　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
Ⅲ　10YR8/3 浅黄橙色砂 粘性・しまり弱 地山(風化花崗岩粒)の再堆積層で暗褐色シルト(10YR3/3)が10～20%混じる
Ⅳ　10YR8/3 浅黄橙色砂 粘性・しまり弱 地山

第12図　基本土層

3　検出遺構と出土遺物

今回の調査では遺構種別ごとに竪穴建物→ＳＩ、土坑→ＳＫなどの略号を使用したが、属性の変更や欠番（不掲載）になったものが多かったため、整理段階で新たな名称をつけた。また、調査にあたった主担当者名を下記の表に記した。

第２表　遺構一覧

報告書記載	調査時	調査区	担当	報告書記載	調査時	調査区	担当	報告書記載	調査時	調査区	担当
１号竪穴建物	SI01	A	溜	44号竪穴建物	SI46	B	光井	９号焼土	SN10	A	溜
２号竪穴建物	SI02	A	溜	45号竪穴建物	SI50	B	鈴木	10号焼土	SN11	A	溜
３号竪穴建物	SI03	A	立花	46号竪穴建物	SI55	B	福島	11号焼土	SN13	A	立花
４号竪穴建物	SI04	A	溜	47号竪穴建物	SI56	B	福島	12号焼土	SN15	A	立花
５号竪穴建物	SI64	A	河村	48号竪穴建物	SI48	B	鈴木	１号焼成遺構	SX06	A	溜
６号竪穴建物	SI30	A	溜	49号竪穴建物	SI25	B	藤本	２号焼成遺構	SX09	A	溜
７号竪穴建物	SI07	A	溜	50号竪穴建物	SI43	B	佐藤（剛）	３号焼成遺構	SX11	A	溜
８号竪穴建物	SI08、SX08	A	溜	51号竪穴建物	SI28	B	星	４号焼成遺構	SX15	B	藤本
９号竪穴建物	SX23	A	溜	52号竪穴建物	SX49	B	星	５号焼成遺構	SX21	A	溜
10号竪穴建物	SI09	A	溜	53号竪穴建物	SX42	B	星	６号焼成遺構	SX22	A	溜
11号竪穴建物	SI15	A	溜	54号竪穴建物	SX39	B	星	７号焼成遺構	SX16	A	溜
12号竪穴建物	SI16	A	溜	55号竪穴建物	SI39	B	光井	８号焼成遺構	SX25	B	佐藤（剛）
13号竪穴建物	SI21・22	A	立花	56号竪穴建物	SI40	B	佐藤（剛）	９号焼成遺構	SX37	C	小野寺
14号竪穴建物	SI31	A	立花	57号竪穴建物	SX33	B	立花	10号焼成遺構	SX26	B	立花
15号竪穴建物	SI32	A	溜	58号竪穴建物	SX41	B	立花	11号焼成遺構	SK52	D	古舘
16号竪穴建物	SI62	A	溜	59号竪穴建物	SI29	C	小野寺	12号焼成遺構	SK53	D	古舘
17号竪穴建物	SI63	A	立花	60号竪穴建物	SX19	C	小野寺	13号焼成遺構	SK58	D	古舘
18号竪穴建物	SI66	A	溜	61号竪穴建物	SX32	C	佐藤（淳）	14号焼成遺構	SX10	A	溜
19号竪穴建物	SI11	B	溜	62号竪穴建物	SX36	C	西澤	15号焼成遺構	SK61	D	古舘
20号竪穴建物	SI12	B	溜	63号竪穴建物	SD05	C	西澤	16号焼成遺構	SK64	B	佐藤（剛）
21号竪穴建物	SI13	B	溜	64号竪穴建物	SX31	D	古舘	17号焼成遺構	SX29	B	佐藤（剛）
22号竪穴建物	SI14	B	溜	65号竪穴建物	SX44	D	佐藤（淳）	18号焼成遺構	SX47	B	佐藤（剛）
23号竪穴建物	SI17	B	溜	66号竪穴建物	SX45	D	佐藤（淳）	19号焼成遺構	SK95	D	古舘
24号竪穴建物	SI23・24	B	星	67号竪穴建物	SX46	D	古舘	１号土坑	SK01	A	溜
25号竪穴建物	SI35	B	佐藤（剛）	68号竪穴建物	SX43	D	古舘	２号土坑	SK02	A	溜
26号竪穴建物	SI36	B	佐藤（剛）	69号竪穴建物	SI06	A	立花	３号土坑	SK03	A	立花
27号竪穴建物	SI41	B	佐藤（剛）	70号竪穴建物	SI10	A	溜	４号土坑	SK04	A	立花
28号竪穴建物	SI42	B	佐藤（剛）	71号竪穴建物	SX12	A	溜	５号土坑	SK05	A	立花
29号竪穴建物	SI44	B	光井	72号竪穴建物	SI05	A	溜	６号土坑	SK06	A	立花
30号竪穴建物	SI47	B	光井	73号竪穴建物	SI65	A	溜	７号土坑	SK07	A	立花
31号竪穴建物	SI53	B	佐藤（剛）	74号竪穴建物	SX30	B	星	８号土坑	SK08	A	立花
32号竪穴建物	SI57	B	福島	75号竪穴建物	SX48	B	星	９号土坑	SK09	A	立花
33号竪穴建物	SI58	B	佐藤（剛）	１号鍛冶工房跡	SX04	A	溜	10号土坑	SK10	B	藤本
34号竪穴建物	SI60	B	佐藤（剛）	１号排滓場	SX12・20	A	溜	11号土坑	SK11	B	中川
35号竪穴建物	SI49	C	西澤	１号鍛冶炉	SN02	A	溜	12号土坑	SK13	B	中川
36号竪穴建物	SX35	C	西澤	１号焼土	SX17	A	立花	13号土坑	SK119	A	立花
37号竪穴建物	SI51	D	佐藤（淳）	２号焼土	SN03	A	立花	14号土坑	SK16	A	溜
38号竪穴建物	SI59	B	佐藤（剛）	３号焼土	SN05	A	立花	15号土坑	SK17	A	立花
39号竪穴建物	SI33	B	佐藤（剛）	４号焼土	SN06	A	立花	16号土坑	SK18	A	立花
40号竪穴建物	SI37	B	佐藤（剛）	５号焼土	SN08	A	溜	17号土坑	SK19	A	立花
41号竪穴建物	SI52	B	佐藤（剛）	６号焼土	SN04	A	立花	18号土坑	SK20	A	溜
42号竪穴建物	SI54	B	佐藤（剛）	７号焼土	SN07	A	溜	19号土坑	SK21	A	立花
43号竪穴建物	SI45	B	光井	８号焼土	SN09	A	立花	20号土坑	SK22	A	立花

報告書記載	調査時	調査区	担当	報告書記載	調査時	調査区	担当	報告書記載	調査時	調査区	担当
21号土坑	SX15	A	溜	72号土坑	SK74	B	光井	21号陥し穴状遺構	SKT21	A	立花
22号土坑	SK24	A	立花	73号土坑	SK75	C	西澤	22号陥し穴状遺構	SKT22	A	立花
23号土坑	SK25	A	溜	74号土坑	SK76	D	古舘	23号陥し穴状遺構	SKT23	A	小野寺
24号土坑	SK26	A	溜	75号土坑	SK77	C	西澤	24号陥し穴状遺構	SKT24	A	小野寺
25号土坑	SK27	B	藤本	76号土坑	SK78	C	西澤	25号陥し穴状遺構	SKT25	A	溜
26号土坑	SK120	A	立花	77号土坑	SK79	C	西澤	26号陥し穴状遺構	SKT26	A	溜
27号土坑	SK29	B	溜	78号土坑	SK80	C	小野寺	27号陥し穴状遺構	SKT27	A	溜
28号土坑	SK30	B	藤本	79号土坑	SK107	B	星	28号陥し穴状遺構	SKT28	A	溜
29号土坑	SK31	B	溜	80号土坑	SK108	B	溜	29号陥し穴状遺構	SKT29	A	溜
30号土坑	SK23	A	立花	81号土坑	SK109	B	光井	30号陥し穴状遺構	SKT30	A	小野寺
31号土坑	SK32	B	溜	82号土坑	SK111	B	鈴木	31号陥し穴状遺構	SKT31	A	小野寺
32号土坑	SK34	A	立花	83号土坑	SK85	B	光井	32号陥し穴状遺構	SKT32	A	小野寺
33号土坑	SK35	C	小野寺	84号土坑	SK86	B	光井	33号陥し穴状遺構	SKT33	A	小野寺
34号土坑	SK36	A	溜	85号土坑	SK87	C	西澤	34号陥し穴状遺構	SKT34	A	小野寺
35号土坑	SK37	C	小野寺	86号土坑	SK89	C	西澤	35号陥し穴状遺構	SKT35	A	小野寺
36号土坑	SK38	C	小野寺	87号土坑	SK105	B	鈴木	36号陥し穴状遺構	SKT36	A	小野寺
37号土坑	SK39	C	小野寺	88号土坑	SK90	C	西澤	37号陥し穴状遺構	SKT37	A	小野寺
38号土坑	SK40	C	小野寺	89号土坑	SK91	B	星	38号陥し穴状遺構	SKT38	A	小野寺
39号土坑	SK41	C	小野寺	90号土坑	SK92	C	佐藤（淳）	39号陥し穴状遺構	SKT39	A	立花
40号土坑	SK42	C	小野寺	91号土坑	SK93	C	佐藤（淳）	40号陥し穴状遺構	SKT40	A	小野寺
41号土坑	SK43	C	小野寺	92号土坑	SK94	B	立花	41号陥し穴状遺構	SKT41	A	小野寺
42号土坑	SK44	D	古舘	93号土坑	SK96	D	古舘	42号陥し穴状遺構	SKT42	A	小野寺
43号土坑	SK45	A	溜	94号土坑	SK88	B	佐藤（剛）	43号陥し穴状遺構	SKT43	A	小野寺
44号土坑	SK46	B	光井	95号土坑	SK106	B	光井	44号陥し穴状遺構	SKT44	A	小野寺
45号土坑	SK47	B	佐藤（剛）	96号土坑	SK110	B	鈴木	45号陥し穴状遺構	SKT45	B	佐藤（剛）
46号土坑	SK48	B	佐藤（剛）	97号土坑	SK112	B	鈴木	46号陥し穴状遺構	SKT46	A	溜
47号土坑	SK49	C	西澤	98号土坑	SK101	B	星	47号陥し穴状遺構	SKT58	A	立花
48号土坑	SK50	C	西澤	99号土坑	SK102	B	星	48号陥し穴状遺構	SKT48	A	溜
49号土坑	SK51	C	西澤	100号土坑	SK103	B	星	49号陥し穴状遺構	SKT49	A	溜
50号土坑	SI26	B	星	101号土坑	SK104	B	星	50号陥し穴状遺構	SKT47・50	B	溜
51号土坑	SX28	B	光井	102号土坑	SK117	B	佐藤（剛）	51号陥し穴状遺構	SKT53	B	立花
52号土坑	SK54	C	小野寺	1号陥し穴状遺構	SKT01	A	立花	52号陥し穴状遺構	SKT54	A	立花
53号土坑	SK55	C	小野寺	2号陥し穴状遺構	SKT57	A	立花	53号陥し穴状遺構	SKT55	A	河村
54号土坑	SK56	D	古舘	3号陥し穴状遺構	SKT03	A	溜	54号陥し穴状遺構	SKT56	A	河村
55号土坑	SK57	C	西澤	4号陥し穴状遺構	SKT04	A	溜	55号陥し穴状遺構	SKT52	C	佐藤（淳）
56号土坑	SX50	B	星	5号陥し穴状遺構	SKT05	A	溜	56号陥し穴状遺構	SKT02	A	溜
57号土坑	SK59	C	小野寺	6号陥し穴状遺構	SKT06	A	溜	57号陥し穴状遺構	SK81	B	立花
58号土坑	SK60	C	佐藤（淳）	7号陥し穴状遺構	SKT07	A	溜	1号溝跡	SD01	C	西澤
59号土坑	SX24	C	小野寺	8号陥し穴状遺構	SKT08	A	溜	2号溝跡	SD02	C	西澤
60号土坑	SK62	C	西澤	9号陥し穴状遺構	SKT09	A	立花	3号溝跡	SD06	C	小野寺
61号土坑	SK63	C	西澤	10号陥し穴状遺構	SKT10	A	溜	1号畝間状遺構	1UM	A	立花
62号土坑	SK116	B	佐藤（剛）	11号陥し穴状遺構	SKT11	A	溜	2号畝間状遺構	2UM	A	溜
63号土坑	SK65	B	佐藤（剛）	12号陥し穴状遺構	SKT12	A	立花	3号畝間状遺構	3UM	A	溜
64号土坑	SK66	B	佐藤（剛）	13号陥し穴状遺構	SKT13	A	立花	1号性格不明遺構	SX27	B	佐藤（剛）
65号土坑	SK67	B	佐藤（剛）	14号陥し穴状遺構	SKT14	A	立花	2号性格不明遺構	SD03、SD07	C	西澤
66号土坑	SK114	B	星	15号陥し穴状遺構	SKT15	A	立花	3号性格不明遺構	SD04、SD08	C	西澤
67号土坑	SK69	B	光井	16号陥し穴状遺構	SKT16	A	立花				
68号土坑	SK70	B	立花	17号陥し穴状遺構	SKT17	A	立花				
69号土坑	SK71	C	西澤	18号陥し穴状遺構	SKT18	A	立花				
70号土坑	SK113	B	鈴木	19号陥し穴状遺構	SKT19	A	溜				
71号土坑	SK73	B	光井	20号陥し穴状遺構	SKT20	A	立花				

（1）竪　穴　建　物

今回の調査で75棟の竪穴建物を検出した。時期別では古代の竪穴建物は68棟（１～68号竪穴建物）、中世が２棟（69・70号竪穴建物）、時期不明が５棟（71～75号竪穴建物）である。

古代の竪穴建物でカマドが確認できたのは37棟で他は重複や削平のため壁面の一部しか確認できなかったものも含まれる。また、時期は全体に出土した土器の年代観から概ね９世紀後半～10世紀前半の範疇であると推測できるが、各遺構ごとに観た場合、出土遺物が少なく、詳細な時期を判断できない遺構がほとんどで１号竪穴建物のように床面から十和田ａテフラが検出され、ある程度時期の特定が可能な遺構は少ない。

１号竪穴建物（第13・14図、写真図版７・８）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区東側の緩斜面地、ⅣＢ20ｄ・ＶＢ１ｄグリッドに跨がり、Ⅱ層で検出した。遺構の東側は調査区外へと延びる。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　平面形は方形で規模は、北東－南西壁間4.12ｍ、北西－南東壁間3.99ｍ、深さは最も残存する北西壁上部から床面まで35㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒色シルトを主体とし、壁際に橙色焼土を含む黒褐色シルトが堆積する。また、南西壁際のベルト（Ｂ－Ｂ’）において十和田ａテフラを検出した。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で、カマド以外のほぼ全ての壁際に沿って幅８～16㎝の溝が巡らされている。床面全域に貼床が施されている。また床面に土坑２基と柱穴状土坑３個を確認した。

＜カマド＞　カマドは１基、斜面上位の北西壁中央に設置されている。煙出部は刳り抜き式の構造で軸方向はＮ－42°－Ｗを向く。煙道部は、床面から約11°の傾斜で下るように掘削され、１ｍのところで煙出部に接続する。高さは壁面で37㎝、煙出部付近で52㎝と広がっている。煙出部の開口部径は34×30㎝、底面までの深さは69㎝でほぼ垂直に掘り込まれている。カマド本体の規模は幅78㎝、壁面から袖先端までの長さは74㎝で天井部は崩落し、袖部のみが残存している。袖は芯材に15～35㎝の礫を据え、これを明褐色シルト混じりの黒褐色シルトで覆って構築されている。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、最大径58×30㎝の範囲で楕円状に広がる。焼土の層厚は最大３㎝である。

＜土坑＞　２基確認した。土坑１は楕円形で規模は99×56㎝、深さ21㎝と浅い。土坑２は埋土に黄褐色シルトが混じる黒褐色シルトの堆積である。いずれも遺物の出土はない。

＜柱穴＞　３個確認した。柱間距離はＰ１－Ｐ２＝1.87ｍ、Ｐ１－Ｐ３＝1.76ｍを測る。柱痕跡は確認されていない。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器5002.8ｇ、金属遺物28.7ｇ、陶器16.9ｇ、鉄滓が1820.1ｇが出土し、うち土師器７点（１～７）、金属遺物１点（８）、陶器１点（９）を図化・掲載した。１・２は坏、３～７は甕で１は内面に黒色処理が施され、２の内外面には赤彩が施されている。甕はいずれも非ロクロ使用で器面調整は７の外面にケズリ、他は内外面ナデが施されている。８は刀子で柄の部分が欠損している。９は擂鉢の破片で貼床から出土したが、撹乱による混入と考えられる。

＜時期＞　埋土に十和田ａテフラが混入していることから、９世紀末葉～10世紀初頭頃と推定される。

２号竪穴建物（第15・16図、写真図版９～11）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央よりやや南側の緩斜面地、ＶＡ５ｒを中心に複数グリッドに跨がり、表土下のⅤ～Ⅵ層で検出した。斜面下方の遺構の南東側は削平されている。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　残存部分から平面形は方形と推測され、規模は壁の残る北東－南西間で5.84ｍを測る。深さは最も残存する北西壁上部から床面まで20㎝である。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、明黄褐色シルトを含む黒色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で、カマド周辺以外では壁際に沿って幅６～16㎝の溝が巡らされ、全域に貼床が施されている。また床面に土坑１基と柱穴状土坑４個を検出した。

＜カマド＞　カマドは斜面上位の北西壁中央よりやや北側に設置されている。煙出部は刳り抜き式の構造で軸方向はＮ－70°－Ｗを向く。床面から煙道部に向かって約11°の傾斜で下り、壁面から55㎝のところで煙出部に接続する。高さは壁面で44㎝、煙出部付近で52㎝とやや広がっている。対して幅は壁面で32㎝、煙道部付近で23㎝と狭くなる。煙出部の開口部径は27×25㎝で、底面までの深さは51㎝でほぼ垂直に掘り込まれている。埋土の上位には開口部に設置していたと推測される礫が混入している。カマド本体の残存状況は不良で袖の一部のみ検出した。検出した袖の長さは左袖21㎝、右袖18㎝で焼成面までの距離が離れていることから、先端の大半が失われた状況と考えられる。袖の周辺に礫が散乱していることから、袖の芯材に礫を使用し、これを明褐色シルトを主体とする土で覆ってカマドを構築していたと考えられる。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、最大径90×55㎝の範囲で細長く広がる。焼土の層厚は最大５㎝である。

＜焼土＞　土坑１の西側で１基検出した。規模は1.01×0.53ｍで楕円状に広がる。焼土の厚さは４㎝を測る。

＜土坑＞　１基検出した。形状は円形で規模は1.17×1.11ｍ、深さ26㎝である。

＜柱穴＞　４個検出した。規模はＰ１～３が開口部径28㎝、Ｐ４が21㎝、柱間距離はＰ１－Ｐ２＝3.14ｍ、Ｐ２－Ｐ３＝2.98ｍ、Ｐ３－Ｐ４＝3.25ｍ、Ｐ４－Ｐ１＝2.69ｍを測り、方形状の配置をしている。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器1696.7ｇ、弥生土器84.1ｇ、羽口1060.2ｇ、金属遺物123.4ｇ、鉄滓2599.2ｇが出土した。土器の大半が土師器甕の体部破片のため図化・掲載には至らず、羽口３点（10～12）、金属遺物３点（13～15）を掲載した。13は銛、14は鉄鏃、15は不明で10・11・13が床面、12は煙道部から出土した。

３号竪穴建物（第17・18図、写真図版12・13）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区西側の緩斜面地、ＶＡ４ｏなど複数グリッドに跨がって位置し、表土下のⅤ層で検出した。斜面下方に位置する遺構の南東側は削平を受けて残存しない。重複関係は１号畝間状遺構より古く、19号土坑、39・52号陥し穴状遺構より新しい。

＜平面形・規模＞　遺構の一部が削平されているが、平面形は方形基調と推定される。規模は、残存する北東－南西壁間4.77ｍ、削平された北西－南東間4.08ｍの残存値で、深さは最も残存する北西壁上部から床面まで55㎝である。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とした堆積で、中層に暗褐色シルト、下層に褐色・にぶい黄褐色シルトが混在する。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は細かい凹凸はあるが、全体的に平坦である。また壁際に沿って幅９～15㎝の溝が巡らされている。床面全域に最大28㎝の厚さで貼床が施されている。

＜カマド＞　カマドは２基、北西壁の中央よりやや北寄り（カマド１）と南西壁中央付近（カマド２）にそれぞれ設けられている。両者には使用時期に時間差があり、袖部の残存状況から、カマド２が古い。カマド１は煙道部が刳り抜き式で、軸方向はＷ－21°－Ｎを向く。煙道部の規模は長さ97㎝で床面から９°下るように傾斜して掘削され、77㎝付近で煙出部に接続する。最大幅24㎝、高さは壁面で40㎝、煙出部付近で20㎝と狭まっている。煙出部の開口部径は31×30㎝で、底面までの深さは106㎝で８°の角度で煙道側に傾斜して掘り込まれている。構造から煙出部→煙道部の順で掘削されたと考えられる。カマド構築土は黒褐色シルトを主体とし、袖部の芯材に礫を据えて構築されている。規模は66×49㎝で、袖先はほぼ平行で長さは左袖35㎝、右袖46㎝、袖先端部間距離は42㎝を測る。焼成面の焼土範囲は36×32㎝で、焼土の最大層厚は３㎝である。カマド２は煙道部が刳り抜き式で、軸方向はＳ－40°－Ｗを向く。煙道部は全長77㎝を測り、床面から14°の傾斜で下るように掘削され、焼成面から46㎝（水平値）のところでほぼ水平になり、そこから長さ39㎝付近で煙出部に接続する。煙出部の開口部径は30×28㎝、底面までの深さは31㎝でほぼ垂直に掘り込まれている。カマド本体は削平を受けているため残存していない。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、最大径52×34㎝の範囲で不整形に広がる。焼土の層厚は最大５㎝である。

＜柱穴＞　４個確認した。Ｐ４の西側上部を１号畝間状遺構に切られる。規模は22～48㎝、深さは31～44㎝である。柱間距離はＰ１－Ｐ４＝3.09ｍ、Ｐ２－Ｐ３＝3.32ｍ、Ｐ１－Ｐ２＝3.37ｍ、Ｐ３－Ｐ４＝3.14ｍを測り、方形状に配置されている。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器1688.8ｇ、縄文・弥生土器30.4ｇ、羽口340.6ｇ、金属遺物34.8ｇ、鉄滓1332.6ｇが出土し、このうち６点を図化・掲載した。16は土師器坏の底部破片で内面に黒色処理が施されている。17・18は土師器甕の口縁～体部の破片で、器面調整はナデのみである。19は羽口破片で旧カマド付近から出土した。20・21は鉄製品で20が鉄鏃、21は刀子である。

４号竪穴建物（第19・20図、写真図版14・15）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南側緩斜面地のＶＡ６ｓなど複数グリッドに跨がって位置し、表土下のⅢ～Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　平面形は隅丸方形である。規模は壁間2.70ｍ、検出面から床面までの深さは26～36㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒～黒褐色シルトを主体とする。全体に明褐色シルトが微量混入している。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、床は全体的に平坦で全域に最大23㎝の厚さで貼床が施されている。壁溝・柱穴などの施設はない。

＜カマド＞　カマドは北西壁の中央～やや北寄りに設けられている。煙道部は刳り抜き式で、軸方向はＮ－45°－Ｗを向く。煙道部は全長102㎝を測り、煙道入口から13°傾斜して下り、75㎝付近で煙出部と接続する。最大幅は42㎝で、高さは壁面で42㎝、煙出部付近で26㎝と狭くなっている。煙出部の開口部径は53×50㎝、底面径は20㎝と狭くなっている。底面までの深さは70㎝を測り、カマド本体は焼成痕跡とカマド袖部の芯材に使用したと考えられる礫が散乱している状態であった。焼成面の焼土範囲は68×60㎝で、焼土の最大層厚は４㎝を測る。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器350.8ｇが出土し、１点を図化・掲載した。22は非ロクロ使用の土師器甕でカマド周辺から出土した。器面調整は内外面ナデで底部にケズリが施されている。他に石鏃が１点（23）出土したが、周辺からの混入と考えられる。

５号竪穴建物（第21図、写真図版16）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ１ｒ付近に位置し、６号竪穴建物下で検出した。54号陥し穴状遺構、６・７号竪穴建物と重複関係にあり、54号陥し穴状遺構よりも新しく、６・７号竪穴建物より古い。遺構の上部大半が重複する６号竪穴建物に切られ、残存するのは床面とカマド煙道部の一部のみである。

＜平面形・規模＞　平面形は方形で、規模は床面で北東－南西壁間3.19m、北西－南東壁間2.72mを測る。

＜堆積土＞　床面での検出のため埋土はない。暗褐色粘土質シルトを多く含む褐色粘土質シルトで貼床を施している。

＜壁・床面＞　壁は残存しておらず、床面は６号竪穴建物の影響により凹凸があるが、床面に３～５㎝の厚さで貼床が施されている。カマド付近の床面に柱穴状土坑（Ｐ１）を１個検出した。

＜カマド＞　カマドは煙道の一部と焼成痕のみの検出で、北西壁中央よりやや北東側寄りに構築されている。煙道部は刳り抜き式で、軸方向はＮ－43°－Ｗを向く。煙道部入口から約10°の傾斜で下り、約80㎝のところで煙出部と接続する。煙道～煙出部までの長さは1.22mを測る。煙出部の検出面から底面までの深さは36㎝で、煙道部の天井は崩落している。焼成面の焼土範囲は37×33㎝、焼土の最大層厚は２㎝である。

＜柱穴＞　カマド脇の北西壁近くの床面で１個検出した。埋土上位に焼土・炭化物粒を多く含む。

＜遺物＞　貼床埋土から95.2ｇの土師器破片が出土した。小片のため図化・掲載には至らなかったが、内面に黒色処理が施された坏の底部破片も含まれている。

６号竪穴建物（第22・23図、写真図版17・18）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ１ｒ付近に位置し、７号竪穴建物下で検出した。54号陥し穴状遺構、５・７号竪穴建物と重複関係にあり、５号竪穴建物、54号陥し穴状遺構よりも新しく、７号竪穴建物より古い。遺構の上部と南東壁が７号竪穴建物の構築にあたって削平を受けていた。

＜平面形・規模＞　平面形は方形で、規模は北東－南西壁間4.37m、北西－南東壁間5.15mの残存値である。

＜堆積土＞　床面での検出のため埋土はない。

＜壁・床面＞　床面での検出のため壁は残存しない。床面は７号竪穴建物構築時の掘り方の影響により凹凸である。黒褐色粘土質シルトと明黄褐色シルトの混合土により、最大30㎝の厚さで貼床を施している。床面に柱穴状土坑を５個検出した。

＜カマド＞　カマドは煙道部と焼成痕のみの検出で、北西壁中央よりやや北西寄りに構築されている。７号竪穴建物の構築の影響を受けていない煙出部以外は削平されている。煙道部は刳り抜き式で、全長1.40mを測り、軸方向はＮ－51°－Ｗを向く。煙道部入口から約７°の傾斜で下り、1.18m付近で煙出部と接続する。煙出部の検出面から底面までの深さは100㎝である。焼成面の焼土範囲は56×42㎝、焼土の最大層厚は５㎝である。

＜柱穴＞　Ｐ１～５を検出した。このうちＰ１～４が壁面と平行に配置されている。柱間距離はＰ１－Ｐ２＝2.22m、Ｐ２－Ｐ３＝3.49m、Ｐ３－Ｐ４＝2.58m、Ｐ１－Ｐ４＝3.47mである。

＜遺物＞　遺構内から土器54.9ｇが出土した。内訳は土師器35.8ｇ、須恵器19.1ｇでいずれも小片のため図化・掲載には至らなかった。

７号竪穴建物（第24～26図、写真図版19・20）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ１ｒ付近に位置し、Ⅱ層で検出した。54号陥し穴状遺構、５・６・９号竪穴建物、６号焼成遺構と重複関係にあり、５・６号竪穴建物、54号陥し穴状遺構よりも新しく、６号焼成遺構、９号竪穴建物より古い。

＜平面形・規模＞　平面形はやや歪みがあるものの方形状を呈し、壁間距離は北東－南西間・北西－南東間いずれも6.92ｍである。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。中層に橙色焼土、全体に明黄褐色シルト粒と炭化物粒が混入している。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、検出面から床面までの深さは最大で81㎝を測る。床面は平坦で全域に貼床が施されている。また壁際に沿って幅10～18㎝の溝が巡らされている。

＜カマド＞　カマドは斜面上位の北西壁面中央に設置されている。煙道部は全長90㎝を測り、構造は刳り抜き式で軸方向はＮ－42°－Ｗを向く。煙道部入口から約４°の傾斜で下り、63㎝のところで煙出部と接続する。幅は入口で32㎝、煙出部との接続箇所で29㎝とやや狭まり、高さは25㎝前後で一定である。煙出検出面から底面までの深さは100㎝である。焼成面の焼土範囲は51×41㎝、焼土の最大層厚は５㎝である。

＜土坑＞　３基を検出した。このうち土坑１はカマド右袖に隣接し、壁面を掘り込んでいる。土坑２・３は南・西壁隅に近い床面にあり、土坑２は断面形状から柱穴の可能性が考えられる。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器9238.3ｇ、弥生土器578.0ｇ、土製品4316.0ｇ、金属遺物476.5ｇ、鉄滓11357.6ｇが出土し、うち24～39の16点を図化・掲載した。24～26は土師器で24・25が坏で24は内面に黒色処理、25は内外面に赤彩が施されている。26は甕の口縁部破片でロクロが使用されている。27～29は須恵器の破片で27・28は甕、29は壺の破片である。32・33は土製品で32はカマド右袖脇の床面、33は右袖内から検出された。32の表面には細い線刻状の溝が確認でき、研磨に使用されたと考えられる。34～39は鉄製品で34が刀子、35は穂摘具、36・37は鉄鏃、39は鋤・鍬などの農耕具の一部、38は不明である。30・31は弥生土器の破片で周辺からの混入物と考えられる。

８号竪穴建物（第27・28図、写真図版21・22）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ２ｑ・２ｒグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。49号陥し穴状遺構、１号焼成遺構と重複関係にあり、49号陥し穴状遺構よりも新しく、１号焼成遺構より古い。２号焼成遺構と隣接するが、明確な切り合いは確認できなかった。

＜平面形・規模＞　平面形は方形で、壁間距離は北東－南西間4.48ｍ、北西－南東間4.19ｍを測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とした堆積で、全体に明黄褐色シルト粒と炭化物粒が微量混入している。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、検出面から床面までの深さは北西壁付近で最大68㎝、床面は平坦で大半に貼床が施されている。またカマドを除き、壁際に沿って幅11～19㎝の溝が巡らされている。

＜カマド＞　カマドは斜面上位の北西壁面中央よりやや北側に設置されている。煙道部は検出時には天井部分が崩落した状態であったが、刳り抜き式と考えられる。軸方向はＮ－57°－Ｗを向く。煙道部入口から約41°の傾斜で下り、27㎝のところで底面は水平となる。煙出部の全長は約107㎝である。煙出部の検出面から底面までの深さは63㎝で、埋土に10㎝前後の礫が多く混入している。焼成面の焼土範囲は49×46㎝、焼土の厚さは３～８㎝である。

＜土坑＞　２基を検出した。土坑１はカマド左袖に隣接し、壁面を掘り込んでいる。底面に焼土および還元した痕跡を確認した。土坑２は南西壁隅に近い床面にある。
＜遺物＞　遺構内から古代の土器4245.8ｇ、縄文土器31.6ｇ、羽口110.6ｇ、金属遺物117.6ｇ、鉄滓5485.7ｇが出土し、うち14点（40～53）を図化・掲載した。40・41は土師器甕の口縁部破片、42は羽口でカマド脇の土坑１の底面から出土した。43は砥石、44～52は鉄製品で44～50は刀子、51は鏃？、52は棒状（軸？）の形状で、両端が欠けている。53は弥生土器で深鉢の口縁部破片である。文様は沈線文間に交互刺突文が施されている。周辺からの混入物と考えられる。

９号竪穴建物（第29図、写真図版23）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ２ｒグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。７号竪穴建物と重複関係にあり、これより新しい。調査は７号竪穴建物を先行して行い、その過程で同遺構の埋土上位にカマドの構成礫・構成土、壁面に本遺構の貼床などを確認した後の調査であったため、遺構の一部のみの精査・記録となってしまった。また位置的には45号陥し穴状遺構と重複関係にあるが、明確に重複している箇所は確認できなかった。
＜平面形・規模＞　他の類似する遺構から平面形は方形状を呈することが推測される。規模は不明である。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とした堆積で、全体に明黄褐色シルト粒が微量含まれている。
＜壁・床面＞　壁はカマドの設置されている西壁のみ残存する。検出面から床面までの深さは最大20㎝、床面は緩い凹凸はあるが、およそ平坦で貼床が施されている。
＜カマド＞　カマドは斜面上位の西壁面に設置されている。煙道部は全長102㎝を測る。構造は刳り抜き式で、軸方向はＮ－59°－Ｗを向く。煙道部入口から約３°の傾斜で下り、約52㎝付近で煙出部と接続する。煙出部の規模は開口部径34×32㎝、検出面から底面までの深さは43㎝で、煙道部入口側に16°の角度で傾斜して掘削されている。焼成面の焼土範囲は一部を除き、掘りすぎたために不明、焼土の厚さは２㎝ほどである。
＜遺物＞　遺構内から古代の土器90.2ｇ、弥生土器7.7ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。54は土師器甕の口縁部破片で頸部が屈曲し、開いた形状を呈する。

10号竪穴建物（第30図、写真図版24・25）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南側のＶＡ８ｔグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。表土下のⅥ層で検出した。斜面下方の南側壁面が削平され、床面（貼床範囲）のみの検出である。
＜平面形・規模＞　形状は方形を呈し、規模は壁の残存する南西－北東壁間で3.51ｍ、検出面から床面までの深さは29㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で明黄褐色シルトを微量含む黒褐色シルト層を主体とする。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、検出面から床面までの深さは北西壁面で30㎝、床面は水平で、暗褐色シルトと明黄褐色シルトの混合により、貼床が施されている。
＜カマド＞　カマドは南西壁面中央に設けられ、埋土の状況から構造は刳り抜き式で煙道部の天井が崩落し、埋没したと考えられる。煙道部の規模は長さ87㎝、幅34㎝を測り、煙道部入口から煙出部に向かって８°の傾斜で下り、煙出部へと接続する。煙出部の検出面からの深さは23㎝で煙道部よりもやや深く掘り込まれている。煙道部入口付近ではカマドの芯材に使用されたと推測される10㎝大の礫

がまとまって検出された。これ以外には燃焼部に焼成痕跡を45×38㎝の範囲で確認した。焼土の厚さは３㎝を測る。
＜柱穴＞　北東壁際で２個検出した。
＜遺物＞　遺構内から古代の土器1465.7ｇが出土し、このうち３点を図化・掲載した。55は土師器坏の破片で内面にミガキが施されてる。56・57は土師器甕で57の外面には広い範囲で煤が付着している。

11号竪穴建物（第31・32図、写真図版26・27）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側のⅣＡ18ｔグリッド付近に位置する。表土下のⅤ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は方形を呈し、規模は壁の残存する南西－北東壁間で3.20ｍ、北西－南東壁間2.97ｍとやや南西－北東壁間が長い。
＜埋積土＞　埋土は自然堆積で黒褐色シルト層を主体とするが、中央に褐色に近い暗褐色シルト層がある。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、検出面から床面までの深さは北西壁付近で45㎝を測る。床面は平坦で、黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合により貼床が施されているため硬化している。
＜カマド＞　カマドは南西壁面中央に設けられ、煙道部は刳り抜き式で規模は全長75㎝、幅37㎝を測り、煙道部入口から煙出部に向かって９°の傾斜で下り、35㎝付近で煙出部と接続する。煙出部は開口部径43×36㎝、検出面からの深さは74㎝で、開口部が煙道部よりも北側に位置している。カマド本体は両袖部と焼成痕跡、カマドに使用したと考えられる礫を検出した。袖には長さ30㎝弱の礫が芯材として使用され、これを黒褐色シルトと黄褐色シルトの混合土で覆って構築されている。燃焼部に焼成痕跡を44×32㎝の範囲で確認した。焼土の厚さは５㎝を測る。
＜土坑＞　カマド右袖脇で土坑１を検出した。規模は開口部径72×71㎝で、深さ18㎝を測る。
＜遺物＞　遺構内から古代の土器1721.5ｇ、縄文土器25.2ｇ、鉄滓287.1ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。58・59は土師器甕で58は貼床、59はカマド袖部付近から出土した。器面調整は58が内外面ハケメ（内面の下半は一部ナデ）、59は内外面ナデが施され、底部に木葉痕が確認できる。

12号竪穴建物（第33・34図、写真図版28・29）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側のⅣＡ18ｓグリッド付近に位置する。表土下のⅥ層で検出した。２号畝間状遺構、34号土坑と重複し、これらより古い。カマド煙道部以外は畝間状遺構の影響を受けている。また斜面下方側は削平され消失している。
＜平面形・規模＞　形状は方形を呈する。北西側の壁面のみ残存し、壁の全長は13.03ｍを測る。
＜堆積土＞　遺構上面は近世以降の造成時に削平された後に盛土されたもので、本遺構検出段階では北西壁面付近の一部以外は床面～貼床での検出である。
＜壁・床面＞　北西壁付近で約25㎝ほど残存する。床面は畝間状遺構との重複により、掘削されていることから、凸凹である。また、明黄褐色シルトを含む暗褐色シルトで貼床が施されている。
＜カマド＞　カマドは北西壁面に新旧２箇所確認した。カマド１がカマド２より新しい。カマド１の煙道部の規模は全長1.95ｍ、幅46～70㎝を測り、煙道部入口から煙出部に向かって水平に掘削し、1.20ｍの地点から煙道部先端まで緩く傾斜して上がっている。両側の壁の中位に長さ30㎝ほどの礫を煙道と平行する方向に並べて台とし、その上を長さ35～46㎝ほどの礫を煙道と垂直方向に置いて蓋石とし、これを明黄褐色混じりの黒褐色シルトで覆って天井部を構築している。カマド本体は袖部と燃

焼痕跡を確認した。袖部には長さ24～35㎝の礫が芯材として使用され、これをにぶい黄褐色シルト混じりの黒褐色シルトで覆って構築されている。燃焼部に焼成痕跡を30×17㎝の範囲で確認した。焼土の厚さは４㎝を測る。カマド２は煙道部のみの検出で、煙道部の構造は刳り抜き式で規模は長さ116㎝、幅33～36㎝、高さは24～34㎝、煙出部は開口部38×33㎝、深さ81㎝で底が煙道部側に傾いて掘削され、煙道部の底面より10㎝ほど高い。

＜柱穴＞　２個検出した。北西壁際で２個検出したが本遺構に伴うものかどうかは不明である。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器647.6ｇ、羽口62.1ｇ、金属遺物42.9ｇ、鉄滓818.7ｇが出土し、うち土器１点と金属遺物３点を図化・掲載した。60は土師器甕の口縁部破片でカマド燃焼部から出土した。61～63は鉄製品で61は刀子、62・63は鉄鏃で61・62は先端部を欠く。

13号竪穴建物（第35～37図、写真図版30・31）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面、ＶＡ７ｐ他複数のグリッドに跨がって位置し、表土除去後のＶ層で検出した。32号土坑、２号陥し穴状遺構、８号焼土、12号焼土と重複し、２号陥し穴状遺構より新しく、32号土坑・８号焼土・12号焼土よりも古い。また、位置的に16号竪穴建物と重複関係にあると推測されるが、新旧関係は不明である。

＜平面形・規模＞　遺構の南東側が削平されているが、平面形は方形基調と推定される。規模は、残存する北東－南西壁間で10.07ｍ、削平を受けている北西－南東間で3.36ｍの残存値で、深さは最も残存する北西壁上部から床面まで52㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体として中層以下に黒色シルトや褐色シルトが混在する。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は、細かい凹凸が見られるが全体的に平坦である。床面全域に３～35㎝の厚さで貼床が施されている。また床面から柱穴８個と、幅13～15㎝の溝を２条確認した。

＜カマド＞　カマドは、北西壁中央よりやや南側に設けられ、煙道は掘り込み式で軸方向はＮ－78°－Ｗを向く。煙道部の規模は長さ1.34ｍ、最大幅40㎝で、煙出部に向かって６°の傾斜で上るように掘削されている。カマド構築土は、明黄褐色シルトを主体とし、袖部に芯材は確認できなかったが、カマド周辺に礫が見られることから、礫を据えて構築されていたと推測される。袖先端部はハの字状に開き、袖先端部間距離は1.19ｍを測る。焼成面の焼土範囲は108×65㎝で焼土の層厚は最大10㎝である。左袖の上から鉄製品３点が出土した。

＜柱穴＞　８個確認した。規模は14～33㎝、深さは23～69㎝を測る。配列に規則性はみられない。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器5444.4ｇ、縄文・弥生土器650.9ｇ、羽口1249.7ｇ、金属遺物124.7ｇ、鉄滓507.9ｇが出土し、うち12点（64～75）を図化・掲載した。64～67は土師器甕で64～66は口縁部、67は底部の破片で、器面調整は内外面ナデ、67の底面には木葉痕がある。68・69は羽口、70～73は鉄製品で70～72はカマド左袖の上面に並んだ状態で出土した。器種は70・71は刀子であるが72・73は不明、また貼床から縄文土器の胴部破片が１点（75）、検出面から寛永通寳１点（74）が出土しているが、混入によるものと考えられる。

14号竪穴建物（第37図、写真図版32）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西部の緩斜面、ＶＡ４ｏグリッドに位置し、Ⅵ層地山面で検出した。検出したのはカマド煙道部・燃焼部と壁溝の一部、柱穴状土坑１個である。重複関係が確認

できる遺構はないが、位置的な要素から５～７・19号土坑が重複関係にあると推測される。
＜平面形・規模＞　遺構の壁面が削平されていること、床面に貼床がないことから平面形と規模は不明である。
＜壁・床面＞　壁は残存せず、床の範囲は不明である
＜カマド＞　遺構の残存状況から、カマドは北西壁面に設けられたと考えられ、煙道部の軸方向はＮ－57°－Ｗを向く。煙道部の規模は長さ68㎝、最大幅44㎝の残存値で、底面はほぼ水平である。焼成面の焼土範囲は54×46㎝で焼土の層厚は最大７㎝を測る。
＜柱穴＞　カマドの左側の床面で１個検出した。規模は開口部径41㎝、深さ14㎝である。本遺構に属するかは不明である。
＜遺物＞　出土していない。

15号竪穴建物（第38図、写真図版33・34）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北端のⅣＢ14ａグリッドに位置し、表土下のⅥ層で検出した。重複する遺構はないが、遺構の南側とカマド煙道部の先端が撹乱や後世の造成により、消失・削平されている。
＜平面形・規模＞　遺構の半分が削平を受けているため規模は不明、平面形は方形基調と推定される。検出面から床面までの深さは20㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトを主体とするが、撹乱による再堆積層が大半を占める。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は、細かい凹凸が見られるが全体的に平坦である。床面全域ににぶい黄褐色粘土質シルトと黒褐色シルトの混合土により、貼床が最大で10㎝の厚さで施されている。また、壁面に沿って幅８～16㎝の溝が巡らされている。
＜カマド＞　カマドは、北西壁面に設けられ、煙道は刳り抜き式で軸方向はＮ－47°－Ｗを向く。煙道部は長さ24㎝の残存値で、底面はほぼ平坦で先端側が撹乱により、失われている。カマド構築土は､明黄褐色シルトを含む黒褐色シルトが主体で、袖部とカマド周辺に礫が散在することから、礫を据えて構築されていたと推測されるが、袖部の残存状況は悪い。焼成面の焼土範囲は46×42㎝で焼土の層厚は最大４㎝を測る。
＜遺物＞　遺構内から古代の土器214.6ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。76は土師器甕の口縁～体部上半の破片で床面から出土した。

16号竪穴建物（第39図、写真図版35）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端の緩斜面地、ＶＡ７ｑグリッドに位置し、Ⅳ層でカマド煙道部を検出した。遺構の南側の大半が後世の造成工事により削平され、消失している。本遺構の西にある13号竪穴建物と位置的に重複する可能性があるが新旧関係は判然としなかった。
＜平面形・規模＞　遺構の大半が削平されているため規模は不明であるが、平面形状は残存部分から方形基調と推定される。深さは最も残存する北西壁上部から床面まで52㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、上位は黒色シルト、中～下位は黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は床に対して73°の角度で外傾して立ち上がる。床面はおおよそ平坦である。床面には６～14㎝の厚さで貼床が施されている。壁際に溝が巡らされ、北壁隅に溝を区切るように柱穴が１個検出された。
＜カマド＞　カマドは北西壁に設けられているが、主体部は削平のため残存せず、煙道の一部を検出

したのみである。煙道部は刳り抜き式で、軸方向はＮ－51°－Ｗを向く。煙道底面は住居壁側に段差があるが、それ以外は平坦で、残存部分の長さ59㎝で煙道入口側から46㎝付近で煙出部へと接続する。煙出部の規模は開口部径27×25㎝、煙道底面までの深さ77㎝で北側に傾いて掘り込まれ、煙道に対してやや北西の位置にある。

＜遺物＞　遺構内から古代の土器66.7ｇ、縄文土器37.0ｇ、金属遺物29.4ｇが出土し、うち３点を図化・掲載した。77は土師器甕の口縁部破片、78・79は鉄製品で78が刀子、79は鉄鏃で両端を欠く。

17号竪穴建物（第40図、写真図版36・37）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西端の緩斜面地、ＶＡ８ｎ・８ｏグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。斜面下方の遺構南東側は削平を受けて消失している。

＜平面形・規模＞　遺構の残存部分から平面形は方形と推定される。規模は、残存する北東－南西壁間で3.89ｍ、削平された北西－南東間で2.55ｍの残存値で、深さは最も残存する北西壁検出面から床面まで35㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、礫粒を含む黒褐色シルトの単層である。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は細かい凹凸はあるが、全体的に平坦である。床面全域に最大24㎝の厚さで貼床が施されている。壁溝・柱穴等の付随する施設は確認できなかった。

＜カマド＞　カマドは北西壁中央よりやや南側寄りに設けられている。煙道部は刳り抜き式で、軸方向はＮ－69°－Ｗを向く。煙道部の規模は全長1.40ｍ、最大幅25㎝、高さは煙出部付近で35㎝を測り、煙道入口側から約11°の角度で傾斜して下り、1.12ｍ付近で煙出部と接続する。煙出部の規模は開口部径30×30㎝、底面までの深さは74㎝で北側に傾いて掘り込まれている。カマド本体は左袖は残存するが、右袖は一部を残して大部分が消失している。カマド構築土は黒褐色シルトを主体とし、左袖部の芯材には礫を据えて構築されている。右袖部は残存部の延長線上に抜き取り痕と考えられる小型のピットが見られることから、こちらも礫を据えて構築していたと考えられる。焼成面の焼土範囲は44×44㎝、焼土の最大層厚は11㎝である。

＜遺物＞　古代土器195.0ｇが出土し、うち２点を掲載した。80・81はいずれも土師器甕の口縁部破片で80は口縁部が直立気味に立ち上がる。カマド燃焼部から床面にかけて出土した。

18号竪穴建物（第41図、写真図版38・39）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端の緩斜面地、ＶＡ７ｒ～ｓグリッドに跨がって位置し、Ⅵ層地山面で検出した。重複する遺構はない。遺構の南側は削平を受けて消失している。

＜平面形・規模＞　検出したのが遺構の一部のため規模は不明、平面形は残存部分から方形と推定される。検出面から床面までの深さは北西壁付近で16㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルト層を主体とする。

＜壁・床面＞　壁は直立気味に立ち上がる。床面には凹凸があり、平坦ではない。床面に貼床が施され、焼土・壁溝を確認した。

＜焼土＞　赤褐色焼土が73×43㎝の範囲に広がって検出された。焼土の厚さは最大で５㎝を測る。焼土の北東側で炭化物を多量検出した。

＜遺物＞　総量で古代の土器408.4ｇが出土し、このうち２点を掲載した。82・83はいずれも土師器甕の口縁部破片でいずれも焼土付近で出土した。器面調整は内外面ナデである。

19号竪穴建物（第42・43図、写真図版40・41）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南端の斜面地、ⅣＡ６ｑ・７ｑグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。11・12号土坑と重複し、これらよりも古い。斜面下方の遺構南東側は削平を受けて消失している。

＜平面形・規模＞　遺構の残存部分から平面形は方形と推定される。規模は残存する北東－南西壁間で3.89ｍを測る。

＜堆積土＞　重複する11号土坑の影響と木根による撹乱があったため、埋土は判然としないが、黒褐色シルトを主体とする堆積である。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面の中央に11号土坑があり、また、全体に木根が多いため、凹凸である。床面全域に最大33㎝の厚さで貼床が施されている。

＜カマド＞　カマドは北西壁中央よりやや北側寄りに設けられている。煙道部は刳り抜き式で、軸方向はＮ－56°－Ｗを向く。煙道部は撹乱で一部は失われているが107㎝の残存長で、最大幅31㎝、高さ17～19㎝を測る。煙出部の規模は開口部径35×34㎝、底面までの深さは90㎝で竪穴壁面側に傾いて掘り込まれている。カマド本体は残存せず、煙道部の延長線上に燃焼部の焼成面と考えられる焼土を46×26㎝の範囲で検出した。焼土の層厚は２㎝を測る。

＜焼土＞　北西側の床面で焼土を２箇所検出した。焼成範囲は焼土１が34×25㎝、焼土２が15×14㎝である。

＜遺物＞　総量で古代の土器1510.4ｇ、縄文・弥生土器42.2ｇ、羽口3.5ｇ、金属遺物17.7ｇ、鉄滓615.4ｇが出土し、うち４点を図化・掲載した。84・85はいずれも土師器甕の破片で84は床面から出土した。86は石器で砥石、87は器種不明の鉄製品で両端を欠く。

20号竪穴建物（第43・44図、写真図版42・43）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南端の斜面地、ⅣＡ５ｑ・６ｑグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。斜面下方の遺構南東側は削平を受け残存しない。カマド煙道部の検出面で21号竪穴建物の床面に広がる焼土を検出したことから、これよりも古い時期である。また、南西側の壁面先端に隣接して４号焼成遺構を検出し、本遺構と重複関係にあると推測されるが、新旧関係は不明である。

＜平面形・規模＞　遺構の残存部分から平面形は方形と推定される。規模は残存する北東－南西壁間で2.55ｍを測る。

＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトを主体とし、壁際に明黄褐色シルトを含む暗褐色シルトが堆積する。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。斜面上方側の北西壁面は階段状を呈する。床面は斜面の傾斜に沿って南東側に緩く下っている。床面のほぼ全域に最大36㎝の厚さで貼床が施されている。

＜カマド＞　カマドは北西壁中央に設けられている。煙道部は掘り込み式で、軸方向はＮ－50°－Ｗを向く。煙道部の規模は全長107㎝、最大幅20～60㎝で先端側が幅広になっている。検出面から煙道底面までの高さは22～42㎝を測る。カマド本体は袖部に15～30㎝の礫を芯材とし、これを明黄褐色シルト混じりの黒色シルトで覆って構築され、袖はほぼ平行である。また、袖部奥の煙道部との境界には長さ33㎝の礫が両袖に架かるように配置されている。焼成面の焼土範囲は22×20㎝、焼土の最大層厚は４㎝を測る。

＜柱穴＞　床面および遺構に隣接する場所で６個検出した。Ｐ４～６は本遺構の範囲外に位置し、関連は不明である。

＜遺物＞　古代の土器369.8ｇ、羽口119.0ｇ、金属遺物8.9ｇ、鉄滓1073.9ｇが出土し、うち２点を図

化・掲載した。88は鉄製品で鉄鏃、89は石鏃で周辺からの混入物と考えられる。

21号竪穴建物（第45・46図、写真図版44～46）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南端の斜面地、ⅣＡ６ｐ他複数のグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。20号竪穴建物と重複し、これより新しい。また位置的な要素から19号竪穴建物・12号土坑と重複関係にあった可能性が考えられるが、斜面下方の本遺構南東側が削平されて残存しないため切り合いは確認できなかった。

＜平面形・規模＞　遺構の残存部分から平面形は方形と推定される。規模は残存する北東－南西壁間で7.83ｍを測る。

＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトを主体とする堆積である。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は緩い凹凸はあるが、およそ平坦で東側を中心に最大27㎝の厚さで貼床が施されている。床面の一部で壁面に沿って幅７～18㎝の溝を確認した。

＜カマド＞　カマドは斜面上方である北西壁中央よりやや北側に設けられている。煙道部は刳り抜き式で軸方向はＮ－53°－Ｗを向く。煙道部の規模は全長78㎝、最大幅30㎝、高さ32㎝を測り、煙道入口側から約５°の傾斜で上がり、43㎝付近で煙出部と接続する。煙出部よりも18㎝ほど奥まで掘り込まれていることから煙道部→煙出部の順に掘削されたと考えられる。煙出部の規模は開口部径28×26㎝、検出面から底面までの深さは41㎝を測る。カマド本体は袖部は残存せず、燃焼部の焼成痕跡である赤褐色焼土の広がりを74×50㎝の範囲に確認した。焼土の厚さは最大で10㎝を測る。

＜焼土＞　検出した範囲の東側半分の床面に４箇所検出した。周辺からは鉄滓が多量出土したことから、鍛冶を行った痕跡の可能性が考えられる。

＜土坑＞　２基検出した。規模は土坑１が開口部径110×110㎝、深さ44㎝、土坑２が開口部径121×110㎝、深さ54㎝と類似する。加えて、位置的な要素から本遺構の主柱穴の可能性が考えられる。

＜柱穴＞　３個検出した。Ｐ１のみ柱痕跡が確認できた。配置に規則性はみられない。

＜遺物＞　古代の土器が6889.9ｇ、縄文土器42.2ｇ、羽口11.8ｇ、金属遺物153.3ｇ、鉄滓3841.1ｇが出土した。うち13点を図化・掲載した。90～93はいずれも土師器で器種は90が坏、91～93は甕である。90は器面の内外面にロクロナデが施され、底部の切り離し技法は回転糸切による。94～102は鉄製品で94～97は鉄鏃、98・99は刀子、100は紡錘車、101・102は鎹である。

＜時期＞　出土した遺物の年代観から10世紀前半代と推測される。

22号竪穴建物（第47・48図、写真図版47～49）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南端の斜面地、ⅣＡ４ｐ他複数のグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。斜面上方の北西壁面側は斜面崩落により、本来の掘り込みよりも広がっている状況であった。10号焼成遺構、10号土坑と重複し、これらより古い。

＜平面形・規模＞　北西側に崩落箇所があるため全体の平面形は歪んでいるが、床面の平面形状から本来は方形であったと推測される。規模は北東－南西壁間5.20ｍ、北西－南東壁間5.30ｍ、検出面から床面までの深さは斜面上方である北西壁側で113㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトを主体とし、一部に暗褐色シルト層が堆積する。全体に黄褐色シルト粒が混入している。

＜壁・床面＞　壁は垂直～外傾気味に立ち上がる。床面は細かい凹凸はあるが、およそ平坦である。床面の東側を中心に最大17㎝の厚さで貼床が施されている。壁面に沿って大部分の床面に幅７～21㎝

の溝が巡らされている。
＜カマド＞　カマドは北西壁の南側に設けられている。袖部先端と燃焼部の一部が10号土坑との重複により失われている。煙道部は全長107㎝、刳り抜き式の構造で軸方向はＮ－66°－Ｗを向く。規模は最大幅30㎝、高さ29㎝を測り、煙道部入口から約２°の傾斜で下り、87㎝付近で煙出部と接続する。煙出部はほぼ垂直に掘られ、規模は開口部径35×30㎝、検出面から煙道部底面までの深さは95㎝を測り、煙道部底面より２㎝低い。
＜焼土＞　床面中央付近で２箇所検出し、規模は焼土１が45×39㎝、焼土２が30×29㎝で焼土の厚さは２～３㎝を測る。鉄滓・炭化材が多量出土したことから、竪穴内で鍛冶を行った可能性が考えられる。
＜柱穴＞　５個検出した。南東壁側の床面に集中しているが、規則性はみられない。
＜遺物＞　古代の土器が7849.9ｇ、羽口58.8ｇ、金属遺物168.8ｇ、鉄滓5462.7ｇ出土し、うち13点を図化・掲載した。103～105はいずれも土師器甕の口縁部破片でいずれも口縁部が外反する形状を呈している。106～115は鉄製品で106～108は用途不明で筒状の形状を呈する。109～112は刀子、113・114は鉄鏃、115は器種不明で棒状の形状を呈する。他にカマドおよび周辺焼土の土壌を篩による水洗選別を行ったところ、鍛造剥片20.2ｇ、獣骨79.9ｇ、魚骨2.1ｇを抽出した。
＜遺構の性格＞　出土した遺物から建物内部で鍛練鍛冶を行っていたことが明らかになった。

23号竪穴建物（第49・50図、写真図版50～52）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区西側の斜面地、ⅣＡ１ｐグリッド付近に位置し、Ⅲ層上面で検出した。斜面下方は削平により失われている。床面や検出した２基のカマドの検出面に比高差があることから建て替えが行われたと考えられる。また、位置的な要素から27号土坑と重複関係にあると推測されるが、新旧関係は不明である。
＜平面形・規模＞　遺構の残存部分から平面形は方形と推定される。規模は残存する北東－南西壁間で7.00ｍ、建て替え前の規模は同じ方向の床面の長さで約3.95ｍである。検出面から床面までの深さは斜面上方である北西壁側で44㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトを主体とし、全体に炭化物・焼土粒などが混入している。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がるが、斜面上方の北西壁面上部は崩落のため広がっている。床面は凹凸があり、やや傾斜している。古段階の床面を埋めた後、北西側を拡張して床面としているが、拡張部分に貼床は施されていない。
＜カマド＞　カマドは斜面上方である北西壁で２基検出した。新旧関係はカマド１が新しい。カマド１は壁面の中央よりやや北側に位置し、煙道部は刳り抜き式で、軸方向はＮ－40°－Ｗを向く。規模は全長(壁外)76㎝、最大幅31㎝、高さ14～24㎝を測り、燃焼部よりも煙道部手前は10㎝ほど高くなっており、壁面下まではほぼ水平に掘られ、そこから刳り抜きになっている部分は約20°の傾斜で上がり、煙出部に接続する。煙出部はほぼ垂直に掘られ、規模は開口部径35×30㎝、検出面から煙道部底面までの深さは26㎝を測り、煙道部の底面が傾斜しているのに対し、煙出部の底面は平坦である。カマド袖部の芯材には礫が使用され、これを明黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土で覆って構築されていたと考えられる。燃焼部の焼成痕は袖部先端付近に72×43㎝の範囲で広がり、焼土の厚さは最大で３㎝を測る。カマド２は竪穴壁面拡張前の推定範囲において、北西壁面中央より北側に設置されていたと推測される。煙道部の長さは30㎝と短く、壁面をわずかに掘り進んだ地点で垂直に立ち上がっている。両袖には芯材として使用された礫が残っている。燃焼部の焼成痕範囲は66×35㎝、焼土の厚さは５～６㎝を測る。

＜土坑＞　カマド２の南側で１基検出した。規模は開口部径103×78cm、深さ79cmで埋土状況から竪穴の規模拡張後に使用されたものである。
＜柱穴＞　４個検出した。Ｐ１・２・４は壁面際に位置する。検出状況から竪穴の規模拡張後に使用されたものと考えられる。
＜遺物＞　古代の土器が1763.3ｇ、縄文土器3.1ｇ、金属遺物19.7ｇ、鉄滓1762.9ｇが出土し、うち３点を図化・掲載した。116は土師器甕で同一個体と考えられる口縁部と底部の破片である。口縁部径と体部の最大幅はほぼ同じである。117は砥石、118は鉄製品で紡錘車である。

24号竪穴建物（第51図、写真図版53・54）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、ⅣＡ２ｓグリッド他複数グリッドに跨がり、新旧２基のカマドを含む斜面上方側の壁面と床面の一部を検出した。50号土坑・51号竪穴建物・50号陥し穴状遺構と重複し、これらより新しい時期に属する。（ただし調査の途中で雨水により袖土が流され芯材の礫が崩落したことから断面図は礫がない状態での作図となった）。
＜平面形・規模＞　平面形は方形基調である。規模は南西壁から北東方向に770cm以上あり、深さは北西壁付近で15～20cm、斜面下方の南東壁側の大半が削平され、消失している。
＜堆積土＞　床面での検出であったため埋土は不明である。
＜壁・床面＞　残存したのは南西壁・北西壁の一部で、外傾して立ち上がる。床面は、明確には把握できなかったが、ほぼ平坦と捉えられ、貼床は検出時の残存状況が悪かったため確認できなかった。
＜カマド＞　北西壁際側で２基検出した。南側に位置するカマド２が古く、煙道部のみ検出した。カマド１は天井部と袖部に芯材と推定される礫を確認した。カマドはこれに黄褐色粘土混じりの黒褐色シルトを使用して構築されていたと考えられる。燃焼部と想定される箇所には明確な焼成痕跡は認められなかった。煙道部は掘り込み式で先端に向かって水平に近い角度で掘削され、293cm付近で約50°の傾斜で立ち上がる。規模は全長416cm、幅48cm、検出面から底面までの深さは150cmと突出して長く、このため煙道部の長さは底面で293cmと短く、開口部とは約1.2ｍの差が生じている。煙道部下層は黄褐色粘土と黒褐色シルトの混合土で構成されている。カマド２は長さ66cm、幅33cmで50号土坑によって削平されている。
＜柱穴＞　全体で６個検出した。カマド１の右袖脇で検出したＰ１は規模52×34cm、深さ30cm前後で形状と位置的な要素から土坑の可能性がある。いずれも配列に規則性はみられない。
＜遺物＞　古代の土器4128.0ｇ、縄文・弥生土器133.3ｇ、金属遺物24.5ｇ、鉄滓893.7ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。119は土師器甕で口縁～体部破片、120は鉄製品で刀子の一部である。

25号竪穴建物（第52図、写真図版55・56）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中央のⅢＡ17ｔグリッド付近に位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、貼床による平坦な床面とカマドを確認した。南東側は斜面のため大部分が崩落している。重複関係は16号焼成遺構・63号土坑より古く、28・50号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　残存するのは北西壁のみで長さは6.7ｍ、一部の検出のみで不明であるが、方形基調である。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は急角度で立ち上がり、床面はほぼ平坦で、にぶい黄褐色シルトの貼床が施され、

北東側は深く掘り込まれている。また壁際を巡る溝を検出した。西側では一部を除き貼床の下から、東側では床面を確認した際に検出した。壁溝はカマドの袖の下にも延びていることから、床面の構築と同時に構築している。
＜カマド＞　斜面上方の北西壁面の中央よりやや南側で検出した。カマドは全体に壊されており、両袖の一部のみの検出である。燃焼部の入口側の両袖で袖石を確認した。煙道入口の南東側では上下に重なる長方形の礫を検出し、石組みがあった可能性もある。煙道部底面の一部と煙出部の立ち上がりのみの検出である。煙出部は壁面付近でそのままほぼ垂直に立ち上がるとみられることから短い煙道である。
＜柱穴＞　Ｐ１～４を検出した。主柱穴はＰ１・２である。南西側と北東側のコーナーでは壁溝に伴うＰ３・４を検出した。平面での検出状況から、Ｐ３は壁溝の構築前、Ｐ４は壁溝の構築後に掘り込んでいる。
＜遺物＞　古代の土器1515.7ｇ、鉄滓598.3ｇが出土し、土器１点を図化・掲載した。121は土師器甕の口縁部破片でカマドの堆積層から出土した。

26号竪穴建物（第53図、写真図版57・58）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中央より東側のⅢＡ18ｓグリッド付近に位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、貼床による平坦な床面とカマドを確認した。斜面下方の南東側は大部分が崩落し、消失している。重複関係は39号竪穴建物・18号焼成遺構より古く、31・40～42号竪穴建物と94号土坑より新しい。
＜平面形・規模＞　北西壁面の一部しか残存しないため、全体の規模は不明である。検出した規模は7.84m×1.72mで、形状は方形基調と推測される。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は72°の角度で立ち上がり、床面は斜面に沿って10°傾斜して下っているが、床面自体に凹凸は少ない。床面全面ににぶい黄褐色シルトによる貼床が施されている。
＜カマド＞　北西壁面に設けられている。煙道の規模は全長約80㎝、幅30㎝、煙道入口側の両袖の一部が残り、扁平な礫と厚みのある礫が一部で重なって検出していることから、カマド構成礫として使用されていたと考える。燃焼面は浅い皿状の掘方が伴う。焼土の範囲は69×50㎝、焼土の厚さは７㎝を測る。煙道はトレンチを優先したため、煙出しの立ち上がりの途中までの検出である。煙出しの立ち上がりの検出状況から短い煙道である。
＜遺物＞　古代の土器1058.1ｇ、羽口5.7ｇ、金属遺物6.4ｇ、鉄滓66.5ｇが出土し、うち土器３点と金属遺物１点を図化・掲載した。122～124は土師器甕の口縁部破片でカマドおよび床面から出土した。125は鉄鏃で先端を欠く。

27号竪穴建物（第54図、写真図版59）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北東のⅢＢ15ａグリッド付近に位置する。斜面部分のⅥ層で検出した。カマド付近を中心に検出したが遺構の大部分が消失している。28号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも古い。
＜平面形・規模＞　北西壁面の一部しか残存しないため、全体の規模は不明である。検出した規模は3.25×1.43mで、形状は方形基調と推測される。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は52°の角度で立ち上がり、床面は平坦である。床面に貼床が施されているかどう

かは撹乱との判別ができないため不明である。
＜カマド＞　北西壁面に設けられている。煙道部は刳り抜き式で規模は長さ約1.21ｍ、幅31㎝、高さ20～23㎝、煙道入口側から96㎝付近で煙出部と接続する。また煙道入口側の天井部は撹乱を受け、残存しない。カマド本体は削平され、燃焼部の焼成痕のみ検出した。焼土の範囲は44×36㎝、焼土の厚さは７㎝を測る。
＜焼土＞　カマド焼成痕跡以外に焼土を１基検出した。範囲は45×34㎝で焼土の厚さは２㎝を測る。
＜柱穴＞　煙道と焼成痕の間に柱穴１個を検出した。規模は径20㎝、深さは33㎝である。
＜遺物＞　遺物は出土していない。

28号竪穴建物（第55図、写真図版60）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中央のⅢＢ17ａ付近に位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中ににぶい黄褐色砂質シルトの広がりを検出した。本遺構と50号竪穴建物は平面と断面で重複関係を確認したが、調査工程から北東側が重機等の通路となっていたため、本遺構の北東側を先行して調査を行った。北東側を掘り下げたところ、貼床による平坦な床面を確認した。その後に50号竪穴建物を掘り上げ、南西側で貼床による平坦な床面、中央でカマドの一部と燃焼面、煙道を確認した。南東側は斜面のため大部分が崩落し、南西側は16号焼成遺構と63号土坑により壊されている。
＜平面形・規模＞　一部の検出であるが残存部分の規模は7.60×1.29ｍで、形状は方形基調である。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、上位はにぶい黄褐色砂質シルトと暗褐色シルトの互層、中位以下は暗褐色砂質シルトを主体とする。床面直上に炭化物を多く含む黒褐色シルトが堆積する。
＜壁・床面＞　壁は垂直に近い86°の傾斜で立ち上がり、床面は４°の角度で傾斜して下がるが平坦に近い。床面に明確な貼床の痕跡は確認できなかった。カマドの北東側の壁際に沿って幅16～21㎝の溝が巡らされている。
＜カマド＞　北西壁面に設けられている。煙道部は刳り抜き式で規模は長さ約99㎝、幅19～27㎝、高さ32㎝である。煙出部の規模は開口部径34×26㎝、深さ82㎝でほぼ垂直に掘削されている。カマド本体は50号竪穴建物により全面的に壊されており、袖の一部と燃焼部を検出した。袖は左袖の一部がわずかに残存し、煙道入口と考えられる部分の近くで被熱した礫が出土したことから、石組みがあった可能性がある。燃焼部の焼成痕の焼土範囲は56×47㎝、焼土の厚さは４㎝を測る。
＜柱穴＞　Ｐ１～７を検出した。主柱穴はＰ１・７である。北東壁側の壁溝内でＰ５・６を検出した。検出状況からＰ５・６は壁溝の構築後に掘り込んでいる。Ｐ２～４はほぼ同じ大きさで直線的に並ぶ。Ｐ４は杭状である。
＜遺物＞　古代の土器は526.4ｇ、羽口365.3ｇ、鉄滓313.2ｇが出土し、羽口１点（126）を図化・掲載した。

29号竪穴建物（第56図、写真図版61・62）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区の斜面中段、ⅢＡ18ｒグリッド付近に位置している。急な斜面でⅤ層上面まで掘り下げた段階で、にぶい黄褐色シルトの広がりが見られ、遺構としたものである。急斜面を掘り込んでつくられており、斜面下方側は削平され残存していない。斜面上方にあたる北西壁の一部と北東壁がわずかに検出されている。北東壁は大部分が30号竪穴建物の埋土上部を切って構築されているため、壁の把握が難しかった。重複関係は72号土坑より古く、30・43・44号竪穴建物より新しい。

＜平面形・規模＞　形状は方形状と推定される。残存する北西壁の長さは5.8mである。
＜堆積土＞　埋土は主に上半部がにぶい黄褐色砂質シルト、下半部が灰黄褐色の砂質シルトで占められている。全体に炭化物や風化花崗岩が多く混じる。最下部にみられる扁平な長い亜角礫はカマドの構成礫であったものと考えられる。
＜壁・床面＞　壁は垂直に近い75°の傾斜で立ち上がり、床面には凹凸があり、９°の角度で斜面に沿って傾斜して下る。床面は堅くしまり、北東壁側は30号竪穴建物の埋土上部を切り、その上を暗褐色シルト混じりの黄褐色砂質シルトで厚さ３～９㎝で貼床が施されている。また北西壁側でも部分的に貼床が施されている。
＜カマド＞　カマドは北西壁で２基検出した。カマド１がカマド２よりも新しい。主軸方向はＮ－61°－Ｗである。カマド１は扁平な亜円礫がカマドの芯材として使用され、壁から80㎝離れた燃焼部の底面に支脚と考えられる長径10㎝の礫が設置されていた。他に原位置を保っている構成礫は壁際にあるものだけで、そのほかは崩壊した状態で検出されている。カマド本体の残存状況は悪い。燃焼部の底面は浅皿状を呈し、赤変し焼土化している。焼土の範囲は径84×58㎝、焼土の厚さは10㎝を測る。煙道部は燃焼部底面より19°の傾斜で上がり、煙道先端壁面で72°の角度となって、煙出口につながっていたものと推定される。現存する煙道の規模は長さ66㎝、幅52㎝である。カマドの崩壊土および周辺から土師器甕の破片が多く出土しており、カマド本体に設置されていたものも含まれていると考えられる。カマド２は煙出部の一部と床面に僅かに燃焼部底面の焼土が残存しているがいずれもカマド１の移設を伴う建て替え時の掘削で大半が消失していると考えられる。検出された煙道の規模は長さ47㎝、幅50㎝である。煙道部は燃焼部底面より22°の傾斜で立ち上がり、先端壁際で垂直に立ち上がり、煙出の開口部でオーバーハングしている。
＜遺物＞　古代の土器は5062.1ｇ、羽口957.4ｇ、金属遺物19.9ｇが出土し、うち７点を図化・掲載した。127～131はいずれも土師器甕でカマドおよび床面から出土した。器面調整は内外面ナデ、128・130の外面には一部ケズリが施されている。132は羽口、133は鉄製の紡錘車でいずれもカマド周辺の床面から出土している。

30号竪穴建物（第57・58図、写真図版63・64）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区の斜面中段、ⅢＡ17ｒグリッド付近に位置している。 検出面はⅥ層である。29号竪穴建物を精査している段階で別の遺構と判明したものである。重複関係は西側を29号竪穴建物、東側を84号土坑に切られ、北側で44号竪穴建物を切っている。従って、本遺構は29号竪穴建物と84号土坑より古く、43・44号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　斜面下方側にあたる住居の大半は、削平のため検出されていないが、残存する北西壁と北東壁・南西壁の一部から、形状は方形を呈すると推定される。規模は南西－北東壁間の長さが7.8mである。
＜堆積土＞　５層に分かれる。埋土上位の１層はを29号竪穴建物の貼床で、本遺構の埋土はこれより下位の２層以下で、褐色シルトブロックが混じる暗褐色砂質シルトと褐色砂質シルトの互層で交互に堆積している。褐色砂質シルトは汚れが少ないことから、短期間のうちに人為的に堆積されたものと考えられる。
＜壁・床面＞　壁は55°の角度で傾斜して立ち上がり、床面は緩い凹凸があり平坦でなく、全体的に斜面下方側に３°傾斜している。一部に貼床が施されている。
＜カマド＞　カマドは北西壁中央部のやや東寄りに設けられている。煙道部は刳り抜き式で煙道入口

側から３°の傾斜で下って進み、93cmの地点で煙出部と接続している。煙道部は幅42cm前後、高さは25～31cmで先端に進むに従い狭くなっている。煙出部は開口部径48×43cm、深さ156cmを測る。煙道の埋土は主に上位が褐色シルトの大ブロック（径６～14cm）が多く混じる暗褐色砂質シルト、下位が炭化物や黄褐色シルトが混じる極暗褐色シルトである。カマド本体は削平され、残存状況は悪い。袖は床面まで削平され、構築土と推定される黄褐色砂質シルトが周辺に堆積している。また、芯材とみられる礫が右袖脇から１点見つかっている。燃焼部焼土の断面形は、中央部が窪む浅皿状を呈している。赤褐色化している範囲は径42×36cm、厚さ５cmを測る。カマド内部の右袖脇に土師器甕（134）が倒立して埋め込まれており、支脚として使われたと考えられる。

＜柱穴＞　20個検出した。規模は第３表のとおりである。このうちＰ７・３・10が壁面に沿って列を成し、Ｐ８・19・13も規模等から同時期の可能性がある。他の帰属に関しては不明である。

＜焼土＞　３基検出され、壁に沿う形で並んでいる。焼土１はカマド右袖先端部付近にあり、形状はほぼ円形を呈し、規模は径46×44cm、焼土の厚さ４cm、焼土２はカマド左袖先端からやや南側にあり、形状はほぼ円形を呈し、規模は径28×24cm、焼土の厚さ３cm、焼土３は焼土２から南西に1.48mの地点にあり、形状は不整な楕円状を呈し、規模は径44×26cm、焼土の厚さ２cmを測る。本遺構からは鉄滓が多く出土していることから鍛冶炉として機能していた可能性がある。

＜その他施設＞　南西壁から約20cm離れた地点に壁に沿う形で溝が検出されている。規模は幅18～32cm、深さ14cm、長さ122cmの残存値である。底面は凹凸があり、中央部が深い。埋土は暗褐色～褐色砂質シルトで占められている。

＜遺物＞　古代の土器1551.7ｇ、金属遺物34.3ｇ、鉄滓1024.4ｇが出土し、うち５点を図化・掲載した。134～136はいずれも土師器甕で器面調整は内外面ナデ、134はカマド燃焼部で支脚として使用されていたと考えられる。137・138は鉄製品で刀子である。

31号竪穴建物（第59図、写真図版65）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＡ18ｔグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。北東側は39号竪穴建物の床面でカマドの燃焼面と掘方の一部を検出した。南西側は26号竪穴建物・41号竪穴建物の床面で検出し、掘り下げたところ､貼床による平坦な床面とカマドの一部を確認した。南東側と39号竪穴建物の北東側は斜面のため崩落しており、南西側は26号竪穴建物と41号竪穴建物に上部を、北東側は39号竪穴建物に床面まで壊されている。また、26・39～42号竪穴建物と重複関係にあり、これらよりも古い。

＜平面形・規模＞　残存部分は3.40ｍ×1.94ｍで、一部の検出のみで不明であるが、方形基調である。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積で暗褐色砂質シルトを主体とする。壁際に褐色・暗褐色砂質シルト混じりのにぶい黄褐色シルトが堆積する。

＜壁・床面＞　壁は80°の角度で傾斜して立ち上がり、床面はほぼ平坦である。残存していた南西側の床面には、壁際を除き、褐色砂質シルト混じりの暗褐色シルトを主体とする貼床が施されている。カマドの南西側の壁際に沿って幅19～31cmの溝が巡らされている。

＜カマド＞　北西壁面に設けられているが、カマド本体は39号竪穴建物によりほぼ壊されており、燃焼面と煙道部のみ検出した。また、一部残っていたカマド本体の残存状況から、廃棄時にも壊されたと考えられる。煙道部は入口部分以外を検出した。刳り抜き式の構造で規模は、長さ1.11ｍ、幅27cm、高さ12～29cmで入口側が低く、先端側が高い。煙出部の規模は開口部径40×32cm、深さ80cmでほぼ真下に掘り込まれている。

＜柱穴＞　Ｐ１～14を検出した。Ｐ８～12は貼床除去後に検出した。Ｐ13・14は平面的な検出の範囲外ではあるが、他の柱穴と埋土や大きさが類似することと近接すること、他に組み合う建物がないことから、本遺構に伴うものと判断した。主柱穴はＰ８・10である。Ｐ１・２は壁溝に伴うもので、検出状況から壁溝の構築後に掘り込んでいる。
＜遺物＞　古代の土器584.3ｇ、石器783.7ｇ、金属遺物70.5ｇ、鉄滓110.9ｇが出土しうち４点を図化・掲載した。139は土師器甕の体部下半～底部の破片で、カマド煙道部入口付近から出土した。140は石器で磨石、141・142は鉄製品で141が刀子、142が紡錘車である。

32号竪穴建物（第60図、写真図版66・67）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、ⅣＡ４ｓグリッドで北西から南東に傾斜する斜面部の下位で傾斜が緩やかに変化する場所に位置する。斜面に堆積したⅣ層の直下で検出した。他の遺構と重複しており、残存するのは斜面上位の北西壁面の一部で他には煙道部と床面施設のみである。重複関係が認められるのは34・38号竪穴建物、82号土坑と重複関係が認められ、いずれの遺構よりも古い。また、プランの広がりから45～47号竪穴建物とも重複している可能性が高いが、いずれの遺構よりも古いと考えられる。
＜平面形・規模＞　全体の規模は不明で、検出した南北間の長さは4.86ｍである。形状は残存部分から方形基調と推測できるが詳細は不明である。
＜堆積土＞　埋土の大半が他の遺構に切られているが、本遺構の埋土として確認できたのは明黄褐色シルトを微量含む黒色シルト層である。層中には風化花崗岩粒が均等に混じる。
＜壁・床面＞　壁は遺構の南側での一部で立ち上がりが認められ、緩やかに傾斜している。床面は他の遺構との重複や植物根により判然としない箇所が多いが、残存する場所においては概ね平坦で、風化花崗岩混じりの地山を床面として機能させている。また、純然とした地山ではないことから部分的に貼床が施されていた可能性も考えられる。
＜カマド＞　煙道部以外は82号土坑に切られているため残存しない。煙道部は斜面下方が82号土坑に一部切られているが、規模は長さ144㎝、幅41～53㎝を測る。煙道入口側から煙出部に向かって14°の傾斜で上がり、117㎝付近で煙出部へと接続する。接続部分には15～37㎝ほどの長楕円の礫を組み込んで補強としてある。煙出部は煙道部よりも19㎝ほど深く掘り込まれ、最下層に炭化物層が認められる。これ以外では、主体部に位置する場所より斜面下方に焼成痕を検出した。焼成痕の焼土は60×63㎝の範囲に広がり、焼土の厚さは８㎝を測る。
＜遺物＞　古代の土器1605.2ｇ、金属遺物59.2ｇ、鉄滓500.0ｇが出土し、うち６点を図化・掲載した。143は土師器甕の口縁部破片である。144・145は羽口で144はカマド燃焼部から出土した。146・147は鉄製品で146は刀子、147は釣針である。148は弥生時代後期の土器で深鉢の口縁部破片である。文様には沈線文および交互刺突文が施されている。周辺からの混入と考えられる。

33号竪穴建物（第61図、写真図版68）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、ⅢＡ18ｔグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面の遺構を検出するためのトレンチを精査中に、２箇所の小さい円形の暗褐色砂質シルトの落ち込みを検出した。トレンチを入れたところ、煙道の平坦な底と立ち上がりを確認した。周囲を精査したが、遺構などの落ち込みは見られなかったため、煙道のみの検出で竪穴の床面に想定されるところから付属する遺構は見つかっていない。重複関係にある遺構はない。

＜平面形・規模＞　煙道のみの残存で、全体の規模・形状は不明である。
＜カマド＞　煙道部は刳り抜き式で、軸方向はＮ－59°－Ｗを向く。規模は全長98㎝、幅19～26㎝、高さ23～25㎝で先端側がやや狭い構造となっている。煙道入口側から約６°の傾斜で下り、76㎝の地点で煙出部と接続する。煙出部の規模は開口部径34×32㎝、深さ57㎝である。
＜遺物＞　出土していない。

34号竪穴建物（第61図、写真図版70）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＡ４ｓグリッドに位置する。32号竪穴建物の貼床を掘り上げたところ、暗褐色砂質シルトの落ち込みを検出した。掘り下げたところ、壁と平坦な床面を確認した。またトレンチにより煙道を確認した。大部分は調査区外に広がっている。32・38号竪穴建物と重複関係にあり、これらよりも古い。
＜平面形・規模＞　竪穴本体の残存部分は北東壁側の3.06×0.34ｍの範囲のみで、一部検出のため形状は不明である。
＜堆積土＞　堆積土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁の立ち上がりは38号竪穴建物との重複のため不明でる。床面の検出はわずかではあるが、ほぼ平坦である。
＜カマド＞　斜面上方側の北西壁で煙道部のみ検出した。南東側の調査区境の壁面にはカマドの堆積が確認できなかったため、カマド本体は斜面で崩落しているか、ほぼ壊されていると考える。煙道入口側で被熱範囲を検出したが、被熱の状態が弱かったため、カマドの燃焼面ではなく、煙道の入口部分と判断した。煙道は刳り抜き式で軸方向はＮ－61°－Ｗを向く。規模は全長1.41ｍ、幅28～30㎝、高さ25～35㎝で先端側がやや高低幅のある構造となっている。煙道は入口から約２°の傾斜で下り、1.19ｍ付近で煙出部と接続する。煙出部の規模は開口部径46×41㎝、深さ57㎝である。
＜遺物＞　出土していない。

35号竪穴建物（第62図、写真図版69）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、調査区山頂尾根の北側斜面、ⅡＡ18ｍグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。斜面下方側の北東壁側が一部削平され、失われている。重複関係にある遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円～長方形状でやや歪んでいる。規模は北西－南東壁間4.63ｍ、北東－南西壁間3.10ｍで、検出面から床面までの深さは南西壁付近で60㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とし、壁際に壁面崩土である黄褐色シルトが多く混入する。
＜壁・床面＞　壁は45°の角度で傾斜して立ち上がり、植物根により判然としない箇所が多いが、概ね平坦で、風化花崗岩混じりの地山を床面として機能させている。また、純然とした地山ではないことから部分的に貼床が施されていた可能性も考えられる。
＜カマド＞　斜面上方である南西壁面の中央より東側に設けられ、本体部分は削平され、燃焼部と煙道部のみ検出した。煙道部は刳り抜き式の構造で規模は長さ92㎝、底面幅20㎝、高さ20～35㎝を測り、入口から先端側へ約２°の傾斜で下り、77㎝付近で煙出部と接続するが、先端に行くに従い高低幅が増している。煙出部の規模は開口部径40×38㎝、深さ95㎝でほぼ真下に掘り込まれ、煙道部底面より３㎝ほど深く掘り込まれている。燃焼部の明赤褐色焼土の範囲は93×63㎝と広いが、褐灰色シルトが混じることから、植物痕の撹乱により、焼成痕跡とカマド崩落土が混在している可能性がある。

検出状況から壁溝の構築後に掘り込んでいる。
＜遺物＞　古代の土器126.2ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

36号竪穴建物（第63図、写真図版70・71）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区の調査区山頂部、尾根の南側斜面のⅡＡ18ｎグリッドに位置する。地山層で検出した。斜面下方側の東壁側が削平され失われている。位置的に88号土坑と重複関係にある可能性がある。
＜平面形・規模＞　形状は方形状を呈すると推測される。規模は残存する北－南壁間5.03ｍで、検出面から床面までの深さは西壁付近で63㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とし、壁際には壁面崩落土であるにぶい黄褐色シルトが堆積している。
＜壁・床面＞　壁は45°の角度で傾斜して立ち上がり、床面は西から東に３°傾斜して下がる。床面には植物痕の撹乱により暗褐色シルトが斑状にあるが、地山の風化花崗岩層を床面とし、貼床は施されていないと考えられる。
＜カマド＞　斜面上方である西壁面南側に設けられている。煙道部に位置する竪穴の壁面がわずかに広がっているが、壁面に明確な掘り込みは確認できなかった。燃焼部には芯材・支脚に使用されたと考えられる礫とこれを覆う明黄褐色シルトが残っている。支脚の礫は角柱状の形状を呈し、燃焼部の中心に据えられている。焼成痕である焼土範囲は70×54㎝であるが、床表面（５層下）が赤褐色化しているのみで厚さは１㎝に満たない。
＜遺物＞　古代の土器は354.5ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。149は土師器甕の口縁部破片である。

37号竪穴建物（第64図、写真図版72・73）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区の調査区北東端で急斜面から緩斜面に変わる山裾の部分にあり、ⅡＢ９～10ｃグリッドに跨がって位置する。表土除去後の検出作業で焼土が点在する箇所であった。斜面に沿って東西方向に２本のトレンチを設置した結果、北東側が別遺構と重複していることが判明し、本遺構については斜面上位側の西壁と南壁の一部に立ち上がりの壁と床面の一部を検出した。西側の壁面が張出した形状を呈することや、壁溝の位置などから判断して建て替えが行われた可能性が考えられる。65・66号竪穴建物と重複関係にあり、切り合いから65号竪穴建物より新しく、66号竪穴建物よりも古い。
＜平面形・規模＞　残存するのは北西壁面側の一部であるが、形状は方形基調と推測され、規模は6.70×1.82ｍの残存値である。北西壁のうち中央寄りの部分（５ｍ弱）は西側に40～50㎝ほど張り出している。
＜堆積土＞　埋土の主体は暗～黒褐色シルトで壁近くでは壁の崩落土と考えられる褐色シルトが堆積している。床面に近い下層は黒～黒褐色シルトで焼土粒が含まれる。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、検出面から床面までの深さは最も残存する西壁で50㎝を測る。床面は地山の風化花崗岩層を掘り込んだ後、削りだして床面としている。カマド付近以外の壁面に沿って幅13～23㎝の溝が床面に巡らされている。
＜カマド＞　斜面上方である北西壁面の中央付近にカマドが構築され、燃焼部と煙道部のみ検出した。右袖に位置する場所で芯材に使用されたと考えられる礫の抜けた痕跡を確認した。煙道部は刳り

抜き式の構造で規模は長さ165㎝、底面幅22～42㎝、高さ10～24㎝を測る。入口側から先端側へ約７°の傾斜で上がり、120㎝付近で煙出部と接続するが、接続部付近で高さは10㎝と最も低く、幅は42㎝と最も広くなっている。煙出部の規模は開口部径54×43㎝、深さ117㎝でやや煙道入口側に傾いて掘り込まれ、底面は平坦である。燃焼部の明赤褐色焼土107×82㎝の範囲に不整な形状で広がり、焼土の厚さは４㎝である。
＜柱穴＞　溝と同様に壁に沿って柱穴６個を検出した。このうちＰ１・４・５・６は溝を切って掘られている。
＜焼土＞　カマド燃焼部の周辺から焼土を２基検出した。形状はいずれも楕円状で、規模は焼土１が38×24㎝、焼土の厚さは６㎝、焼土２が33×20㎝、焼土の厚さは９㎝を測る。
＜遺物＞　古代の土器1072.8ｇ、金属遺物2.4ｇが出土し、うち３点を図化・掲載した。150～152は土師器甕の破片でいずれも埋土からの出土である。151の外面の器面調整にはケズリが施されている。

38号竪穴建物（第65図、写真図版70）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅣＡ４ｓグリッドに位置する。32号竪穴建物の貼床下に暗褐色砂質シルトの落ち込みを検出し、これを掘り下げたところ、壁と平坦な床面を確認した。大部分は調査区外に広がっている。32・34号竪穴建物と重複関係にあり、32号竪穴建物より古く、34号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　残存部分は3.60×0.84ｍで、一部の検出のみで形状は不明である。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦で、褐色砂質シルト混じりの暗褐色シルトで貼床が施されている。
＜遺物＞　出土していない。

39号竪穴建物（第65図、写真図版74）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中央、斜面中段のⅢＡ18ｔグリッド付近に位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、貼床による平坦な床面と炭化物の広がりを確認した。南側は斜面のため崩落している。複数の遺構と重複関係にあり、18号焼成遺構より古く、26・31号竪穴建物、26・31・40～42・94号土坑より新しい。
＜平面形・規模＞　残存部分は3.24ｍ×2.25ｍで、一部の検出のため形状は不明である。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は垂直に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。床面は全面に暗褐色シルト混じりのにぶい黄褐色シルトによる貼床が施されている。貼床の堀方下に31号竪穴建物のカマド燃焼部を確認した。また、床面東側で炭化物の広がりを検出した。炭化物は２～４㎜ほどに縦に細かくなった材である。
＜遺物＞　古代の土器688.0ｇ、羽口14.5ｇ、石器746.1ｇ、鉄滓128.6ｇが出土し、石器１点を図化・掲載した。153は磨石で埋土２層中から出土した。

40号竪穴建物（第66図、写真図版57・58）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中央、斜面中段のⅢＡ18ｓグリッド付近に位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出し、掘り下げたところ、貼床による平坦な床

面を確認した。南東側は斜面のため大部分が崩落している。複数の遺構と重複関係にあり、26・39号竪穴建物より古く、31・42号竪穴建物、94号土坑、45号陥し穴状遺構より新しい。
＜平面形・規模＞　北東－南西壁間は5.26ｍを測り、一部の検出のみであるが、形状は方形基調と推測できる。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は垂直に立ち上がり、床面はほぼ平坦で全面に暗褐色砂質シルト混じりのにぶい黄褐色砂質シルトで貼床が施されている。
＜遺物＞　土師器の破片14.7ｇが出土したが、小片のため図化・掲載はしていない。

41号竪穴建物（第66図、写真図版68）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中央のⅢＡ19ｓグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出し、掘り下げたところ、やや傾斜する平坦な床面とカマドの燃焼面を確認した。南東側は斜面のため崩落し、北西側は42号竪穴建物に壊されており、床面の一部しか残っていなかった。複数の遺構と重複関係にあり、26・39・40・42号竪穴建物と18号焼成遺構より古く、31号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　残存部分は2.13×1.40ｍで、一部の床面の検出のため形状は不明である。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。２層はカマド本体が壊された際の堆積と判断した。
＜壁・床面＞　壁はわずかに残り、外傾して立ち上がっている。床面はやや傾斜するが、平坦に近い。燃焼面の周囲を含めた南東側では暗褐色シルトを主体とする貼床土を検出した。
＜カマド＞　検出した遺構の中心に焼成痕跡を検出した。被熱の状況と上部の堆積状況からカマドの燃焼面と判断した。焼土範囲は径60㎝、焼土の厚さは８㎝を測る。煙道とカマド本体の痕跡を検出しなかったことから、廃棄する際に完全に壊されていると考える。燃焼面の南東側で被熱した長方形の礫を検出しており、袖石の可能性がある。
＜遺物＞　土師器の破片144.7ｇ出土し、うち１点を図化・掲載した。154は土師器甕の口縁部破片で床面から出土した。

42号竪穴建物（第67図、写真図版75）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中央、斜面中段のⅢＡ18ｓグリッド付近に位置する。斜面部分のⅣ層上面と26号竪穴建物の精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出し、掘り下げたところ、平坦な床面と掘方の一部を確認した。南東側は斜面のため崩落しており、北東側は39号竪穴建物に壊されている。複数の遺構と重複関係にあり、26・39・40号竪穴建物と18号焼成遺構より古く、31・41号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　残存部分は4.82×1.80ｍで、一部の検出のみであるが、形状は方形基調と推測できる。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とし、壁近くににぶい黄褐色砂質シルトが堆積する。
＜壁・床面＞　壁は約57°の傾斜で立ち上がり、床面はほぼ平坦である。床面は全体に構築時のままであるが、残存する部分の中央で一部、不整形な貼床を検出した。また、北西壁際に沿って床面に溝を検出した。規模は長さ1.12ｍ、上端幅８～14㎝、深さ８㎝を測る。

＜カマド＞　検出した範囲では確認できなかった。
＜遺物＞　出土していない。

43号竪穴建物（第68図、写真図版76）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＡ17ｒグリッドに位置している。検出面はⅥ層で黒褐色シルトの広がりを検出し、遺構としたものである。斜面下方側の大半を29号竪穴建物、北東側を44号竪穴建物に切られていることから、本遺構は29・30・44号竪穴建物より古い。
＜平面形・規模＞　急斜面側の北西壁の一部が残存するのみで、形状の詳細については判然としないが、現存する壁が直線的であることから方形を呈したものと推定される。壁の残存長は2.54ｍである。検出面から床面までの深さは53㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は中位に暗褐色砂質シルト層を挟む、黒褐色砂質シルトを主体とし、自然堆積の様相を呈している。
＜壁・床面＞　壁は床面から47°の角度で立ち上がっている。床面は木根による攪乱を受けているが、ほぼ平坦で堅くしまっている。壁際を除いて全体に暗褐色シルトを含む黒褐色砂質シルトで最大18㎝の厚さで貼床が施されている。また、北西壁際の南側に長さ96㎝、幅20～26㎝、深さ６㎝の溝状遺構を検出した。埋土は炭化物が少し混じる暗褐色砂質シルトで、底面の断面形は、Ｕ字形を呈している。壁溝の一部とも考えられる。
＜遺物＞　土師器の破片54.4ｇ出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

44号竪穴建物（第68図、写真図版77）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＡ17ｒグリッドに位置し、第Ⅴ層上面で検出した。北西に位置する43号竪穴建物の精査段階で判明したものである。重複関係は斜面下方側の大半を29・30号竪穴建物に切られ、43号竪穴建物の北東側を切っている。本遺構は29・30号竪穴建物より古く、43号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　検出された北西壁等から、形状は方形を呈したものと推定される。北西壁の長さは6.82ｍである。検出面から床面までの深さは72㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は全体に暗褐色砂質シルトを主体とするが、中位に黒褐色砂質シルト層、褐色シルト層が堆積しており、褐色シルト層が硬化していることから別の遺構の貼床である可能性も考えられる。
＜壁・床面＞　壁は内湾気味に約51°の角度で立ち上がる。床面は緩い凹凸があり、貼床は施されていない。
＜カマド＞　カマド本体は検出されていないが、北西壁の西側寄りで煙道（煙出）部の一部と推定される部分を検出した。規模は径44㎝、深さ23㎝で、壁面の一部を掘り込んでおり、底面は21°傾斜している。本遺構に伴うかどうかは定かではない。
＜遺物＞　土師器の破片61.1ｇ出土がしたが、小片のため図化・掲載には至っていない。

45号竪穴建物（第69図、写真図版78）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南側の斜面地にあり、ⅣＡ３～４ｓグリッドに跨がって位置する。斜面に堆積したⅣ層の直下で検出した。他の遺構と重複しており、残存するのは遺構の一部のみである。46・47号竪穴建物と82号土坑との重複関係が認められ、いずれの遺構にも切られている。また、プランの広がりから、32号竪穴建物とも重複関係にあると考えられるが、明確な新旧関係は不明

である。
＜平面形・規模＞　残存するのは斜面上位の西・北壁の一部で南北間の長さは4.24mを測る。形状は残存部分から方形基調と推測できる。
＜堆積土＞　検出面より上位は斜面崩落による黒褐色シルト層で他の大部分は96号土坑に切られている。埋土は明黄褐色シルトを主体としており、黒褐色シルトが少量混じる。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、検出面から床面までの深さは最も残存する北西壁で38㎝を測る。床面は47号竪穴建物をはじめとする他の遺構との重複によりほぼ失われているが、地山であるⅤ層を掘り込んだ後、貼床を施した痕跡がある。また壁面に沿って幅17～47㎝、深さ18～22㎝の溝が床面に巡らされている。
＜遺物＞　古代の土器は1224.0ｇ、羽口23.1ｇ、金属遺物37.0ｇ、鉄滓608.7ｇが出土し、うち４点を図化・掲載した。155・156は土師器甕の口縁部破片、157・158は鉄製品で刀子である。

46号竪穴建物（第70図、写真図版78）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南側の斜面地にあり、ⅣＡ３ｓグリッドに位置する。斜面に堆積したⅣ層直下で検出した。他の遺構と重複しており、残存するのは遺構の一部のみである。45号竪穴建物と96・97号土坑との重複関係が認められ、96・97号土坑より古く、45号竪穴建物より新しい。また、プランの広がりから､32号竪穴建物・82号土坑とも重複し、これらを切っている可能性が高い。
＜平面形・規模＞　検出した規模は3.21×1.12mで形状は残存部分から方形基調と推測できる。検出面から床面までの深さは46㎝を測る。
＜堆積土＞　検出面より上位は斜面崩落による黒褐色シルト層で他は96号土坑に切られている。埋土は黒褐色シルトを主体としており、明黄褐色シルトが少量混じる。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は他の遺構との重複によりほぼ失われているが、地山であるⅥ層を掘り込んで床面としており、硬化面も認められる。このことから、貼床を施さず地山を掘り込んだ面を削りだして床面とした可能性が考えられる。
＜遺物＞　出土していない。

47号竪穴建物（第71図、写真図版78）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南側の斜面地にあり、ⅣＡ３ｓグリッドに位置する。斜面に堆積したⅣ層の直下で検出した。遺構の大半が斜面崩落によって失われ、壁溝のみ残存していた。また、45号竪穴建物と重複し、これを切る。
＜平面形・規模＞　壁溝のみの検出のため、規模・形状は不明である。
＜堆積土＞　残っていない。
＜壁・床面＞　壁は検出していない。壁溝の規模は長さ2.98m、幅42×30㎝、深さ２～６㎝でＬ字状の平面形状を呈する。
＜遺物＞　土師器の破片188.4ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至っていない。

48号竪穴建物（第72図、写真図版79）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南側の斜面地にあり、ⅣＡ２ｑグリッド付近に位置する。斜面下方の南東側は斜面崩落により、消失している。また南側には49号竪穴建物があり、これに切られている。

＜平面形・規模＞　遺構の一部のみであるが、残存部分から形状は方形と推測される。規模は残存する北西－南東壁面間で5.74m、検出面から床面までの深さは42cmを測る。
＜堆積土＞　黒褐色シルトを主体とする堆積である。埋土中位に炭化物がブロックで混入している。
＜壁・床面＞　壁は垂直に立ち上がり、床面は斜面に沿って7°傾斜して下る。貼床は施されていない。
＜焼土＞　２箇所で検出した。焼土１は28×27cmの範囲で焼土の厚さは３cm、焼土２は71×46cm、焼土の厚さは６cmを測る。遺構内から鉄滓が出土していることから鍛冶を行っていた可能性が考えられる。
＜柱穴＞　焼土２に隣接した場所で１個検出した。
＜遺物＞　土師器の破片1551.2ｇ、鉄滓297.2ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。159・160はいずれも土師器甕で159が口縁部、160が底部破片で木葉痕が残る。

49号竪穴建物（第73図、写真図版80）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南側の斜面地にあり、ⅣＡ３ｑグリッドに位置する。斜面下方の南東側は斜面崩落により、消失している。また北側には48号竪穴建物と57号陥し穴状遺構が重複しているが、これらより新しい。調査手法の不手際により、床面段階での検出となったため、堆積状況の記録は行っていない。
＜平面形・規模＞　遺構の一部のみであるが、残存部分から形状は方形と推測され、規模は残存する北西－南東壁面間で3.62m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。
＜堆積土＞　黒褐色シルトを主体とする堆積である。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、床面は平坦で貼床は施されていない。
＜柱穴＞　５個検出した。このうちＰ１・５は竪穴の床・壁面が削平のため確認できなかったが主柱穴の可能性が考えられる。
＜遺物＞　古代の土器938.8ｇ、羽口12.6ｇ、金属遺物6.5ｇ、鉄滓938.7ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。161は土師器甕の口縁部破片、162は鉄鏃で先端を欠く。

50号竪穴建物（第74図、写真図版81）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北東のⅢＢ17ａグリッド付近に位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。北東側の28号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも新しいことを確認したが、調査工程の都合より、28号竪穴建物の調査を先行し、その後に本遺構を掘り下げたところ、貼床による平坦な床面を確認した。南東側は斜面のため大部分が崩落し、南西側は63号土坑・16号焼成遺構により壊されている。重複関係は25号竪穴建物・16号焼成遺構・63号土坑より古く、28号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　残存部分は4.33×1.69ｍで、一部の検出のみであるが、形状は方形基調と推測される。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がり、床面はほぼ平坦で、床面は壁際を除きにぶい黄褐色シルトの貼床が施されている。また、北西壁際の一部に長さ1.23m、幅20～29cm、深さ２～４cmの溝を検出した。
＜柱穴＞　Ｐ1～13を検出した。Ｐ２・４・５・７～９・11～13は貼床埋土の除去後に検出した。Ｐ７は主柱穴の可能性があるが、建物の全形が不明なため判然としない。Ｐ２・４または５・８・９と壁際のＰ１・３・６・10は直線的に並ぶ。Ｐ３は壁溝に伴うもので、平面での検出状況から壁溝の掘削後に掘り込んでいる。

＜遺物＞　古代の土器2658.5ｇ、石器540.0ｇ、羽口26.4ｇ、金属遺物113.8ｇ、鉄滓381.7ｇが出土し、うち９点を図化・掲載した。163～165は土師器甕でいずれも床面から出土した。167～171は鉄製品で167は鉸具、168・169は刀子、171は紡錘車、166は凹石で貼床から出土した。

51号竪穴建物（第75図、写真図版82）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区のやや南側、ⅣＡ２ｓグリッドに位置する。検出したのは壁の一部のみである。24号竪穴建物・50・89・98・100・101号土坑と重複関係にあり、24号竪穴建物より古く、それ以外の遺構より新しい時期に属する。

＜平面形・規模＞　壁面および床面の一部の検出のため形状・規模は不明である。

＜堆積土＞　自然堆積を呈し、埋土は黒褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞　残存する西壁は傾斜して69°の角度で立ち上がる。底面は壁際近くは平坦であるが、途中からは斜面に沿って14°傾斜して下る。床面には貼床が施され、２層に分かれる。上位の床面部分が黄褐色粘土、下位の掘方部分が黒褐色シルトである。

＜遺物＞　古代の土器120.1ｇ、鉄滓27.5ｇが出土し、１点を図化・掲載した。172は土師器甕の口縁部破片である。

52号竪穴建物（第76図、写真図版83）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＡ15ｒ・15ｓグリッドに跨がって位置し、重機進入路脇の法面で確認し、53号竪穴建物の床面下で検出した。また、本遺構の床面下で56号土坑を検出した。重複関係は53号竪穴建物より古く、56号土坑より新しい時期に属する。

＜平面形・規模＞　斜面上方の一部のみの残存であるが、形状は方形状と推測され、規模は残存する北東－南西壁間で5.08m、検出面から床面までの深さは31cmを測る。

＜堆積土＞　埋土は５層に分層され、主体は明黄褐色シルトに暗褐色シルトと灰白色粘土が混入した層で、上位と下位に暗褐色シルト層が堆積しているが、すべて人為堆積である。

＜壁・床面＞　壁は76°の角度で直立気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦であるが、約３°傾斜している。床面の一部に黒色シルト混じりの黄褐色砂質シルトによって貼床が施されている。

＜遺物＞　土師器197.2ｇが出土したが、小片のため図化には至らず、掲載していない。

53号竪穴建物（第77図、写真図版84）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＡ15ｒ・ｓグリッドに跨がって位置し、重機進入路脇の北側法面で検出した。52号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも新しい遺構である。

＜平面形・規模＞　検出したのは遺構の一部であるが、平面形状は方形と推測される。規模は北東－南西壁間6.40m、検出面から床面までの深さは74cmを測る。

＜堆積土＞　埋土は９層に分層され、風化花崗岩混じりの地山崩落土が主体で全て自然堆積である。埋土の上位に暗～黒褐色砂質シルト、中位より下に褐色～にぶい黄褐色砂質シルトが堆積している。

＜壁・床面＞　壁は床面から62°の角度で傾斜して立ち上がり、底面は凹凸があり、貼床は施されていない。

＜焼土＞　床面で焼土を１基検出した。焼土は楕円状で109×67cmの範囲に広がっている。

＜土坑・柱穴＞　南西側の床面から土坑を１基検出した。規模は95×87cm、深さ17cmを測る。また土坑の周辺や遺構外で柱穴状土坑７個を検出したが、本遺構との関連は不明である。

＜遺物＞　古代の土器111.2ｇ、金属遺物50.1ｇ出土し、うち１点を図化・掲載した。173は鉄製品で刀子である。

54号竪穴建物（第77図、写真図版85）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北側の斜面中段、ⅢＡ16ｑグリッドに位置する。79号土坑に隣接するが重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　平面形は開口部が楕円形で、底面は長方形を呈する。規模は北東－南西壁間4.10m、底部径302×172㎝、検出面から床面までの深さは斜面上方の北西壁付近で57㎝を測る。

＜堆積土＞　自然堆積を呈し、６層に分層される。上位は黒褐～暗褐色シルトで中位以下は褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞　壁は底面から82°の角度で内傾して立ちあがり、中段から外傾する。底面は緩い凹凸があり、斜面に沿って５°の傾斜で緩く下る。

＜焼土・炭化物＞　床面で焼土および炭化物の広がりを検出した。炭化物は101×63㎝の範囲に散布し、中心に焼土がある。焼土範囲は79×63㎝、焼土の厚さは４㎝を測る。

＜遺物＞　土師器63.0ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。

55号竪穴建物（第78図、写真図版86）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北西の急斜面、ⅢＡ16ｏ・ｐグリッドに跨って位置している。斜面を削ってつくられた重機進入路脇の山側の露頭でⅥ層（地山）を切っている遺構を見つけたものである。他の遺構との重複関係はない。

＜平面形・規模＞　検出したのは北西－北東壁の一部のため、形状は不明である。検出した規模は7.48×3.0m、崩落土下の現況で確認できる遺構埋土の深さは22㎝であるが、壁面の崩落による堆積状況から壁高は1.16mほどあったと推測できる。

＜堆積土＞　９層に分かれる。堆積状況から遺構の埋土は７・８層で９層は一部貼床の可能性がある。

＜壁・床面＞　壁は大半が崩落により、本来の形が失われている。床面はⅥ層まで掘り込んでつくられており、大半が地山の風化花崗岩層をそのまま踏み固めて床面としているが、南東側の一部は黒褐色砂質シルトを貼って床面にしている。床面は凹凸があるが、傾斜はしていない。

＜柱穴＞　７個検出した。形状はＰ２・７が楕円形、他は円形を呈する。それらの規模は20～44㎝、深さ９～40㎝の範疇である。位置や規模から、壁に沿ったＰ１・４・６が主柱穴の一部を構成したものと考えられる。

＜その他＞　平面図で表したのは一部であるが、炭化材、焼土塊、灰が床面北東側の半分の範囲で検出されたことから焼失した建物跡と考えられる。

＜遺物＞　土師器126.5ｇ、縄文土器12.1ｇ、鉄滓109.4ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

56号竪穴建物（第79図、写真図版87）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北東部、斜面中段のⅢＢ14ｂグリッドに位置し、Ⅵ層で検出した。遺構の東側は調査区外へと続いている。重複関係にある遺構はない。

＜平面形・規模＞　検出された北西～南東壁の一部から形状は方形状を呈していたものと推定される。規模は1.85×0.95m、検出面から床面までの深さは54㎝を測る。

＜堆積土＞　全体に砂質シルトを主体とし、土色は表土から埋土中位までは灰黄褐色、中～下位は黒褐色、壁際の下位はにぶい黄褐色でいずれも砂質シルトである。
＜壁・床面＞　壁は床面から66°の角度で内湾気味に立ち上がる。床面の東半分に貼床を確認した。貼床の掘方は深さ13㎝で下位に暗褐色砂質シルト、上位ににぶい黄褐色砂質シルトを充填し、踏み固めて床面としている。床面は凹凸があるが、全体的に平坦である。
＜カマド＞　検出した範囲でカマドは見つかっていないが、床面北側に長さ20㎝と25㎝の礫を検出した。カマドの構成礫の可能性もあるが、調査範囲内では判断がつかなかった。
＜遺物＞　土師器23.6ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。他に鉄滓867.1ｇが出土している。

57号竪穴建物（第79図、写真図版88）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北端部、急斜面地のⅢＡ10ｓグリッドに位置し、Ⅵ層（地山面）で検出した。斜面下方の遺構東側は斜面の崩落により消失している。58号竪穴建物と重複し、これより新しい。
＜平面形・規模＞　遺構の一部のみの検出であるが形状は楕円～方形状を呈する。検出した規模は3.24×1.88m、検出面から床面までの深さは64㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は上位に黒褐色砂質シルト、中～下位に浅黄～黄褐色の風化花崗岩粒を主体とした層が堆積する。
＜壁・床面＞　壁は80°の角度で外傾して立ち上がる。床面は細かい凹凸があり、約11°の角度で傾斜し、斜面下方側に下る。貼床は施されていない。
＜遺物＞　古代の土器1591.3ｇ、金属遺物7.6ｇが出土し、２点を図化・掲載した。174は土師器甕の口縁部破片で床面から出土した。175は鉄鏃で先端部を欠く。

58号竪穴建物（第79図、写真図版88）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北端部、急緩斜面のⅢＡ９～10ｓグリッド付近に位置し、Ⅵ層で検出した。遺構の東側は斜面の崩落により消失している。57号竪穴建物と重複し、これより古い。
＜平面形・規模＞　遺構の一部のみの検出であるが、平面形は方形基調と推定される。検出した遺構の規模は3.18×1.59m、検出面から床面までの深さは46㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は灰黄褐色砂とにぶい黄～黄橙色砂の互層で、中～下層にかけてわずかに炭化物が混入する。
＜壁・床面＞　壁は71°の角度で外傾して立ち上がる。床面には細かい凹凸があり、約４°の角度で傾斜し、斜面下方側に下るが全体的に平坦である。貼床は施されていない。
＜遺物＞　出土していない。

59号竪穴建物（第80図、写真図版89・90）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、尾根頂部の平場のⅢＡ２ｊグリッド付近に位置し、Ⅳ層で検出した。当初、北側壁面にある９号焼成遺構を本遺構のカマドと推測し調査を進めたが、断面観察段階において別遺構であることが判明した。重複関係は本遺構の方が新しい。
＜平面形・規模＞　平面形は方形で、規模は東－西壁間3.47m、北－南壁間3.19m、検出面から床面までの深さは25㎝前後である。

＜堆積土＞　埋土はにぶい黄橙色シルトを主体とし、一部に植物根の影響で暗褐色シルトが混じる。
＜壁・床面＞　壁は54°の角度で外傾して立ち上がる。床面は水平であるが凹凸があり、全体に５～23㎝の厚さで貼床が施されている。貼床土にはにぶい黄橙色シルトと明黄褐色シルトの混合土が使用されている。
＜焼土・炭化物＞　床面中央に2.70×1.52ｍの範囲に明赤褐色焼土粒が広がり、その範囲内に炭化物を検出した。炭化物層は最大で１㎝ほどの厚さで遺物などは出土していない。
＜土坑＞　２基検出した。土坑１は南東壁隅にあり、規模は1.14×0.88ｍ、深さ32㎝、土坑２は西壁中央付近に隣接し、規模は1.28×0.58ｍ、深さは45㎝である。
＜遺物＞　土師器270.4ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

60号竪穴建物（第81図、写真図版91・92）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区のⅡＡ20ｍグリッド付近に位置し、尾根の東側斜面のⅣ層で検出した。重複関係にある遺構はないが、位置的な要素から45号土坑と重複している可能性がある。
＜平面形・規模＞　遺構の一部のみの検出であるが平面形は方形基調で、規模は北－南壁間5.89ｍ、検出面から床面までの深さは35㎝前後である。
＜堆積土＞　埋土は上～中位は黒褐色シルト、下位は褐色シルトを主体とし、壁際ににぶい黄橙色シルトによる壁面崩落土が堆積している。
＜壁・床面＞　壁は39°の角度で外傾して立ち上がる。床面は凹凸はなく、約７°の角度で傾斜し、斜面下方側に下る。貼床は施されていない。また、西壁際の床面に長さ2.90ｍ、幅10～22㎝、深さ５～15㎝の溝を検出した。
＜焼土＞　西壁中央付近の床面に明赤褐色焼土の広がりを検出した。焼土範囲は69×40㎝、焼土の厚さは３㎝である。また周辺にカマドに関連する痕跡は見つかっていない。
＜土坑＞　３基検出した。いずれも壁の際近くに構築され、底面は平坦である。土坑２と土坑３は重複しており、土坑３が新しい。
＜遺物＞　土師器833.3ｇ、石器1461.6ｇ、鉄滓224.7ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。176は土坑３から出土した砥石である。

61号竪穴建物（第82図、写真図版93）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区北側の山頂尾根部から東側の斜面でⅢ層を掘り下げている際に検出した。ⅡＡ14ｑグリッド付近に位置する。斜面下方側が削平のため失われている。55号陥し穴状遺構、90・91号土坑と重複し、これらより新しい。
＜平面形・規模＞　形状は方形で規模は南西－北東壁間5.75ｍ、北西壁から南東側の床面先端まで4.61ｍ、検出面から床面までの深さは斜面上位の北西壁側で54㎝を測る。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、埋土の主体は黒褐～暗褐色シルトで、壁際に崩落と考えられるにぶい黄橙色シルトが堆積している。全体的に風化花崗岩粒の混入が多い。
＜壁・床面＞　壁は北東壁側で床面から84°の角度でほぼ垂直に立ち上がる。床面には凹凸があり、約８°の角度で傾斜し、斜面下方側に下る。風化花崗岩混じりの地山面を床面とし、貼床は施されていない。また、斜面上位側の北西壁と北東壁の一部に沿って床面に溝が巡らされている。規模は長さ4.88ｍ、幅11～19㎝、深さ３㎝を測る。
＜焼土＞　焼土は床面中央よりやや北西壁側に約75×42㎝の範囲で広がる。焼土の周囲は土坑状に窪

み、炭化物が多く堆積している。
＜柱穴＞　北東壁の両隅で２個検出した。規模はＰ１が開口部径60㎝、深さ14㎝、Ｐ２が開口部径62×52㎝、深さ25㎝を測る。
＜遺物＞　古代の土器7.4ｇ、弥生土器16.3ｇ、金属遺物25.9ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。177・178は弥生時代後期の深鉢の口縁部破片である。周辺からの混入物と考えられる。

62号竪穴建物（第83図、写真図版94）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区の山頂尾根南端、東側斜面のⅣ層で検出した。ⅢＡ９ｎグリッドに位置する。遺構の大半が63号竪穴建物との重複および斜面崩落による土砂の流出により失われていた。壁面の立ち上がりと床面の状況から竪穴建物と判断した。遺構南側が63号竪穴建物と重複し、これに切られる。
＜平面形・規模＞　残存箇所が壁面の一部であるため全体の形状および規模は不明である。検出面から床面までの深さは65㎝を測る。
＜堆積土＞　確認していない。
＜壁・床面＞　西側壁面のみ残存し、外傾して立ち上がる。床面はやや傾斜し、貼床は施されていない。
＜遺物＞　出土していない。

63号竪穴建物（第83・84図、写真図版94・95）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区の山頂尾根南端、東側斜面のⅣ層で検出した。ⅢＡ９ｎグリッド付近に位置する。斜面下方の南東側は斜面崩落による土砂の流出により失われていた。69号土坑、62号竪穴建物と重複し、これを切る。また、位置関係から60号土坑と重複関係にあると考えられるが、新旧関係は不明である。
＜平面形・規模＞　残存箇所から形状は方形基調と推測されるが、判然としない。規模は北東－南西壁間7.25ｍ、検出面から床面までの深さは76㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土の上位は灰白色砂質シルト、浅黄橙色砂など地山である風化花崗岩の再堆積層で、中～下位は褐灰色砂質シルトと灰黄色シルトが互層となっている。
＜壁・床面＞　北西側壁面は床面から76°の角度で傾斜して立ち上がり、壁上部は崩落のため、やや傾斜が緩くなる。床面は凹凸があり、斜面下方に向かって５°の角度で傾斜して下る。貼床は施されていない。
＜土坑＞　２基検出した。土坑１は焼土の南側、土坑２は壁付近と推測される。土坑２は窪み状で斜面下方側の壁面が削平されている。
＜柱穴＞　南西壁側の床面で２個検出した。
＜遺物＞　古代の土器は土師器496.5ｇ、金属遺物10.4ｇが出土した。うち３点を図化・掲載した。179・180はいずれも土師器甕の体部下半～底部の破片である。器面調整は内外面ナデが施され、底部には木葉痕が残る。181は鉄製品の刀子で先端を欠く。

64号竪穴建物（第85図、写真図版96）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区北東端の山上の狭い平場のⅡＢ16ｂグリッドに位置する。表土除去後、Ⅳ層でにぶい黄褐色シルトの竪穴状のプランの広がりを検出し、精査の結果、北側と西側に壁面の立ち上がりを確認した。遺構の中央部分に地割れと考えられる溝状の亀裂痕を検出した。遺構

の南側は造成の影響により削平を受けている。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　検出した遺構の規模は約5.94×2.64m、検出面から床面までの深さは46cmを測る。形状は残存箇所から類推して方形基調と考えられる。
＜堆積土＞　埋土の多くはにぶい黄褐色砂質シルトと暗褐色シルト主体の層で、全体的に風化花崗岩粒の混入が多い。下層には炭化物が混じる層がある。木根による撹乱が顕著であるが、自然堆積と考えられる。
＜壁・床面＞　壁は北側壁面で64°の角度で内湾気味に立ち上がる。木根による攪乱を除外しても床面は凸凹で、貼床は確認されなかった。
＜遺物＞　古代の土器117.0ｇ、羽口525.4ｇ、金属遺物74.7ｇ、鉄滓405.5ｇが出土し、うち４点を図化・掲載した。182は土製品で羽口、183・184は鉄製品で183が釘、184は鋤か鍬の一部である。185は銭貨で北宋銭、銭銘は『元豊通寶』である。

65号竪穴建物（第86図、写真図版97）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区北東端のⅡＢ８ｄグリッドに位置し、表土除去後、Ⅲ層を掘り下げている際に検出した。斜面に沿って東西方向に１本のトレンチを設置した結果、斜面上位側の西壁と北壁の一部に立ち上がりの壁と床面の一部を検出した。37・66号竪穴建物と重複関係にあり、これらより古い時期の遺構である。
＜平面形・規模＞　形状は方形基調と推測され、規模は不明である。
＜堆積土＞　斜面上位の壁面側には褐色シルトを主体とする層が堆積している。
＜壁・床面＞　北壁は床面から51°の角度で外傾して立ち上がる。埋土の状況などから、崩落後の形状と考えられる。床面は他遺構との切り合いにより大半が消失するが、残存部分はおよそ平坦で、風化花崗岩混じりの地山を掘り込んだ後、平らに削りだしたものであり、貼床は施されていない。
＜遺物＞　古代の土器は土師器41.0ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。他に鉄滓405.5ｇが出土した（66号竪穴建物から出土したものも含む）。

66号竪穴建物（第86図、写真図版97）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区北東端で急斜面から緩斜面に変わる場所で、ⅡＢ９ｄグリッドに位置する。表土除去後のⅢ層を掘り下げる際に斜面に沿って東西方向に２本のトレンチを設置した結果、斜面上方側で壁および床面の一部を検出した。斜面下方側は削平および調査区外へと延びている。37・65号竪穴建物と重複し、これらを切る。
＜平面形・規模＞　形状は方形基調と推測される。規模は残存する壁面の長さで約5.64×2.25mを測る。
＜堆積土＞　斜面上位の壁面側に暗褐色シルトを主体とする層が堆積している。
＜壁・床面＞　北西壁は75°の角度で外傾して立ち上がる。床面には緩い凹凸があり、斜面下方に向かって約６°の角度で傾斜して下る。風化花崗岩から成る地山を掘り込んだ後、平らに削りだしたもので貼床は施されていない。また、壁面に沿って幅10～25cm、深さ５～８cmほどの溝が一部に掘られている。
＜柱穴＞　北壁近くの床面で径34×33cm、深さ46cmの柱穴を検出した。
＜遺物＞　鉄滓405.5ｇが出土した（65号竪穴建物から出土したものも含む）。

67号竪穴建物（第87図、写真図版98）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区北東端の尾根筋から東側に下る急斜面上、ⅡＢ８ｂグリッドに位置する。重機で層厚20～30cm の表土を除去後、検出作業をした結果、Ⅳ層中に黒褐色のプランを検出した。当初、単一の遺構として精査に着手したが、床面で周溝が切り合う状況が検出され、２つの遺構の切り合いであることが判明し、本遺構を67号竪穴建物とし、これを切る遺構を68号竪穴建物とした。

＜平面形・規模＞　形状は68号竪穴建物に切られているため全体像はつかめないが、これと軸を同一にする方形基調と類推される。規模は検出した壁面の長さで1.92×1.26mである。

＜堆積土＞　床面検出段階で本遺構を認識したため、土層断面観察のベルトは設定しておらず、不明である。

＜壁・床面＞　壁は床面から68°の角度で外傾して立ち上がる。床面は風化花崗岩から成る地山を掘り込んだ後、平らに削りだしたもので、特に固く締まる面はない。また、幅25～43㎝、深さ15㎝の溝が壁に沿って巡らされている。

＜遺物＞　出土していない。

68号竪穴建物（第87図、写真図版98）

＜位置・検出状況・重複関係＞　調査区北東端の尾根筋から東側に下る急斜面上、ⅡＢ９ｂグリッドに位置する。重機で層厚20～30cm の表土除去後、検出を行った結果、Ⅳ層中に黒褐色シルトのプランを検出したが、斜面下位の南東側にプランはつながらず、残存箇所は半分以下である。67号竪穴建物と重複するが、本遺構の壁際の床面を巡る溝が67号竪穴建物の同溝を切っているため本遺構の方が新しいと判断した。

＜平面形・規模＞　形状は方形基調と類推される。遺構の一部のみの残存状況であったため、全体の規模は不明であるが、壁際の床面にある溝から南－北間の長さは約3.42mほどで、検出面から床面までの深さは55cm を測る。

＜堆積土＞　下位は地山崩落土と思われる黄褐色シルトがブロック状に混じり、中位から上位にかけて褐色に変化する。埋土の堆積状況から自然堆積と思われる。

＜壁・床面＞　北西壁面は75°の角度で外傾して立ち上がる。床面は風化花崗岩から成る地山を掘り込んだ後、削りだしたもので、一部固く締まる面もあるが貼床は観察されなかった。やや南寄りの壁に近い箇所に３箇所の楕円形の凹みが観察された。また炭化物と極小の焼土ブロックが散乱する面が近いことからカマドの構成礫痕の可能性もあるが、壁から斜面上位にかけて煙道や煙出は検出されなかった。また、幅17～30㎝、深さ15cm 前後の溝が南西および北西壁隅にＬ字状に巡らされている。

＜焼土＞　床面中央よりやや南側に径33×22㎝の範囲で焼土の広がりを確認した。カマドの燃焼部の焼成痕の可能性がある。

＜遺物＞　埋土から鉄滓278.8ｇが出土したが小片のため図化・掲載は行っていない。

69号竪穴建物（第88図、写真図版99）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南側のＶＢ８ｂグリッド付近に位置し、旧沢跡の上面で検出した。重複する遺構はない。遺構の南東側の壁面は旧沢跡によって削平されている。

＜平面形・規模＞　形状は残存部分から長方形と推定される。全体の規模は南東側壁面が削平されているため、不明であるが、北東－南西壁間2.76m、北西壁から南東側の床面先端までは2.97m、検出

面から床面までの深さは最大で17㎝を測る。建物の方位はＮ－41°－Ｗである。
＜堆積土＞　埋土は黄褐色シルトを微量含む黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は床面から59°の角度で外傾して立ち上がる。床面は平坦に近いが約３°の傾斜で斜面下方側に下る。また、床面全体に暗褐色シルトにより貼床が施されている。
＜柱穴＞　壁面隅および壁際において柱穴を４個検出した。柱間距離はＰ１－2.43m－Ｐ２－2.54m－Ｐ３－2.30m－Ｐ４－2.33m－Ｐ１で規模は径18～32㎝、検出面からの深さ23～38㎝を測る。
＜遺物＞　古代の土器132.3ｇ、縄文土器36.6ｇ、金属遺物7.7ｇ、鉄滓368.4ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。186は鉄製品で釣針、187は剥片石器で削器、周辺からの混入物と考えられる。
＜時期＞　遺構の特徴などから判断して中世の建物跡と考えられる。

70号竪穴建物（第89図、写真図版100・101）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南側のＶＢ８ａグリッド付近に位置し、旧沢跡の上面で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　平面形状は長方形を呈する。全体の規模は北西－南東壁間4.42m、北東－南西壁間2.83m、検出面から床面までの深さは最大で20㎝を測る。建物の方位はＮ－42°－Ｗである。
＜堆積土＞　埋土は明黄褐色シルトを微量含む黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・床面＞　壁は床面から62°の角度で外傾して立ち上がる。床面は平坦に近いが約２°の傾斜で斜面下方側に下る。また、床面に貼床は施されていない。
＜柱穴＞　床面全体で10個の柱穴を検出した。規模は径13～34㎝、検出面からの深さ23～38㎝を測る。
＜遺物＞　土師器31.8ｇ、縄文土器4.7ｇ、金属遺物25.0ｇ、鉄滓54.9ｇが出土し、うち床面から出土した銭貨８点（188～195）を掲載した。いずれも北宋銭で銭銘は188は『祥符元寶』、189は『熙寧元寶』、190・191は『元豊通寶』、192・193は『元祐通寶』、194は『聖宋元寶』、195は『政和通寶』である。
＜時期＞　遺構の特徴などから判断して中世の建物跡と考えられる。

71号竪穴建物（第90図、写真図版102）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側のⅣＡ17～18ｑグリッドに跨がって位置する。本遺構に先行して行った１号排滓場の調査時に斜面上方側に竪穴状のプランの一部と１号排滓場下部から土坑１基を検出したものである。１号排滓場、３号畝間状遺構と重複し、これらよりも古い。
＜平面形・規模＞　残存するのは遺構の一部であるが、平面形は方形基調と推定される。規模は南西－北東壁間6.81m、深さは最も残りの良い北西側壁面で58cm を測る。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、やや砂質の黒色シルトを主体とするが、壁際は壁崩落により、明黄褐色シルトと黒～黒褐色シルトが混合した層が占める。
＜壁・床面＞　壁は外傾し、約74°の傾斜で立ち上がる。底面は平坦で貼床は施されていない。
＜土坑＞　床面で土坑１基を検出した。歪んだ楕円状の形状を呈し、規模は3.70×2.32m、深さは68㎝を測る。埋土の一部に鉄滓が大量に含まれる。
＜遺物＞　埋土から羽口16.3ｇ、金属遺物2.8ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。196は銭貨で、銭銘は錆で不鮮明だが『聖宋元寶』と判読できる。他に土坑１の埋土上位から羽口・鉄滓のほか、土師器破片も多く出土したが、重複する１号排滓場の堆積物と判断した。
＜時期＞　土坑１の埋土から採取した炭化物から放射線年代測定を試み、15世紀代との結果を得たが、採取した炭化物は埋土上位の鉄滓堆積層内からのものであり、分析結果が一致することなどから

重複関係にある１号排滓場に伴う掘り込み（土坑）内のものと考えられる。また、１号排滓場から古代の土器が出土していることから本遺構は古代に属する可能性も考えられる。

72号竪穴建物（第91図、写真図版103）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南側のＶＡ６ｔグリッド付近に位置する。斜面下方側の遺構の南東側が削平されている。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　残存するのは遺構の一部であるが、平面形は方形基調である。規模は南西－北東壁間3.86m、北西壁－南東側の床面範囲まで2.32m、検出面から床面までの深さは８㎝と浅い。

＜堆積土＞　自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦で中央付近が土坑状に窪んでいるが、これ以外の場所に貼床は施されていない。

＜床面施設＞　床面に土坑状のプラン１基を検出した。形状は楕円状で、規模は3.21×1.46m、深さは７㎝を測る。底面に凹凸があることから、貼床の可能性も考えられる。

＜焼土・炭化物＞　床面中央より西側で焼土２基と炭化物範囲を１箇所検出した。焼土１は70×59㎝の範囲で焼土の厚さは７㎝、焼土２は67×50㎝の範囲で焼土の厚さは５㎝を測る。焼土１の北側に炭化物を多く含む黒色シルトが広がるが、範囲の周縁に還元痕跡もみられることから鍛冶関連の遺構と考えられる。

＜遺物＞　古代の土器307.8ｇ、弥生土器9.0ｇ、鉄滓41.4ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

73号竪穴建物（第92図、写真図版104）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西端の緩斜面地、ＶＡ10ｏ～ｐグリッドに跨がって位置し、Ⅵ層で検出した。重複する遺構はない。遺構の南東側は削平を受けて消失している。

＜平面形・規模＞　遺構の残存部分から平面形は方形と推定される。規模は、残存する北東－南西壁間で2.75m、検出面から床面までの深さは13㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルト主体の単層である。

＜壁・床面＞　壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。床面に貼床はなく、カマド・壁溝・柱穴等の付随する施設は確認できなかった。

＜遺物＞　出土していない。

74号竪穴建物（第92図、写真図版105）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区北東端、ⅢＡ11ｔグリッドに位置し、重機によって掘削・造成された道の法面で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　平面形は方形状で、規模は残存する南西－北東壁の開口部間で2.92m、北西壁の開口部から南東床面の残存部端まで0.76m、検出面から床面までの深さは84cm を測る。

＜堆積土＞　自然堆積を呈し、６層に分層する。地山の風化花崗岩粒と黒～暗褐色シルトが交互に堆積している。

＜壁・床面＞　壁の上部は崩落しているが、床面から約69°の角度で外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦で、貼床は施されていない。

＜遺物＞　出土していない。

75号竪穴建物（第93図、写真図版106）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区の北西部、ⅢＡ17ｏ・17ｐグリッドに跨がって位置する。重機道の斜面下方側の法面において土層観察により検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　平面形・規模は残存箇所が少ないため不明である。

＜堆積土＞　堆積土は上位が現代の盛土、中位以下が本遺構の埋土で、炭化物を顕著に含む黒褐色シルトを主体とした人為堆積層である。

＜壁・床面＞　壁は64°の角度で外傾して立ち上がる。床面は緩い凹凸があるが平坦に近く、斜面下方側に約４°傾斜して下る。床面に貼床は施されていない。

＜土坑・柱穴＞　西壁際床面で炭化物を多く含む土坑を１基、他柱穴状土坑３個を検出した。土坑は竪穴建物の壁を切って掘削されている。規模は開口部径53×47㎝で底面に焼成痕跡があり、炭化物を多く含む。カマドの燃焼部～煙道部の一部の可能性もあるが残存状況が悪いため判然としない。

＜遺物＞　埋土から金属遺物1.4ｇ、鉄滓96.4ｇが出土し、１点を図化・掲載した。197は鉄製品で釣針である。

（２）鍛 冶 工 房 跡

Ａ区北東で１箇所検出した。斜面上方側に長方形状の竪穴状のプランが広がり、そのプランの北西側の壁面に沿って構築された鍛冶炉や柱穴を伴う竪穴建物、他プラン内で検出した焼土を含めて工房跡と考えた。

１号鍛冶工房跡（第94・95図、写真図版107・108）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北東端のⅣＢ15～16ｂグリッドに跨がって位置する。南西から北西方向に10ｍほどある長方形の竪穴状プランの広がりを確認した。調査の過程でプランの北端にはさらに4.2×3.8（残存値）ｍの方形状の竪穴状遺構が掘り込まれ、北西～北東壁際に壁溝が巡らされていること、その中心からやや北西に炉跡１基、南西に柱穴状土坑２個があることが分かった。４号土坑と重複関係にあり、これより古い。

＜平面形・規模＞　残存するのは10.4×3.60ｍの範囲で、斜面下方となる遺構南側は削平されている。

＜堆積土＞　自然堆積で主に黒色～暗褐色シルトを主体とし、下層に明黄褐色シルトが多く含まれる。

＜壁・底面＞　壁は緩く傾斜して立ち上がり、底面は平坦であるが、やや傾斜している。

＜付属遺構＞　竪穴状遺構内に鍛冶炉１基、焼土１基、柱穴状土坑３個である。

竪穴状遺構

北端に位置する。形状は方形状で規模は4.2×3.8ｍ、遺構の南端が削平のため消失している。北西～北東壁際に幅11～17㎝、深さ２～４㎝の溝が巡らされている。また、その中心からやや北西に鍛冶炉１基、南西に柱穴状土坑２個を確認した。

鍛冶炉跡

工房内の竪穴状遺構内で検出した。全体は不整な楕円状の形状で長軸は1.50ｍ、短軸は1.0ｍを測る。中央の炭化物を多く含む範囲は径1.0×0.82ｍ、深さ15㎝である。炉の外側の東西には明赤褐色の焼土化した壁面の一部が残っている。中央窪みの炭化した土壌を篩いにかけたところ、鍛造剥片11.3ｇ、粒状滓0.6ｇが出土した。他に鉄塊系遺物・炉内滓も出土している。

柱穴状土坑

３個検出した。Ｐ１は焼土の西側に位置し、４号土坑と重複し、これに切られる。規模は開口部径約36cm、深さ25cmを測る。Ｐ２・３は竪穴状遺構内に位置し、規模はＰ２が開口部径28×25cm、深さ48cm、Ｐ３が開口部径27×26cm、深さ12cmを測る。

焼土　中央付近で検出した。63×43cmの不整な楕円状の範囲に焼土を確認した。焼土の厚さは最大で６cmを測る。

＜遺物＞　古代の土器592.1ｇ、縄文・弥生土器24.7ｇ、羽口544.6ｇ、金属遺物79.2ｇ、鉄滓4017.1ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。198はＰ３底面から出土した羽口、199は竪穴状遺構内の鍛冶炉から出土した鉄製品で器種は不明である。他に鍛冶炉内外の土壌を採取し、篩により選別を行ったところ鍛造剥片11.29ｇ、粒状滓0.56ｇを抽出した。

＜時期＞　出土した遺物から平安時代と推測されるが、詳細は不明である。

（３）排　滓　場

１号排滓場（第96図、写真図版109）

＜位置・検出状況・重複関係＞　ⅣＡ18ｑ・ｒグリッドに跨がって位置する。多量の鉄滓・羽口・炉壁（融着滓）が広範囲に見つかり、この鉄滓が密集して出土した範囲を排滓場とした。この遺構を見つけたことにより、当初の調査区を北西側に拡張することとなった。また、鉄滓は後世の造成工事の影響で排滓場として図化した範囲よりもより広い範囲から出土している。71号竪穴建物、３号畝間状遺構と重複し、これらよりも新しい。

＜平面形・規模＞　本遺構は東西方向にやや長く5.34m、南北方向4.20mの範囲に鉄滓の広がりを確認したもので、平均15～25cmの厚さで堆積している。また、これよりも古い竪穴建物に付随する土坑の埋土上位にも大量の鉄滓が混入していることから、竪穴建物内土坑がすべて埋没していない状況でこれを廃棄に利用したものと考えられる。

＜遺物＞　古代の土器1314.5ｇ、縄文・弥生土器48.0ｇ、羽口約73kg、金属遺物101.9ｇ、鉄滓約320kg出土した。図化・掲載したのは鉄製品２点（200・201）、羽口６点（204～209）・石器１点（202）、陶器１点（203）である。200・201は筒状に折れ曲がった形状を呈する。202は石鏃、羽口は不掲載としたののも含めて口径15cm前後の破片が多く、最大で18.6cmを測る。

＜時期＞　遺構内土坑の埋土から採取した炭化物から放射性炭素年代測定を試み、15世紀代との結果を得た。従って中世に属するものであるという見解に留めたい。また本遺構を形成する元となった炉は今回の調査範囲では見つかっていない。

（４）鍛　冶　炉

１号鍛冶炉（第97図、写真図版110）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端、ＶＢ５ａグリッドに位置している。Ⅱ層で検出した。炉跡と考えられるプランの東側で鍛造剥片の広がりを検出したため、工房跡を想定し、遺構の広がりを確認したが、他に関連する遺構は見つからなかった。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞　遺構の外縁にある焼土が歪な楕円状に広がる。全体の規模は長径0.88m、短径0.47mである。

＜壁・床面と堆積状況＞　焼土の中央部分には黒～黒褐色シルト層が堆積している。これを掘り下げたところ、遺構の北側と中央付近の２箇所にピット状の窪みを検出した。中央付近の窪みの壁～底面

からは鉄滓が多量に出土した。その周辺の壁は被熱により灰色化し、特に南側の壁で顕著である。壁はいずれも内湾気味に緩く立ち上がり、被熱により赤色化しており、壁から離れるほど赤→橙色に変色している。焼成面の下位には黒色シルトを主体とする層が２～６㎝の厚さで堆積している。
＜遺物＞　遺構内から土師器3.3ｇ、鉄滓298.3ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。また炉内外の土壌を採取し、篩による選別を行ったところ鍛造剥片180.71ｇ、粒状滓4.32ｇを抽出した。
＜時期＞　出土遺物と検出状況から平安時代と推測されるが、詳細は不明である。

（５）焼　土　遺　構

焼成痕跡があり、掘り込みを持たないものを焼土遺構とした。全体で12基検出した。

１号焼土（第98図、写真図版121・122）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西の緩斜面、ＶＡ６ｏグリッドに位置し、表土下のⅥ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　焼土を中心として黒褐色シルトの広がりが南北1.73ｍ、東西0.85ｍの範囲に広がっている。
＜堆積土＞　焼成面の上位にはにぶい黄褐色シルトを主体とする層が堆積している。
＜焼成痕＞　遺構南側の60×53㎝の範囲に厚さ10㎝ほど赤褐色焼土が形成されている。
＜遺物＞　焼土内から金属遺物7.1ｇが出土し、１点を図化・掲載した。210は鉄製品で筒状・管状の形状を呈する。用途は不明である。
＜時期＞　出土遺物から平安時代以降と考えられる

２号焼土（第98図、写真図版122）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端のＶＢ９ｃグリッドに位置し、旧沢跡の検出面である黒色シルト層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整で規模は東西1.54×南北1.68ｍの範囲に広がる。
＜焼土＞　現地性焼土で全体に明赤褐色を呈するが、植物根跡には黒褐色シルトが混じる。断面形状は浅い皿状で、木根の影響を受ける部分以外、底面は平らに近い。焼土の厚さは７㎝前後を測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　旧沢跡よりも新しいことから中世以降の時期に属すると考えられる。

３号焼土（第99図、写真図版122）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端のＶＢ10ｂグリッドに位置し、旧沢跡の検出面である黒色シルト層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整で規模は長軸方向54㎝、短軸方向31㎝の範囲に広がる。
＜焼土＞　平面の広がりに対し、実際に検出した焼土はブロック状の塊を主体としており、２次的に堆積したものと考えられる。焼土の厚さは４㎝前後を測る。
＜遺物＞　古代の土器9.5ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　旧沢跡よりも新しいことから中世以降の時期に属すると考えられる。

４号焼土（第99図、写真図版122）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端のＶＢ10ｂグリッドに位置し、旧沢跡の検出面である黒色シルト層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　検出時の形状は楕円形を呈し、焼土は46×42㎝の範囲に広がる。
＜焼土＞　平面の広がりに対し、焼土はブロック状に出土することから２次的に堆積したものと考えられる。焼土の厚さは最大で５㎝前後を測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　旧沢跡よりも新しいことから中世以降の時期に属すると考えられる。

５号焼土（第99図、写真図版123）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端のＶＢ８ａグリッドに位置している。Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整形で規模は長軸56㎝、短軸48㎝である。
＜焼土＞　現地性焼土で全体に明褐色を呈するが、植物根の影響を受ける箇所には黒褐色シルトが混じる。断面形状は浅い皿状で、焼土の底面は平らである。焼土の厚さは11㎝を測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　遺構の検出面から平安時代以降と考えられる。

６号焼土（第99図、写真図版123）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南端のＶＢ９ｂグリッドに位置し、旧沢跡の検出面である黒色シルト層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整で規模は東西0.88ｍ、南北0.47ｍの範囲に広がる。
＜焼土＞　検出時に２箇所で円形の焼土範囲を確認したが、調査の結果、それぞれ大きめの焼土ブロックが２次的に堆積しているのを確認した。焼土の厚さは７㎝前後を測る。
＜遺物＞　古代の土器13.3ｇ、縄文土器10.8ｇ、鉄滓264.6ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　旧沢跡よりも新しいことから中世以降の時期に属すると考えられる。

７号焼土（第99図、写真図版123）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側の緩斜面、ⅣＢ18ａグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で規模は長軸52㎝、短軸45㎝である。
＜焼土＞　現地性焼土で全体に明赤褐色を呈し、焼土上面の中心には炭化物混じりの黒褐色シルトが堆積する。焼土の厚さは６㎝を測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　遺構の検出面から平安時代以降と考えられる。

８号焼土（第100図、写真図版123）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西のＶＡ７ｐグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。13号竪穴建物と重複し、これよりも新しい。

＜平面形・規模＞　形状は不整な楕円状を呈し、規模は長軸52cm、短軸38cmである。
＜焼土＞　現地性焼土で全体に赤褐色を呈する。植物根の影響を受ける箇所には黒褐色シルトが混じる。焼土の底面は平坦で、厚さは７cmを測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　13号竪穴建物との重複関係から平安時代以降と考えられる。

９号焼土（第100図、写真図版124）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央付近のＶＢ１ａグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。28号陥し穴状遺構と重複し、これを切る。
＜平面形・規模＞　形状は楕円状で規模は長軸52cm、短軸36cmである。
＜焼土＞　焼土は明褐色で、黒褐色シルトと混じる。焼土の底面は凸凹で、２次的な堆積と考えられる。焼土の厚さは３cmを測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　遺構の検出面から平安時代以降と考えられる。

10号焼土（第100図、写真図版124）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央よりやや東側のＶＢ３ｂグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整形で規模は長軸55cm、短軸39cmである。
＜焼土＞　現地性焼土で全体に明赤褐色を呈するが、上位ほど植物根の影響を受け、黒褐色シルトが混じる。また、焼土の底面は凸凹で、厚さは９cmを測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　遺構の検出面から平安時代以降と考えられる。

11号焼土（第100図、写真図版124）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西端のＶＡ８ｏグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整形で規模は長軸76cm、短軸60cmである。
＜焼土＞　現地性焼土で全体に明赤褐色を呈するが、上位はにぶい橙色をしている。植物根の影響を受け、黒褐色シルトが一部に混じる。また、焼土の底面は平坦に近く、厚さは７cmを測る。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　遺構の検出面から平安時代以降と考えられる。

12号焼土（第100図、写真図版124）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西端のＶＡ７ｐグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。13号竪穴建物と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は不整形で規模は長軸82cm、短軸42cmである。
＜焼土＞　現地性焼土で全体に赤褐色を呈する。上位ほど植物根の影響を受け、黒褐色シルトが混じる。また、焼土の底面は凸凹で、焼土の厚さは７cmを測る。
＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　13号竪穴建物との重複関係から平安時代以降と考えられる。

（6）焼　成　遺　構

焼成痕跡があり、且つ土坑状の掘り込みのある遺構を焼成遺構とした。全体で19基検出した。調査区の内訳はＡ区７基、Ｂ区６基、Ｃ区１基、Ｄ区５基である。

１号焼成遺構（第101図、写真図版111）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ１～２ｑグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。25・48・49号陥し穴状遺構・８号竪穴建物と重複し、これらより新しい。
＜平面形・規模＞　全体の規模は長さ2.62ｍ、幅1.26～1.62ｍで、形状は不整な円形の形状を呈し、斜面下方側の1.65×1.62㎝の範囲がやや深く掘り込まれており、底面に炭化物層を確認した。また、斜面上方の遺構北西側の底面に還元痕跡を確認した。軸方向はＮ－61°－Ｗを向く。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、主体は炭化物粒を多く含む黒～黒褐色シルトで、中層に明黄褐色シルト粒が微量混入している。
＜壁・底面＞　壁は全体に緩く傾斜して立ち上がり、底面は斜面と平行して傾斜し、炭化物層の検出面が平らとなる。炭化物は110×92㎝の範囲に広がっている。
＜遺物＞　遺構内から土師器25.0ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　遺構内から採取した炭化物から放射性炭素年代測定を試み、11～12世紀との結果を得た。従って平安時代後半に属すると考えられる。

２号焼成遺構（第101図、写真図版111）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ２ｑグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。８号竪穴建物と接するが重複関係は不明である。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径1.01×0.98ｍを測る。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、炭化物粒を含む黒色シルトを主体とする。下層に炭化物層が厚さ１～２㎝で堆積している。
＜壁・底面＞　壁は全体に緩く傾斜して立ち上がり、底面は平坦で炭化物層は窪んでいる。炭化物層は２箇所に分かれ、50×42㎝、39×22㎝の範囲で確認した。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、不明であるが、隣接する１号焼成遺構の検出状況と類似することから、これの年代に近い11～12世紀の可能性が考えられる。

３号焼成遺構（第102図、写真図版112）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央よりやや北側のⅣＡ20ｒグリッドに位置し、Ⅱ層を掘り下げている際に炭化物・焼土が多く含まれている楕円形の黒褐色シルトの広がりを確認した。当初、検出段階ではわからなかったが、調査段階で焼成面３箇所のうち斜面下方側の焼成痕と他の２箇所に新旧関係が存在するのを確認した。斜面下方の低位面にある方が古い時期の遺構で、その他２箇所の焼成痕跡間に明確な新旧関係は認められなかった。27号陥し穴状遺構と重複しこれより新しい。

古段階
＜平面形・規模＞　形状は楕円状を呈し、規模は約1.96×1.83mである。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、上～中位は炭化物・焼土粒を多く含む黒褐色シルトを主体とする。下位は地山面に焼成による炭化物層および焼土層が堆積し、焼土層の上面は還元により白色化している。
＜壁・底面＞　斜面上方の北西壁面は約50°の傾斜であるのに対し、斜面下方側の南東壁面は約12°と緩い傾きを呈する。底面は中央部が窪んだ浅鉢状を呈し、130×117cmの範囲に焼成痕跡を検出した。
新段階
＜平面形・規模＞　形状は楕円状を呈すが、斜面下方の遺構南東側の壁面が削平のため消失している可能性がある。検出した規模は約2.05×1.36mである。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、埋土は全体に炭化物を含む黒褐色シルトを主体とし、下位に地山面が焼成した焼土層がある。
＜壁・底面＞　斜面上方側の北西壁面は約37°の角度で外傾している。斜面下方側は削平のために壁面の立ち上がりは確認できない。底面は焼成痕のある斜面上方側が平坦で、焼成範囲が88×66cmの範囲に広がっている。焼成痕の南東である斜面下方側は一段低くなっているが、壁や底面に炭化物・焼土が確認できる。
＜遺物＞　埋土から古代の土器45.8ｇ、金属遺物2.2ｇ、鉄滓192.5ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物がないため、不明であるが、隣接する１号焼成遺構の検出状況と類似することから、これの年代に近い11～12世紀の可能性が考えられる。

４号焼成遺構（第103図、写真図版113）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ６ｑグリッドに位置する。検出面はⅥ層で炭化物と炭化した黒褐色シルトの広がりを確認した。位置的に20号竪穴建物と重複関係にあるが、調査時に新旧関係は確認していない。
＜平面形・規模＞　形状は不整で、規模は約91×56cmで、底面全体に焼成痕跡が広がっている。
＜堆積土＞　上～中位は炭化物を多く含む黒褐色シルトで、下位は地山土の明黄褐色シルト粒を含むにぶい黄褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は緩く外傾して立ち上がる。断面形は中央部が窪んだ浅鉢状を呈する。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　遺物が出土していないため、詳細は不明であるが検出状況から平安時代の遺構と考えられる。

５号焼成遺構（第103図、写真図版113）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央のＶＡ１ｒグリッドに位置し、Ⅴ層で検出した。遺構の南西側は、本遺構検出前に設定したトレンチにより削平・消失している。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は歪みはあるが、円形を基調としている。規模は直径約1.12mである。
＜堆積土＞　黒色シルトの単層で層下部に厚さ５～10㎜ほどの炭化物層が筋状に堆積し、一部は白色に還元している。
＜壁・底面＞　壁は緩く外傾して立ち上がり、断面形は中央部が窪んだ浅鉢状を呈する。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、不明であるが、隣接する１号焼成遺構の検出状況と類似することか

ら、これの年代に近い11～12世紀の可能性が考えられる。

６号焼成遺構（第103図、写真図版113）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央よりやや北側のⅣＡ20ｓグリッドに位置する。７号竪穴建物の調査時に壁面上部で検出したため、遺構の一部は消失している。検出面はⅡ層で７号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　遺構の半分のみの検出であるが、形状は円形を基調としている。規模は残存部で直径約0.8mで底面に焼成痕跡が広がっている。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、上・下層に黒褐色シルト層、中間に炭化物と橙色焼土が多量混入する層によって構成される。
＜壁・底面＞　壁は緩く外傾して立ち上がり、断面形は中央部が窪んだ浅鉢状を呈する。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　７号竪穴建物との重複関係から平安時代以降であり、１号焼成遺構の検出状況と類似することから、11～12世紀の可能性が考えられる。

７号焼成遺構（第103図、写真図版114）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の北側、ⅣＡ17ｑグリッドに位置し、表土下のⅥ層で焼土・炭化物の広がりを検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は1.27×1.14mの範囲に焼成痕跡が残る。
＜堆積土＞　残存する断面部分は炉跡の地下構造部分にあたる可能性が考えられ、層の中央に白色焼土・炭化物を多く含む黒色シルト、両端に焼土が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は全体に緩く傾斜して立ち上がり、底面は平坦で炭化物層は窪んでいる。
＜遺物＞　古代の土器319.3ｇ、羽口30.7ｇ、鉄滓254.7ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　底面から採取した炭化物から放射性炭素年代測定を試み、13世紀代との結果を得ている。

８号焼成遺構（第104～106図、写真図版115・116）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区の斜面東側、ⅢＢ17ａ・18ａグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトと黒褐色シルト、暗赤褐色焼土のリング状の広がりを検出した。製鉄関連の遺構の可能性が考えられたことから、トレンチを設定して掘り下げたところ、上位に２面、下位に１面の焼成面を検出した。下位の焼成面は深さ40cmの地点で検出した。重複している遺構はない。

焼成面１（新段階 上面）
＜平面形・規模＞　形状は不整形で焼成面は36×33cmの範囲に広がる。
＜堆積土＞　ボウル状の窪みに細い炭化材を層状に敷き詰め（４層）、その上に粘土質シルトを敷き詰め燃焼面（３層）を構築することを２度（１・２層まで）繰り返している。検出面が平坦なことと３層の中心がボウル状に窪んでいることから、上部に構造物があったと仮定した場合に、これを壊した後、別の場所に廃棄したと推測される。

焼成面２（古段階 下面）
＜平面形・規模＞　円形の土坑状を呈し、規模は開口部径1.51×1.38m、焼成面は深さ40cm、掘方の底面までの深さ64cmを測る。
＜堆積土＞　ほぼ垂直な壁とほぼ平坦な底面を持つ円柱状の土坑を掘った後に、風化花崗岩粒を中心が窪むように埋め（砂質シルト：11層）、その上に厚さ６cm程度に炭化物（縦に細かくなった炭化材）を層状に敷き詰め（10層）、その上には粘土質シルト（粘質土）を敷き詰め燃焼面を構築している（８・９層）。上部に構造物があったと仮定した場合、10・11層の壁際が平坦なことと８・９層が中心に向かってボウル状に窪んでいること、土坑の周囲の壁面が被熱していないことから、壊した後に別の場所に廃棄したと推測され、その後に埋戻し（砂質シルト：５・６層）、その上部に小型のやや不整な円形のボウル状の窪みを作り、再度焼成面を構築している（新段階）。７層は燃焼面の上に炭化物混じりの土が溝状に堆積していたもので、Ｃ字状の溝が二条重複しているように観察できた。９層は燃焼面のうち、色調から外周の還元部分と考えられる。
＜遺物＞　古代の土器280.1ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。また、遺構内の土壌を採取し、篩による選別を行ったところ１cm以下の樹皮の他、アワをはじめとする炭化した種子（約８ｇ）を抽出した。
＜遺構の性格＞　当初は鍛冶関連の炉である可能性が高いと考えたが、整理段階で持ち帰った土壌を水洗し、篩にかけたところ、取り上げた遺物の中に鍛造剥片などの鍛冶関連遺物が見つからなかったことや、アワをはじめとする種子と幅５㎜程度で薄い木（樹皮）の破片が大量に出土したことから、鍛冶関連の炉とは性格が異なる屋外炉の可能性も考えられるため遺構名称は焼成遺構にとどめた。
＜時期＞　検出状況と周辺の遺構から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

９号焼成遺構（第107図、写真図版117）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂部平場内のⅢＡ２ｊグリッドに位置し、Ⅲ層中で検出した。当初は重複する59号竪穴建物のカマドと想定して調査を進めたが、調査の過程で土坑状の底面に焼成痕跡があることと、59号竪穴建物にカマドが構築されていないことから、別遺構と判明した。59号竪穴建物との重複関係は本遺構の方が古い。
＜平面形・規模＞　形状は不整で、規模は南北方向の開口部径0.89m、東西方向0.60～0.91ｍで検出面から底面までの深さは約19cmを測る。
＜堆積土＞　上位はにぶい黄橙～にぶい黄褐色シルトを主体とする。中位に焼成による炭化物主体の黒褐色シルトと明赤褐色焼土、下位には地山に類似する明黄褐色シルトが堆積する。
＜壁・底面＞　壁はいずれも外傾して立ち上がるが、傾きは一定ではない。底面は木根による撹乱もあり凸凹である。
＜焼成面＞　88×67cmの範囲に明赤褐色焼土と炭化物が広がる。焼土の厚さは９cmで炭化物は焼土層の上面に堆積している。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　59号竪穴建物と重複関係にあることから平安時代の遺構と考えられる。

10号焼成遺構（第107図、写真図版118）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南端の斜面部、ⅣＡ４ｐグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。

斜面下方の遺構東側の一部が斜面崩落により、失われている。22号竪穴建物の煙道部と重複し、これを切る。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は南北方向で開口部径1.63m、検出面から底面までの深さは約43cmを測る。
＜堆積土＞　黒褐色シルトが主体であるが、明赤褐色焼土粒混じりの層が黒～黒褐色シルト層と交互に近い形で堆積している。
＜壁・底面＞　壁は48～65°の角度で外傾して立ち上がり、底面は平坦で炭化物層を形成している。白色粘土・炭化物の焼成痕跡が92×82cmの範囲に広がり、約３cmの厚さで堆積している
＜遺物＞　土師器46.2ｇ、金属遺物2.5ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　重複する22号竪穴建物が放射性炭素年代測定により、９世紀後半～10世紀前半代との結果を得ていることから、これよりも新しい時期に属する。

11号焼成遺構（第108図、写真図版118）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区のⅡＢ12ｄグリッドに位置する。東向き急斜面下位で緩斜面に変わる地点である。表土除去後、Ⅲ層において円形の黒褐色プランを検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部1.44×1.22m、検出面からの深さは29cmを測る。
＜堆積土＞　下層の焼成痕跡以外は黒色シルトが大半で、最下層に極暗赤褐色焼土（５層）、その周縁に還元した灰黄褐色シルト層（４層）が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は外傾～垂直気味に立ち上がり、底面は中央が窪む形状を呈し、炭化物層を形成している。
＜焼成面＞　底面に焼成痕跡は厚さ約１～３cmで、灰黄褐色（還元色）シルト・極暗赤褐色焼土が71×52cmの範囲に広がる。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

12号焼成遺構（第108図、写真図版119）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区のⅡＢ13ｃグリッドに位置する。東向き急斜面の中段である。表土除去後、Ⅲ層中に風化花崗岩粒混じりのプランを検出したが、当初は風倒木痕と考えた。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　一部のみの検出であるが、平面形は円形を呈すると推測され、規模は開口部径104cm、検出面から底面までの深さ27cmを測る。
＜堆積土＞　下層の焼成痕跡以外はにぶい黄褐～褐色の砂質シルトで、最下層にぶい赤褐色焼土（４層）、その周縁に黒色シルト層（３層）が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は75°の角度で外傾して立ち上がり、底面は平坦で赤褐色焼土による焼成面を形成している。
＜焼成面＞　底面の焼成痕跡の赤褐色焼土の厚さは約２cmで、37×12cmの範囲に広がる。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

13号焼成遺構（第108図、写真図版119）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区のⅡＢ12ｃグリッドに位置する。東向き急斜面の中段である。表土除去後、Ⅱ層面で幅15cmほどのトレンチを入れたところ、約20cmほどの深さで焼成痕跡を確認し

た。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円状で規模は開口部径99×91cm、検出面から底面までの深さ36cmを測る。
＜堆積土＞　下層の焼成痕跡以外は黒～黒褐色シルトを主体とする堆積である。
＜壁・底面＞　壁は50°の角度で外傾して立ち上がり、底面は凹凸があるが、水平に近い傾斜である。
＜焼成面＞　底面の南東側に58×36cmの範囲に広がり、焼成痕跡の炭化物の他、灰黄褐色シルト（還元色）・橙色焼土が混じる。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

14号焼成遺構（第108図、写真図版119）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の緩斜面、ⅣＡ20ｒグリッドに位置し、表土除去後にⅥ層で検出した。重複する遺構はないが遺構の南東側の一部が円形の撹乱に切られていた。
＜平面形・規模＞　形状は不整で、規模は開口部の長軸102cm、短軸93cmを測る。底面で炭化物・焼土層を検出した。
＜堆積土＞　埋土は黒色シルトの単層を主体とする。検出面から底面までは６cmと浅い。底面の一部に炭化物層・焼土層が厚さ２～３cm堆積している。
＜壁・底面＞　壁は全体に緩く傾斜して立ち上がり、底面は中央がやや窪んで波打つが水平に近い。
＜焼成面＞　底面北西側92×50cmの範囲に焼土混じりの炭化物が広がっている。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　１号焼成遺構の検出状況との類似性から11～12世紀の可能性が考えられる。

15号焼成遺構（第109図、写真図版120）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区のⅡＡ17ｔグリッドに位置する。南向き急斜面の中位に位置し、表土除去後、風化花崗岩粒混じりの斜面で褐色シルトの広がりを検出した。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で規模は開口部径107×77cm、検出面から底面までの深さは12cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は３層で最下層の底面南側に赤褐色焼土があり、これを覆うように壁面下まで炭化した黒色シルト層が筋状に堆積する。これより上位は褐色砂質シルト層である。
＜壁・底面＞　壁は全体に緩く傾斜して立ち上がり、底面は小さな凸凹はあるが、傾斜は水平に近い。
＜焼成面＞　底面の赤褐色焼土は不整な形状で約44×33cmの範囲に広がっている。焼土の厚さは２cmと均一に堆積し、これを覆う炭化物層は１～５cmほどの厚さである。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

16号焼成遺構（第109図、写真図版120）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区の斜面中段、ⅢＡ17ｔグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。複数の遺構と重複関係にあり、63号土坑より古く、25・28・50号竪穴建物、64号土坑より新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径2.68×1.43m、検出面から底面までの深さは41cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は人為堆積で、灰黄褐色砂質シルトを主体とする。長軸の東側の底面から白色粘土塊と炭化物が分布する範囲を検出した。炭化物は２～４㎜程度に縦に細かくなった材である。

＜壁・底面＞　壁は67°の角度で外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜焼成面＞　北東側の底面に炭化物が約87×52㎝の範囲を中心に広がっている。焼土はない。
＜遺物＞　古代の土器90.8ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。底面から白色の粘土塊が出土した。粘土塊はやや扁平な人頭大のものである。
＜時期＞　出土遺物と検出状況から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａテフラ以前）である。

17号焼成遺構（第109図、写真図版120）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＢ15・16ａグリッドに跨がって位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁際を巡る焼土層（４層）を検出した。製鉄関連の遺構の可能性があることから周囲の焼土層を残したまま、さらに掘り下げたところ、ほぼ平坦な底面と炭化物・焼土の部分的な広がりを検出した。斜面下方側の遺構東側は削平されている。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で残存部分の規模は103×93㎝、検出面から底面までの深さは12㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土１～３層は自然堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。中位の壁際には周囲を巡る焼土層（４層）、底面に炭化物層がある。
＜壁・底面＞　壁は底面から43°の角度で内湾気味に立ち上がり、底面は若干傾斜するがほぼ平坦である。
＜焼成面＞　底面～壁面にかけてにぶい赤褐色焼土が部分的に広がっており、その上に炭化物が狭い範囲に広がる。炭化物は縦に細い炭化材である。
＜遺物＞　古代の土器53.5g が出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　検出状況と周辺の類似する焼成遺構から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

18号焼成遺構（第110図、写真図版121）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ19ｓグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁際を巡る焼土層（３層）を検出した。周囲の焼土層を残したままさらに掘り下げたところ、ほぼ平坦な底面と中央に炭化物と焼土ブロック混じり土の広がりを検出した。炭化物と焼土ブロック混じり土を除去すると、浅い皿状に落ち込んでいた。26号竪穴建物と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形で開口部径134㎝×121㎝である。検出面から底面までの深さは33㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土の１～２層は人為堆積（埋戻し）で、暗褐色砂質シルトを主体とする。土坑の中位は炭化物と焼土ブロックが混じる層で炭化物は２～10㎜ほどの縦に細かくなった炭化材である。中位の壁際には周囲を巡る焼土層（４層）があり、底面中央は浅い皿状に窪み、炭化物と焼土ブロックが混じる。
＜壁・底面＞　壁は78°の角度で垂直気味に立ち上がり、底面は中央が浅い皿状に窪み周囲は平坦である。
＜焼成面＞　底面～壁面にかけてにぶい赤褐色焼土が部分的に広がっており、その上に炭化物が104×86㎝の範囲に広がる。炭化物は縦に細い炭化材である。

＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　検出状況と周辺の類似する焼成遺構から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

19号焼成遺構（第109図、写真図版121）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区山頂尾根の東側斜面、ⅡＢ10ｄグリッドに位置する。表土除去後に褐～暗色シルト層（Ⅲ層）で検出した。土坑としてのプランは不明確であったが炭化物に広がる面を掘り下げたところ不定形の広がりを確認できた。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　平面形は不整形である。規模は180×132㎝で検出面からの深さは28㎝前後である。炭化物の他に褐色シルト面に焼成の未熟な箇所が２箇所あった。
＜堆積土＞　埋土上～中位は褐色シルト主体で、下位に炭化した黒褐色シルト層が広がっている。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面は植物根の影響もあり凸凹である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

（７）土　　坑

調査区全体で102基検出した。調査区別の内訳はＡ区26基、Ｂ区42基、Ｃ区30基、Ｄ区４基である。出土遺物や周辺の遺構から大半が古代のものと考えられるが、混入している破片の多くが小片のみのため、断定できないものがほとんどである。なお、縄文・弥生土器が出土している土坑も９基あるが、いずれも古代の土器を伴って出土している。

１号土坑（第111図、写真図版125）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北東部の緩斜面、ⅣＢ17ｂグリッドに位置している。検出面はⅥ層で、重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪んだ円形を呈する。規模は開口部径130×121㎝、底部径85×81㎝、検出面から底面までの深さは47㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で３層の黒褐色シルト層に分かれる。上～中位がより黒色に近い色調で、小礫の含有も多い。
＜壁・底面＞　断面形状はボウル状ないし、Ｕ字状を呈し、中央が最も深い。壁面は急角度で立ち上がる。埋土の下位～底面から長さ12～34㎝の礫が数点出土した。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

２号土坑（第111図、写真図版125）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北東部の緩斜面、ⅣＢ17ｂグリッドに位置している。検出面はⅥ層で、重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪んだ円形を呈する。規模は開口部径88×81㎝、底部径60×58㎝、検出面から底面までの深さは29㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で黒褐色シルトを主体とする。全体に小礫（風化花崗岩粒）を含む。
＜壁・底面＞　壁は72°の角度で外傾して立ち上がり、底面はおおよそ平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

３号土坑（第111図、写真図版125）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南側の緩斜面、ＶＢ６ｂグリッドに位置している。検出面はⅥ層で、重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪んだ円～楕円形を呈する。規模は開口部径160×140㎝、底部径128×108㎝、検出面から底面までの深さは28㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は２層に分かれ、上位の中央部に赤褐色焼土、他は黒褐色シルトを主体とする。焼土は二次堆積によるものと考えられる。
＜壁・底面＞　壁は外傾～垂直に近い角度で立ち上がり、底面は平坦であるが、地山の礫による凸凹がある。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

４号土坑（第111図、写真図版125）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側の緩斜面、ⅣＢ16ａ・ｂグリッドに跨がって位置し、Ⅵ層で検出した。１号鍛冶工房跡と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪んだ円～楕円形を呈する。規模は開口部径203×190㎝、底部径187×165㎝、検出面から底面までの深さは58㎝を測る。
＜堆積土＞　５層に分かれる。全体に黒褐～暗褐色シルトを主体とする。層全体に黄褐色シルトブロックが斑状に混入しているため、人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　古代の土器411.2ｇ、縄文・弥生土器12.4ｇ、鉄滓165.8ｇが出土しているが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物と重複関係にある遺構から平安時代以降と推測されるが詳細は不明である。

５号土坑（第112図、写真図版126）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面、ＶＡ３ｏ・４ｏグリッドに跨がって位置し、Ⅵ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径170×150㎝、底部径157×156㎝で底面は東側が開口部より広がっている。検出面から底面までの深さは113㎝を測る。
＜堆積土＞　５層に分かれる。全体に黒褐～暗褐色シルトを主体とする。層全体に黄褐色シルトが斑状に混入しており、人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は底面から垂直～内傾して立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　古代の土器136.8ｇが出土しているが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代の可能性が考えられる。

６号土坑（第112図、写真図版126）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面、ＶＡ４ｏグリッドに位置する。調査に先立って行われた県教育委員会による試掘調査のトレンチ跡を掘り返したところ、明黄褐色シルトを含む黒褐色のプランをⅥ層で検出した。これを半裁し、土坑であることを確認した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径125×118㎝、底部径111×104㎝で底面は東側を除き、開口部より広がっている。検出面から底面までの深さは45㎝を測る。

＜堆積土＞　７層に分かれる。全体に黒褐～暗褐色シルトを主体とする。層全体に明黄褐色シルトが混入しており、人為堆積と考えられる。また、遺構の南側は撹乱を受けている。
＜壁・底面＞　壁は底面から垂直に立ち上がり、底面は撹乱の影響を受けた箇所以外は平坦である。南壁の一部は撹乱により壁面が広がっている可能性がある。
＜遺物＞　古代の土器69.9ｇ、鉄滓24.8ｇが出土しているが小片のため図化・掲載には至らなかった。＜時期＞　出土遺物から平安時代の可能性が考えられる。

７号土坑（第112図、写真図版126）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面、ＶＡ３ｏグリッドに位置し、Ⅵ層で検出した。重複する遺構はない。遺構の開口部西側が撹乱を受けている。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径149×126㎝、底部径94×69㎝、検出面から底面までの深さは77㎝を測る。
＜堆積土＞　４層に分かれる。上位は黄褐色シルトを含む黒褐色シルト、中～下位は褐～黄褐色シルトを主体とする。堆積状況から人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は底面から垂直に近い角度で立ち上がり、底面は中央部分がやや窪んだ形状である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

８号土坑（第113図、写真図版126）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面、ＶＡ４ｎ・５ｎグリッドに跨がって位置し、Ⅵ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　開口部形状は楕円形、底部形状は長方形を呈している。規模は開口部径150×127㎝、底部径95×70㎝、検出面から底面までの深さは76㎝を測る。
＜堆積土＞　自然堆積で５層に分かれる。上位は黒～黒褐色シルト、中位は暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。にぶい黄褐色シルトが中～下位に多く含まれる。
＜壁・底面＞　壁は底面から76°の角度で立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

９号土坑（第113図、写真図版127）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面、ＶＡ４ｎグリッドに位置し、Ⅵ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径114×98㎝、底部径86×71㎝、検出面から底面までの深さは40㎝を測る。
＜堆積土＞　自然堆積で４層に分かれる。上位は黒色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。中層南側に壁面崩落土の褐色シルトが堆積している。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

10号土坑（第113図、写真図版127）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南側の緩斜面、ⅣＡ４ｐ・５ｐグリッドに跨がって位置し、Ⅵ層で検出した。22号竪穴建物と重複し、これよりも新しい。

＜平面形・規模＞　開口部形状は楕円形で広く、底部が狭い擂り鉢状の形状を呈する。規模は開口部径184×152cm、底部径70×70cm、検出面から底面までの深さは117cmを測る。
＜堆積土＞　12層に分かれる。全体に黒褐色シルトを主体とし、22号竪穴建物のカマドに由来する焼土粒が層中に混入している。
＜壁・底面＞　底面は平坦ではなく中央が窪んだ形状で壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞　古代の土器716.4ｇ、鉄滓16.7ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代の可能性が考えられる。

11号土坑（第114図、写真図版127）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南端の緩斜面、ⅣＡ６ｑ・７ｑグリッドに跨がって位置し、Ⅱ層で検出した。19号竪穴建物と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径176×162cm、底部径113×105cm、検出面から底面までの深さは125cmを測る。
＜堆積土＞　自然堆積で８層に分かれる。上位に斜面崩落による暗褐色シルト層が堆積し、その下は壁崩落による黄褐色シルトを含む黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　底面は平坦で、壁は約73°の角度で外傾して立ち上がる。
＜遺物＞　古代の土器1317.0ｇ、縄文・弥生土器7.2ｇ、鉄滓16.4ｇが出土し、うち４点を図化・掲載した。211・212は土師器甕の破片で211が口縁部、212が体部下半～底部の破片で、器面調整はいずれも内外面ナデが施されている。213はロクロ使用の須恵器の壺で口縁と底部を欠く。器面調整は外面の体部下半にナデ・ケズリが縦方向に施されている。214は石器の凹石で埋土から出土した。
＜時期＞　出土遺物と重複関係から９世紀後半～末葉頃と考えられる。

12号土坑（第115図、写真図版127）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南端の緩斜面、ⅣＡ６ｐグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。19号竪穴建物と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は開口部は楕円形、底部は円形を呈し、規模は開口部径127×104cm、底部径85×70cm、検出面から底面までの深さは８cmを測る。
＜堆積土＞　黒褐色シルトの単層で焼土粒が微量含まれている。
＜壁・底面＞　底面は平坦で、壁面側は緩い立ち上がりとなっている。
＜遺物＞　古代の土器368.9ｇ、羽口16.3ｇ、鉄滓3.8ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物と重複関係から９世紀後半～末葉頃と考えられる。

13号土坑（第115図、写真図版128）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面、ⅤＡ６ｐグリッドに位置する。Ⅵ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は隅丸方形状を呈し、規模は開口部径123×71cm、底部径101×53cm、検出面から底面までの深さは18cmを測る。
＜堆積土＞　黄褐色シルト混じりの黒褐色シルトの単層である。
＜壁・底面＞　壁面は底面から76°の角度で外傾して立ち上がる。斜面上方側の壁面上部は崩落して

いる。底面は平坦である。
＜遺物＞　古代の土器353.0ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。215は土師器甕の口縁部破片で器面調整は内外面ナデが施されている。
＜時期＞　出土遺物から９世紀後半～末葉頃と考えられるが詳細は不明である。

14号土坑（第115図、写真図版128）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央よりやや南側の緩斜面のＶＡ４ｒ・５ｒグリッドに位置する。表土下のＶ層で検出した。９号陥し穴状遺構と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径136×121㎝、底部径133×119㎝、検出面から底面までの深さは42㎝を測る。
＜堆積土＞　２層に分かれる。上位が黒色シルト、中～下位は黒褐色シルトで全体に明黄褐色シルト粒が斑状に混じる。堆積状況から人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がり、底面は緩い凸凹があるが平坦に近い。
＜遺物＞　古代の土器96.0ｇ、縄文土器35.9ｇ、鉄滓193.5ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から９世紀後半～末葉頃と考えられるが詳細は不明である。

15号土坑（第115図、写真図版128）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の南西側の緩斜面、ＶＡ６ｏ・６ｐグリッドに跨がって位置する。表土下のⅡ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径200×189㎝、底部径166×164㎝、検出面から底面までの深さは56㎝を測る。
＜堆積土＞　５層に分かれるが、全体に黒～黒褐色シルトを主体とし、黄褐～明黄褐色シルトが混じる。堆積状況から人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　古代の土器50.2ｇ、金属遺物1.9ｇ、鉄滓396.3ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から９世紀後半～末葉頃と考えられるが詳細は不明である。

16号土坑（第116図、写真図版128）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の南西側の緩斜面、ＶＡ７ｏグリッドに位置する。表土下のⅡ層で検出した。20号土坑、21号陥し穴状遺構と重複し、これらよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径157×143㎝、底部径146×137㎝、検出面から底面までの深さは39㎝を測る。
＜堆積土＞　３層に分かれ、上位に黒褐色シルト、中～下位に暗褐色シルトを主体としている。底面には壁崩落による黄褐色シルトが堆積している。堆積状況から自然堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

17号土坑（第116図、写真図版129）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の南西側の緩斜面、ＶＡ５ｎグリッドに位置する。表土下のⅥ層で検出した。22号土坑と重複し、これよりも古い。
＜平面形・規模＞　不整な形状で、規模は開口部径165×159cm、底部径150×149cm、検出面から底面までの深さは38cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は２層に分かれ、全体に黒色シルトを主体とし、明黄褐色シルト粒を含むが、２層により多く含まれている。堆積状況から人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

18号土坑（第116図、写真図版129）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の北側の緩斜面地、ⅣＢ17ａ・17ｂグリッドに跨がって位置する。表土下のＶ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径149×133cm、底部径140×125cm、検出面から底面までの深さは65cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は３層に分かれ、上位は黒～黒褐色シルト、中～下位は暗褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は約80°の垂直に近い角度で立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

19号土坑（第116図、写真図版129）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の南西側の斜面地、ＶＡ４ｏグリッドに位置する。遺構上面は検出時、撹乱を受けていた。３号竪穴建物と重複し、これより古い。
＜平面形・規模＞　形状は歪んだ円形で、規模は開口部径145×143cm、底部径140×130cm、検出面から底面までの深さは47cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は２層に分かれ、上位は黒色シルト、中～下位は明黄褐色シルトを主体とする。堆積状況から人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は内傾して立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

20号土坑（第117図、写真図版129）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の南西側の斜面地、ＶＡ７ｏグリッドに位置する。表土下Ⅱ層で検出し、遺構南東側は重複する16号土坑により失われていた。16号土坑・21号陥し穴状遺と重複関係にあり、16号土坑より古く、21号陥し穴状遺構より新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径182×170cm、底部径163×160cm、検出面から底面（使用時）までの深さは49cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は６層に分かれ、堆積状況から人為堆積と考えられる。大半は黒色シルトを主体とするが、下位の褐～黄褐色シルト層（５・６層）は底面にこれよりも古い21号陥し穴状遺構の埋土である黒褐色シルトが露出していることから、構築時にこれを塞ぐために埋め戻した土と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は内傾して立ち上がる。構築時の掘り込み面は凸凹があり、使用時の底面は平坦であると考えられる。

＜遺物＞　古代の土器50.2ｇ、縄文土器9.8ｇ、鉄滓74.8ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から９世紀後半～末葉頃と考えられるが詳細は不明である。

21号土坑（第117図、写真図版130）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側のⅣＡ16ｑ・ｒグリッドに跨がって位置する。遺構の上部は撹乱を受けて削平されている。本遺構を含め、周辺の撹乱埋土から鉄滓・羽口などの製鉄関連遺物が出土している。重複している遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径323×248㎝で、底部径220×160㎝、深さは最深で29㎝を測る。
＜壁・底面＞　上面が撹乱により削平されているため壁の残存状況は悪く、西壁は垂直で、それ以外は緩く外傾して立ち上がる。底面は凸凹で斜面と平行して傾斜している。
＜堆積土＞　人為堆積で、地山の明黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土である。
＜遺物＞　古代の土器4.2ｇ、石器1400.9ｇ、羽口2175.8ｇ、鉄滓62309.9ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。216は石器で器種・用途は不明で、鉢の底部のような形状を呈している。217は羽口で口径21.4㎝を測り、今回の調査で出土した羽口では最も口径値が大きい。
＜時期＞　遺構内から採取した炭化物から放射性炭素年代測定を試み、15世紀代との結果を得た。従って中世に属すると考えられる。
＜遺構の性格＞　遺構上面および周辺が撹乱・削平を受けているため、単独の土坑としたが、周辺からは焼成痕跡や羽口破片が出土していることから、他の鍛冶関連遺構に付随する遺構である可能性も考えられる。

22号土坑（第118図、写真図版130）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の南西側の緩斜面、ＶＡ５ｎグリッドに位置する。表土下のⅥ層で検出した。17号土坑と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径135×122㎝、底部径119×95㎝、検出面から底面までの深さは20㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は３層に分かれ、全体に黒色を主体とし、明黄褐色シルト粒を含むが、３層により多く含まれている。堆積状況から人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　底面は中央が平坦ではなく中央部が窪むため、壁は内湾気味の立ち上がりを呈する。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

23号土坑（第118図、写真図版130）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の北西側の緩斜面、ⅣＡ18ｏグリッドに位置する。表土下のⅥ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径159×151㎝、底部径137×127、検出面から底面までの深さは111㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、10層に分かれる。全体に黒褐～暗褐色シルトを主体とし、層中に明黄褐色シルトを含む。３・８層は黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土層である。
＜壁・底面＞　断面形状はビーカー状を呈し、壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面は平坦である。

＜遺物＞　古代の土器375.2ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられるが詳細は不明である。

24号土坑（第118図、写真図版130）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区の北西側の緩斜面、ⅣＡ18ｐグリッドに位置する。表土下のⅥ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円～楕円形で、規模は開口部径139×129㎝、底部径127×116、検出面から底面までの深さは93㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、９層に分かれる。黒褐～暗褐色シルト層が主体で、底面と南西壁の中位に明黄褐色シルト層が堆積している。
＜壁・底面＞　断面形はビーカー状を呈し、壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

25号土坑（第119図、写真図版131）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南西側の斜面地、ⅣＡ２ｐグリッドに位置する。表土下のⅡ層下で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径120×107㎝、底部径101×99㎝、検出面から底面までの深さは26㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は４層に分かれる。上位は黒色シルト、中～下位は黒褐色シルトを主体とし、２・３層には明赤褐色焼土が混入しているが、壁・底面に焼成痕跡がないことから外部からの混入と考えられる。
＜壁・底面＞　堆積状況から斜面上方側の壁は崩落時の堆積と考えられる。底面は平坦である。
＜遺物＞　古代の土器21.1ｇ、鉄滓39.5ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられるが詳細は不明である。

26号土坑（第119図、写真図版131）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西端の緩斜面地、ＶＡ９ｏグリッドに位置する。表土下のⅡ層下で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径195×180㎝、底部径169×154㎝、検出面から底面までの深さは53㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は５層に分かれる。全体に黒～黒褐色シルトを主体とし、黄褐～にぶい黄褐色シルトを多く含む。堆積状況から自然堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　開口部付近の壁上部は崩落のため広がっているが、壁は底面から垂直に立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

27号土坑（第119図、写真図版131）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南西側の斜面地、ⅣＡ１ｑグリッドに位置する。斜面崩落層下のⅣ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円状で、規模は開口部径158×141㎝、底部径131×128㎝、検出面から底

面までの深さは82cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は７層に分かれる。全体に黒褐色シルトを主体とし、黒褐～暗褐色砂質シルトが混じる。堆積状況から自然堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は斜面上方側は垂直、下方側はやや外傾して立ち上がる。底面は６・７層間に平坦な面があり、７層が堀方埋土の可能性も考えられる。ただし、硬化などは認められなかった。７層下が底面の場合には斜面に平行して傾斜した状態である。
＜遺物＞　古代の土器323.1ｇ、鉄滓273.6ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられるが詳細は不明である。

28号土坑（第120図、写真図版131）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南西側の斜面地、ⅣＡ２ｐグリッドに位置する。撹乱土下で検出したため、残存状況は悪い。撹乱以外に重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は歪んでいるが円形基調で、規模は開口部径206×185cm、底部径121×113cm、検出面から底面までの深さは16cmを測る。
＜堆積土＞　残存状況が悪く、埋土は黒褐色シルトの単層のみである。層中に炭化物が混じる。
＜壁・底面＞　壁の立ち上がりは緩く、底面は緩く窪んだ形状を呈する。
＜遺物＞　古代の土器399.8ｇ、縄文土器9.1ｇ、鉄滓313.2ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられるが詳細は不明である。

29号土坑（第120図、写真図版132）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区南側斜面地のⅣＡ３ｒグリッドに位置する。表土下のⅣ層上面で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径166×151cm、底部径155×147cm、検出面から底面までの深さは104cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は11層に分けられる。上～中位は明黄褐色シルト混じりの黒～黒褐色シルト、下位～底面に明黄褐色シルトを主体とする層が堆積している。埋土上位に土器片、全体に大礫を多く含む。
＜壁・底面＞　壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　埋土から古代の土器650.3ｇ、金属遺物13.1ｇ、鉄滓118.0ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。218は鉄鏃で両端が欠けている。
＜時期＞　出土した遺物の特徴から、平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

30号土坑（第120図、写真図版132）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面地、ＶＡ７ｏグリッドに位置する。表土下のⅡ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形で、規模は開口部径115×105cm、底部径95×88cm、検出面から底面までの深さは69cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は５層に分かれ、全体に明黄褐色シルト混じりの黒～黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

＜遺物＞　埋土から古代の土器223.6ｇ、縄文土器18.1ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。219は土師器甕の口縁部破片である。
＜時期＞　出土した遺物の特徴から、平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

31号土坑（第121図、写真図版132）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅣＡ３ｒグリッドに位置する。表土下のⅣ層上面で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径170×155㎝、底部径180×160㎝、検出面から底面までの深さは107㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は12層に分けられる。全体に黒～黒褐色シルトを主体とし、明黄褐色シルトや炭化物を含むが、底面の10・11層は明黄褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　断面形状はフラスコ形を呈し、壁は78°の角度で内傾して立ち上がり、底面はやや凹凸がある。
＜遺物＞　埋土から古代の土器979.2ｇ、羽口42.3ｇ、金属遺物12.6ｇ、鉄滓584.5ｇが出土し、うち３点を図化・掲載した。220・221はいずれも土師器甕の口縁部破片で、222は鉄鏃で両端を欠く。
＜時期＞　出土した遺物の特徴から、平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

32号土坑（第121図、写真図版132）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区南西側の緩斜面地、ＶＡ６ｐ・７ｐグリッドに跨がって位置する。表土下のⅡ層で検出した。13号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径165×145㎝、底部径143×139㎝、検出面から底面までの深さは104㎝を測る。
＜堆積土＞　自然堆積で埋土は11層に分けられる。全体に黒～黒褐色シルトを主体とし、中位の６・７層に明黄褐色シルトがやや多く混入している。
＜壁・底面＞　西側の開口部上方が崩落のため広がっているが壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　古代の土器420.5ｇ、鉄滓233.3ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土した遺物の特徴から、平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

33号土坑（第121図、写真図版133）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央付近の緩斜面地、ＶＡ３ｓ・３ｔグリッドに跨がって位置する。Ⅵ層で検出した。14号陥し穴状遺構と重複関係にあり、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径203×182㎝、底部径126×94㎝、検出面から底面までの深さは138㎝を測る。
＜堆積土＞　自然堆積で埋土は６層に分けられる。上位は黒褐色シルト、中～下位は黄褐色シルト・黒褐色シルトをそれぞれ主体とする層が互層となっている。
＜壁・底面＞　壁は垂直に近い角度で外傾して立ち上がり、開口部付近がやや広がっている。底面は

平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　遺物が出土していないため、不明である。

34号土坑（第122図、写真図版133）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側のⅣＡ17ｓグリッドに位置する。造成による盛土下のⅥ層で検出した。12号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径134×106cm、底部径96×66cm、検出面から底面までの深さは26cmを測る。
＜堆積土＞　自然堆積で埋土は３層に分けられる。明黄褐色シルト粒を微量含む黒褐色シルトを主体とする。壁際の一部に壁崩落による明黄褐色シルト層（３層）が堆積している。
＜壁・底面＞　断面形はすり鉢状を呈し、底面に平坦面はなく中央が最も窪み、壁に向かって緩い角度で立ち上がる。
＜遺物＞　羽口3475.0ｇが出土した。１点を図化・掲載した。223は底面から出土し、先端部に鉄滓が付着している。
＜時期＞　12号竪穴建物との重複関係から10世紀以降と考えられる。

35号土坑（第122図、写真図版133）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区南西の尾根頂部にある平場、ⅢＡ４ｊグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径105×75cm、底部径75×58cm、検出面から底面までの深さは32cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は２層に分かれ、上位に暗褐色シルト、下位ににぶい黄褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　断面形は逆台形状を呈し、底面は平坦で壁は73°の角度で外傾して立ち上がる。
＜遺物＞　埋土から古代の土器313.0ｇ、鉄滓8.3ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。224は土師器甕で底部を欠く。
＜時期＞　出土した遺物の特徴から平安時代と考えられる。

36号土坑（第122図、写真図版133）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、ⅢＡ３ｊ・４ｊグリッドに位置する。南西の尾根頂部にある平場のⅥ層（地山面）で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径155×144cm、底部径102×99cm、検出面から底面までの深さは95cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は５層に分けられる。大半がにぶい黄橙色～にぶい黄褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　断面形は逆台形状を呈する。壁は85°と垂直気味の角度で外傾して立ち上がる。底面は緩い凹凸がある。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが堆積状況から、周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。

37号土坑（第123図、写真図版134）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、ⅢＡ４ｉ・５ｉグリッドに跨がって位置する。南西の尾根頂部にある平場のⅣ層で検出した。53号土坑と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形で、規模は開口部径220×207㎝、底部径146×144㎝、検出面から底面までの深さは94㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は７層に分けられる。上位は黒褐色シルト、中位は黒褐色シルトを多く含むにぶい黄褐色シルト、下位は地山の風化花崗岩粒を多く含むにぶい黄褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　断面形は逆台形状を呈し、壁は底面から中段までおおよそ垂直に立ち上がり、中段からは外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが堆積状況から、周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。

38号土坑（第123図、写真図版133・134）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、ⅢＡ３ｊグリッドに位置する。南西の尾根頂部にある平場のⅣ層で検出した。59号竪穴建物と重複しこれよりも古い。
＜平面形・規模＞　形状は円形で、規模は開口部径256×236㎝、底部径229×209㎝、検出面から底面までの深さは87㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は９層に分けられる。上位の１層に褐色シルト、２・３層はにぶい赤褐色シルト、中～下位の４層以下はにぶい黄橙色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　断面形は逆台形状を呈する。壁は外傾して立ち上がり、底面は凹凸があるが、６層下に平坦な面があることから７層以下が構築時の掘方埋土の可能性も考えられる。ただし、硬化などは認められなかった。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが、59号竪穴建物との重複関係から、平安時代と考えられる。

39号土坑（第123図、写真図版134）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、ⅢＡ３ｊ・４ｊグリッドに跨がって位置する。南西の尾根頂部にある平場のⅣ層で検出した。重複する遺構はないが遺構の一部が撹乱の影響を受けて削平されている。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径294×213㎝、底部径239×160㎝、検出面から底面までの深さは92㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は６層に分けられる。上位は暗褐色シルト、中位はにぶい黄橙色シルト、下位は浅黄橙色シルトを主体とする。中層を中心に地山ブロックが混入している。
＜壁・底面＞　底面は中央がやや窪み、壁側がやや高くなっている。壁は底面から外傾～外反気味に立ち上がる。
＜遺物＞　埋土から土師器片78.9ｇ、羽口487.2ｇ、金属遺物12.0ｇ、鉄滓56.9ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。225は羽口、226は鉄鏃で先端を欠く。
＜時期＞　出土遺物から周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。

40号土坑（第123図、写真図版134）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、ⅢＡ４ｈ・５ｈグリッドに跨がって位置する。南西の尾根頂部にある平場のⅣ層で検出した。57号土坑と重複関係にあり、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径315×287㎝、底部径199×185㎝、検出面から底面までの深さは144㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は８層に分けられる。上位は黒色～暗褐色シルト、中位はにぶい黄橙色シルト、下位は褐色シルトを主体とする。中層下位の５層に壁面崩落による地山ブロックが多く混入している。
＜壁・底面＞　底面は平坦で、壁は底面から垂直に立ち上がり、開口部近くで外傾して開いている。
＜遺物＞　埋土から土師器片682.3ｇ、金属遺物2.7ｇ、鉄滓180.3ｇが出土し、うち３点を図化・掲載した。227は土師器甕で体部下半を欠く。器面調整は内外面ナデが施されている。228は棒状の鉄製品で紡錘車の軸部分と考えられる。229は砥石である。
＜時期＞　出土遺物から周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。

41号土坑（第122図、写真図版135）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区のⅢＡ３ｉ・４ｉグリッドに跨がって位置する。南西の尾根頂部にある平場のⅣ層で検出した。59号土坑と重複関係にあり、これよりも古い。
＜平面形・規模＞　形状は不整な楕円状を呈し、規模は残存値で開口部183×129㎝、底部156×72㎝、検出面から底面までの深さは32㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は上～中位が暗褐色シルト、下位が黒色シルトの２層に分かれる。
＜壁・底面＞　壁は底面から59°の角度で外傾して立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが、周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

42号土坑（第124図、写真図版135）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区、ⅡＢ11ｄグリッドに位置し、尾根東側の急斜面下位から緩斜面に変わる地点である。表土除去後、暗褐色の面（Ⅲ層）に黒褐色の円形プランを確認した。重複する遺構はない。還元色のシルト層や炭化した黒色土層、焼土ブロックなどの堆積から焼成遺構の可能性もあるが、底面・壁面に明確な焼成痕跡が確認できなかったため土坑とした。
＜平面形・規模＞　形状は円形で、規模は開口部径100㎝、底部径51×44㎝、検出面から底面までの深さは27㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は９層に分かれ、大半が黒褐色シルトで、下位に還元色のにぶい黄橙色シルト（６層）、炭化した黒色土層（８層）、赤褐色シルト（９層）、ブロック状の明赤褐色焼土（４層）などが堆積している。
＜壁・底面＞　断面形はすり鉢状で底面は窪み、壁は外傾して立ち上がる。底面の木根痕に焼土が混入している。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが、周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

43号土坑（第124図、写真図版135）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区中央の緩斜面、ＶＢ１ａグリッドに位置する。Ⅴ層下で検出し

た。29号陥し穴状遺構と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　検出面の一部がトレンチにより削平されているが形状は円形で、規模は開口部径163×149cm、底部径119×109cm、検出面から底面までの深さは112cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は14層に分かれ、大半が黒～黒褐色シルトを主体とし、明黄褐色シルトが混入している。堆積状況から人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　断面形はビーカー状を呈し、底面は平坦である。壁は垂直に立ち上がり、開口部近くで外傾している。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが、周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

44号土坑（第124図、写真図版135）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区の斜面中段、ⅢＡ20ｓグリッドに位置している。検出面はⅤ層上面で、黒褐色シルトの広がりが見られ遺構としたものである。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径197×179cm、底部径188×171cm、検出面から底面までの深さは86cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は上半部が黒褐色砂質シルトと黒色砂質シルトが互層する形で堆積し、下半部が黒褐色砂質シルトで占められている。最下部の埋土には薄く黒色土がラミナ状に堆積している。全体として三角状に堆積しており自然堆積の様相を呈している。
＜壁・底面＞　断面形状はフラスコ形で底面はⅤ層を掘り込んで構築されていて、平坦でしまっている。壁は底面よりオーバーハングし、内傾して開口部につながっている。
＜遺物＞　古代の土器164.2ｇ、羽口3.6ｇが出土しているが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。

45号土坑（第125図、写真図版136）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＢ18ａグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。１号性格不明遺構と重複し、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、開口部径189×160cm、底部径160×146cm、検出面から底面までの深さは斜面上方で106cmを測る。
＜堆積土＞　人為堆積を呈し、上～中位は暗褐色砂質シルト、下位は暗褐色シルトとにぶい赤褐色砂質シルトが互層となっている。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　古代の土器286.9ｇ、石器337.0ｇ、金属遺物47.8ｇが出土し、うち３点を図化・掲載した。230は土師器甕の口縁部の小破片、231は鉄製品で刀子、232は砥石である。他に北側の底面と、底面から６～10cm程度上部の３層中から、馬の歯を３か所で検出した。
＜時期＞　出土遺物から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）である。
＜遺構の性格＞　出土遺物から馬の埋葬を目的として掘削された遺構と考えられる。

46号土坑（第125図、写真図版136）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＢ17ａグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上

面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形～やや楕円状を呈し、開口部径187×147㎝、底部径164×147㎝を測る。
＜堆積土＞　人為堆積（埋戻し）で、上～中位は暗褐色砂質シルト、下位は褐色砂質シルトを主体とする。３層上位に小～中礫が多く混入している。
＜壁・底面＞　壁は外傾～直立気味の急角度で立ち上がり、底面は凹凸はあるがほぼ平坦である。
＜遺物＞　古代の土器2839.8ｇ、金属遺物63.4ｇ、鉄滓207.0ｇが出土し、うち７点を図化・掲載した。233～235は土師器甕でいずれも口縁部は短く外傾し、肩部に最大径をもつ。いずれも器面調整は内外面ナデのみで233・234の底部には木葉痕が残る。237～239は鉄製品で237・238は刀子、239は紡錘車である。236は磨石で半分以上が欠けており、埋土上位から出土していることから周辺からの混入の可能性が高い。
＜時期＞　出土遺物から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）である。

47号土坑（第125図、写真図版136）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区斜面上段、尾根頂部の平場のⅢＡ４ｉ・４ｊグリッドに跨がって位置する。Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は開口部東側が広がっているが楕円状を呈し、開口部径167×130㎝、底部径149×86㎝、検出面から底面までの深さは53㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は大半が浅黄橙色シルトを主体とし、褐～暗褐色シルト層が上面と層間に浅く堆積している（１・３・５層）。
＜壁・底面＞　壁は外傾～直立気味の急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦であるが、中央に径40㎝、深さ15㎝ほどのピット状の窪みがある。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが、周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

48号土坑（第125図、写真図版136）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区斜面上段、尾根頂部の平場のⅢＡ５ｊグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は歪んだ楕円状を呈し、開口部径124×102㎝、底部径87×77㎝、検出面から底面までの深さは59㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトと浅黄橙色シルト主体の層が互層となる堆積を呈する。
＜壁・底面＞　壁は外傾～直立気味の急角度で立ち上がり、底面は中央がやや窪んでいる
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが、周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

49号土坑（第126図、写真図版137）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区斜面上段、尾根の東側斜面のⅡＡ20ｍグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。位置的に60号竪穴建物と重複する可能性がある。
＜平面形・規模＞　形状は不整な円形で、開口部径168×157㎝、底部径147×125㎝、検出面から底面までの深さは64㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土はにぶい黄褐色シルトを主体とし、上～中位には地山ブロック、下位には暗褐色シルトが含まれる。
＜壁・底面＞　壁は外傾～直立気味の角度で立ち上がり、底面は平坦ではなく中央がやや窪んで低い。
＜遺物＞　古代の土器34.1ｇ、鉄滓93.8ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられる。

50号土坑（第126図、写真図版137）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ２ｓ・３ｓグリッドに跨がって位置する。24・51号竪穴建物、89号土坑と重複する。89号土坑よりも新しく、24・51号竪穴建物よりも古い。
＜平面形・規模＞　形状は不整な楕円状を呈し、規模は開口部径の残存値で193×157㎝、検出面から底面までの深さは55㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は全体に黄褐色粘土混じりの黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は外傾～直立気味の角度で立ち上がり、底面は全体的に凹凸があり、斜面上方側に向かって３°の傾斜で下っている。
＜遺物＞　遺構内から土師器破片133.4ｇ、縄文土器6.6ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられる。

51号土坑（第127図、写真図版137）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ18～19p・ｑグリッドに跨って位置する。検出面はⅤ層上面で、にぶい黄褐色の砂質シルトの広がりがみられ、遺構と確認した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状はやや隅丸方形に近い楕円形を呈する。規模は開口部径205×167㎝、底部径180×172㎝、深さは斜面上方側で140㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は大きく３つに分けられ、上位は最上部ににぶい黄褐色砂質シルト・黒褐色砂質シルト、中位は炭化物が混じる黒褐色砂質シルト、下位は中礫が下部に混じるにぶい黄褐色～褐色砂質シルトで占められている。最下部にある径20～30㎝の中礫の多くは投げ込まれたものと推定される。
＜壁・底面＞　Ⅵ層を掘り込んで作られた底面は平坦でしまっている。壁面は斜面上方側が底面より幾分オーバーハングしながら内傾して立ち上がり、下方側が底面より垂直に立ち上がっている。オーバーハングは埋土に壁からの崩壊土がみられることから、壁の崩壊に起因すると考えられる。
＜遺物＞　土器は古代の土器328.7ｇ、縄文土器3.3ｇ、鉄滓28.7ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。240は土師器甕の底部破片である。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられる。

52号土坑（第126図、写真図版137）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区斜面上段、尾根頂部の平場のⅢＡ４ｈグリッド付近に位置する。Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整な円～楕円状を呈し、規模は開口部径145×138㎝、底部径119×113㎝、検出面から底面までの深さは51㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は上位に灰黄色シルト、中位ににぶい黄橙色シルト、下位ににぶい黄褐色シルトが堆積する。

＜壁・底面＞　壁は外傾～直立気味の角度で立ち上がり、底面は全体的に凹凸があるが、傾斜はしていない。
＜遺物＞　遺構内から土師器破片11.6ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられる。

53号土坑（第127図、写真図版138）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区斜面上段、尾根頂部の平場のⅢＡ４ｉ・５ｉグリッドに跨がって位置する。Ⅳ層で検出した。37号土坑と重複し、これよりも古い。
＜平面形・規模＞　遺構の西側が37号土坑に切られているが、形状は不整な楕円状と推測される。規模は残存する南北間の開口部径90㎝、底部径48㎝、検出面から底面までの深さは47㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は上位に浅黄色シルト、中位に浅黄色シルトブロック混じりの黒褐色シルト、下位に灰黄色シルトが堆積する。
＜壁・底面＞　壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸である。
＜遺物＞　遺構内から土師器破片52.3ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土した遺物から平安時代と考えられる。

54号土坑（第127図、写真図版138）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区、尾根東側斜面のⅡＢ14ｂグリッドに位置する。表土下のⅣ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径211×200㎝、底部径190×181㎝、検出面から底面までの深さは104㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で上位ににぶい黄褐色砂質シルト、中位ににぶい黄橙色シルト・褐色砂質シルト、下位ににぶい黄橙色砂質シルトが堆積する。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がるが、壁の一部は崩落のためオーバーハングしている。底面は平坦である。
＜遺物＞　埋土中～下位で古代の土器405.1ｇ、金属遺物47.3ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。241は鉄鏃で両端を欠く。242は埋土中位から出土した銅製の八稜鏡の破片で切断痕がある。
＜時期＞　出土遺物から10世紀以降と考えられる。

55号土坑（第128図、写真図版138）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、尾根頂部の平場のⅢＡ３ｉグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　不整な形状で、規模は開口部径150×131㎝、底部径167×155㎝、検出面から床面までの深さは84㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で上位に黒褐色シルト混じりの浅黄色シルト、中位ににぶい黄色シルト、下位に灰黄色シルトが堆積する。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がり、壁の一部はオーバーハングしている。小さな凹凸があるがおよそ平坦である。
＜遺物＞　埋土から鉄滓92.3ｇが出土しているが、図化・掲載は行っていない。
＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明であるが、周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

56号土坑（第128図、写真図版138）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ15ｓグリッド付近に位置し、52号竪穴建物の貼床下より検出した。52号竪穴建物より古い時期の遺構である。
＜平面形・規模＞　斜面上方側の遺構西側のみの残存である。形状は検出部分から円形と推測され、底部は開口部より広くフラスコ状を呈する。規模は開口部径160㎝、検出面から底面までの深さは38㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は褐色シルト主体の堆積層で人為堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は内傾して立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、判然としないが、52号竪穴建物との重複関係から平安時代以前に属すると考えられる。

57号土坑（第128図、写真図版139）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区尾根頂部の平場、ⅢＡ５ｈグリッド付近に位置し、Ⅳ層で検出した。40号土坑と重複関係にあり、遺構の西側がこれに切られ、削平されている。
＜平面形・規模＞　残存するのは遺構東側のみであるが検出部分から円形と推測され、規模は開口部径94㎝、底部径65×59㎝、検出面から底面までの深さは21㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土はにぶい黄橙色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面はおおよそ平坦に近い。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、判然としないが、周辺遺構との関連から平安時代と推測される。

58号土坑（第128図、写真図版139）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区尾根東側のⅡＢ15ｂ・16ｂグリッドに跨がって位置する。濁りのある円形のプランをⅣ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪むが円形基調で、規模は開口部径167×159㎝、底部径148×143㎝、検出面から底面までの深さは50㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は上位と壁際ににぶい黄橙色シルト、中～下位に灰黄褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は垂直に立ち上がり、底面は中央付近がやや窪み、壁付近が高い。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、判然としないが、周辺遺構との関連から平安時代と推測される。

59号土坑（第129図、写真図版140）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂の尾根頂部の平場、ⅢＡ３ｉグリッドに位置し、Ⅳ層で検出した。41号土坑と重複し、これを切る。
＜平面形・規模＞　平面形は楕円形で開口部北東側の一部が広がった形状を呈する。規模は開口部径325×180㎝、底部径307×155㎝、検出面から底面までの深さは102㎝である。
＜堆積土＞　自然堆積を呈し、上位に黒褐～暗褐色シルト、中位～下位中央部ににぶい黄橙～黄褐色シルト、最下層に明黄褐色シルトが堆積する。埋土の上位と底面に炭化物が微量含まれている。
＜壁・底面＞　壁は垂直～内傾気味に立ち上がる。底面はおおよそ平坦である。

＜遺物＞　埋土から土師器破片55.0ｇ、羽口11.8ｇ、金属遺物7.3ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられ、重複関係にある41号土坑よりも新しい時期である。

60号土坑（第129図、写真図版139）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、尾根の南東側斜面のⅢＡ10ｎグリッドに位置する。63号竪穴建物の床面下で検出され、これよりも古い遺構である。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪むが円形基調で、規模は開口部径159×141cm、底部径123×118cm、検出面から底面までの深さは116cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は上位に褐灰色砂質シルト、中位に灰白～灰黄褐色砂質シルト、下位ににぶい黄橙色砂質シルトを主体とする堆積である。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、判然としないが、周辺遺構との関連から平安時代と推測される。

61号土坑（第129図、写真図版139）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区、尾根の南東側斜面のⅢＡ９ｏグリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　不整な形状で、規模は開口部径152×118cm、底部径111×110cm、検出面から底面までの深さは82cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は上位が黒褐色シルト主体で、中～下位は黄灰色・浅黄色・灰黄色シルトに黒褐色シルトや風化花崗岩粒が混じる。
＜壁・底面＞　壁は斜面上方側は内傾、それ以外が外傾して立ち上がり、底面も斜面上方側は傾斜し、それ以外はおよそ平坦である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため不明である。形状が一定でないことから、撹乱（木根）の可能性も考えられる。

62号土坑（第130図、写真図版141）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区、斜面中段のⅢＡ19ｔグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。102号土坑と重複関係にあり、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形で、規模は開口部径191×185cm、底部径171×156cm、検出面から底面までの深さは70cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は人為堆積（埋戻し）で、大半が暗褐色砂質シルトを主体とし、底面直上に暗褐色砂質シルト混じりのにぶい黄褐色砂質シルトが堆積する。
＜壁・底面＞　壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面はやや凸凹で６°傾斜している。
＜遺物＞　埋土から土師器破片205.3ｇ、須恵器破片69.0ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）である。

63号土坑（第130図、写真図版141）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ17ｔ・ⅢＢ17ａグリッドに跨がって位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出し、掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。また、重複する遺構を確認するために入れたトレンチにより遺構南端の一部を消失した。64号土坑、16号焼成遺構、25・27・50号竪穴建物など複数の遺構と重複関係にあり、これらよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は隅丸長方形を呈し、規模は開口部径205×100㎝、底部径179×73㎝、検出面から底面までの深さは９㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は人為堆積で、にぶい赤褐色砂質シルトを主体とし、幅２～５㎜程度の縦に細かくなった炭化材や焼土ブロックが混じる。
＜壁・底面＞　壁は緩く外傾して立ち上がり、底面は緩やかに傾斜する。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　検出状況と周辺の類似する土坑から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）である。

64号土坑（第130図、写真図版141）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ17ｔグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。63号土坑、16号焼成遺構と重複関係にあり、これより古い。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径134×131㎝、底部径110×103㎝、検出面から底面までの深さは46㎝である。
＜堆積土＞　埋土は人為堆積で、上～中位は暗褐色砂質シルト、下位はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁はやや急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　埋土から土師器破片253.5ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　検出状況と周辺の類似する土坑から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）である。

65号土坑（第130図、写真図版141）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＢ16ａ・17ａグリッドに跨がって位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。南西側の壁の上部は崩落している。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径200×183㎝、底部径169×163㎝、検出面から底面までの深さは93㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は人為堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とし、黄褐色・褐色シルトなどが互層となっている。
＜壁・底面＞　壁は直立気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　検出状況から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）である。

66号土坑（第131図、写真図版142）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ16ｒグリッドに位置する。重機道法面の土層観察にて検出した。52号竪穴建物と重複し、これより古い。
＜平面形・規模＞　平面形は楕円形を呈し、規模は開口部径147×110cm、底部径116×90cm、検出面から底面までの深さは74cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は上位と下位がにぶい黄褐色砂質シルト、中位が黒褐色シルトを主体とし、状況から自然堆積と考えられる。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　埋土から土師器15.7ｇが出土した。小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と推定される。

67号土坑（第131図、写真図版142）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ19ｑグリッドに位置する。検出面はⅤ層上面である。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は125×98cm、底部径92×72cm、検出面から底面までの深さは40cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は大半が暗褐色シルトのブロックが混じる黒褐色砂質シルトで、僅かに最上部に炭化物・焼土粒が混じる黒色砂質シルトで構成されている。堆積状況は自然堆積の様相を呈している。
＜壁・底面＞　壁面は底面から丸みを帯びながら外傾して立ち上がり、底面はⅥ層を掘り込んでつくられ平坦でしまっている。
＜遺物＞　埋土から土師器の破片31.1ｇが出土しているが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代の可能性が高い。

68号土坑（第131図、写真図版142）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ２ｒグリッドに位置する。検出面はⅤ層上面である。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は隅丸方形状を呈し、規模は198×159cm、底部径174×155cm、検出面から底面までの深さは119cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は９層に分けられ、上位は黒褐色・黄褐色・暗褐色シルト、中～下位に黒褐色シルトを主体とする層、下位～底面には黄褐色シルト層が堆積している。
＜壁・底面＞　底面は地山を掘り込み、平坦でしまっている。壁面は内傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞　古代の土器697.3ｇ、鉄滓85.5ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられる。

69号土坑（第131図、写真図版142）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ９ｎ・10ｎグリッドに跨がって位置する。63号竪穴建物の床面下で検出され、これよりも古い遺構である。
＜平面形・規模＞　形状は不整で、規模は開口部径200cm×169cm、底部径157×134cm、検出面から底面までの深さは120cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は上～中位に風化花崗岩粒を多く含む黄灰色砂質シルト、下位に灰白色・灰黄色砂

質シルトを主体とする堆積である。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　古代の土器380.5ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。243は土師器甕の口縁部破片である。器面調整は内外面ナデで外面の一部にケズリが施されている。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられる。

70号土坑（第132図、写真図版142）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面の裾、ⅣＡ４ｓグリッドに位置し、Ⅳ層で検出した。重複する遺構はないが、遺構の南北端が撹乱の影響で失われている。
＜平面形・規模＞　残存部分から形状は楕円状と推測され、規模は長軸側は削平のため不明、単軸側は開口部径93㎝、検出面から底面までの深さは23㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は全体に黒褐色シルトを主体とし、炭化物を多く含んでいる。
＜壁・底面＞　壁は外傾～垂直気味に立ち上がり、底面は平坦に近い。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

71号土坑（第132図、写真図版143）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段の最上部、ⅢＡ19ｏグリッドに位置している。検出面はⅤ層上面である。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径88×70㎝、底部径62×51㎝、検出面から底面までの深さは92㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は上位が炭化物、暗褐色シルトのブロックが混じる黄褐色砂質シルト、中位が暗褐色～褐色砂質シルトで占める。下位は縦に分かれ、上方側で暗褐色砂質シルトと黒褐色砂質シルト、下方側で褐色砂質シルトと黄褐色砂質シルトで構成されている。全体的に堆積の仕方から人為的な堆積の様相を呈し、４・５層は柱痕跡の可能性も考えられる。
＜壁・底面＞　底面はほぼ平坦でしまりはない。壁面は底面より丸みを帯びて、やや外傾して立ち上がる。
＜遺物＞　出土していない。＜時期＞　出土遺物がないことから詳細は不明である。

72号土坑（第132図、写真図版143）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段上部のⅢＡ18ｑグリッドに位置している。検出面はⅥ層で、急斜面地に構築されているため、壁面が大きく崩壊しており、実際の遺構の規模より大きい広がりで検出された。29号竪穴建物と重複関係にあり、これを切る。
＜平面形・規模＞　形状はほぼ円形を呈し、規模は開口部径168×166㎝、底部径151×149㎝、検出面から底面までの深さは102㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は10層に細分したが、大きく３つに分けられ、上位が浅皿状に堆積している灰黄褐色シルトと褐色シルトを挟む黒褐色砂質シルト、中位が褐色シルトや黒褐色シルトブロックが多く混じる暗褐色砂質シルト、下位が上方から崩壊し、堆積した褐色砂質シルトや暗褐色砂質シルトで構成されている。中位は大きなブロックで混じり合っていることから人為的な堆積、上位、下位は自然堆積の様相が強い。
＜壁・底面＞　Ⅵ層を掘り込んでつくられている底面は平坦で幾分しまっている。壁面は斜面上方側

の下部がややオーバーハングしているが崩壊によるものと考えられ、全体として底面からほぼ真直ぐに立ち上がりやや外反しているものである。
＜遺物＞　埋土から古代の土器908.4ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。244は土師器甕の口縁～体部破片で肩部に最大径をもつ。器面調整は内外面ナデが施されている。他に鉄滓124.9ｇが出土している。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と考えられる。

73号土坑（第132図、写真図版143）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ８１グリッドに位置する。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円状を呈し、規模は開口部径217×175cm、底部径180×135cm、検出面から底面までの深さは116cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、上位と下位ににぶい黄橙色砂質シルト、中位は灰白色～浅黄橙色砂質シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

74号土坑（第133図、写真図版144）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区尾根東側斜面のＩＡ16ｔグリッドに位置する。風化花崗岩粒が厚く堆積する平場の南側降り口で表土の除去後にⅣ層で濁りのある砂質のプランを検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は隅丸方形を呈し、規模は開口部径182×150cm、底部径159×120cm、検出面から底面までの深さは113cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、西側から東側にかけて斜めに堆積している。上面の２層はにぶい黄橙色砂質シルトであるが、上～中位の主体は灰黄褐色砂質シルトで、下位ににぶい黄褐色シルトが堆積している。
＜壁・底面＞　壁は垂直気味に立ち上がり、底面は平坦である。断面形はビーカー状を呈し、地山を掘り込んでいる。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

75号土坑（第133図、写真図版144）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ９ｍ・10ｍグリッドに跨がって位置し、Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪んだ円形状を呈し、規模は開口部径177×168cm、底部径124×123cm、検出面から底面までの深さは107cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、上位に黒褐色シルト、中～下位ににぶい黄褐～黄橙色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は底面から垂直に近い角度で外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

76号土坑（第133図、写真図版144）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ10m・11mグリッドに跨がって位置し、Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整な楕円状を呈し、規模は開口部径262×184cm、底部径183×137cm、検出面から底面までの深さは104cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で７層に細分される。上位に灰黄褐色砂質シルト、中位に浅黄色砂質シルト、下位に黄灰色砂質シルト・灰黄色砂質シルトを主体とする層が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は底面から78°の角度で外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　埋土から土師器破片79.8ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。245は土師器甕の口縁部破片である。
＜時期＞　出土遺物や周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

77号土坑（第134図、写真図版144）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ11ｌグリッドに位置し、Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径231×178cm、底部径203×146cm、検出面から底面までの深さは133cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で５層に細分される。上位に斜面崩落による堆積層のにぶい黄橙色シルト、中位に灰白色～黄灰色砂質シルト、下位に浅黄色～暗灰黄色砂質シルトを主体とし、全体に風化花崗岩粒を多く含む。
＜壁・底面＞　壁は斜面上位側は内傾、下位側は外傾気味に立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

78号土坑（第134図、写真図版145）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ９ｌグリッドに位置し、Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整形で、規模は開口部径120×101cm、底部径94×74cm、検出面から底面までの深さは31cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は風化花崗岩粒混じりのにぶい黄橙色シルトの単層である。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がる。底面は傾斜し、斜面上方側が下がっている。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

79号土坑（第134図、写真図版145）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ16ｑグリッドを中心に複数のグリッドを跨いで検出した。重複している遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状はほぼ円形であるが、斜面上方側の壁面が崩落の影響で張り出している。規模は開口部径217×213cm、底部径195×178cm、検出面から底面までの深さは105cmを測る。
＜堆積土＞　14層に分層したうちの１～10層は斜面堆積による自然堆積層、下位付近に堆積する11～14層は人為堆積層と判断され、自然堆積層は黒褐色シルト、人為堆積層は黄褐色・暗褐色等のシルトを主体とした堆積である。

＜壁・底面＞　壁は外傾ないし、直立して立ち上がる。底面はわずかに傾斜するが、平坦に近い。
＜遺物＞　埋土より古代の土器566.5ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。246は土師器甕の口縁部破片である。他に鉄滓64.9ｇが出土している。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と推定される。

80号土坑（第134図、写真図版145）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ20ｏグリッドに位置し、Ⅴ層で検出した。重複している遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は歪んだ円形基調を呈し、規模は開口部径172×161cm、底部径146×127cm、検出面から底面までの深さは108cmを測る。
＜堆積土＞　５層に分層した。１・２層は斜面堆積で、埋土の主体は黒褐色砂質シルト層（３・５層）と黄橙色砂質シルト層（４層）である。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がるが、西壁上部は崩落して広がっている。底面は凸凹があるが平坦に近い。
＜遺物＞　埋土より古代の土器109.8ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。他に鉄滓103.5ｇが出土している。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と推定される。

81号土坑（第135図、写真図版145）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ18ｓグリッドに位置している。Ⅴ層上面まで掘り下げた段階で焼土を含む暗褐色の広がりがみられ遺構と判明したものである。重複関係はないが、位置的に30号竪穴建物と重複していた可能性もある。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径162×135cm、底部径149×123cm、検出面から底面までの深さは53cmを測る。
＜堆積土＞　５層に細分したが、大きく３つに分けられ、上部が焼土塊・炭化物が中央に混じる暗褐色砂質シルト、中位が焼土塊・炭化物が中央部分に多く混じる黒褐色砂質シルト、下位が暗褐色～褐色砂質シルトで構成されている。１・２層の焼土塊は大きいもので径２×５cmを測る。これらは、それぞれに不連続で存在しているため、焼成を目的として掘られた遺構ではなく、人為的に廃棄されたと考えられる。
＜壁・底面＞　壁は斜面上方側が幾分内湾気味に立ち上がり、下方側が外傾して立ち上がる。上方側は壁が崩壊したものと考えられる。底面はⅥ層を掘り込んでつくられており、ほぼ平坦で、斜面下方側に４°の角度で傾斜している。
＜遺物＞　埋土より古代の土器151.9ｇ、石器567.0ｇ、羽口10.7ｇ、鉄滓513.3ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。247は磨石で表裏両面に擦痕が残っている。
＜時期＞　出土遺物から平安時代と推定される。

82号土坑（第135図、写真図版146）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ４ｓグリッドに位置している。Ⅳ層下部で検出した。32号竪穴建物のカマドと重複し、これを切る。
＜平面形・規模＞　形状は歪な円形基調で、規模は開口部径122×115cm、底部径100×98cm、検出面

から底面までの深さは67㎝を測る。
＜堆積土＞　自然堆積で７層に細分した。全体にⅥ層混じりの黒色～黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がるが、斜面上方側が下方側に比べ急角度である。底面は中央がわずかに窪むため、壁際が高くなっている。
＜遺物＞　埋土より古代の土器121.9ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物と周辺の遺構から平安時代と推定される。

83号土坑（第135図、写真図版146）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ18ｒ・19ｒグリッドに跨って位置している。検出面はⅤ層上面で重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径168×164㎝、底部径138㎝、検出面から底面までの深さは64㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は斜面下方側の新しい掘り込み（１層）以外は自然堆積の様相を呈し、大きく３つに分けられる。上位は炭化物が多く混じる暗褐色砂質シルト、中位が黄褐色・黒褐色シルトブロック・炭化物が多く混じる暗褐色砂質シルト、下位が褐色・黒褐色シルトブロック・炭化物が混じる暗褐色砂質シルトで構成されている。
＜壁・底面＞　斜面上方側の壁面は内傾して立ち上がり、底面は斜面下方側の掘り込み部分以外はほぼ平坦であり、しまっている。
＜遺物＞　埋土より古代の土器196.8ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物と周辺の遺構から平安時代と推定される。

84号土坑（第135図、写真図版146）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ17ｓグリッドに位置する。検出面はⅣ層上面で30号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径155㎝、底部径146×136㎝、検出面から底面までの深さは51㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は大きく３つに分けられる。上位は炭化物が混じる暗褐色砂質シルトとにぶい黄褐色砂質シルトが互層で堆積し、中位が黄褐色シルトブロック・炭化物が混じる暗褐色砂質シルトを挟む褐色砂質シルト層、下位が黒褐色シルトブロックが多く混じる暗褐色砂質シルト層と暗褐色シルトブロックが多く混じる褐色砂質シルト層で占められている。下位の埋土は大きなブロックで暗褐色シルトや黒褐色シルトが混じっていることから、人為的な堆積の様相を呈している。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面は斜面上方側が低く、傾いている。
＜遺物＞　埋土より古代の土器194.4ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物と周辺の遺構から平安時代と推定される。

85号土坑（第136図、写真図版146）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ９ｋ・10ｋグリッドに跨がって位置し、Ⅳ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は歪んだ楕円状を呈し、規模は開口部径314×252㎝、底部径238×144㎝、検出面から底面までの深さは118㎝を測る。

＜堆積土＞　埋土は自然堆積で４層に細分される。上位と底面ににぶい黄橙色シルト、中位ににぶい黄褐色シルト層、明黄褐色シルト層が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

86号土坑（第136図、写真図版147）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の南東側斜面、ⅢＡ７ｋグリッドに位置し、Ⅳ層で検出した。斜面下方側は削平され、失われている。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　残存部分から形状は楕円状と推測され、規模は開口部の長軸が135㎝、底部の長軸が99㎝、検出面から底面までの深さは20㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は２層に分かれ、上～中位はにぶい黄褐色シルト層、下位は炭化物混じりの暗褐色シルト層である。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　周辺遺構との関連から平安時代と考えられる。

87号土坑（第136図、写真図版147）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ２ｐグリッドに位置する。表土下のⅡ層で検出した。重複する遺構はないが、遺構の南側が調査時の掘削により、失われている。
＜平面形・規模＞　形状は楕円状を呈し、規模は開口部径179×139㎝、検出面から底面までの深さは40㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で３層に細分されるが、全体に黒褐色シルトを主体とし、上位に黄褐色シルトブロックが堆積している。
＜壁・底面＞　底面は斜面に沿って傾斜し、壁は底面から丸みを帯びて立ち上がる。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　検出状況から平安時代と考えられる。

88号土坑（第137図、写真図版147）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の東側斜面、ⅡＡ18ｏグリッドに位置する。表土下のⅢ層で検出した。重複する遺構はないが、位置的に36号竪穴建物と重複する可能性がある。
＜平面形・規模＞　形状は円形を呈し、規模は開口部径173×165㎝、底部径145㎝、検出面から底面までの深さは109㎝を測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積で６層に細分されるが、全体に暗褐色シルトを主体とし、下位ににぶい黄褐色シルト層（４層）、にぶい黄橙色シルト層（６層）が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は外傾～垂直気味に立ち上がり、底面は窪んでいる箇所もあり平坦ではない。
＜遺物＞　埋土より古代の土器1002.3ｇ、石器2.0ｇ、鉄滓52.0ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。248は土師器甕の口縁部破片である。249は石匙で周辺からの混入物と考えられる。
＜時期＞　出土遺物の特徴から平安時代と考えられる。

89号土坑（第137図、写真図版147）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区中段斜面下方のⅣＡ２ｓグリッドに位置し、51号竪穴建物の床面で検出した。他に50・98号土坑と重複する。新旧関係は51号竪穴建物より古く、50・98号土坑より

新しい。
＜平面形・規模＞　平面形は不整な形状で、規模は開口部径172×98cm、底部径149×74cm、検出面から底面までの深さは67cmを測る。
＜堆積土＞　黒褐色シルトと黄褐色粘土の混合土で、人為堆積層である。
＜壁・底面＞　断面形はU字状を呈し、底面の中央は平坦であるが、壁際は丸みを帯びて立ち上がっている。
＜遺物＞　埋土より古代の土器85.6ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　詳細時期については判然としないが出土遺物から平安時代の可能性が考えられる。

90号土坑（第138図、写真図版147）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の東側斜面、ⅡＡ14ｑ・14ｒグリッドに跨がって位置し、37号竪穴建物の床面で検出した。他に91号土坑と重複する。新旧関係は37号竪穴建物より古く、91号土坑より新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円状を呈し、規模は開口部径215×169cm、底部径123×122cm、検出面から底面までの深さは140cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルト、中位に灰黄褐色シルト、下位ににぶい黄橙色シルト層とにぶい黄褐色シルト層が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は底面から垂直に立ち上がり、上半の開口部が広がっている。底面はやや傾斜があるが、平坦である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため時期については判然としないが、37号竪穴建物との重複関係から平安時代と考えられる。

91号土坑（第138図、写真図版148）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区山頂尾根の東側斜面、ⅡＡ14ｑ・14ｒグリッドに跨がって位置し、37号竪穴建物の床面で検出した。他に90号土坑と重複する。新旧関係は37号竪穴建物・90号土坑より古い。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形を呈し、規模は開口部径218×144cm、底部径190×151cm、検出面から底面までの深さは125cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は自然堆積を呈し、上位はにぶい黄褐色シルト、中～下位はにぶい黄橙色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　断面形状はフラスコ形を呈し、底面は平坦で壁は内傾して立ち上がる。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　遺物が出土していないため時期については判然としないが、重複する遺構との関係から平安時代と考えられる。

92号土坑（第138図、写真図版148）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段の北端、ⅢＡ11ｓグリッドに位置する。表土下のⅥ層で検出した。斜面下方の南東側が削平されている。
＜平面形・規模＞　形状は円形基調で、規模は開口部径126cm、検出面から底面までの深さは88cmを

測る。
＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルト主体とし、上位に灰黄褐色シルト層とにぶい黄色砂層が堆積している。
＜壁・底面＞　底面は凹凸があるが、平坦で壁は斜面上方側が内傾、下方側が外傾して立ち上がる。
＜遺物＞　出土していない。　＜時期＞　出土遺物がないため時期については不明である。

93号土坑（第138図、写真図版148）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｄ区山頂尾根の北端東側斜面、ⅡＢ10ａ・10ｂグリッドに跨がって位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形～隅丸方形状を呈し、規模は開口部径203×170cm、底部径193×175cm、検出面から底面までの深さは104cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は人為的な堆積を呈し、にぶい黄褐色シルト・黄褐色シルト・明黄褐色シルトを主体としている。２・４・５層は混合土層である。
＜壁・底面＞　底面は凹凸で斜面に沿って傾斜している。壁は斜面上方側が内傾、下方側が外傾して立ち上がる。
＜遺物＞　埋土より古代の土器30.9ｇが出土しているが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代の可能性が考えられる。

94号土坑（第139図、写真図版148）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ18ｔグリッドに位置する。39号竪穴建物の構築面と40号竪穴建物のトレンチを精査中に検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。重複関係は39・40号竪穴建物よりも古い。40号竪穴建物との重複は同遺構のトレンチにより平面的に確認した。
＜平面形・規模＞　形状はやや歪んだ楕円形を呈し、規模は開口部径147×90cm、底部径126×67cm、検出面から底面までの深さは21cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は上部が削平されているため判断が難しいが、埋戻しの可能性が高いと考える。にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　埋土より古代の土器1.4ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物や検出状況から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）である。

95号土坑（第139図、写真図版148）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ19ｑグリッドに位置する。Ⅴ層上面で黒褐色シルトの広がりを確認し、遺構と認識したものである。重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　北東側壁面の一部は、掘り過ぎにより上半部が消失しているが、形状はほぼ円形を呈していたものと推定される。規模は開口部径156×146cm、底部径131×109cm、検出面から底面までの深さは39cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は大きく３つに分けられ、上位が斜面上方側に炭化物・焼土粒が多く混じる黒褐色砂質シルトで、大きな褐色シルトブロックを挟んで、下方側に黒色シルトが堆積し、中位が下部に炭化物・焼土混じりの黒褐色砂質シルト、下位が褐色シルトブロックが混じる暗褐色砂質シルトや黒褐

色砂質シルトで占められている。
＜壁・底面＞　底面はほぼ平坦であり、ややしまっている。壁面は底面より幾分外反しながら立ち上がっている。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、詳細は不明であるが、周辺遺構との関連から平安時代と推測される。

96号土坑（第139図、写真図版149）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ３ｓ・４ｓグリッドに跨がって位置し、Ⅵ層で検出した。46号竪穴建物、97号土坑と重複し、これらよりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は不整で、規模は開口部径120×71cm、底部径58×39cm、検出面から底面までの深さは62cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　底面は平坦ではなく、壁は外傾～垂直気味に立ち上がる。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、詳細は不明である。

97号土坑（第139図、写真図版149）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ４ｓグリッドに位置する。Ⅱ層下で検出した。46号竪穴建物・96号土坑と重複関係にあり、96号土坑より古く、46号竪穴建物よりも新しい。
＜平面形・規模＞　形状は不整形で、規模は開口部径102×79cm、底部径68×52cm、検出面から底面までの深さは28cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は黒褐色シルトを主体とし、底面の壁際に暗褐色シルトが堆積する。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。
＜遺物＞　埋土より古代の土器445.7ｇが出土し、うち１点を図化・掲載した。250は土師器甕の口縁～体部破片である。他に鉄滓122.0ｇが出土した。
＜時期＞　出土遺物や検出状況から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）と推測される。

98号土坑（第140図、写真図版149）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅣＡ２ｓグリッドに位置し、51号竪穴建物の床面で検出した。他に89号土坑と重複関係にある。新旧関係は51号竪穴建物・89号土坑より本遺構が古い。
＜平面形・規模＞　形状は開口部東側が89号土坑により削平されているが楕円形で、規模は開口部径114×60cm、底部径86×44cm、深さ30cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は上～中位が黒色～黒褐色シルトを主体に黄褐色粘土が少量混入しているのに対し、下位は黄褐色粘土が主体となる。堆積状況から人為堆積と推定する。
＜壁・底面＞　壁は外傾気味に立ち上がり、底面は中央が窪んでいる。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため、不明である。

99号土坑（第140図、写真図版149）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段下方のⅣＡ３ｓグリッドに位置し、Ⅵ層で検出した。

重複する遺構はない。
＜平面形・規模＞　形状は不整な楕円状で、開口部径101×83cm、底部径79×58cm、検出面から底面までの深さは17cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は黒色シルト主体で壁～底面には褐色粘土が多く含まれる層が堆積している。
＜壁・底面＞　壁は外傾および直立して立ち上がり、底面はやや丸底気味である。
＜遺物＞　古代の土器32.4ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　出土遺物から平安時代に属すると考えられる。

100号土坑（第140図、写真図版149）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段下方のⅣＡ２ｓグリッドに位置する。検出面は51号竪穴建物の床面下のⅥ層で、24号竪穴建物の煙道部に近接した地点である。重複関係は51号竪穴建物より古い。
＜平面形・規模＞　不整な楕円状の形状を呈し、規模は開口部径58×42cm、底部径46×39cm、深さ24cmを測る。
＜堆積土＞　黒色シルトを主体に黄褐色粘土が少量混入し、特に上～中位に多く含まれている。
＜壁・底面＞　壁は直立～やや内傾気味に立ち上がり、底面中央がやや凹んでいる。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

101号土坑（第140図、写真図版150）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段下方のⅣＡ２ｓグリッドに位置する。検出面は51号竪穴建物の床面下のⅥ層で、100号土坑に近接する。重複関係は51号竪穴建物より新しい。
＜平面形・規模＞　形状は楕円基調で、規模は開口部径86×70cm、底部径70×61cm、検出面から底面までの深さは10cmである。
＜堆積土＞　自然堆積と推測され、黒色～黒褐色シルトを主体に黄褐色粘土が少量混入している。
＜壁・底面＞　壁は外傾して立ち上がり、底面は東側に向かって傾斜している。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物がないため不明である。

102号土坑（第140図、写真図版150）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＡ18ｔグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、壁とほぼ平坦な底面を確認した。31号竪穴建物・62号土坑と重複関係にあり、これらよりも古い。
＜平面形・規模＞　形状は楕円形で、規模は開口部径186×165cm、底部径167×140cm、検出面から底面までの深さは74cmを測る。
＜堆積土＞　埋土は人為堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
＜遺物＞　古代の土器278.6ｇ、鉄滓473.5ｇが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　検出状況から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。

（8）溝　　跡

Ｃ区の山頂部の平場を囲むように３条検出した。

１号溝跡（第141～143図　写真図版150）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区北西側に位置する。尾根頂部の平場を囲むように巡る。遺構の一部および南端が調査区外へと延びるため、３箇所に分けての検出となった。また、２号溝跡も位置的にこれと繋がる可能性がある。他に直接重複を確認できた遺構はない。
＜規模＞　検出長65m、検出幅33～123cm、深さ116cmである。
＜堆積土＞　上～中位は黒色シルト、下位は地山ブロックを含むにぶい黄橙色シルトを主体する。
＜壁・底面＞　最も残存状態の良い北東側で断面形状は薬研堀のようなＶ字状を呈し、底面の幅は７～15cmと狭くなっている。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物はないが、周辺の遺構から平安時代に属する可能性が高い。

２号溝跡（第144図　写真図版150）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区南東側に位置する。尾根の南側斜面の傾斜に対し直交するように巡る。遺構の西側が調査区外へと延びる。
＜規模＞　検出長17.8m、検出幅38～195cm、深さ26cmである。
＜堆積土＞　上～中位はにぶい黄褐色シルト、下位はにぶい黄橙色シルトを主体とし、全体に風化花崗岩粒が多く混入している。
＜壁・底面＞　斜面上方の北側壁面が残存状態が良い一方で、南側は削平のため、残存する壁面はわずかである。断面形状は緩いＵ字状を呈し、底面の幅は11～58cmと幅がある。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物はないが、周辺の遺構から平安時代に属する可能性が高い。

３号溝跡（第145図　写真図版150）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区北西側、尾根の南西縁に沿って巡る。南側の始点から1.18mの地点で二股に分かれる。遺構の一部が撹乱を受けているが、重複する遺構はない。
＜規模＞　検出長17.5m、検出幅26～68cm、深さ40cmである。
＜堆積土＞　上位ににぶい黄褐色シルト、下位に浅黄橙色シルトが堆積する。
＜壁・底面＞　斜面上方の溝はＶ字状の断面形状を呈する。斜面下方の溝の壁は垂直に近い傾斜で前者より深さがある。底面幅は10～21cmと狭い。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　出土遺物はないが、周辺の遺構から平安時代に属する可能性が高い。

（9）畝 間 状 遺 構

Ａ区において３箇所で検出した。いずれも竪穴建物と重複し、これよりも新しい時期のものである。各竪穴建物は平安時代と考えられるため、畝間状遺構もそれ以降に帰属すると考えられる。また、３号畝間状遺構は１号排滓場（15世紀）とも重複関係にあり、これより古い時期のものである。

１号畝間状遺構（第146図、写真図版165）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区西側の緩斜面、ＶＡ５ｐグリッド付近に置する。３号竪穴建物の精査中に床面で検出した。耕作地面積は約8.5㎡である。３号竪穴建物、52号陥し穴状遺構と重複し、これらより新しい。

＜規模＞　遺構全体の規模は、4.18×2.87ｍで畝間は６条を数える。畝間方向はＮ－74°－Ｗでほぼ東西方向を向く。各畝間の長さは1.83～2.74ｍで端部は揃わない。畝間は幅38～47㎝の溝状を呈し、畝間間隔は28～31㎝でほぼ等間隔で平行に並ぶ。畝部分には高さ11～20㎝の山なりの堆積が見られる。

＜堆積土＞　畝間埋土は黒褐色シルトを主体とした堆積であるが、畝間２、畝間６の下層には暗褐色シルトの堆積が見られる。また、畝部分にも黒褐色シルトを主体とした堆積が見られるが、こちらは本遺構掘削時に掘り込んだ３号竪穴建物の堆積土及び貼床の構成土であると考えられる。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　遺構の重複関係から平安時代以降に属する遺構である。

２号畝間状遺構（第147図、写真図版166）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側の緩斜面、ⅣＡ17～18ｓグリッド付近に位置する。12号竪穴建物床面で検出した。耕作地面積は約18.38㎡である。12号竪穴建物との重複関係はこれよりも新しい。

＜規模＞　遺構全体の規模は、7.51×3.71ｍで畝間12条からなる。畝間方向はＮ－67°－Ｗで北西を向く。各畝間の長さは1.24～3.71ｍで畝間１～４、５～８、９・10などは片側端部が揃う。畝間は幅22～49㎝の溝状を呈し、畝間間隔は10～51㎝で平行に並ぶ。畝部分に人為的な堆積は確認できない。

＜堆積土＞　畝間埋土は暗褐色シルトを主体とし、下層に明黄褐色シルト混じりのにぶい黄褐色シルトが堆積する。下層の堆積土は本遺構掘削時に掘り込んだ12号竪穴建物の堆積土及び貼床土であると考えられる。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　12号竪穴建物より新しいことから、平安時代以降に属する遺構である。

３号畝間状遺構（第148図、写真図版167）

＜位置・検出状況・重複関係＞　Ａ区北側の緩斜面、ⅣＡ17～18ｒグリッドに跨がって位置する。１号排滓場、71号竪穴建物と重複する。新旧関係は１号排滓場よりも古く、71号竪穴建物より新しい。

＜規模＞　遺構全体の規模は、3.07×2.23ｍで畝間６条からなる。畝間方向はＮ－48°－Ｗで北西を向く。各畝間の長さは1.22～2.23ｍで端部は揃わない。畝間は幅19～50㎝の溝状を呈し、畝間間隔は４～30㎝で平行に並ぶ。耕作地面積は約5.73㎡である。畝部分に人為的な堆積は確認できない。

＜堆積土＞　畝間埋土は黒褐色シルトないし、明黄褐色シルト混じりのにぶい黄褐色シルトである。

＜遺物＞　出土していない。

＜時期＞　71号竪穴建物より新しいことから、平安時代以降に属する遺構である。

（10）陥し穴状遺構（第150～164図、写真図版151～164、第４表）

今回の調査区で57基検出した。調査区別ではＡ区52基、Ｂ区４基、Ｃ区１基である。緩斜面で南側に旧沢跡が検出されたＡ区に大半が集中している。平面形状は溝状、長楕円形、円形などがあるが、溝状が最も多い。また、軸方向は斜面の傾斜に対して直交して掘られているものが多い。断面形状は

開口部から底部にかけて徐々に深くなるＶ字状、開口部付近の上面が大きく開くＹ字状、開口部から底部まで壁が垂直で、底部中央が窪むＵ字状、開口部から底部まで壁が垂直で底部が平坦なビーカー状などに分かれる。堆積土は黒褐色シルト、黄褐色シルトで構成されているものが多い。出土遺物は31号陥し穴状遺構から石鏃１点（251）、57号陥し穴状遺構から土師器甕の口縁部破片２点（252・253）が出土している。各陥し穴状遺構の規模などの詳細は第４表のとおりである。

（11）性格不明遺構

３基検出した。２・３号性格不明遺構はＣ区の山頂から南東側に延びる痩せ尾根に対し、直交する方向で階段状に造成したと考えられる平場を検出した。竪穴建物の壁状に斜面を切り、これに平行して溝を検出した。竪穴建物や堀（溝）の可能性もあるため、不明遺構とした。

１号性格不明遺構（第148図、写真図版168）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｂ区斜面中段のⅢＢ18ａグリッドに位置する。斜面部分のⅣ層上面を精査中に暗褐色砂質シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、炭化物がほぼ平坦に全面から出土した（埋土２層）。さらに２層を掘り下げると、平坦な底面と３条の直線的な溝を確認した。南東側は崩落しており、南側は45号土坑に壊されている。
＜平面形・規模＞　残存部分は2.20×2.17ｍで、扇形もしくは方形基調である。
＜堆積土＞　埋土は人為堆積で、暗褐色砂質シルトを主体とする。
＜壁・底面＞　壁はやや急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。溝は確認できた南側と中央の２条では検出面から連続しており、３条とも壁面から底面にＬ字状に立ち上がっている。溝の断面形はコの字である。壁部分での炭化物（２層）の厚みは６～12㎝程度である。炭化物は縦に細かくなった炭化材である。
＜遺物＞　出土していない。
＜時期＞　検出状況から平安時代前半（９世紀後半～十和田ａ火山灰以前）の可能性が高い。
＜遺構の性格＞　炭置き場の可能性が考えられる。

２号性格不明遺構（第149図、写真図版169）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区の山頂から南東側に延びる痩せ尾根のⅢＡ８ｋグリッド付近に位置し、Ⅳ層で検出した。斜面に直交する形で竪穴建物の壁のように階段状に掘削して平場を造成し、掘り込みに沿って溝を検出した。重複関係にある遺構はない。
＜規模＞　壁状に掘られた部分は長さ10.57ｍ、これと平行する溝は途中、撹乱に切られるが長さ4.59ｍ、幅26～39㎝、深さ５～７㎝をそれぞれ測る。造成された底面は傾斜４°とほぼ平坦である。
＜遺物＞　古代の土器41.3ｇ、羽口4.4ｇ、金属遺物21.6ｇが出土し、うち２点を図化・掲載した。254は土師器甕の口縁部破片、255は鉄製品で刀子である。
＜時期＞　周辺遺構と同様に９世紀後葉～10世紀初頭頃と推定される。

３号性格不明遺構（第149図、写真図版170）
＜位置・検出状況・重複関係＞　Ｃ区の山頂から南東側に延びる痩せ尾根に位置し、Ⅳ層で検出した。ⅢＡ10ｍグリッドを南端とする。斜面に直交する形で竪穴建物の壁のように階段状に掘削して平場を造成し、掘り込みに沿って溝を検出した。75号土坑と重複関係にあり、これより新しい。

＜規模＞　掘削箇所の壁面は50°傾き、長さ12.75mである。これと平行する溝が２条あり、規模は西側が長さ3.96m、幅27～46cm、東側が長さ1.86m、幅30～48cmをそれぞれ測る。造成された底面は傾斜３°とほぼ平坦である。
＜遺物＞　古代の土器19.1ｇが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。
＜時期＞　周辺遺構と同様に９世紀後葉～10世紀初頭頃と推定される。

（12）柱 穴 状 土 坑（第165・166図）

今回の調査で77個の柱穴を検出した。調査区別にみるとＰ１～22がＡ区、Ｐ50～77がＢ区、Ｐ23～39がＣ区、Ｐ40～49がＤ区である。うちＰ１～22、Ｐ23～39、Ｐ40～49、Ｐ51～62、Ｐ63～77が集中した箇所で検出されている。Ｐ51～61は31・39号竪穴建物、Ｐ63～77は32・45号竪穴建物等と重複する位置にあり、いずれかの遺構に伴う可能性も考えられるが竪穴建物の床面検出段階よりも先に確認されたことから竪穴建物よりも新しい時期の建物に伴う柱穴と判断した。規模等は第５表のとおりである。遺物はＰ２から銭貨１点（256）、Ｐ５から砥石１点（257）、Ｐ23から土師器甕の口縁部破片１点（258）が出土している。

（13）そ　の　他

人為的に掘削された痕跡はないが、Ａ区南端、ＶＡ10ｂグリッド付近を中心に旧沢跡の痕跡を検出した。検出したのは左岸の縁部分で埋土から多くの遺物が出土している。沢の埋没年代は遺物から15世紀以降と推測される。

（14）遺構外出土遺物（第198～201図）

各調査区の遺構以外から出土した遺物である。多くは遺構の検出中にその周辺から出土したものとＡ区の旧沢跡から出土したものである。図化・掲載した遺物は縄文土器、弥生土器、古代土器、陶器、羽口、金属遺物、銭貨、石器である。

縄文・弥生土器（259～277）
該期の土器は総量で5820.3ｇ、うち遺構外からは3684.7ｇが出土した。259～266はＡ区南東側のＶＢ３ｅグリッド付近のＶ層中から出土した深鉢の破片で、口縁～胴部の一部である。縄文時代早期中葉の物見台式土器に比定される土器群で貝殻復縁文を特徴とし、円形刺突文、沈線文などが施されている。268は深鉢土器の口縁部破片であるが、口唇部は平縁である。後期に属すると考えられる。269・270は晩期中葉の土器で269は鉢、270は下部が欠損しているが台付鉢と考えられる。271～277は弥生時代の土器と考えられ、271・272は深鉢、273～276は高坏、277は台部であるが器種は不明である。271～276は旧沢跡から出土したものでいずれも弥生時代前期、277は中～後期に属すると考えられる。

土師器（278～280）
遺構外から古代の土器は土師器21847.6ｇ、須恵器837.5ｇが出土したが遺構内出土の土器と同様に復元できないような破片がほとんどである。このうち土師器３点を図化・掲載した。278は坏で器面調整は外面ロクロナデ、内面に黒色処理が施されている。280・281は土師器甕で器面調整は内外面ともにナデが施されている。

陶器（281～283）

３点を図化・掲載したが、いずれも埦の口縁～体部の破片で、遺構検出作業中に表土下のⅡ層（黒褐色土層）から出土した。

羽口（284）

遺構外から総量16347.2ｇが出土した。大半が22号竪穴建物の検出時に出土したもので１点を図化・掲載した。284は長さ23.7㎝、口径13.7㎝で先端に鉄滓が付着している。

金属遺物（285～294）

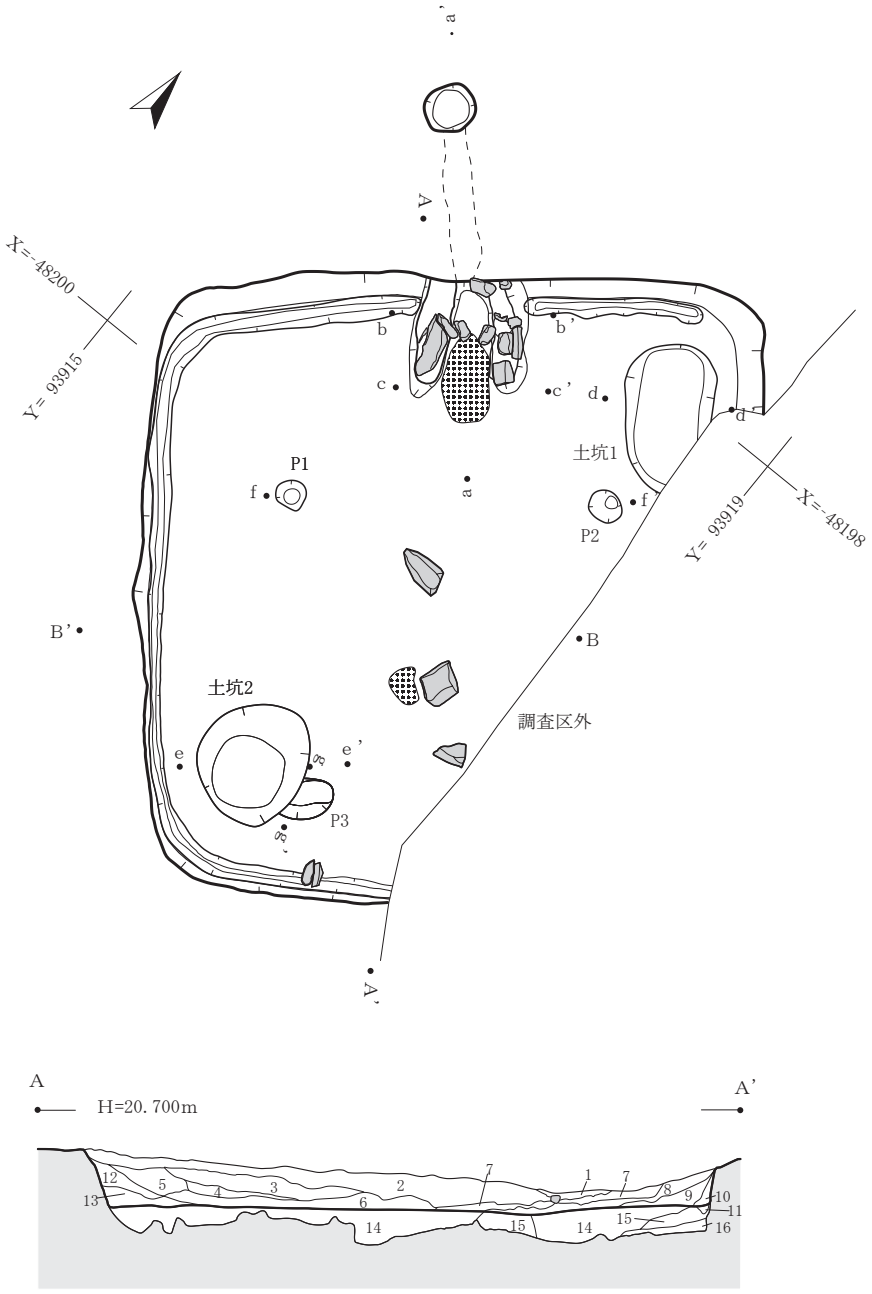
総量で3173.1ｇ出土し、うち遺構外から855.8ｇが出土した。掲載したのは鉄製品９点と銅製の鏡１点で、285・286は刀子、287～289は鉄鏃、290は鎹、291・292は円筒状の形状を呈し、内側に何かを挟み込んで装着して使用したと考えられるが、詳細は不明である。294は鍋の口縁部の破片で旧沢跡の埋土から出土した。293の和鏡はＤ区、ⅡＢグリッドの平場から表採で見つかったものである。

銭貨（295～306）

遺構外から12点出土した。295～299は北宋銭で銭銘は295が『元豊通寶』、296～298が『元祐通寶』、299が『大観通寶』である。300は明銭で『永楽通寶』、301も『永』の文字以外は判読が難しいが『永楽通寶』と考えられる。302～304は『寛永通寶』、305は摩滅により判読不能、306は無文銭である。

石器（307～312）

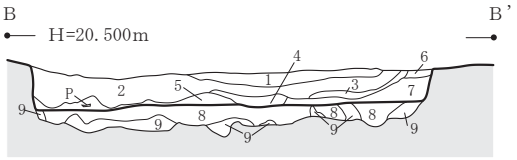
６点図化・掲載した。器種は307～309は石鏃である。310は石錐で石鏃を再利用し、先端部を加工したものと考えられる。311は石匙で幅広の横長の形状で下部に刃部をもつ。312は磨製石斧で石材には早池峰山周辺で採取される蛇紋岩が使用されている。



A－A’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色焼土(10YR6/6) 1％未満含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径1～2㎜の礫2～3％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径1～2㎜の礫5～7％含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径1㎜) 7～10％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径1㎜) 1～2％含む
6　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径2～3㎜) 1％未満含む
7　7.5YR4/4 褐色焼土80%、7.5YR2/2 黒褐色シルト20%の混合土層 粘性なし しまり中 炭化物2～3％含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 径1～2㎜の礫1％未満含む
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径2～5㎜) 1％未満含む
10　7.5YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6 径3～7㎜) 1％未満含む
11　7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱　壁溝
12　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 橙色焼土(7.5YR6/6)15～20%ブロック状に含む
13　7.5YR7/6 橙色シルト20%、7.5YR3/1 黒褐色焼土80%の混合土層 粘性弱 しまり中 炭化物1％未満含む
14　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)10%、径3～5㎜の礫3～5％含む
15　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径5～7㎜の礫1～2％含む
16　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径5～7㎜の礫1％未満含む　＊12～16は貼床

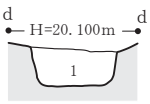
0　1:50　2m

第13図　1号竪穴建物1



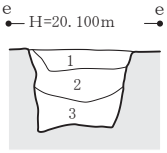
B－B'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色焼土(10YR6/6)１%未満含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 径１～２㎜の礫２～３%含む
3　7.5YR4/4 褐色焼土80%、7.5YR2/2 黒褐色シルト20%の混合土層 粘性なし しまり中 炭化物２～３%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱
5　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒（10YR7/6 径２～３㎜）１%未満含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)３～５%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 十和田aテフラ15～20%、明赤褐色焼土粒(５YR5/8)、炭化物各１%含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)10%、径３～５㎜の礫３～５%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径５～７㎜の礫１～２%含む

土坑1



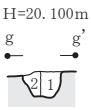
d－d'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR6/6)20～25%混じる

土坑2



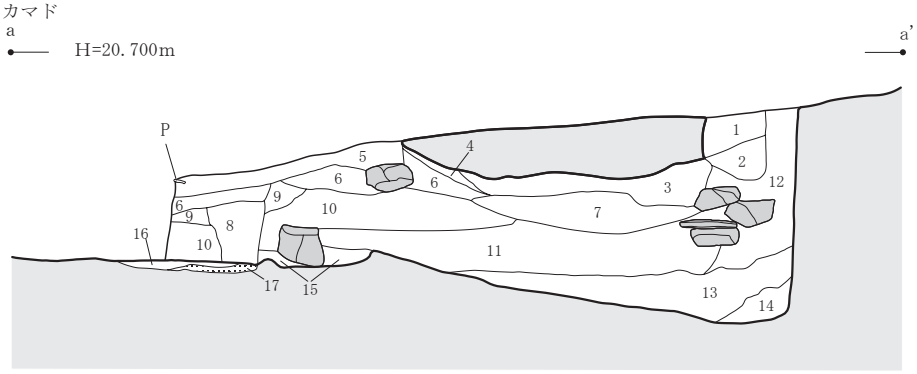
e－e'
1　10YR2/1 黒色シルト70%、10YR6/6 黄褐色シルト30%の混合土層 粘性中 しまり弱
2　10YR2/2 黒褐色シルト80%、10YR6/6 黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR6/6 黄褐色シルト30%の混合土層 粘性中 しまり弱

P3



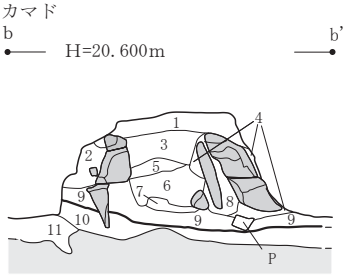
g－g'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄橙色シルト粒(10YR7/8 径10～15㎜)２～３%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR3/3 暗褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり中 黄橙色シルト(10YR7/8 径10～15㎜)１%含む

カマド



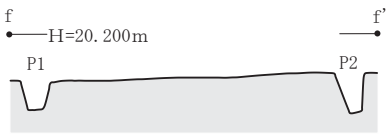
a－a'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色焼土(10YR6/6)15～20%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径５㎜)１%含む
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径５㎜)、径２㎜の礫を各１%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径５～７㎜)１%、径２～５㎜の礫２～３%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)１～２%含む
10　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)１%含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
12　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%、炭化物１～２%含む
13　7.5YR3/2 黒褐色焼土 粘性中 しまり弱 明赤褐色焼土(５YR5/6)10～15%、炭化物層ブロックで５～７%含む
14　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR7/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり弱
15　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR7/6)７～10%含む
16　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6)３～５%、炭化物２～３%含む
17　7.5YR5/6 明褐色焼土70%、10YR2/1 黒色シルト30%の混合土層 粘性中 しまり弱

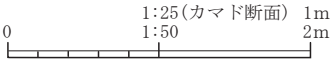
カマド



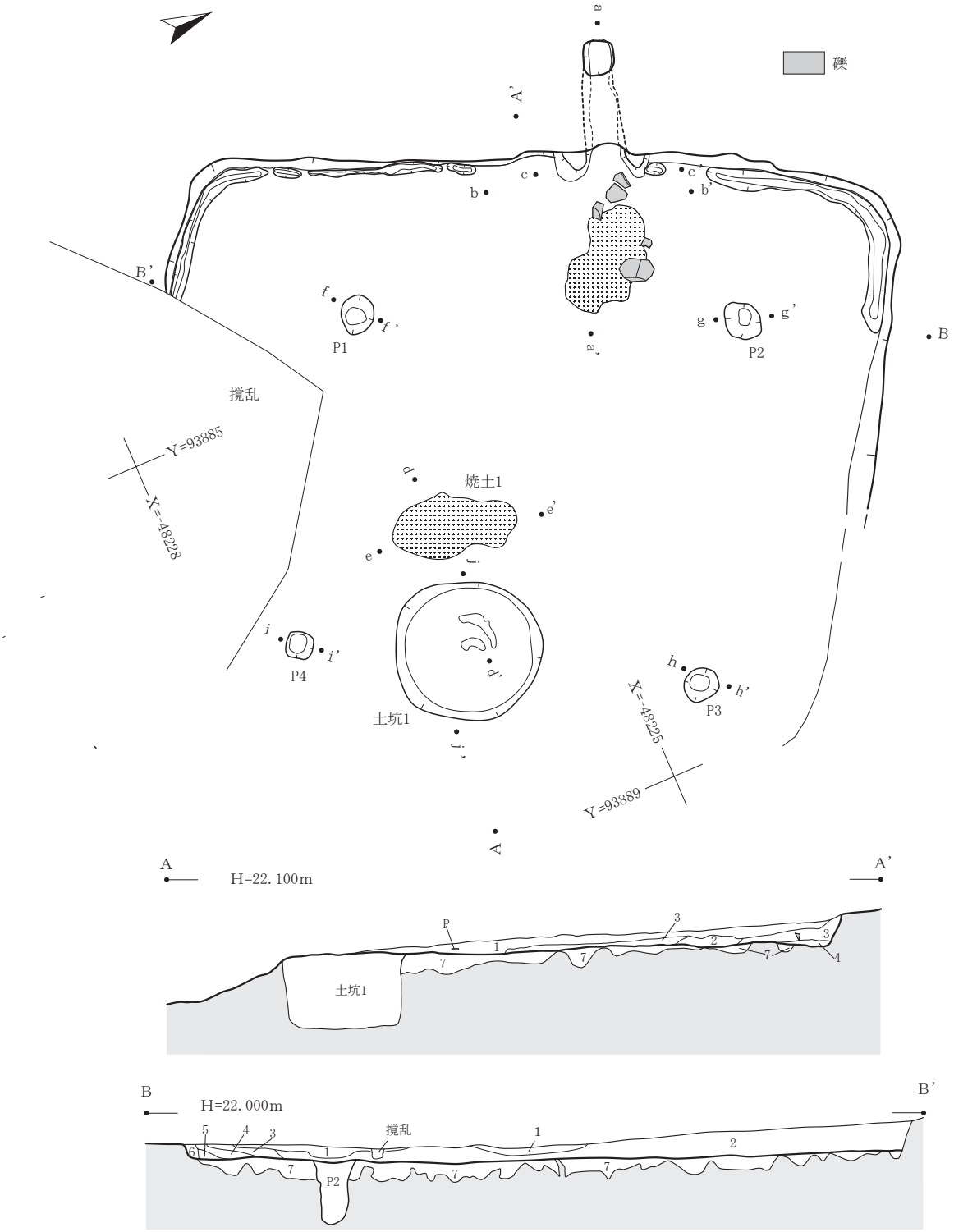
b－b'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径５㎜)１%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱 浅黄橙色焼土(10YR8/4)20%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径５㎜)、径２㎜の礫を各１%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 黄橙色シルト(10YR8/6)３%含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 黄橙色シルト(10YR8/6)１%含む
7　7.5YR4/4 褐色焼土70%、10YR2/1 黒色シルト30%の混合土層 粘性中 しまりなし
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)１～２%含む
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR7/6)７～10%含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
11　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)10%、径３～５㎜の礫３～５%含む

P1・P2





第14図　１号竪穴建物２

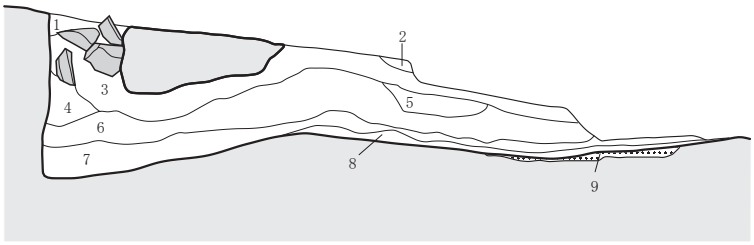


A－A’、B－B’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1～2%、径7～10㎜の炭化物1%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1%未満含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 貼床
7　10YR2/2 黒褐色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり強 径3～7㎜の礫(風化花崗岩) 1～2%含む

0　1:50　2m

第15図　2号竪穴建物1

カマド
a　H=22.100m　a’

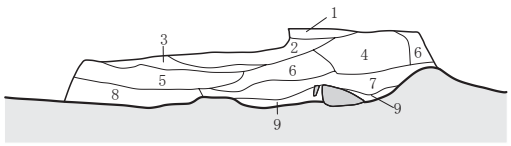


a－a’
1　10YR2/3 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり強 炭化物３～５%、黒褐色焼土(7.5YR3/2) ２～３%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) １%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) １～２%含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4) １%含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし にぶい橙色焼土(7.5YR6/4)15%、炭化物５～７%含む
8　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR6/4) １～２%含む
9　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性中 しまり強 焼成面

カマド
c　H=22.000m　c’

c－c’
1　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) ５%、径５㎜の風化花崗岩礫粒３～５%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～20%混じる

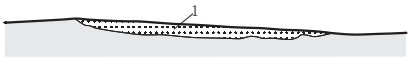
カマド
b　H=22.000m　b’



b－b’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) １%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6) ３～５%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 炭化物15～20%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4)20～25%含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 褐色焼土(7.5YR4/4) １%、炭化物１%未満含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4) １%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4) ２～３%含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4) １～２%含む
9　10YR2/1 黒色シルト10%、10YR6/4 にぶい黄橙色シルト40%、7.5YR5/6 明褐色焼土50%の混合土層 粘性中 しまり強

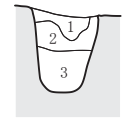
焼土1
d　H=21.700m　d’

焼土1
e　H=21.700m　e’



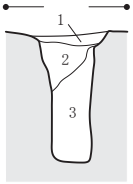
d－d’、e－e’
1　10YR2/3 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり強 炭化物３～５%、黒褐色焼土(7.5YR3/2) ２～３%含む

P4
i　H=21.400m　i’



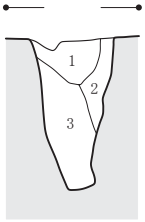
P4
i－i’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) ５%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR7/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまりなし
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強

P1
f　H=21.700m　f’



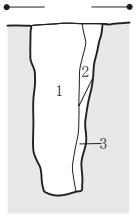
P1
f－f’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) ５～７%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) ３%、径10㎜の鉄滓 １～２%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR7/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性中 しまりなし

P2
g　H=21.700m　g’



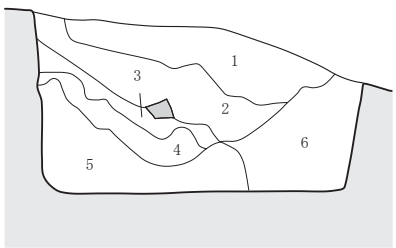
P2
g－g’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6) ５%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト30%、10YR7/6 明黄褐色シルト70%の混合土層 粘性中 しまりなし
3　10YR3/1 黒褐色シルト70%、10YR7/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性強 しまりなし

P3
h　H=21.600m　h’



P3
h－h’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) ２～３%、黄橙色焼土(7.5YR7/8) １%未満含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト60%、10YR7/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまりなし
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)10%混じる

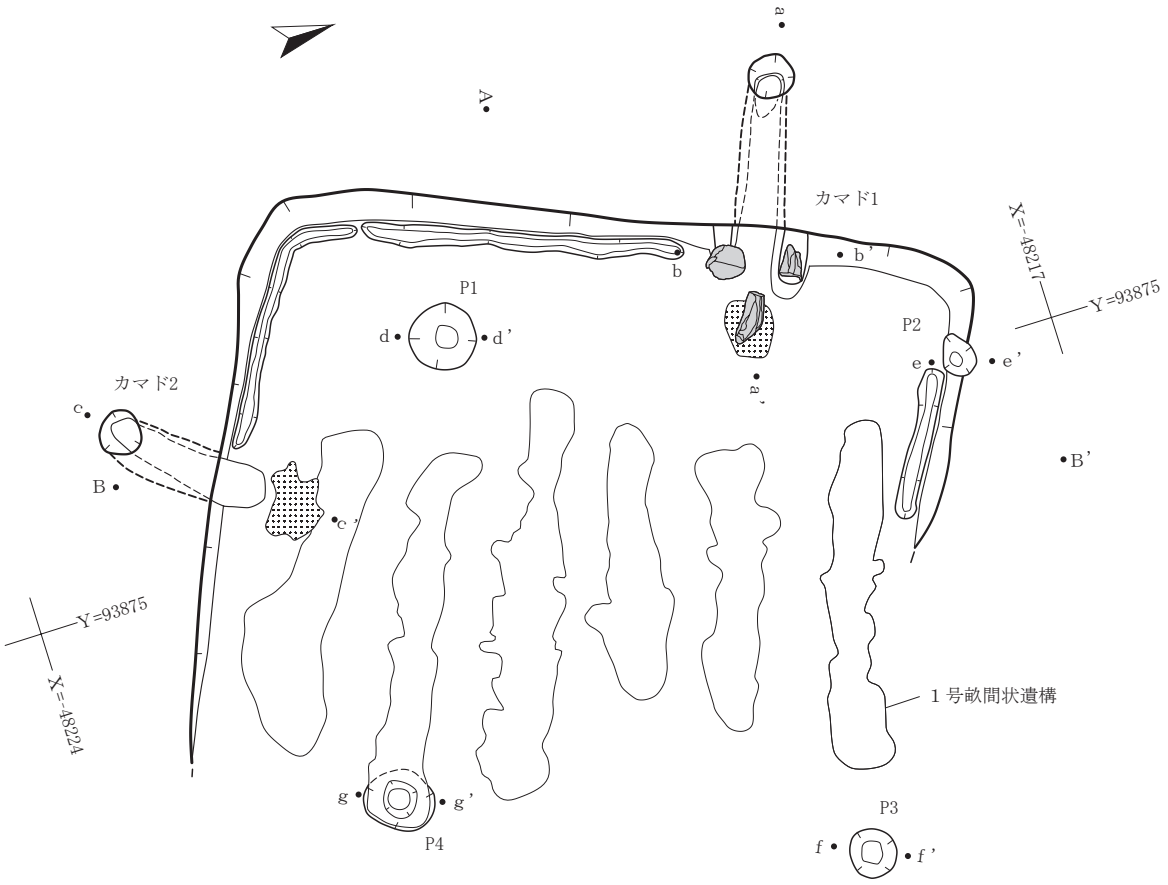
土坑1
j　H=21.700m　j’

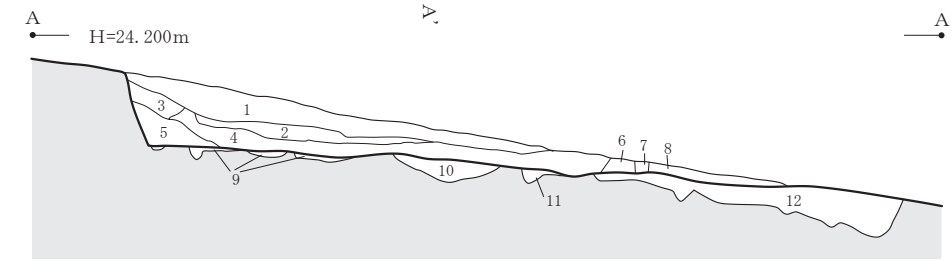


土坑１
j－j’
1　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) ２～３%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8)10%含む
3　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) １%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/8) １%、径１㎝の炭化物１%含む
5　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2) ３%、明黄褐色シルト(10YR6/8) ２%含む
6　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) ２%、黄褐色シルト(10YR5/8) ３～５%含む

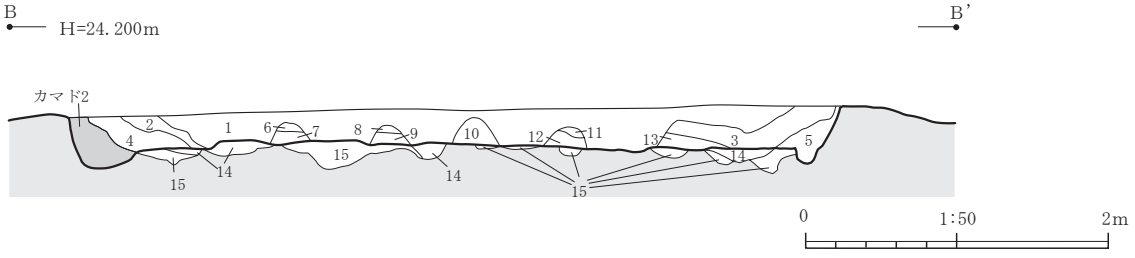
0　1:25　1m

第16図　２号竪穴建物２





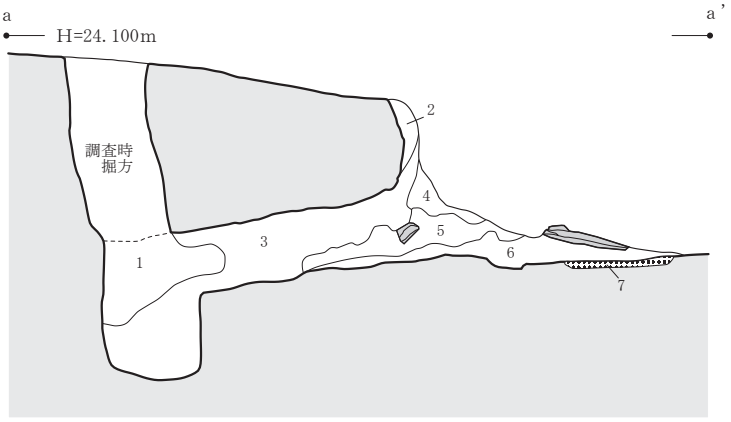
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黒色シルト(10YR2/1)15%含む
6　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり強
7　10YR2/2 黒褐色シルト粘性弱 しまり強
8　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)10%含む
10　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3％、にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 5％含む
11　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強
12　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む



第17図　3号竪穴建物1

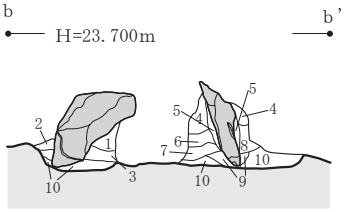
B－B’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 暗褐色シルト(10YR6/8) 3～5％含む
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％未満、暗赤褐色焼土(5YR3/6) 1％未満含む
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強
6　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
8　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
9　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
10　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) 5％含む
11　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり強
12　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)20％含む
13　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり強
14　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 1％含む
15　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 7～10％含む

カマド1



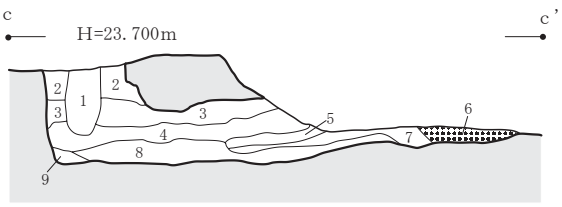
a－a’
1　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性強 しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)15％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3％含む
5　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 5～7％含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
7　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強

カマド1

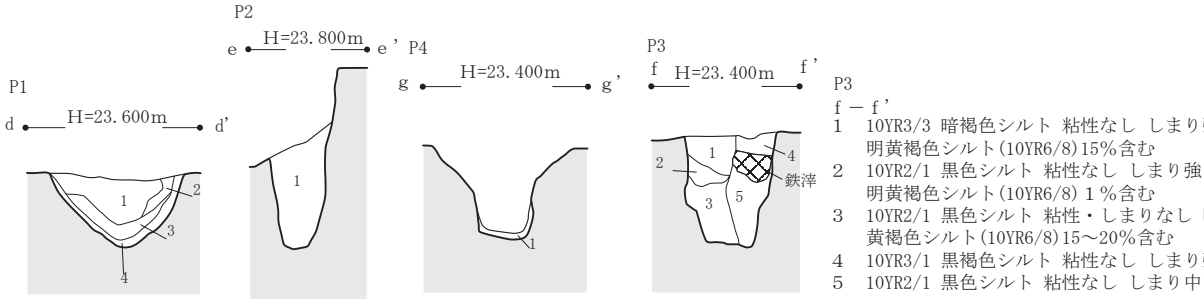


b－b’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
2　10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり強
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
4　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)15％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/6) 5％含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径1cmの炭化物含む 明赤褐色焼土(5YR 5/8) 1％未満、暗褐色粘土質シルト(7.5YR 3/3) 1％含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) 7～10％含む
9　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3～5％含む
10　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり強

カマド2



c－c’
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 1％含む
3　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 暗褐色シルト(10YR 3/4) 1％未満、黒褐色シルト(10YR2/2)10％含む
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR 6/6) 1％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 1％、黒褐色シルト(10YR2/3) 3％含む
6　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強 (燃焼部)
7　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3％含む
8　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強
9　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強



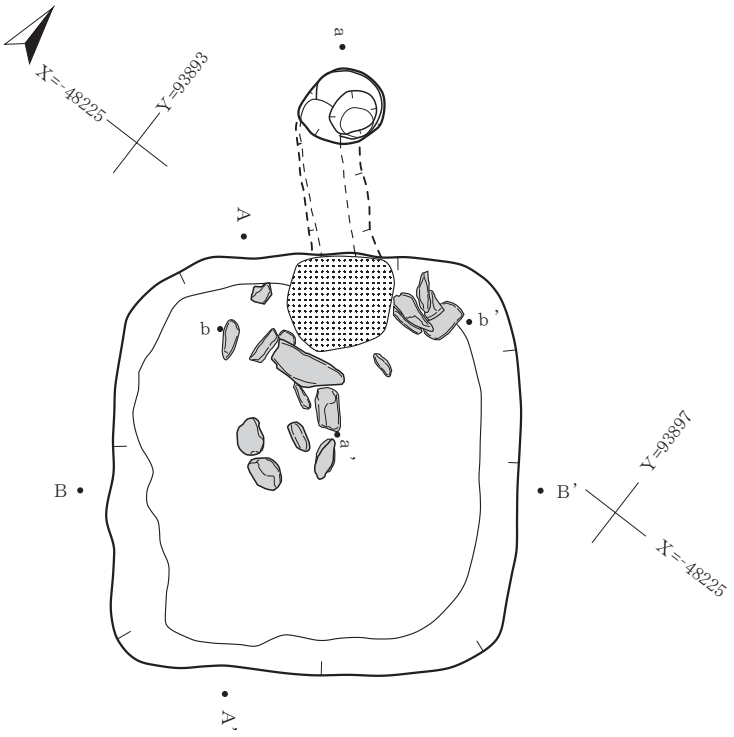
P1
d－d’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
2　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒色シルト(10YR2/1) 1％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし
4　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強

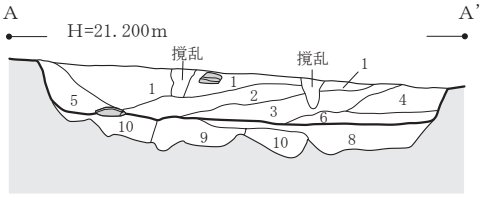
P2
e－e’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし

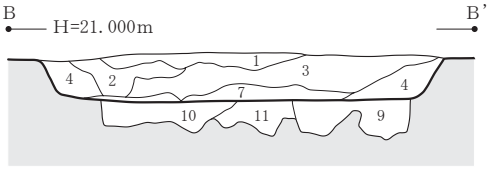
P4
g－g’
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中

P3
f－f’
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)15％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/8)15～20％含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中

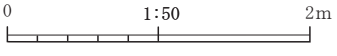
第18図　3号竪穴建物2





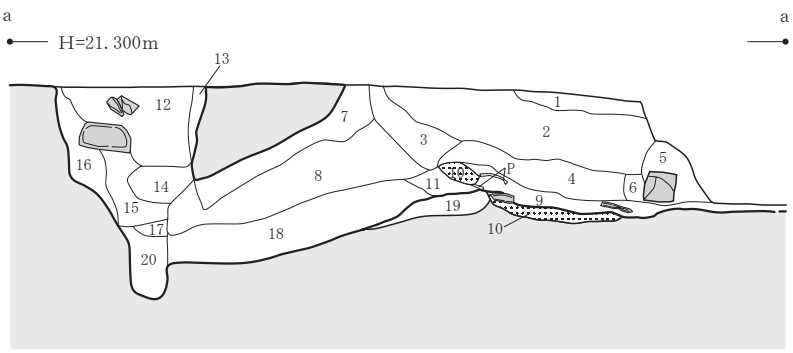


Ａ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) １％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 １層が40％混じる
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) ５～７％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト70％、10YR2/1 黒色シルト30％の混合土層 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) １％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 明褐色焼土(7.5YR5/6) ２％含む
6　10YR2/1 黒色シルト50％、10YR2/2 黒褐色シルト50％の混合土層 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) １～２％含む
7　10YR2/1 黒色シルト70％、10YR2/2 黒褐色シルト30％の混合土層 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR7/6) ３％含む
8　10YR2/1 黒色シルト30％、10YR3/2 黒褐色シルト70％の混合土層 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) １％含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ５％含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ２％含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) １％含む



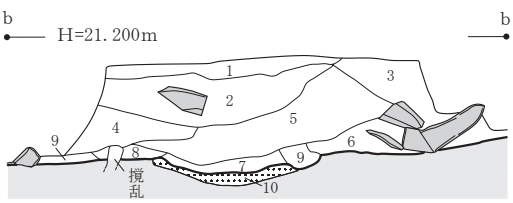
第19図　４号竪穴建物１

カマド

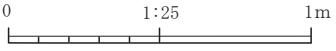


a－a'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6) 1～2%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)ブロックで15～20%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
4　10YR2/1～2/2 黒～黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 褐色シルト(10YR4/4)10%含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト80%、10YR4/4 褐色シルト20%の混合土層 粘性中 しまりなし
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径1～3㎜) 3%含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
9　7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/8) 1%含む
10　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成痕
11　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり中
12　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 1%含む
13　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし
14　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5%、褐色焼土(7.5YR 4/4) 5%含む
15　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)20～25%含む
16　10YR2/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
17　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1%含む
18　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中
19　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/8)20～25%含む
20　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中

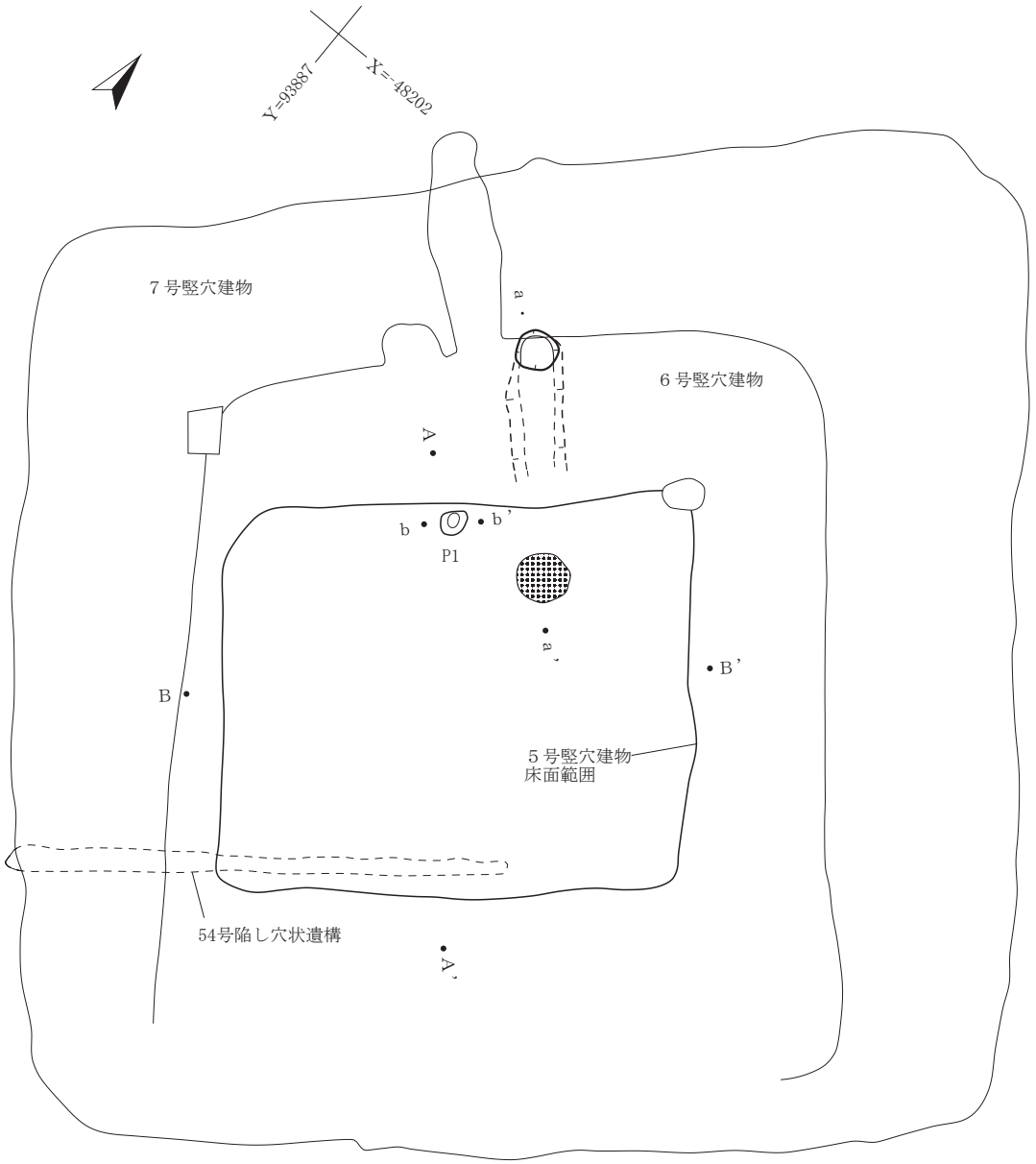
カマド

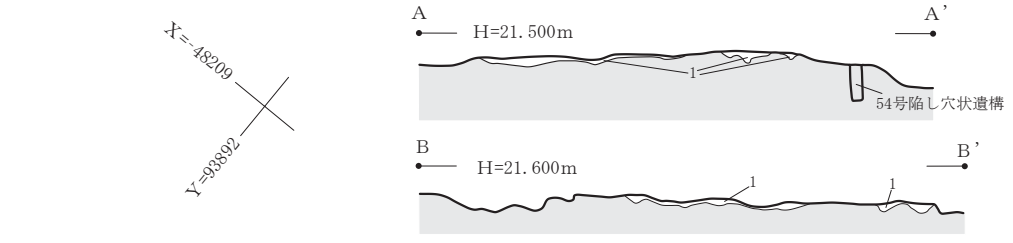


b－b'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6) 1～2%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)ブロックで15～20%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 褐色シルト(10YR4/4 径5～7㎜)粒状で1%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 褐色シルト(10YR4/4)ブロックで10%含む
5　10YR2/1～2/2 黒～黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 褐色シルト(10YR4/4) 1～2%含む
7　7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/8) 1%含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
9　7.5YR4/4 褐色焼土 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1) 3～5%含む
10　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成痕

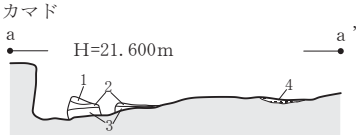


第20図　4号竪穴建物2

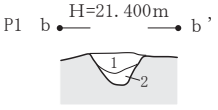




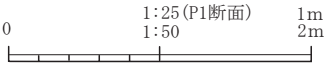
A－A'、B－B'
1　10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 暗褐色粘土質シルト(10YR3/3)20%含む



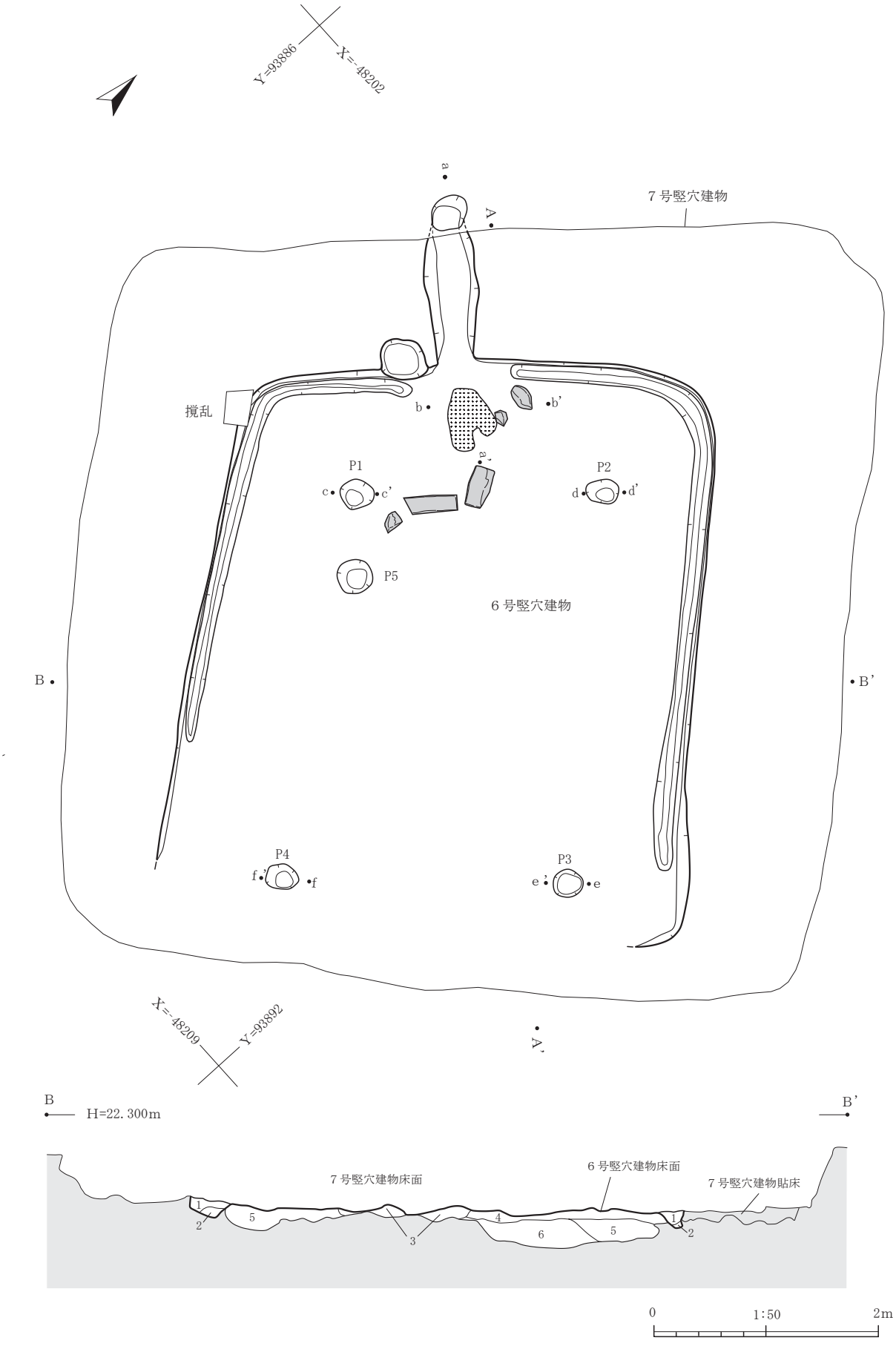
a－a'
1　10YR3/2 黒褐色シルト80%、10YR4/4 褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6) 1～2%含む
2　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6)10%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6)20%含む
4　5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中



P1
b－b'
1　10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性中 しまりなし 褐色焼土(7.5YR4/6)40%、径2～3㎜の炭化物3%含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中



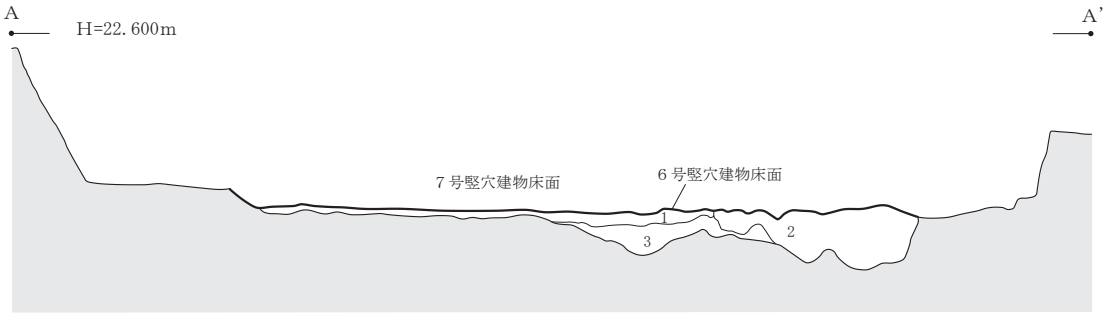
第21図　5号竪穴建物



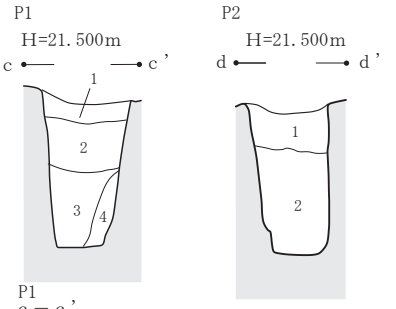
第22図　6号竪穴建物1

B－B’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR6/6 明黄褐色シルト70%、10YR3/1 黒褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中
4　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR3/1 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり中
5　10YR2/1 黒色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中
6　10YR6/6 明黄褐色シルト90%、10YR3/1 黒褐色シルト10%が霜降り状に混合 粘性中 しまり強

※1・2は壁溝、3～6は貼床土



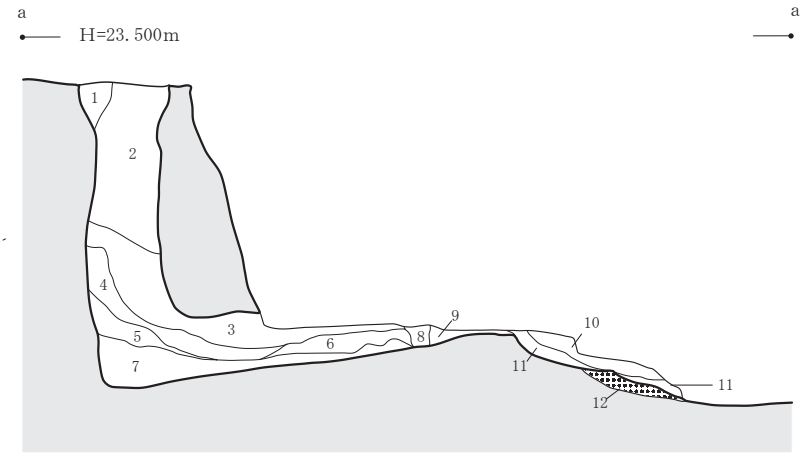
A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR3/1 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり中
2　10YR2/1 黒色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中
3　10YR6/6 明黄褐色シルト90%、10YR3/1 黒褐色シルト10%の混合土層 粘性中 しまり強

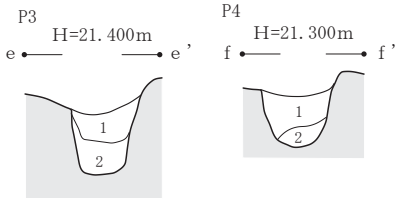


P1
c－c’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱
明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む
3　10YR3/1 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト30%の混合土層 粘性中 しまりなし
4　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまりなし

P2
d－d’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱
明黄褐色シルト(10YR6/6) 1%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱
明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
3　7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし

カマド



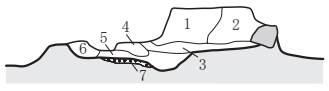


P3
e－e’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱
黄褐色シルト(10YR5/6) 1～2%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/6) 5%含む

P4
f－f’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
黄褐色シルト(10YR5/6) 1%含む
2　10YR2/1 黒色シルト60%、10YR5/6 黄褐色シルト40%の混合土層 粘性中 しまり強

a－a’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)20～25%含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2)20～25%含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまりなし
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5%含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む
10　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む
12　5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成痕

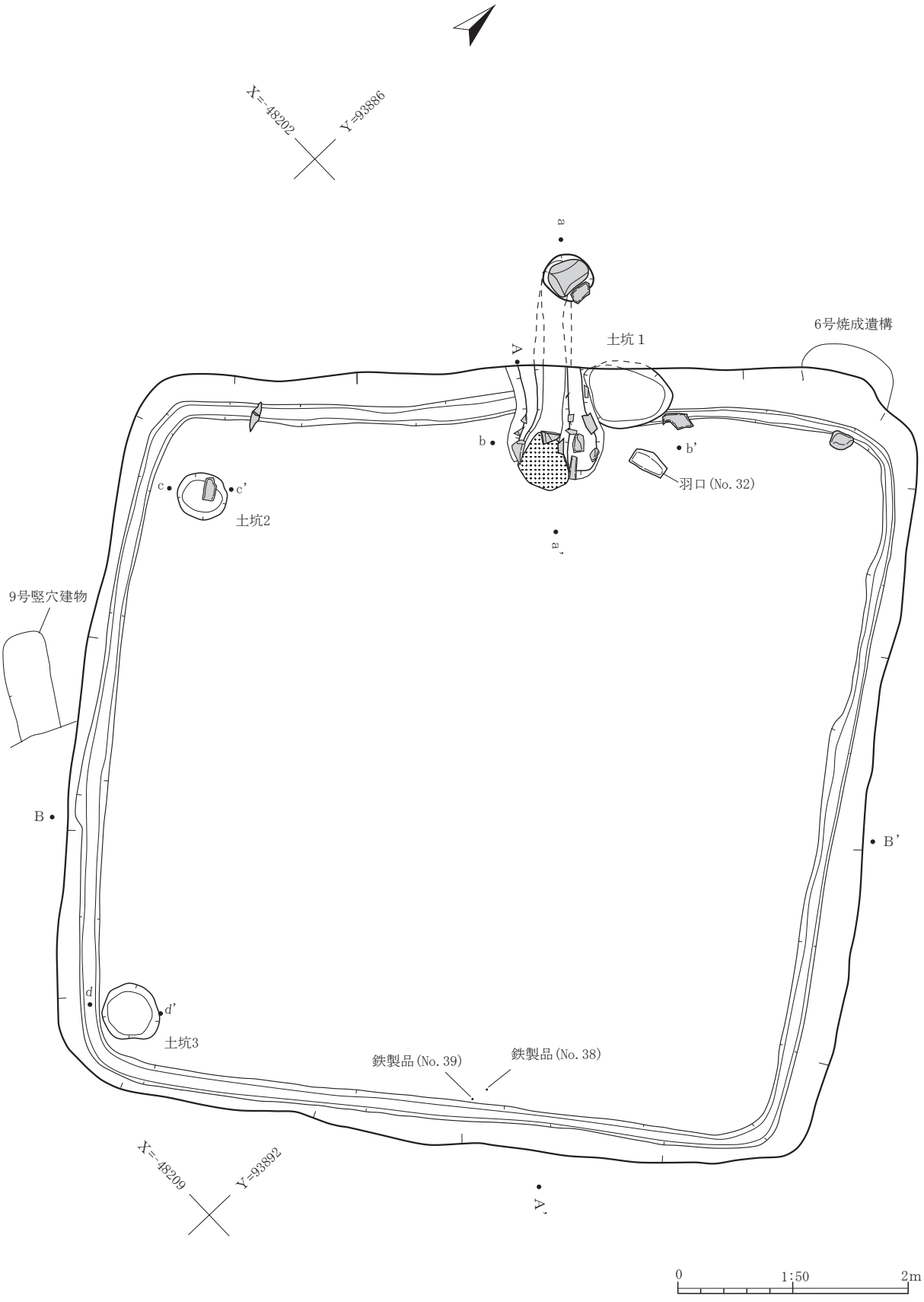
カマド



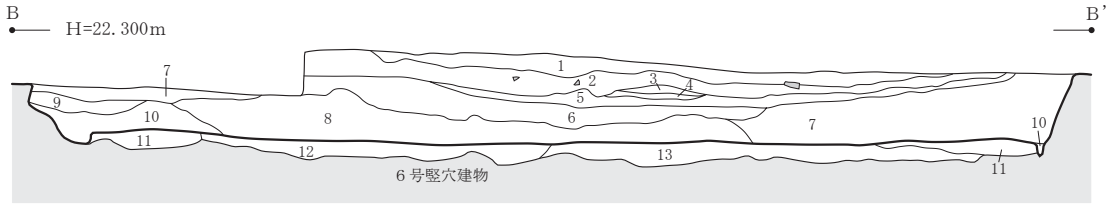
b－b’
1　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR7/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中
2　10YR2/1 黒色シルト50%、10YR7/6 明黄褐色シルト30%、10YR2/2 黒褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3～5%含む
4　7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性・しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 5～7%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 5%含む
6　10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中（袖土？）
7　5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成痕

1:25(カマド・柱穴) 1m
1:50 2m

第23図　6号竪穴建物2

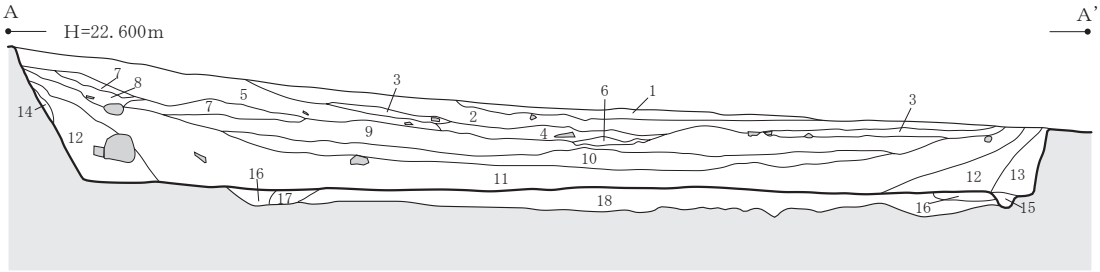


第24図　７号竪穴建物１

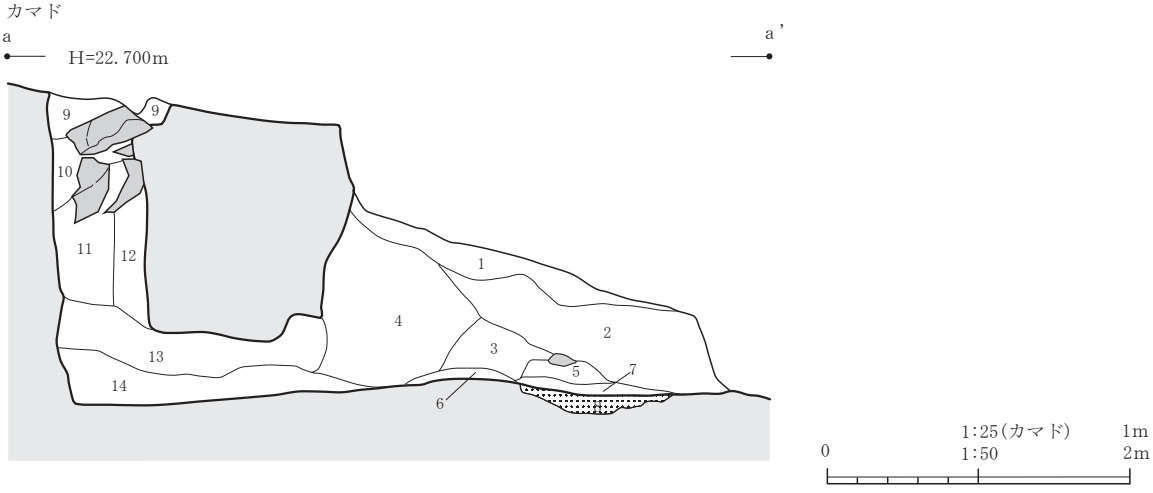


B－B'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 砂粒１～２％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 径５㎝の礫１％、径10㎜の炭化物１％未満含む
3　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%、炭化物１％未満含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 橙色焼土(7.5YR6/6) ３～５％含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ２％、径５～10㎜の炭化物１％含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) １％径３～５㎜の炭化物１％含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径３～５㎜) １％、径３～５㎜の炭化物１％含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ５～７％含む
10　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) １％含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト50%の混合土層 粘性中 しまり強
12　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径２～４㎜) １％含む
13　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中

＊７・９層は９号竪穴建物の埋土の可能性あり



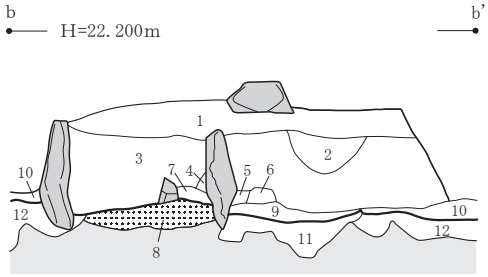
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 砂粒１～２％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 径５㎝の礫１％、径10㎜の炭化物１％未満含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)ブロックで１％、炭化物５％含む
4　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%、炭化物１％未満含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径７～10㎜) １～２％、径３～５㎜の炭化物１％含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３％含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄橙色シルト(10YR8/6)20%混入
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 径７㎜の炭化物１％未満含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 橙色焼土(7.5YR6/6) ３～５％含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ２％、径５～10㎜の炭化物１％含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径１～２㎜) １％含む
12　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径１～２㎜) １％含む
13　10YR2/1 黒色シルト50%、10YR3/2 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまりなし
14　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
15　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) １％含む 壁溝埋土
16　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト50%の混合土層 粘性中 しまり強
17　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径２～４㎜) １％含む
18　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中



第25図　７号竪穴建物２

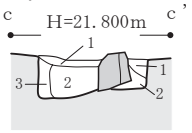
a－a’
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5％、黒色シルト(10YR2/1) 1～2％、褐色焼土(10YR4/4) 1％含む
5　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色焼土(7.5YR4/4) 1％含む
6　7.5YR4/4 褐色焼土 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)20％含む
7　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/6) 1～2％含む
8　5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成面
9　10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3) 5～7％含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)20％含む
11　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中
12　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)15～20％、住居側の壁面約1㎝幅で炭化
13　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5％含む
14　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 褐色焼土(7.5YR4/3) 1～2％含む

カマド



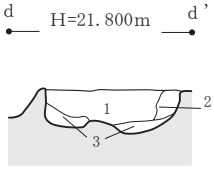
b－b’
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 2～3％含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト50％、10YR7/6 明黄褐色シルト50％の混合土層 粘性なし しまり中
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 橙色焼土粒(7.5YR7/6 径2～3㎜) 2～3％含む
6　10YR7/6 明黄褐色シルト40％、10YR2/1 黒色シルト30％、10YR3/1 黒褐色シルト30％の混合土層 粘性中 しまり弱
7　10YR8/6 黄橙色粘土質シルト 粘性強 しまり弱 明赤褐色焼土(5YR5/6) 1％含む
8　5YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱 しまり中 焼成面
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強 橙色焼土(7.5YR6/6)10～15％含む
10　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1～2％含む(住居埋土)
11　10YR2/1 黒色シルト20％、7.5YR2/2 黒褐色シルト70％、10YR7/6 明黄褐色シルト10％の混合土層 粘性中 しまりなし
12　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト80％、10YR2/2 黒褐色シルト20％の混合土層 粘性・しまり中（住居貼床）

土坑2

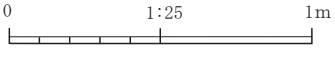


c－c’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3～5％含む
3　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒色シルト(10YR2/1)10％含む

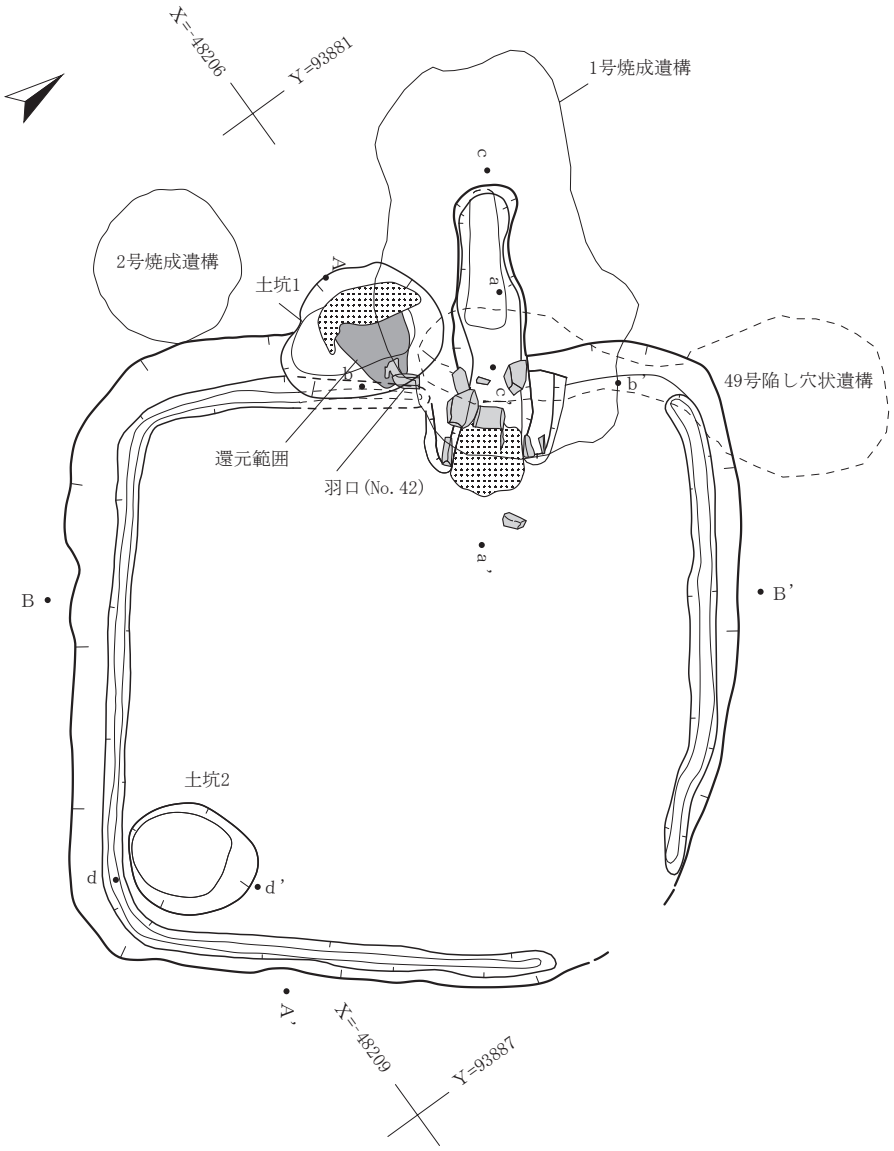
土坑3



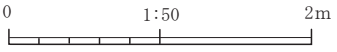
d－d’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 橙色焼土(7.5YR6/6) 1％、炭化物1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15％含む
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中



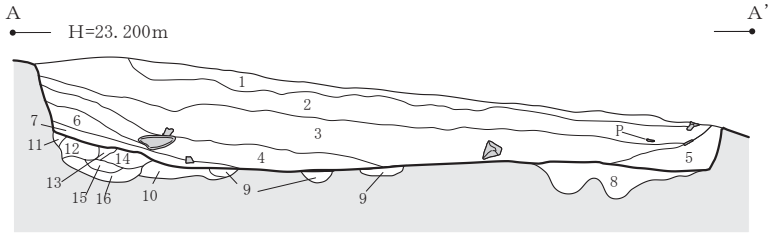
第26図　7号竪穴建物3



B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径10～15㎜の炭化物片３～５％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径７～20㎜) １％未満含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 砂層ブロックで３～５％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径７～20㎜) １％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) １％含む
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径７～20㎜) １％含む
7　10YR6/6 明黄褐色シルト50%、10YR2/3 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径10㎜の炭化物１％含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物10～15%、明黄褐色シルト(10YR6/6) １～２％含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり中 炭化物１％未満含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり中
12　10YR2/2 黒褐色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中

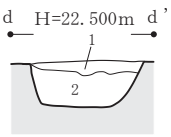


第27図　８号竪穴建物１



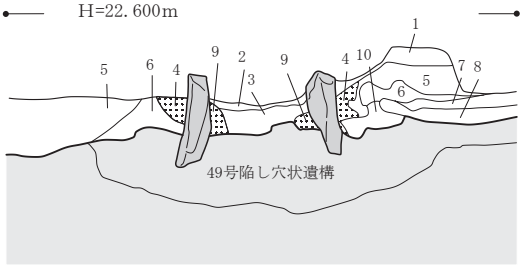
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径10～15㎜の炭化物片３～５％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径７～20㎜) １％未満含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径７～20㎜) １％含む
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径７～20㎜) １％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) １～２％含む、径５～８㎜の炭化物１～２％含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト50%、10YR2/3 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中
7　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)20～25%含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト50%の混合土層 粘性・しまり中 炭化物１%未満含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト30%の混合土層 粘性・しまり中
10　10YR3/1 黒褐色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト20%の混合土層 粘性・しまり中
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３～５％含む
12　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中
13　7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 浅黄色シルト(2.5Y7/3)20%含む
14　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
15　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)20～25%含む
16　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)15～20%含む
＊11～16は土坑１埋土

土坑2



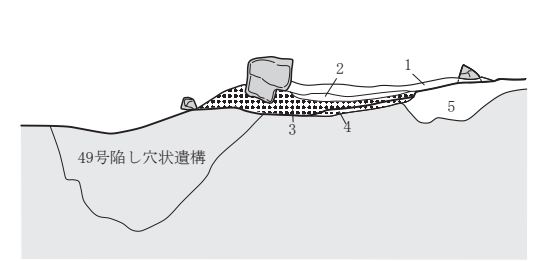
d－d'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 にぶい黄褐色シルト粒(10YR5/3 径２～５㎜) ２～３％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 にぶい黄褐色シルト粒(10YR5/3 径２～５㎜) 15～20%含む

カマド



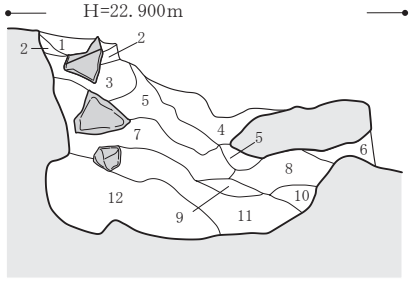
b－b'
1　10YR3/1 黒褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト５%含む
4　５YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/1)10%含む
5　10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 風化花崗岩粒(径５～７㎜) １%含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径20㎜の炭化物１%含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
9　５YR4/3 にぶい赤褐色焼土 粘性中 しまりなし
10　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中

カマド



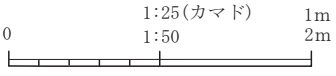
a－a'
1　10YR2/1 黒色シルト 炭化物層 粘性中 しまり弱
2　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)15%含む
3　５YR6/8 橙色焼土 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)20%含む
4　５YR6/8 橙色焼土 粘性・しまり中 焼成面
5　10YR2/2 黒褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中 貼床土

カマド

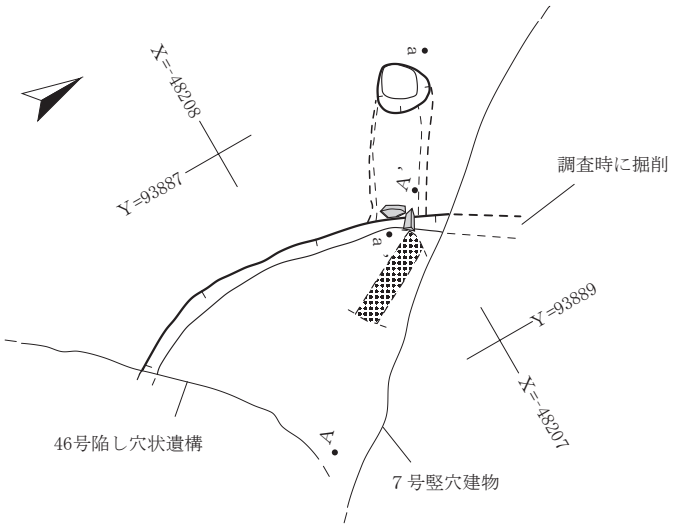


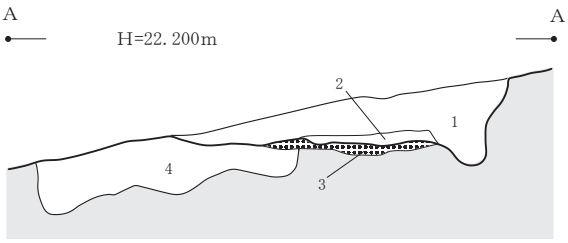
c－c'
1　2.5YR7/6 橙色シルト 粘性なし しまり中 還元色で層下半分は黒色(10YR2/1)
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
4　7.5YR4/6 褐色焼土 粘性弱 しまり中 上位に暗褐色シルト(10YR3/3)40%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３%、褐色焼土(7.5YR4/4) １%含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 にぶい褐色焼土(7.5YR5/4)ブロックで７～10%含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) １%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし
10　10YR2/2 黒褐色シルト50%、7.5YR4/4 褐色焼土50%の混合土層 粘性中 しまり弱
11　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 (Ⅵ層由来) 黒褐色シルト(10YR3/1)10～15%含む
12　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)ブロックで２～３%含む

＊１・４は１号焼成遺構堆積土

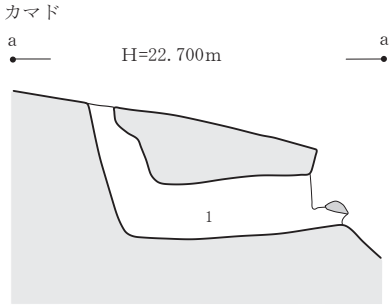


第28図　８号竪穴建物２



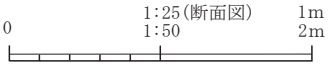


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径10～15㎜) 1～2％含む
3　5YR6/8 橙色焼土 粘性・しまり中 2層との間に炭化物層あり
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)15～20％含む 貼床土

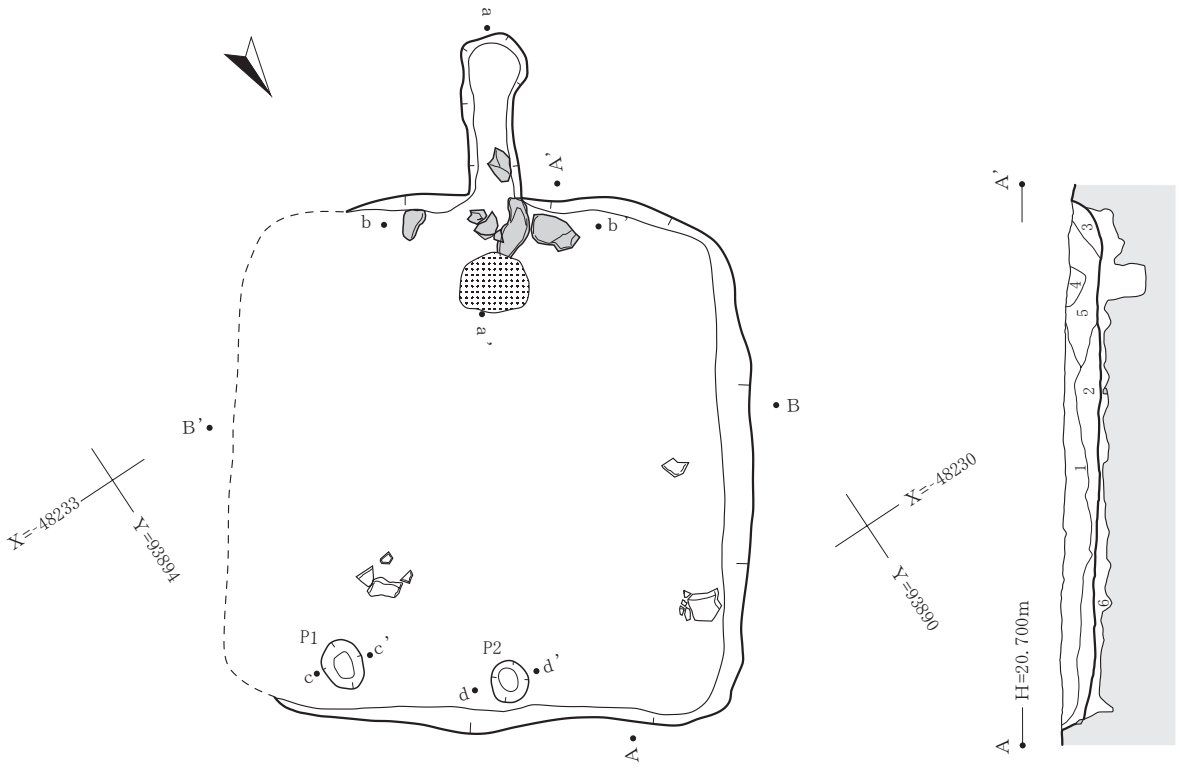


a－a'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)10％含む

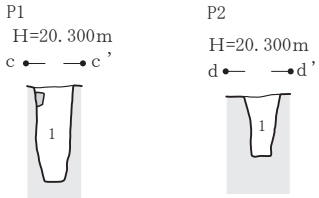
＊断面位置ずれのため図にはないが煙道部の下層は10YR2/1 黒色シルト60％、10Y7/6 明黄褐色シルト40％の混合土層（写真参照）



第29図　９号竪穴建物

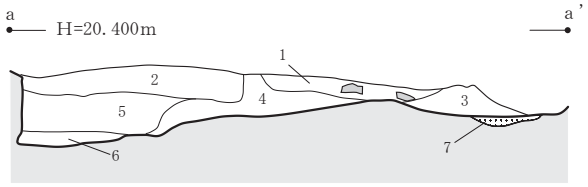


A－A'、B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR 6/6) 3～5%含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR 2/2)10～15%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1%含む
6　10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり強（貼床土）



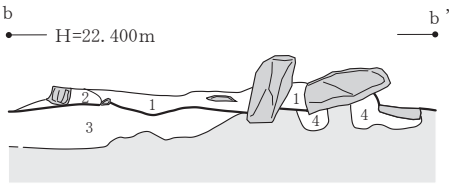
P1
c－c'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5%含む
P2
d－d'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む

カマド



a－a'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5%、径5～10㎜の炭化物1%、明褐色焼土(7.5YR5/6) 1%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6) 3%、明黄褐色シルト(10YR6/6) 5%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)20%の混合土層
5　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 10～15%、褐色焼土(7.5YR4/3) 7～10%ブロック状に含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
7　5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性・しまり中

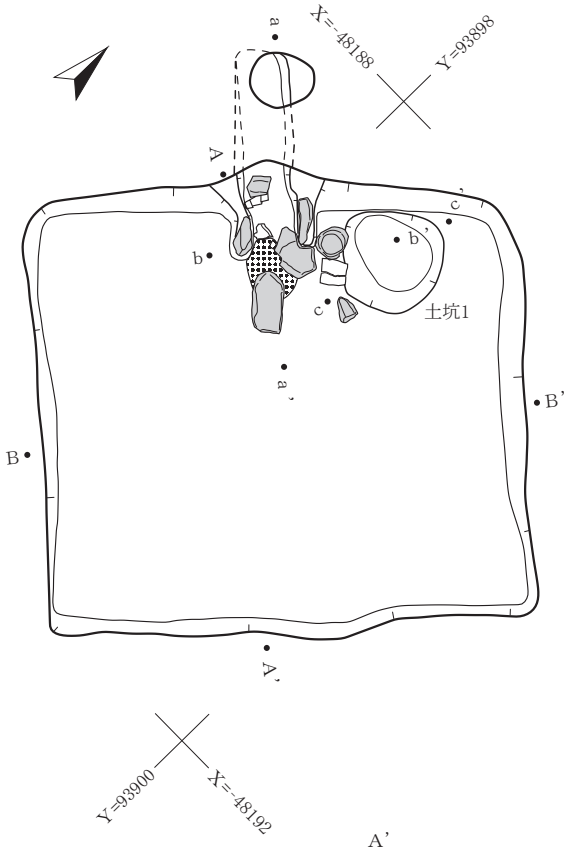
カマド

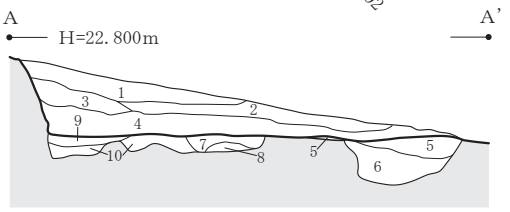


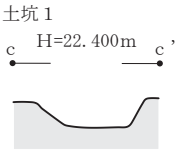
b－b'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR3/1 黒褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む

1:25(カマド断面) 1m
0　1:50　2m

第30図　10号竪穴建物

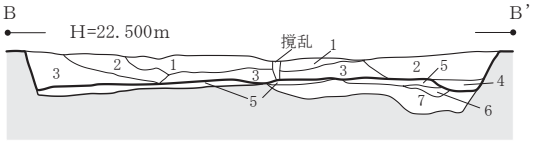






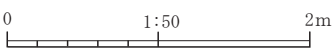
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径５～７㎜の炭化物１％含む
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径10㎜) １％含む
5　10YR2/1 黒色シルト50%、10YR3/3 暗褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり中 貼床土
6　10YR2/3 黒褐色シルト50%、10YR2/1 黒色シルト20%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり中
7　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
8　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中
9　10YR2/2 黒褐色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性中 しまり弱
10　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり中

＊５～10層は貼床土

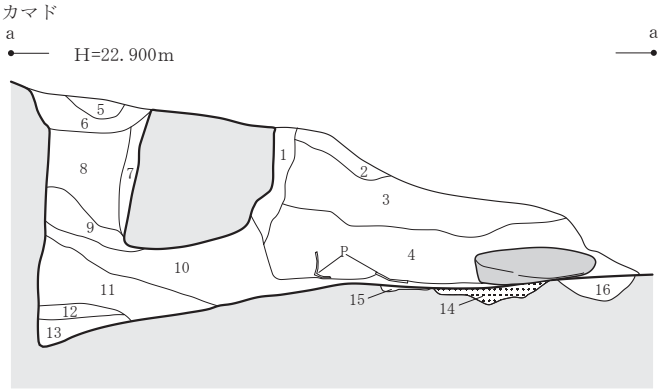


B－B'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径10㎜) １％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 壁溝
5　10YR2/1 黒色シルト50%、10YR3/3 暗褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり中 貼床土
6　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
7　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 炭化物３%、明黄褐色シルト(10YR6/6) １％含む

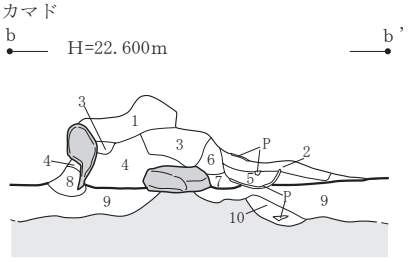
＊５～７層は貼床土



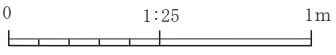
第31図　11号竪穴建物１



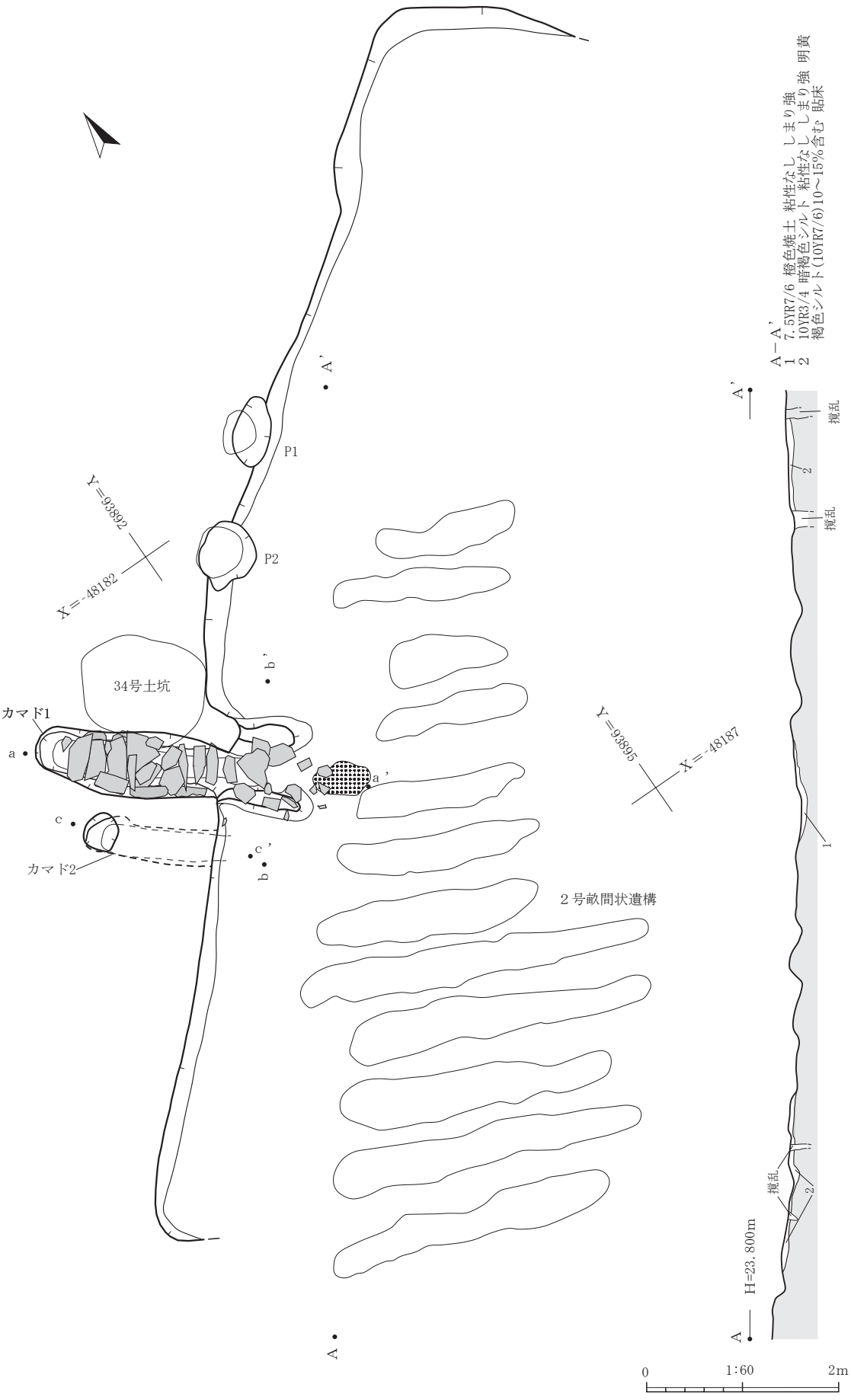
a－a'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまりなし
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 にぶい褐色焼土粒(7.5YR5/4 径3～5㎜) 1%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径2～4㎜) 1%含む
7　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
8　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) 2～3%含む
9　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 明黄褐色シルト粒(10YR6/6) 5%含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 黒褐色シルト(10YR3/1)10～15%含む
11　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりなし
12　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりなし
13　10YR2/1 黒色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまりなし
14　5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成面
15　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
16　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5%含む



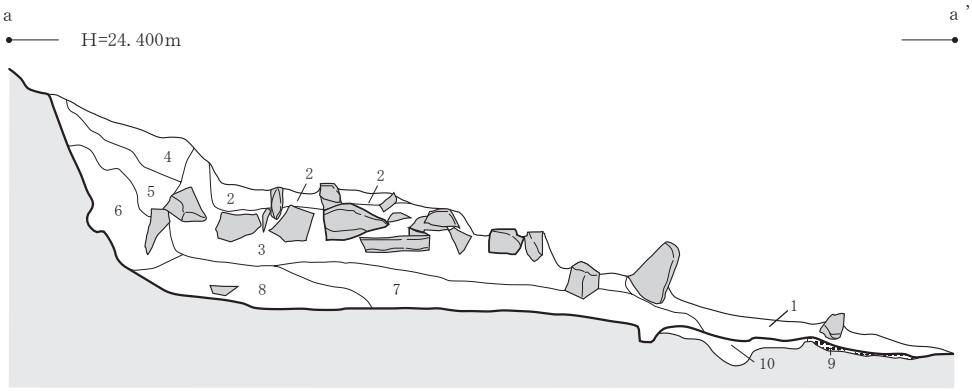
b－b'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径3～5㎜)%含む
2　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり弱
3　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR5/6 黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまりなし
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)10%、にぶい褐色焼土粒(7.5YR5/4 径3～5㎜) 1%含む
5　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり中
6　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性中 しまりなし
7　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
9　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 3%含む
10　7.5YR6/6 橙色焼土20%、10YR6/6 明黄褐色シルト80%の混合土層 粘性・しまり中



第32図　11号竪穴建物2

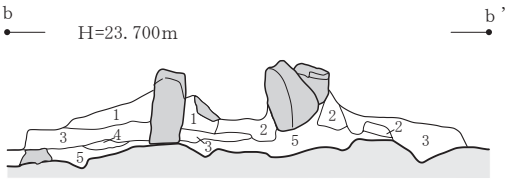


第33図　12号竪穴建物１



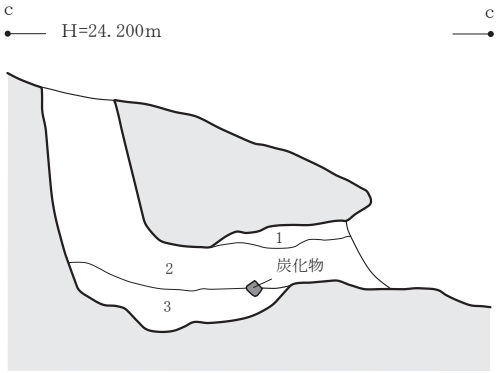
a－a'
1　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強
2　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強 風化花崗岩粒(径５㎜)１％含む
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)２～３％含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明赤褐色焼土(５YR5/6)５％、明黄褐色シルト(10YR6/6)７～10％含む
6　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6)５～７％含む
7　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)３～５％、径10～15㎜の炭化物１～２％含む
8　7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)１％含む
9　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強 風化花崗岩粒(径５㎜)１％含む
10　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6)５～７％含む

カマド１

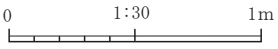


b－b'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)１％未満、黒褐色シルト(10YR2/2)10％、径２～３㎜の炭化物１％未満含む
2　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 (袖土)
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)２～３％含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)５～７％含む

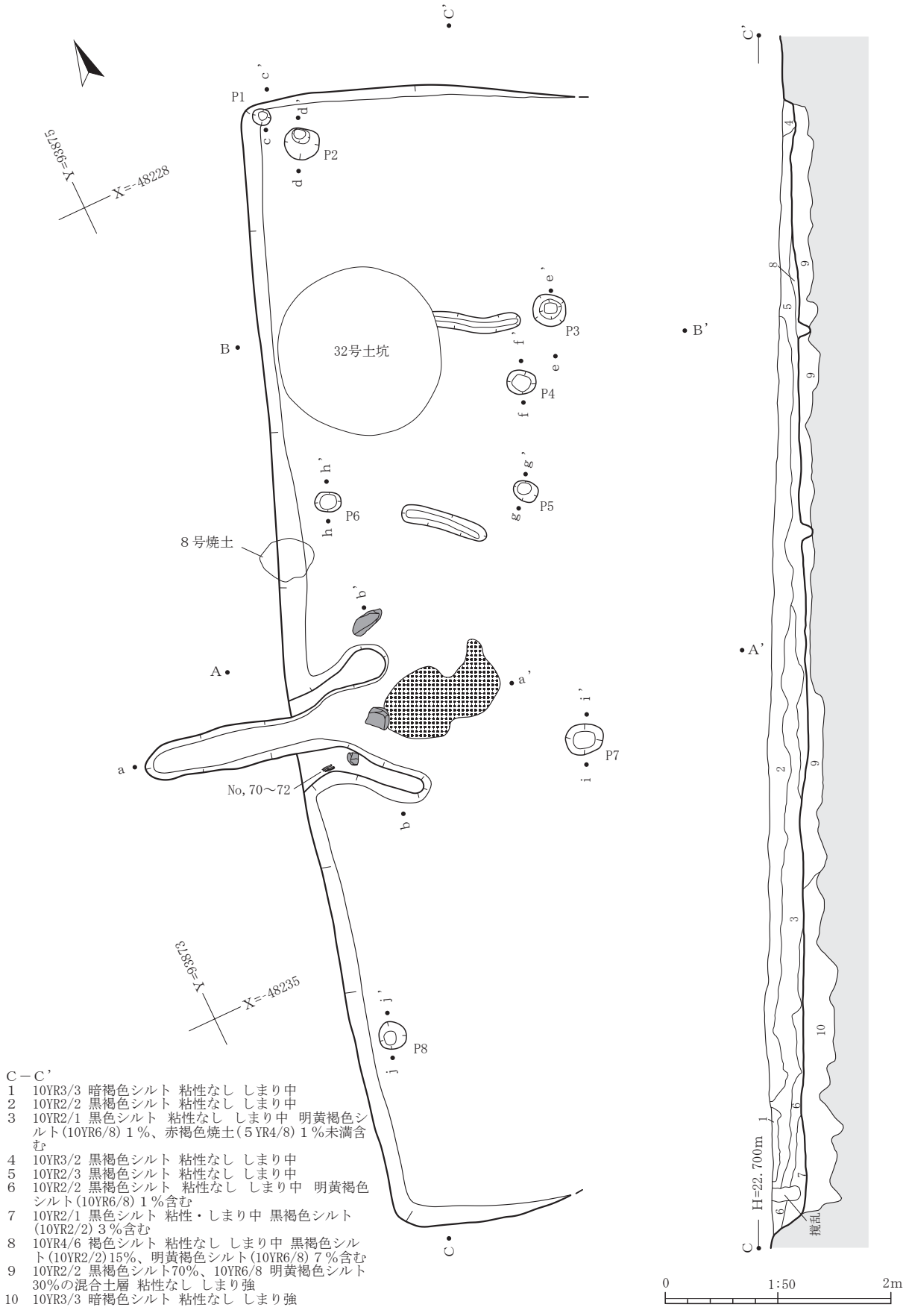
カマド２



c－c'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR7/6)ブロックで40％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)20％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)10～15％含む

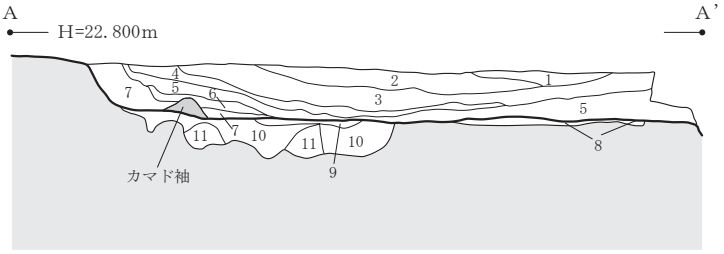


第34図　12号竪穴建物２

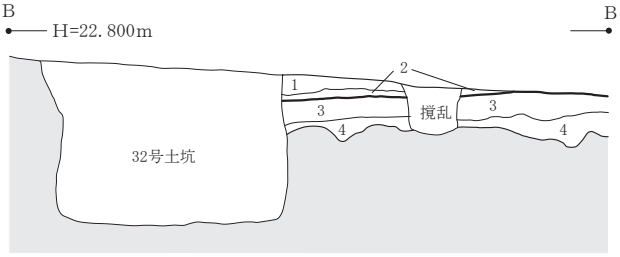


C－C'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％、赤褐色焼土(5YR4/8) 1％未満含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 3％含む
8　10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)15%、明黄褐色シルト(10YR6/8) 7％含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR6/8 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性なし しまり強
10　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強

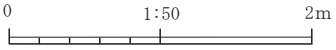
第35図　13号竪穴建物 1



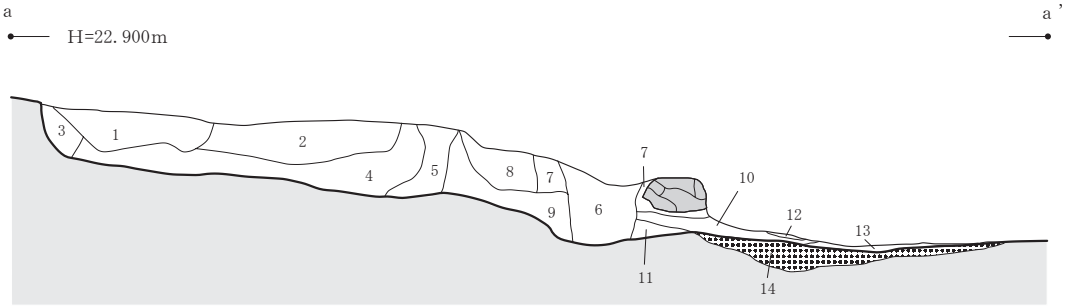
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5～7%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1%未満含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり強
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)10～15%含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1%、黒褐色シルト(10YR2/2) 5～10%含む
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 2%、明褐色シルト(7.5YR5/8) 1%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 5%含む
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり強 赤褐色焼土(5YR4/8) 5～7%含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5%含む
11　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり強



B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 2%、黒色シルト(10YR2/1)10%含む
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 1%含む



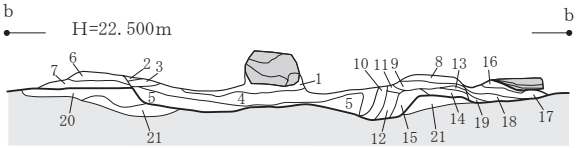
カマド

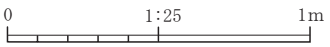


a－a'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)10～15%、明褐色焼土(7.5YR5/8)10%、暗褐色シルト(10YR3/3) 5%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3～5%、暗褐色シルト(10YR3/3) 3%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1%、暗褐色シルト(10YR3/3) 1%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)15%、明褐色シルト(7.5YR5/6) 1%含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
7　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)10%含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)15～20%、褐色シルト(10YR4/4) 1%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/4) 1%未満、黄褐色シルト(10YR5/8) 5%含む
10　10YR4/6 褐色シルト 粘性強 しまり中 にぶい赤褐色焼土(5YR4/4)10%含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
12　7.5YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまりなし
13　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明赤褐色焼土(5YR5/8) 3～5%、橙色焼土(5YR6/8) 1%未満含む
14　5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり強 褐色シルト(7.5YR4/4)10%含む

b－b'
1　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性しまり強
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
4　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 明赤褐色焼土(5YR5/6) 3%含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
6　7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3%、黒褐色シルト(10YR2/2)10%含む
7　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)10%、明赤褐色焼土(5YR5/8) 3%含む
8　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強 明赤褐色焼土(5YR5/8) 5%含む
9　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1%含む
10　7.5YR6/8 橙色焼土 粘性・しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2) 5%含む
11　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまりなし
12　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR3/2) 2%含む
13　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
14　10YR8/6 黄橙色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6) 7%含む
15　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3%含む
16　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性・しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/8) 3%含む
17　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1%含む
18　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
19　10YR8/6 黄橙色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6) 7%含む
20　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明赤褐色焼土(5YR5/8) 5%含む
21　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強

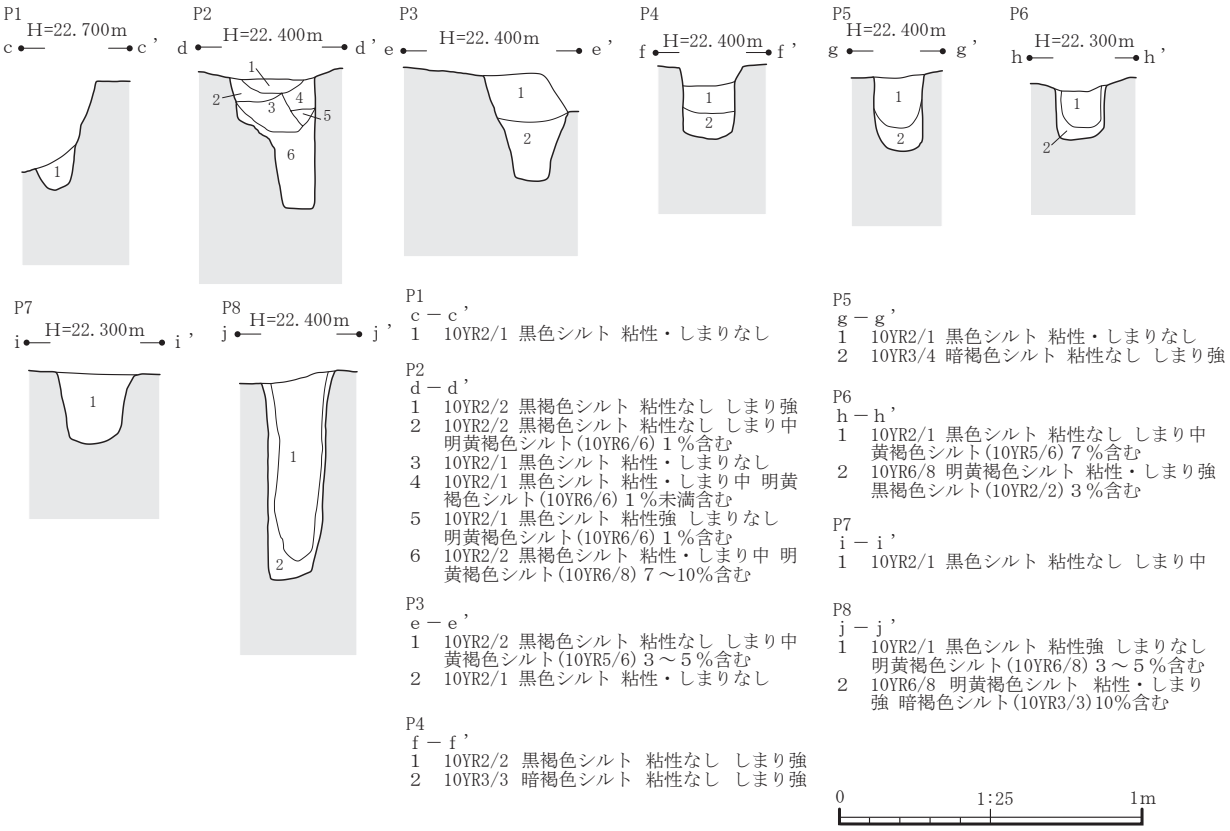
カマド





第36図　13号竪穴建物2

〔13号竪穴建物〕



P1
c－c'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし

P2
d－d'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％未満含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 7～10％含む

P3
e－e'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 3～5％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし

P4
f－f'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強

P5
g－g'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強

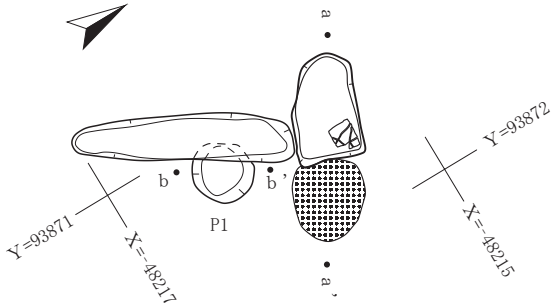
P6
h－h'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 7％含む
2　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 3％含む

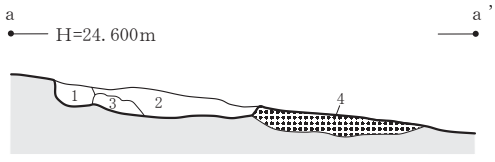
P7
i－i'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中

P8
j－j'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3～5％含む
2　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)10％含む

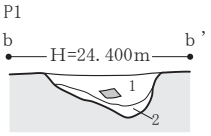
0　1:25　1m

〔14号竪穴建物〕





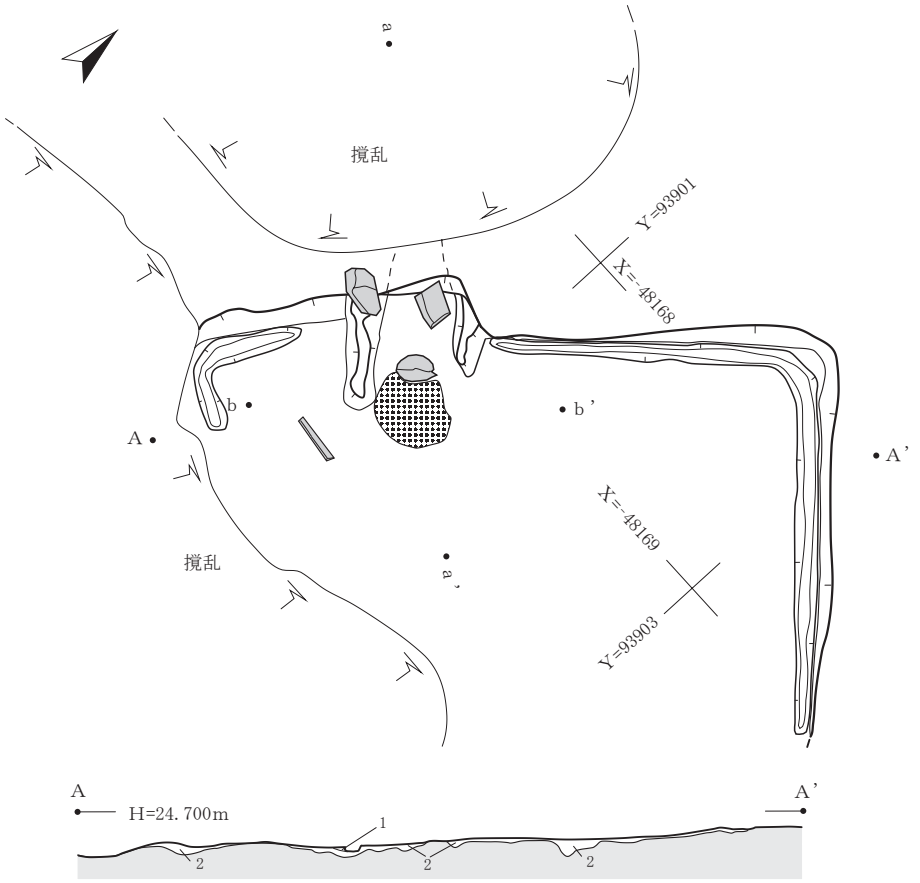
a－a'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物微量含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/8) 3％含む
3　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中
4　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強



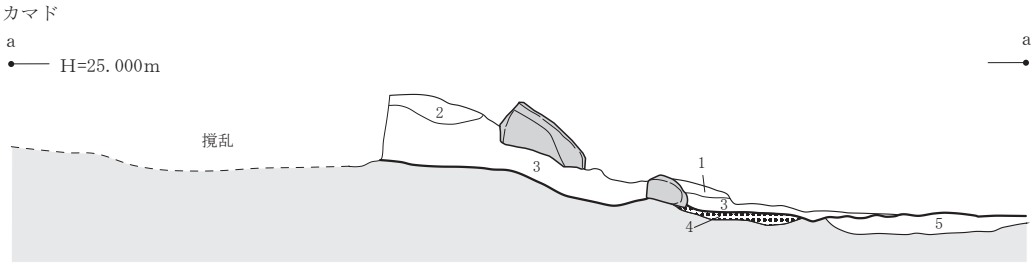
P1
b－b'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物微量、明黄褐色シルト(10YR6/8) 3％含む
2　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中

1:25(断面)　1m
0　1:50(平面)　2m

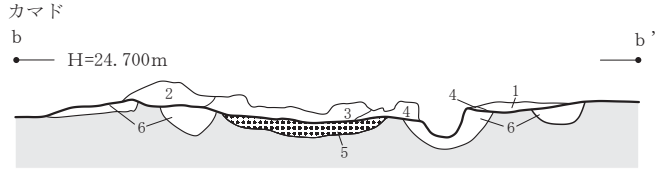
第37図　13号竪穴建物３、14号竪穴建物



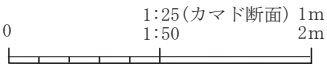
A－A'
1　5YR5/6 明赤褐焼土 粘性中 しまりなし 暗褐色シルト(10YR3/3)、炭化物粒各１%含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト80%、黒褐色シルト(10YR2/2)20%の混合土層 粘性・しまり中 炭化物２%含む



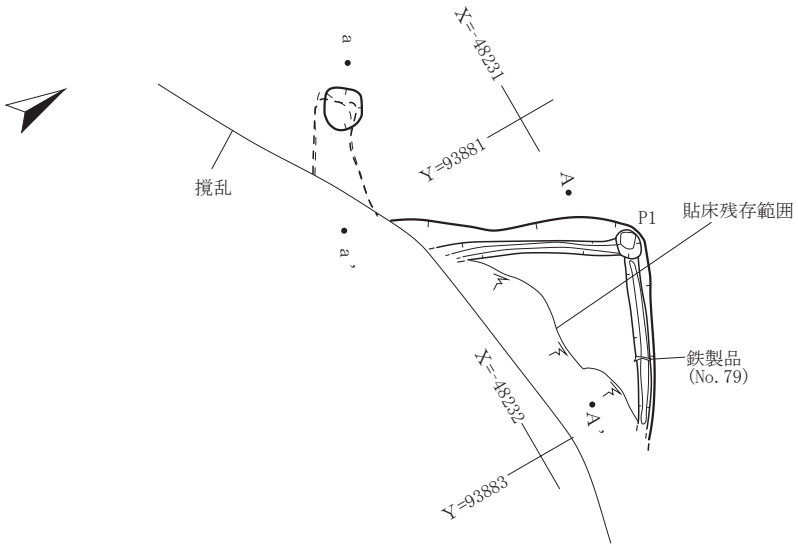
a－a'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/8)10～15%含む
2　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)１%含む
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/8)５%、炭化物１%含む
4　7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性なし しまり強 焼成面
5　10YR4/6 褐色シルト90%、10YR4/2 灰黄褐色シルト10%の混合土層 粘性なし しまり強

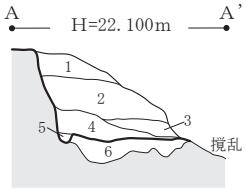


b－b'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)３%、炭化物１%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)５%、赤褐色焼土(５YR4/6)10%含む
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/8)10～15%含む
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/8)５%、炭化物１%含む
5　7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性なし しまり強 焼成面
6　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/6)５～10%含む



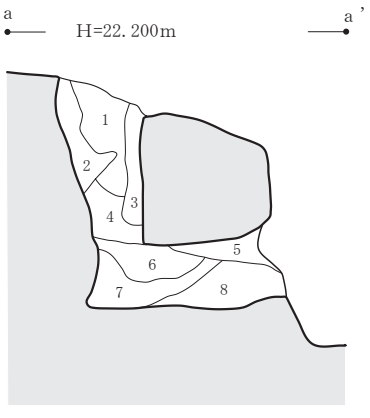
第38図　15号竪穴建物



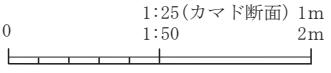


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)20%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 1 %、炭化物 1 %含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 3 %含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト60%、10YR5/6 黄褐色シルト40%の混合土層 粘性なし しまり中 貼床

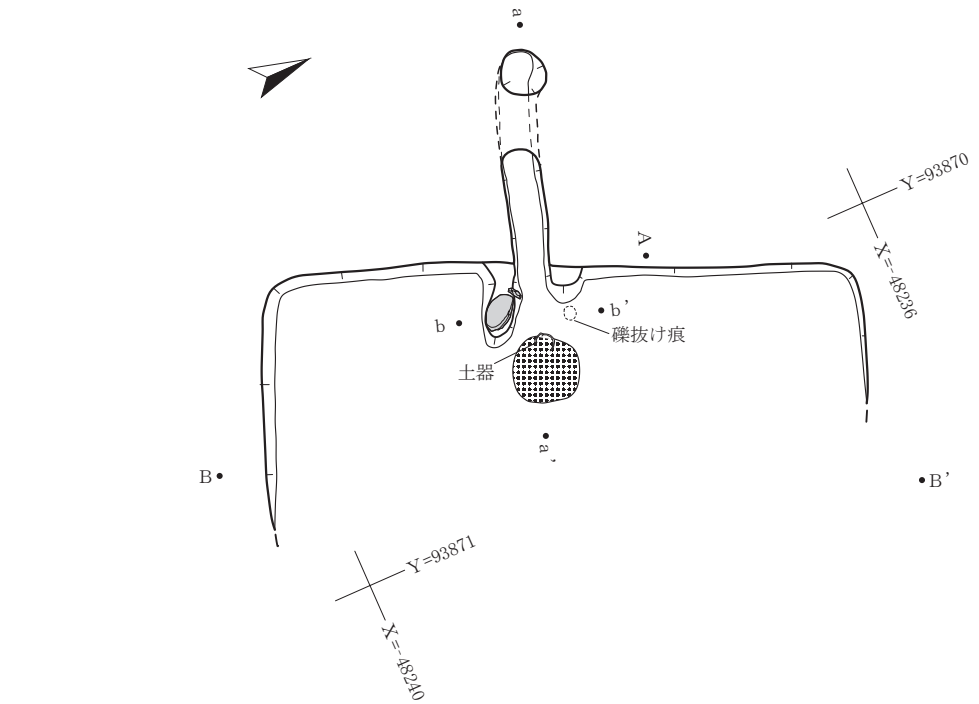
カマド

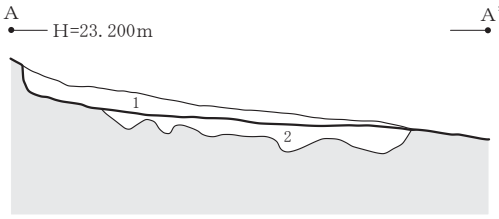


a－a'
1　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR4/4 褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり中
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/4)10%ブロックで含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径 5 ㎜) 5 %含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト50%、10YR5/6 黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり中
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 2 ～ 3 %含む
6　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)10%含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/6) 5 ～ 7 %、炭化物 1 ～ 2 %含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径 7 ㎜) 3 ～ 5 %含む

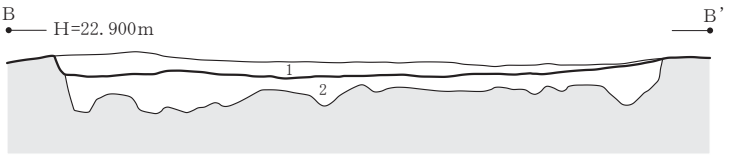


第39図　16号竪穴建物

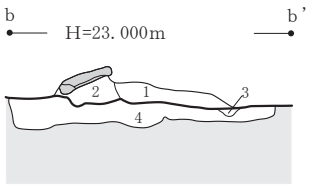




A－A'、B－B'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径３～５㎜礫粒３％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8)ブロック状に５％含む

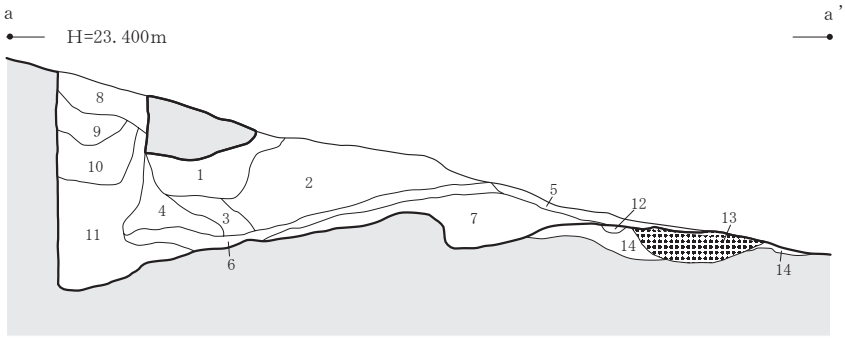


カマド

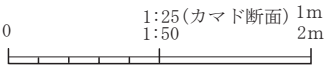


b－b'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物１％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中　明褐色焼土(7.5YR5/6)１％含む
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 礫抜け痕
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 暗褐色シルト(10YR3/4)10%含む

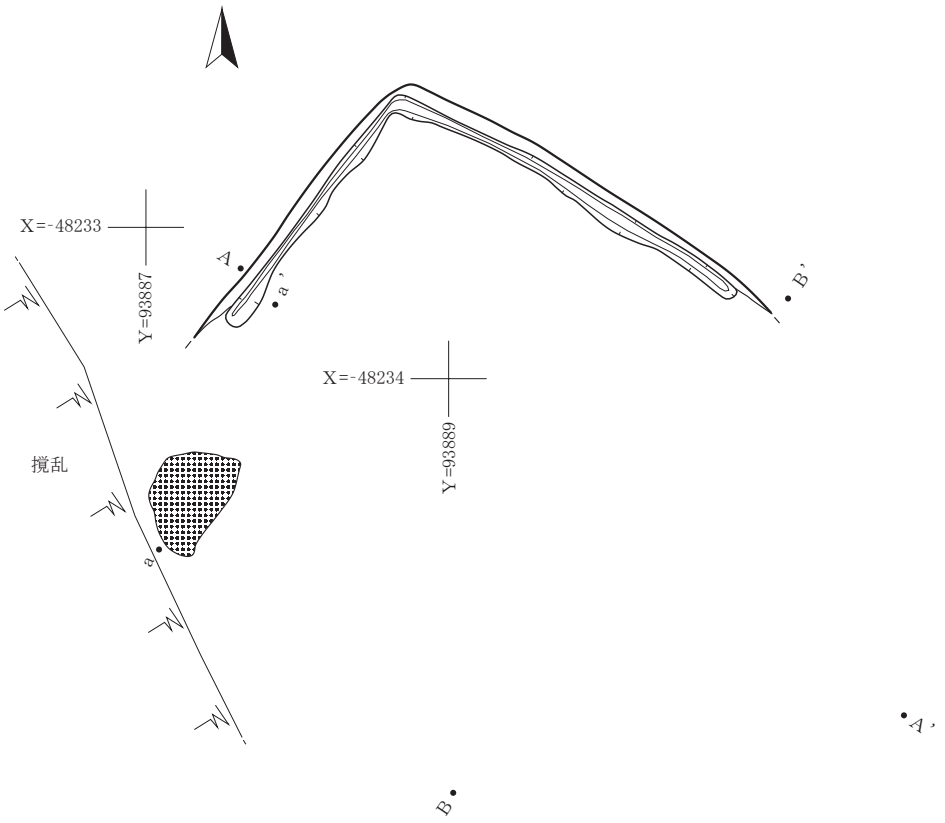
カマド

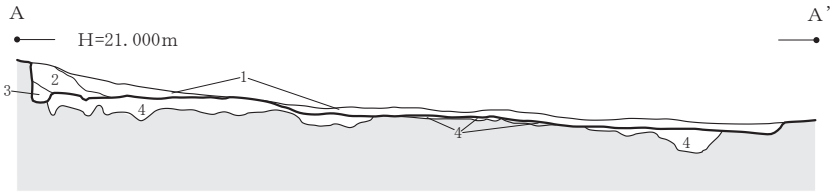


a－a'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/8) １％、炭化物１％含む
4　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/3) ５％含む
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物１％含む
6　炭化物層 黄褐色シルト(10YR5/8)10%、黒褐色シルト(10YR2/3) ５％含む
7　10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり強
8　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) ３～５％含む
9　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) ３％含む
10　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中
11　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/4) ３～５％含む
12　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
13　５YR6/8 橙色焼土 粘性なし しまり強
14　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強

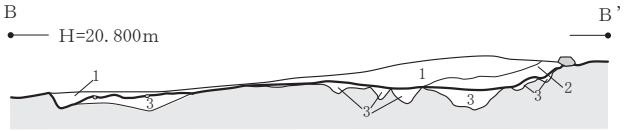


第40図　17号竪穴建物

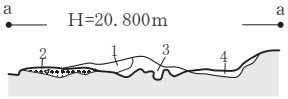




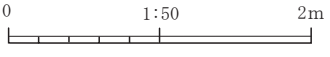
A－A'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 撹乱の可能性あり
2　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6)５％含む　壁溝
4　10YR2/1 黒色シルト60%、10YR4/4 褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中 貼床



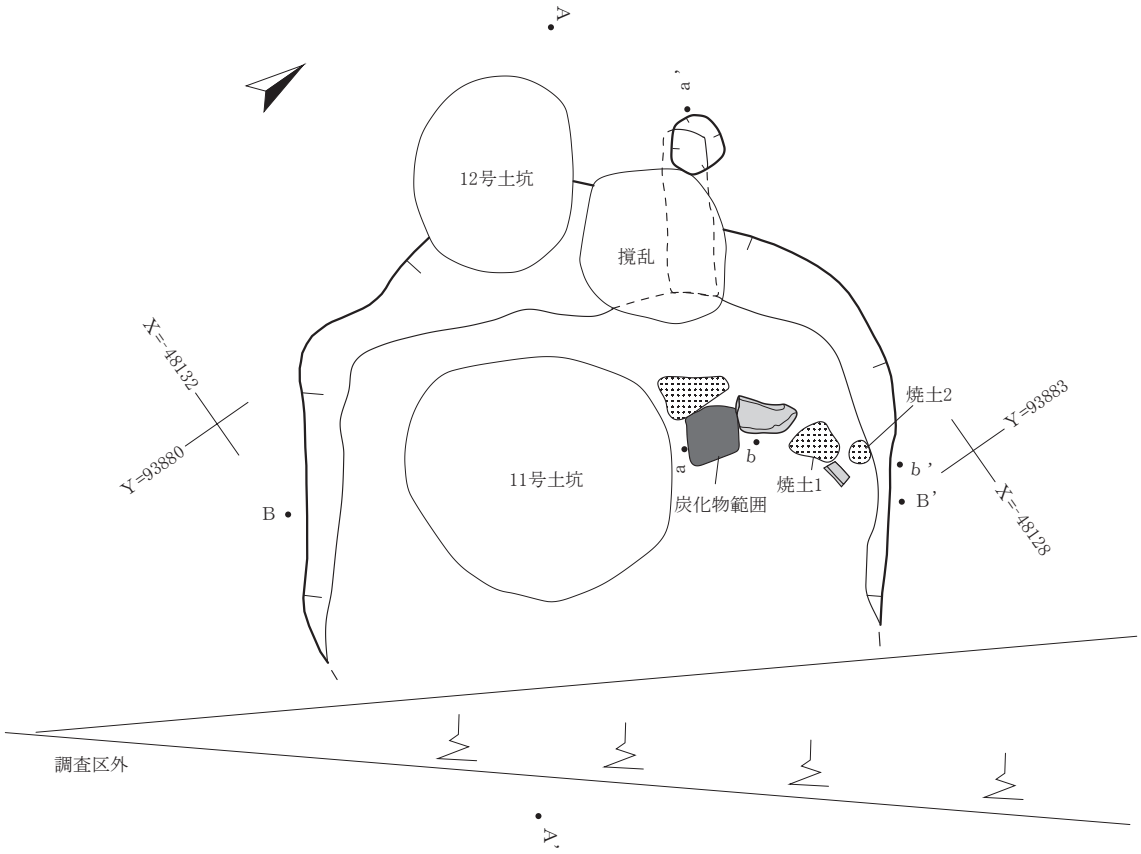
B－B'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 撹乱の可能性あり
2　10YR3/1 黒褐色シルト50% 10YR2/1 黒色シルト40%、10YR5/6 黄褐色シルト10%の
　　混合土層 粘性弱 しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト60%、10YR4/4 褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中 貼床

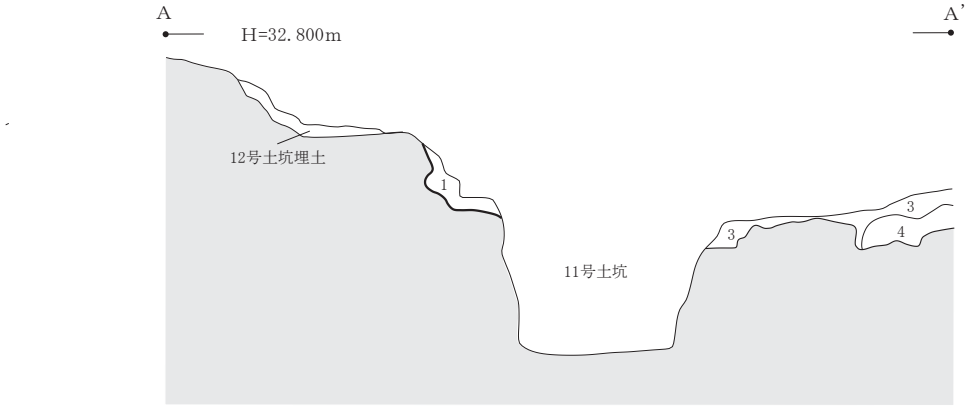


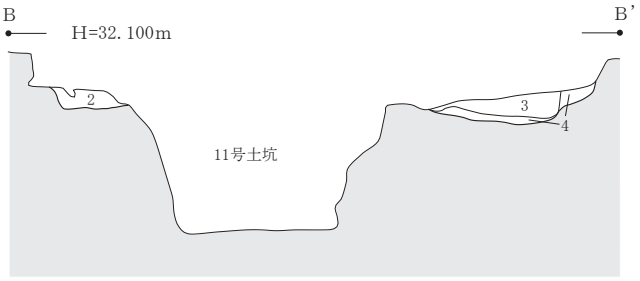
a－a'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 炭化物３％含む
2　５YR4/6 赤褐色焼土 粘性中 しまり強 焼成面
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
4　10YR2/1 黒色シルト60%、10YR4/4 褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中



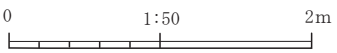
第41図　18号竪穴建物





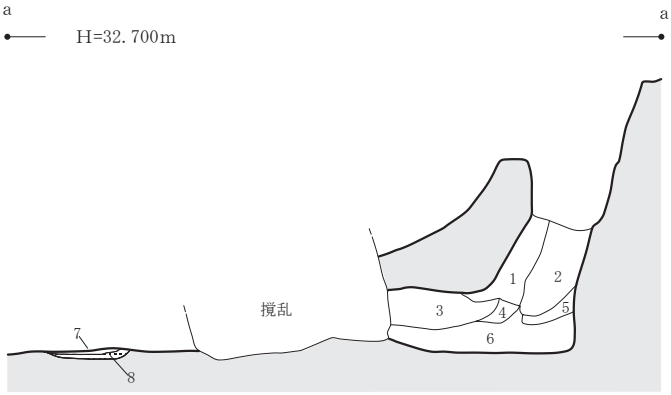


A－A'、B－B'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3％含む
2　10YR4/4 褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルトに褐色シルトが40％混じる
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4) 5％、明黄褐色シルト(10YR6/8) 7％含む
4　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり中
＊2～4は貼床土

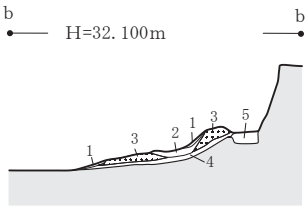


第42図　19号竪穴建物1

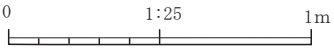
〔19号竪穴建物〕



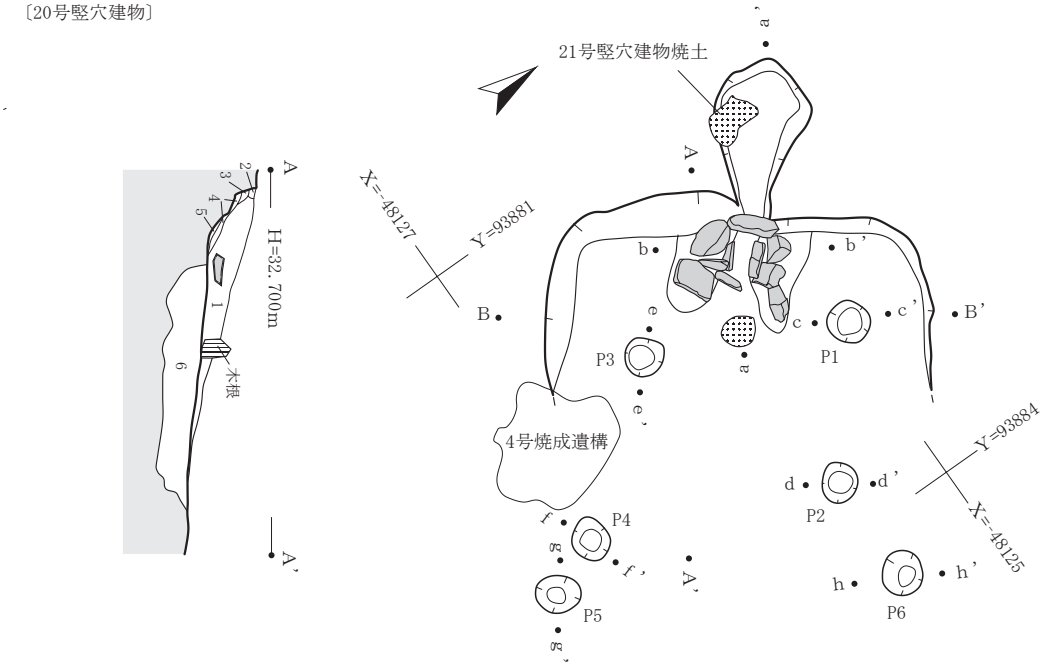
a－a'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色焼土(10YR7/8) １％含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト60%、10YR2/2 黒褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり弱
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりなし 褐色焼土(7.5YR4/4)10～15%、炭化物５％含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)ブロックで３％含む
7　7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 橙色焼土(7.5YR6/6) １～２%、炭化物１％含む
8　５YR4/6 赤褐色焼土 粘性・しまり中 焼成面



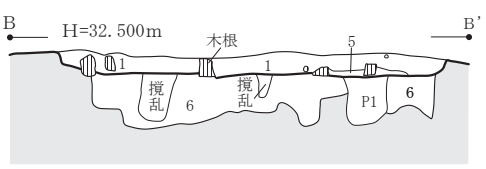
b－b'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～３㎜の炭化物３％、径１～３㎜の焼土粒３％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～３㎜の炭化物２％、径１～３㎜の焼土粒５％含む
3　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強 ※燃焼面(床面から浮いているが、現地性の物。近くに砥石あり)
4　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 径１～３㎜の炭化物１％、径１～３㎜の焼土をブロックで２％含む 貼床の一部
5　10YR3/3 暗褐色シルト粘性なし しまり中 径１～５㎜のにぶい黄褐色シルト(10YR5/4) ３％含む

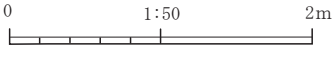


〔20号竪穴建物〕

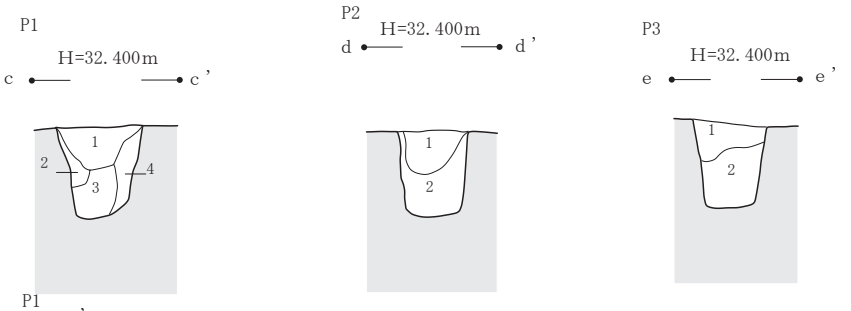


A－A'、B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物微量、黄褐色シルトをブロックで５％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり弱
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり弱
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 炭化物30%含む
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4)20%含む

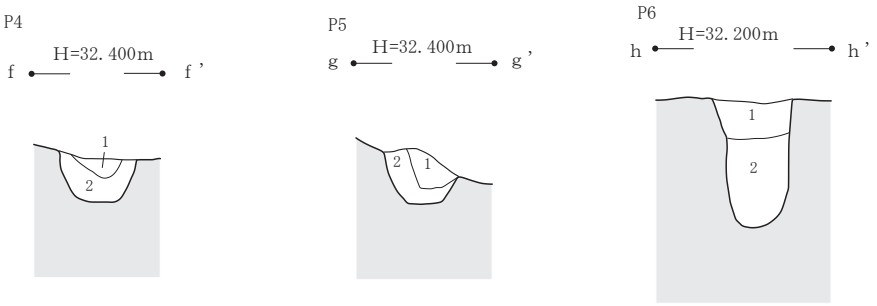




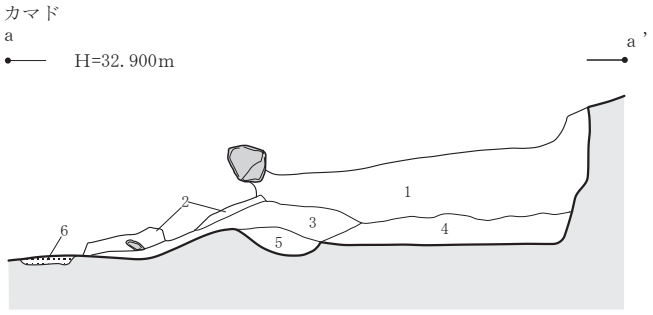
第43図　19号竪穴建物２、20号竪穴建物１



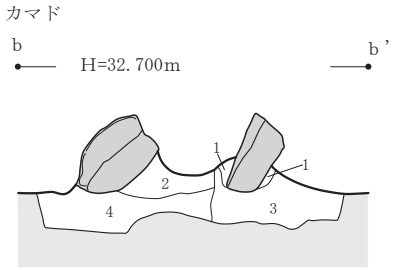
P1
c－c'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～３㎜の炭化物１％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～５㎜の炭化物２％含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト50%、10YR3/3 暗褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまりなし
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～５㎜の炭化物２％含む



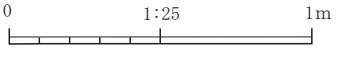
P2～6
d－d'、e－e'、f－f'、g－g'、h－h'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～３㎜の炭化物３％、径１～３㎜の焼土粒５％含む
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～３㎜の炭化物３％含む



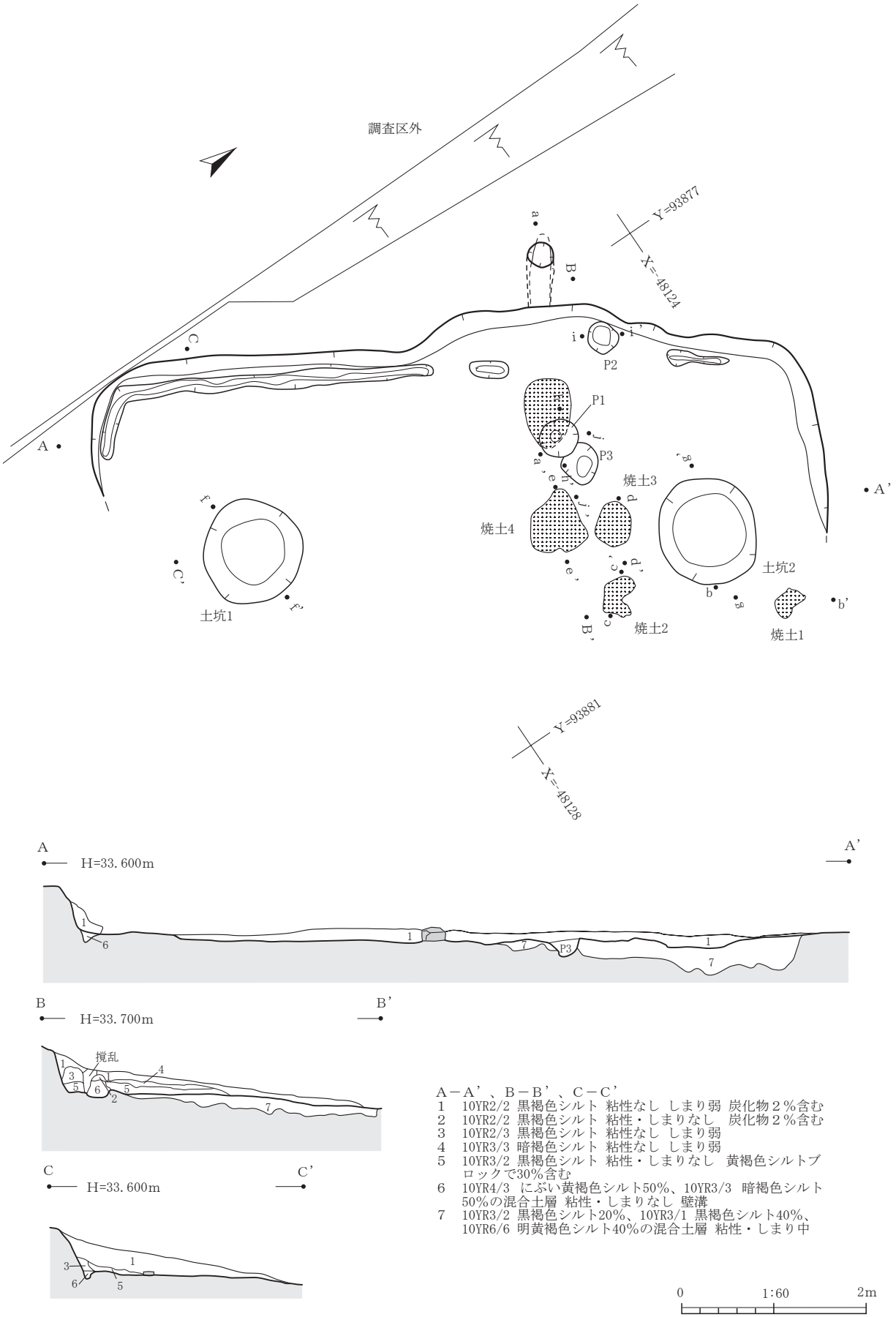
a－a'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) １～２％含む
2　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1) ５％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 炭化物１～２％含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト　粘性強　しまり強　明黄褐色シルト(10YR6/6)20％含む
5　10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性なし しまり強
6　5YR6/8 橙色焼土 粘性なし しまり強 焼成面



b－b'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性中 しまり強
3　10YR3/1 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性中 しまり強
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4)40%混じる(住居貼床)

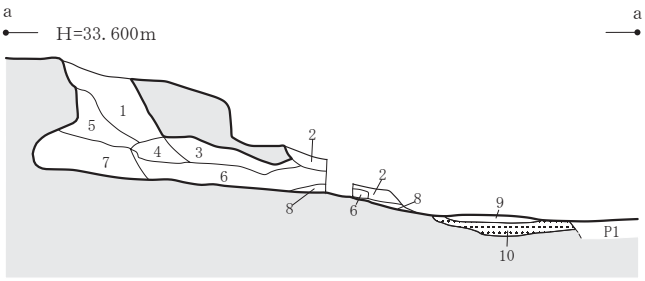


第44図　20号竪穴建物２



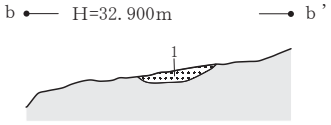
第45図　21号竪穴建物１

カマド



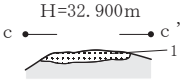
a－a'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物１～２%、明赤褐色焼土(５YR5/6) ５%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ２%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３～５%含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)10%含む
7　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３%含む
8　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
9　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
10　５YR4/6 赤褐色焼土 粘性弱 しまり中

焼土1



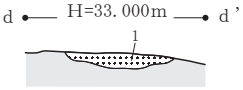
b－b'
1　7.5YR4/6 褐色焼土 粘性なし しまり強

焼土2



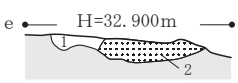
c－c'
1　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり強

焼土3

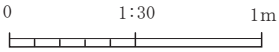


d－d'
1　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/3)20%含む

焼土4

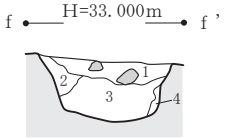


e－e'
1　５YR4/8 赤褐色焼土50%、10YR3/3 暗褐色シルト40%、10YR6/8 明黄褐色シルト10%の混合土層 粘性強 しまり中
2　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性・しまり強



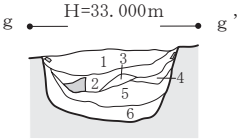
カマド、焼土1～4

土坑1



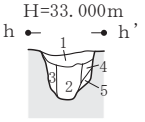
f－f'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物２%、焼土１%含む
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 黄褐色シルトと暗褐色シルトの混合土
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土
4　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりなし

土坑2



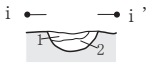
g－g'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～３㎜の炭化物５%、径１～３㎜の黄褐色シルト粒10%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～10㎜の炭化物10%、径１～３㎜の黄褐色シルト粒10%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～５㎜の炭化物10%含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～３㎜の黄褐色シルト粒５%含む
5　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～５㎜の炭化物３%、径１～３㎜の黄褐色シルト粒40%、橙色焼土粒(2.5YR6/8)ブロックで２%含む
6　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～10㎜の黄褐色シルト粒10%含む

P1



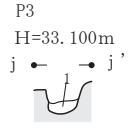
P1
h－h'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/6) ５%含む
2　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまりなし ※柱痕
3　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性強 しまり中
4　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) １%未満含む
5　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり強

P2

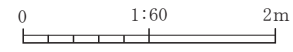


P2
i－i'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物微量含む
2　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中

P3

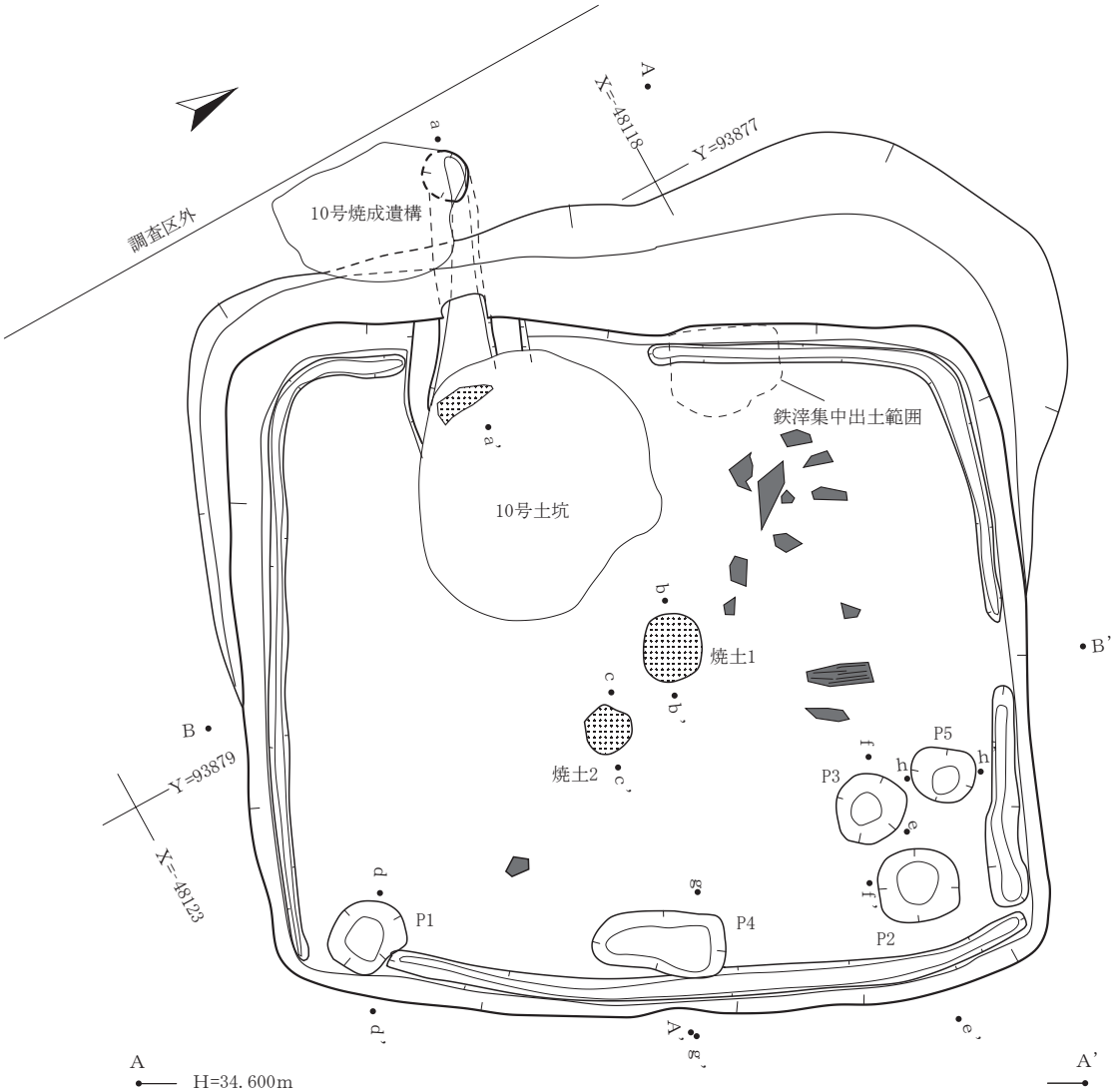


P3
j－j'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強



土坑1・2、P1～3

第46図　21号竪穴建物２

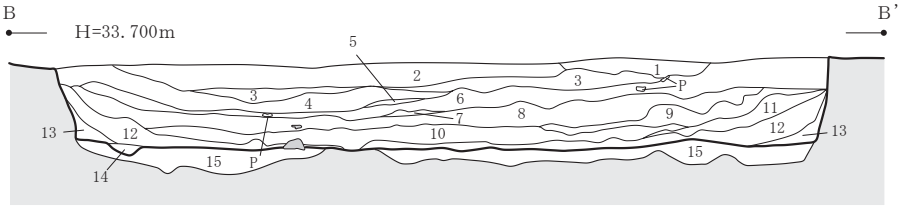


A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱　炭化物２％含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱　暗褐色砂質シルト層が葉理状に見られる 焼土粒３％含む
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱　砂15%、焼土１％混入
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～５㎜の炭化物７％、径１～３㎜の焼土３％、径１～10㎜の黄褐色シルト10％含む
5　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 径１～５㎜の炭化物７％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～３㎜)10％含む
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物粒５％、焼土粒３％混入
7　10YR3/4 暗褐色シルト50%、10YR5/6 黄褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり弱
8　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)15%、焼土粒３％、炭化物２％含む
9　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径１～20㎜の炭化物５％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～20㎜)10％含む
10　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 径１～50㎜の炭化物40%、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～３㎜)５％含む
11　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト粒(10YR5/6)２％、炭化物粒２％含む
12　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR3/3 暗褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり中
13　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～５㎜の炭化物５％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)５％含む
14　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～5㎜の炭化物20%、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)10%、径１～５㎜の焼土をブロックで５％含む
15　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径１～５㎜の炭化物２％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)40％含む
16　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～10㎜の炭化物３％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)５％含む
17　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
18　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 撹乱か？

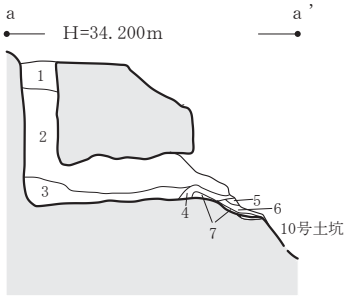
0　1:50　2m

第47図　22号竪穴建物１

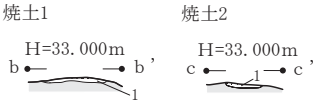
19　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径１～５㎜の炭化物２％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)40％含む
20　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～10㎜の炭化物３％、径１～10㎜の黄褐色シルト５％含む
21　10YR3/4 暗褐色シルト50％、10YR6/8 明黄褐色シルト50％の混合土層 粘性・しまり中 壁溝
22　10YR3/4 暗褐色シルト70％、10YR6/6 明黄褐色シルト30％の混合土層 粘性・しまり中
23　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 径５㎜の風化花崗岩粒１％含む
24　10YR2/2 黒褐色シルト80％、10YR6/6 明黄褐色シルト20％の混合土層 粘性・しまり中



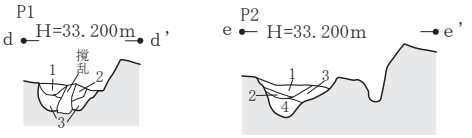
B－B'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 暗褐色シルト質砂層(10YR3/3)が長さ５～10㎝、厚さ３㎝のブロック状で層下部に部分的に堆積している
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 暗褐色砂質シルト層が葉理状に見られる 焼土粒３％混入
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 砂15％、焼土粒１％混入
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物３％、焼土粒１％、黄褐色シルトブロック10％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 炭化物１％混入
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物粒５％、焼土粒３％混入
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中
8　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)15％、焼土粒３％、炭化物２％含む
9　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)ブロック層の下部に見られる
10　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)２％、炭化物粒２％含む
11　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物含む
12　10YR4/4 褐色シルト60％、10YR5/6 黄褐色シルト40％の混合土層 粘性なし しまり中
13　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
14　10YR3/4 暗褐色シルト50％、10YR6/8 明黄褐色シルト50％の混合土層 粘性・しまり中
15　10YR3/4 暗褐色シルト70％、10YR6/6 明黄褐色シルト30％の混合土層 粘性・しまり中



a－a'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまりなし 黒色シルト(10YR2/1)３％、明黄褐色シルト(10YR6/6)５％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)３％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまりなし
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 焼土粒５％、径１～30㎜の炭化物５％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/6)５％含む
6　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 焼土粒(径１～20㎜)10％、径１～３㎜の炭化物10％含む
7　5YR4/6 赤褐色焼土 粘性中 しまり強

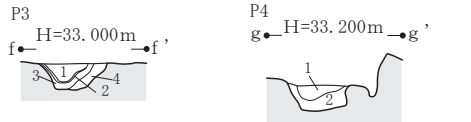


b－b'、c－c'
1　5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性中 しまり強



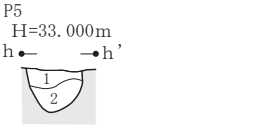
P1
d－d'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～５㎜)20％、黒色シルト(10YR1.7/1 径１～10㎜)10％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)斑状に20％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)斑状に20％、径１～３㎜の炭化物７％含む

P2
e－e'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～５㎜)20％、径１～５㎜の炭化物５～10％、黒色シルト粒(10YR1.7/1 径１～10㎜)10％含む
2　炭化物層
3　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)５％、径１～５㎜の炭化物10％含む
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)斑状に20％、径１～３㎜の炭化物７％含む

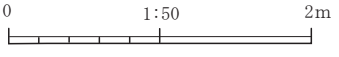


P3
f－f'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～５㎜)20％、径１～５㎜の炭化物５～10％、黒色シルト粒(10YR1.7/1 径１～10㎜)10％含む
2　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)５％、径１～５㎜の炭化物10％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)斑状に20％、径１～３㎜の炭化物７％含む
4　炭化物層

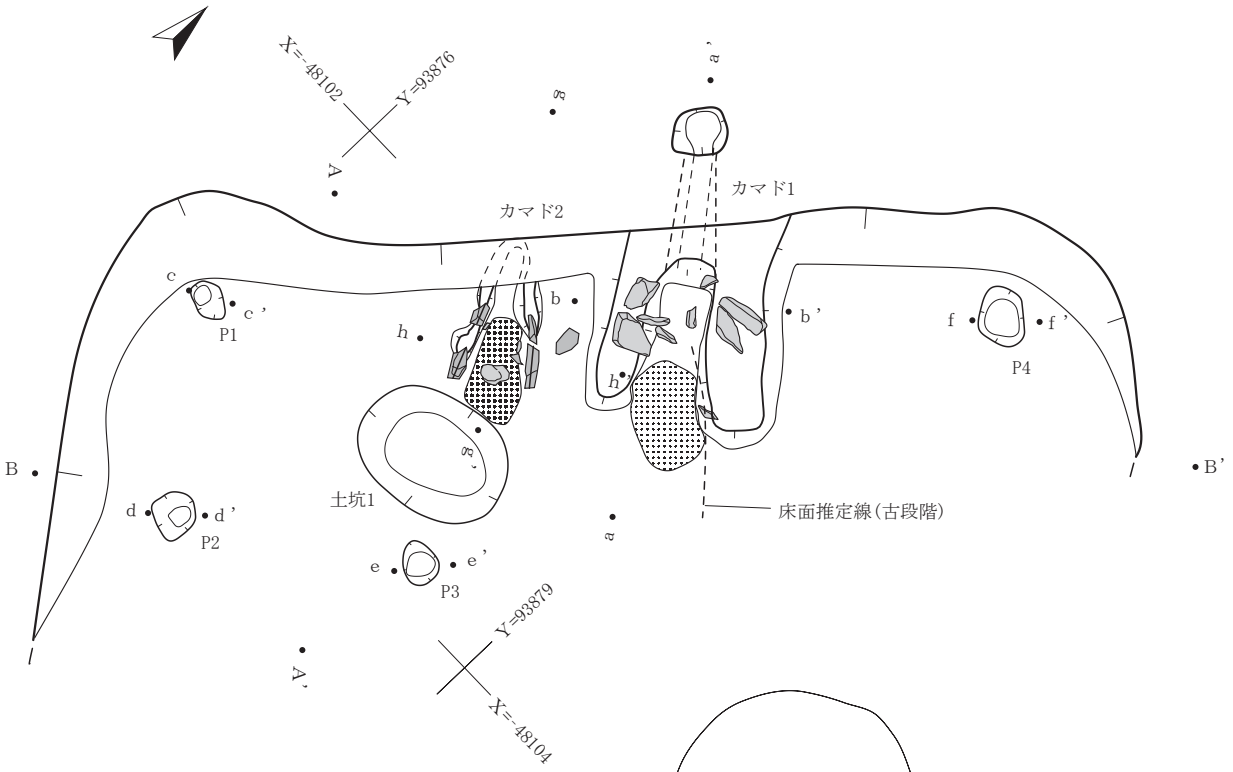
P4
g－g'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～５㎜)20％、径１～５㎜の炭化物５～10％、黒色シルト粒(10YR1.7/1径１～10㎜)10％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～10㎜)斑状に20％、径１～３㎜の炭化物７％含む

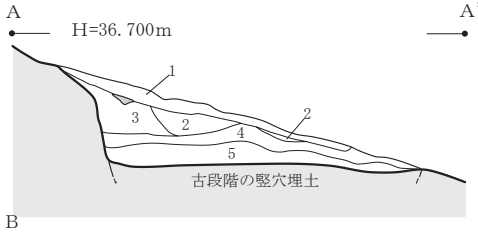


P5
h－h'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/8)５％、炭化物微量含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱

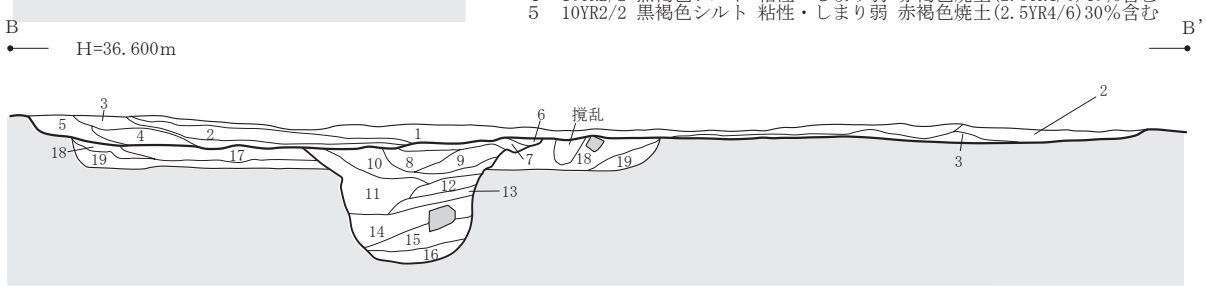


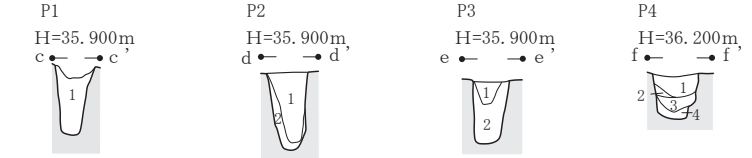
第48図　22号竪穴建物２





A－A'、B－B'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～５㎜炭化物３％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～５㎜炭化物３％、赤褐色焼土(2.5YR4/6)30％、褐色シルト(10YR4/4) ５％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/2)20％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 赤褐色焼土(2.5YR4/6)40％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 赤褐色焼土(2.5YR4/6)30％含む



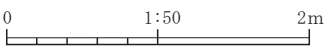


P1
c－c'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なし しまり中　径1～10㎜の炭化物１％含む

P2
d－d'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 径１～５㎜の炭化物１％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR1.7/1) ５％含む

P3
e－e'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なし しまり中　径１～５㎜の炭化物１％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR1.7/1) ５％含む

P4
f－f'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR1.7/1) ５％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3) ５％含む
3　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3) ５％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3) ５％含む

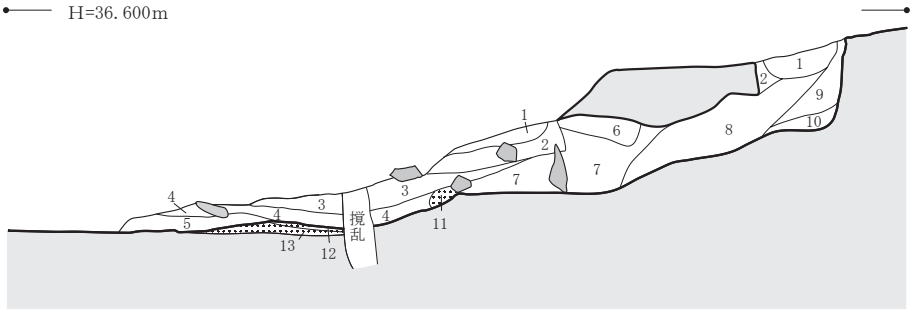


第49図　23号竪穴建物１

土坑1(Ｂ－Ｂ’)
6　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/2)斑状に20%含む
7　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/2)斑状に30%含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/2)斑状に40%、径１～10㎜の炭化物７%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 褐色シルト(10YR4/4)20%、赤褐色焼土(2.5YR4/6)、径１～５㎜の炭化物５%含む
10　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/2)斑状に10%、径１～10㎜の炭化物５%含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
12　10YR2/2 黒褐色シルト50% 10YR6/6 明黄褐色シルト50%混合 粘性なし しまり中
13　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)３%含む
14　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
15　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)１～２%含む
16　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
17　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中
18　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
19　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中

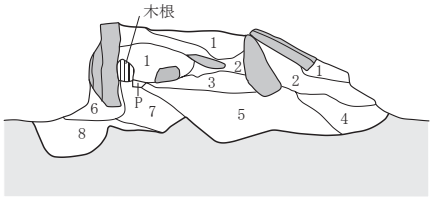
＊17～19　古段階の竪穴埋土

カマド1
a　H=36.600m　a’



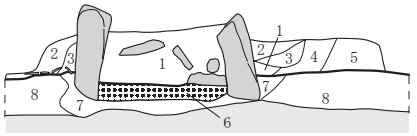
ａ－ａ’
1　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/6)１%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
3　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 橙色シルト(2.5YR7/8)斑状10%、炭化物５%、黒色砂質シルト(10YR1.7/1)斑状に10%含む
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 橙色シルト(2.5YR7/8)斑状５%、炭化物２%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 橙色シルト(2.5YR7/8)斑状に５%含む
6　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色砂質シルト(10YR1.7/1)斑状に20%含む
7　10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色砂質シルト(10YR1.7/1)斑状に30%含む
8　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)斑状に10%含む
9　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)斑状に30%含む
10　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)斑状に20%含む
11　2.5YR7/8 橙色焼土 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/2)を斑状に20%含む
12　2.5YR7/8 橙色焼土 粘性弱　しまり強
13　2.5YR6/8 橙色焼土 粘性・しまり弱

カマド1
b　H=36.400m　b’



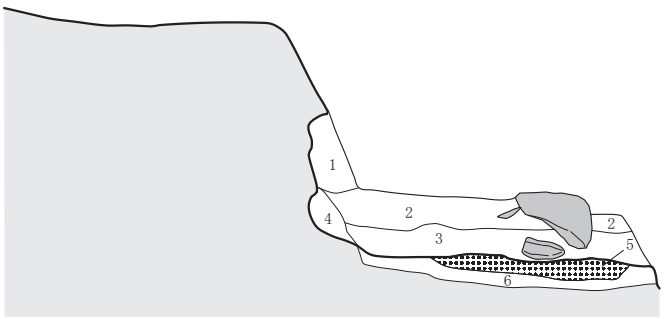
ｂ－ｂ’
1　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/6)１%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1)10%含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
7　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中
8　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中

カマド2
h　H=36.100m　h’



ｈ－ｈ’
1　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
2　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 １層より薄色
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)５%含む
4　10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
5　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)１～２%含む
6　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中
7　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中

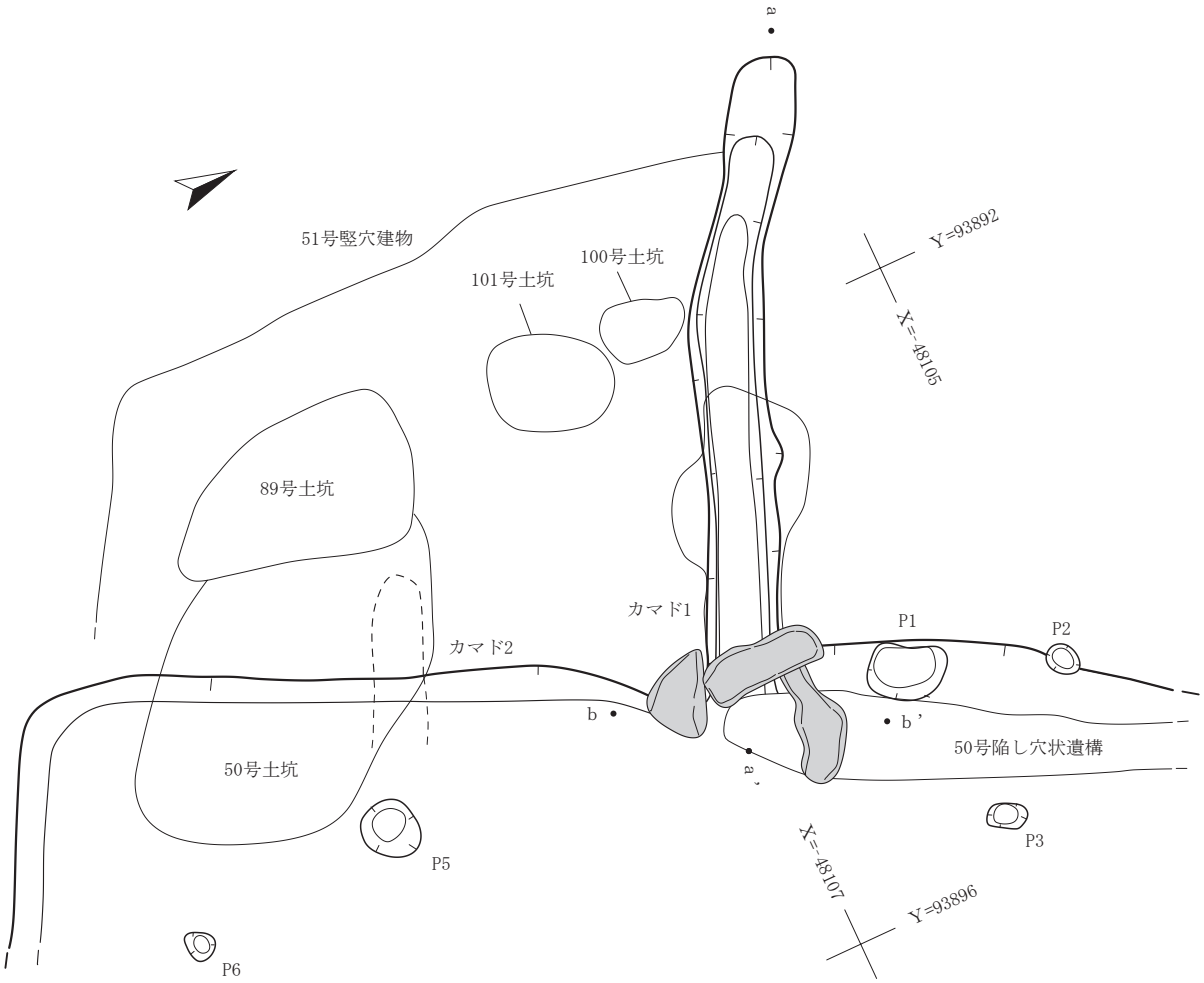
カマド2
g　H=36.700m　g’

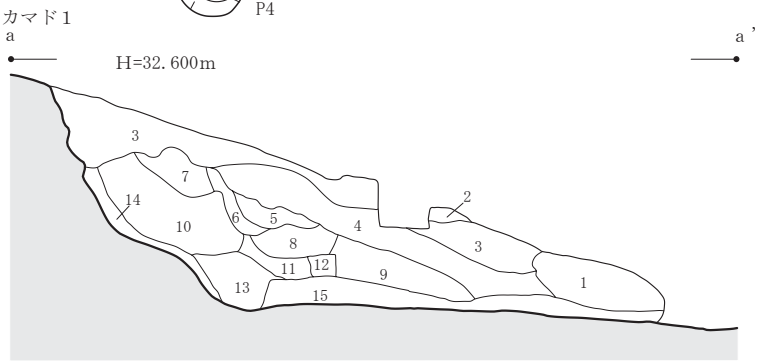


ｇ－ｇ’
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3)20%混入
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)２%含む
3　10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)10%混入
5　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中
6　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中

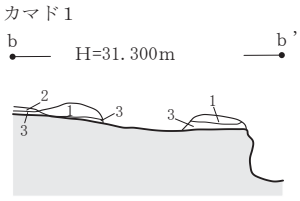
0　1:25　1m

第50図　23号竪穴建物２



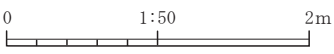


a－a'
1　10YR2/3 黒褐色シルト　粘性・しまりなし　黄褐色粘土(10YR5/8)15%、黒褐色ブロック(10YR2/3)７%混入
2　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまり強 暗褐色ブロック(10YR3/4)７%混入
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)10%混入
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)７%、炭化物２%混入
5　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり強 暗褐色ブロック(10YR3/3)５%混入
6　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまりなし 炭化物15%混入 (※炭化物集積層)
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)10%、炭化物３%混入
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)７%、炭化物２%混入
9　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり強 暗褐色ブロック(10YR3/3)３%混入
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)15%、炭化物５%混入
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)７%混入
12　10YR4/6 褐色シルト 粘性強 しまりなし 暗褐色ブロック(10YR3/4)５%混入
13　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)７%、炭化物３%混入
14　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまりなし
15　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)５%、炭化物２%混入

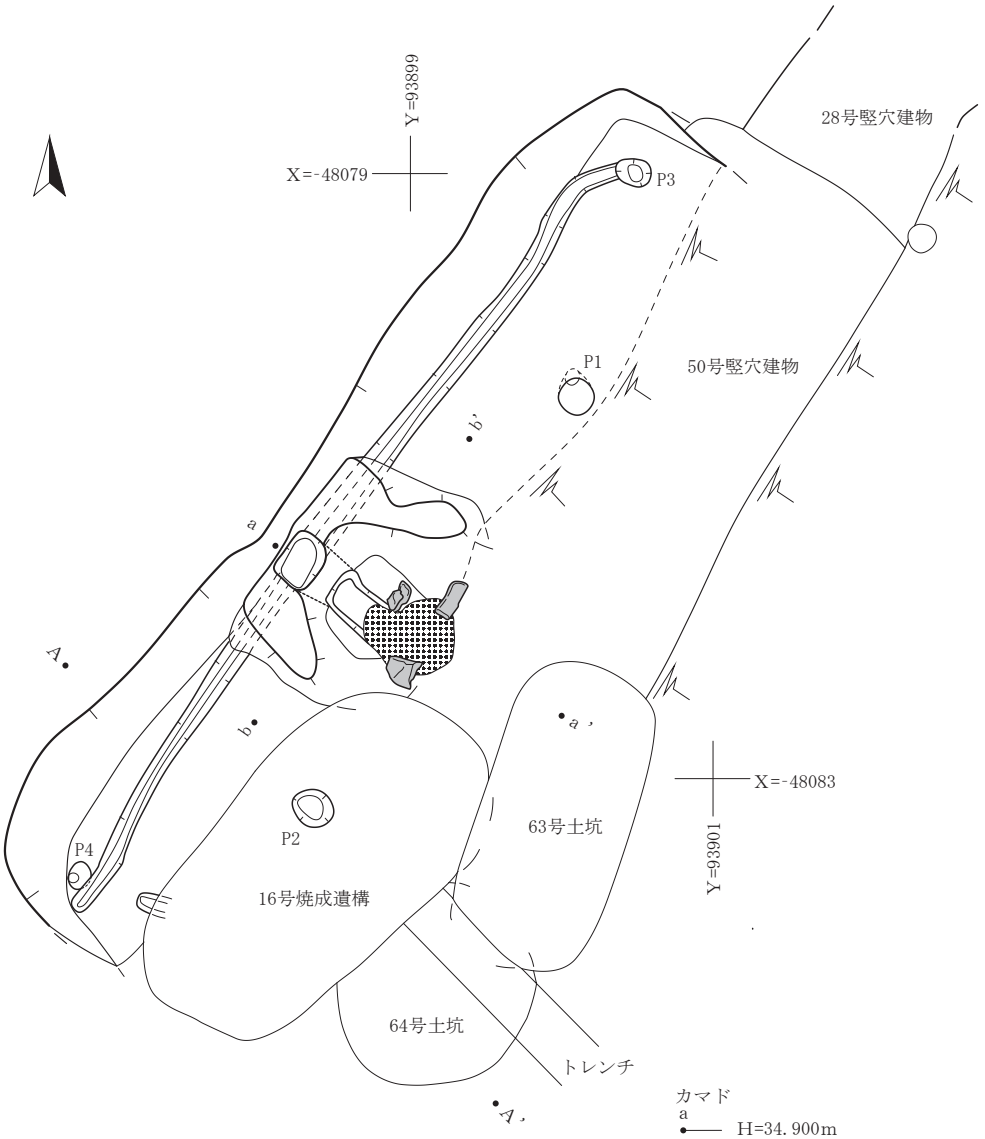


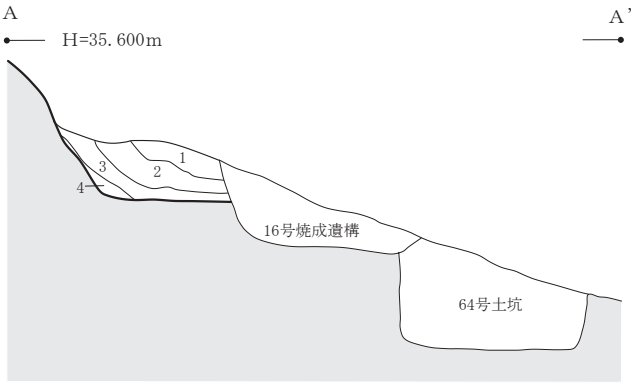
b－b'
1　10YR5/6 黄褐色粘土 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)７%混入
2　10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 黄褐色粘土ブロック(10YR5/8)15%混入
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりなし

＊カマド礫崩落後

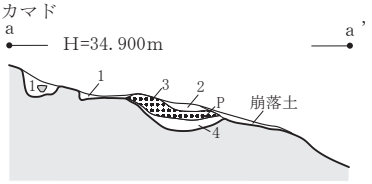


第51図　24号竪穴建物

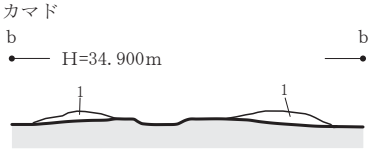




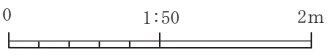
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中



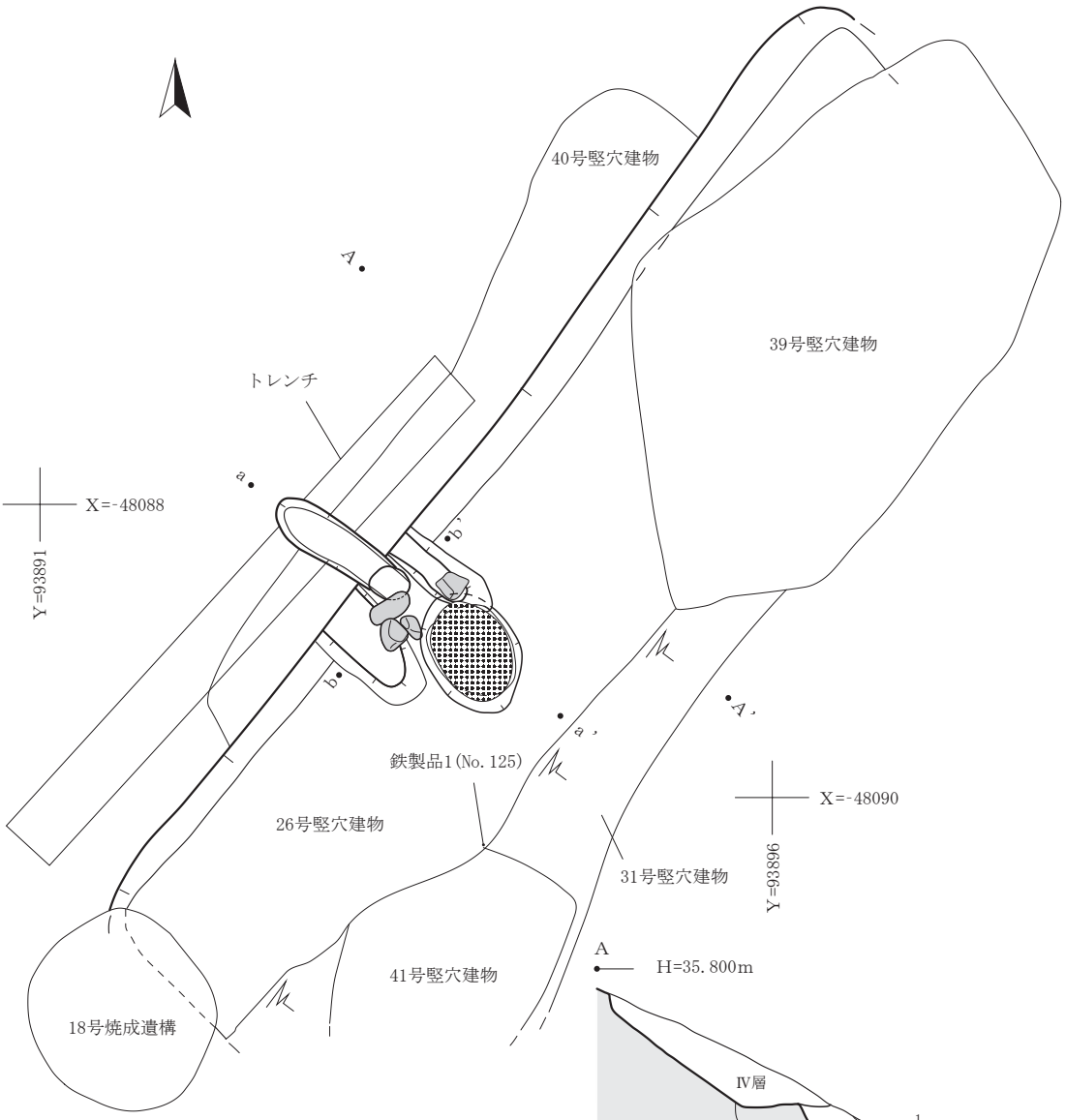
a－a'
1　5YR3/2 暗赤褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 径２～５㎜の炭化物５%、径20㎜の焼土ブロック５%混じる
2　5YR2/3 極暗赤褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 径２～５㎜の炭化物と焼土粒各５%混じる
3　5YR3/4 暗赤褐色焼土 砂質シルト 粘性中 しまり弱 径２～５㎜の炭化物と焼土粒各２%混じる
4　5YR4/8 赤褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱



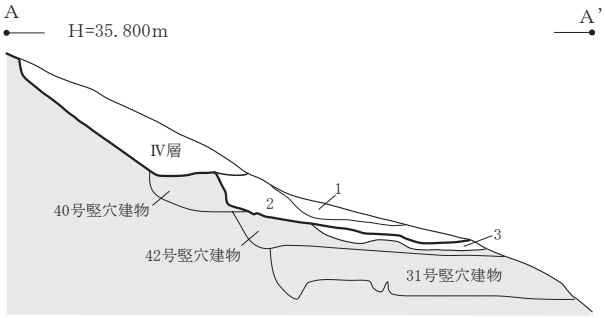
b－b'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/4)がブロック状に10%混じる



第52図　25号竪穴建物

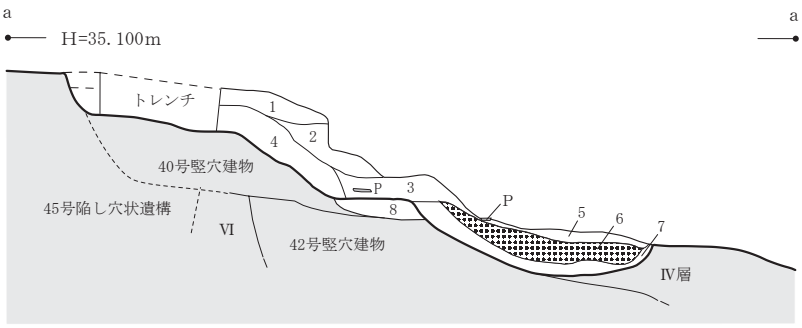


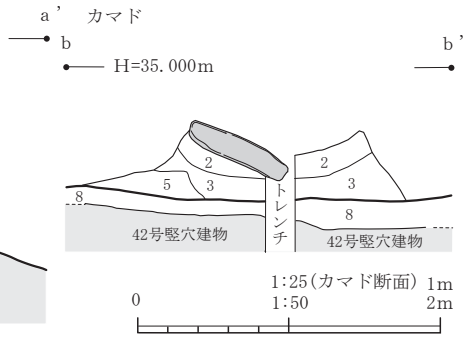
a－a'、b－b'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)10%混じる
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)５%混じる
3　５YR5/3 にぶい赤褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 褐色粘土質シルト(10YR4/4)に径20㎜の焼土ブロック５%混じる
4　５YR3/4 暗赤褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)に径20㎜の焼土ブロック５%混じる
5　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色粘土質シルト(10YR3/4)が５%混じる
6　５YR3/4 暗赤褐色焼土 砂質シルト 粘性弱 しまり中 径２～５㎜の炭化物５%、径20㎜の焼土ブロック５%混じる
7　５YR4/8 赤褐色シルト 粘性弱 しまり中
8　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)と褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に10%混じる　＊貼床土



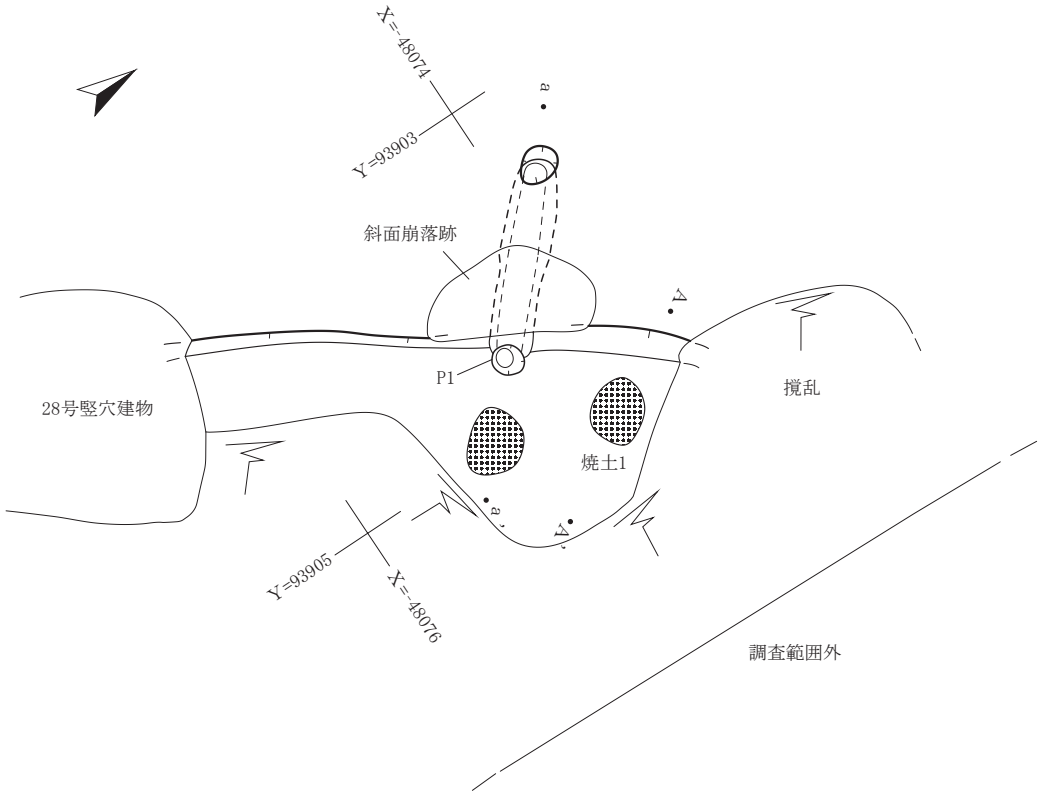
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)が５%混じる
2　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)と褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に10%混じる　＊貼床土

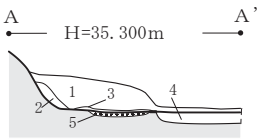
カマド



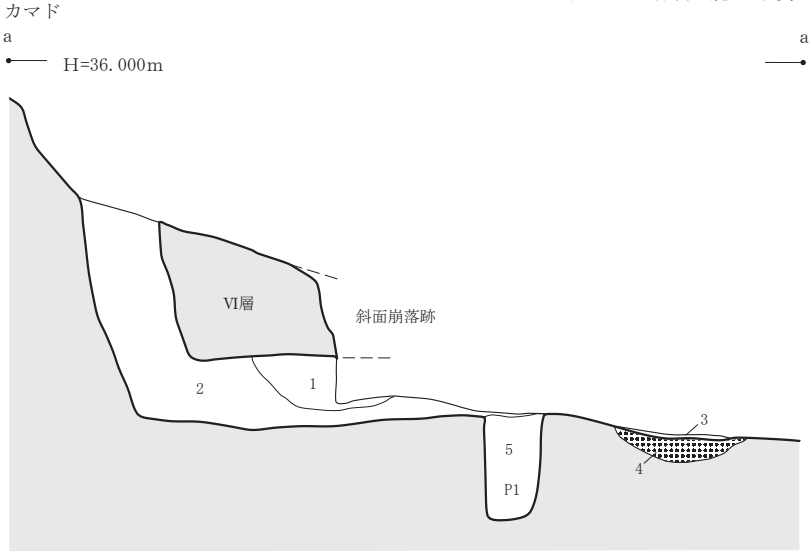


第53図　26号竪穴建物

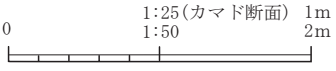




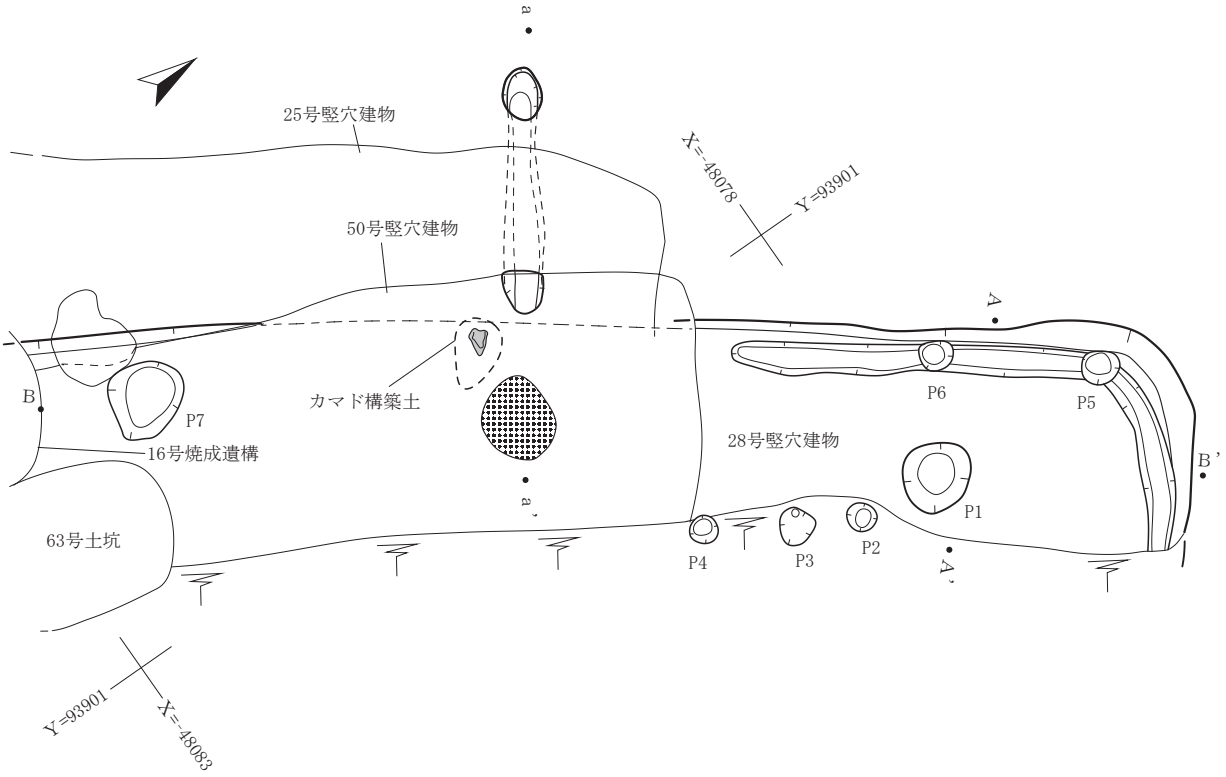
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)が10%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)と褐色砂質シルト(10YR4/4)の互層
3　5YR2/3 極暗赤褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 径2～5㎜の炭化物70%、径3～5㎜の焼土粒5%混じる
4　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に10%混じる
5　5YR4/3 にぶい赤褐色焼土 砂質シルト 粘性弱 しまり中

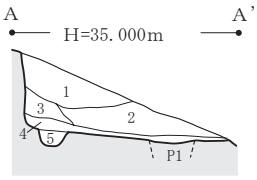


a－a'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に10%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状(一部互層)に10%混じる
3　5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 径2～5㎜の炭化物70%、径2～5㎜の焼土粒5%混じる
4　5YR4/6 赤褐色焼土 砂質シルト 粘性弱 しまり中
5　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に10%混じる
P1埋土

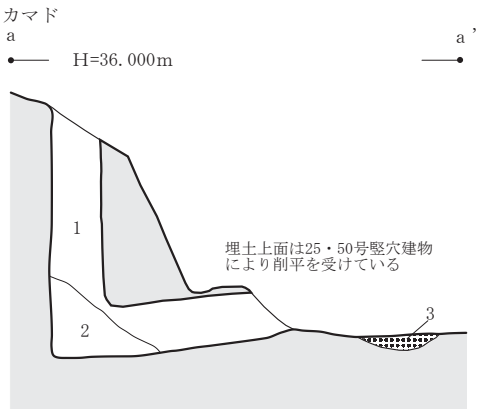


第54図　27号竪穴建物

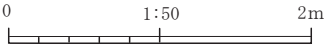




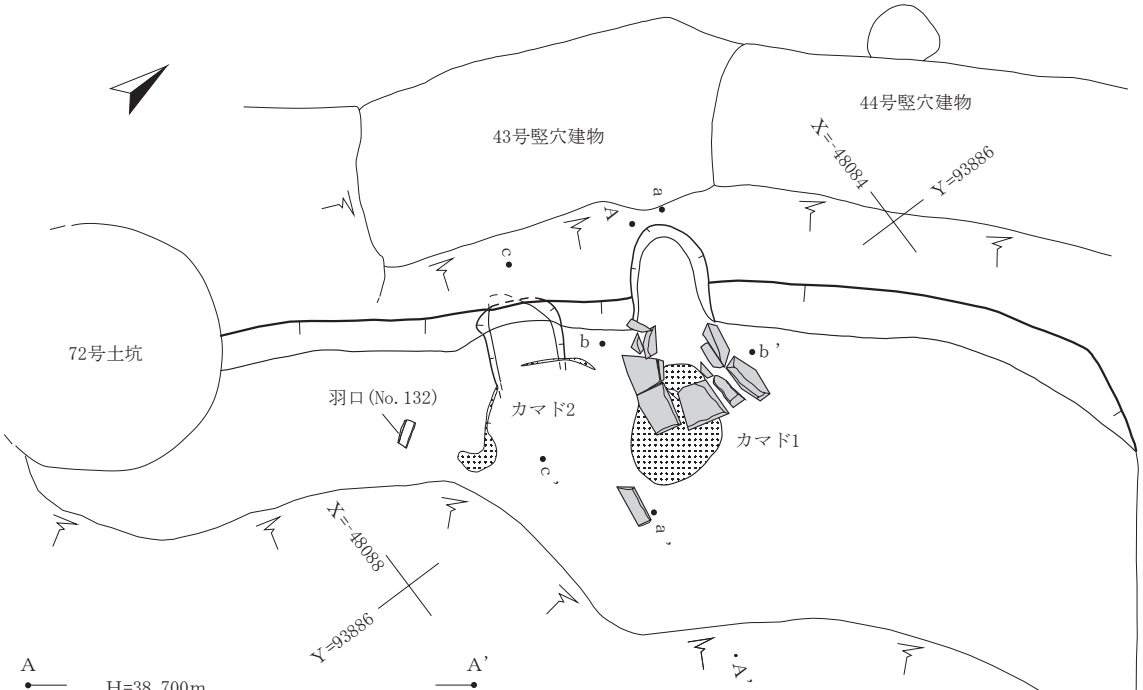
1　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)と暗褐色シルト(10YR3/4)の互層
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性･しまり中 径３～７㎜の炭化物10%含む
5　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)10%混じる

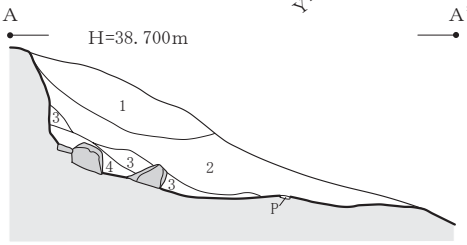


a－a'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)ブロック状に10%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)の互層
3　5YR5/6 明赤褐色焼土 砂質シルト 粘性弱 しまり中



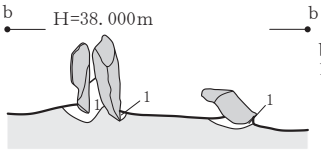
第55図　28号竪穴建物



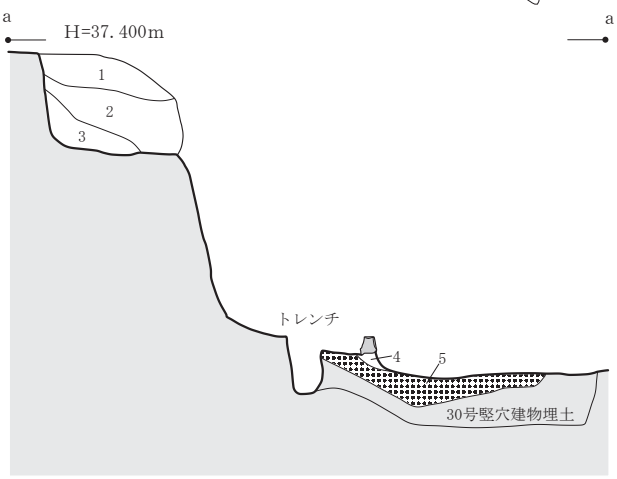


A－A'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２%、灰白色の細粒(風化花崗岩粒)10%含む
2　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２%、灰白色の細粒７%含む(層の上位に多い)
3　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色の細粒10%含む
4　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３%、暗褐色砂質シルト(10YR3/3)のブロック３%含む

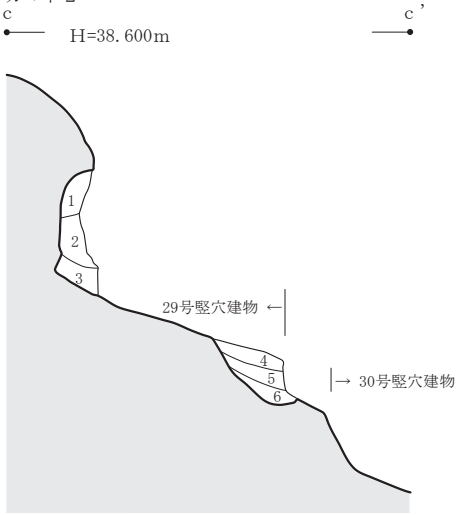
カマド1



b－b'
1　5YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物２%、径５㎜の焼土粒３%含む



カマド2

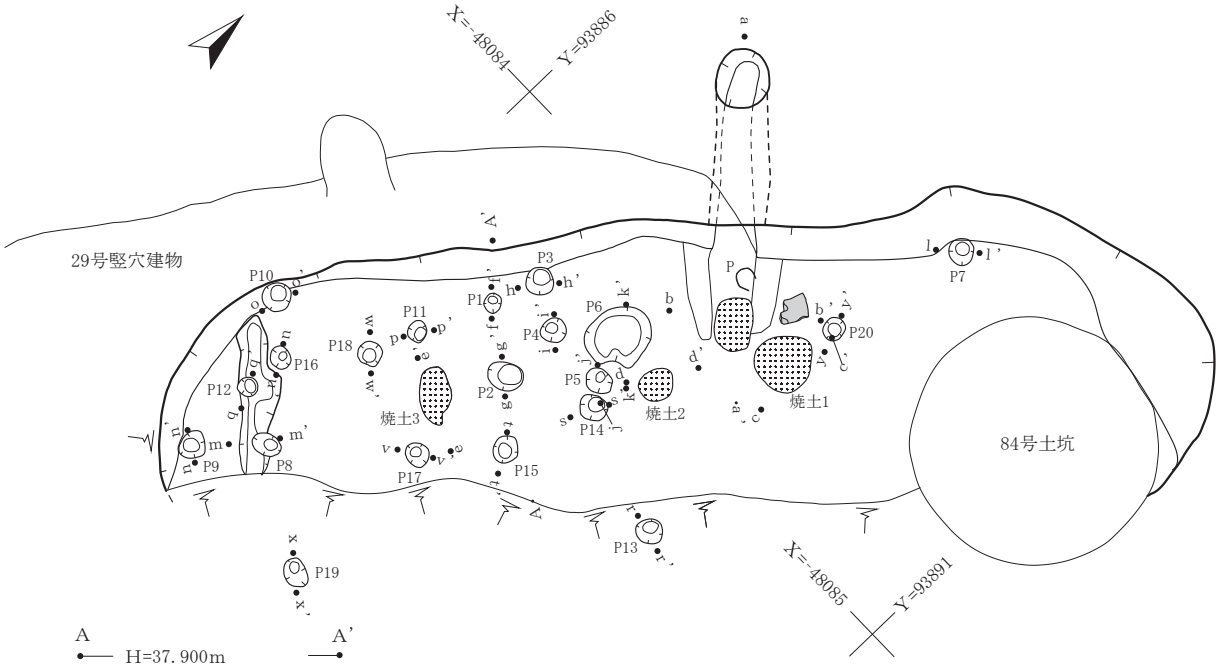


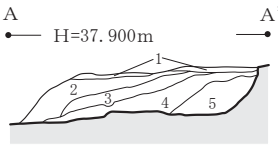
a－a'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３%、焼土粒７%含む
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/6 径５㎜)ブロックで５%含む
3　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物５%、径３㎜の焼土粒３%、径３㎜の黄褐色砂質シルト粒をブロックで２%含む
4　5YR3/2 暗赤褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径５㎜の焼土粒７%、炭化物３%含む
5　5YR4/5 赤褐色焼土 砂質シルト 粘性なし しまり強

c－c'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径２㎜大の小円礫10%含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色の細粒礫(径２～10㎜)25%含む
3　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性・しまりなし 小円礫５%、炭化物３%含む
4　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 Ⅵ層起源 貼床土
5　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 小円礫７%、炭化物３%含む
6　5YR3/2 暗赤褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 径５㎜の焼土粒、径10㎜の炭化物５%を層下部に含む

1:25(カマド断面)　1m
0　1:50　2m

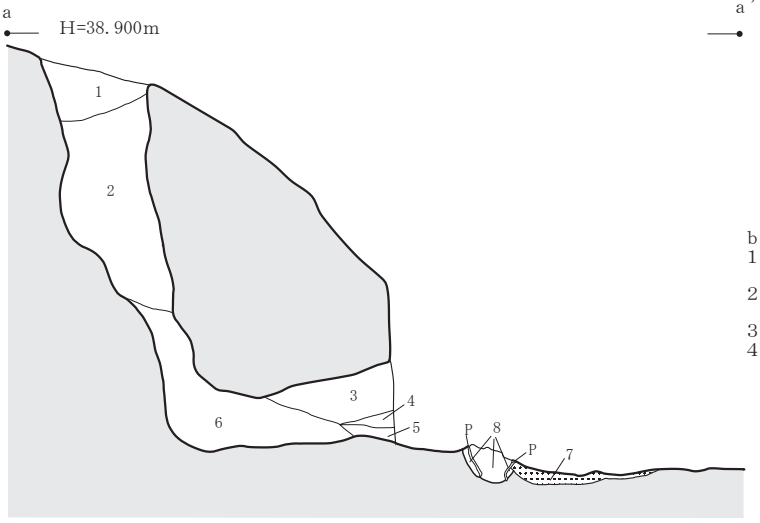
第56図　29号竪穴建物





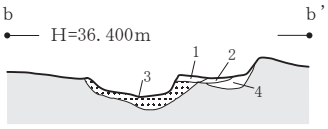
A－A'
1　10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 暗褐色砂質シルトをブロックで７％含む
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルトをブロックで５％、炭化物５％含む
3　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 灰白色細粒２％含む ＊Ⅵ層の再堆積層
4　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 灰白色細粒３％、炭化物３％含む
5　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 下位に黒褐色シルト(10YR2/3)をブロックで３％含む

カマド

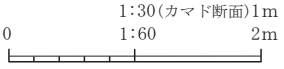


a－a'
1　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)ブロック５％含む
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/4)ブロック20％含む 下位に径５㎝の亜円礫も混じる 上位に黒褐色砂質シルト(10YR3/2)ブロックで３％混じる
3　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 径３㎜の礫７％含む
4　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
5　7.5YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物７％、小礫７％含む
6　7.5YR2/3 極暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黄褐色砂質シルト(10YR5/6)のブロック、炭化物５％混じる
7　５YR4/8 赤褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
8　５YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 支脚の土器を埋める掘方

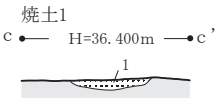
カマド



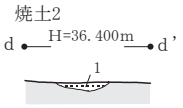
b－b'
1　５YR4/3 にぶい赤褐色焼土 粘性弱 しまりなし 径３㎜の炭化物３％含む
2　５YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２％含む
3　５YR4/8 赤褐色焼土 砂質 粘性なし しまり中
4　５YR3/3 暗赤褐色シルト 粘性なし しまり弱 カマドの掘方埋土



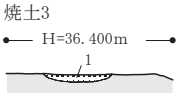
第57図　30号竪穴建物１



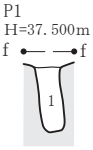
c－c'
1　5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中



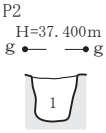
d－d'
1　5YR3/4 赤褐色シルト 粘性なし しまり中



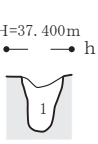
e－e'
1　5YR3/6 暗赤褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱



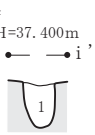
P1
f－f'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 褐色シルトブロック３%含む



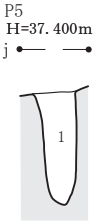
P2
g－g'
1　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色砂質シルト(10YR4/6)ブロック５%、炭化物３%含む

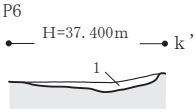


P3
h－h'
1　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色砂質シルト(10YR6/6)ブロック５%含む

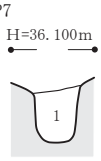


P4
i－i'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色細粒２%、炭化物３%含む

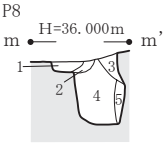




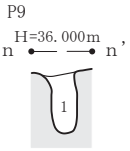
P6
k－k'
1　10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし　赤褐色焼土粒(５YR4/8)５%、炭化物10%、底面に径２㎝の焼土塊含む



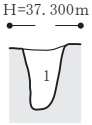
P7
l－l'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし



P5
j－j'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色シルトブロック３%含む



n－n'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし

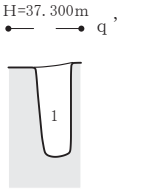


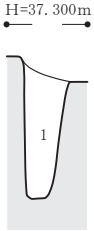
P10
o－o'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし　褐色シルト(10YR4/4)ブロック７%、径２㎜の炭化物３%含む

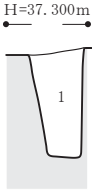
P11
p－p'
1　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色シルト(10YR3/3)ブロック５%、炭化物２%含む

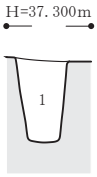
P8
m－m'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/6)のブロック10%、灰白色細粒７%含む
2　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱
3　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黄褐色砂質シルトのブロック(1×4㎝)が下位に混じる
4　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/4)５%、灰白色細粒５%含む
5　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/4)３%、炭化物２%含む

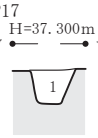
＊壁溝に切られているのがP8である











P12
q－q'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/6)のブロック７%含む

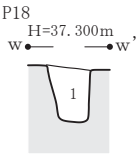
P13
r－r'
1　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　粘性なし　しまり中　褐色砂質シルト(10YR4/4)ブロック５%含む

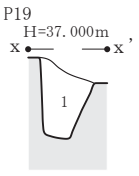
P14
s－s'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中

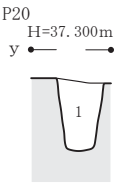
P15
t－t'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/4)ブロック７%、炭化物７%含む

P16
u－u'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/6)５%含む

P17
v－v'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし



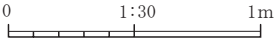




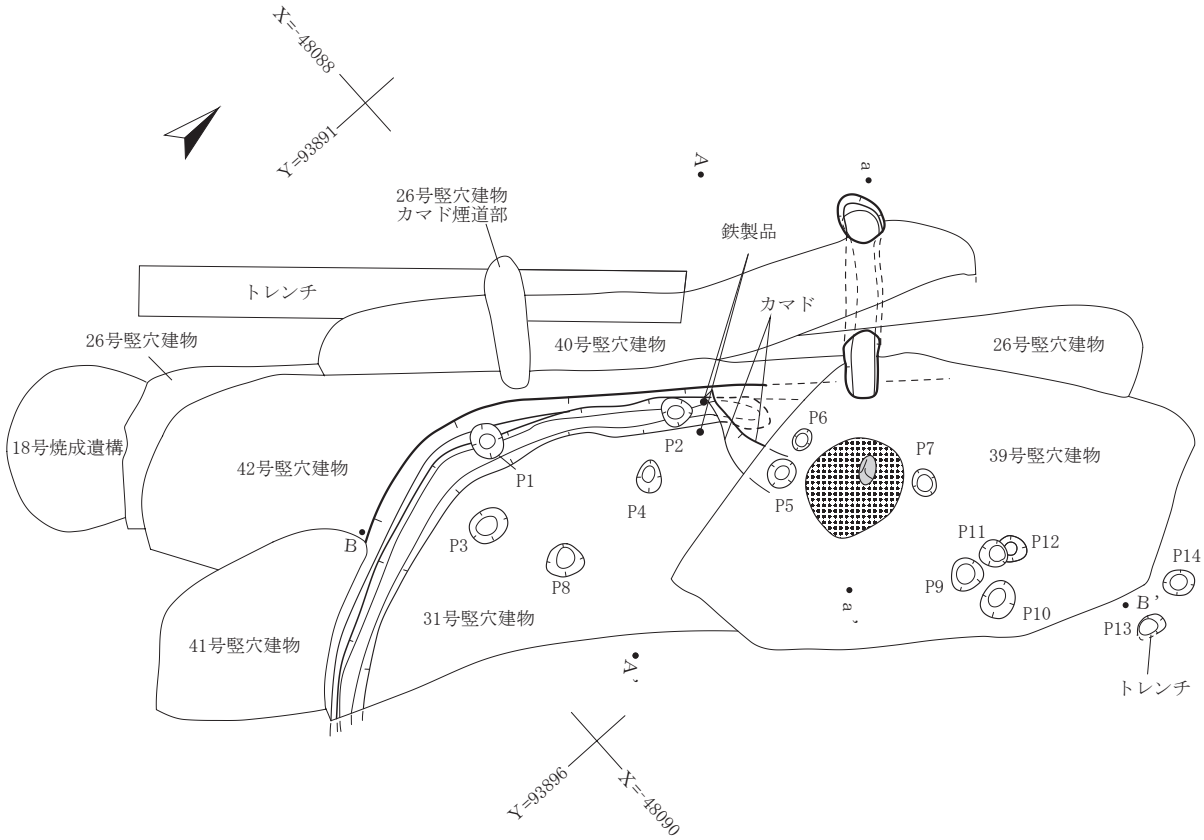
P18
w－w'
1　10YR3/4　暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/4)ブロック３%含む

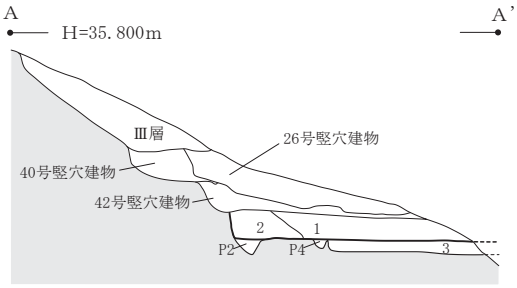
P19
x－x'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし　黒褐色砂質シルト(10YR3/2)５%含む

P20
y－y'
1　10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし

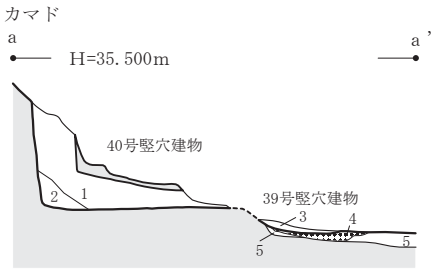


第58図　30号竪穴建物２

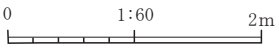




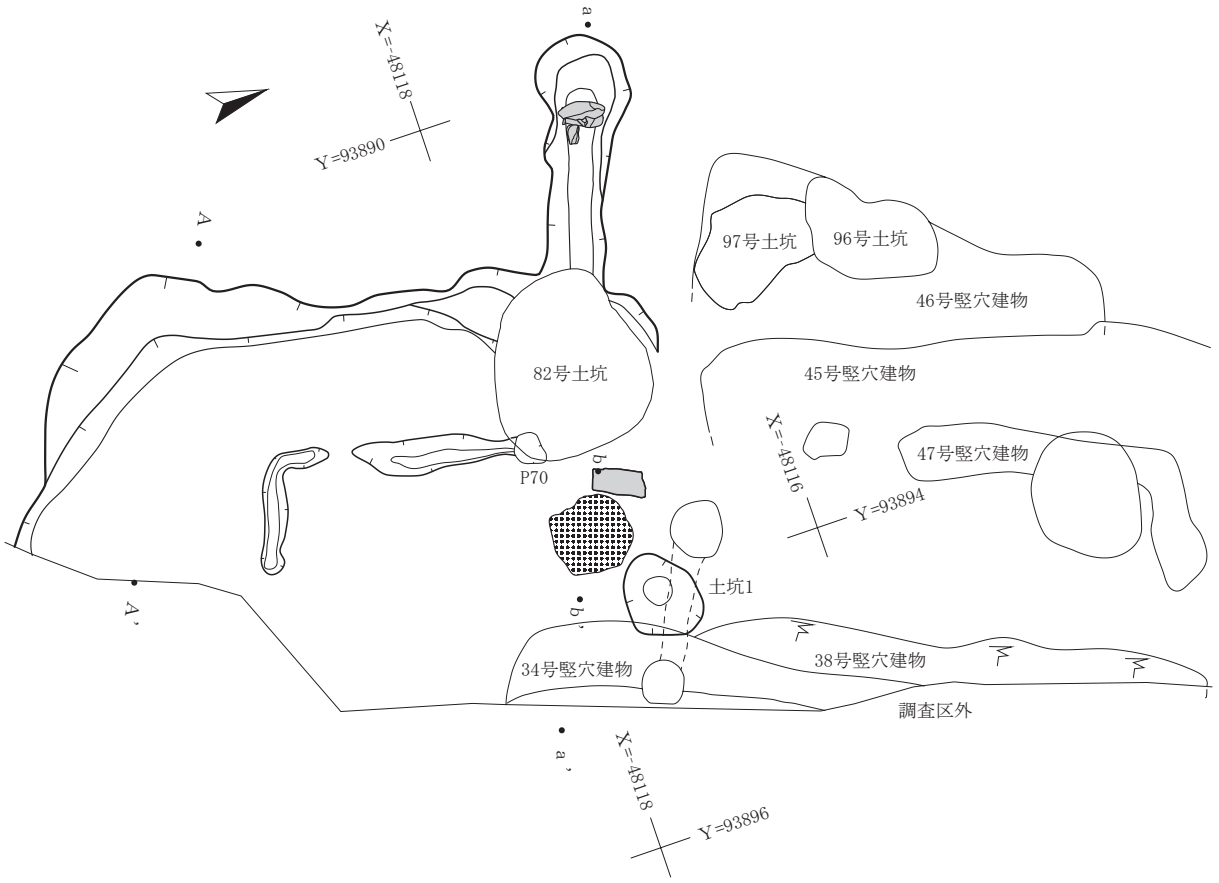
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)がブロック状に20%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)に暗褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に20%混じる
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に５%混じる

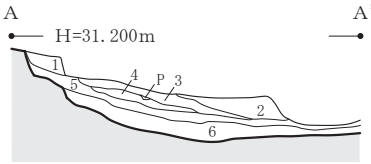


a－a'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に10%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)の互層
3　５YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 径２～３㎜の炭化物70%、径２～５㎜の焼土粒５%混じる
4　５YR4/8 赤褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
5　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に10%混じる

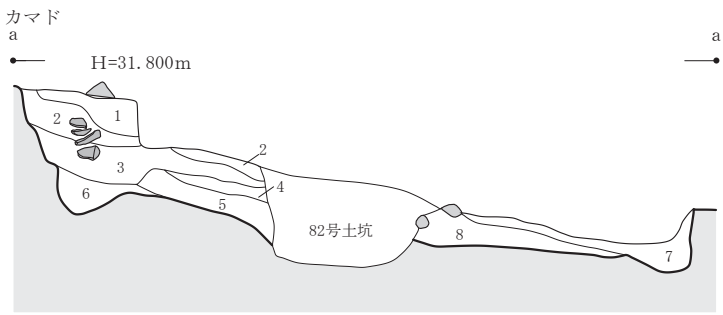


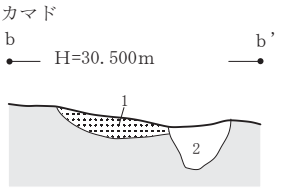
第59図　31号竪穴建物





A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
6　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)40％含む





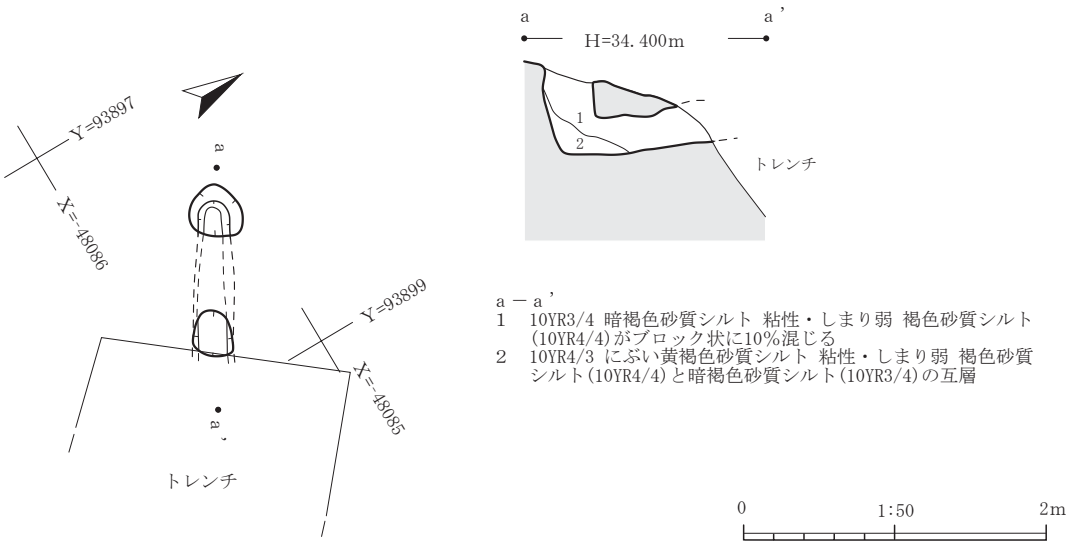
b－b'
1　5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり弱
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
褐色シルト(10YR4/6)10％含む

a－a'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)ブロックを10％含む
2　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまりなし 暗褐色シルト(10YR3/3)の混じりあり 層下位に焼土ブロックを少量含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト50％、10YR4/4 褐色シルト50％の混合土層 粘性・しまりなし
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 層下位に明黄褐色シルト(10YR7/6)ブロックを多く含む
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)ブロックを20％含む
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 厚さ２㎝の炭層 炭層間に浅黄色シルト(2.5Y7/4)混入
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6)ブロックを10％含む
8　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中

1:30(b－b')　1m
0　1:60　2m

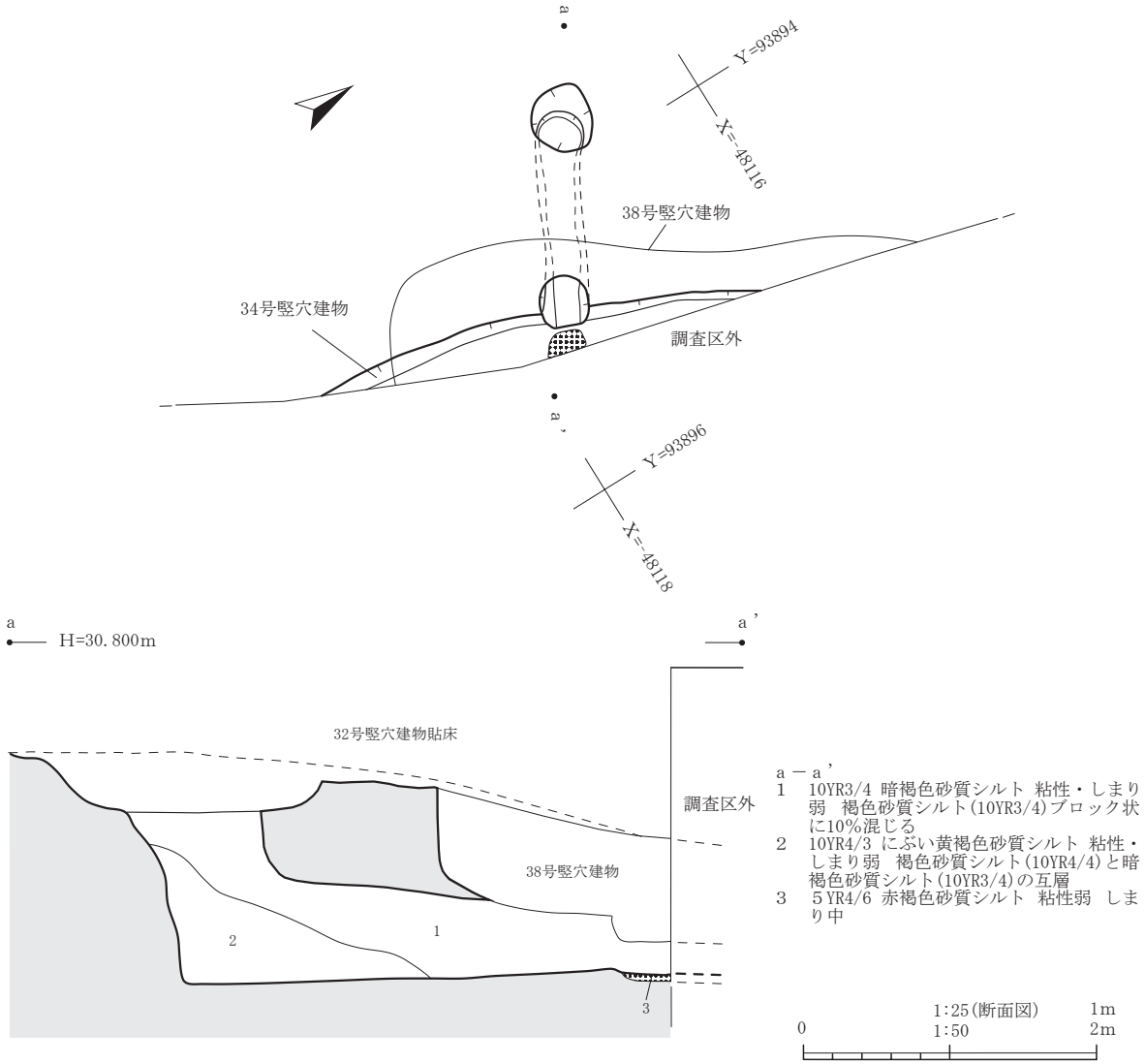
第60図　32号竪穴建物

〔33号竪穴建物〕



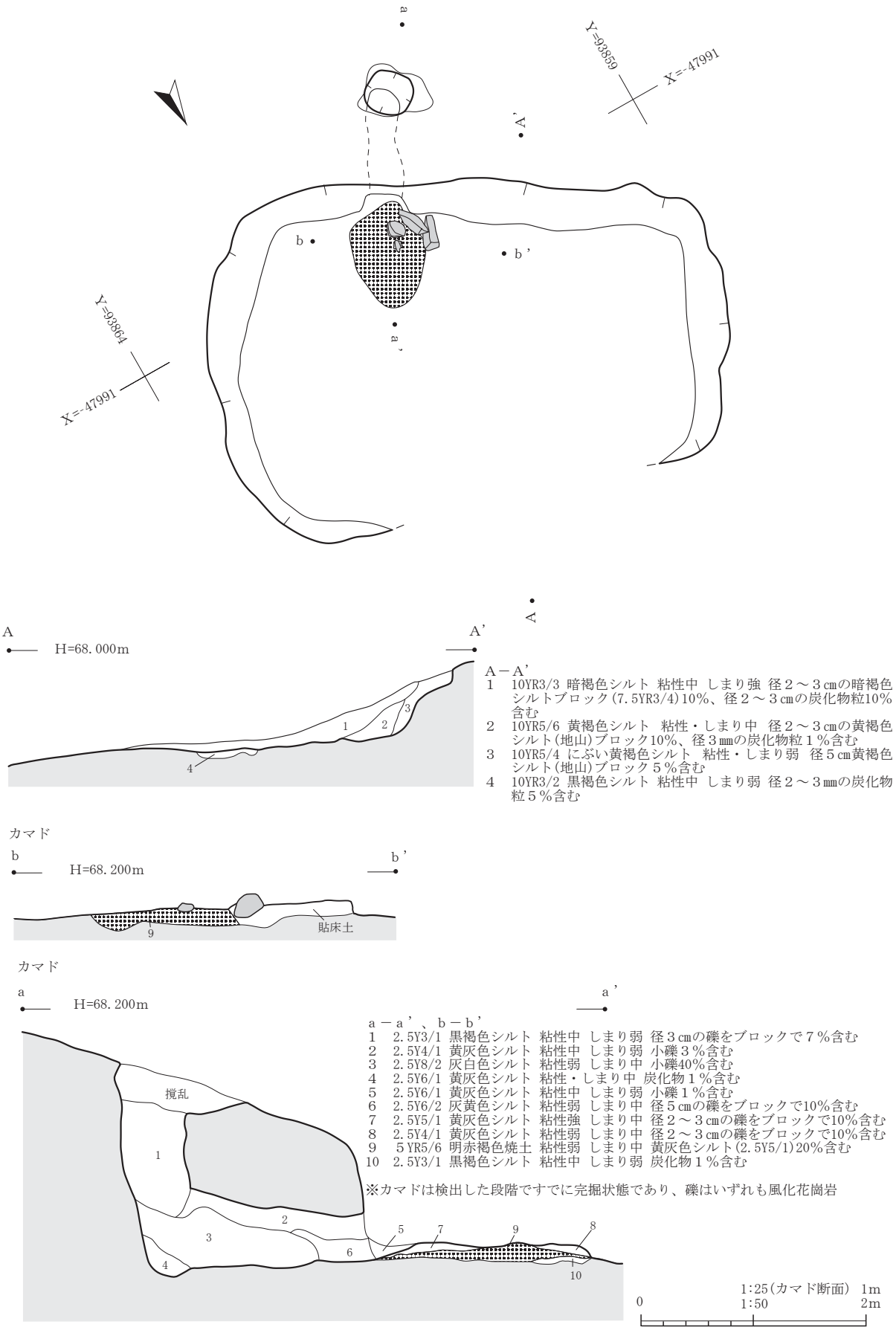
a － a'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に10%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)の互層

〔34号竪穴建物〕

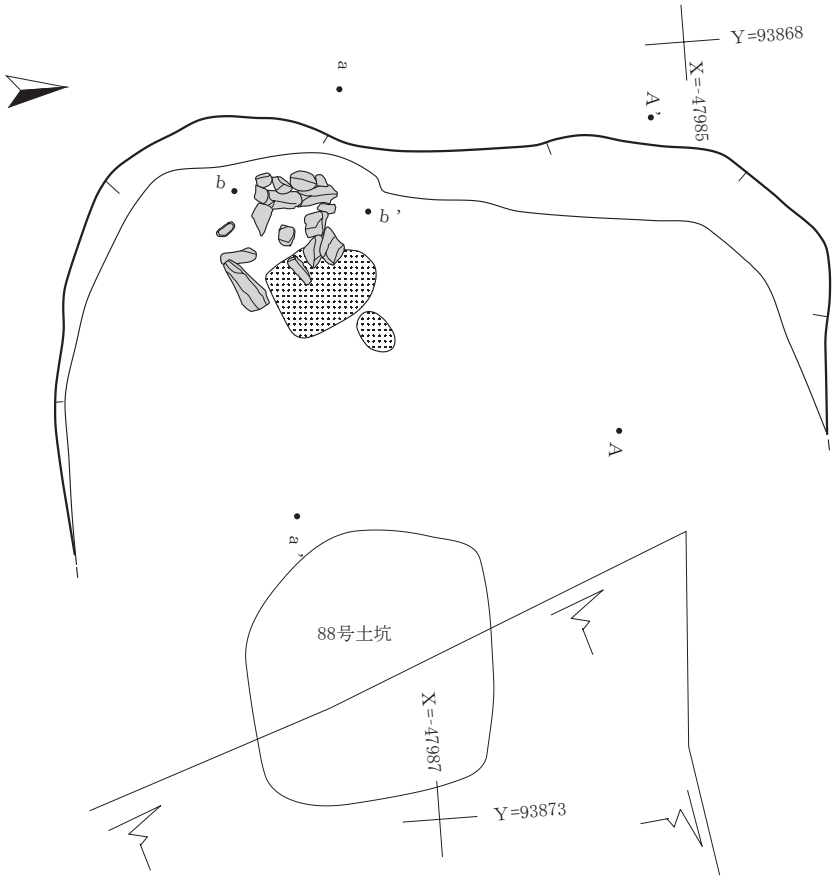


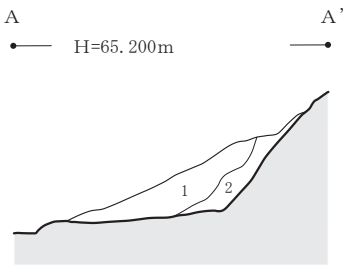
a － a'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR3/4)ブロック状に10%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 褐色砂質シルト(10YR4/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)の互層
3　5YR4/6 赤褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中

第61図　33・34号竪穴建物

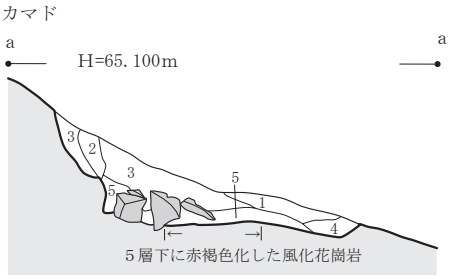


第62図　35号竪穴建物

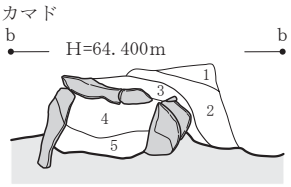




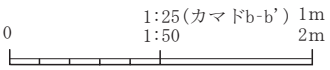
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 褐色シルト(10YR4/4 径３～４㎝)をブロック状に10%、径１～２㎝の炭化物粒５%含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 ※壁面崩落土



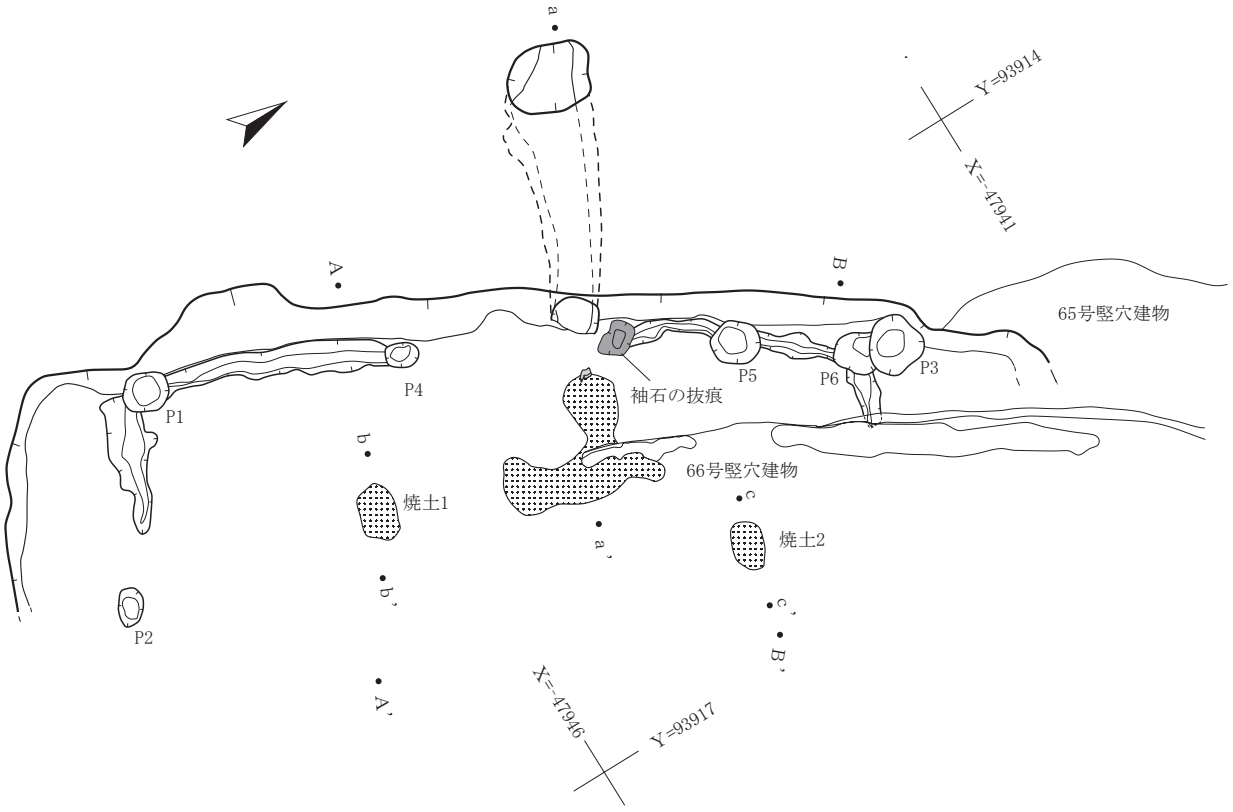
a－a'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6 径５㎝)をブロックで20%含む
3　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/3 径２～３㎝)をブロック状に10%、明黄褐色シルト(10YR6/6 径３～４㎜)５%含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 径３㎝)をブロックで10%含む
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 径１～２㎝の炭化物粒５%、径２～３㎝の明黄褐色シルト(10YR6/6)３%含む

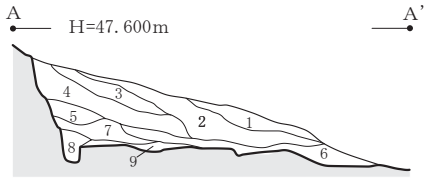


b－b'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)10%含む
3　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 カマド構成土
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)５%含む
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 径１～２㎝の炭化物粒１～２%含む

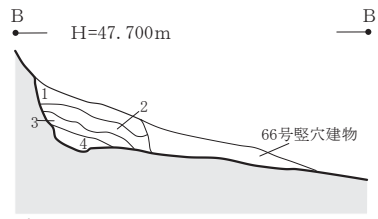


第63図　36号竪穴建物



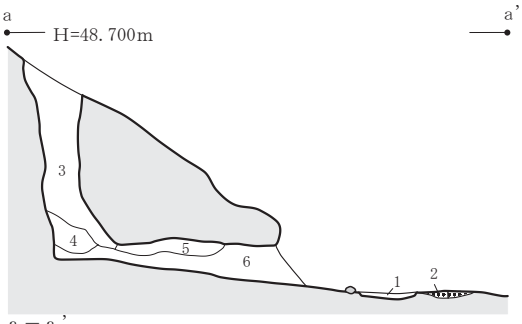


A－A'
1　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR 2/2)をブロックで１～３％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 炭化物粒５％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
5　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物粒１～３％含む
6　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒１～３％含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱
8　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱
9　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性弱 しまり中



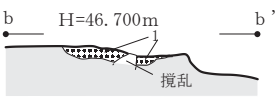
B－B'
1　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルトブロック(10YR6/6径５～20㎜)30％、黒色シルトブロック(10YR2/1 径10～50㎜)10％、明赤褐色シルトブロック(2.5YR5/6 径５～20㎜) １～３％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎜の炭化物粒１～３％含む

カマド



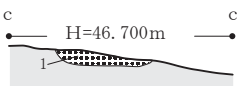
a－a'
1　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性・しまり弱
2　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/8)10％、炭化物粒１～３％含む
4　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱
5　10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物粒５％、赤褐色焼土(2.5YR4/6)ブロックで５％含む

焼土1

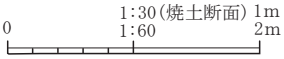


b－b'
1　2.5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性なし しまり中

焼土2

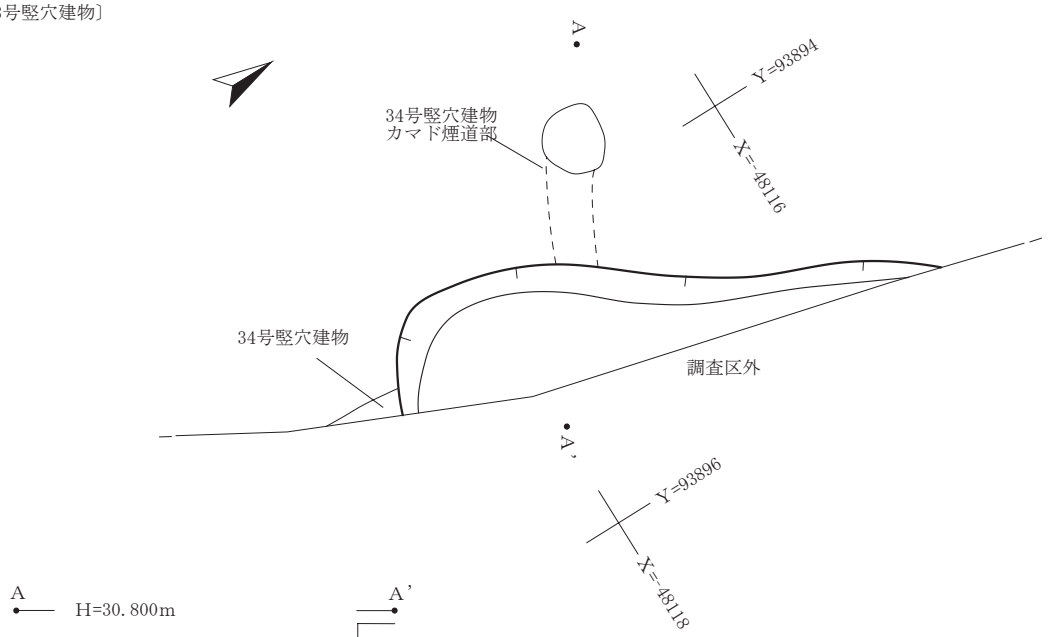


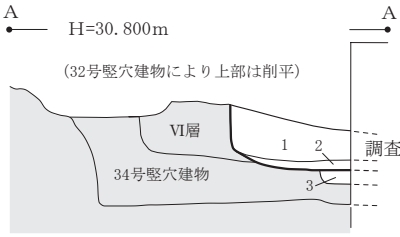
c－c'
1　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中



第64図　37号竪穴建物

〔38号竪穴建物〕

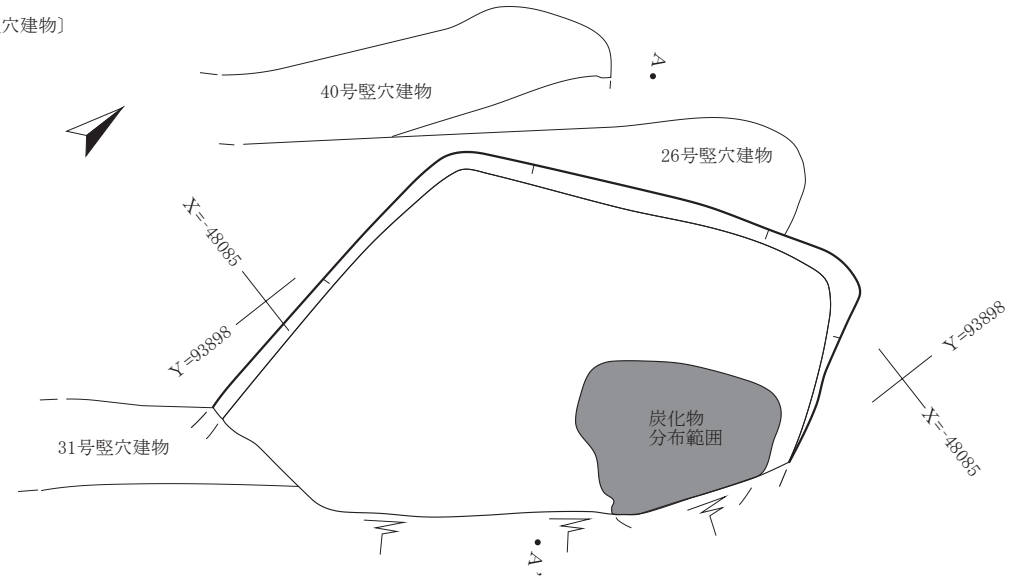


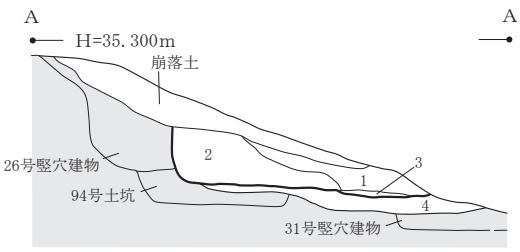


A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)がブロック状に20%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)に暗褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に20%混じる
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に５%混じる

0　1:50　2m

〔39号竪穴建物〕



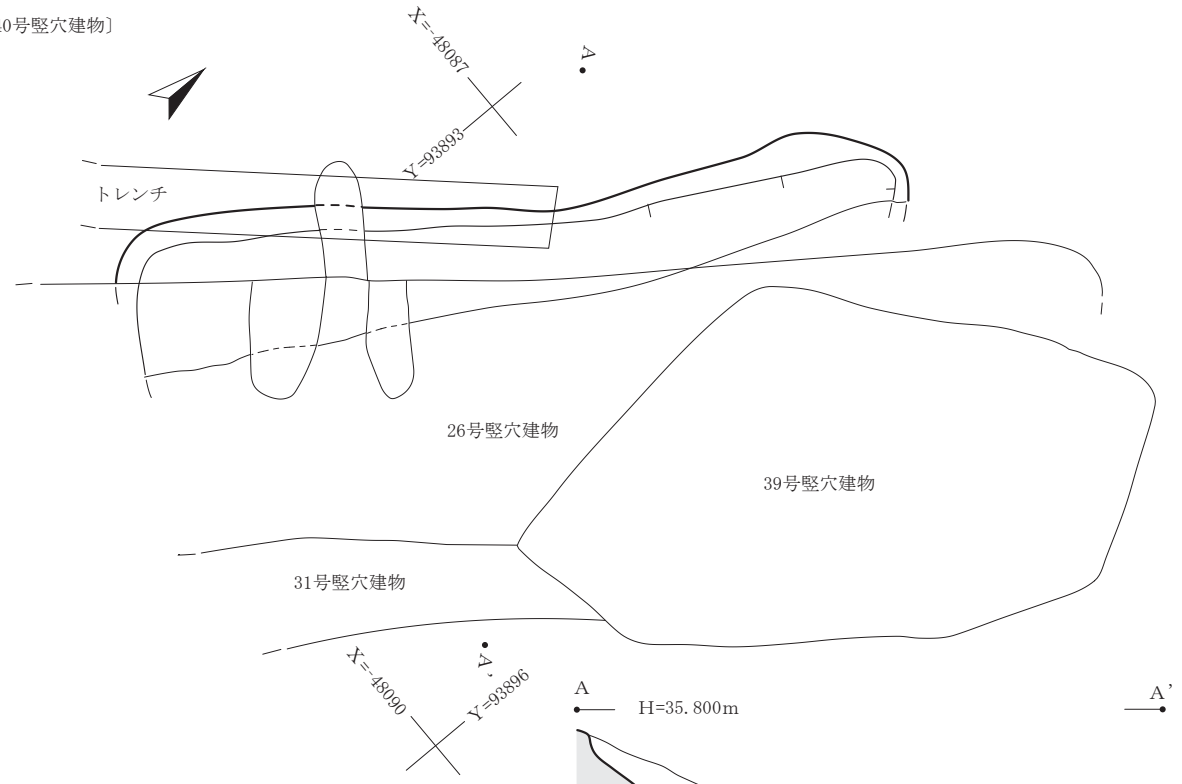


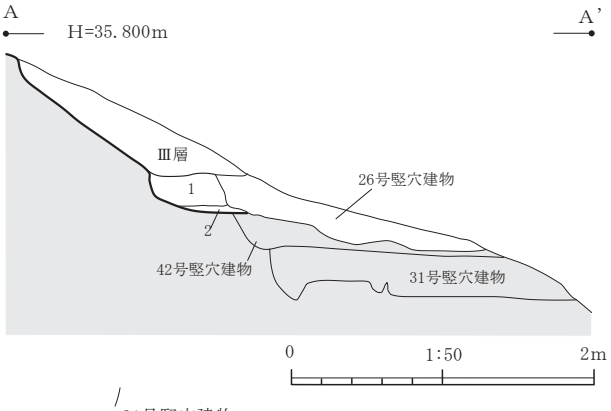
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)が５%ブロック状に混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/3)、にぶい黄褐色砂質シルト(10YR4/3)の互層
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)とにぶい黄褐色シルト(10YR4/3)の互層、一部に黒褐色砂質シルト(10YR3/2)が互層
4　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)と黒褐色砂質シルト(10YR3/2)がブロック状に混じる 小礫２～３%含む 貼床土

0　1:50　2m

第65図　38・39号竪穴建物

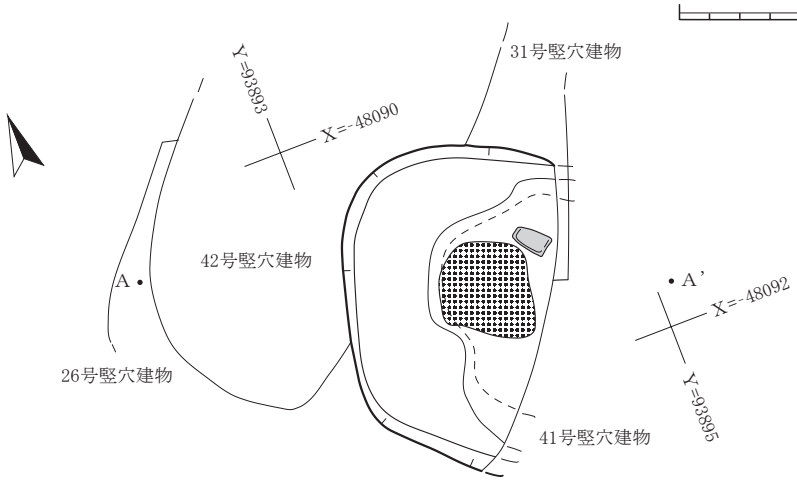
〔40号竪穴建物〕

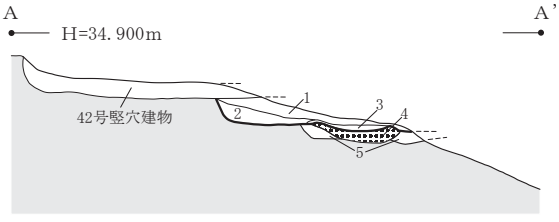




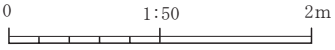
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)が10%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)が10%混じる

〔41号竪穴建物〕

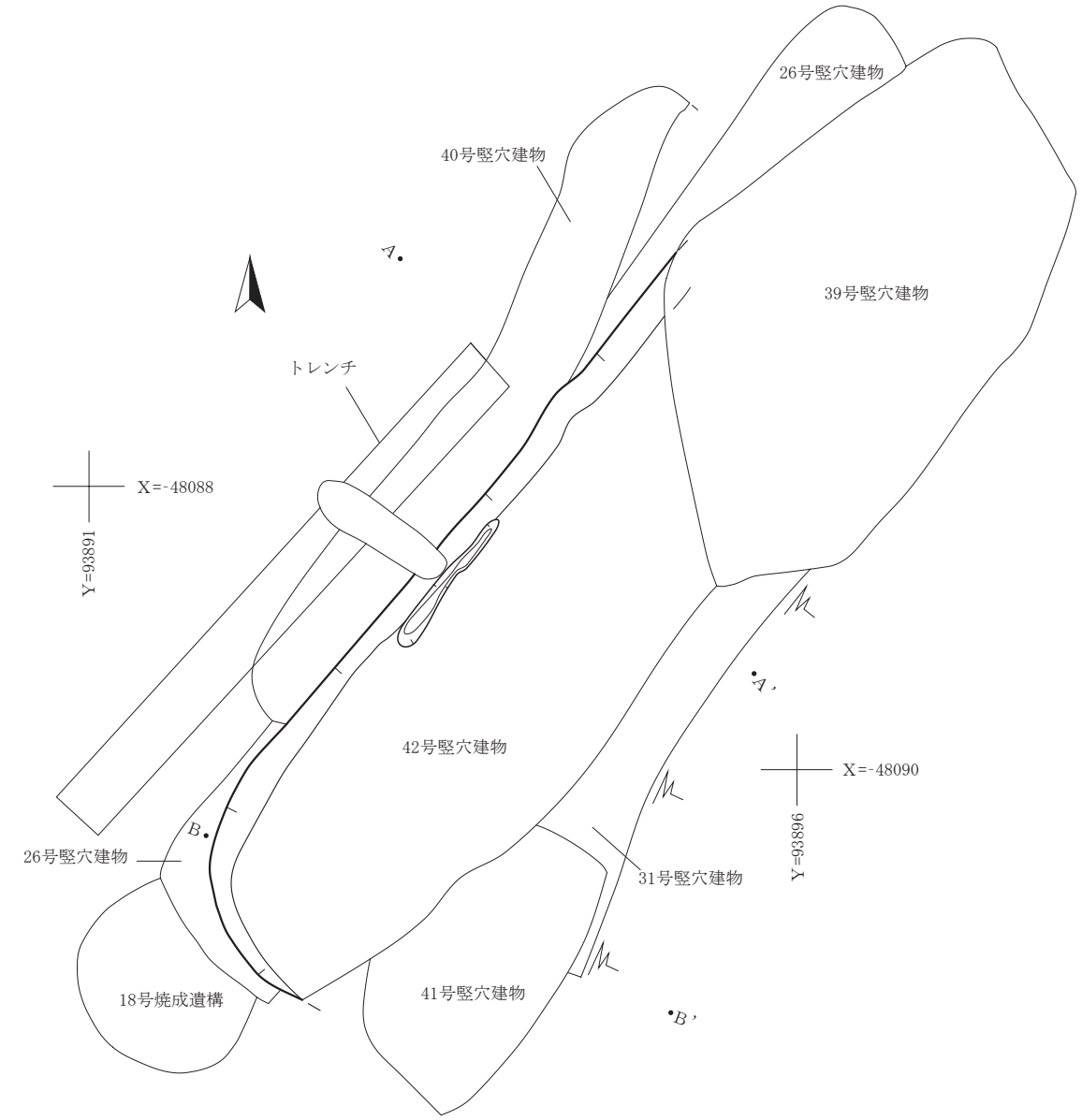


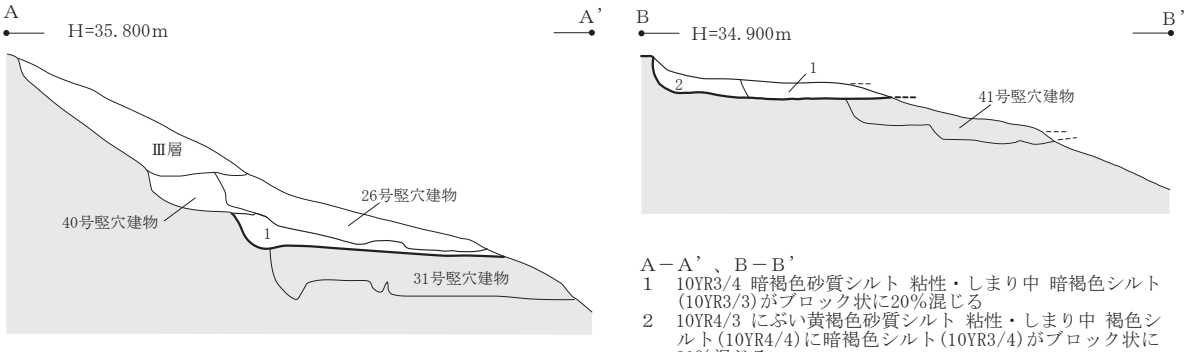


A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)がブロック状に20%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)に暗褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に20%混じる
3　5YR3/2 暗赤褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 径2～5㎜の炭化物5%、径3～5㎜の焼土粒20%混じる
4　5YR4/8 赤褐色砂質シルト 粘性・しまり中
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に5%混じる



第66図　40・41号竪穴建物



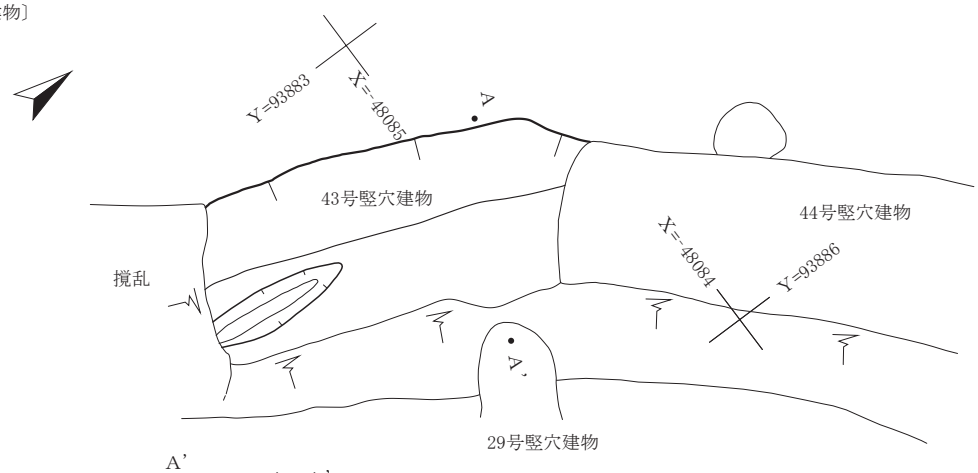


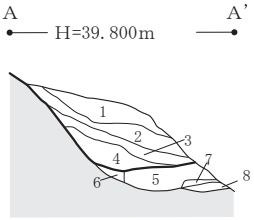
A－A'、B－B'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)がブロック状に20%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4)に暗褐色シルト(10YR3/4)がブロック状に20%混じる

0　1:50　2m

第67図　42号竪穴建物

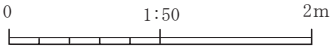
〔43号竪穴建物〕



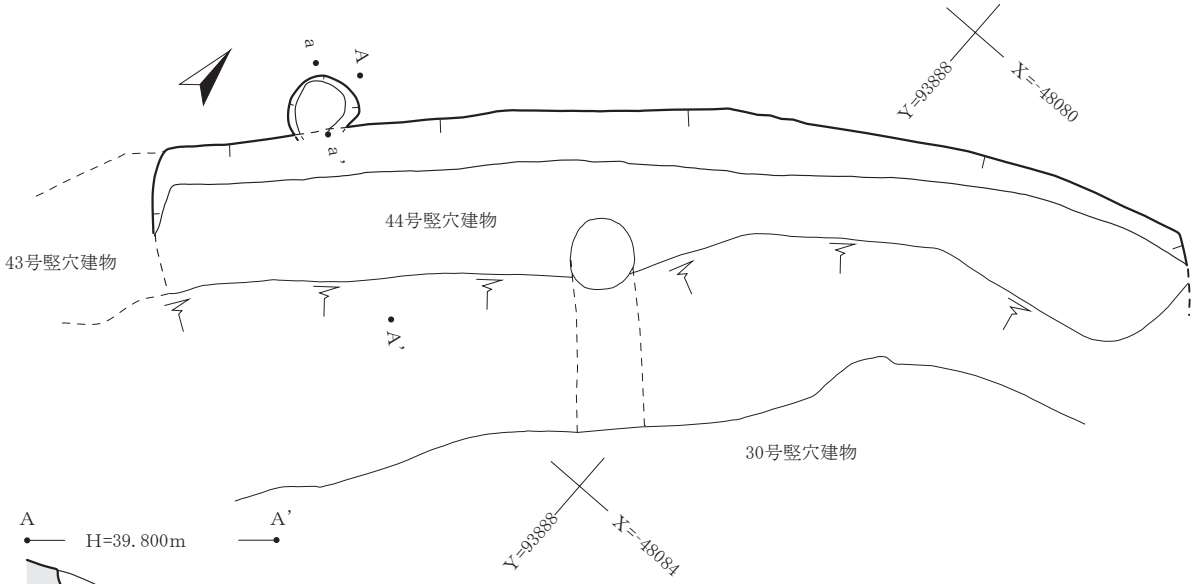


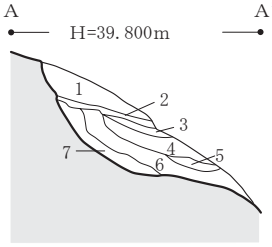
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色シルトのブロック１%、炭化物３%、径１～２㎝の円礫３%含む
2　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３%、焼土粒１%含む
3　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 灰白色細粒２%含む
4　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 上位に暗褐色(10YR3/4)、下位に黒色(10YR2/1)の層がラミナ状に堆積
5　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)ブロック３%、灰白色細粒７%含む
6　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 褐色砂質シルト(10YR4/6)ブロックで３%、上位に混じる
7　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 灰白色細粒１%含む
8　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物３%、灰白色細粒２%、暗褐色砂質シルト(10YR3/4)ブロックで２%含む

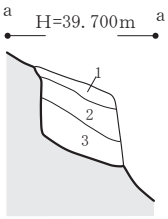
※１～４層 住居埋土、５～８層 貼床土



〔44号竪穴建物〕

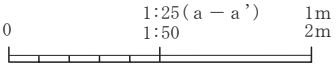




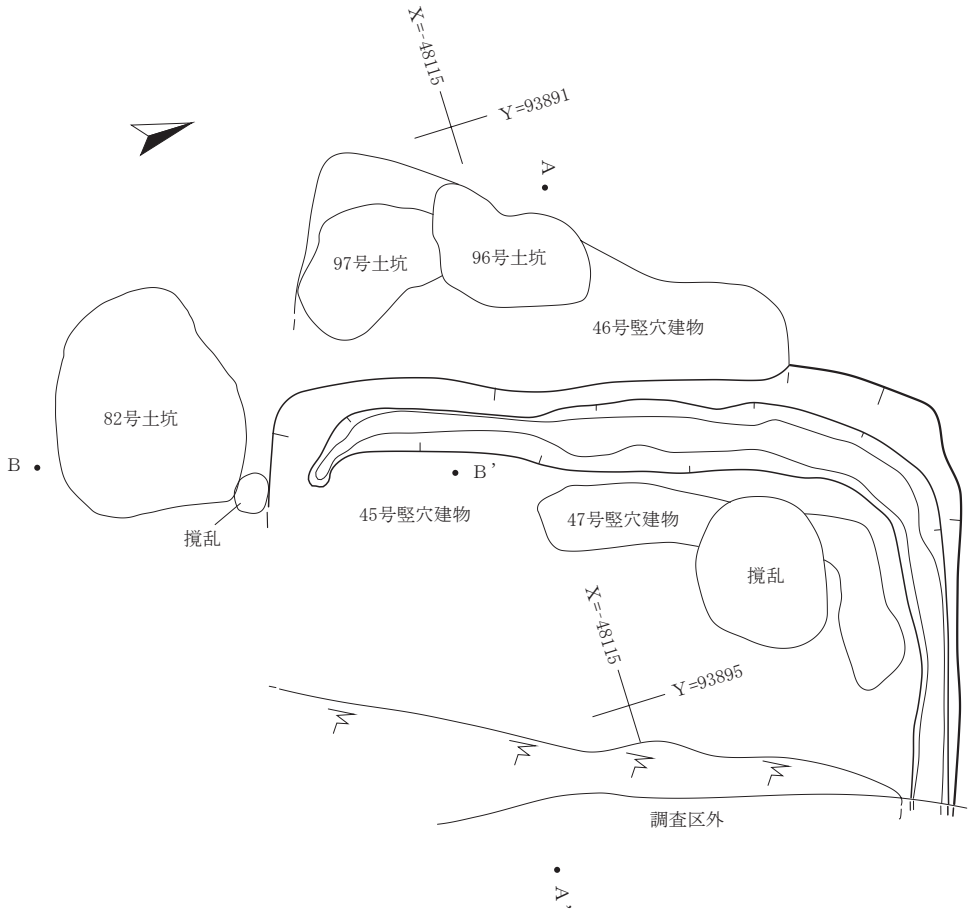


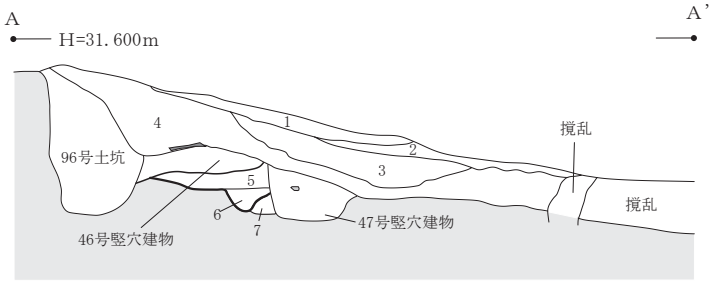
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物２%、上位に褐色砂質シルト(10YR4/6)をブロックで３%含む
2　10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 径10㎜の小円礫５%含む
3　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 灰白色細粒３%含む
4　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 褐色砂質シルト(10YR4/4)ブロックで３%、礫(黄褐色)７%含む
5　10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 礫(黄褐色)３%含む
6　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 径10㎜の炭化物３%、褐色砂質シルト(10YR4/4)をブロックで３%、灰白色細粒５%、小円礫５%含む
7　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱 しまりなし 下位に暗褐色砂質シルト(10YR3/3)ブロックで７%、黒褐色砂質シルト(10YR3/2)ブロックで５%含む

a－a'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色細粒２%含む
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色細粒３%含む
3　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 下位に黒褐色砂質シルトのブロック５%、炭化物５%含む



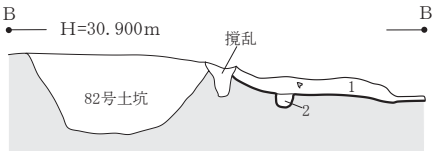
第68図　43・44号竪穴建物



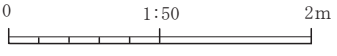


A－A’
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱　しまり中　黒色シルト(10YR2/1) 3％、明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
3　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし ※撹乱か？
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 層西側に明黄褐色シルト(10YR6/8)20%、褐色シルト(10YR4/4) 7～10%含む
5　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 3％、暗褐色シルト(10YR3/3) 5％含む
6　10YR4/4 褐色シルト80%、10YR6/8 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中 壁溝埋土
7　10YR6/8 明黄褐色シルト60%、10YR4/4 褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中 貼床土

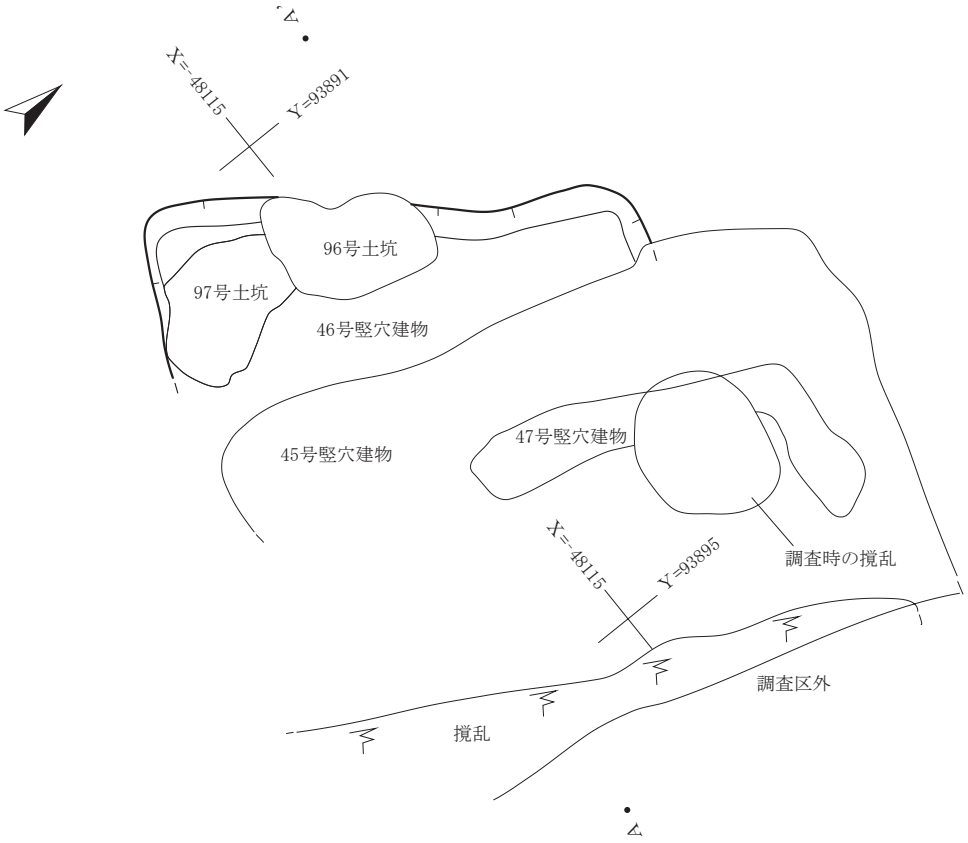
＊1～4は斜面崩落土

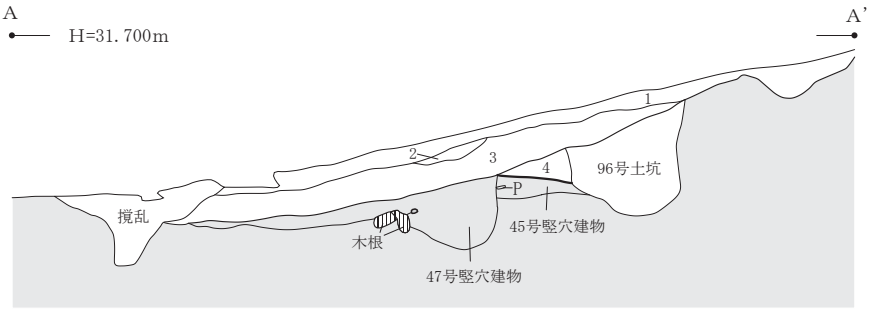


B－B’
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 粗粒砂少量混じる
2　10YR4/4 褐色シルト80%、10YR6/8 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり中 壁溝埋土

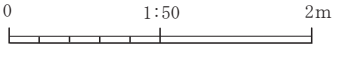


第69図　45号竪穴建物

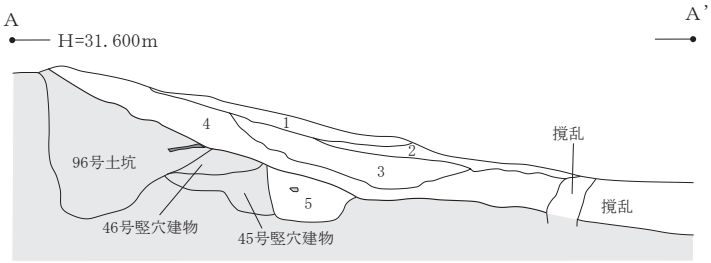




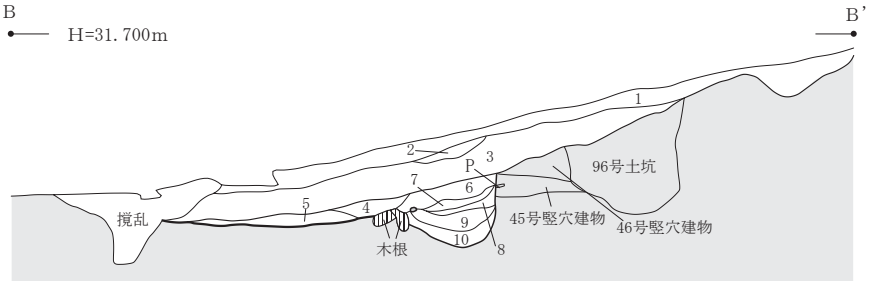
A－A'
1・2　盛土
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)10～15%が一部に混入
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト(10YR7/6) 2～3%、粗粒砂やや多く混入



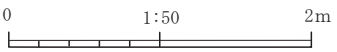
第70図　46号竪穴建物



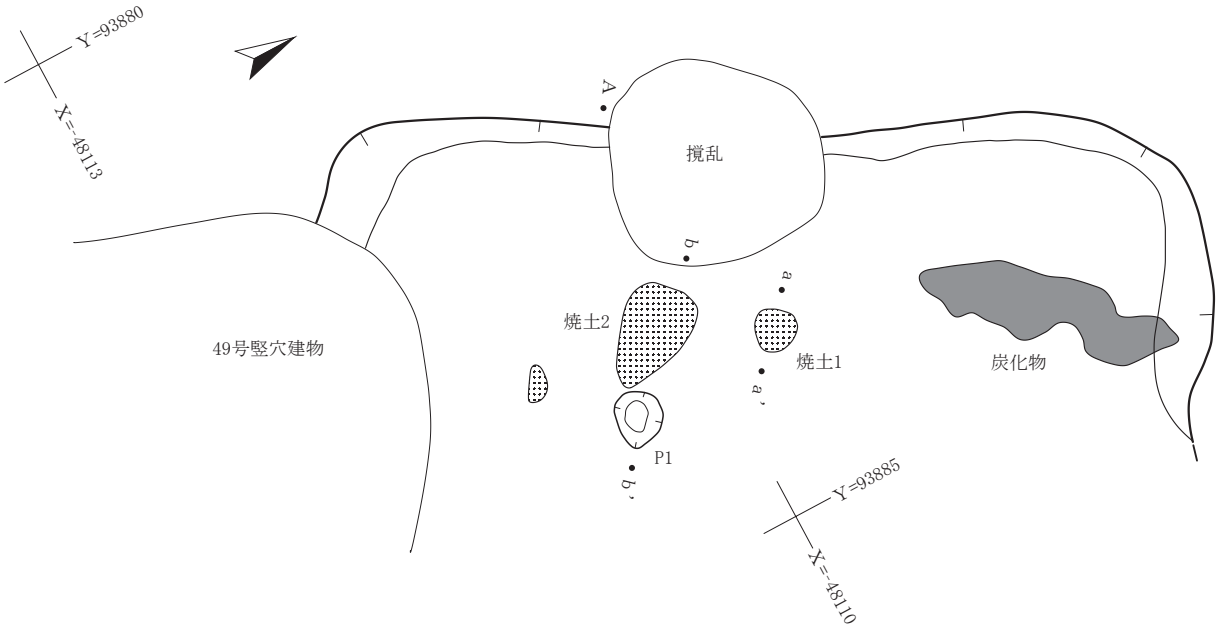
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 3％、明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
3　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし ※撹乱か？
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％未満、褐色シルト(10YR4/4) 7～10％含む
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5～7％含む

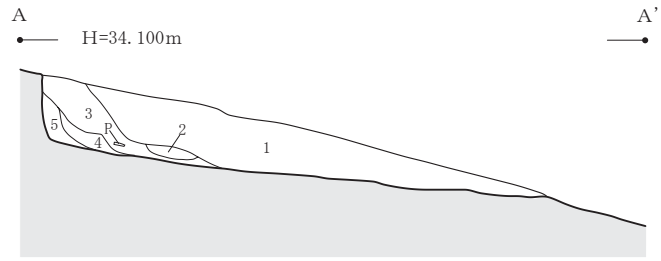


B－B'
1・2　造成による盛土
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)10～15%が一部に混入
4　10YR2/3 黒褐色シルト Ⅵ層との混合土 しまりなし 径1㎝の炭化物多く含む
5　10YR2/1 黒色シルト Ⅵ層との混合土 しまりなし 径5㎜の炭化物粒少量含む
6　10YR3/4 暗褐色シルト Ⅴ層との混合土
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中
9　10YR3/1 黒褐色シルト 粗粒砂混入 Ⅵ層小ブロック含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト Ⅵ層との混合土 炭化物少量含む



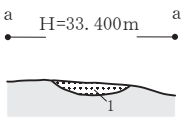
第71図　47号竪穴建物





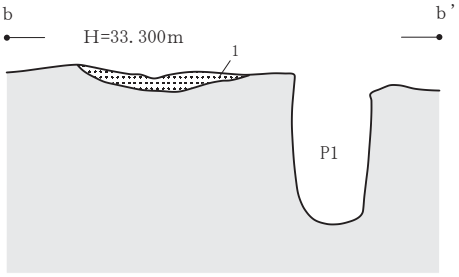
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径20㎜の炭化物ブロックを10%含む
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径30㎜の暗褐色シルトブロックを２%含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径20㎜の暗褐色シルトブロックを１%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径５㎜の黄褐色シルト粒含む

焼土1

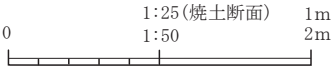


a－a'
1　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり中

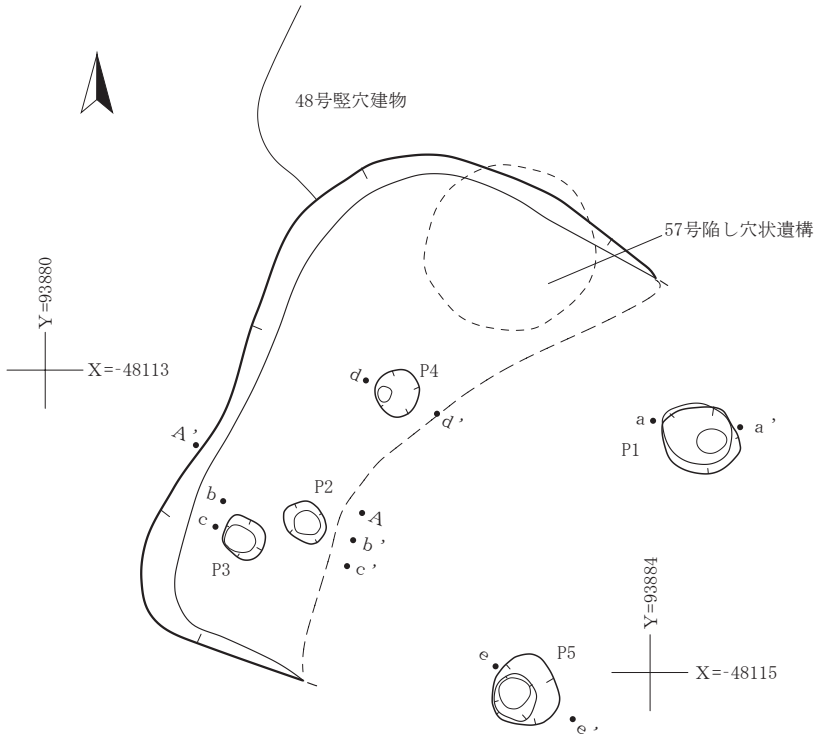
焼土2

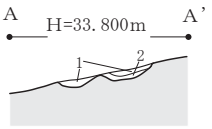


b－b'
1　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり中

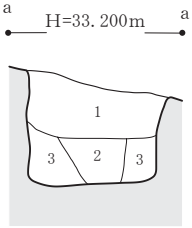


第72図　48号竪穴建物

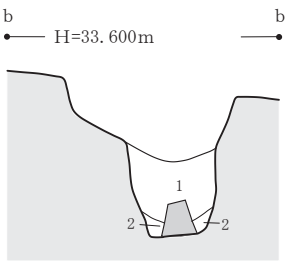




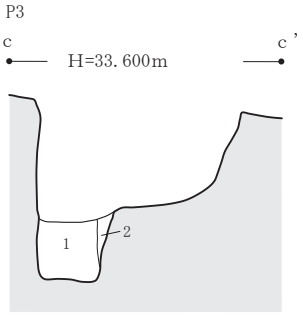
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 径１～10㎜の炭化物５%、褐色シルト(10YR4/6)斑状に20%含む
2　黄褐色粘土質シルト80%、褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまりなし

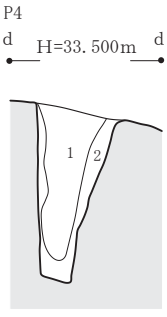


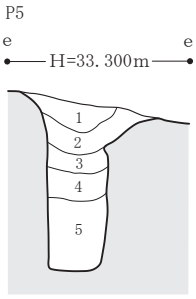
P1
a－a'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～３㎜の炭化物７%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～３㎜の黄褐色シルト10%含む
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色シルトを斑状に20%含む



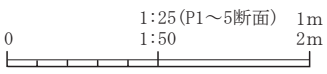
P2～P4
b－b'、c－c'、d－d'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 径１～３㎜の炭化物10%含む
2　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性なし しまり強 １層(黒色シルト)10%含む



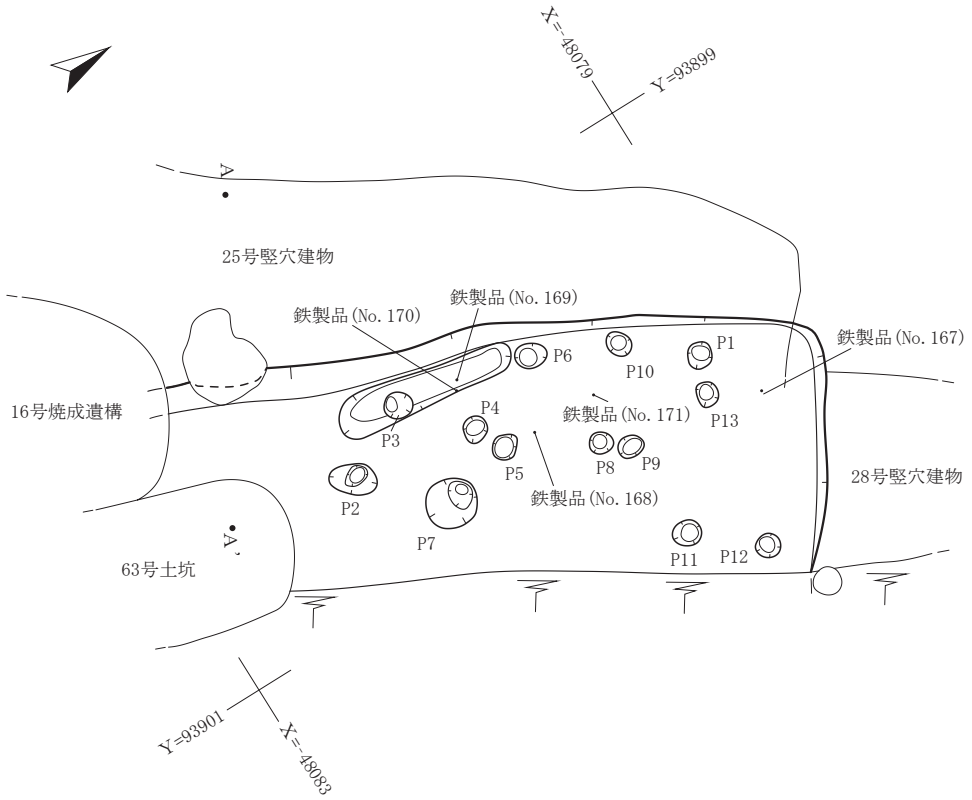


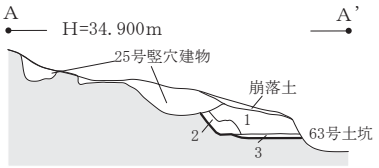


P5
e－e'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 径１～５㎜の黄褐色シルト粒１%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 径１～５㎜の黄褐色シルト粒筋状に20%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 径１～20㎜の黄褐色シルト粒10%含む
4　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 径１～40㎜の黄褐色シルト粒30%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径１～30㎜の黄褐色シルト粒10%含む

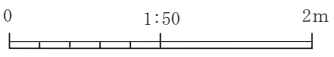


第73図　49号竪穴建物

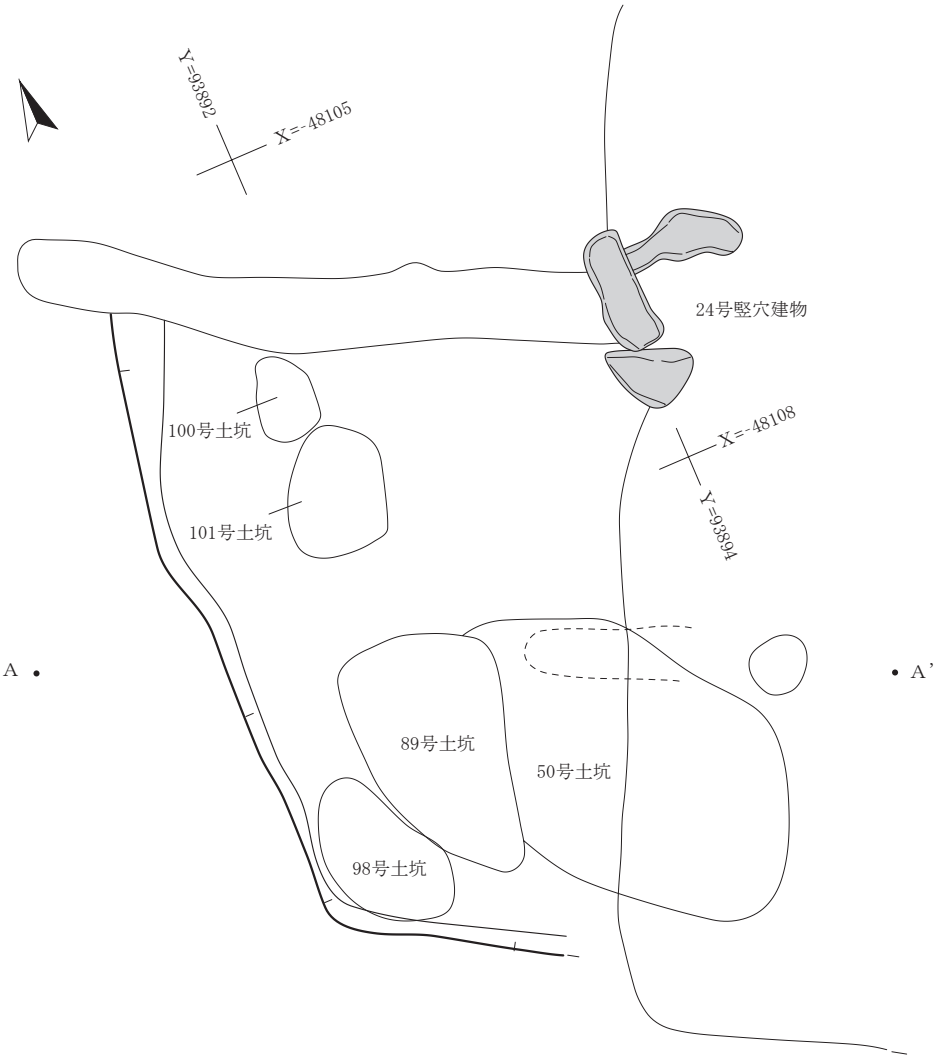


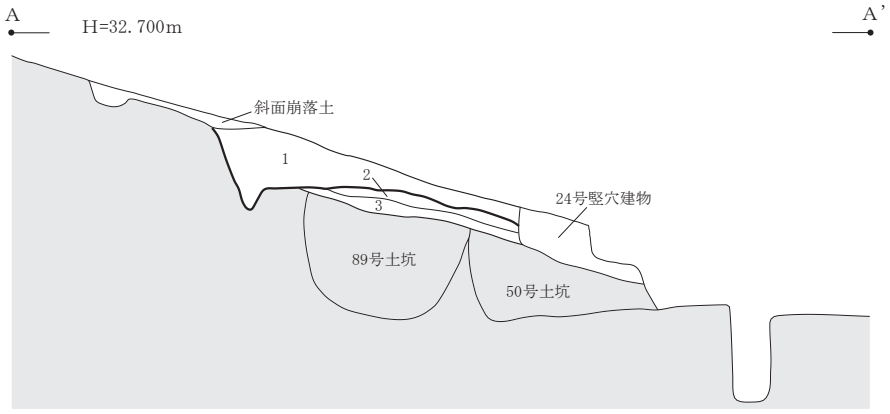


A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)がブロック状に５％混じる
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に10％混じる



第74図　50号竪穴建物



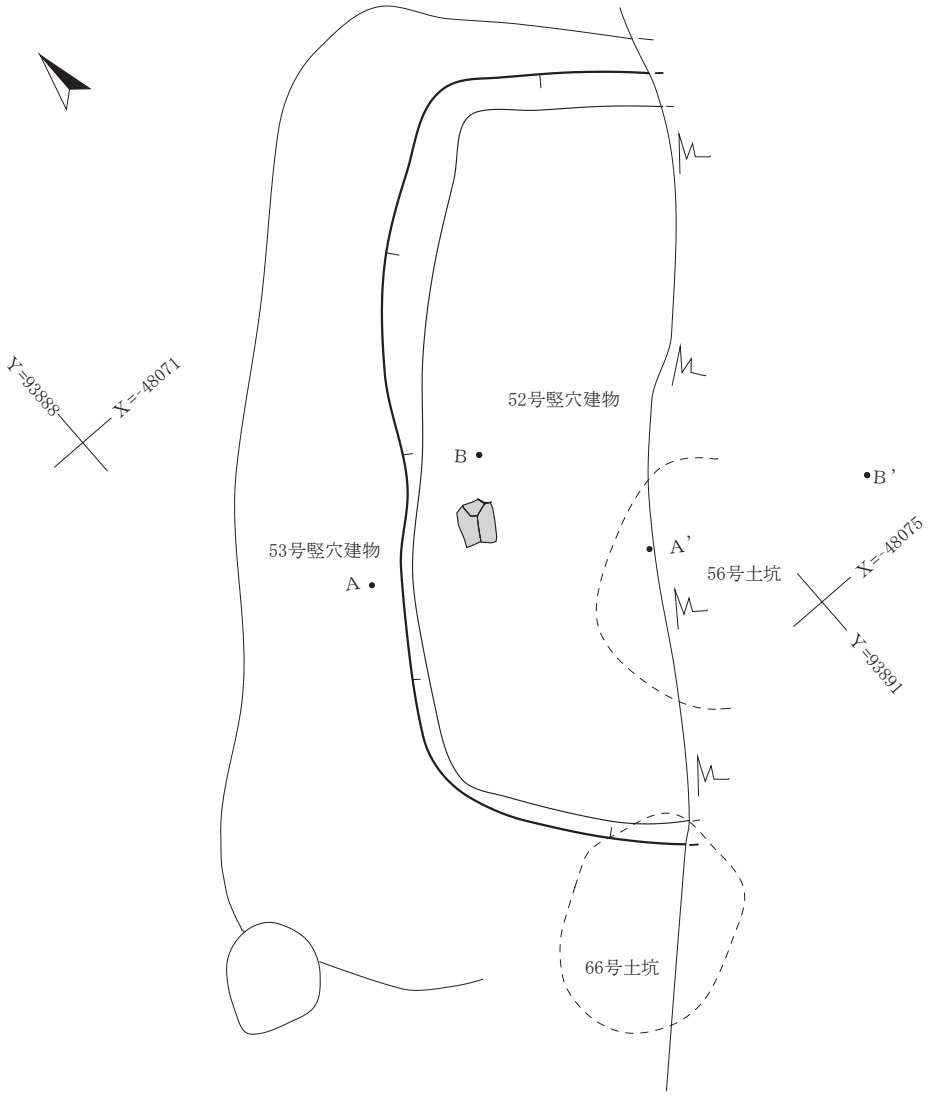


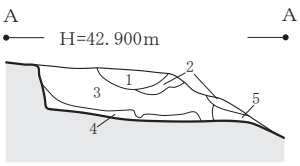
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強
　　黄褐色粘土(10YR5/8)20%混入
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強

＊2・3層は貼床土

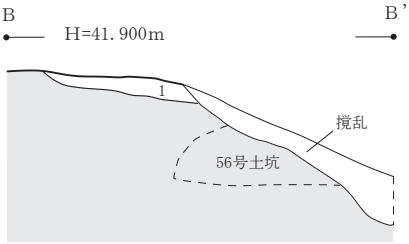
0　1:50　2m

第75図　51号竪穴建物

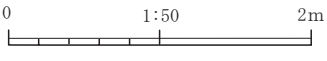




A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR4/4 褐色風化花崗岩粒 粘性なし しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)10%混入
3　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)20%、灰白色粘土10%混入
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
5　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中

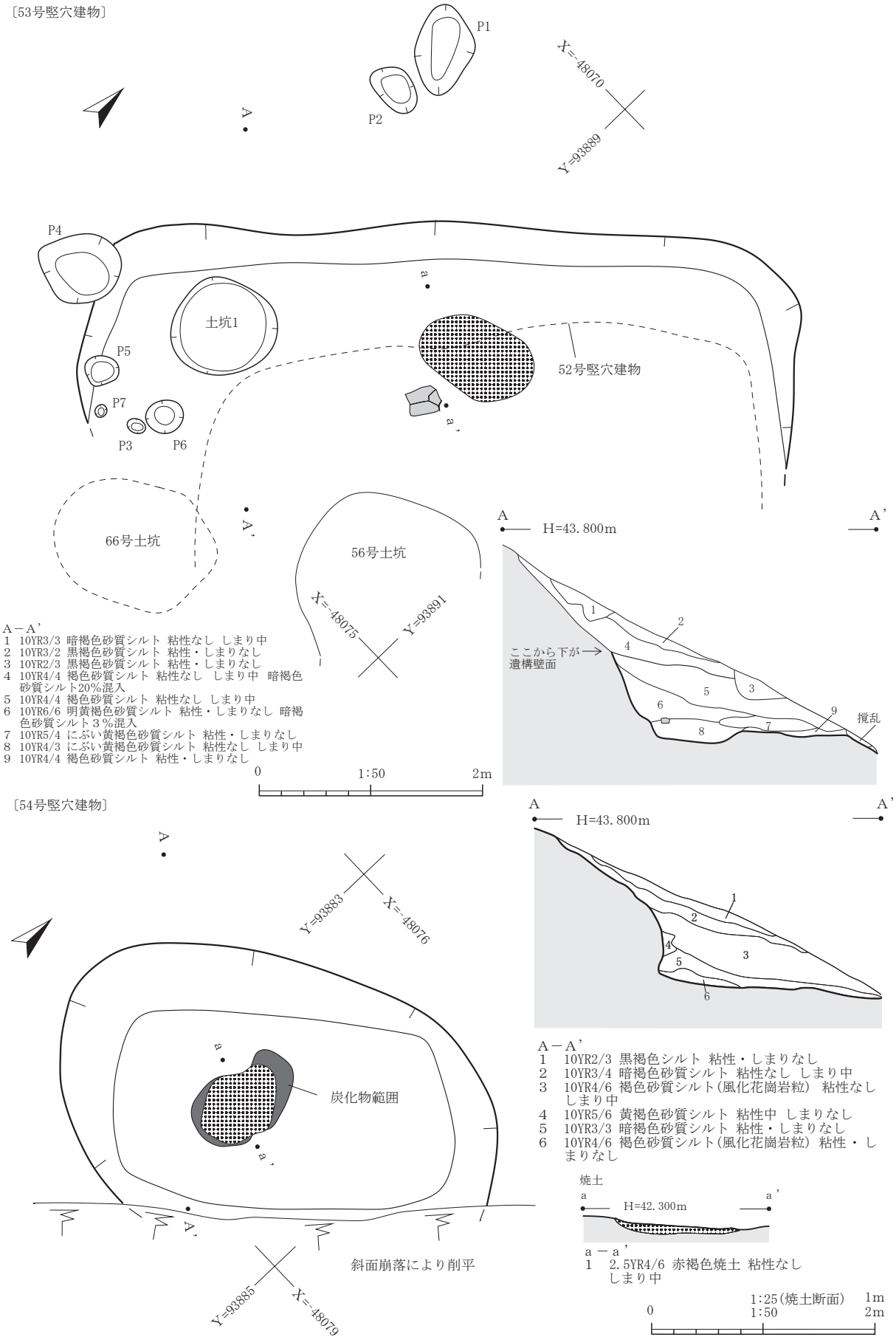


B－B'
1　10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1)20%混入　貼床土



第76図　52号竪穴建物

〔53号竪穴建物〕

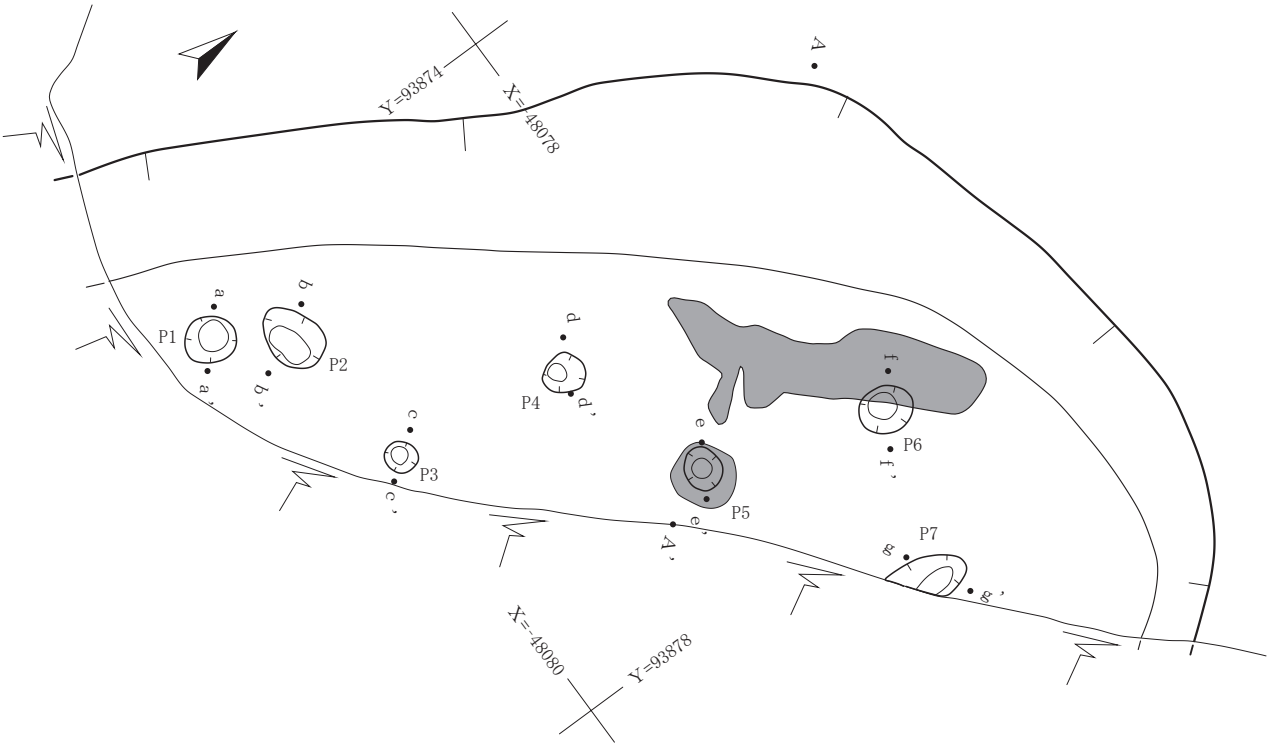


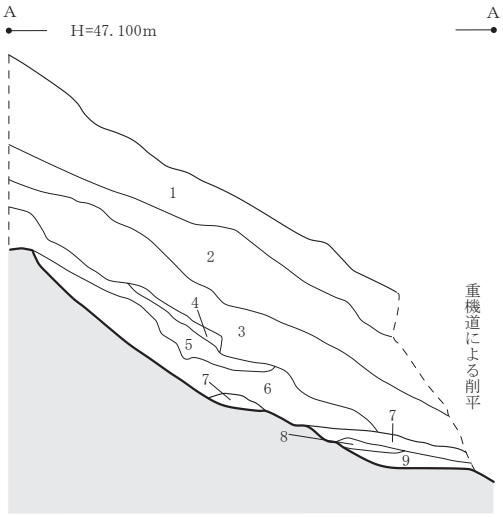
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
2　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
3　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
4　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 暗褐色砂質シルト20%混入
5　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
6　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色砂質シルト３%混入
7　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
8　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
9　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし

A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
3　10YR4/6 褐色砂質シルト(風化花崗岩粒) 粘性なし しまり中
4　10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性中 しまりなし
5　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
6　10YR4/6 褐色砂質シルト(風化花崗岩粒) 粘性・しまりなし

a－a'
1　2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし しまり中

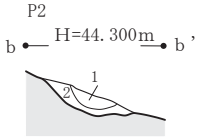
第77図　53・54号竪穴建物



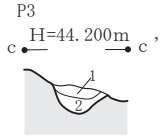


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 表土
2　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR 3/3)を径１㎜大のブロックで５％、極小礫10％含む
3　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR 3/3)を径１㎜大のブロックで１％、炭化物２％、極小礫10％含む
4　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 細粒礫１％含む
5　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 極小礫10％、大礫３％含む
6　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黒褐色砂質シルト(10YR2/3)がブロックで５％、極小礫５％、下位に風化花崗岩粒ブロックで混入
7　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物10～15％、極小礫３％含む
8　5YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 焼土粒３％含む
9　5YR3/2 暗赤褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 風化花崗岩粒

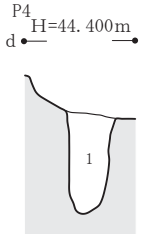
＊1は表土、２～６は斜面崩落による堆積層、７～９が55号竪穴建物の埋土



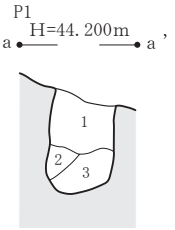
P2
b－b'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２％、中礫５～７％含む
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物１％、中礫３％含む



P3
c－c'
1　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２％、焼土粒５㎜のブロックで１％、中礫３％含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし(風化花崗岩粒の再堆積50％以上)

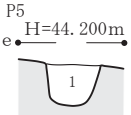


P4
d－d'
1　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物５％、中礫10％含む

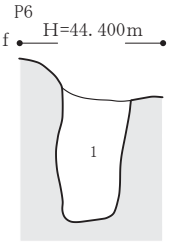


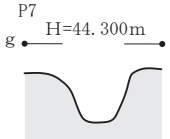
P1
a－a'
1　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径５～10㎜の炭化物３％、径10㎜大の礫25％含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径５～10㎜の礫(風化花崗岩粒)10％含む
3　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径３㎜の礫７％含む

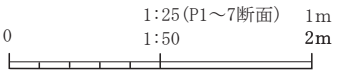
P5
e－e'
1　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３％、径３～10㎜の礫10％含む



P6
f－f'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物５％、径１～２㎝の焼土塊をブロック状に含む 風化花崗岩粒15％、下位の壁際に風化花崗岩粒のブロック(径５～10㎝)の再堆積

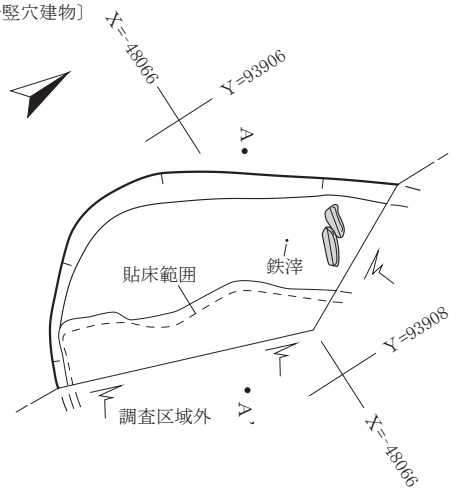


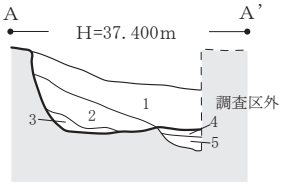




第78図　55号竪穴建物

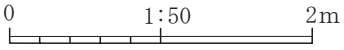
〔56号竪穴建物〕



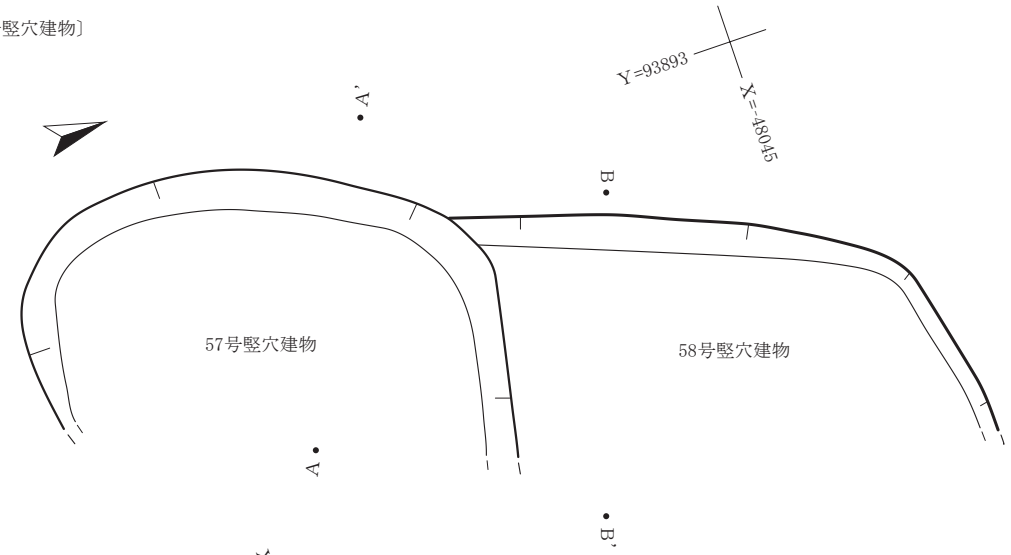


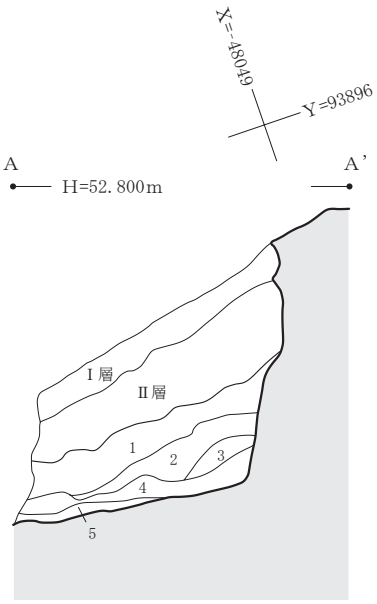
A－A'
1　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり強
5　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR3/2)と暗褐色シルト(10YR3/4)の互層(ラミナ状)

＊４・５は貼床土

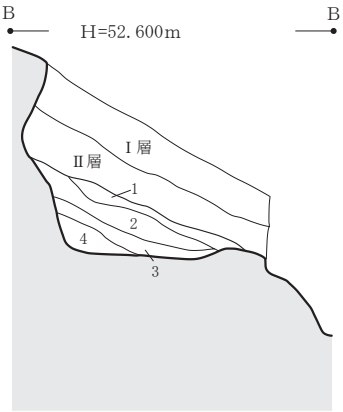


〔57・58号竪穴建物〕

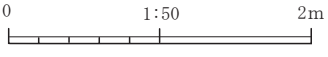




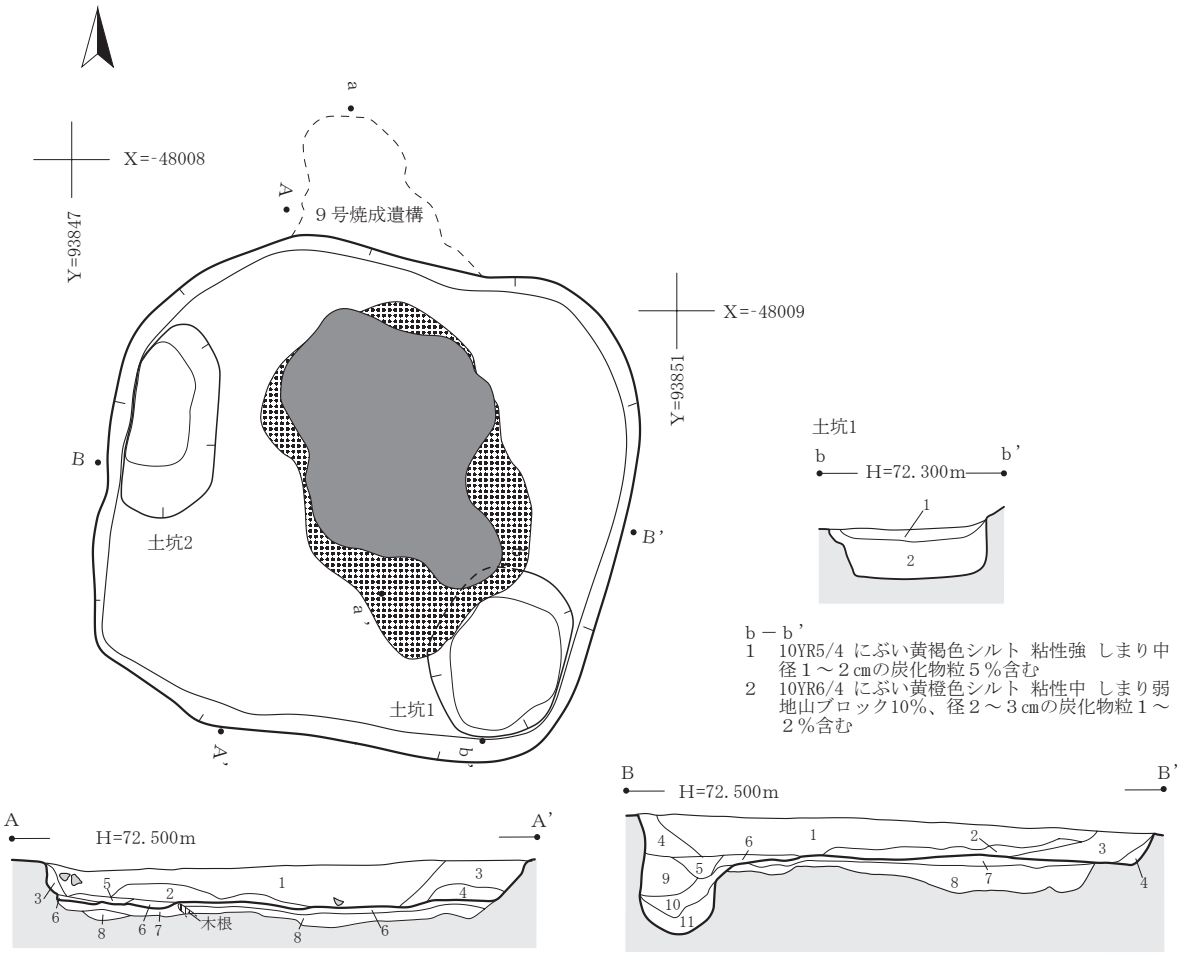
A－A'
1　2.5YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 にぶい黄色風化花崗岩粒(2.5YR6/3)15%含む
2　2.5Y5/3 黄褐色砂 粘性なし しまり強 黒褐色砂質シルト(10YR3/1)３%含む
3　2.5Y7/4 浅黄色砂 粘性なし しまり強
4　2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 浅黄色風化花崗岩粒(2.5Y7/4)20%含む
5　2.5Y8/4 淡黄色砂 粘性なし しまり強



B－B'
1　10YR4/2 灰黄褐色砂 粘性なし しまり強
2　2.5YR6/3 にぶい橙色砂 粘性なし しまり強
3　10YR4/2 灰黄褐色砂 粘性なし しまり強 炭化物１%含む
4　10YR7/4 にぶい黄橙色砂 粘性なし しまり強



第79図　56～58号竪穴建物



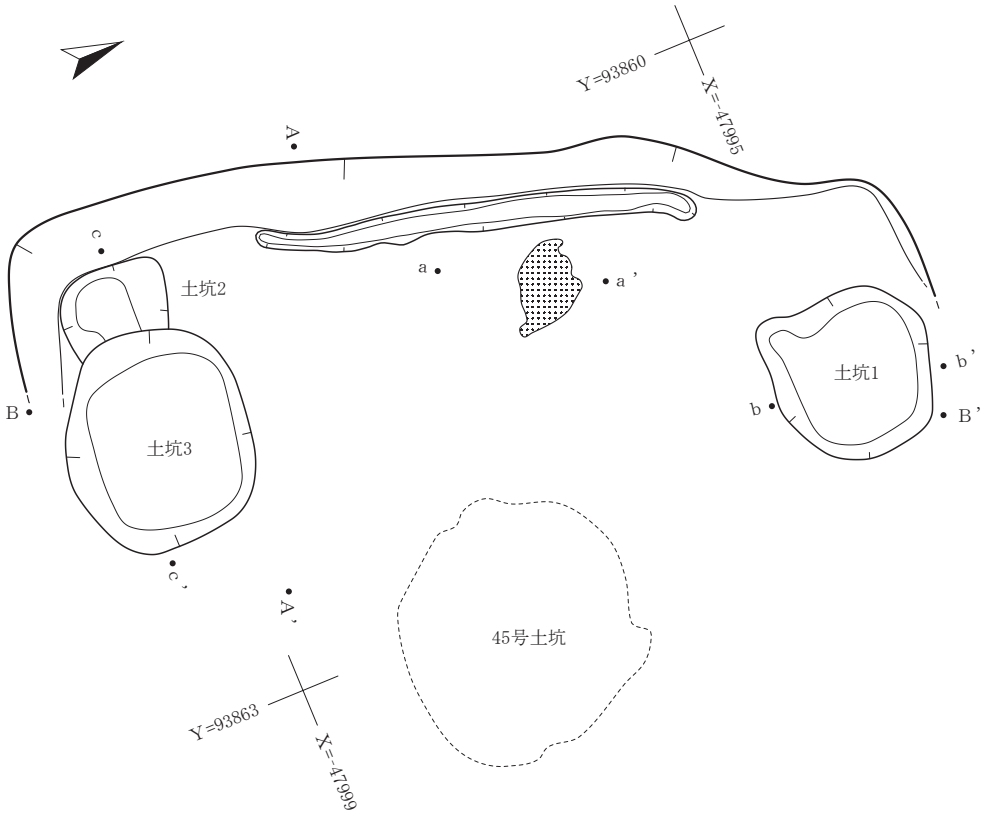
b－b’
1　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまり中 径１～２㎝の炭化物粒５％含む
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 地山ブロック10%、径２～３㎝の炭化物粒１～２％含む

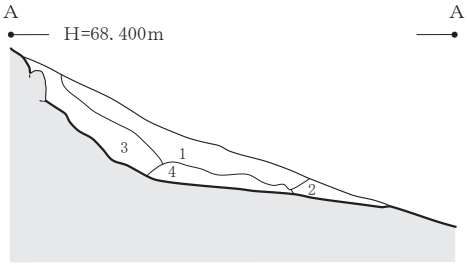
A－A’、B－B’
1　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまりなし 径１～２㎝の炭化物粒１～２％含む
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルト粒(10YR3/3 径２～３㎝)15%、径３㎜の炭化物粒10%含む
3　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎝の炭化物粒１％含む
4　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 径３㎜の地山ブロック１～２％含む
5　10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 径２～３㎝の地山ブロック５%、径１～２㎝の炭化物粒１％含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 にぶい黄橙色シルト(10YR7/4)ブロック10%、径２～５㎝の炭化物粒を20～30%含む
7　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり強 径２～５㎝の地山ブロック20%、径１㎝の炭化物粒１％含む
8　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 径２～５㎝の明黄褐色シルト(10YR6/6)をブロックで30%含む
9　10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎝の地山ブロック１％含む
10　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～２㎝の炭化物粒３％含む
11　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径３～５㎜の炭化物粒５％含む

a－a’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 暗赤褐色焼土粒(５YR3/6 径10㎜)１%、径１～３㎝の炭化物粒20～30%含む
2　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 径２～４㎜の炭化物粒１～２％含む
3　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性強 しまり中
4　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり中 地山ブロック５％含む
5　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性強 しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/6)ブロックで20%、径１～３㎜の炭化物粒10%含む
6　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)ブロックで10%含む
7　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)ブロックで15%含む

1:25(a－a’)　1m
1:50　2m

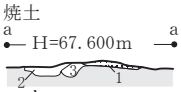
第80図　59号竪穴建物





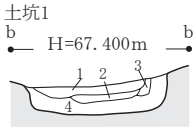
A－A'、B－B'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径２～３㎝の褐色シルト(10YR 4/6)10%、径１～２㎝の炭化物粒１～２%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 径１～３㎝の炭化物粒30%含む
3　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 径３～５㎝の褐色シルト(7.5YR4/6)をブロックで15%、径２～３㎜の炭化物粒１～２%含む
4　7.5YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 径２～３㎜の黒褐色シルト(10YR 3/2)を10%、赤褐色焼土粒(5YR4/6 径２～３㎝)１～２%含む
5　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎝の地山粒１～２%含む

焼土



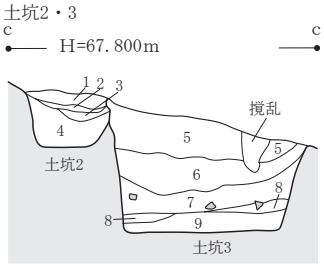
a－a'
1　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性・しまり強
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
3　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 貼床土？

土坑1

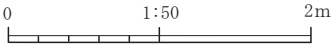


b－b'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)を径１～２㎝のブロックで３%混入
2　10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)を径１～２㎝のブロックで３%混入
3　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
4　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)を径１～２㎝のブロックで１%混入

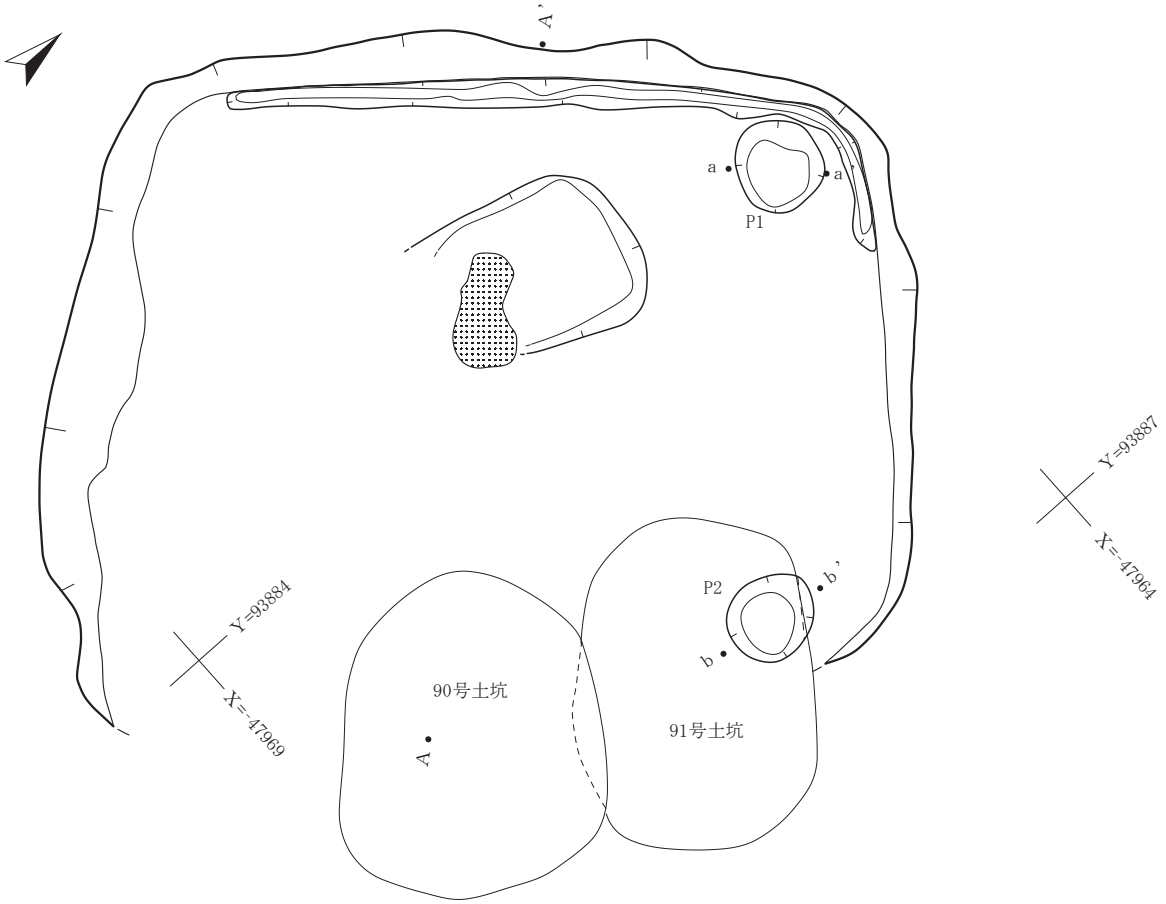
土坑2・3

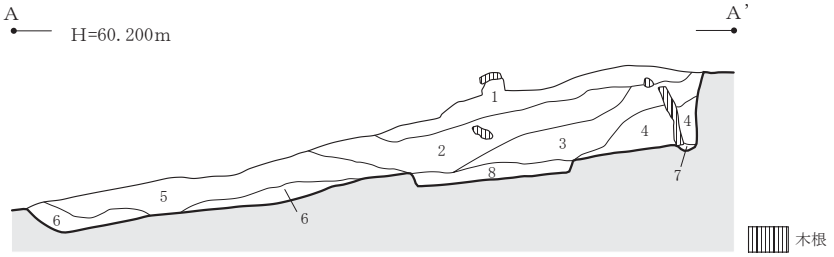


c－c'
1　10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり中 炭化物１%含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 炭化物５%含む
3　5YR8/4 淡橙色シルト 粘性・しまり中 焼土・炭化物３%含む
4　10YR7/1 灰白色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物１%、径１㎝の焼土ブロックを10%含む
5　10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性強 しまり中 炭化物３%含む
6　10YR6/1 褐灰色シルト 粘性中 しまり中 風化花崗岩粒を帯状に30%含む
7　10YR4/1 褐灰色シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩ブロックで５%、炭化物２%含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 炭化物３%、焼けた礫片５%含む
9　10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒をブロックで７%含む

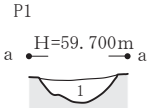


第81図　60号竪穴建物

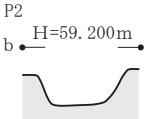


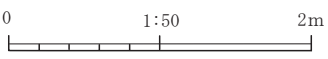


A－A'
1　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 風化花崗岩粒(10YR8/4 径１～２㎜) ５％含む
4　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性なし しまり弱
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 風化花崗岩粒(10YR8/4 径１～２㎜) ５％含む
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱
7　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 (壁溝埋土)
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径１～２㎜の炭化物粒20％含む

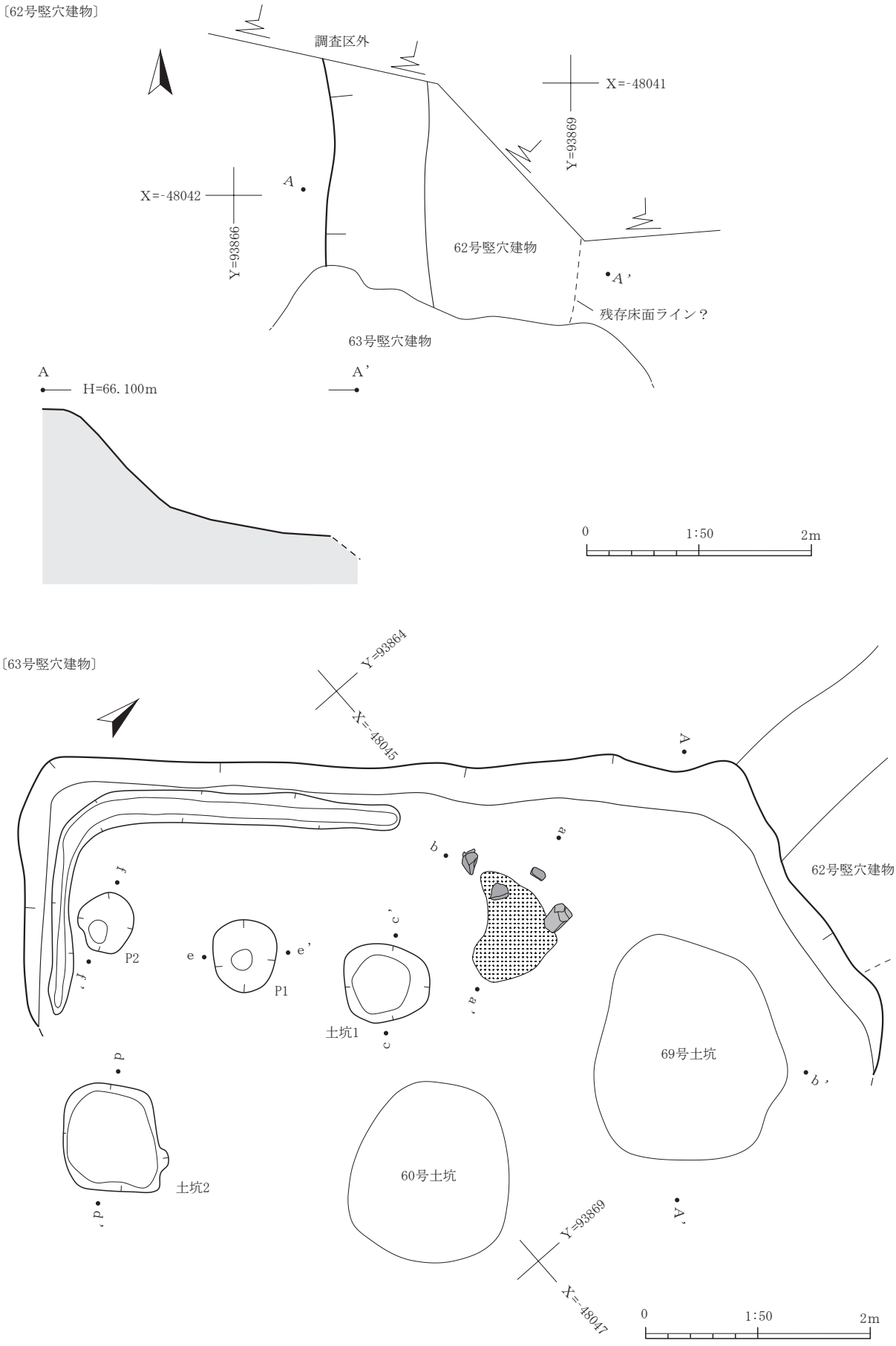


a－a'
1　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり弱
風化花崗岩粒(10YR8/4 径１～２㎜)10％含む

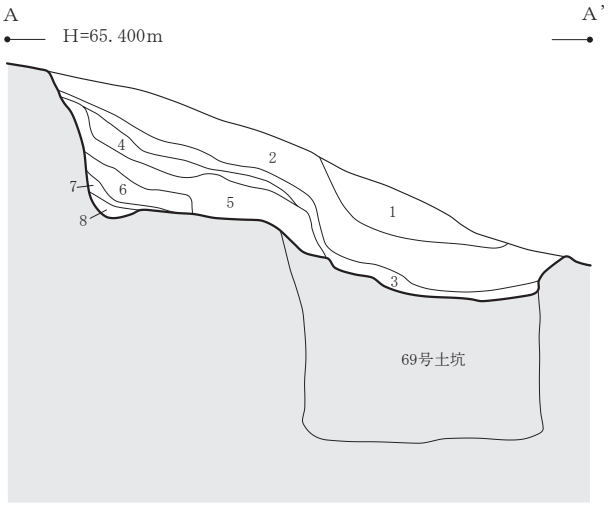




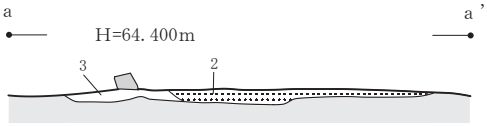
第82図　61号竪穴建物



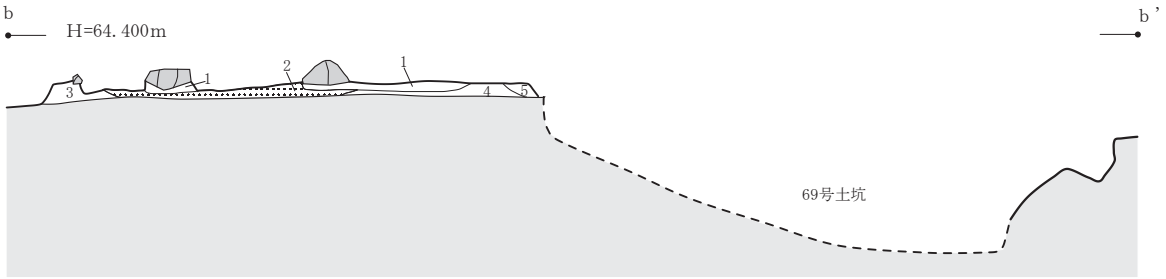
第83図　62号竪穴建物、63号竪穴建物１

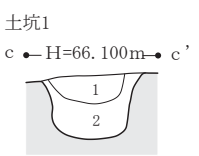


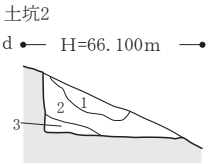
A－A'
1　2.5Y7/1 灰白色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒を全体的に10%含む
2　10YR8/3 浅黄橙色砂 粘性・しまり弱 地山の再堆積層
3　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 風化花崗岩粒10%を散在しながら含む
4　10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性中 しまり弱 径10～20㎝の風化花崗岩粒をブロックで40%含む
5　10YR4/1 褐灰色砂質シルト 粘性・しまり弱 径２～３㎝の風化花崗岩粒をブロックで20%含む
6　10YR8/2 灰白色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐灰色砂質シルト(10YR4/1)をブロックで３%含む
7　10YR4/1 褐灰色砂質シルト 粘性・しまり中 径20㎝の風化花崗岩粒を20%含む
8　10YR7/1 灰白色砂質シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒を散在的に５%含む

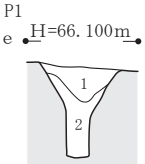


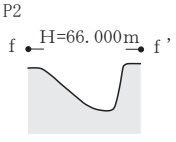
a－a'、b－b'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径20～30㎜の炭化物粒10%含む
2　5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・しまり中 径１～２㎜の炭化物粒２%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 径10～20㎜の炭化物粒５%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 径30㎜の明赤褐色焼土(５YR5/6)３%含む
5　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり弱







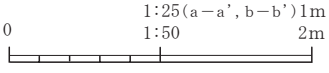




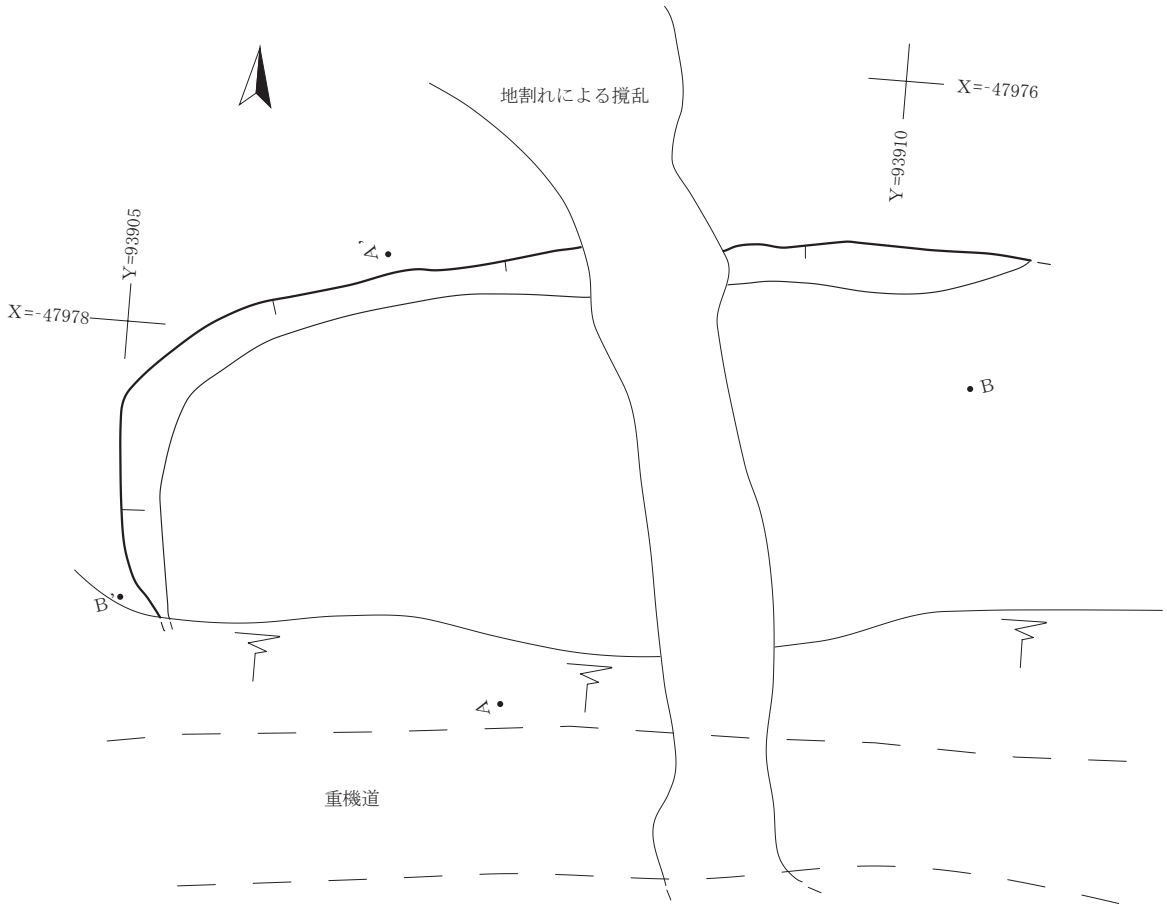
土坑1
c－c'
1　2.5Y8/2 灰白色砂 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒10%含む
2　2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒30%含む

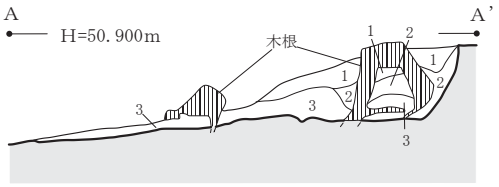
土坑2
d－d'
1　2.5Y4/1 黄灰色シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒２%含む
2　2.5Y6/2 灰黄色シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒５%含む
3　2.5Y6/4 にぶい黄色シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒１%含む

P1
e－e'
1　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒１%含む
2　2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒７%含む

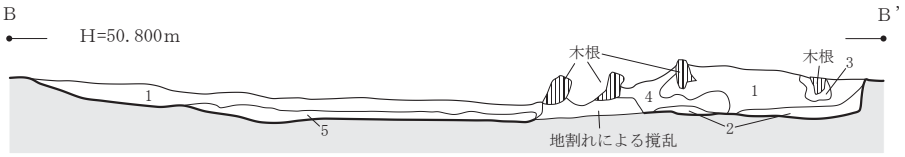


第84図　63号竪穴建物２

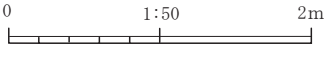




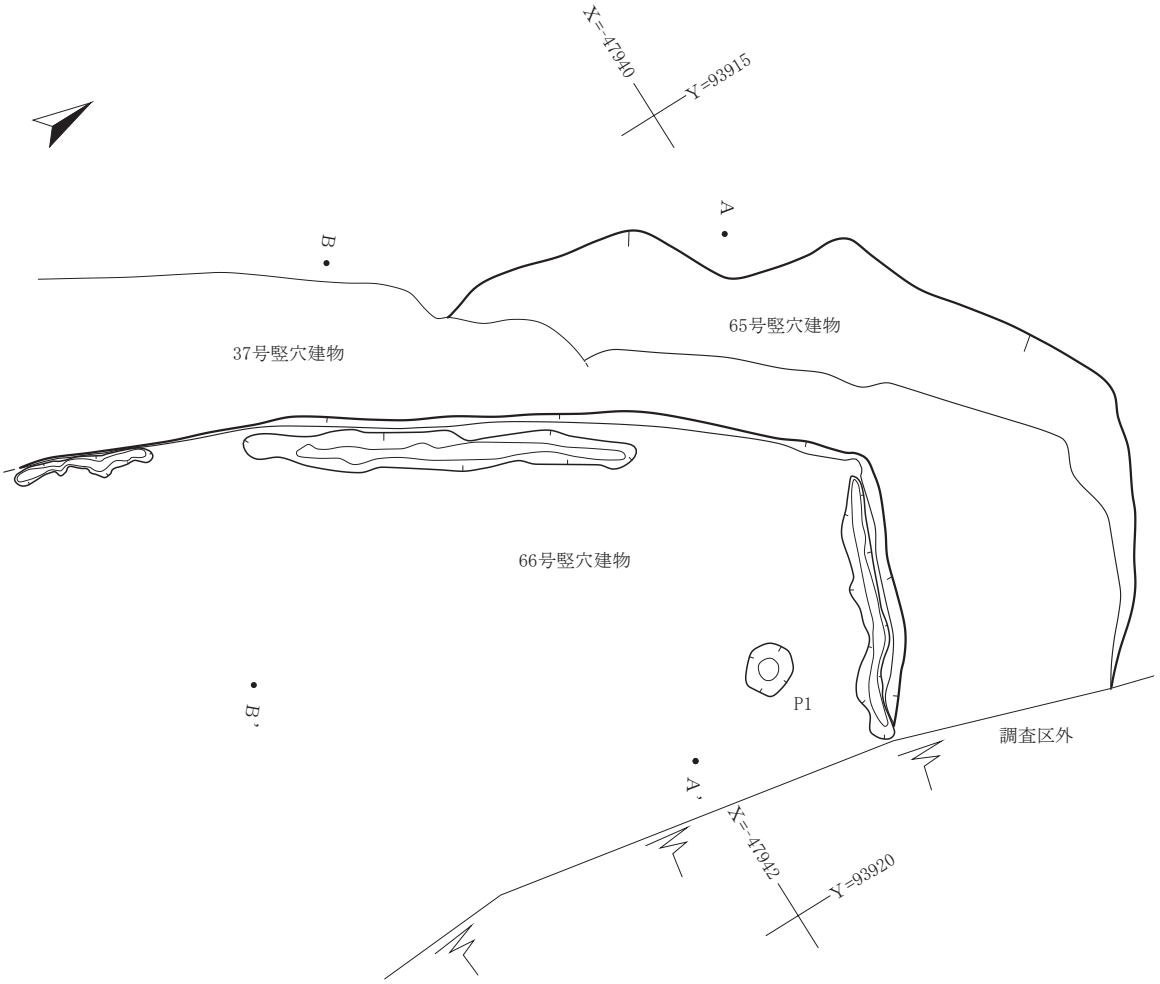
A－A'
1　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
　砂粒３％含む
2　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
　風化花崗岩粒50％含む
3　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
　風化花崗岩粒10％、炭化物微量含む



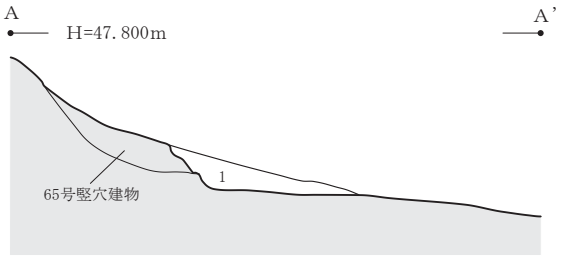
B－B'
1　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒を
　ブロック状に５％含む
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物５％含む
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR5/4 にぶい黄褐色シルトと10YR3/4 暗褐色シルトが斑状に混じる
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 炭化物が粉状に多量混じる



第85図　64号竪穴建物

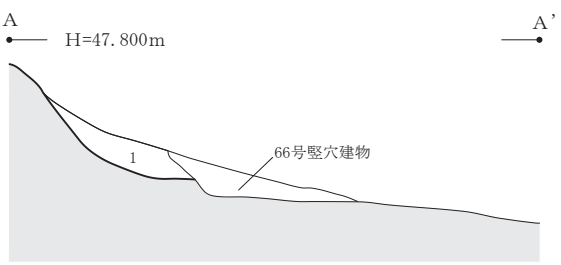


66号竪穴建物



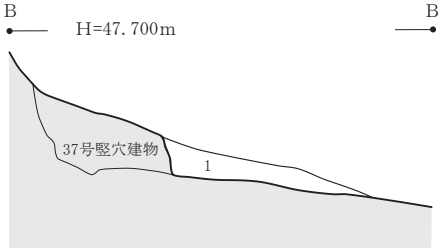
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱

65号竪穴建物



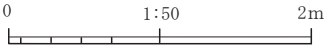
A－A'
1　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱

66号竪穴建物



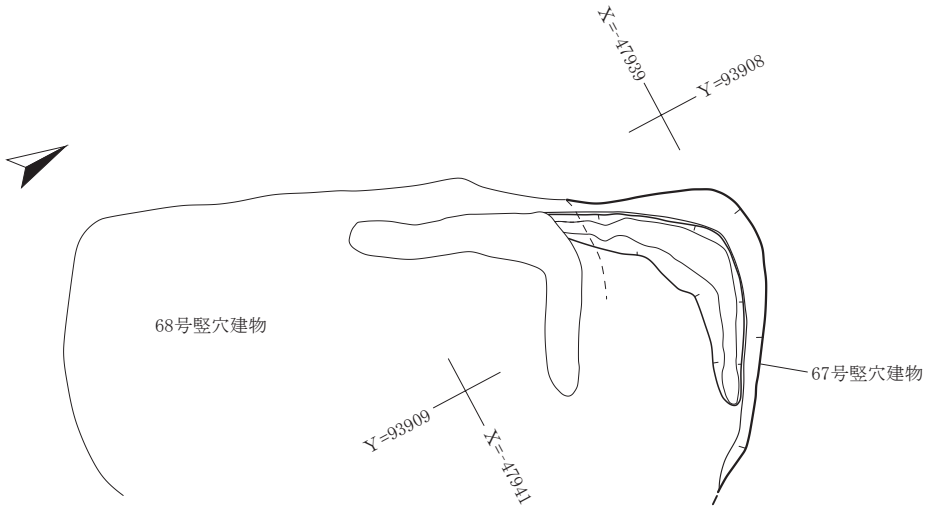
B'

B－B'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎜の炭化物粒
　１～３％、赤褐色焼土粒(2.5YR5/6 径１～２㎜) １～３％含む

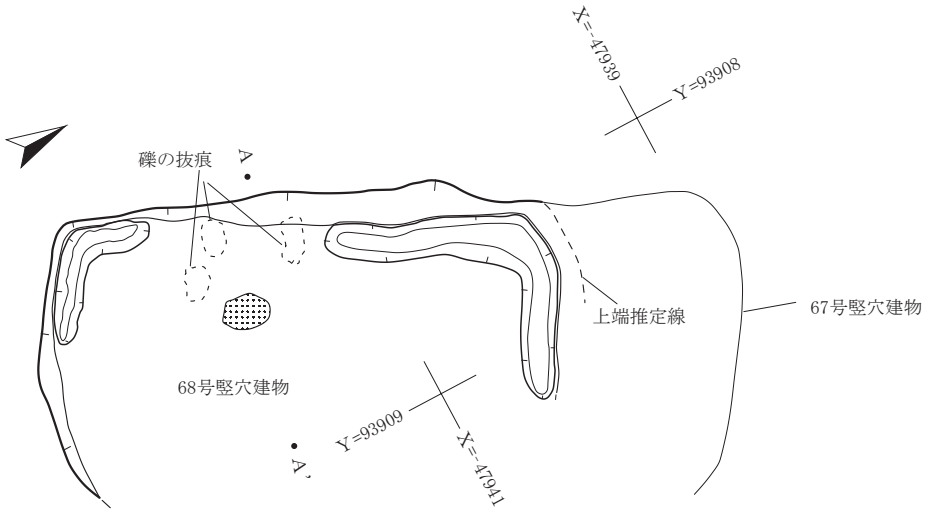


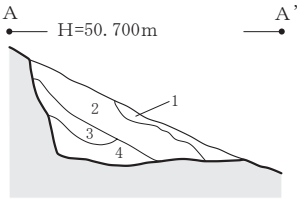
第86図　65・66号竪穴建物

〔67号竪穴建物〕

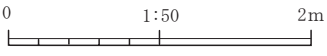


〔68号竪穴建物〕

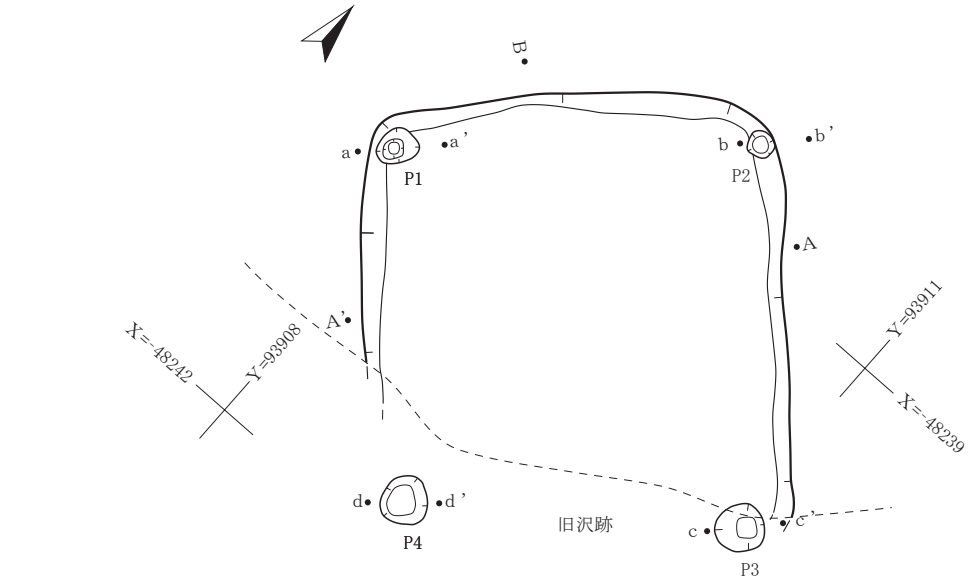


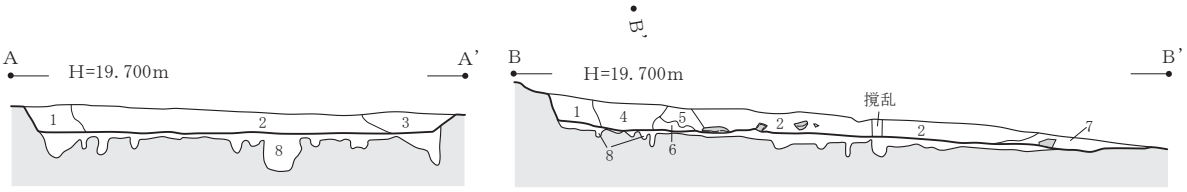


A－A'
1　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり弱 砂少量含む
3　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8)が斑状に混合
4　10YR5/8 黄褐色シルト 炭化物10%、焼土ブロック混じる

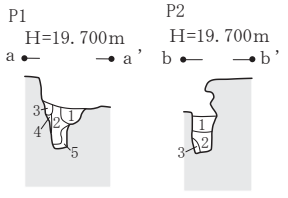


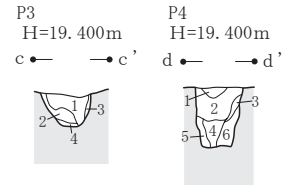
第87図　67・68号竪穴建物





A－A'、B－B'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) 3％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) 1％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) 1％含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6) 1％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6) 1％未満含む
6　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/2) 5％%含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
8　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強(貼床土)



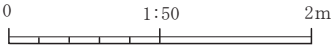


P1
a－a'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8)10%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱
4　10YR4/6～5/6 褐色～黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 3％含む
5　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強

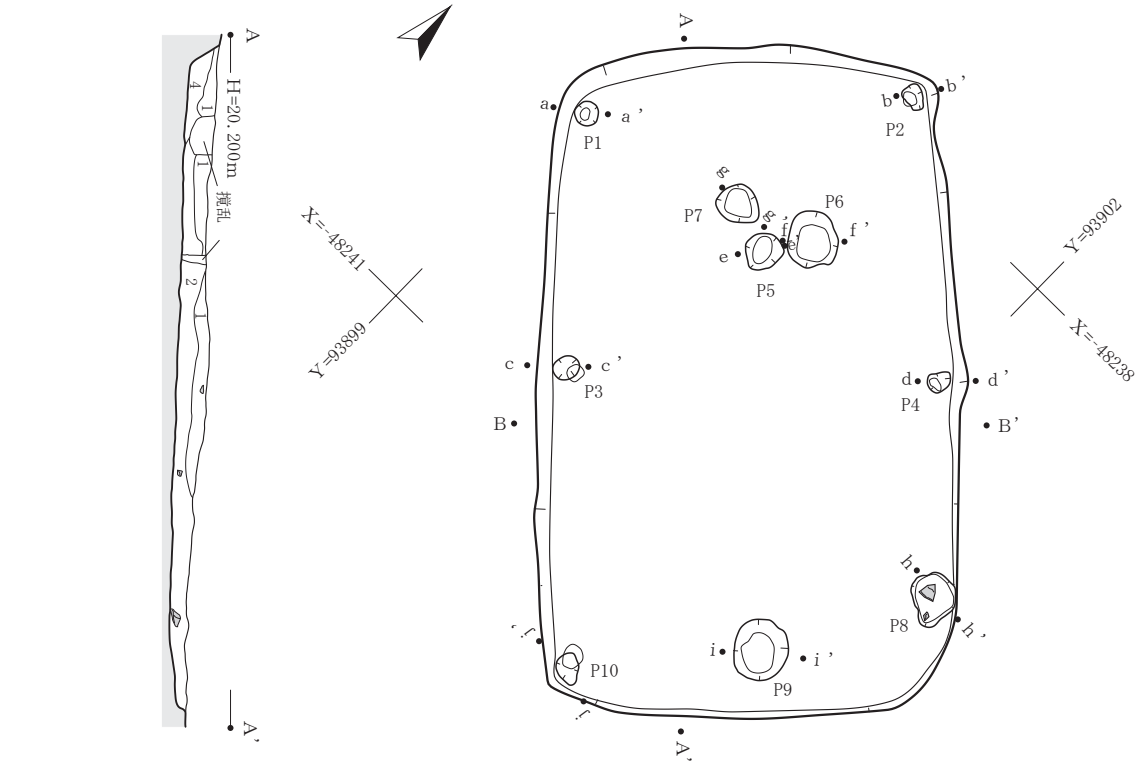
P2
b－b'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5％混入
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5～10%混入
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5～10%混入

P3
c－c'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)10～15%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8)15%含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) 5％含む
4　10YR6/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強

P4
d－d'
1　10YR2/1～2/2 黒色～黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％未満含む
3　10YR3/2～3/3 黒褐色～暗褐色シルト 粘性・しまり強
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強



第88図　69号竪穴建物



A－A’、B－B’
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1～2％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6)15～20％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト　粘性中　しまり強　明黄褐色シルト(10YR7/6)15～20％含む

P1、P2、P3
a－a’、b－b’、c－c’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層　粘性・しまり中

P4
d－d’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)10％含む

P5、P6
e－e’、f－f’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)10％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3％含む

P7
g－g’
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5％含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり中

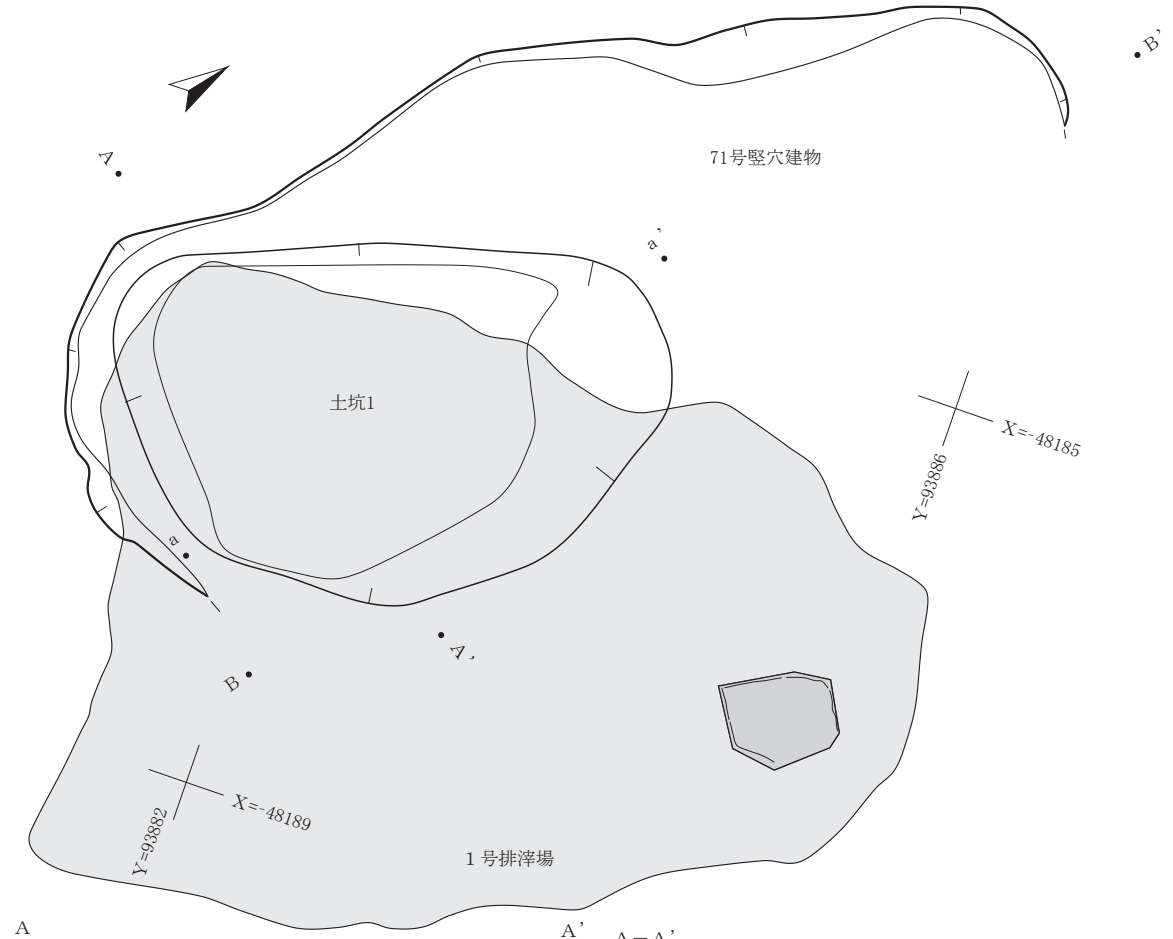
P8
h－h’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5～7％含む

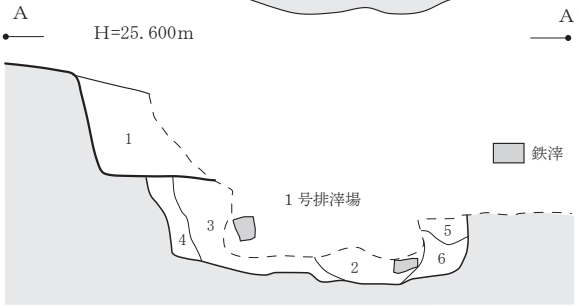
P9
i－i’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径3㎝の礫1％含む

P10
j－j’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中

0　1:50　2m

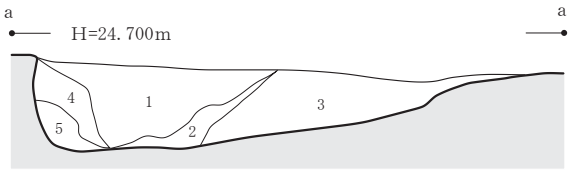
第89図　70号竪穴建物





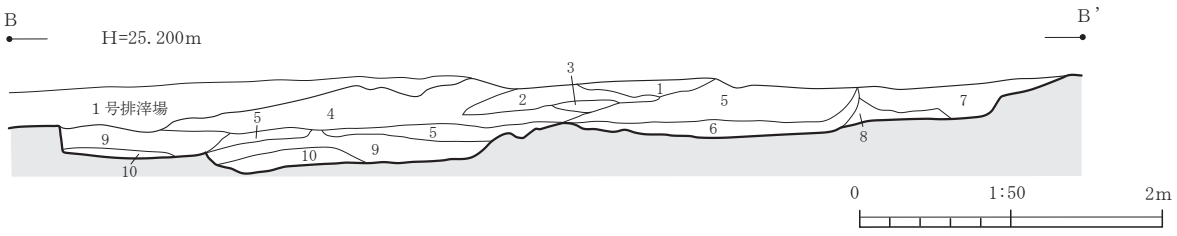
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 やや砂質
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3％含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)10％含む
5　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中
6　10YR2/1 黒色シルト70％、10YR6/6 明黄褐色シルト30％の混合土層 粘性・しまり中

＊2～6は土坑1の埋土

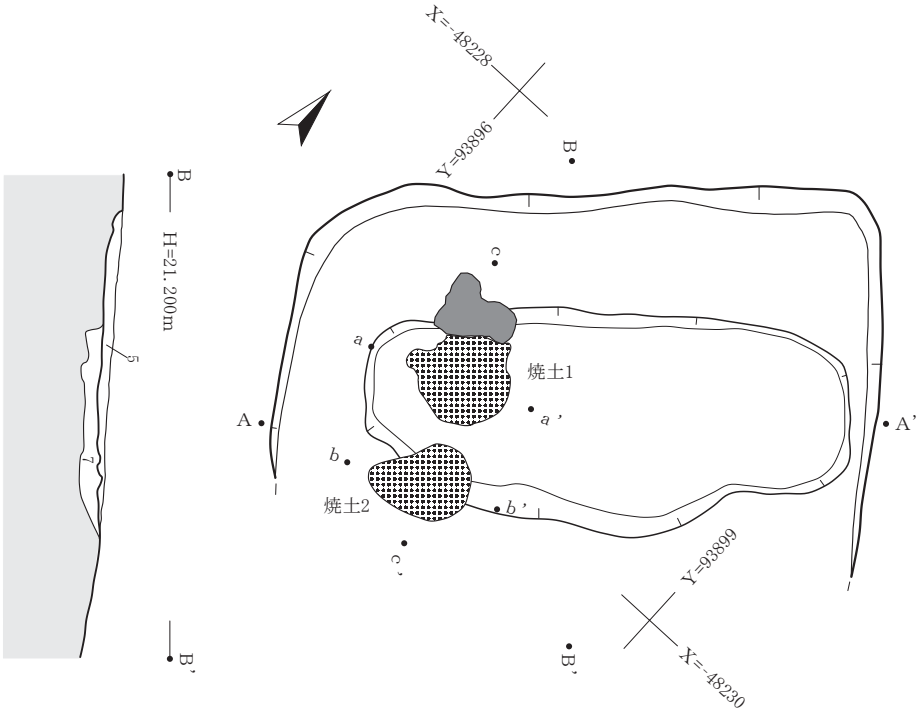


a－a'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 鉄滓90％以上
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 1号排滓場の堆積層
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3％含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト40％、10YR2/2 黒褐色シルト30％、10YR3/1 黒褐色シルト30％の混合土層 粘性中 しまり弱
5　10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性・しまり中

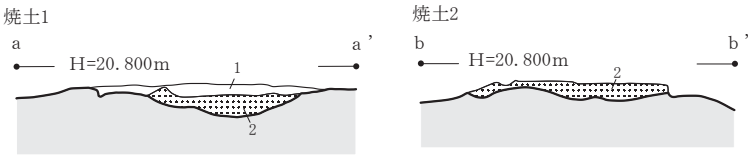
B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物1％未満含む
2　10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)10～15％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3～5％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト70％、10YR3/1 黒褐色シルト20％、10YR4/4 褐色シルト10％の混合土層 粘性・しまり中
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色粘土質シルト(10YR6/6)30％含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト60％、10YR6/6 明黄褐色シルト40％の混合土層 粘性・しまり中
8　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 径5～7㎜の風化花崗岩粒20～25％含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
10　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)15～20％含む

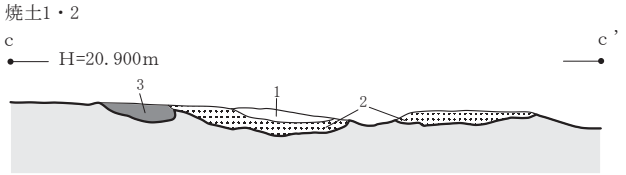


第90図　71号竪穴建物

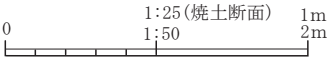


A－A'、B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6) 5％含む
3　7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)20％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径7～20㎜) 1％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
7　10YR2/1 黒色シルト50%、10YR2/2 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 1％含む



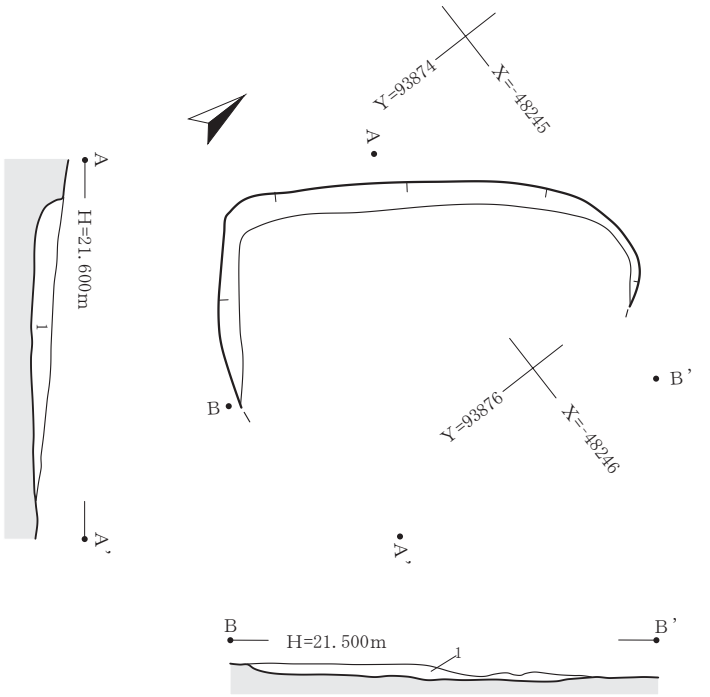


a－a'、b－b'、c－c'
1　7.5YR5/6 明褐色焼土50%、10YR2/1 黒色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中
2　7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性・しまり中 焼成面
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 炭化物(シルト状) 7～10%含む



第91図　72号竪穴建物

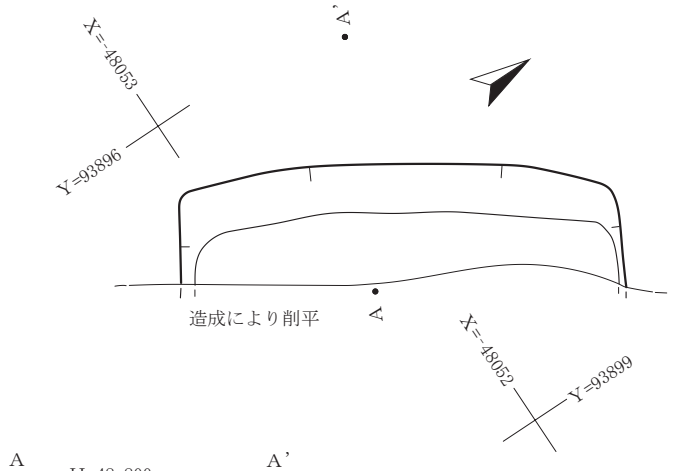
〔73号竪穴建物〕



A－A’、B－B’
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト
　(10YR4/4) ５％含む

0　1:50　2m

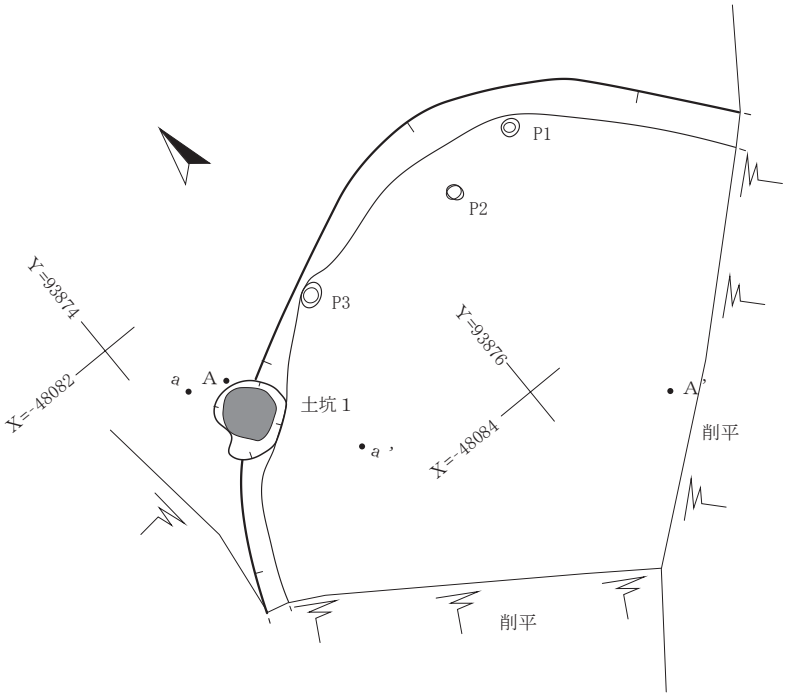
〔74号竪穴建物〕

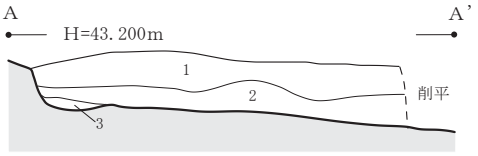


A－A’
1　10YR8/3 浅黄橙色 風化花崗岩粒 粘性弱 しまりなし
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
3　10YR8/3 浅黄橙色 風化花崗岩粒 粘性弱 しまりなし
　黒褐色シルト(10YR2/2) ５％混入
4　10YR8/3 浅黄橙色 風化花崗岩粒 粘性・しまり弱
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし
6　10YR8/3 浅黄橙色 風化花崗岩粒 粘性弱 しまりなし

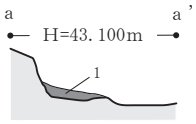
0　1:50　2m

第92図　73・74号竪穴建物

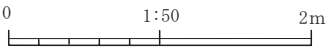




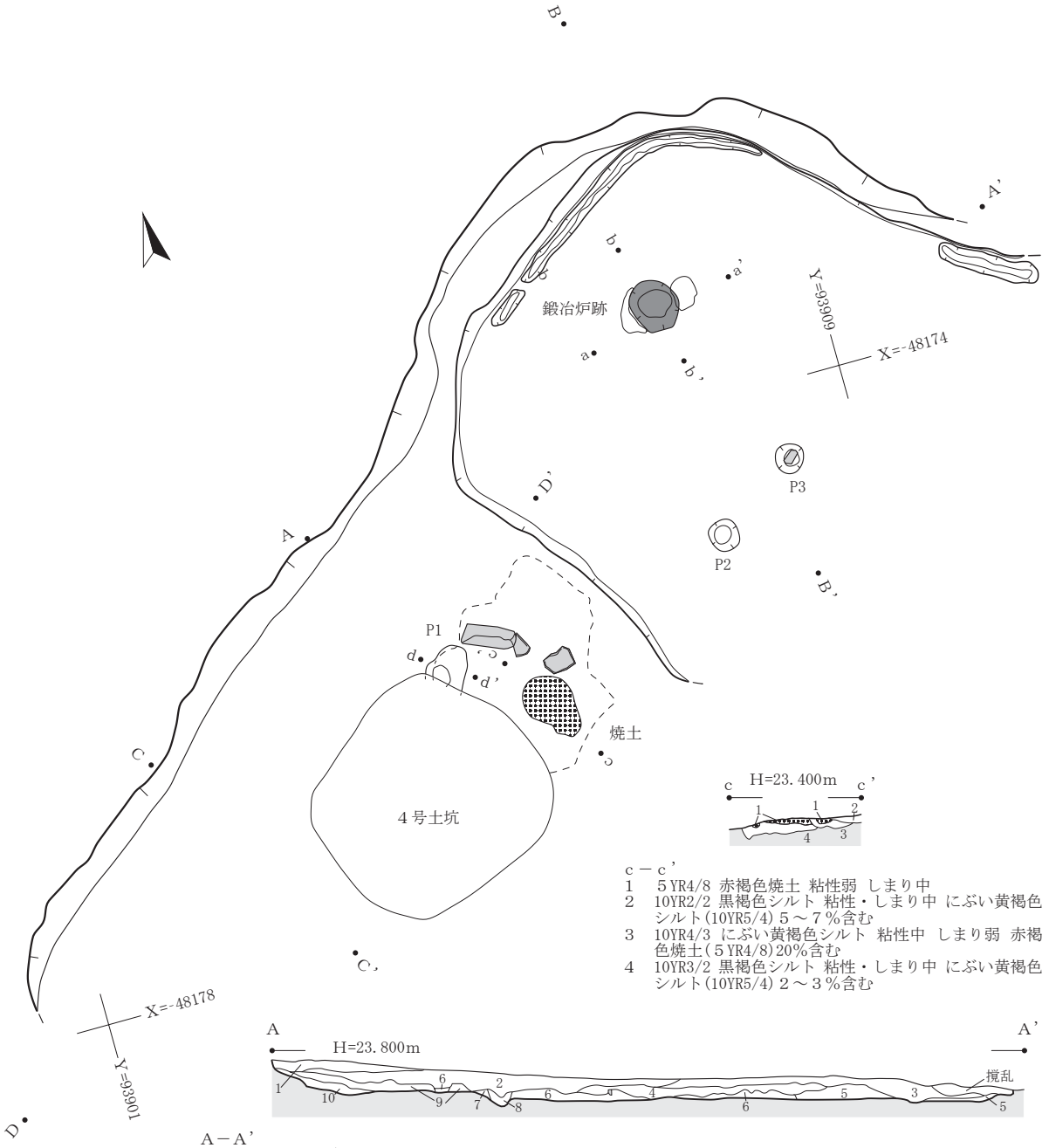
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色砂質粘土(10YR7/6)15%、明黄褐色砂質シルト(10YR6/6)15%混入（※現代盛土）
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色砂質粘土(10YR7/6)５%、炭化物２%混入
3　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化材15%混入



a－a'
1　7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化材15%混入



第93図　75号竪穴建物



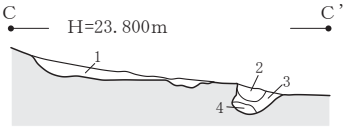
c－c'
1　5YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱 しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4) 5～7%含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 赤褐色焼土(5YR4/8)20%含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4) 2～3%含む

A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径2～5㎜の礫10～15%、径5～15㎜の炭化物1%未満含む
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径5～7㎜の礫1%未満含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
6　10YR4/2 灰黄褐色シルト30%、10YR5/6 黄褐色シルト70%の混合土層 粘性なし しまり中 径3～5㎜の礫5～10%含む
7　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 2～3%含む
8　10YR3/4 暗褐色シルト60%、10YR7/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性なし しまり中
9　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径5㎜) 1%含む
10　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)10%含む

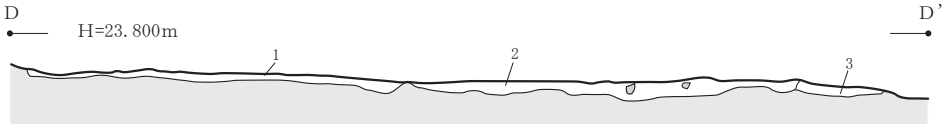
B－B'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径2～5㎜の礫10～15%、径5～15㎜の炭化物1%未満含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)10～15%含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径2～3㎜の礫1%含む

0　1:60　2m

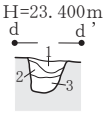
第94図　1号鍛冶工房跡1



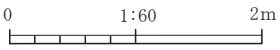
C－C'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 2～3%含む
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)15～20%含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト80%、10YR3/2 黒褐色シルト20%の混合土層 粘性弱 しまり中



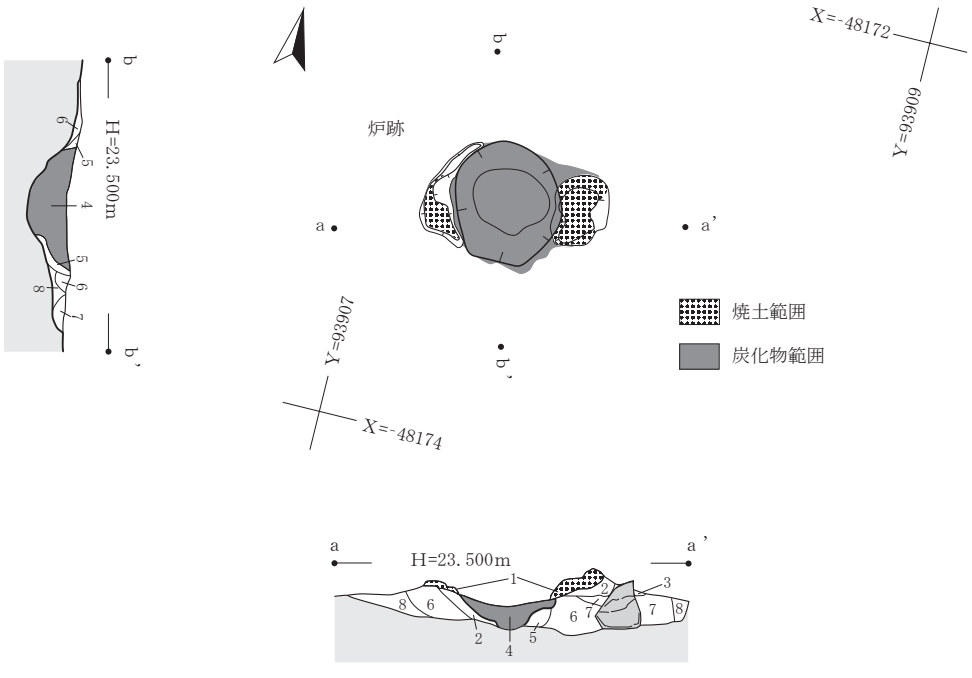
D－D'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 明黄褐色シルト(10YR7/6)10～15%、径5～7㎜の礫3～5%含む
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 5～7%、径5～7㎜の礫3～5%含む
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3～5%、径5～7㎜の礫3～5%含む



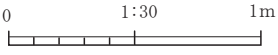
c－c'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)30～40%、径2～3㎜の礫3～5%含む
2　10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中 暗褐色シルト(10YR7/6) 2～3%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5㎜の炭化物粒1%含む



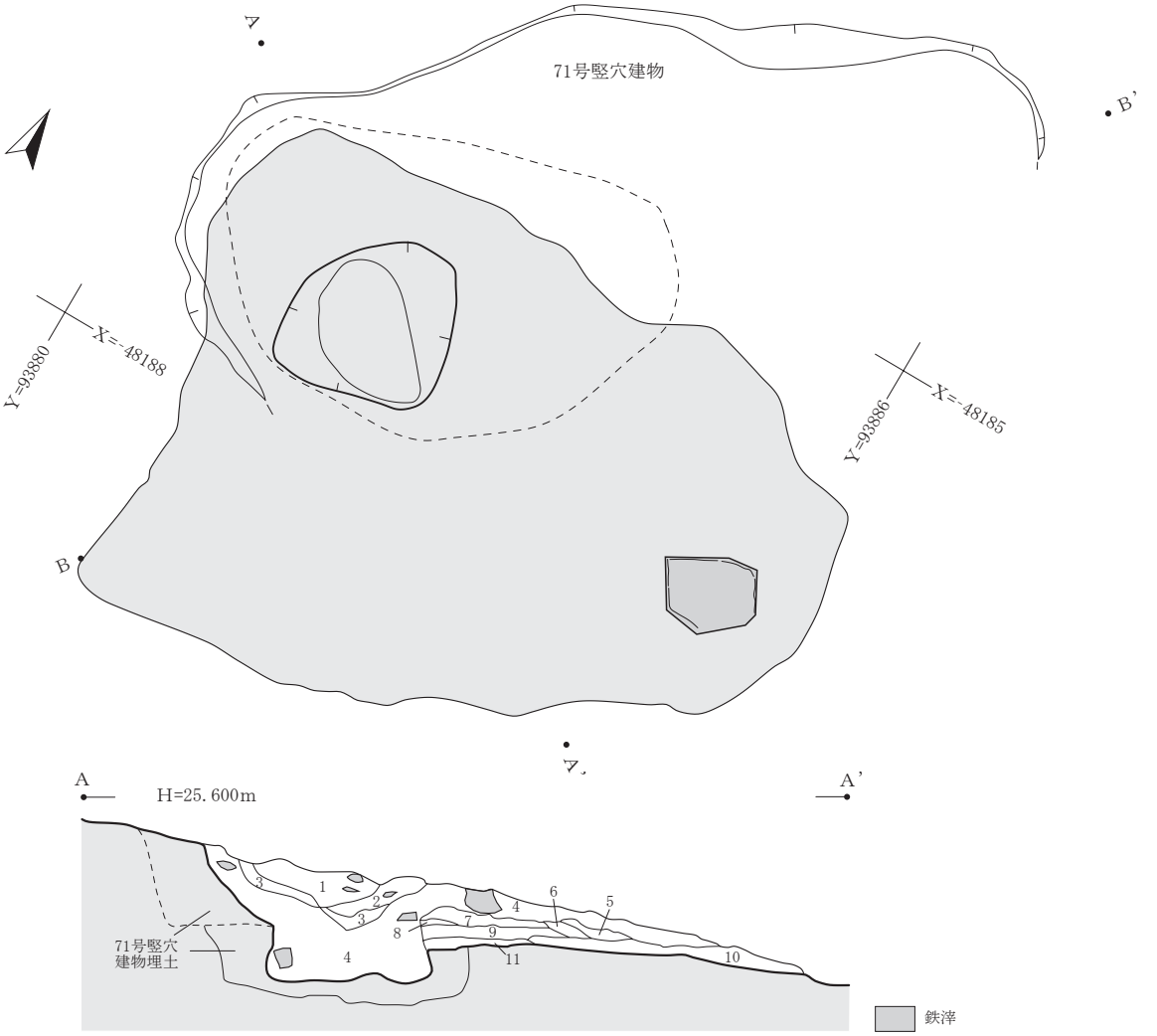
〔鍛冶炉跡〕



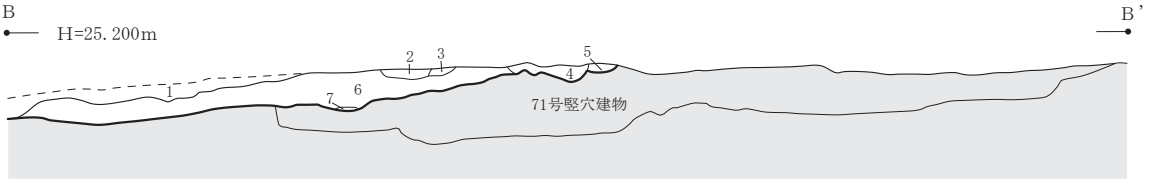
a－a'、b－b'
1　5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性なし しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)30～40%混じる 径7～10㎜の炭化物1%含む (炉壁崩落土)
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
4　10YR2/1 炭化物層 粘性弱 しまり中
5　7.5YR4/3 にぶい黄褐色焼土 粘性なし しまり強
6　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色砂質シルト(10YR7/6) 1～2%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
8　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中



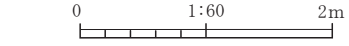
第95図　1号鍛冶工房跡2



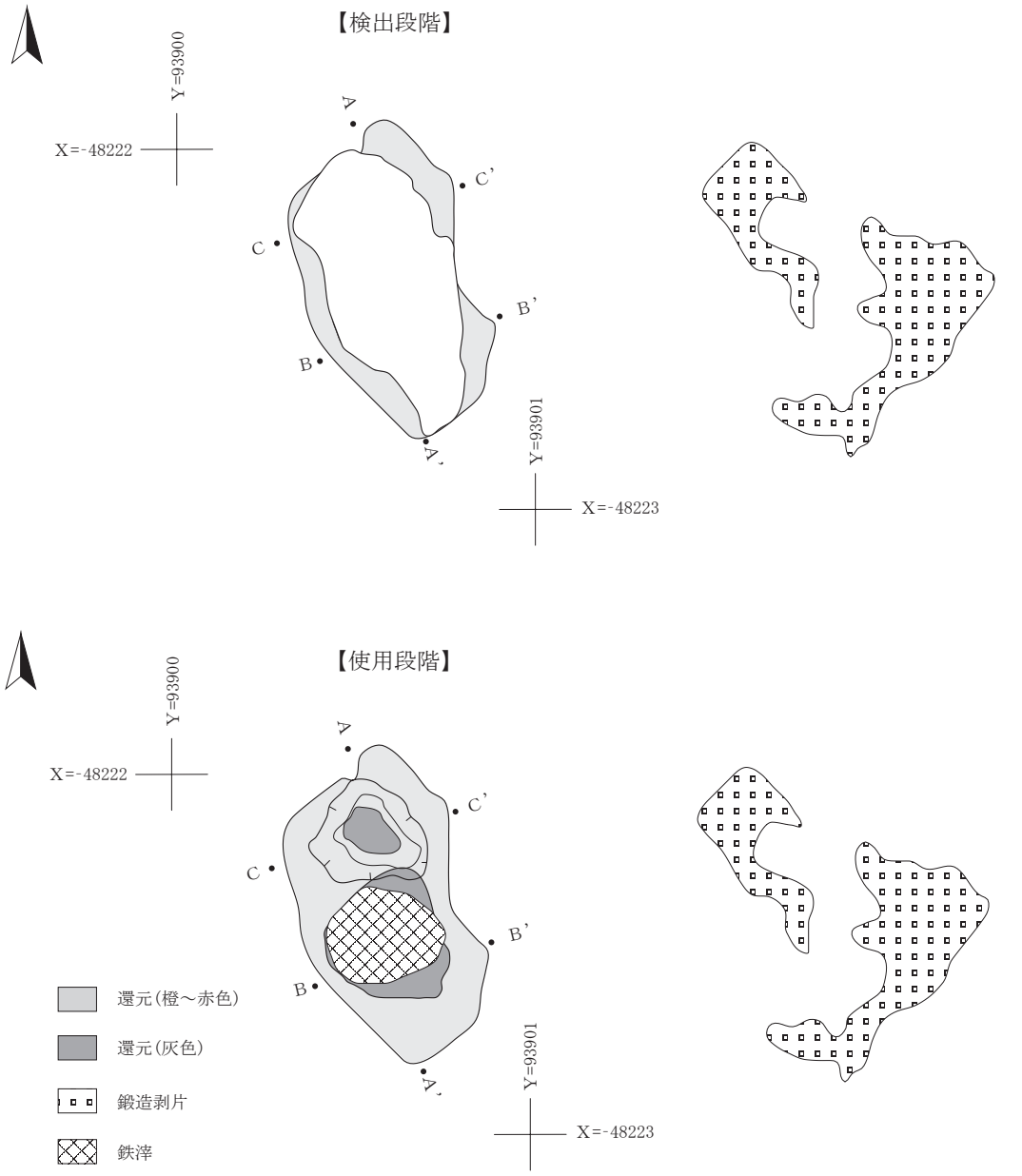
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中 鉄滓10～15%含む
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 鉄滓３～５%、明黄褐色シルト(10YR6/6) ３%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 鉄滓10～15%含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 鉄滓80～90%、炭化物５%含む
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 鉄滓１～２%含む
6　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 鉄滓１%、炭化物１～２%含む
7　10YR3/1 黒褐色シルト50%、10YR6/8 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり中
8　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径２～３㎜の風化花崗岩粒１%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) １%含む
10　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
11　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)15～20%含む

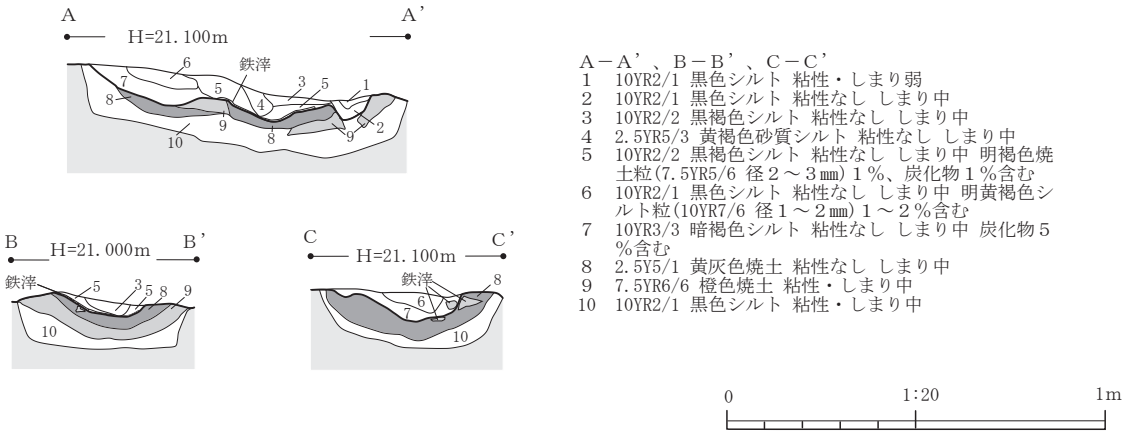


B－B'
1　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性なし しまり中 鉄滓１～２%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4) ３%含む
3　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) ５%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 鉄滓15～20%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/6)10%、鉄滓30%含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 鉄滓80～90%含む 炭化物５%含む
7　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径２～３㎜の風化花崗岩粒１%含む



第96図　１号排滓場

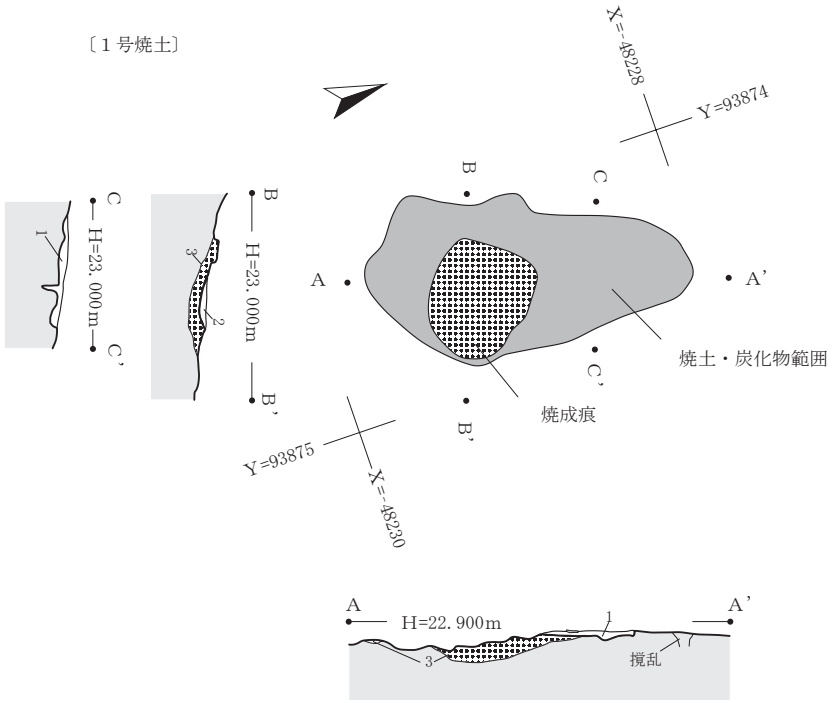




A－A'、B－B'、C－C'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
4　2.5YR5/3 黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明褐色焼土粒(7.5YR5/6 径２～３㎜)１%、炭化物１%含む
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径１～２㎜)１～２%含む
7　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物５%含む
8　2.5Y5/1 黄灰色焼土 粘性なし しまり中
9　7.5YR6/6 橙色焼土 粘性・しまり中
10　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中

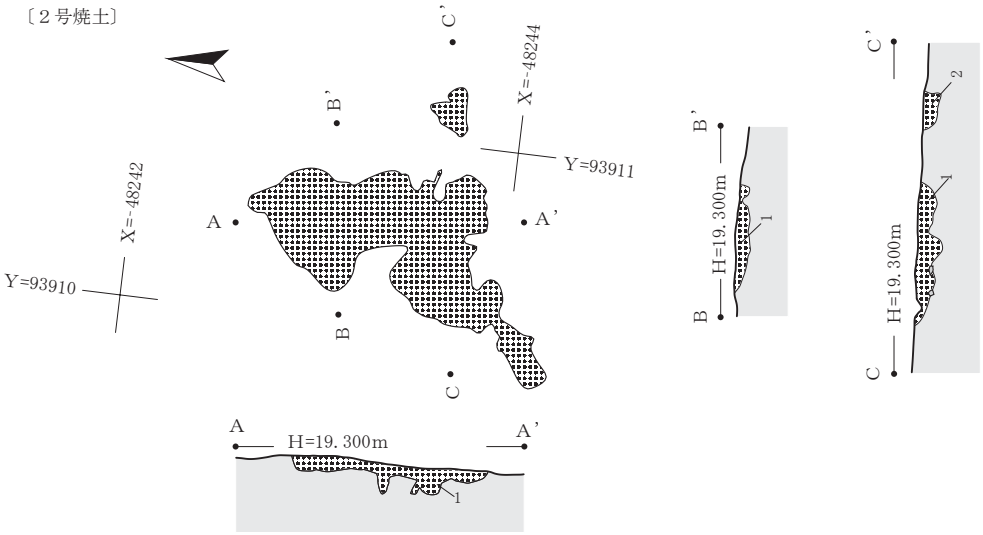
第97図　１号鍛冶炉

〔１号焼土〕

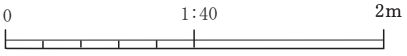


Ａ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’、Ｃ－Ｃ’
１　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり中 暗赤褐色焼土(５YR3/6) １％、炭化物10％含む
２　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 橙色焼土(５YR6/8) １％含む
３　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成痕

〔２号焼土〕

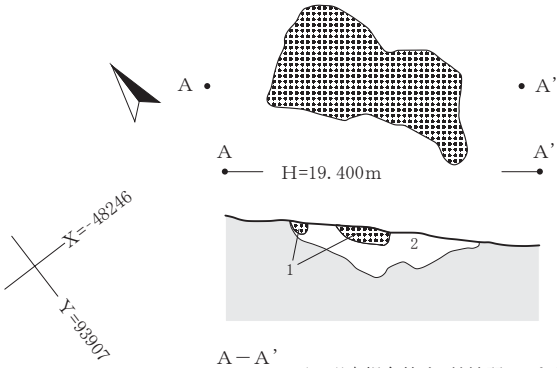


Ａ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’、Ｃ－Ｃ’
１　５YR5/8 明赤褐色焼土 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)20％含む
２　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明赤褐色焼土(５YR5/8) ３～５％含む



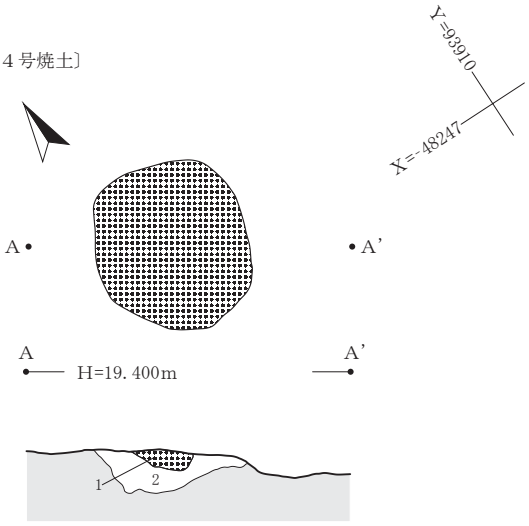
第98図　１・２号焼土

〔３号焼土〕



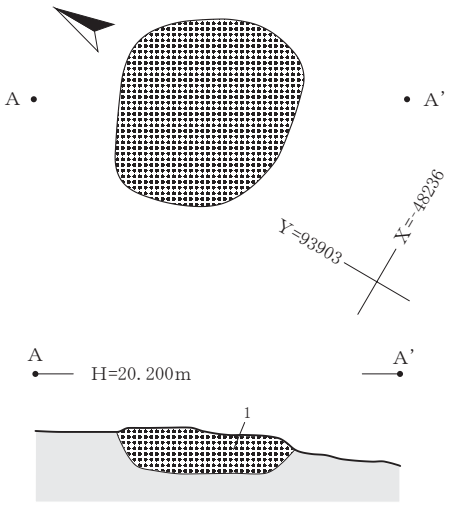
A－A’
1　５YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり強
赤褐色焼土(５YR4/8) ３～５％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
明赤褐色焼土(５YR5/8) ３～５％含む

〔４号焼土〕



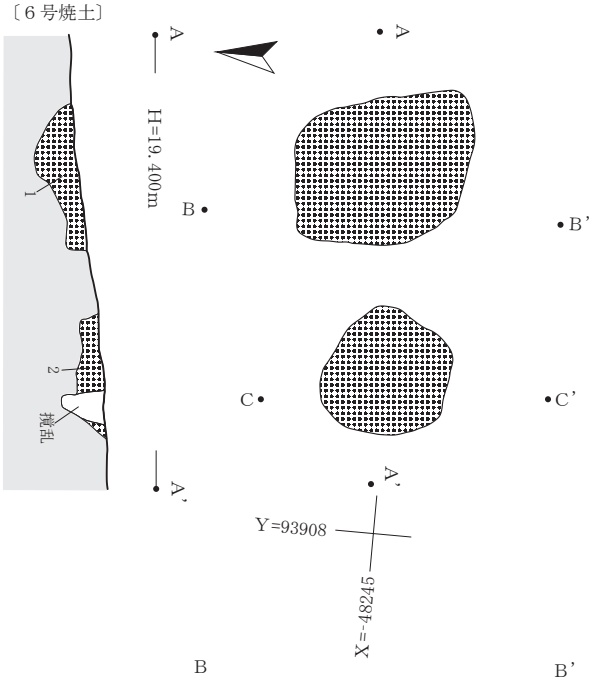
A－A’
1　５YR5/8 明赤褐色焼土 粘性中 しまり強
黒褐色シルト(10YR2/2) １％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
明赤褐色焼土(５YR5/6) ３～５％含む

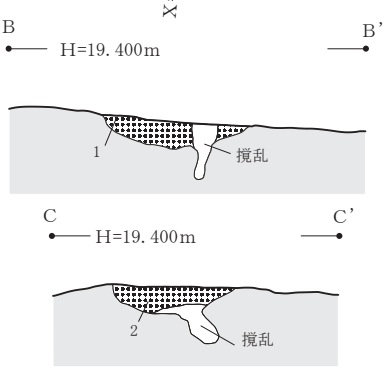
〔５号焼土〕



A－A’
1　7.5YR5/8 明褐色焼土 粘性なし しまり中
黒褐色シルト(10YR2/2) ５～７％含む

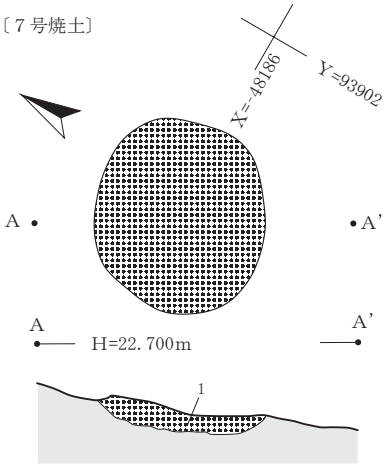
〔６号焼土〕



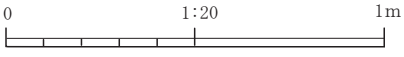


A－A’、B－B’、C－C’
1　５YR5/8 明赤褐色焼土 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト
(10YR2/2)20～25%含む
2　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性中 しまり弱 暗褐色シルト(10
YR3/3)30～40%含む

〔７号焼土〕

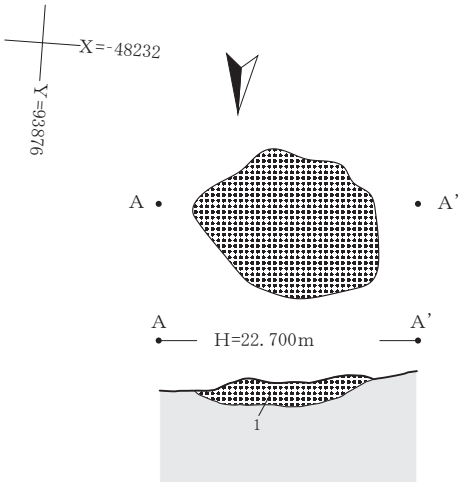


A－A’
1　５YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中
黒褐色シルト(10YR2/2)10%含む



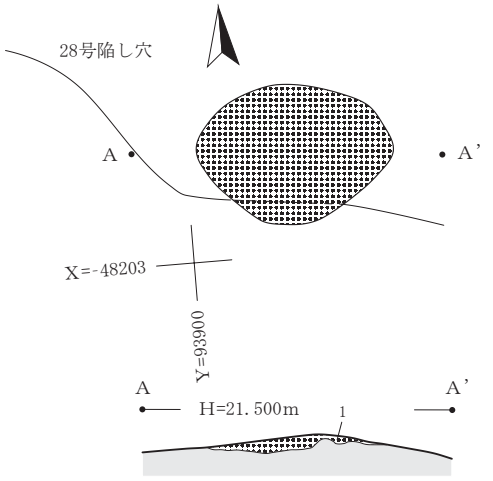
第99図　３～７号焼土

〔８号焼土〕



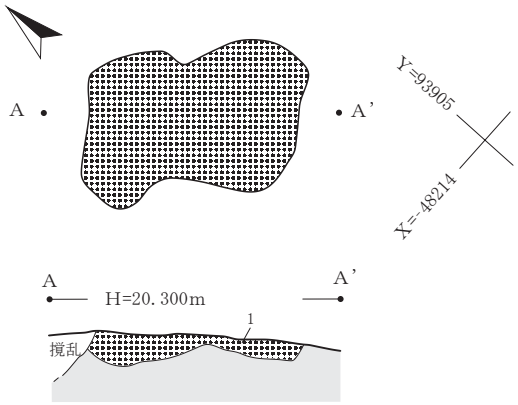
A－A'
1　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中
黒褐色シルト(10YR2/2) ３％含む

〔９号焼土〕



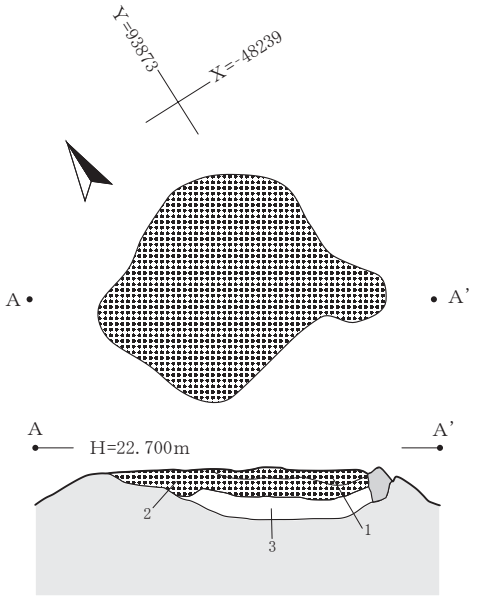
A－A'
1　7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性なし しまり中
黒褐色シルト(10YR2/2)20%含む

〔10号焼土〕



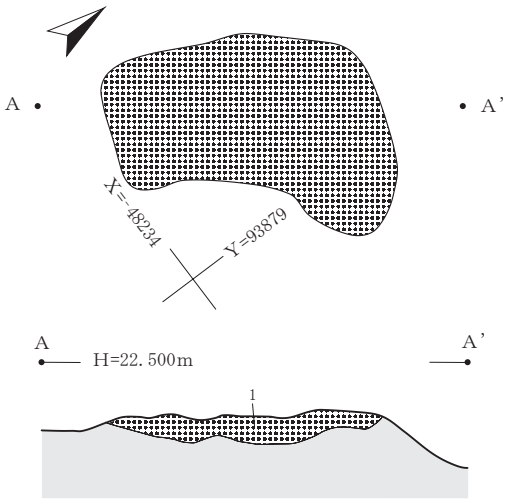
A－A'
1　５YR5/8 明赤褐色焼土 粘性中 しまり弱
黒褐色シルト(10YR2/3)10%含む

〔11号焼土〕

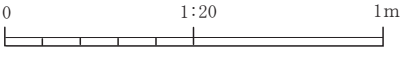


1　7.5YR6/4 にぶい橙色焼土 粘性・しまり弱 黒褐色シルト
(10YR2/2) ３％含む
2　５YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト
(10YR2/2) ３％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明赤褐色焼
土(５YR5/8) ５％含む

〔12号焼土〕

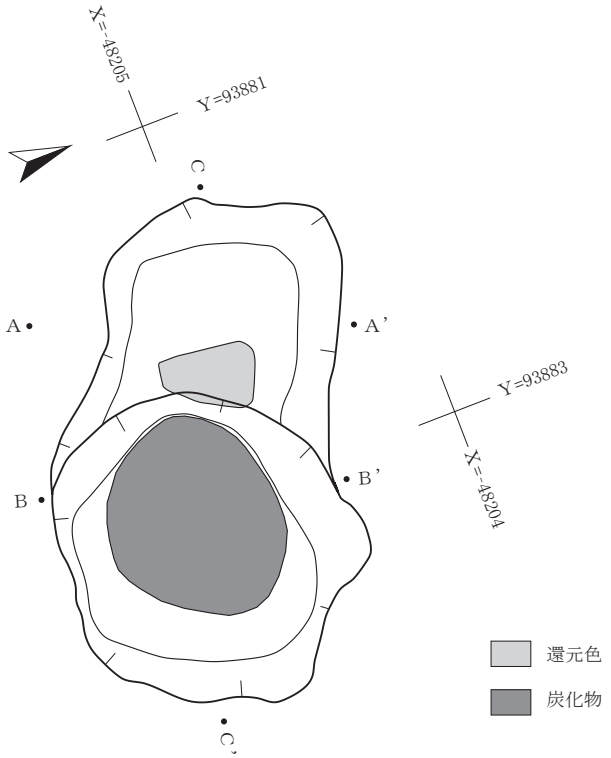


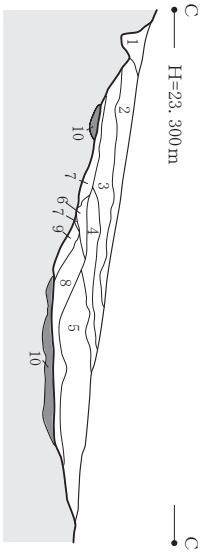
A－A'
1　５YR4/8 赤褐色焼土 粘性中 しまり強 黒色シルト
(10YR2/1) ５％含む



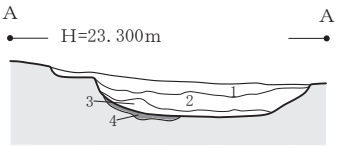
第100図　８～12号焼土

〔１号焼成遺構〕

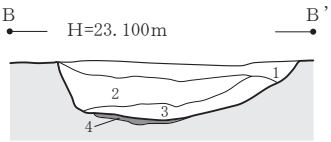




C－C'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径５～10㎜の炭化物１%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径10～15㎜の炭化物２%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 橙色焼土粒(7.5YR6/6 径10㎜) １%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径10～15㎜) １%含む
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径10～15㎜) １%含む
6　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 炭化物20%、オリーブ褐色粘土(2.5Y4/3)10～15%含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 橙色焼土(7.5YR6/6) ５～７% 炭化物１%含む
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 橙色焼土(7.5YR6/6) １%、明黄褐色シルト(10YR6/6) ２%含む
9　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 橙色焼土(7.5YR6/6) ５～７%、
　　径10～15㎜の炭化物２%含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径10～15㎜の炭化物70～80%含む

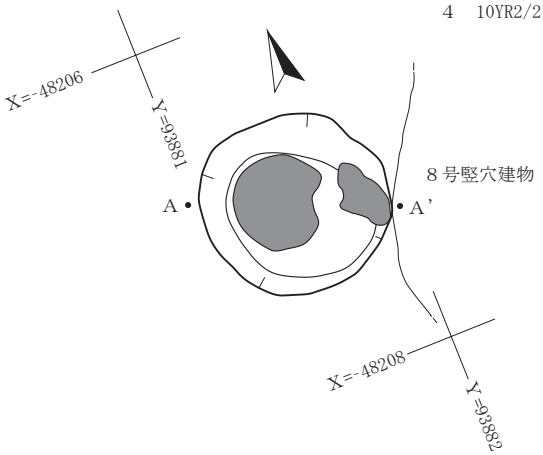


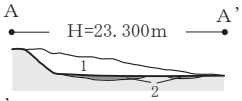
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物３～５%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6) ３～５%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径10～15㎜の炭化物70～80%含む



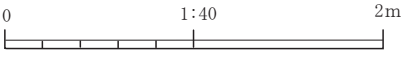
B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物１～２%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径３～５㎜) １%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物１～２%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径10～15㎜の炭化物70～80%含む

〔２号焼成遺構〕

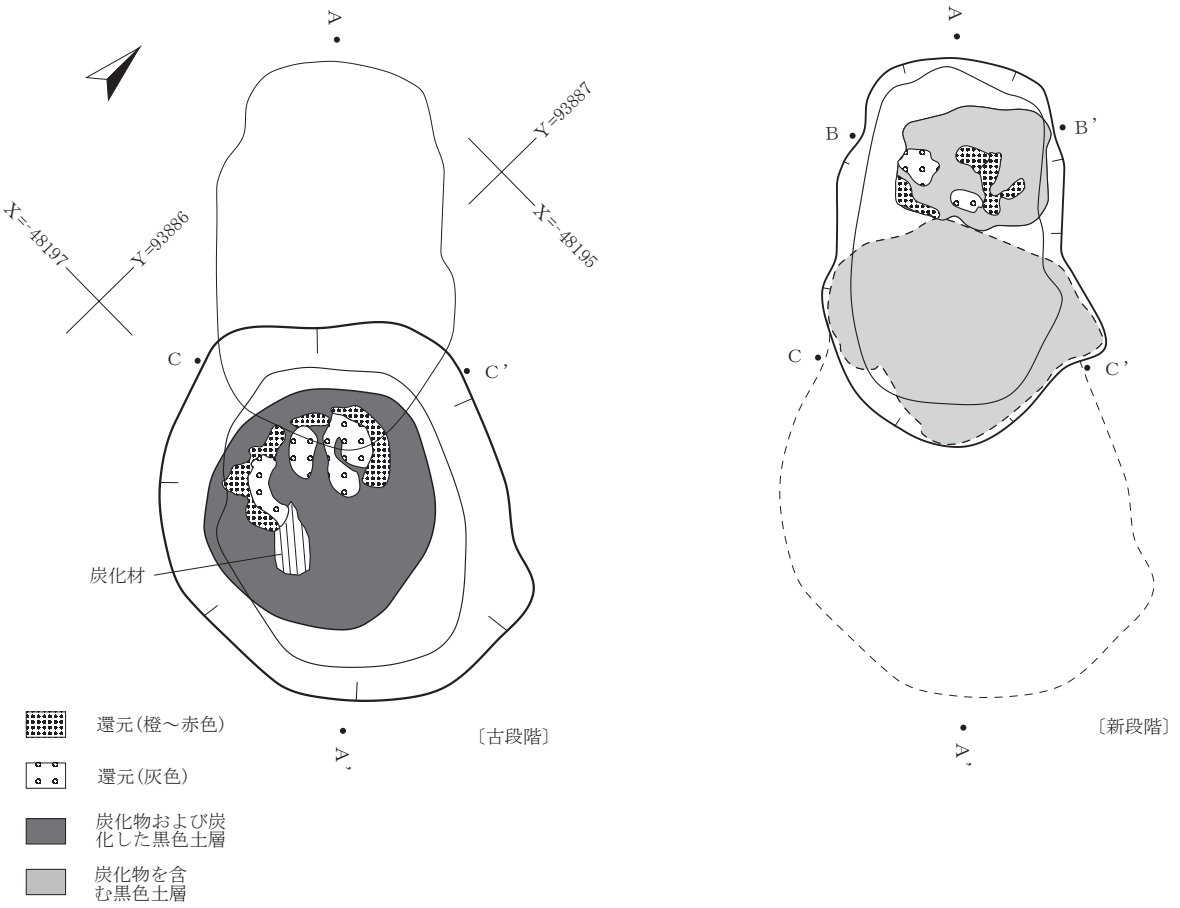


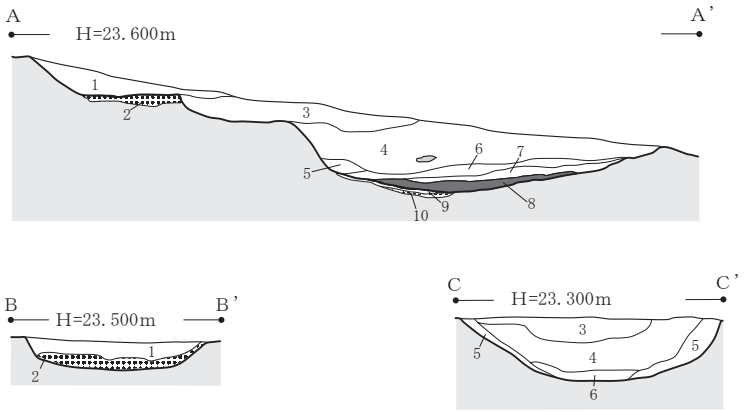


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
　径10～15㎜の炭化物１%含む
2　炭化物層



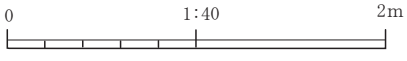
第101図　１・２号焼成遺構





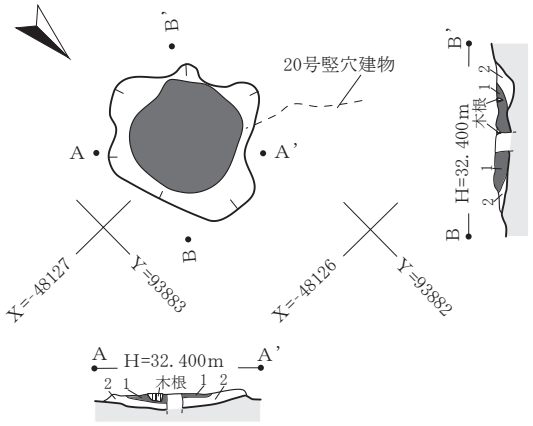
A－A'、B－B'、C－C'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径７～15㎜の炭化物を３～５％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6)10～15％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径５㎜の炭化物１～２％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物15～20％、明褐色焼土(7.5YR5/6)３％含む
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 炭化物20～25％含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 炭化物10～15％含む
8　炭化物90％、10YR2/2 黒褐色シルト10％の混合土層 粘性弱 しまり中 暗灰黄色焼土(還元色2.5Y5/2)をブロックで２～３％含む
9　2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト 粘性なし しまり中（還元色）
10　7.5YR4/4 褐色焼土 粘性なし しまり中 焼成面

※１～３新段階、４～10古段階



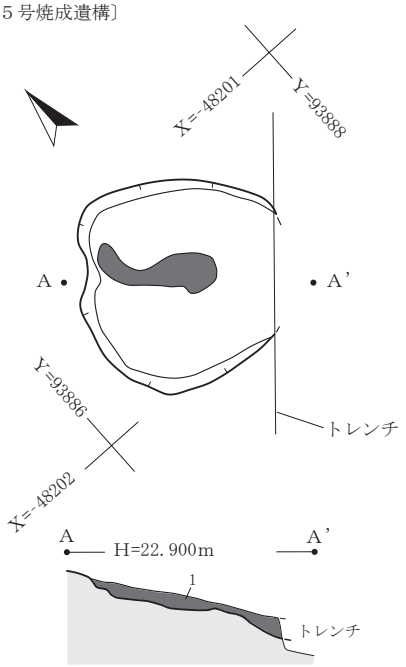
第102図　３号焼成遺構

〔４号焼成遺構〕



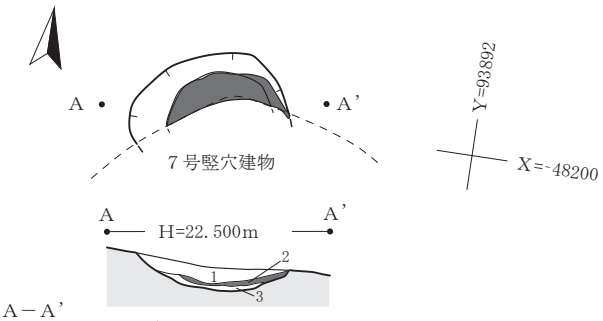
A－A’、B－B’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物10～15%含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5%含む

〔５号焼成遺構〕



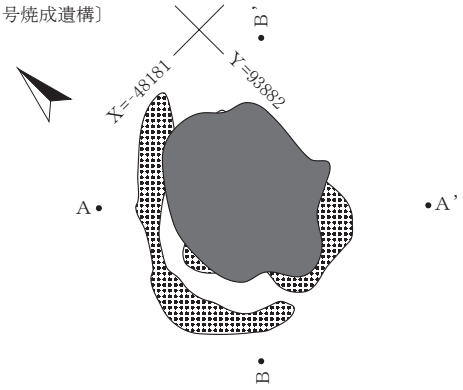
A－A’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1%含む 層下部に炭化物層(5～10㎜、一部還元)あり

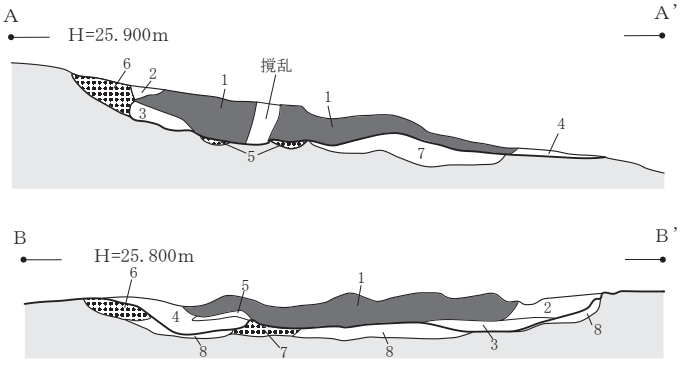
〔６号焼成遺構〕



A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
　橙色焼土(5YR6/6)10%、炭化物20%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
　(Ⅴ層？)

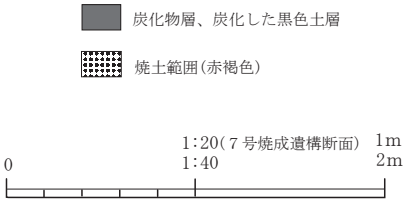
〔７号焼成遺構〕



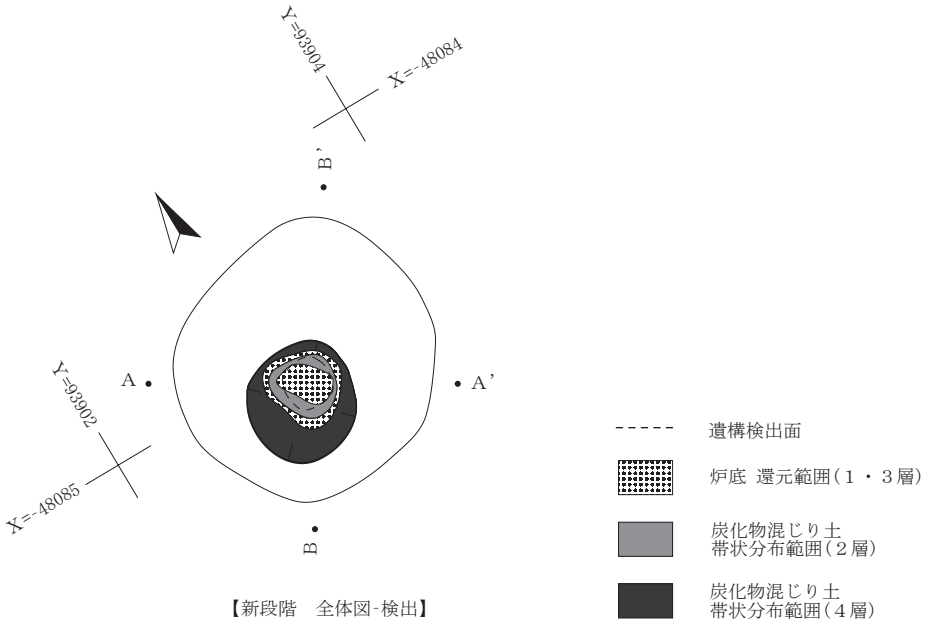


A－A’
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 還元した灰白色焼土10～15%、黒色炭化物15～20%含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3%含む
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)10%含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト40%、10YR7/6 明黄褐色シルト60%の混合土層 粘性弱 しまり中
5　5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・しまり中
6　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強
7　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR7/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中 炭化物1%含む

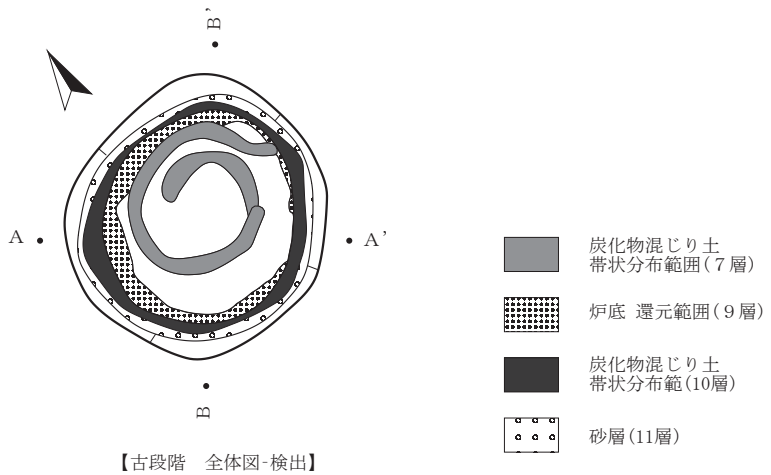
B－B’
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 還元した灰白色焼土10～15%、黒色炭化物15～20%含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6) 1～2%含む
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明褐色焼土(7.5YR5/6) 3%、炭化物をブロックで1～2%含む
4　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
5　7.5YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中
6　5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強
7　5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・しまり中
8　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR7/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中 炭化物1%含む



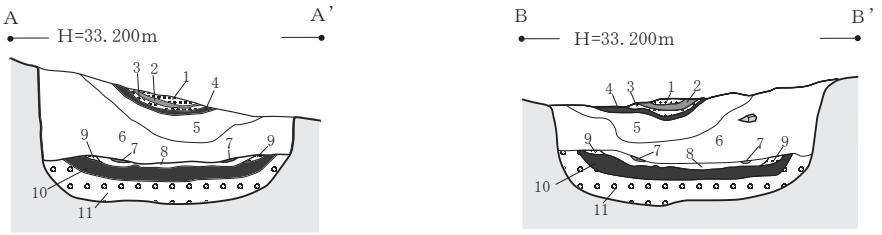
第103図　4～7号焼成遺構



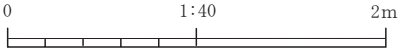
【新段階　全体図-検出】



【古段階　全体図-検出】

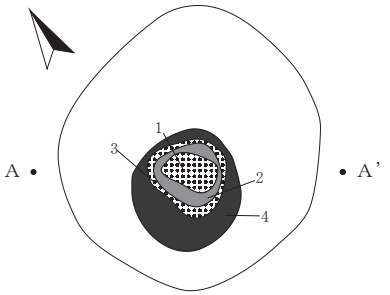


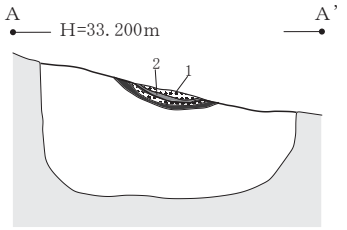
A－A'、B－B'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 明赤褐色焼土(５YR5/8)２%、炭化物微量含む ※炉底の可能性あり
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 炭化物多量含む ※炭化物層
3　7.5YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/2)１%含む 明赤褐色焼土(５YR5/8)５%含む ※炉底の可能性あり
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし 炭化物多量含む ※炭化物層
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし 炭化物微量含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
7　５YR2/3 極暗赤褐色シルト 粘性中 しまり弱 径２～５㎜の炭化物５～10%含む
8　５YR5/6 明赤褐色シルト 粘性中 しまり弱
9　５YR5/2 灰褐色シルト 粘性中 しまり弱 還元焼成土の可能性あり
10　５YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径２～10㎜の炭化物10～20%含む
11　2.5Y4/1 黄灰色砂 粘性なし しまり弱



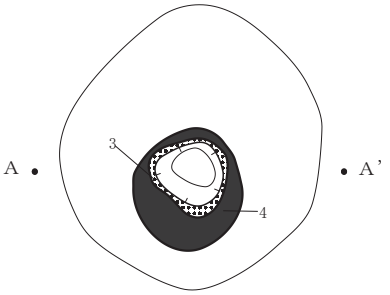
第104図　８号焼成遺構１

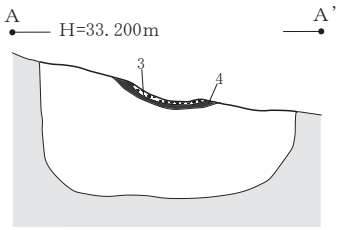
【焼成面１】



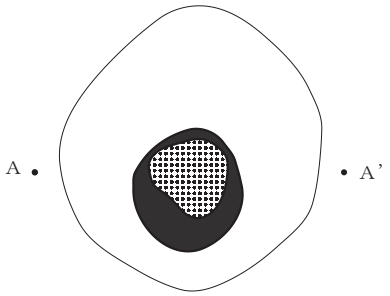


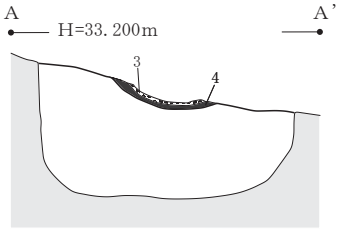
【炭化物・焼土検出（１回目）】



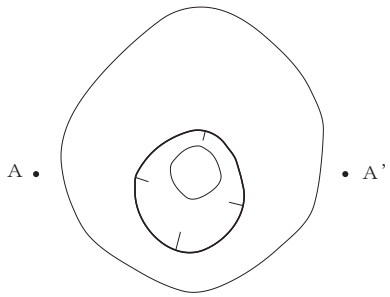


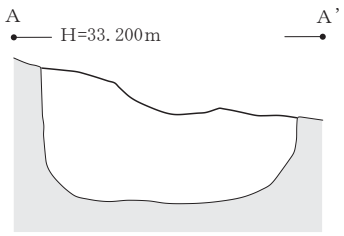
【完掘（１回目）】



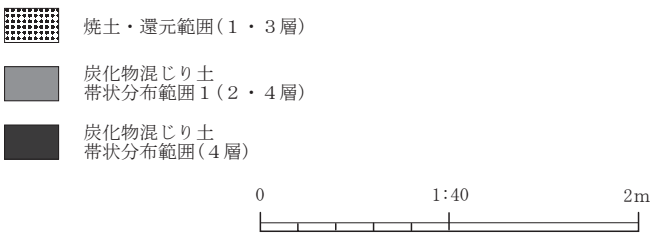


【炭化物・焼土検出（２回目）】



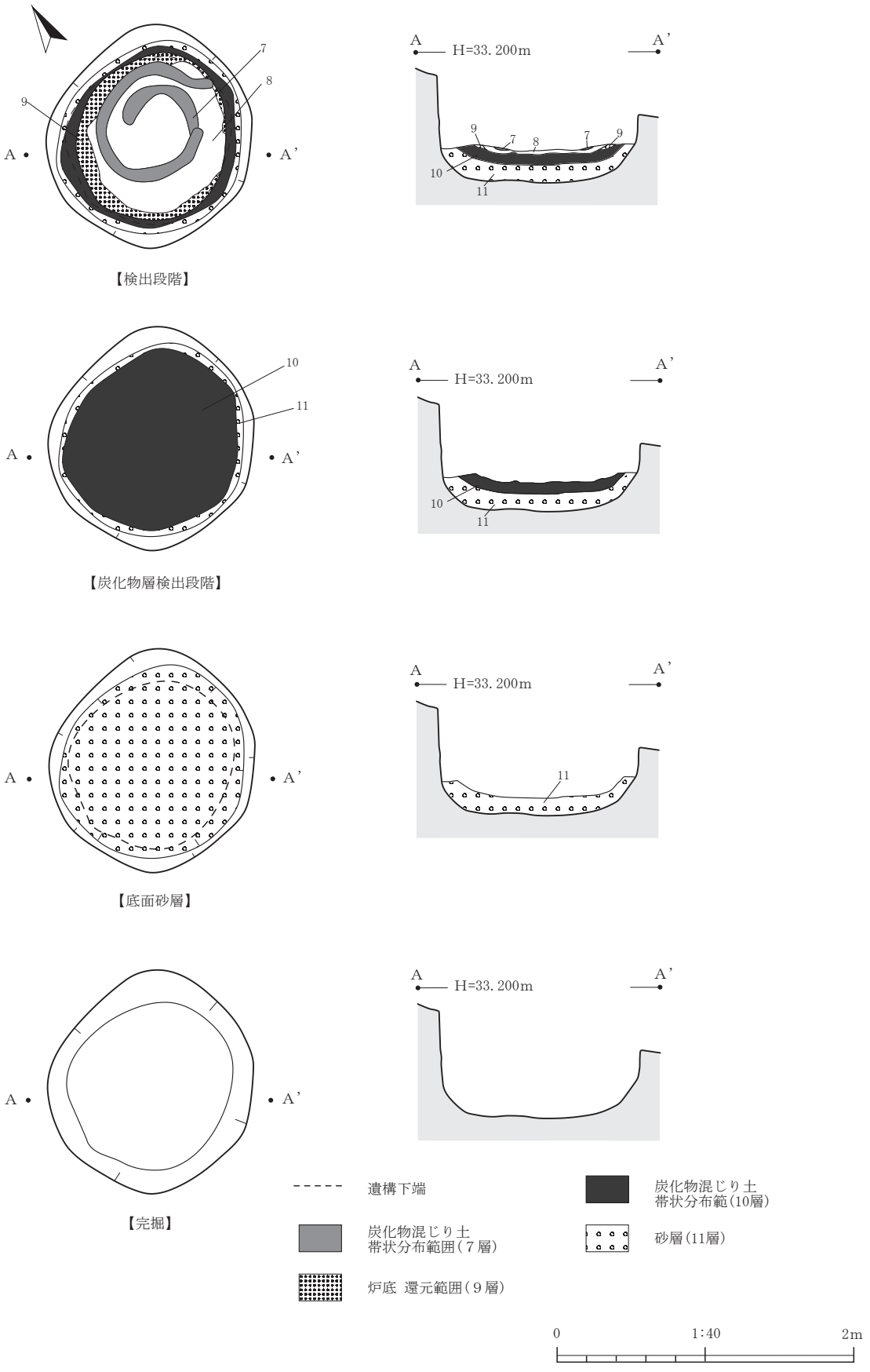


【完掘（２回目）】



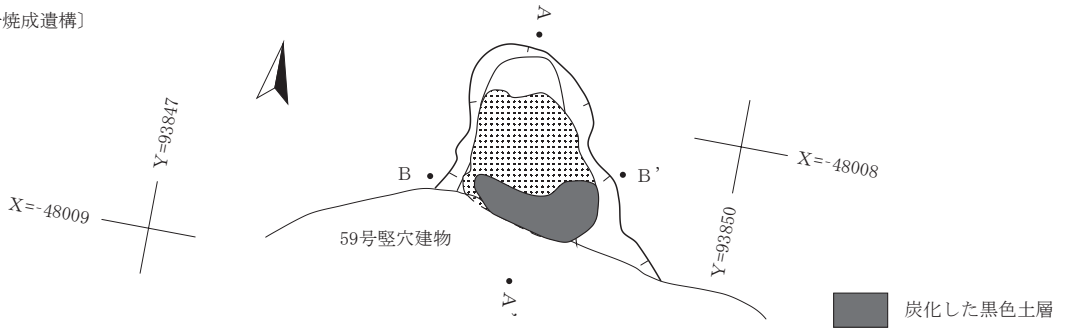
第105図　８号焼成遺構２

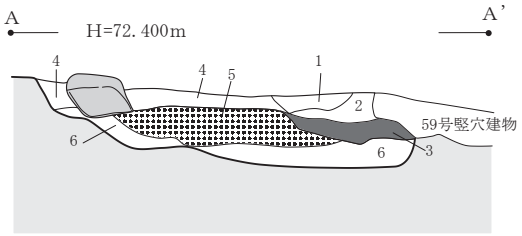
【焼成面２】

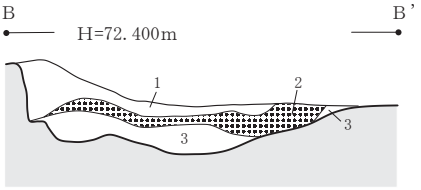


第106図　８号焼成遺構３

〔９号焼成遺構〕



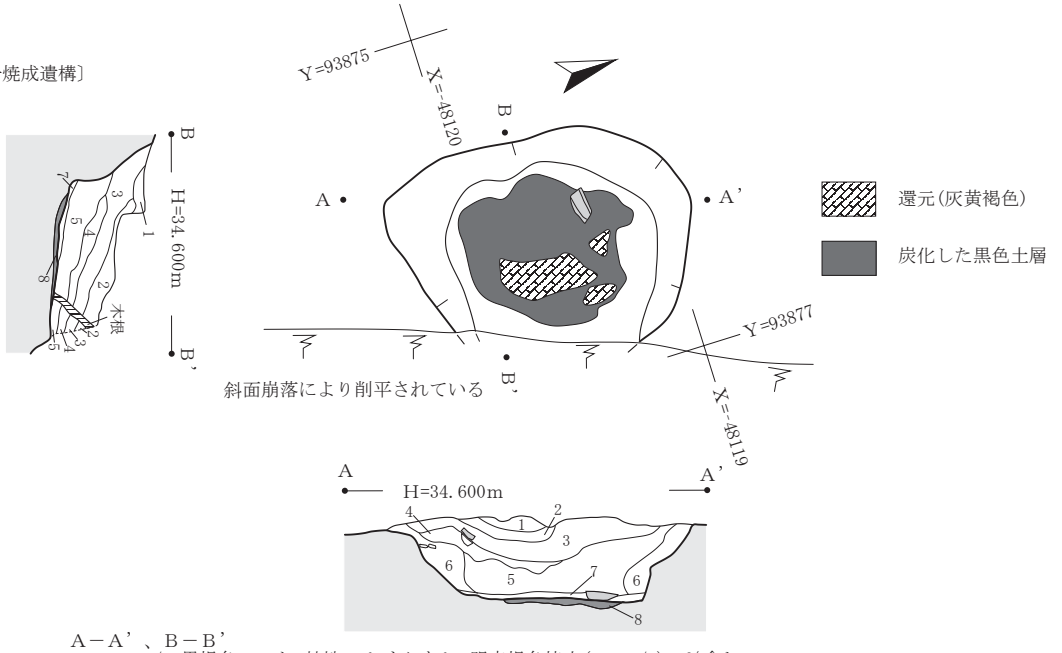




A－A'
1　10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト粒(10YR2/1 径１～２㎜)１％含む
2　2.5Y5/4 黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 浅黄橙色シルト粒(10YR8/3 径１～２㎝)５％、径１㎝の地山ブロック１％含む
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 赤褐色焼土粒(５YR 4/6 径10㎜)10％、径２～３㎝の炭化物粒20％含む
4　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり強 明赤褐色焼土粒(５YR5/6 径10㎜)10％含む
5　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土ブロック(５YR5/8 径５㎝)30％、径１～２㎝の炭化物粒５％含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強

B－B'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 明赤褐色焼土粒(５YR5/8 径２～３㎝)10％、径１～３㎝の炭化物粒10％含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土ブロック(５YR5/8 径５㎝)30％、径１～２㎝の炭化物粒５％含む
3　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強

〔10号焼成遺構〕

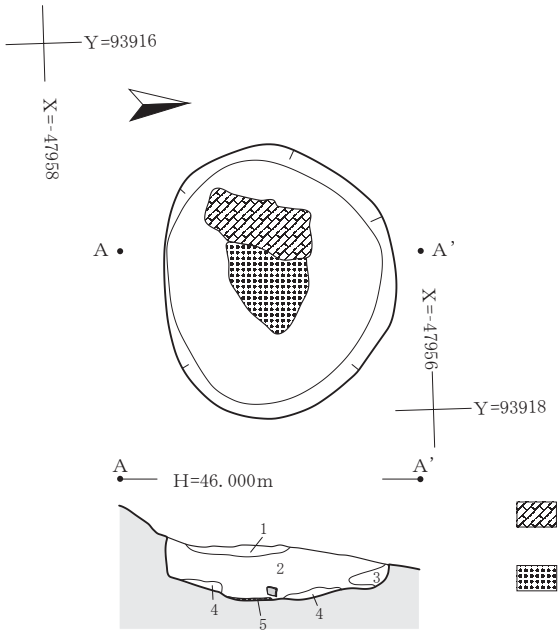


A－A'、B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 明赤褐色焼土(５YR5/8)１％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト60％ 10YR3/3 暗褐色シルト10％、５YR5/8 明赤褐色焼土30％の混合土層 粘性・しまり弱
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8)３％含む
4　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)10％、暗褐色シルト(10YR3/3)10％、明赤褐色焼土(５YR5/8)５％含む
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8)１％未満含む
6　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 炭化物微量含む
7　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
8　10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 にぶい黄橙色シルト(10YR7/4)５％、炭化物多量含む ※焼成面

1:20(９号焼成遺構断面) 1m
1:40 2m

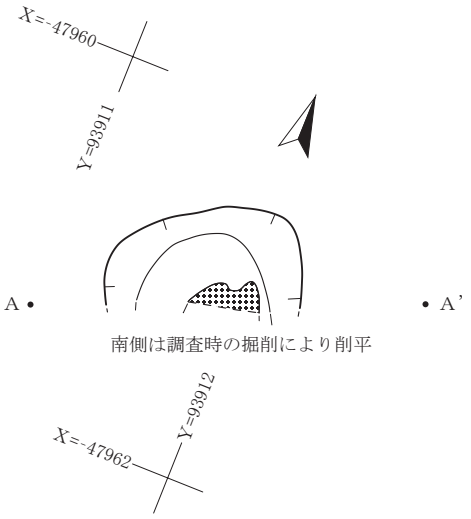
第107図　９・10号焼成遺構

〔11号焼成遺構〕



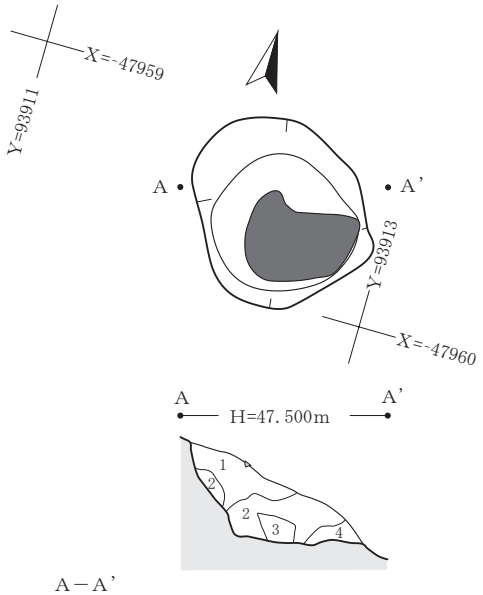
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR2/1)を斑状に20%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/3)をブロックで５%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 灰のように見える
5　５YR2/3 極暗赤褐色焼土 粘性なし しまり弱

〔12号焼成遺構〕



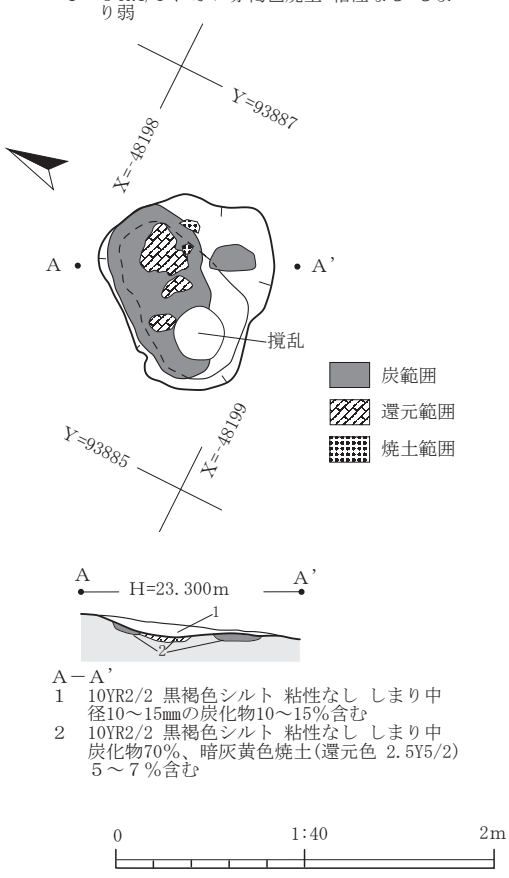
A－A'
1　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 風化花崗岩粒に褐色シルト(10YR4/6)が５%混じる
2　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 風化花崗岩粒20%混じる
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱
4　５YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性なし しまり弱

〔13号焼成遺構〕



A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 黒色シルト(10Y 2/1)をブロック状に２%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト(10YR 3/2)をブロック状に20%含む
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 砂粒５%混入
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 褐色シルト(10YR 4/6)がブロック状に30%混じる

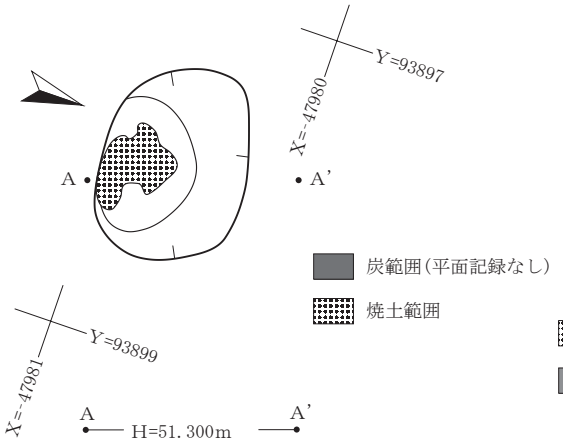
〔14号焼成遺構〕



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径10～15㎜の炭化物10～15%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物70%、暗灰黄色焼土(還元色 2.5Y5/2)５～７%含む

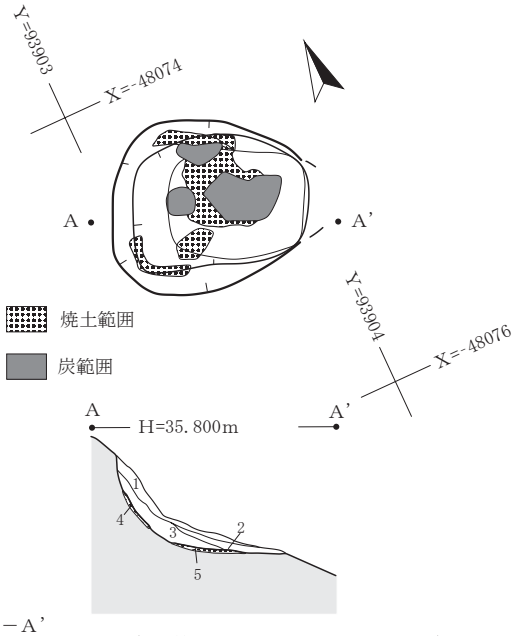
第108図　11～14号焼成遺構

〔15号焼成遺構〕



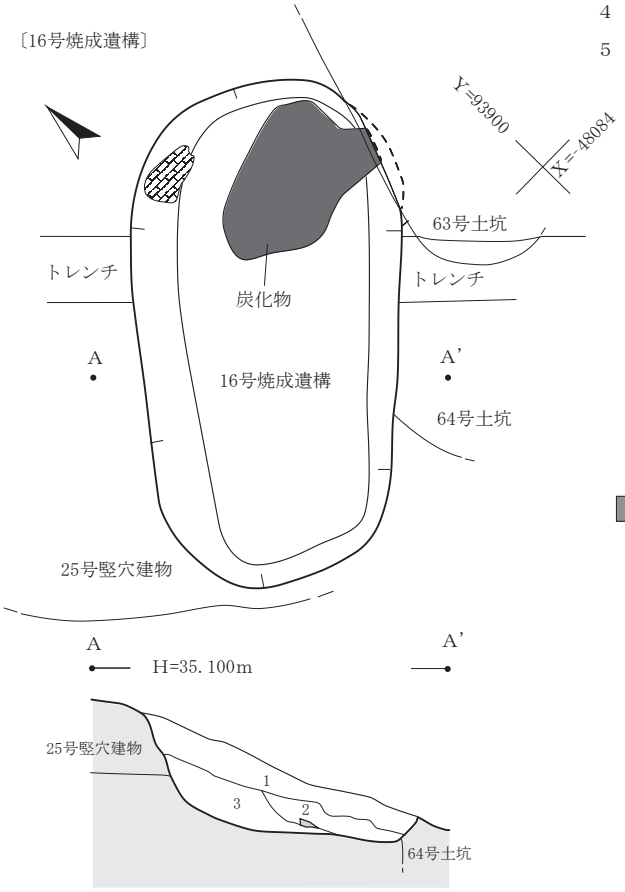
A－A'
1　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)が筋状に混じる
2　10YR2/1 黒色シルト 炭化物層 粘性なし しまり弱 炭化物が粉状に堆積したもの
3　2.5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり弱

〔17号焼成遺構〕



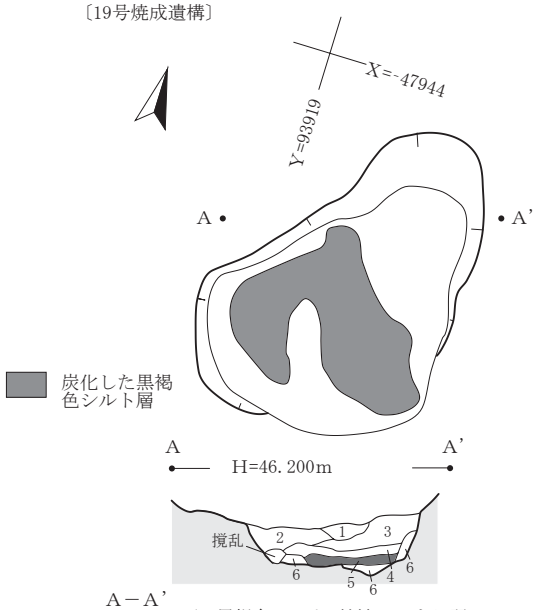
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)と暗褐色シルト(10YR3/4)がブロック状に10%混じる
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)が10%混じる
3　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 径２～10㎜の炭化物が50%混じる
4　５YR4/3 にぶい赤褐色焼土 砂質 粘性中 しまり弱 径20～40㎜のにぶい赤褐色焼土のブロックに炭化物が10%混じる
5　５YR4/4 にぶい赤褐色焼土 砂質 粘性・しまり中

〔16号焼成遺構〕

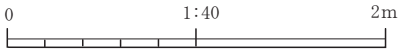


1　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)と黒褐色シルト(10YR3/2)、褐色シルト(10YR4/4)の互層

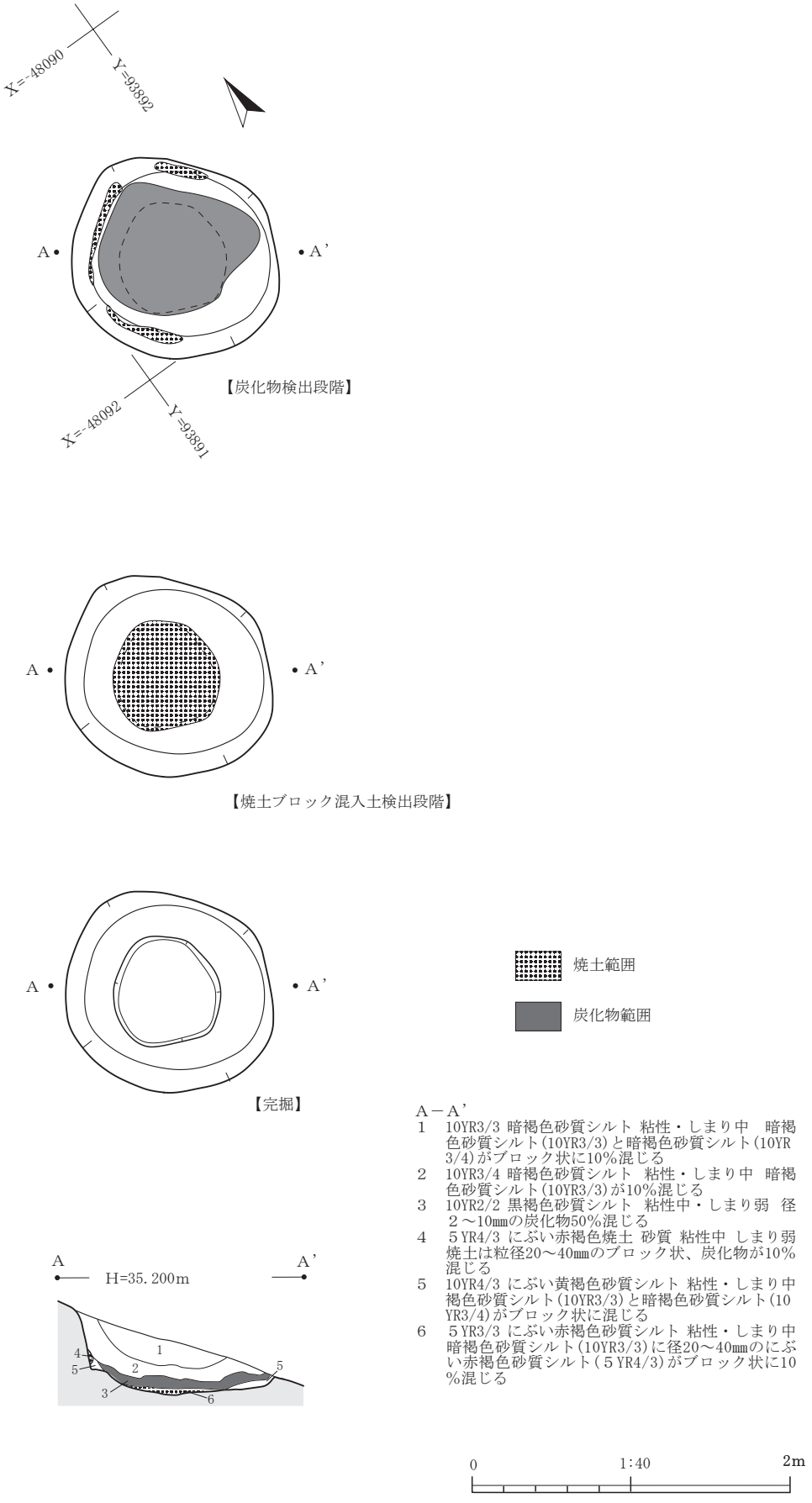
〔19号焼成遺構〕



A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/2)20%混入
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり弱 褐色シルト(10YR4/4)５%混入
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 炭化物が混じり黒色にみえる
6　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱

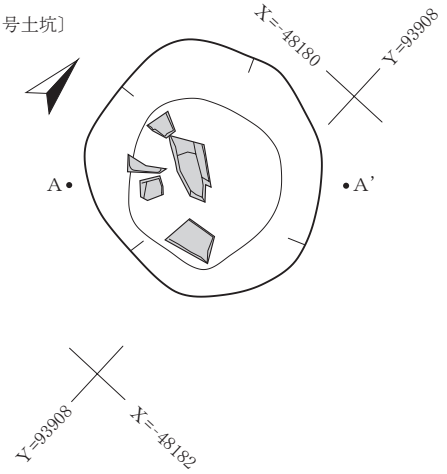


第109図　15～17・19号焼成遺構



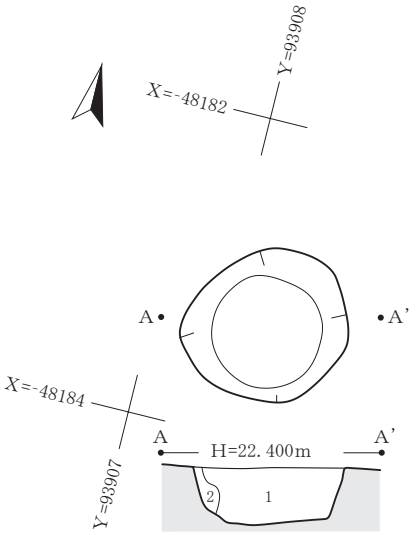
第110図　18号焼成遺構

〔１号土坑〕



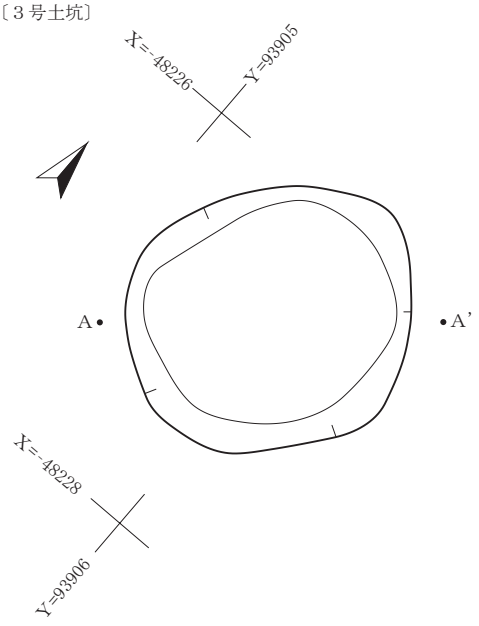
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
　径３～５㎜の礫20～25%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり
　中 径２～５㎜の礫２～３%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中

〔２号土坑〕



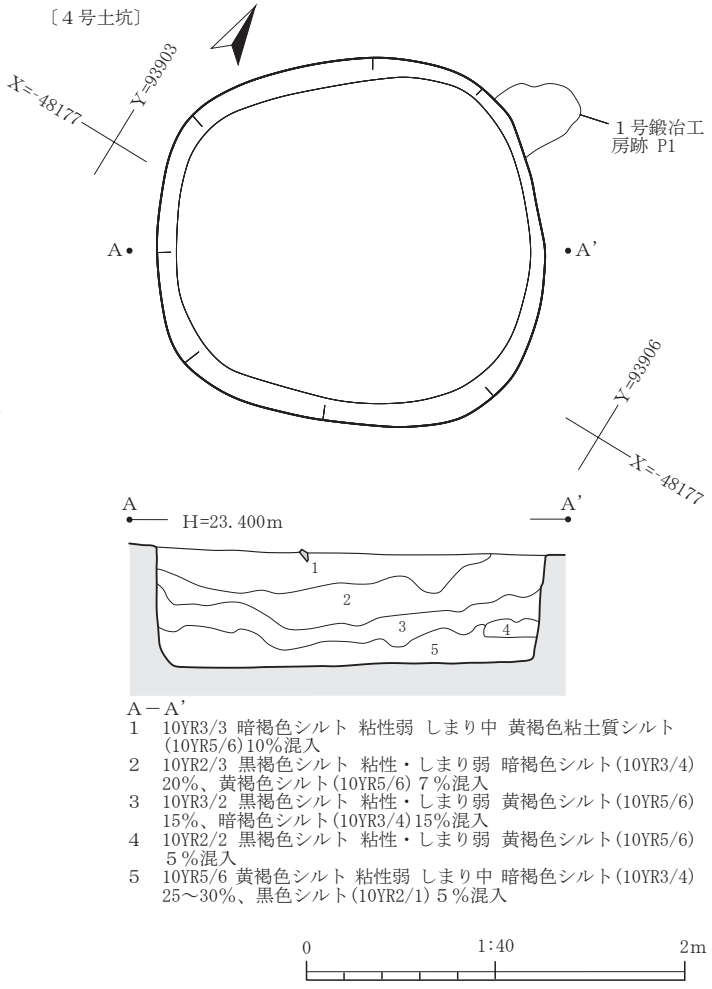
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
　径３～５㎜の礫20～25%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり
　中 径２～５㎜の礫２～３%含む

〔３号土坑〕



A－A'
1　5YR4/6 赤褐色焼土 粘性弱 しまり強
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強

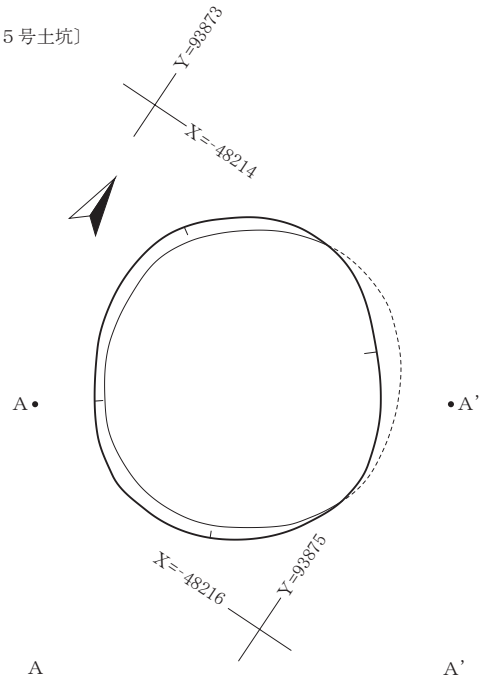
〔４号土坑〕



A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色粘土質シルト
　(10YR5/6)10%混入
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/4)
　20%、黄褐色シルト(10YR5/6) 7%混入
3　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6)
　15%、暗褐色シルト(10YR3/4)15%混入
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6)
　５%混入
5　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)
　25～30%、黒色シルト(10YR2/1) ５%混入

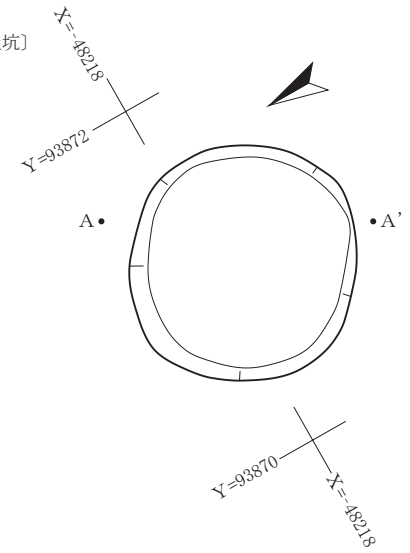
第111図　１～４号土坑

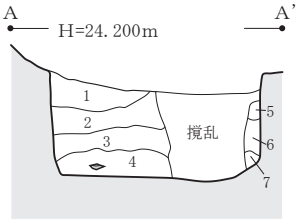
〔５号土坑〕



A－A’
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) ５％混入
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) ５％混入
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) ３％混入
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/8) ５％混入
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/8) 10～15％混入

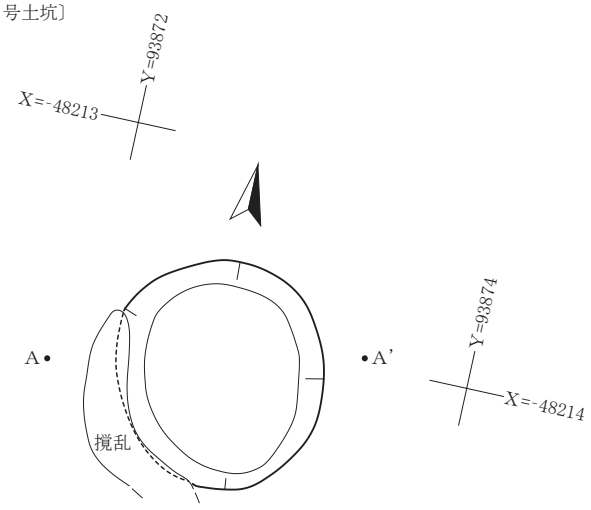
〔６号土坑〕

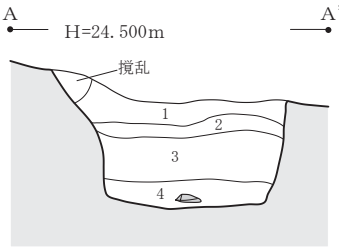




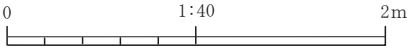
A－A’
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) ３％混入
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) ３％混入
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) １％混入
5　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性強 しまり弱
6　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱
7　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまり弱

〔７号土坑〕



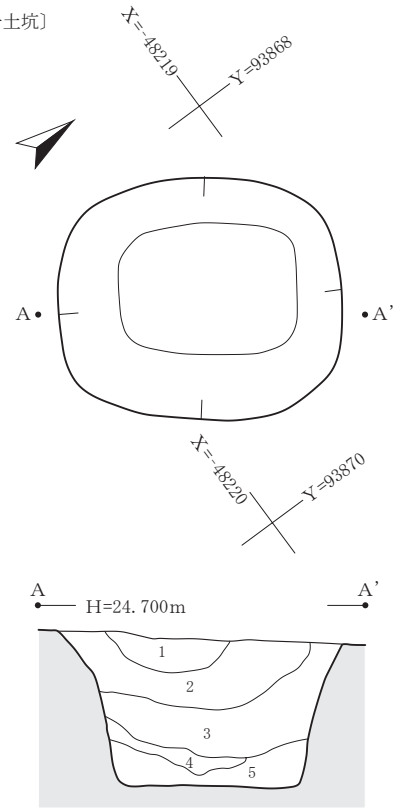


A－A’
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/8) ５～７％含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/2) ３％、明黄褐色シルト(10YR6/8) 20％含む
3　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/8) ３～５％含む
4　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) ３％含む



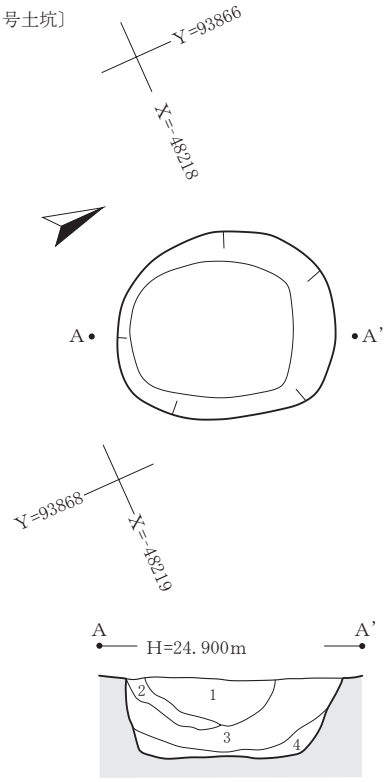
第112図　５～７号土坑

〔８号土坑〕



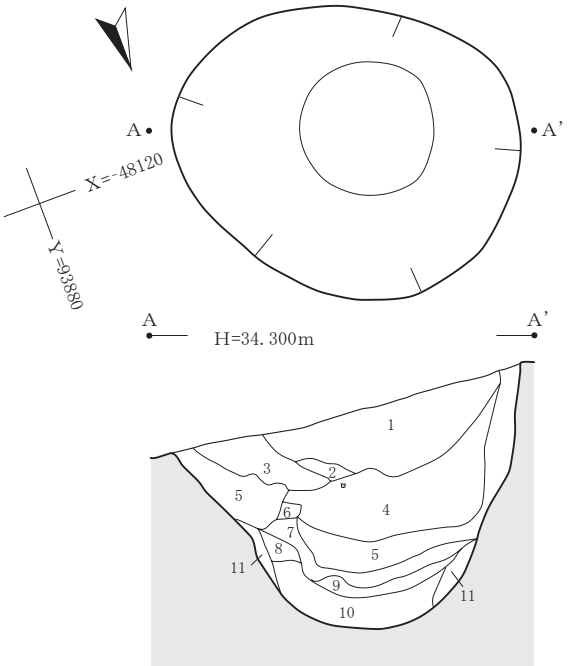
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径５㎜未満の礫粒１％未満含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 径５㎜の礫粒１％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径５㎜の礫粒１％、にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) ７％含む
4　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性中 しまり弱
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)20％含む

〔９号土坑〕

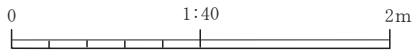


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/3) ５％含む
2　10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 径５㎜の礫粒１％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) ３％、明黄褐色シルト(10YR6/8) ３～５％含む
4　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8)15％含む

〔10号土坑〕

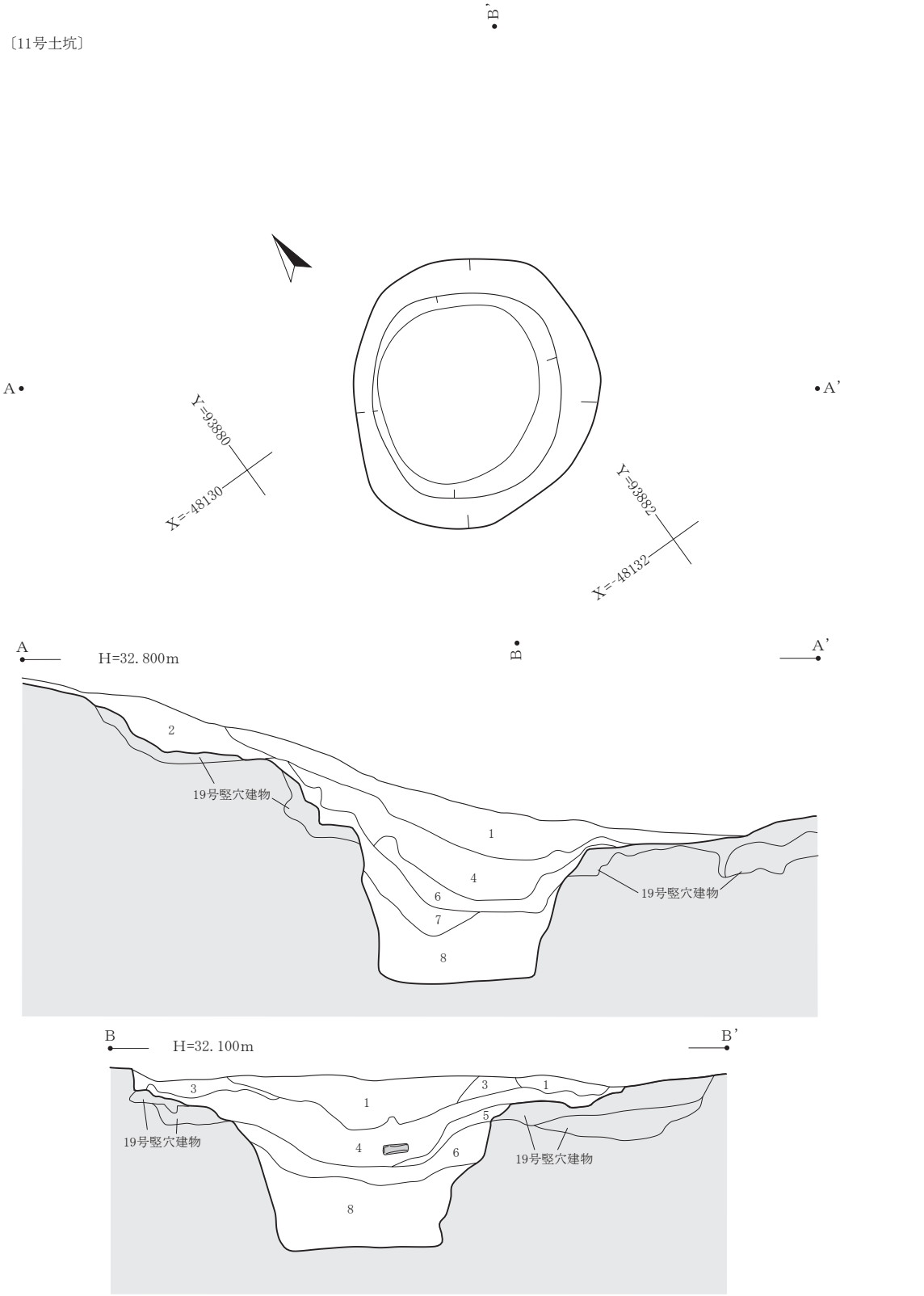


A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 炭化物極微量、焼土極微量、基本土層Ⅰ層主体の土層
2　10YR3/2 黒褐色シルト　粘性・しまりなし　１層より粒子の細かい土層
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト微量に混じる
4　10YR2/2 黒褐色シルト　粘性・しまりなし　粒子が細かい土層、炭化物微量に入る
5　10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中 径１～３㎜の炭化物10％、径１～３㎜の黄褐色シルト粒７％、径１～５㎜の焼土ブロック３％含む
6　10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中　５層土斑状に30％混入
7　10YR2/3 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中
8　10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中　５層土斑状に20％混入
9　10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中 径１～３㎜の炭化物10％、径１～３㎜の黄褐色シルト７％、径１～５㎜の焼土ブロック３％含む
10　10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中 径１～３㎜の炭化物10％、径１～３㎜の黄褐色シルト７％、径１～５㎜の焼土ブロック３％含む
11　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)10％、明赤褐色焼土(2.5YR5/8)10％含む



第113図　８～10号土坑

〔11号土坑〕

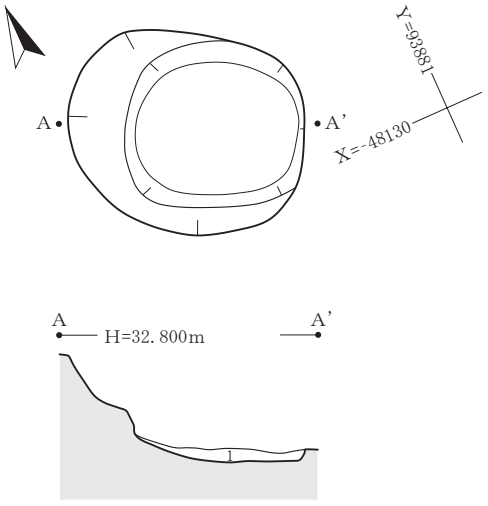


A－A’、B－B’
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 黄褐色シルトが葉理状や小ブロックで入る
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物５％混入 粒子の粗い土層
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 黄褐色シルト30％混合
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 一部に暗褐色シルト(10YR3/3)が５～10㎜の厚さで入る
5　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 黄褐色シルトブロック40％混入
6　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりなし 暗褐色シルト混合
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 暗褐色シルト20％混合
8　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまりなし 微量の暗褐色シルト混入

0　1:40　2m

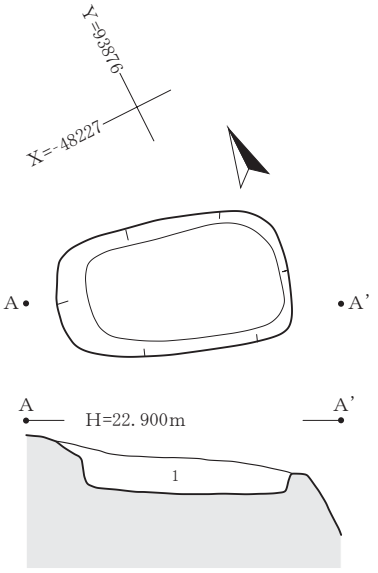
第114図　11号土坑

〔12号土坑〕



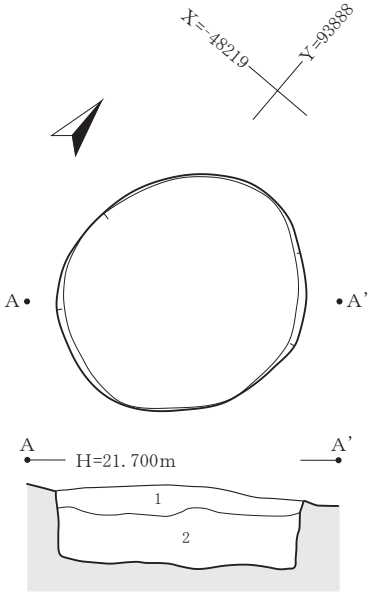
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径２～３㎜の焼土粒２％含む

〔13号土坑〕



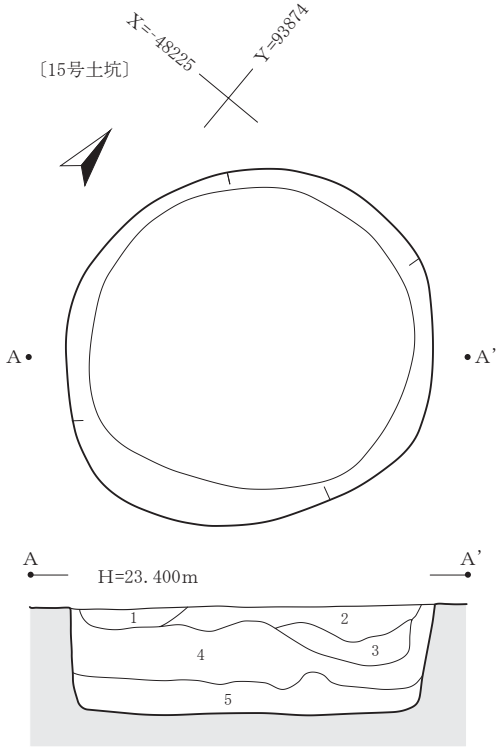
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) ５％含む

〔14号土坑〕

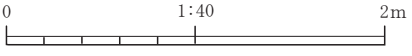


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6)10%含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6)15～20%含む

〔15号土坑〕

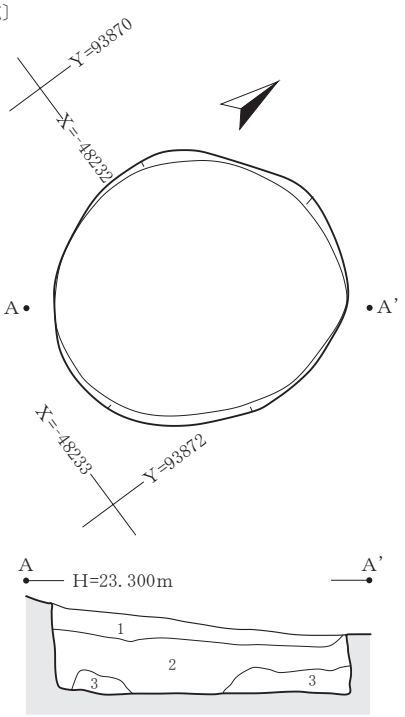


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性･しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) ３～５％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性･しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8) ２％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)25%含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR2/1) ５％、明黄褐色シルト(10YR6/8) １％含む
5　10YR3/2～3/3 黒褐色～暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/1)10%、明黄褐色シルト(10YR6/8) 15%含む



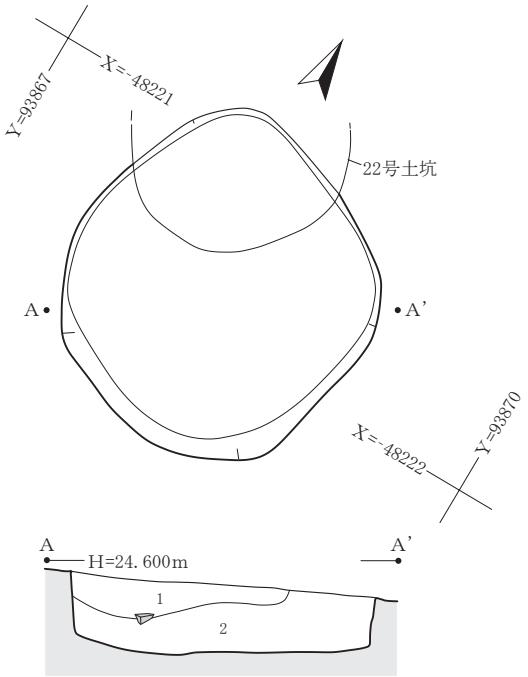
第115図　12～15号土坑

〔16号土坑〕



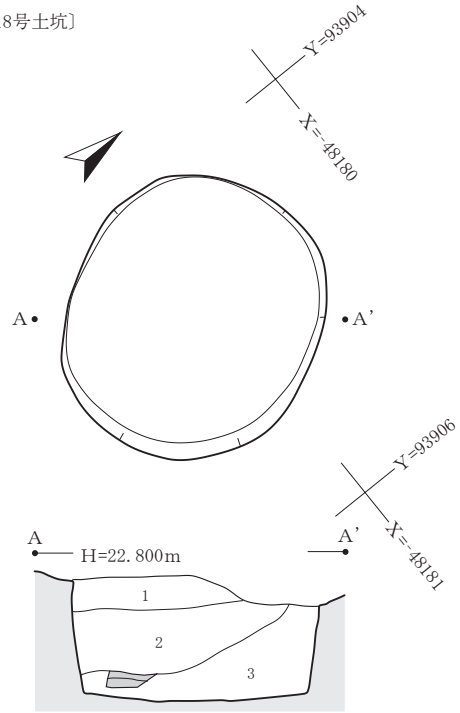
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1)10%、暗褐色シルト(10YR3/3) 5%含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 2%含む
3　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性なし しまり強

〔17号土坑〕



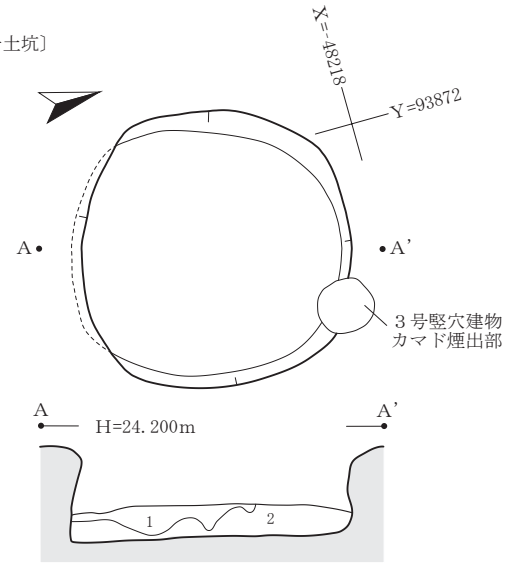
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8)15%、黒褐色シルト(10YR3/1) 3%含む

〔18号土坑〕

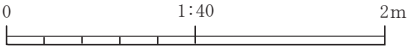


A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 7～10%含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 3～5%、明黄褐色シルト(10YR6/8) 1%含む
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱 褐色シルト(10YR4/6) 2～3%、黒色シルト(10YR2/1) 1～2%含む

〔19号土坑〕

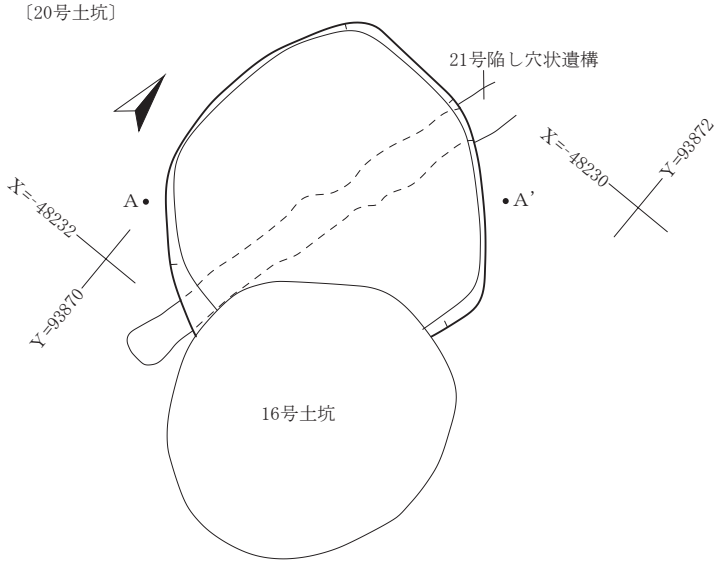


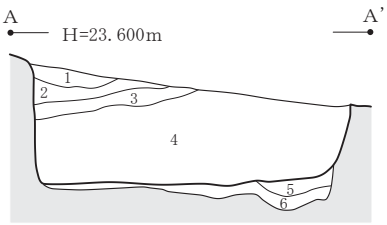
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 褐色シルト(10YR4/4) 3%含む
2　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中



第116図　16～19号土坑

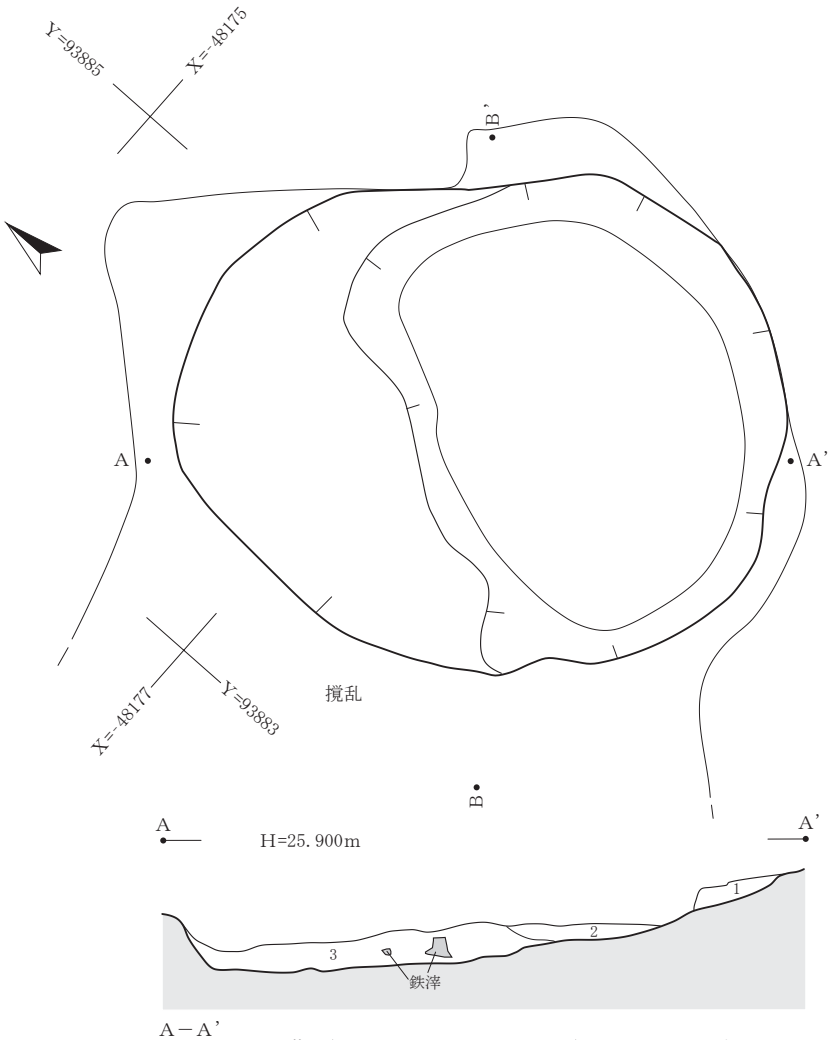
〔20号土坑〕

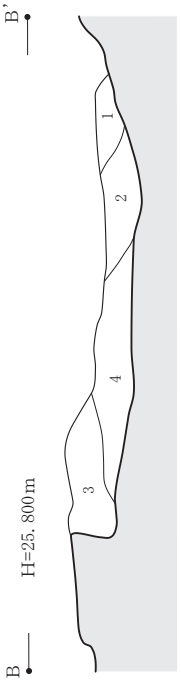




A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり強
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3～5%、暗褐色シルト(10YR3/4) 2～3%含む
5　10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり強
6　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性弱 しまり強

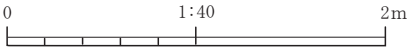
〔21号土坑〕





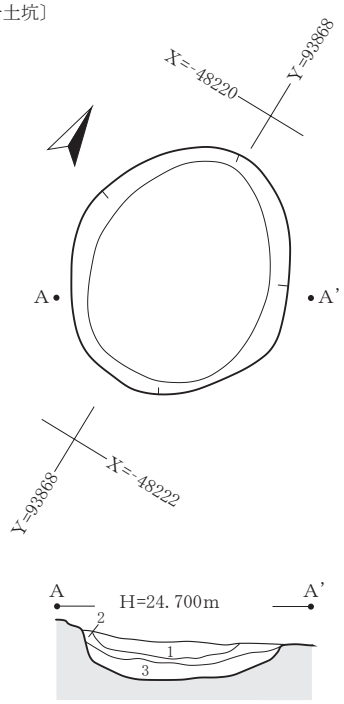
B－B'
1　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR6/6 明黄褐色シルト60%、10YR3/1 黒褐色シルト40%の混合土層 粘性弱 しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5%、鉄滓含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト90%、10YR3/1 黒褐色シルト10%の混合土層 粘性なし しまり中 鉄滓多量含む

A－A'
1　10YR6/6 明黄褐色シルト60%、10YR3/1 黒褐色シルト40%の混合土層 粘性弱 しまり中
2　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 鉄滓混入
3　10YR6/6 明黄褐色シルト90%、10YR3/1 黒褐色シルト10%の混合土層 粘性なし しまり中 鉄滓多量混入



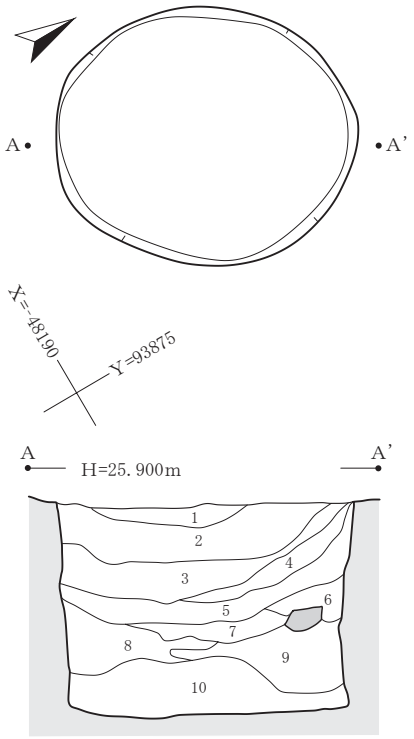
第117図　20・21号土坑

〔22号土坑〕



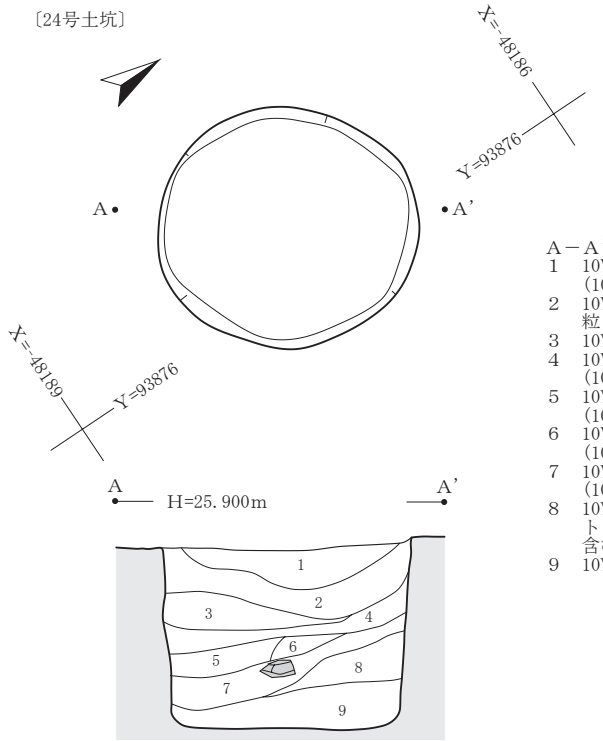
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 5％、径1㎝の炭化物1％未満含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8) 3％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径1㎝の炭化物25～30％、明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％未満含む

〔23号土坑〕

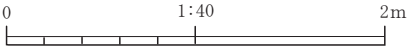


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト(10YR3/2) 1～2％含む
2　10YR2/1 黒色シルト60％、10YR3/2 黒褐色シルト40％の混合土層 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6) 1％含む
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)20～30％含む
4　10YR3/3～3/4 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 径10～20㎜の炭化物1％含む
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
6　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％、明赤褐色焼土粒(5YR5/8) 1％未満含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト50％、10YR6/6 明黄褐色シルト50％の混合土層 粘性・しまり強
9　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルトブロック(10YR6/6 径30㎜) 1％含む

〔24号土坑〕

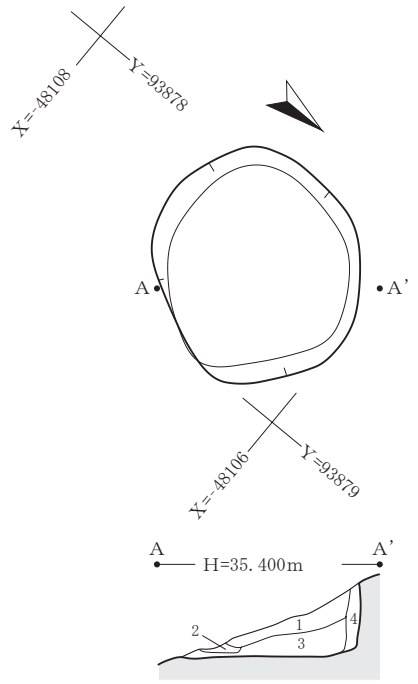


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径15～20㎜) 5～7％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径15～20㎜) 1～2％含む
3　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 Ⅵ層由来
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5～7％含む
5　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1) 3％含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2％含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2％含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 径7～10㎜) 1～2％、径5㎜の炭化物1％含む
9　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 Ⅵ層由来



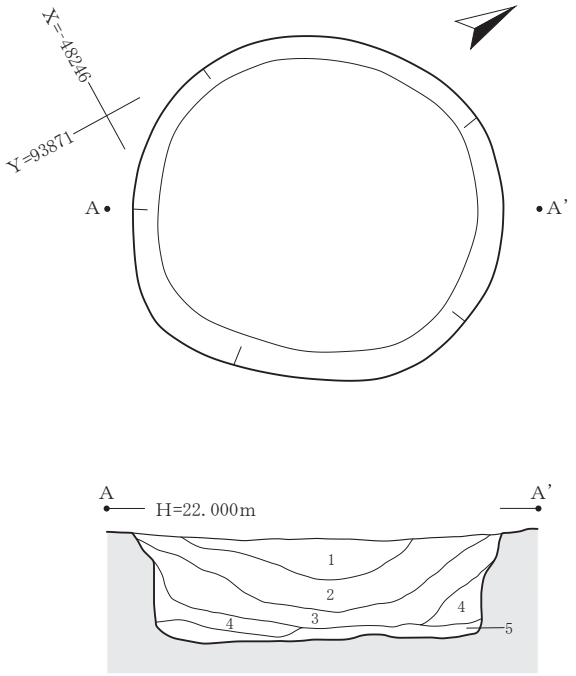
第118図　22～24号土坑

〔25号土坑〕



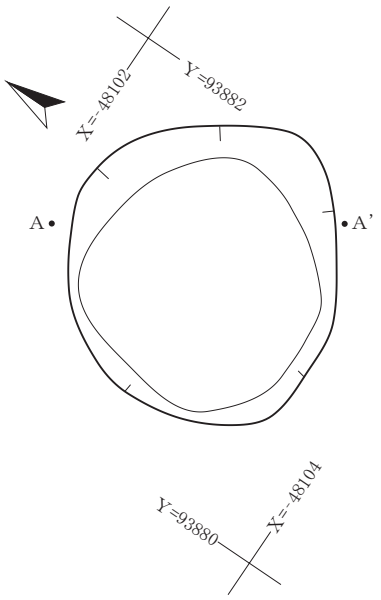
A－A'
1　10YR2/1 黒色粘土質シルト 粘性強 しまり弱 黒褐色シルトブロック(10YR2/3 径１～10㎜)10%含む
2　10YR2/1 黒色粘土質シルト 粘性弱 しまり強 明赤褐色焼土(５YR5/8)10%含む
3　10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまり弱 明赤褐色焼土(５YR5/8)斑状に20%含む
4　10YR2/1 黒色粘土質シルト 粘性強 しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/3)30%含む
※崩落層

〔26号土坑〕

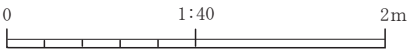


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)10%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) ５～７%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/4)10%、黄褐色シルト(10YR5/8) ３%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8)10～15%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8)10%含む

〔27号土坑〕

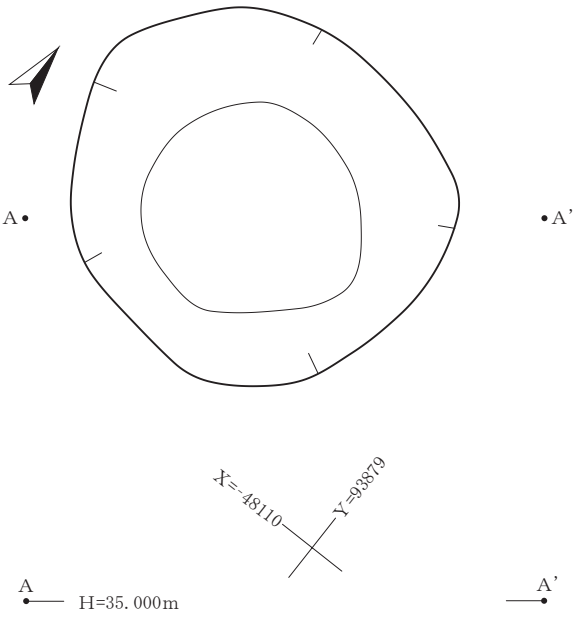


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 明赤褐色焼土粒(2.5YR 5/8 径１～３㎜) １%未満、黒色砂質シルト(10YR1.7/1)20%含む
2　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性・しまりなし 細粒礫７%、明黄褐色砂質シルト(10YR6/6)の小ブロック(径１～２㎝) １%未満、炭化物２%未満含む
3　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 細粒礫５%含む
4　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 細粒礫５%、暗褐色砂質シルトブロック(10YR3/3 径１㎝) ２%含む
5　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 細粒礫５%、灰白色の細粒２%、黒褐色砂質シルトブロック(10YR3/1 径５㎝) ３%含む
6　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 細粒礫２%、灰白色細粒２%含む
7　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)10%、径１～３㎜の細粒礫１%含む



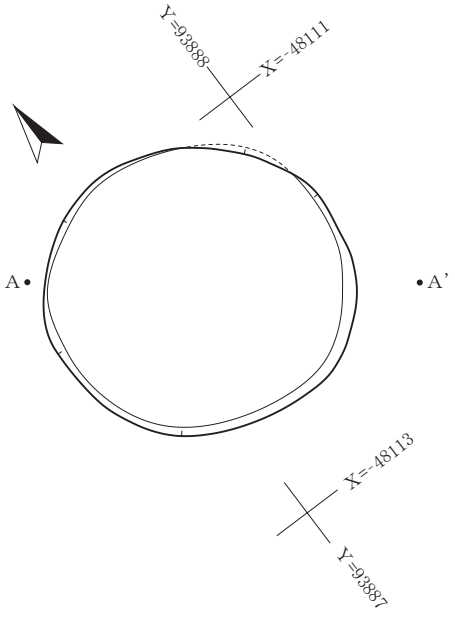
第119図　25～27号土坑

〔28号土坑〕



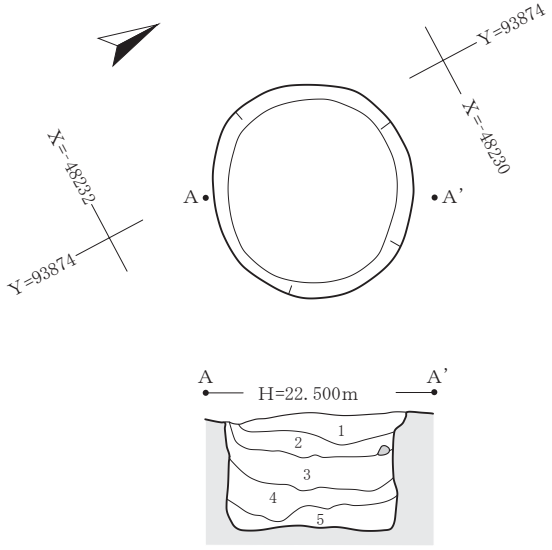
A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～５㎜の炭化物５％含む

〔29号土坑〕



A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)ブロックで２％、径10～15㎜の炭化物２％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
5　10YR2/2 黒褐色シルト やや砂質 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径３～５㎜) １～２％含む
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径３～５㎜) １％含む
7　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径３～５㎜) ２％含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径２～３㎜の風化花崗岩粒１％、明黄褐色シルト(10YR6/6) ２～３％含む
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)10%、明黄褐色シルト(10YR6/6) ５％含む
10　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) ３～５％含む
11　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強

〔30号土坑〕

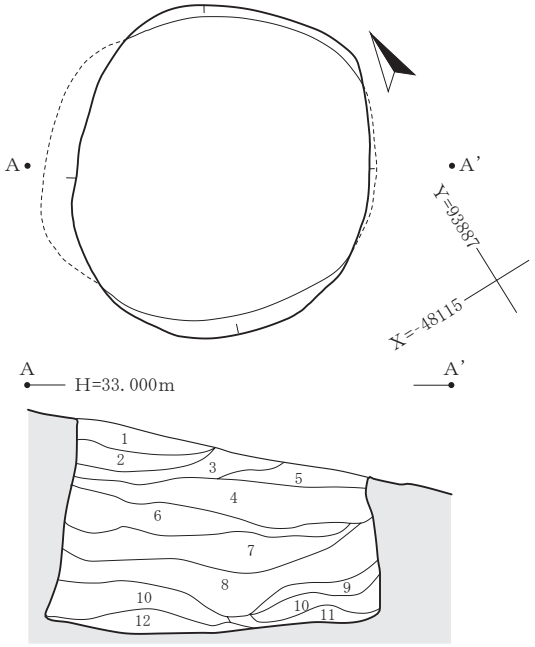


A－A’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) １％未満、黒色シルト(10YR2/1) １％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) １％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし 明黄褐色シルト(10YR6/8) １％含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし

0　1:40　2m

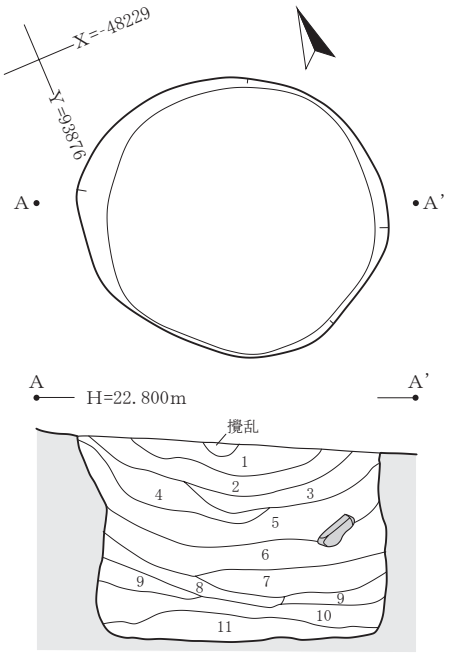
第120図　28～30号土坑

〔31号土坑〕

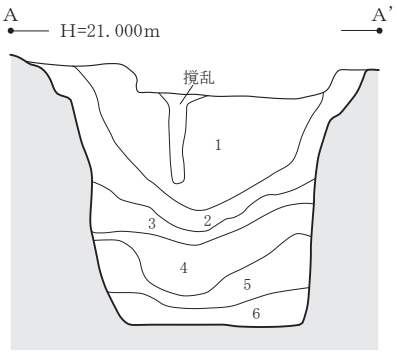


A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) １%、炭化物１%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト３%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明褐色焼土(7.5YR5/6) ２%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 径10㎜の炭化物１%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径７㎜の炭化物１%含む
6　10YR3/2 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性なし しまり強
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%ブロックで含む
9　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)30%含む
10　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1)10～15%含む
11　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1)10%含む
12　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) ５%含む

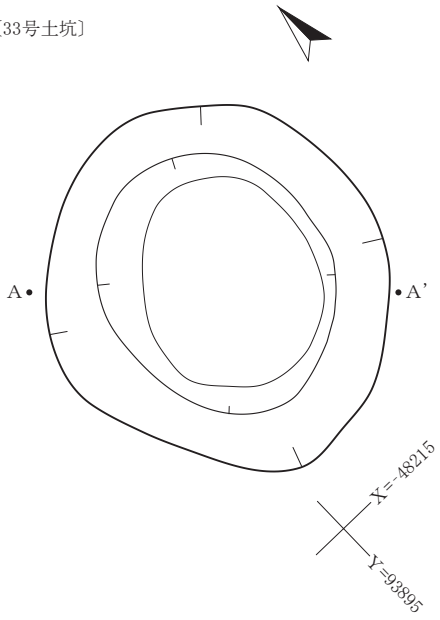
〔32号土坑〕



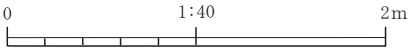
A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/6) １%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) １%未満、径１㎝の炭化物微量含む
3　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なし しまり中
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) １～２%、径１㎝の炭化物少量含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) ７～10%、径５㎜の炭化物少量含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)10～15%、径５㎜の炭化物微量含む
8　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明赤褐色焼土(５YR5/6) １%未満、明黄褐色シルト(10YR6/8) ３～５%、径１㎝の炭化物多量含む
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3) ３%含む
10　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) ２%、径５㎜弱の炭化物微量含む
11　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルトブロック(10YR6/8)斑状に７～10%含む



〔33号土坑〕

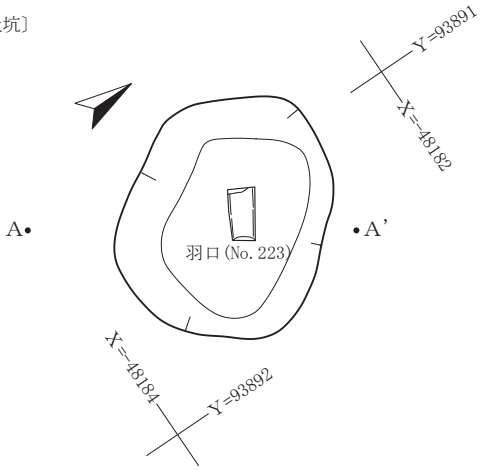


A－A’
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～２㎜の白色砂粒１～２%、径２～５㎜の黒褐色シルト粒(10YR2/3) ５～７%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径１～２㎜の黄褐色シルト(10YR5/6)20～30%、径２～３㎜の黒色シルト(10YR2/1) ３～５%含む
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 径１～２㎜の黒褐色シルト(10YR2/3)20～30%含む ※壁崩落土か？
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト粒(10YR2/2 径２～３㎜)10～15%、径３～５㎜の黄褐色シルト(10YR5/6)15～20%含む
5　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 径３～５㎜の黒褐色シルト(10YR2/3)10～15%、径２～３㎜の黒色シルト(10YR2/1) ２～３%含む
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 径３～５㎜の黄褐色シルト(10YR5/6)10～15%含む



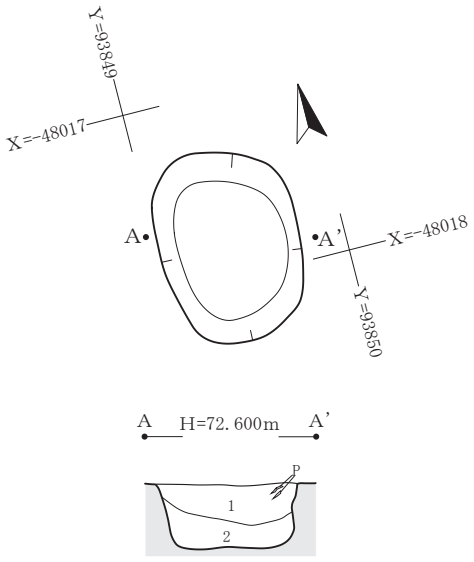
第121図　31～33号土坑

〔34号土坑〕



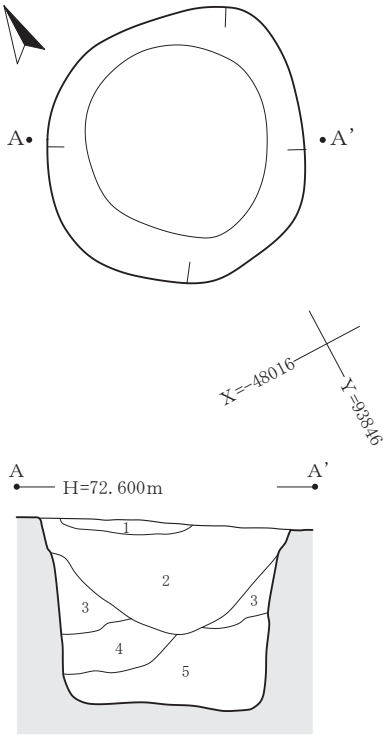
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト粒(10YR6/6) 3％含む
2　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト粒(10YR6/6) 1～2％含む
3　10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり強

〔35号土坑〕



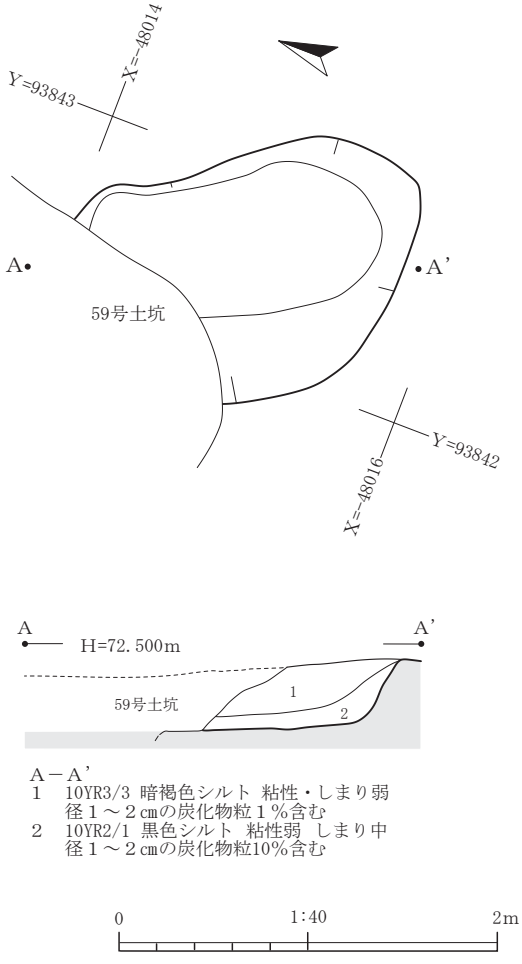
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～2㎜の炭化物粒1～2％含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱

〔36号土坑〕



A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 にぶい黄褐色シルト粒(10YR5/4 径2～5㎜)10%、径1～3㎜の炭化物粒3％含む
3　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 にぶい黄橙色シルト粒(10YR6/4 径2～3㎜)15%含む
4　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
5　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり強 褐色シルト(10YR 4/4 径3～5㎜)15%、明赤褐色シルト粒(5YR5/6 径2～3㎜) 10%、径1～3㎜の炭化物粒2％含む

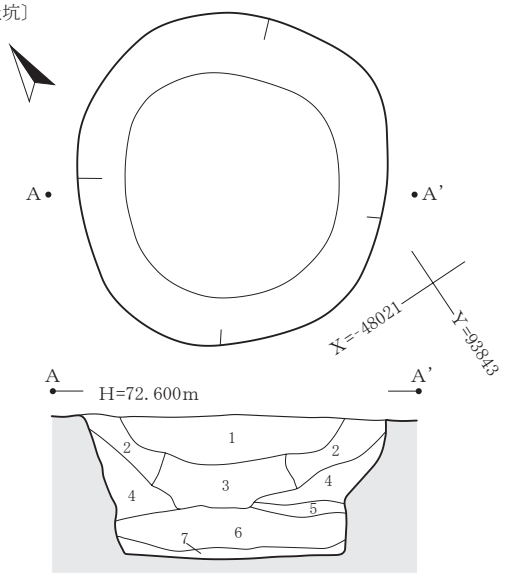
〔41号土坑〕



A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～2㎝の炭化物粒1％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 径1～2㎝の炭化物粒10%含む

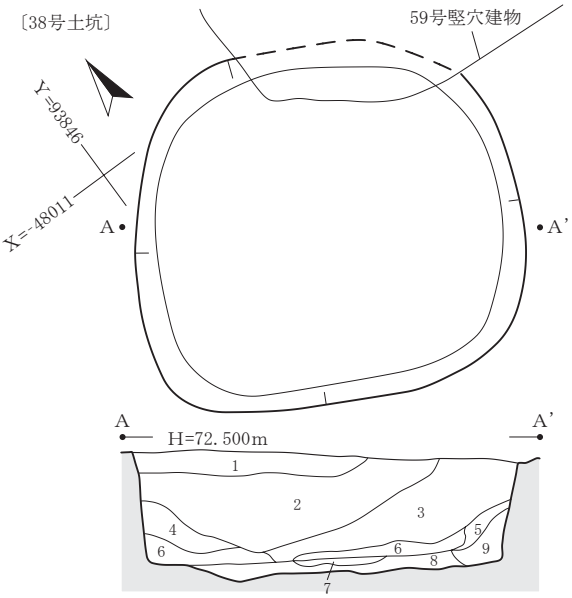
第122図　34～36・41号土坑

〔37号土坑〕



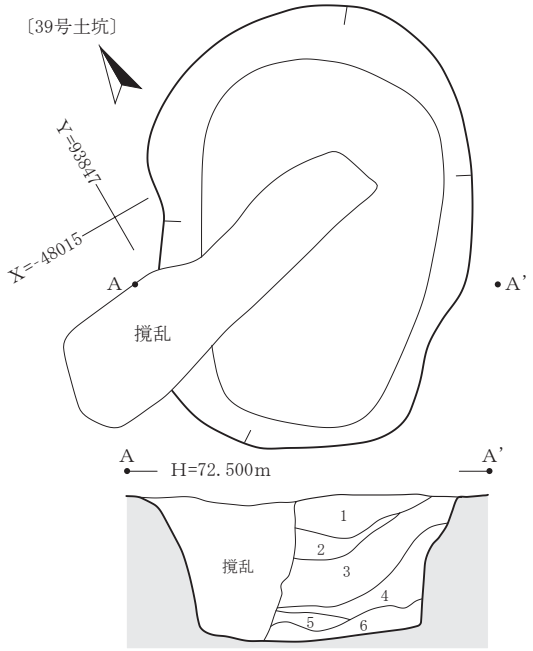
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 黒色シルト粒(10YR2/1 径１～２㎜)10%、径１～２㎜の風化花崗岩粒10～20%含む
2　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト粒(10YR2/3 径２～３㎜)10～15%、径１～３㎜の炭化物粒１%含む
3　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト粒(10YR2/3 径２～３㎜)15%、径３～４㎜の風化花崗岩粒15～20%、径１～２㎜の炭化物粒10%含む
4　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄橙色シルト(10YR7/4 径３～５㎜)10～15%、径１～２㎜の炭化物粒５%含む
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR5/3 径５㎜) ５～10%含む
6　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎜の炭化物粒１～２%、径３～５㎝の地山ブロック20～30%含む
7　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 径２～３㎜の地山ブロック ５～10%、径１～３㎜の炭化物粒１～２%含む

〔38号土坑〕



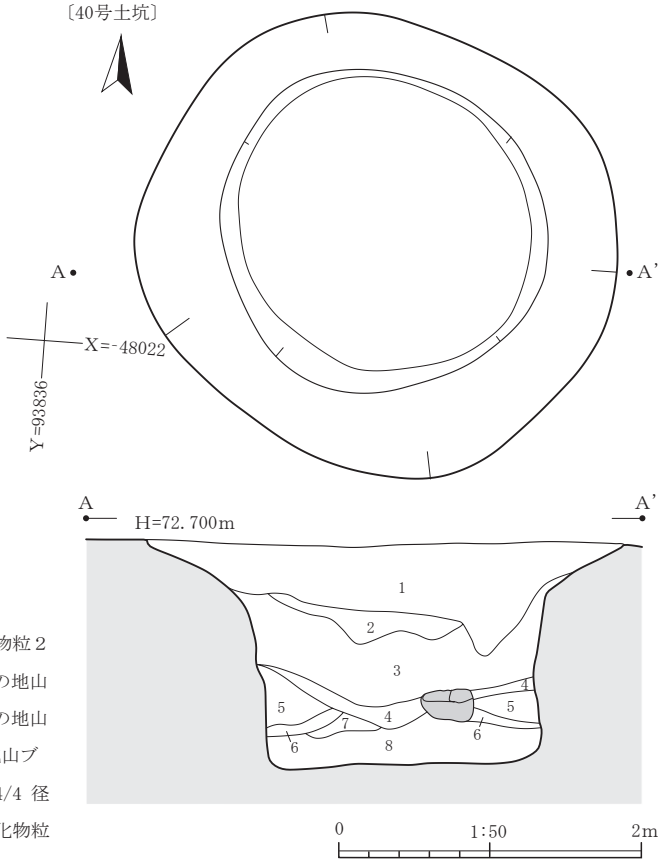
A－A'
1　10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり弱 黄色シルト粒(2.5Y8/6 径３～５㎜) １%、径１～２㎜の炭化物粒１%含む
2　５YR4/4 にぶい赤褐色シルト 粘性中 しまり強 褐色シルト粒(10YR4/6 径３～５㎜)15%、径５～10㎜の地山ブロック30%含む
3　５YR4/4 にぶい赤褐色シルト 粘性・しまり強 明赤褐色シルト(５YR5/6 径２～３㎜)10%、径１～３㎜の炭化物粒２%含む
4　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまりなし 径５㎝の地山ブロック15%含む
5　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり中
6　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱
7　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中
8　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性強 しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3 径２～３㎜) ５%、径１～２㎜の風化花崗岩粒10%含む
9　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性弱 しまり中 径３～５㎝の地山ブロック20%含む

〔39号土坑〕



A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎜の炭化物粒２%含む
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 径２～３㎝の地山ブロック15%含む
3　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり強 径３～５㎝の地山ブロック２%、径３㎝の炭化物粒１%含む
4　10YR8/4 浅黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 径３～４㎝の地山ブロック15%含む
5　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/4 径１㎝) ５%、径１～２㎜の炭化物粒10%含む
6　10YR8/4 浅黄橙色シルト 粘性・しまり強 径２～３㎜の炭化物粒３%含む

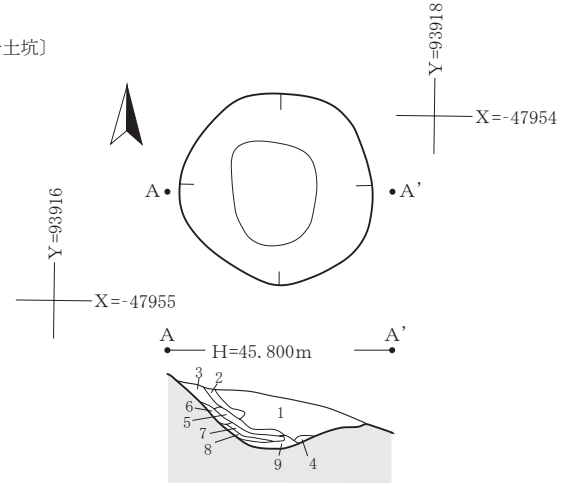
〔40号土坑〕



第123図　37～40号土坑

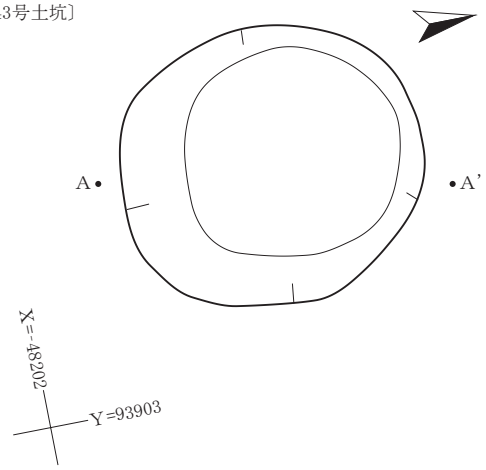
40号土坑
A－A’
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎜の炭化物粒５％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルトブロック(10YR3/3 径３～５㎝)10%、径１～２㎝の地山ブロック10%含む
3　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 径２～３㎝の炭化物粒１%含む
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 にぶい黄橙色シルト粒(10YR6/4 径２～３㎝)10%、径１～２㎝の炭化物粒10%含む
5　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまり中 径２～３㎝の地山ブロック15%含む
6　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎝の炭化物粒１～２%含む
7　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱
8　10YR4/4 褐色シルト 粘性強 しまり中 径１～２㎜の炭化物粒１%含む

〔42号土坑〕



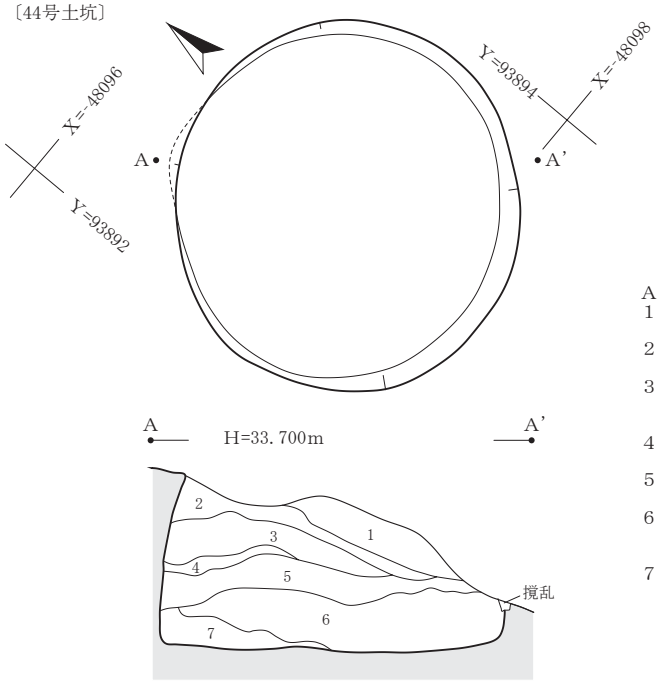
A－A’
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物微量含む
2　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/1)が斑状に50%混じる
3　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/1)40%混じる
4　2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なし しまり弱 ブロック状に混入
5　10YR3/1 黒褐色シルト70%、10YR7/2 にぶい黄橙色シルト30%の混合土層 粘性なし しまり弱
6　10YR7/2 にぶい黄橙色シルト 粘性なし しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/1)５%混入
7　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
8　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 炭化している
9　5YR4/6 赤褐色シルト 粘性・しまり弱

〔43号土坑〕

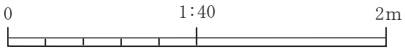


A－A’
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) １～２%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) ５%含む
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) ３%含む
8　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
10　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
11　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強
12　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
13　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
14　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中

〔44号土坑〕

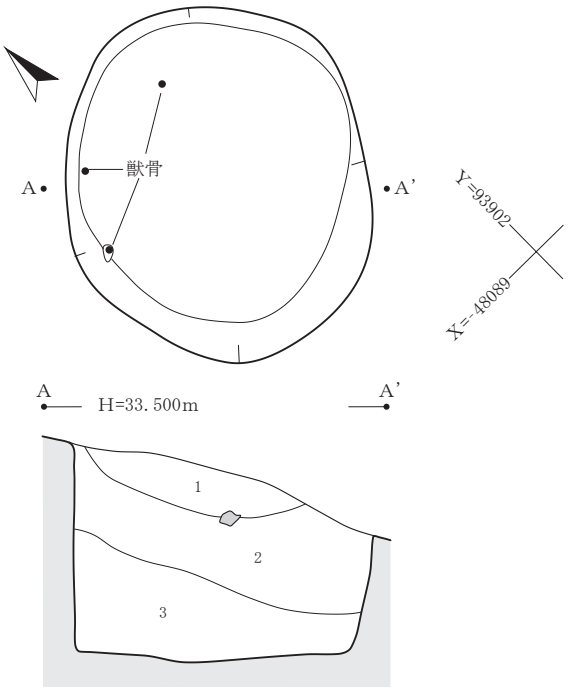


A－A’
1　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３%、焼土粒１%未満、径１㎜未満の細粒礫５%含む
2　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２%、褐色砂質シルトブロック２%、細粒礫５%含む
3　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黒色砂質シルトブロック２%、暗褐色砂質シルトブロック２%、細粒礫５%含む
4　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２%、径１㎜未満の細粒礫２%混じる
5　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径１㎜未満の細粒礫５%、径３㎝大の亜円礫も１%混じる
6　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黒色砂質シルト(10YR2/1)が帯状に２ヶ所堆積、暗褐色砂質シルト(10YR3/3)の小ブロック１%、細粒礫５%含む
7　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 中位に黒色砂質シルト(10YR2/1)が帯状に堆積、細粒礫５%含む



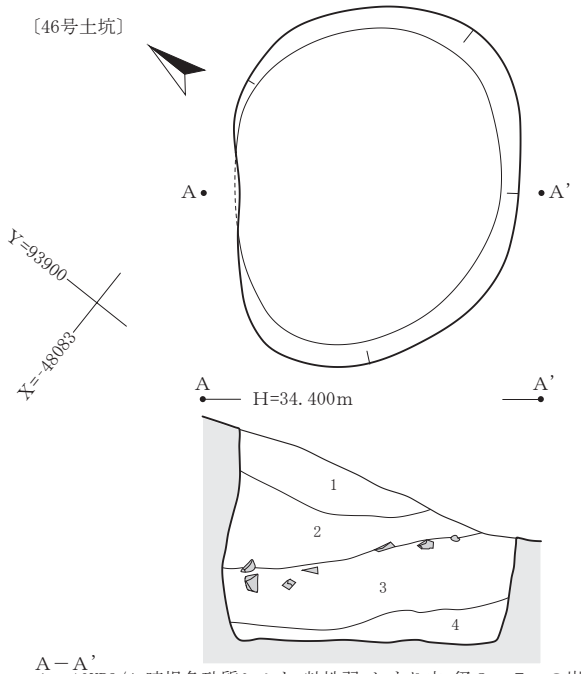
第124図　42～44号土坑

〔45号土坑〕



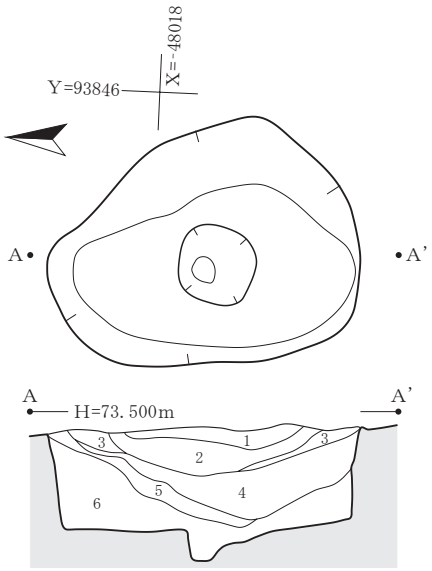
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱・しまり中 径２～５㎜の炭化物５％混じる
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性弱・しまり中 一部で暗褐色シルト(10YR3/4)との互層 径３～７㎜の炭化物５％混じる
3　5YR4/3 にぶい赤褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)と同(10YR3/3)との互層 一部でにぶい赤褐色(5YR4/3)との互層 径２～５㎜の炭化物５％混じる

〔46号土坑〕



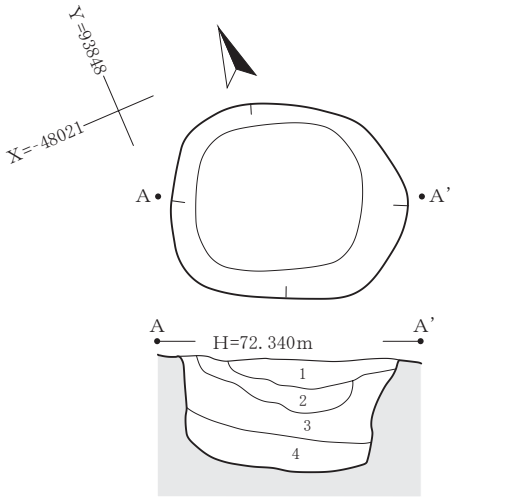
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 径２～７㎜の炭化物３％、小～中角礫20％混入
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)にブロック状に褐色シルト(10YR4/4)10％、小～中角礫が20％、径２～７㎜の炭化物２～５％混入
3　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルトと互層 褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に５％混じる 径２～７㎜の炭化物２～５％含む 小～中角礫10％混じり、平面的に広がる
4　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)がブロック状に20％混じる

〔47号土坑〕

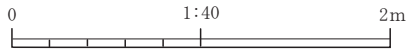


A－A'
1　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR3/2 径１～２㎜) ２％含む
2　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性・しまりなし にぶい黄褐色シルト(10YR5/3 径２～３㎜)10％含む
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径１～２㎝)10％含む
4　10YR8/4 浅黄橙色シルト 粘性・しまりなし 暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径１～２㎝) ５％含む
5　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 にぶい黄褐色シルト粒(10YR5/3 径２～３㎜) ５％含む
6　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性・しまり中

〔48号土坑〕

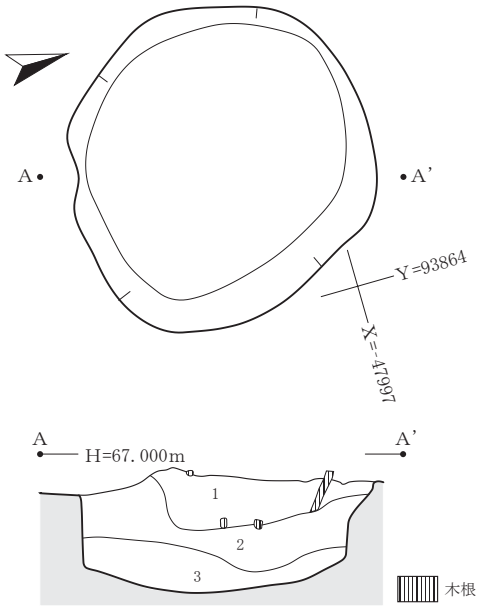


A－A'
1　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト粒(10YR3/4 径１～２㎝)10％、径１～２㎜の炭化物粒１％含む
2　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性・しまりなし 暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径２～３㎝) 15％含む
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 橙色シルト粒(5YR6/6 径２～３㎝) ５％、径２～３㎝の炭化物粒10％含む
4　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 径２～３㎝の炭化物粒２％含む



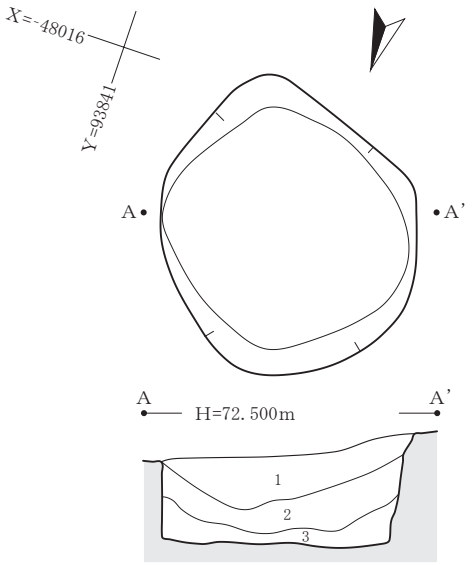
第125図　45～48号土坑

〔49号土坑〕



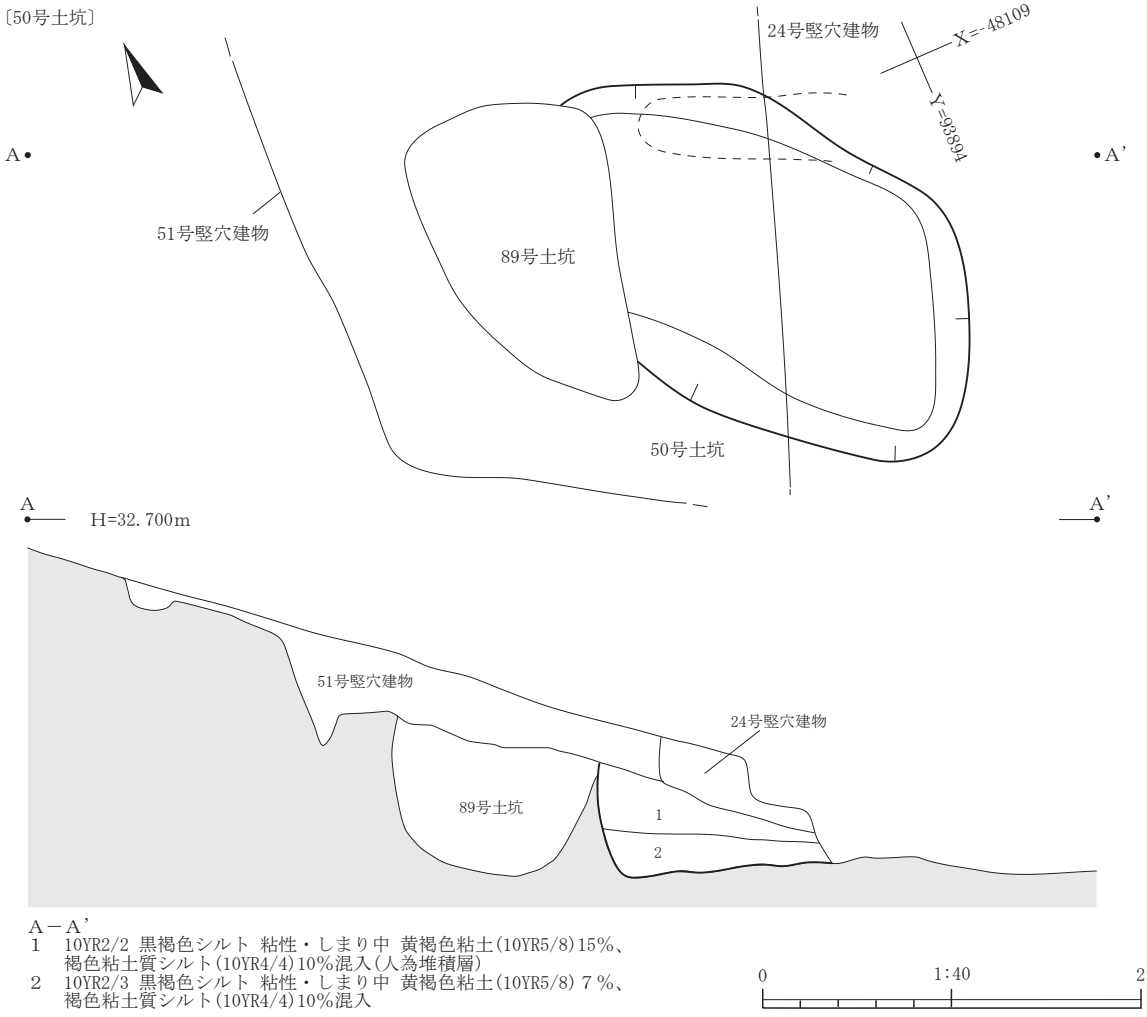
A－A'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 径１～２㎜の炭化物粒５％、径１㎝の地山粒10％含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり強 径１～２㎜の炭化粒１％、径２～５㎜の地山ブロック30％含む
3　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト粒(10YR3/3 径３～５㎝) ５％含む

〔52号土坑〕



A－A'
1　2.5Y6/2 灰黄色シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色シルトブロック(10YR3/1 径３～５㎝)20％、炭化物１％含む
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり中 浅黄橙色シルトブロック(10YR8/3) １％含む
3　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒３％を全体的に含む

〔50号土坑〕

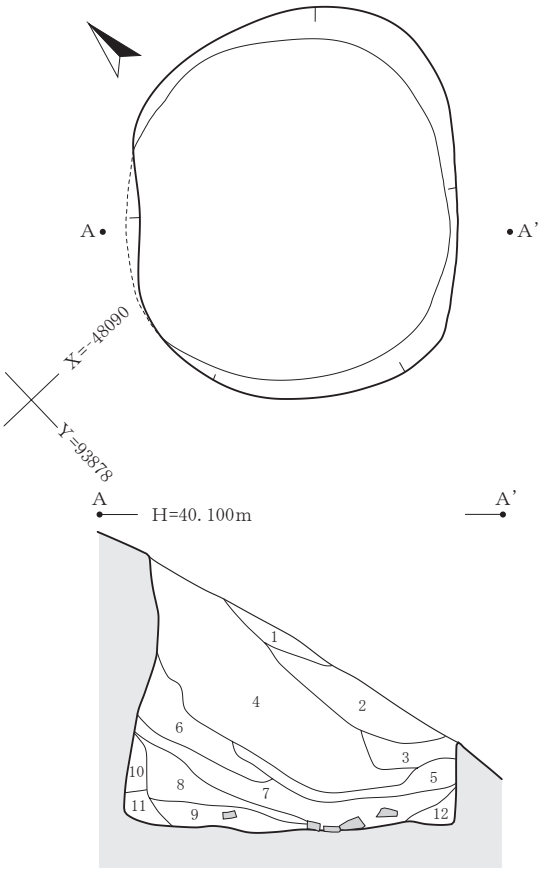


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色粘土(10YR5/8)15％、褐色粘土質シルト(10YR4/4)10％混入(人為堆積層)
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色粘土(10YR5/8) ７％、褐色粘土質シルト(10YR4/4)10％混入

0　1:40　2m

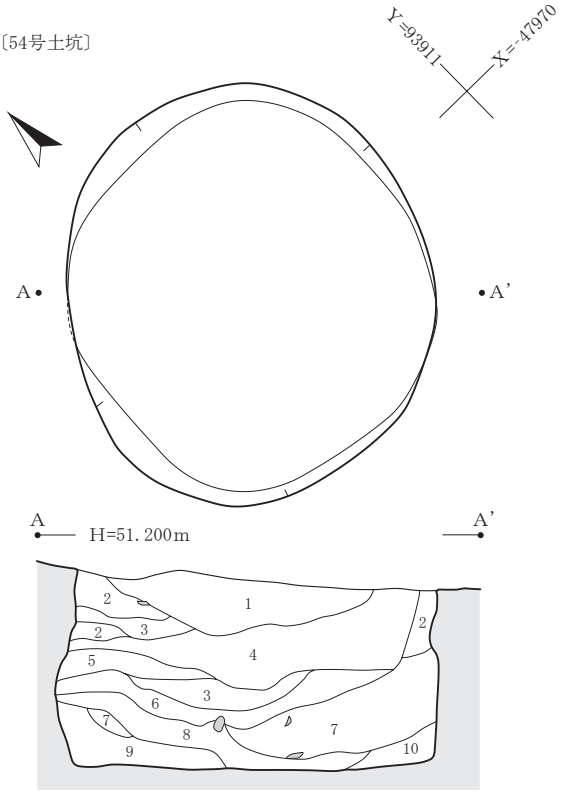
第126図　49・50・52号土坑

〔51号土坑〕



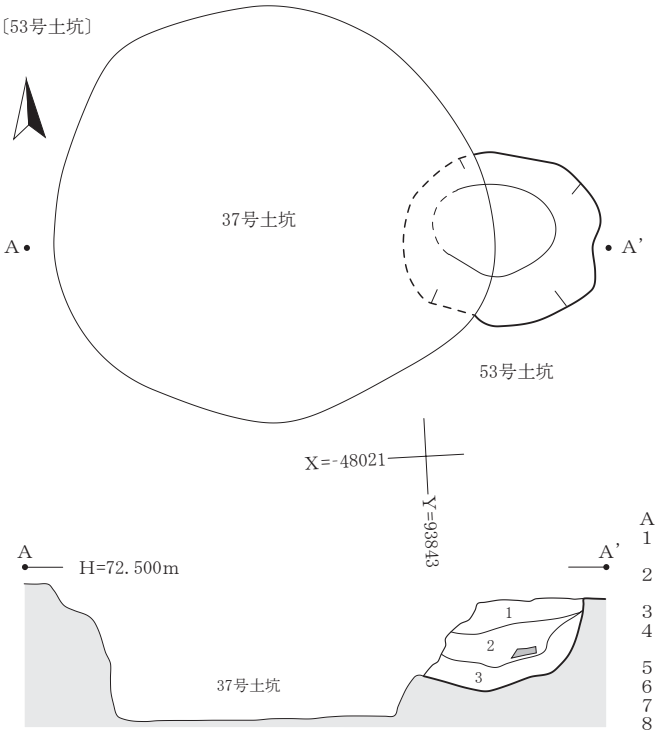
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２%、径３～10㎜の風化花崗岩粒７%含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径10㎜未満の風化花崗岩粒50%含む
3　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３%、径５㎜の風化花崗岩粒７%含む
4　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３～５%、径10㎜大の風化花崗岩粒10%含む
5　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物１%、風化花崗岩粒３%含む
6　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２%、風化花崗岩粒５%含む
7　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径１～２㎝の炭化物５%、径５㎜の風化花崗岩粒７%含む
8　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黒色砂質シルトブロック(径３～４㎝)が層の中位に７%混じる 風化花崗岩粒５%含む
9　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 径３～10㎜の風化花崗岩粒７%含む
10　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 風化花崗岩粒３%含む
11　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 風化花崗岩粒１%未満含む
12　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物３%、径５㎜の風化花崗岩粒５%含む

〔54号土坑〕



A－A'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 径２～５㎝の角礫１%含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物微量含む
3　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性なし しまり中
4　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性なし しまり中 径１㎝未満の角礫５%含む
5　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 砂粒５%含む
6　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
7　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物混入
8　10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性なし しまり中
9　10YR7/4 にぶい黄橙色砂 粘性なし しまり中 地山崩落土
10　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 砂粒５%混入

〔53号土坑〕

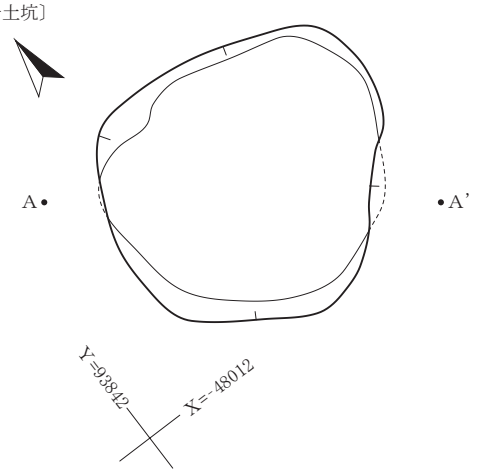


A－A'
1　2.5Y7/3 浅黄色シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１㎝)で10%含む
2　2.5Y3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 浅黄色シルトブロック(2.5Y7/3)30%含む
3　2.5Y6/2 灰黄色シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１㎝未満)で２%含む

0　1:40　2m

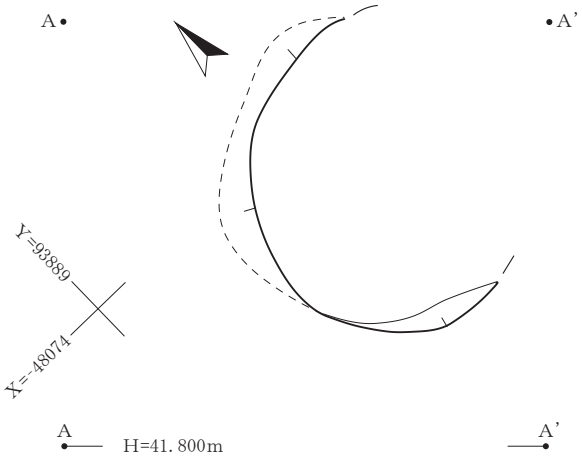
第127図　51・53・54号土坑

〔55号土坑〕



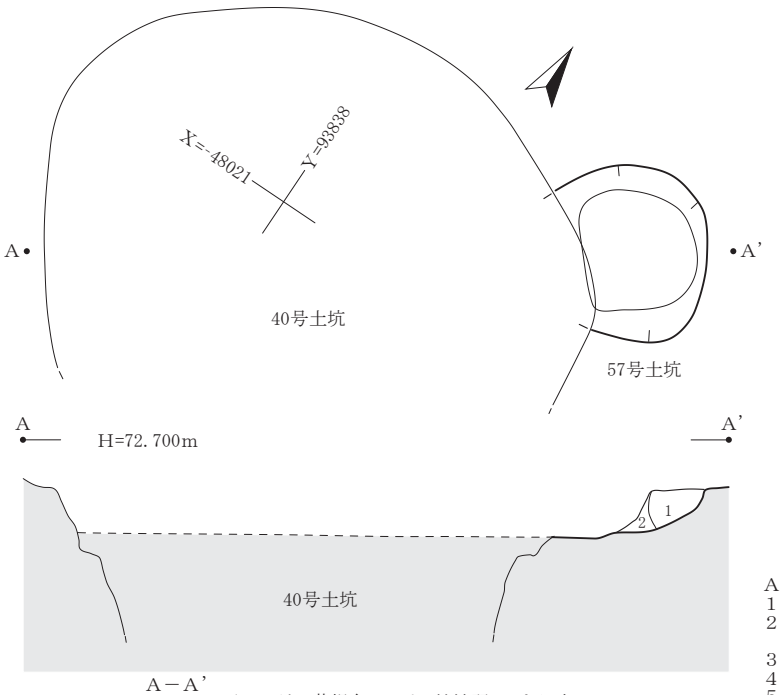
A－A'
1　2.5Y7/4 浅黄色シルト 粘性・しまり中 上位に黒褐色シルト(2.5Y3/1)がブロックで混入
2　2.5Y6/4 にぶい黄色シルト 粘性・しまり中 径２～３㎝の風化花崗岩粒ブロックを３％含む
3　2.5Y8/3 淡黄色シルト 粘性中 しまり弱 風化花崗岩粒主体で炭化物１％含む
4　2.5Y6/2 灰黄色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物２％、径10～15㎝の角礫１％含む

〔56号土坑〕



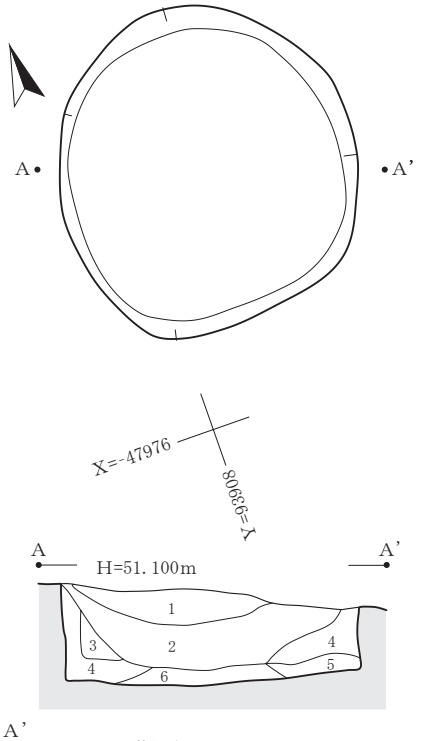
A－A'
1　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性中 しまりなし

〔57号土坑〕



A－A'
1　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色シルト粒(10YR5/4 径１～２㎝) ５％含む

〔58号土坑〕

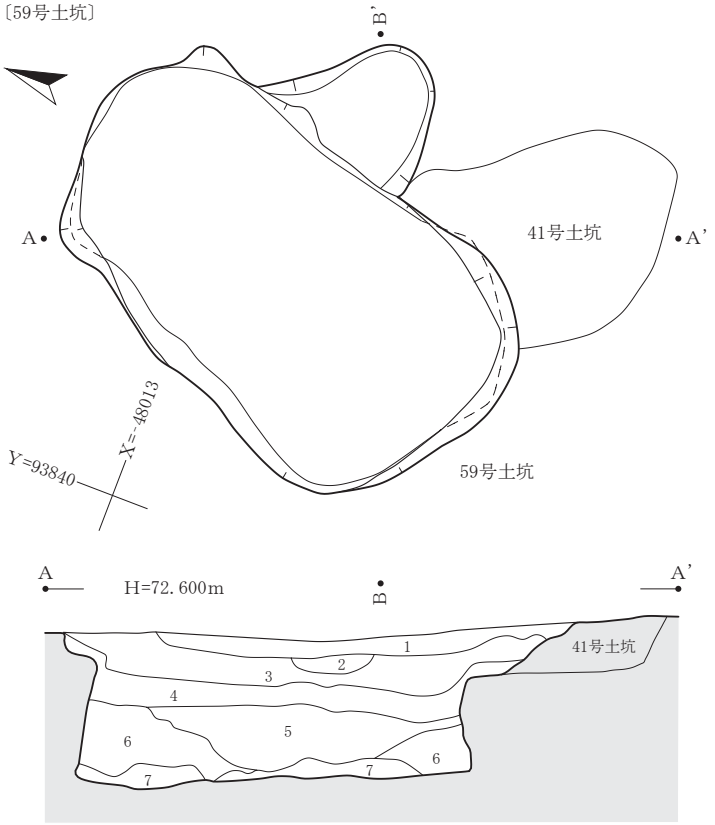


A－A'
1　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性なし しまり弱
2　10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 灰白色風化花崗岩粒(10YR8/2) ５％含む
3　10YR7/2 にぶい黄橙色(風化花崗岩ブロック)
4　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり弱
5　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 粘性なし しまり弱
6　10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性なし しまり弱

0　1:40　2m

第128図　55～58号土坑

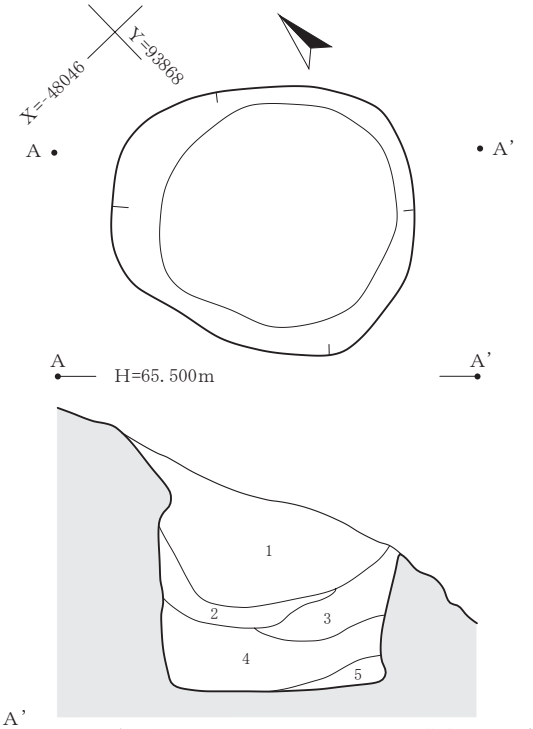
〔59号土坑〕



A－A、B－B'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎝の炭化物粒１％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 地山ブロック10％含む
4　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト粒(10YR2/2 径１～２㎝)10～15％含む
5　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径１～２㎝)５％、径10㎜の炭化物粒１～２％含む
6　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)ブロックで５％含む
7　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中・しまり強 径１～２㎝の炭化物粒１～２％含む

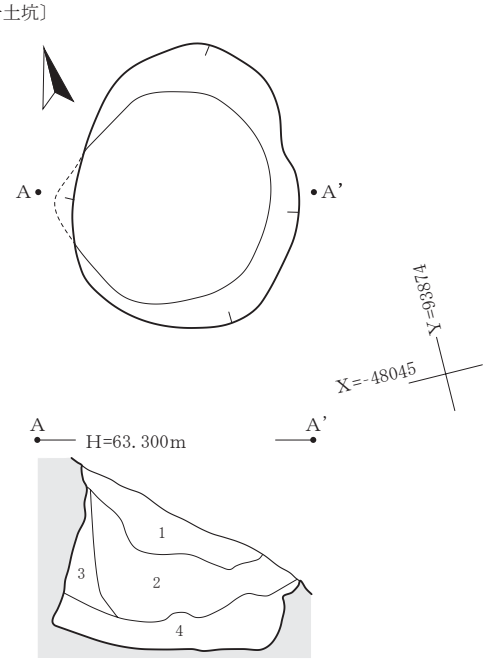
0　1:50　2m

〔60号土坑〕



A－A'
1　10YR4/1 褐灰色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１㎝)で７％含む
2　10YR8/2 灰白色砂質シルト 粘性中 しまり弱 風化花崗岩粒を散在的に５％、炭化物３％含む
3　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1)を帯状、炭化物１％含む
4　10YR7/3 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性中 しまり弱 風化花崗岩粒を５％含む
5　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒を１％含む

〔61号土坑〕

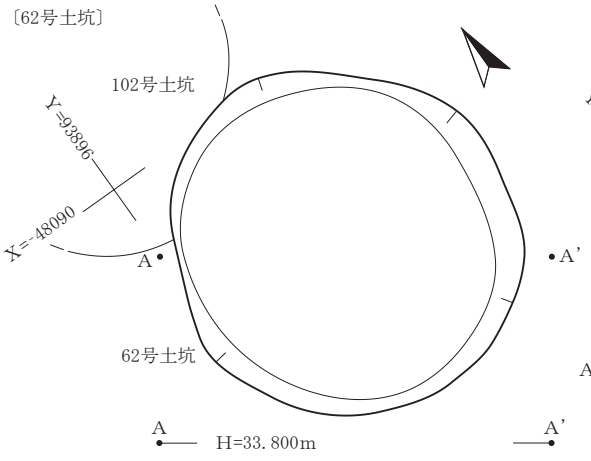


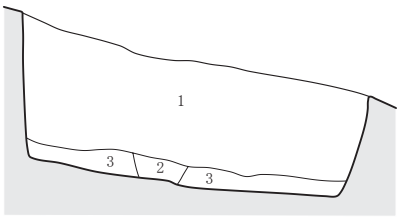
A－A'
1　2.5Y3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 炭化物１％含む
2　2.5Y4/1 黄灰色シルト 粘性中 しまり弱 風化花崗岩粒をブロック(径10㎝)で20％含む
3　2.5Y7/3 浅黄色シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒を全体的に３％含む
4　2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト 粘性・しまり弱 径20㎝の風化花崗岩粒と黒褐色シルト(2.5Y3/1 径20㎝)をブロックで各10％含む

0　1:40　2m

第129図　59～61号土坑

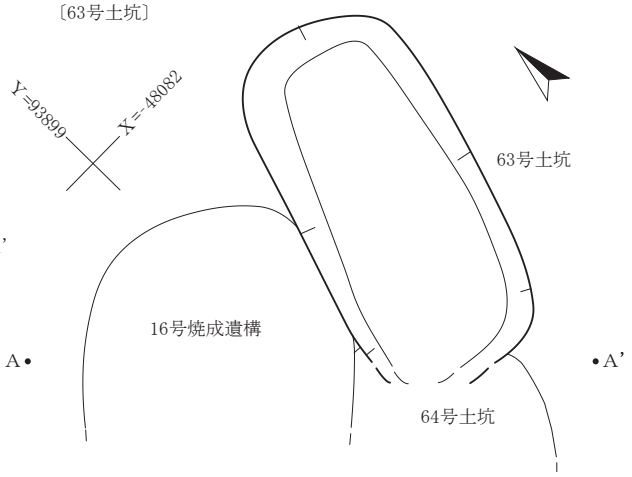
〔62号土坑〕

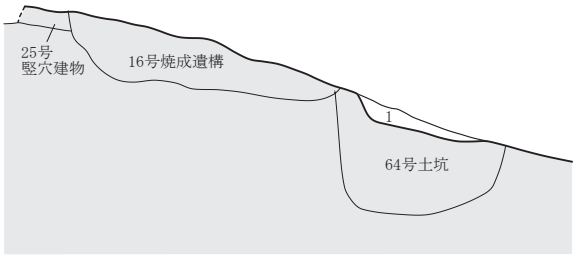




A－A'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)が径10㎜のブロック状に５％、径２～５㎜の炭化物５％混じる
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)が径30㎜のブロック状に10％、径２～５㎜の炭化物５％混じる
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)に暗褐色砂質シルトがブロック状に10％、径２～５㎜の炭化物５％混じる

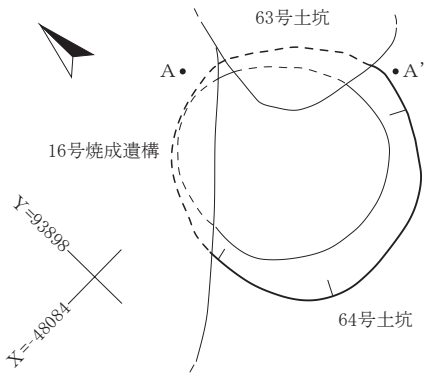
〔63号土坑〕

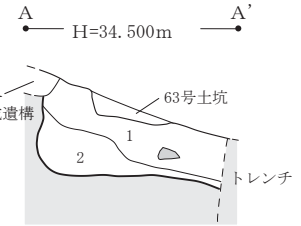




A－A'
1　5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 径２～５㎜の炭化物10％、径５～10㎜の焼土ブロック20％含む

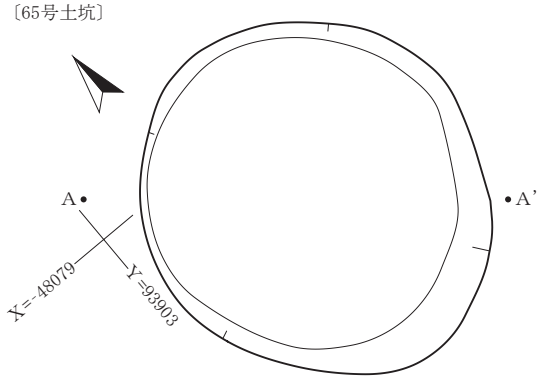
〔64号土坑〕

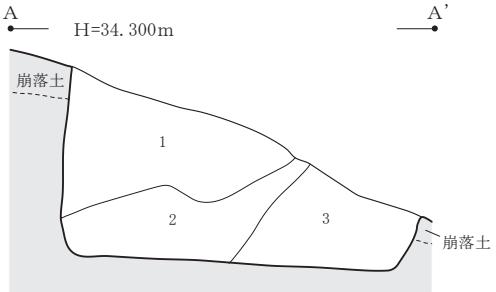




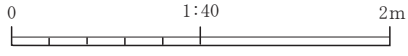
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 径２～７㎜の炭化物３％、小～中の角礫20％混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)に褐色砂質シルト(10YR4/4)がブロック状に10％、径２～７㎜の炭化物５％、小～中の角礫20％混じる

〔65号土坑〕



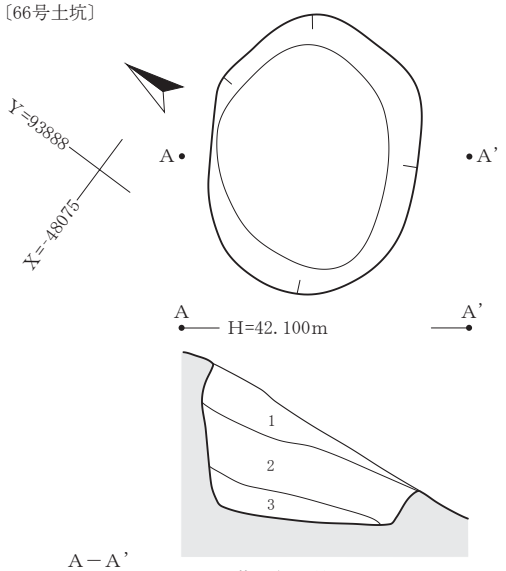


A－A'
1　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐灰色砂質シルト(10YR4/1)・暗褐色砂質シルト(10YR3/3)・褐色砂質シルト(10YR4/4)の互層
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)と暗褐色砂質シルト(10YR3/4)の互層
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)と褐色砂質シルト(10YR4/4)の互層



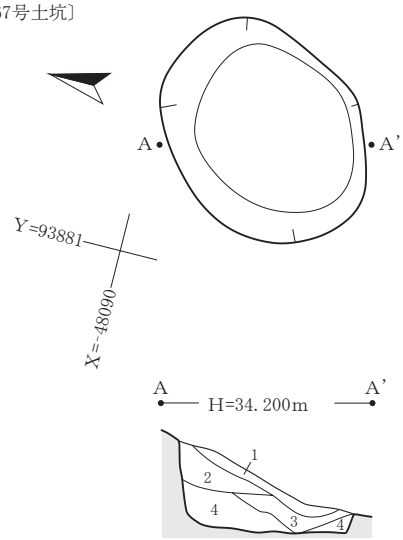
第130図　62～65号土坑

〔66号土坑〕



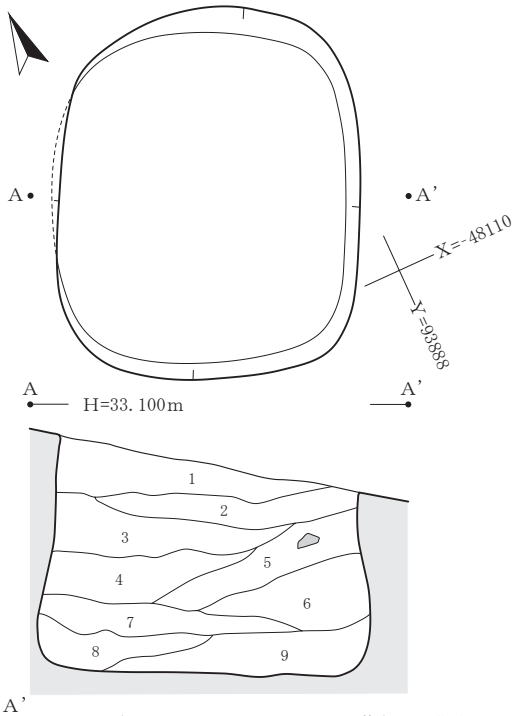
A－A'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 褐色砂質粘土(10YR4/4) 3％混入(※人為堆積か？)
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト(10YR4/4)15%混入 (※黒色土と褐色砂質シルトの互層気味 人為堆積か？)
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 (※自然堆積層と促えられる)

〔67号土坑〕



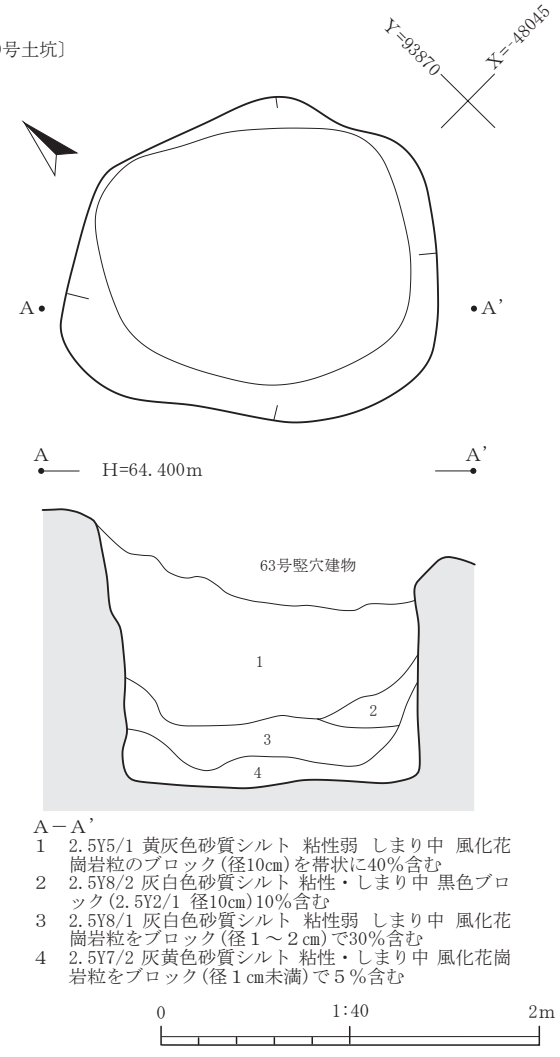
A－A'
1　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物２％、細粒礫７％、焼土粒１％混じる
2　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 細粒礫７％、暗褐色砂質シルトブロック(10YR3/3 径１cm未満) ２％含む
3　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色砂質シルトブロック(10YR3/3 径１cm未満) ２％、細粒礫５％、径１～２cmの円礫１％未満含む
4　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色砂質シルトブロック(10YR3/3 径１cm未満) ５％、炭化物２％含む

〔68号土坑〕



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 浅黄色風化花崗岩粒(2.5Y 7/4) ３％含む
2　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)10％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8) 7～10%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物１%、にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) ３％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黒色シルト(10YR2/1) １％、明黄褐色シルト(10YR6/8) １％含む
6　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) ３％含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 炭化物微量、明黄褐色シルト(10YR6/8) ２％含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR5/8 黄褐色シルト30%の混合土層 粘性なし しまり中
9　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり強

〔69号土坑〕

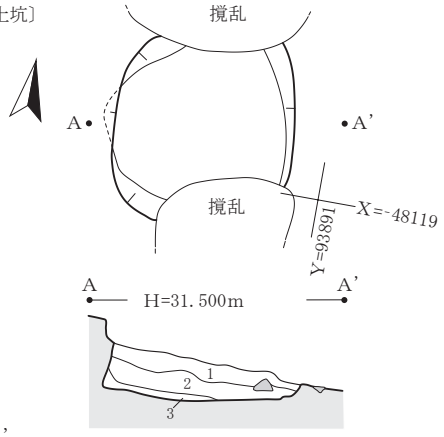


A－A'
1　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒のブロック(径10cm)を帯状に40%含む
2　2.5Y8/2 灰白色砂質シルト 粘性・しまり中 黒色ブロック(2.5Y2/1 径10cm)10%含む
3　2.5Y8/1 灰白色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１～２cm)で30%含む
4　2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１cm未満)で５%含む

0　1:40　2m

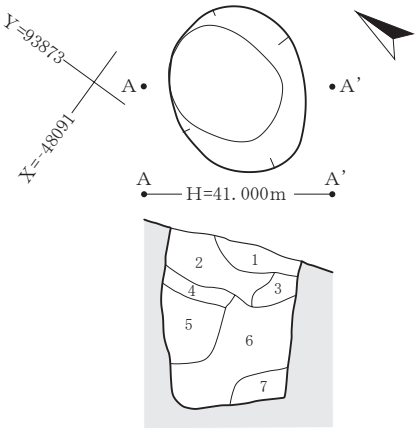
第131図　66～69号土坑

〔70号土坑〕



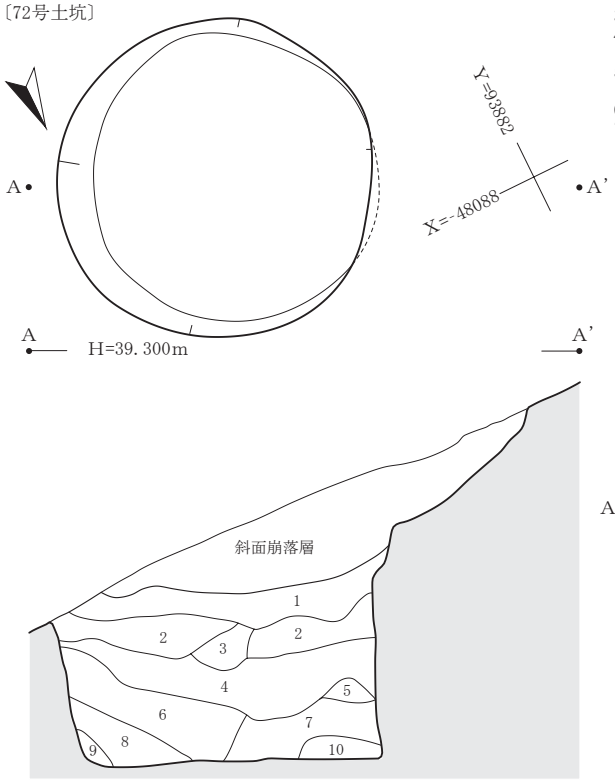
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径５㎜の炭化物１％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径５～10㎜の炭化物10～15％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中

〔71号土坑〕



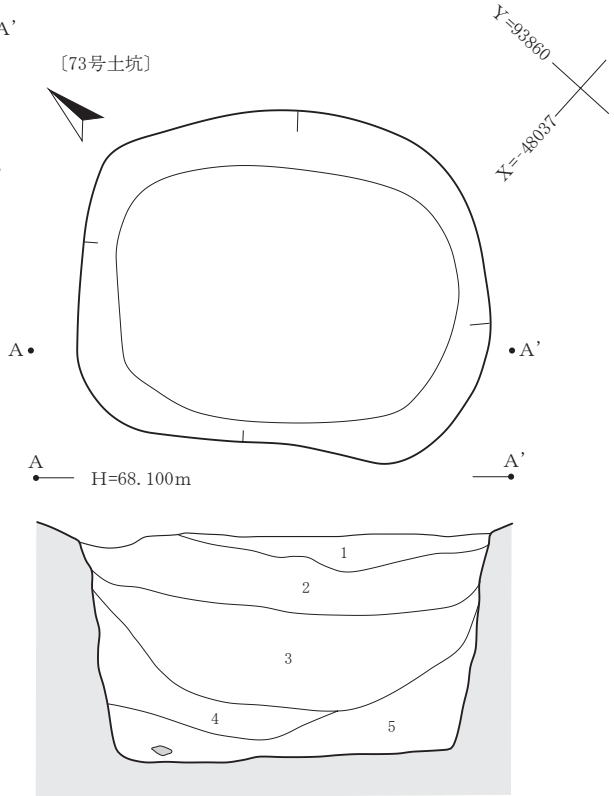
A－A'
1　10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性中 しまりなし 炭化物２％、暗褐色砂質シルトブロック(10YR3/4 径３～４㎝) ３％、灰白色細粒３％含む
2　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黒色砂質シルトブロック(10YR2/1 径１㎝大) １％、暗褐色砂質シルトブロック(10YR3/4 径１～２㎝)15％、灰白色細粒１％含む
3　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 炭化物１％含む
4　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色細粒１％含む
5　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)をブロックで７％含む
6　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色細粒３％含む
7　10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性中 しまりなし 灰白色細粒３％含む

〔72号土坑〕



A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルトブロック(10YR4/6 径３～５㎝) ５％含む
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルトブロック(10YR4/6 径３～５㎝)10％、黒色砂質シルトブロック(10YR2/1 径５×10㎝)15～20％の混合土層 灰白色細粒・小円礫各２％混入 人為的な堆積
3　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルト粒(10YR4/6 径１㎝) ５％、黒色砂質シルト(10YR2/1)15～20％、小円礫10％含む
4　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色シルトブロック(10YR4/6 径３～４㎝) ５％、黒色砂質シルト(10YR2/1) ３％、小円礫10％含む
5　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 下位に暗褐色砂質シルト(10YR3/4)を帯状に３％含む
6　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルトブロック(10YR4/6 径１㎝) ３％、黒色砂質シルトブロック(10YR2/1 径２×５㎝) ７％、小円礫10％含む
7　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 炭化物２％、黒褐色砂質シルトブロック(10YR3/2 径３～５㎝) ７％含む
8　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルトブロック(10YR4/6 径３㎝)15％含む
9　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 小円礫７％含む
10　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 暗褐色砂質シルトブロック(10YR3/4 径２～３㎝) ７％含む

〔73号土坑〕

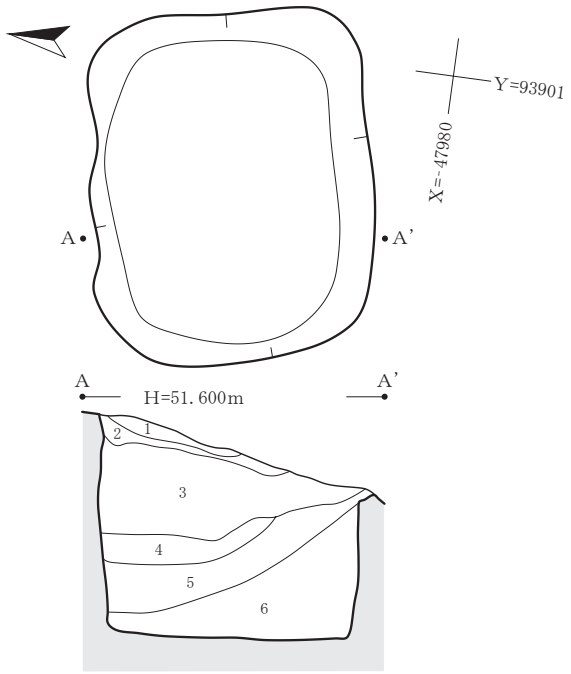


A－A'
1　10YR7/2 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径５㎝)で10％含む
2　10YR8/2 灰白色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１～２㎝)で30％含む
3　10YR8/3 浅黄橙色砂質シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１㎝未満)で３％含む
4　10YR8/4 浅黄橙色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径２～３㎝)で１％、炭化物１％未満含む
5　10YR7/2 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒をブロック(径１㎝未満)で１％含む

0　1:40　2m

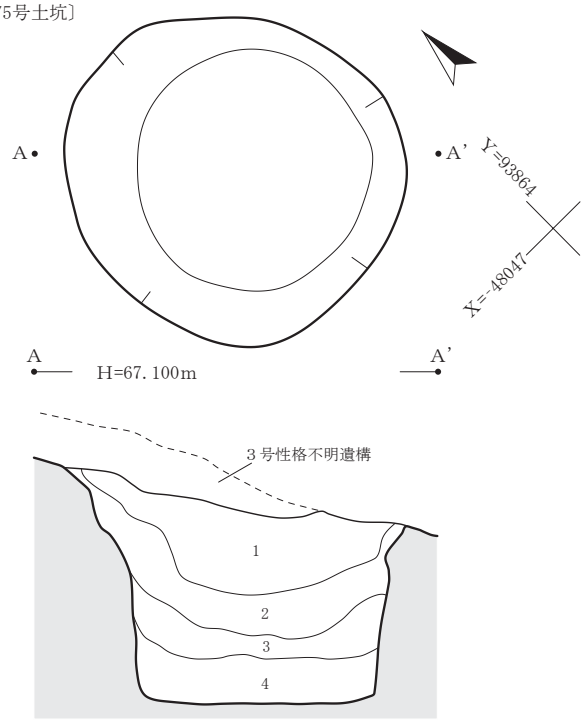
第132図　70～73号土坑

〔74号土坑〕

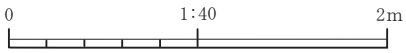


A－A'
1　10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR7/4 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性なし しまり弱
3　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 にぶい黄橙色シルトブロック(10YR7/4 径１cm) ５％含む
4　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 にぶい黄橙色シルトブロック(10YR7/4 径５cm) ５％含む
5　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 にぶい黄橙色シルト(10YR7/4)を斑状に２％含む
6　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 にぶい黄橙色シルトブロック(10YR7/4 径20cm) １％未満含む

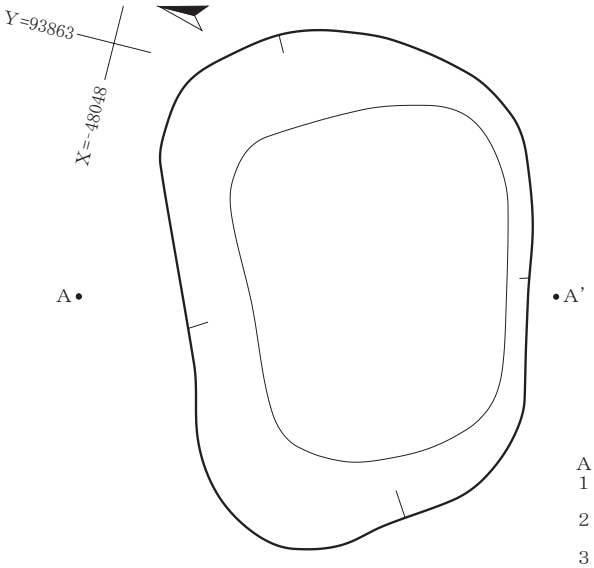
〔75号土坑〕

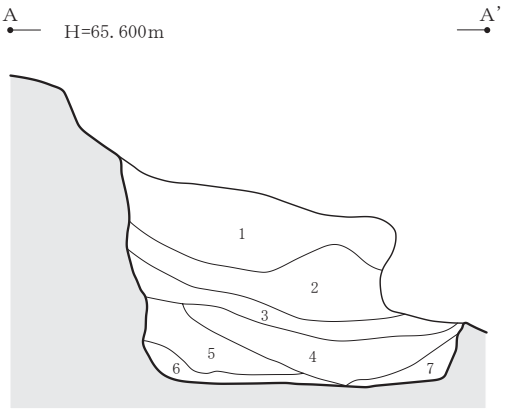


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルトブロック(10YR2/2　径１cm) ５％含む
3　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱

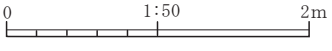


〔76号土坑〕



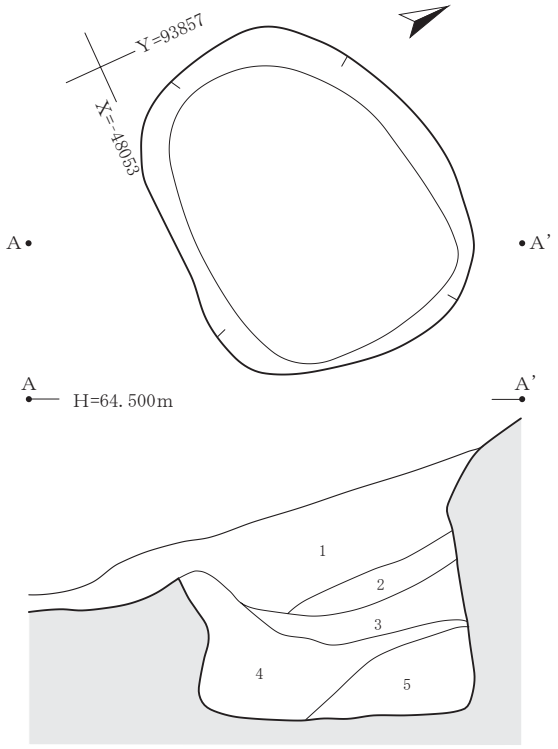


A－A'
1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒が帯状に10％入る
2　2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒を散在的に７％含む
3　2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒を散在的７％含む
4　2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒５％を散在的、黒褐色シルト(2.5Y3/1)を帯状に７％含む
5　2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒３％含む
6　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒１％含む
7　10YR7/2 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 風化花崗岩粒１％含む



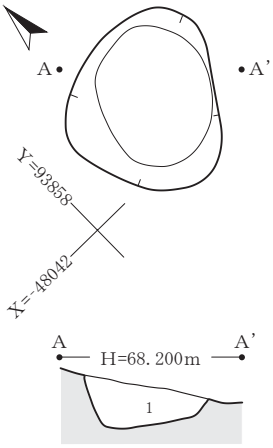
第133図　74～76号土坑

〔77号土坑〕



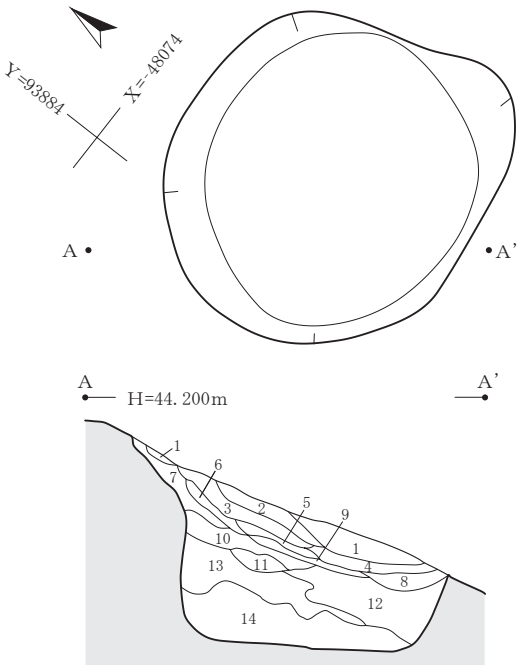
A－A'
1　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒３％含む
2　2.5Y8/2 灰白色砂質シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒を帯状に20％含む
3　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒を帯状に30％含む
4　2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト 粘性・しまり中 黄灰色シルト(2.5Y4/1)と風化花崗岩粒を帯状に含む
5　2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト 粘性弱 しまり中 風化花崗岩粒７％含む

〔78号土坑〕



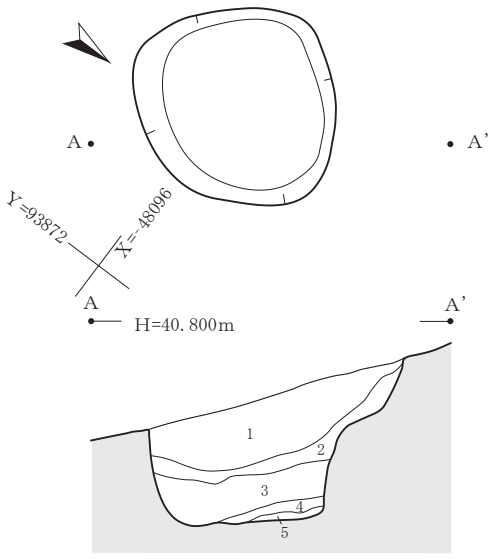
A－A'
1　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱

〔79号土坑〕

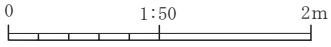


A－A'
1　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
3　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
4　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
5　10YR4/4 褐色砂質粘土 粘性中 しまりなし
6　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)ブロックで３％混入
7　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし
8　10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8) ５％混入
9　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりなし
10　10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし (※地山土の崩壊土)
11　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8) ３％混入
12　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)10％、黄褐色粘土(10YR5/8) ５％混入
13　10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2)15％混入
14　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2)10％、黄褐色砂質シルト(10YR5/8) ７％混入

〔80号土坑〕

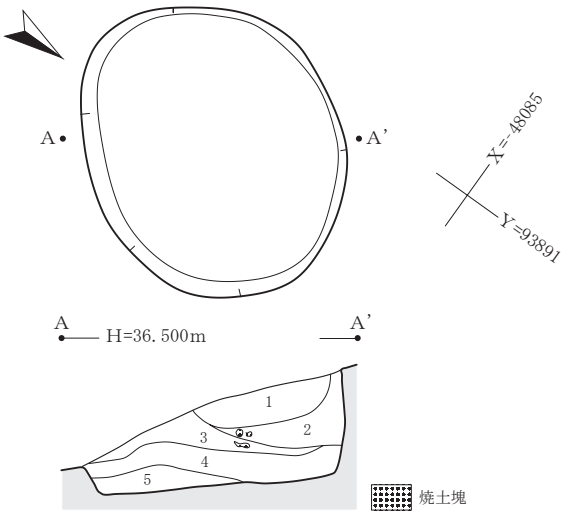


A－A'
1　風化花崗岩粒 灰黄褐色シルト(10YR4/2) ５～７％筋状に含む
2　10YR3/3 暗褐色砂 粘性なし しまり中 黄橙色砂(10YR8/6)10～15％含む
3　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり強
4　10YR8/6 黄橙色砂質シルト 粘性なし しまり強
5　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり強



第134図　77～80号土坑

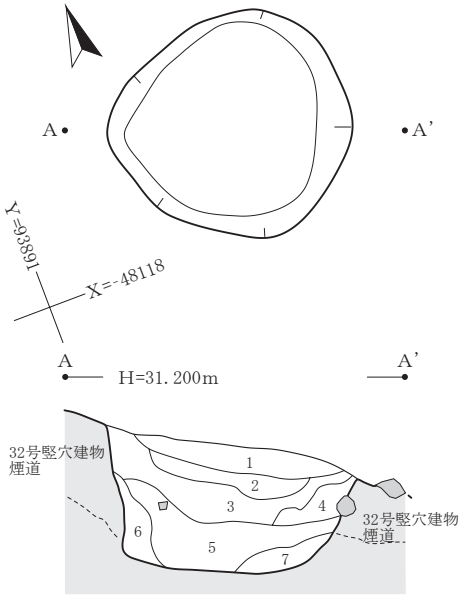
〔81号土坑〕



A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物３%、灰白色細粒７%、焼土をブロックで含む
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物３%、灰白色細粒５%、焼土をブロックで含む
3　10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 炭化物５%、焼土粒・焼土塊３%、灰白色細粒２%含む
4　10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色細粒７%含む
5　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 灰白色細粒５%、褐色砂質シルト(10YR4/6)が下位にラミナ状に堆積 灰白色細粒５%含む

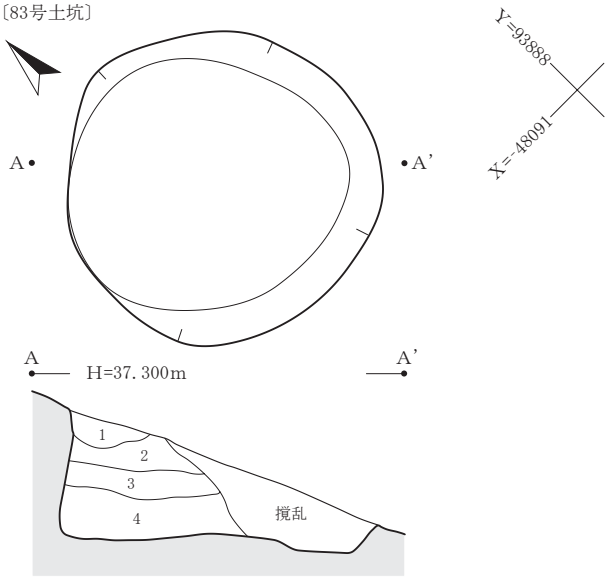
※1～3層の中央部に、焼土塊が混じっている

〔82号土坑〕



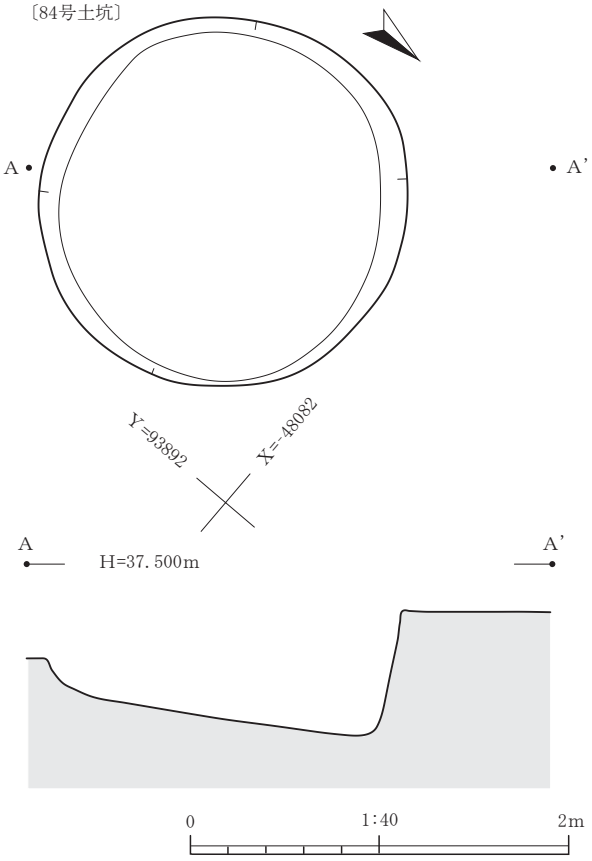
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 地山ブロック20%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 炭化物少量含む
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 地山ブロック20%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 地山ブロック10%含む
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 地山ブロック30%、炭化物少量含む
6　10YR4/4 褐色シルト、10YR3/3 暗褐色シルトの混合土層 粘性・しまりなし 炭化物少量含む
7　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 地山ブロック20%含む

〔83号土坑〕



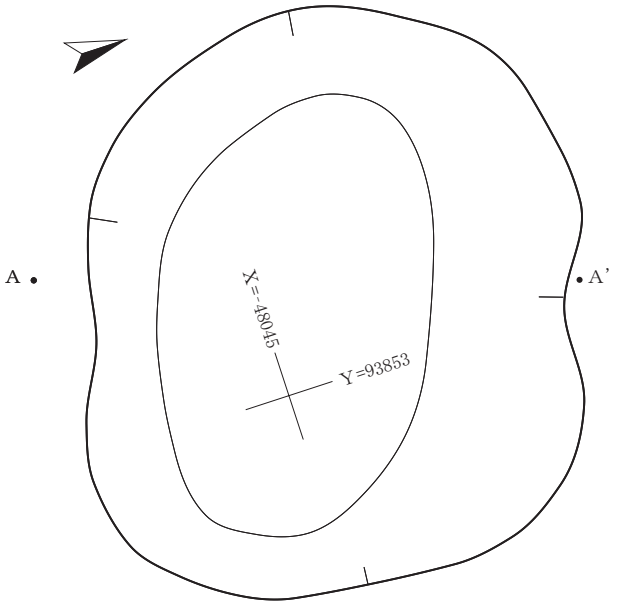
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 炭化物５%、灰白色細粒５%、小円礫10%含む
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 黄褐色砂質シルトブロック(10YR5/6 径２～５㎝) ５%、炭化物３%含む
3　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 褐色砂質シルトブロック(10YR4/6 径３㎝) ２%、黒褐色砂質シルトブロック(10YR3/2 径２㎝) １%、炭化物３%含む
4　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性・しまりなし 褐色砂質シルトブロック(10YR4/6　径２～５㎝) ５%、黒褐色砂質シルトブロック(10YR3/2 径２㎝) １%、炭化物３%含む

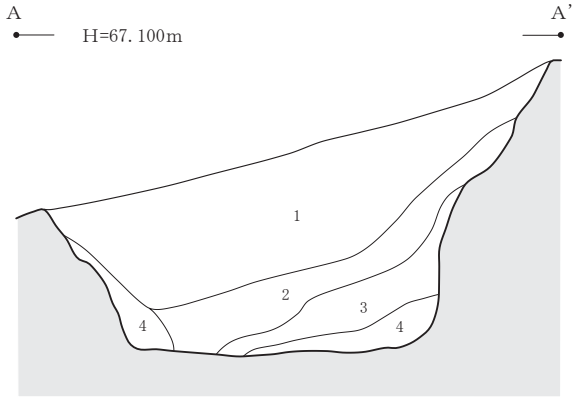
〔84号土坑〕



第135図　81～84号土坑

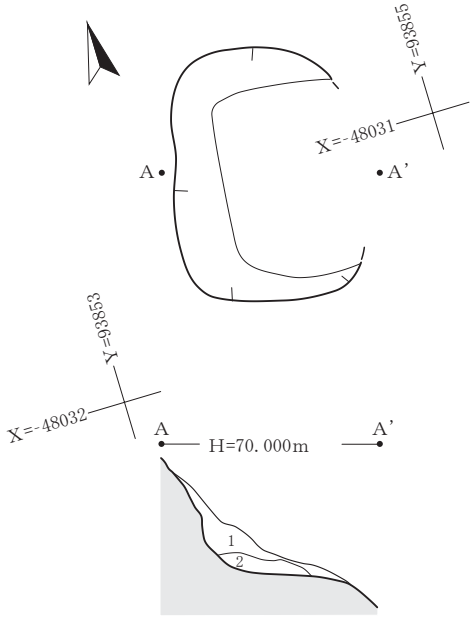
〔85号土坑〕





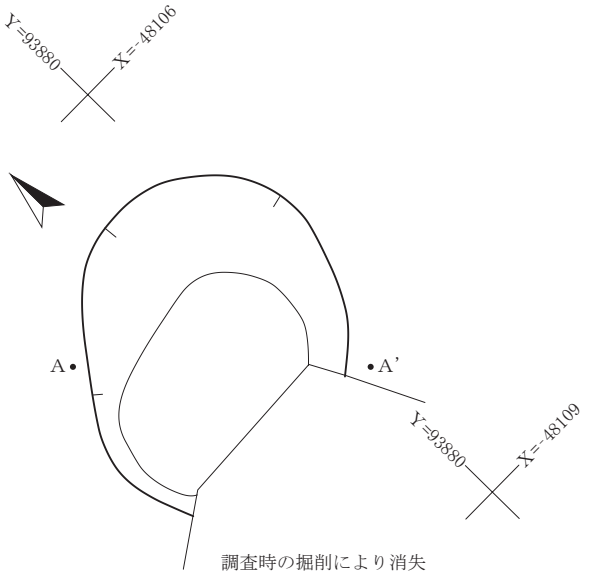
A－A'
1　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 にぶい黄褐色シルト粒(10YR5/4 径２～３㎝) ５％含む
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまりなし 浅黄色シルト粒(2.5Y7/4 径２㎝) １％含む
3　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまりなし
4　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径１㎜の炭化物粒 １％含む

〔86号土坑〕

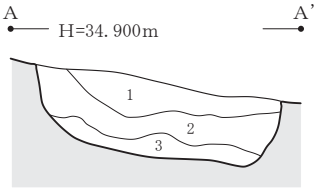


A－A'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～２㎜の炭化物粒５％、径５㎜の地山粒５％含む

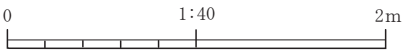
〔87号土坑〕



調査時の掘削により消失

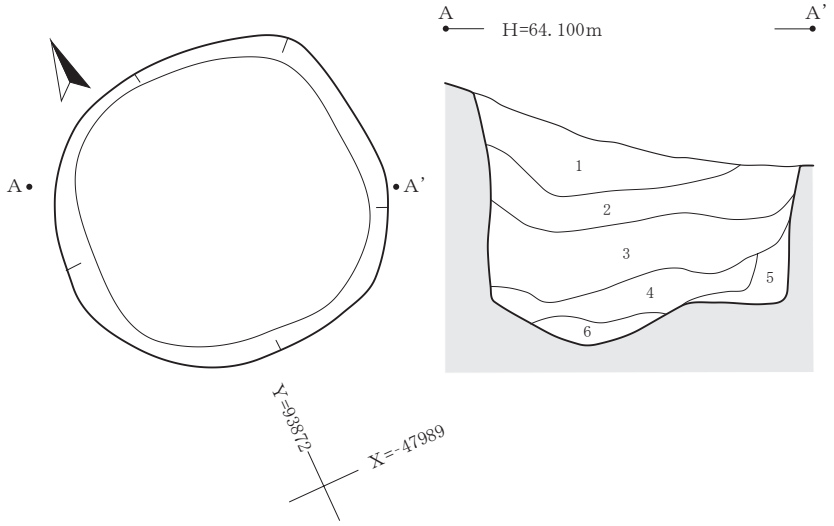


A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルトブロック(10YR5/8 径20㎜) １％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中



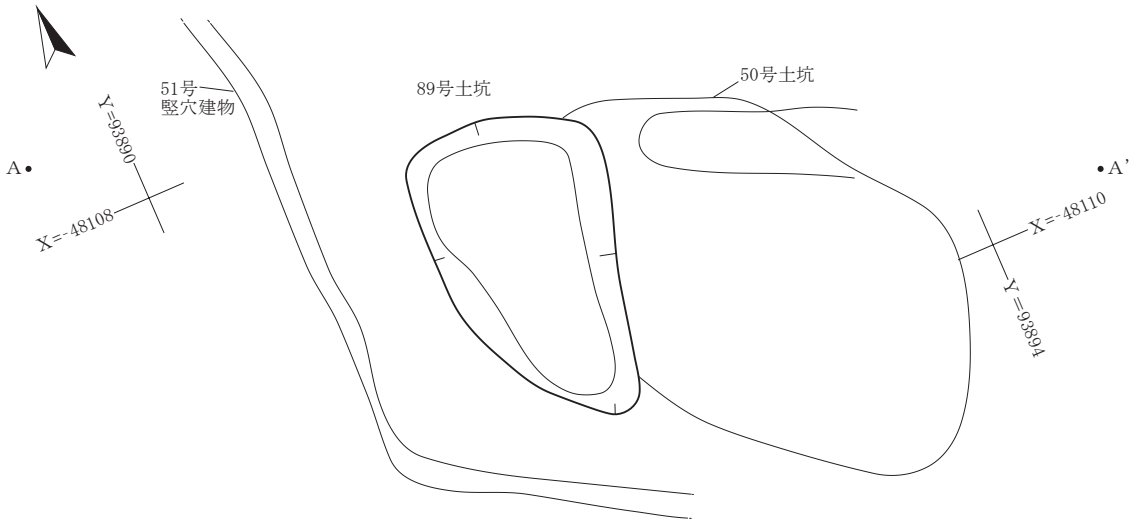
第136図　85～87号土坑

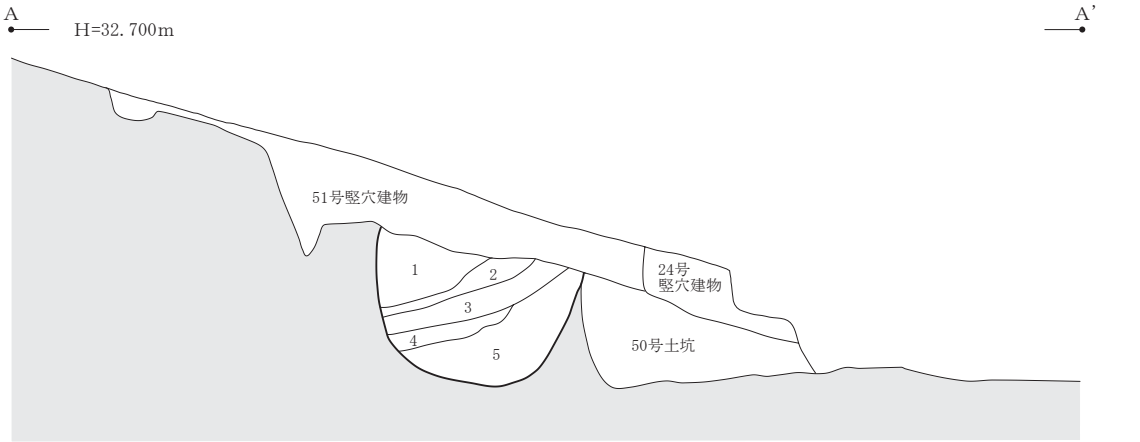
〔88号土坑〕



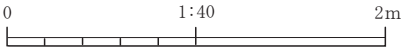
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径３～５㎝の地山ブロック20%含む
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり強 径１～２㎝の炭化物粒７%、径１～２㎝の地山粒１%含む
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト粒(2.5Y6/6 径２～３㎝)10%、径１～２㎝の炭化物粒10%、径１㎝の地山粒20%含む
4　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径１～２㎝の地山粒５%含む
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 径１～２㎝の炭化物粒２%含む
6　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱

〔89号土坑〕



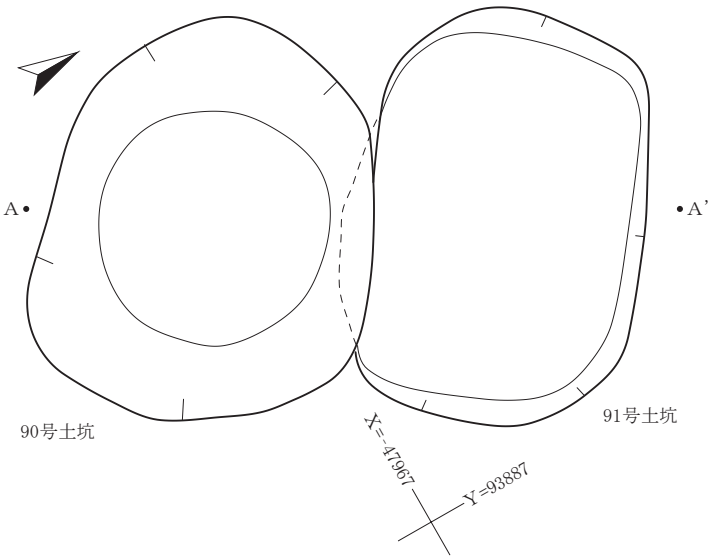


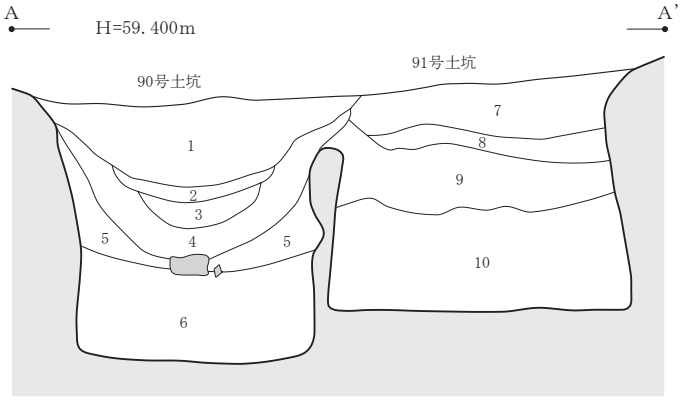
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)10%混入
2　10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 粘性中 しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8)７%混入
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色粘土(10YR5/8)10%混入
4　10YR5/8 黄褐色粘土 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)７%混入
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色粘土(10YR5/8)７%、褐色粘土質シルト(10YR4/4)10%混入



第137図　88・89号土坑

〔90・91号土坑〕

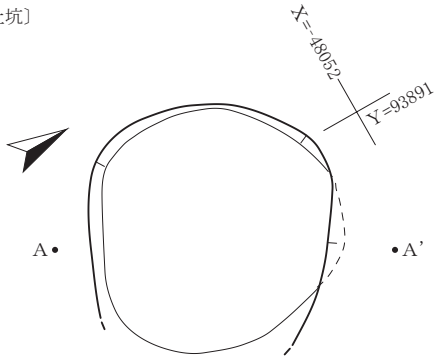


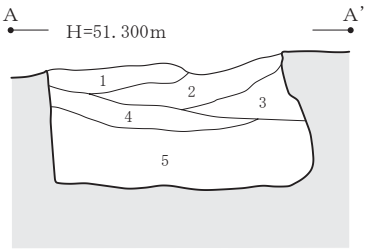


90号土坑
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
3　2.5Y8/4 淡黄色シルト 粘性なし しまり強
4　10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性弱 しまり強
5　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性なし しまり中
6　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物粒５％含む

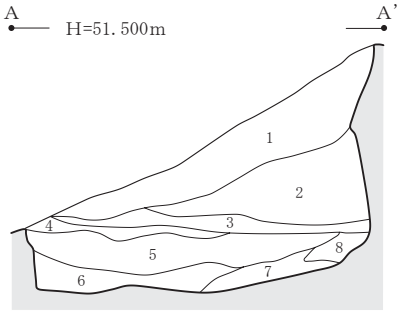
91号土坑
A－A'
7　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
8　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性なし しまり強
9　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまり強
10　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまり強

〔92号土坑〕



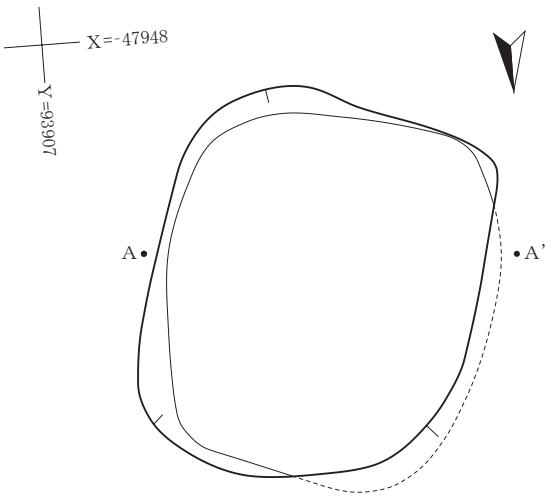


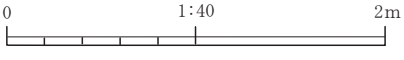
A－A'
1　10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
2　10YR5/2 灰黄褐色砂 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)10％含む
3　2.5Y6/3 にぶい黄色砂 粘性なし しまり強 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)10％含む
4　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄色風化花崗岩粒(2.5Y6/4)１％含む
5　10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性弱 しまり強 黒色砂質シルト(10YR2/1)15％含む



A－A'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6)を斜面上位側にブロック状に５％含む
2　10YR5/6 黄褐色シルト、10YR2/3 黒褐色シルト、10YR5/3 にぶい黄褐色シルトがブロック状に混在 粘性中 しまり弱
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
4　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6) がブロック状に30％混在
5　10YR3/3 暗褐色シルト、10YR5/3 にぶい黄褐色シルト、10YR2/3 黒褐色シルトが斑状に混在 粘性弱 しまり中
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルト(10YR3/4)が筋状に混入
7　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
8　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中

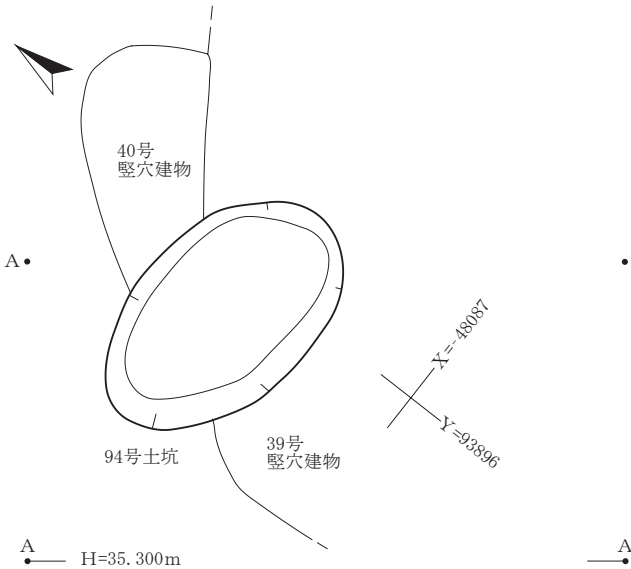
〔93号土坑〕





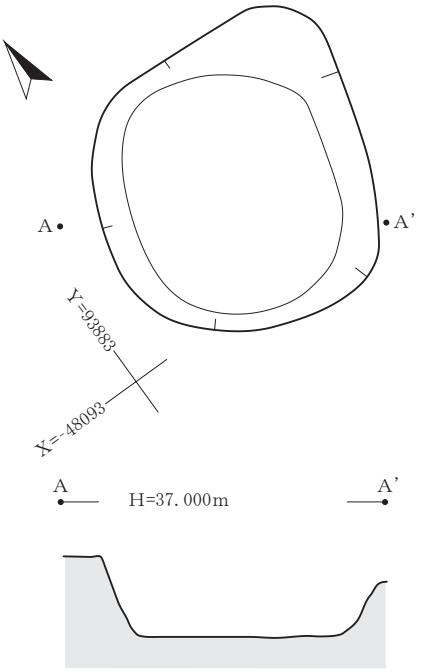
第138図　90～93号土坑

〔94号土坑〕

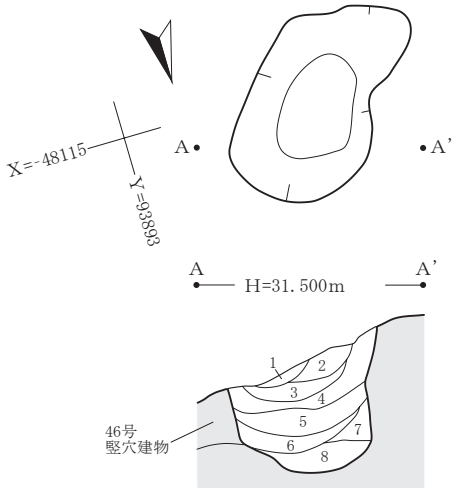


A－A'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)と暗褐色シルト(10YR3/4)の互層、さらに一部で黒褐色シルト(10YR3/2)が互層

〔95号土坑〕

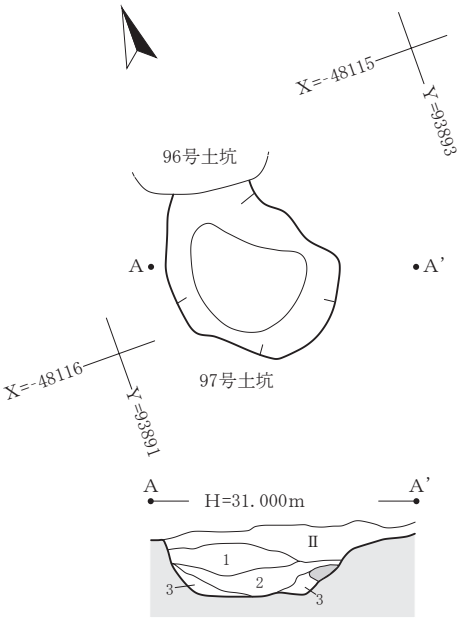


〔96号土坑〕

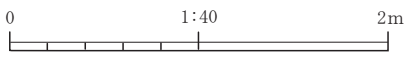


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 褐色砂粒少量混じる
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし 褐色砂粒少量混じる
7　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 褐色砂粒少量混じる
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黒色シルトブロック・褐色シルトブロック混じる

〔97号土坑〕

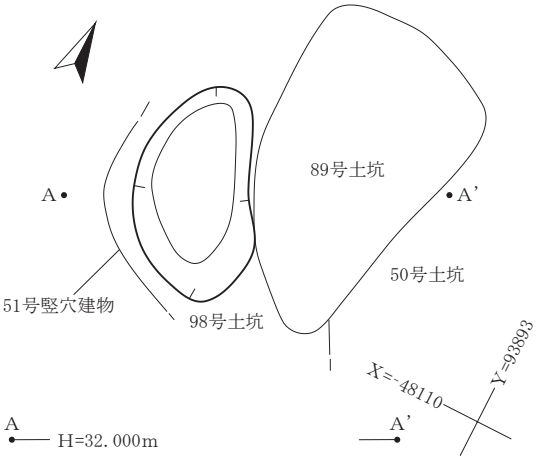


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 褐色シルトブロック(10YR4/4 径30㎜)３％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルトブロック(10YR4/4 径50㎜)10％含む



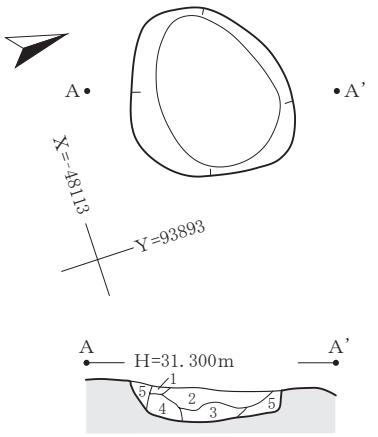
第139図　94～97号土坑

〔98号土坑〕



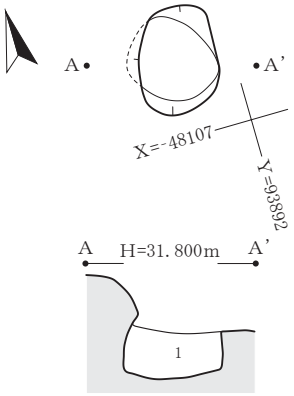
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性中 しまり強 黄褐色粘土(10YR5/8)20%混入
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまりなし
4　10YR5/8 黄褐色粘土 粘性中 しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2)20%混入
5　10YR5/8 黄褐色粘土 粘性強 しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 7%混入

〔99号土坑〕



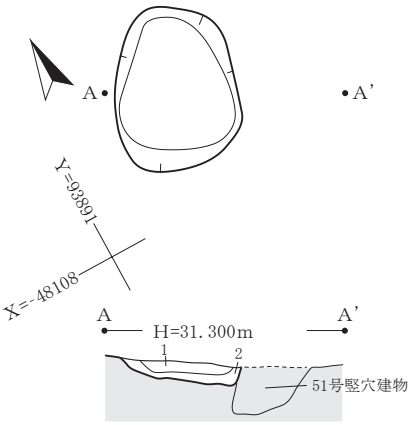
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色粘土質シルト(10YR3/4) 5%混入
3　10YR4/4 褐色砂質粘土 粘性中 しまりなし
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし
5　10YR4/4 褐色粘土 粘性・しまり中
(※本遺構の地山 漸移層か？)

〔100号土坑〕



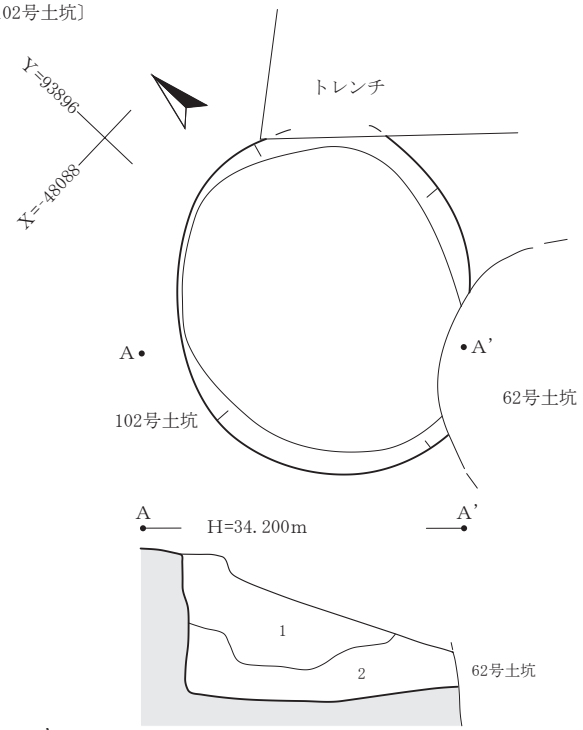
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし　黄褐色粘土(10YR5/8)15%混入

〔101号土坑〕

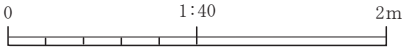


A－A'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりなし 黄褐色粘土(10YR5/8) 7%混入

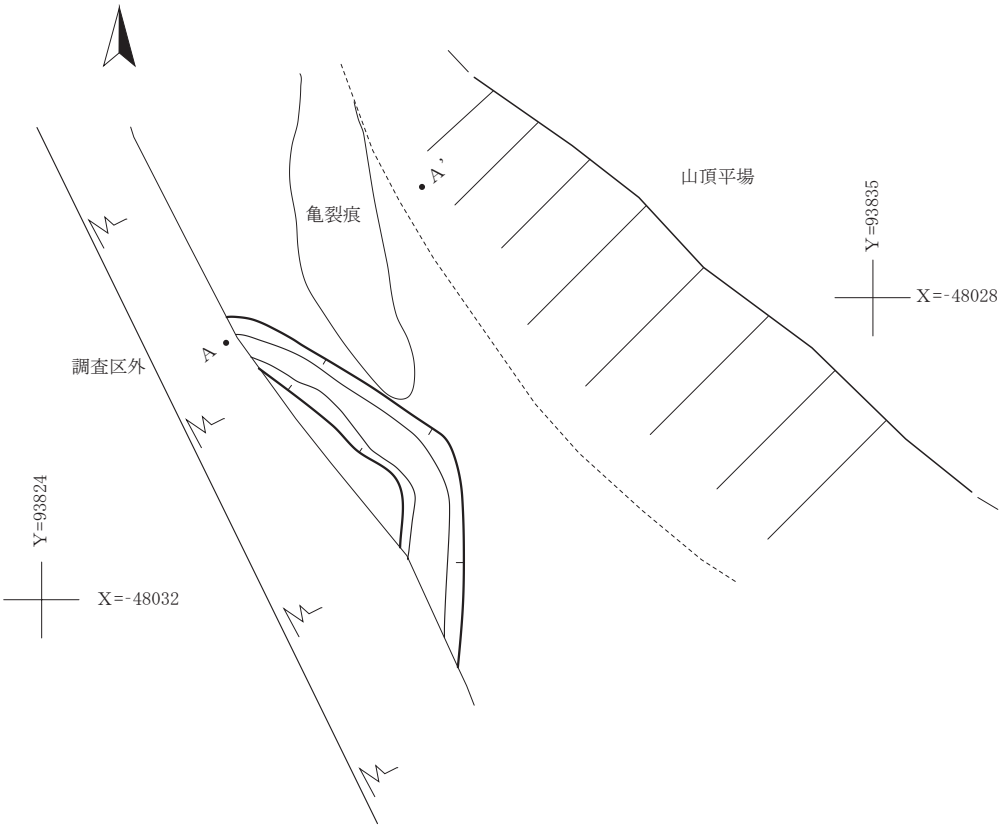
〔102号土坑〕

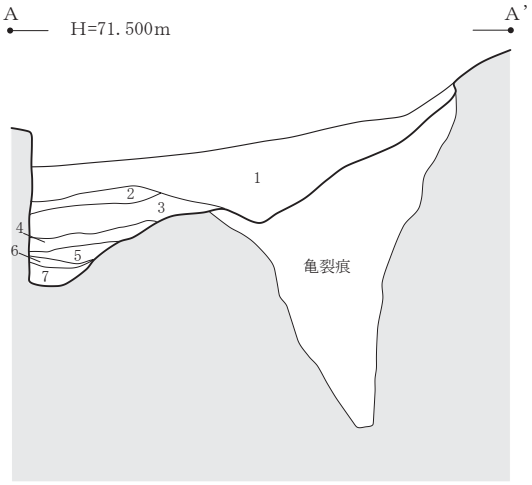


A－A'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/3)が径30㎜のブロック状に10%、径２～５㎜の炭化物５%混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色砂質シルト(10YR3/4)ブロック状に10%、径２～５㎜の炭化物５%混じる

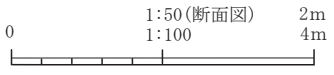


第140図　98～102号土坑

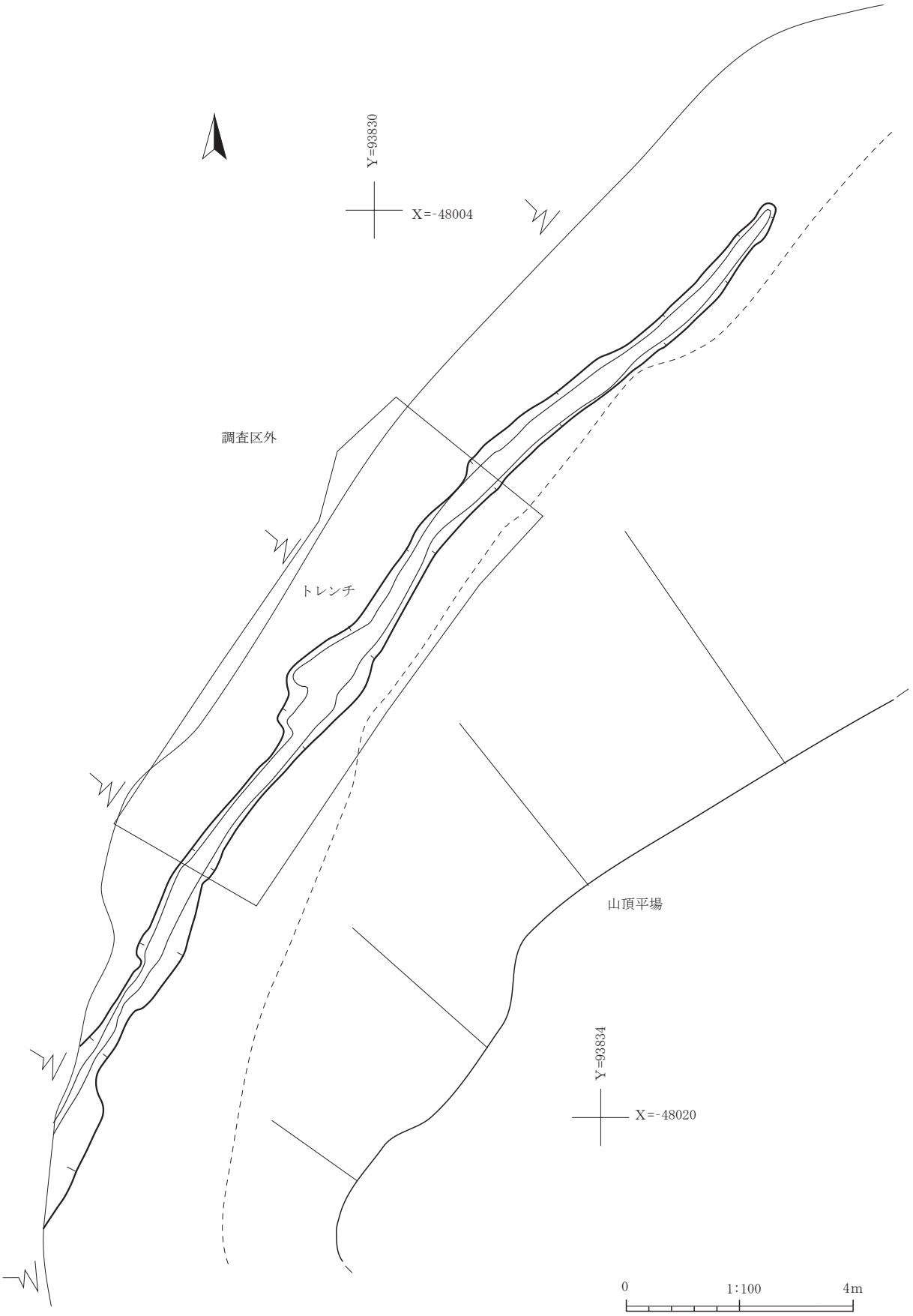




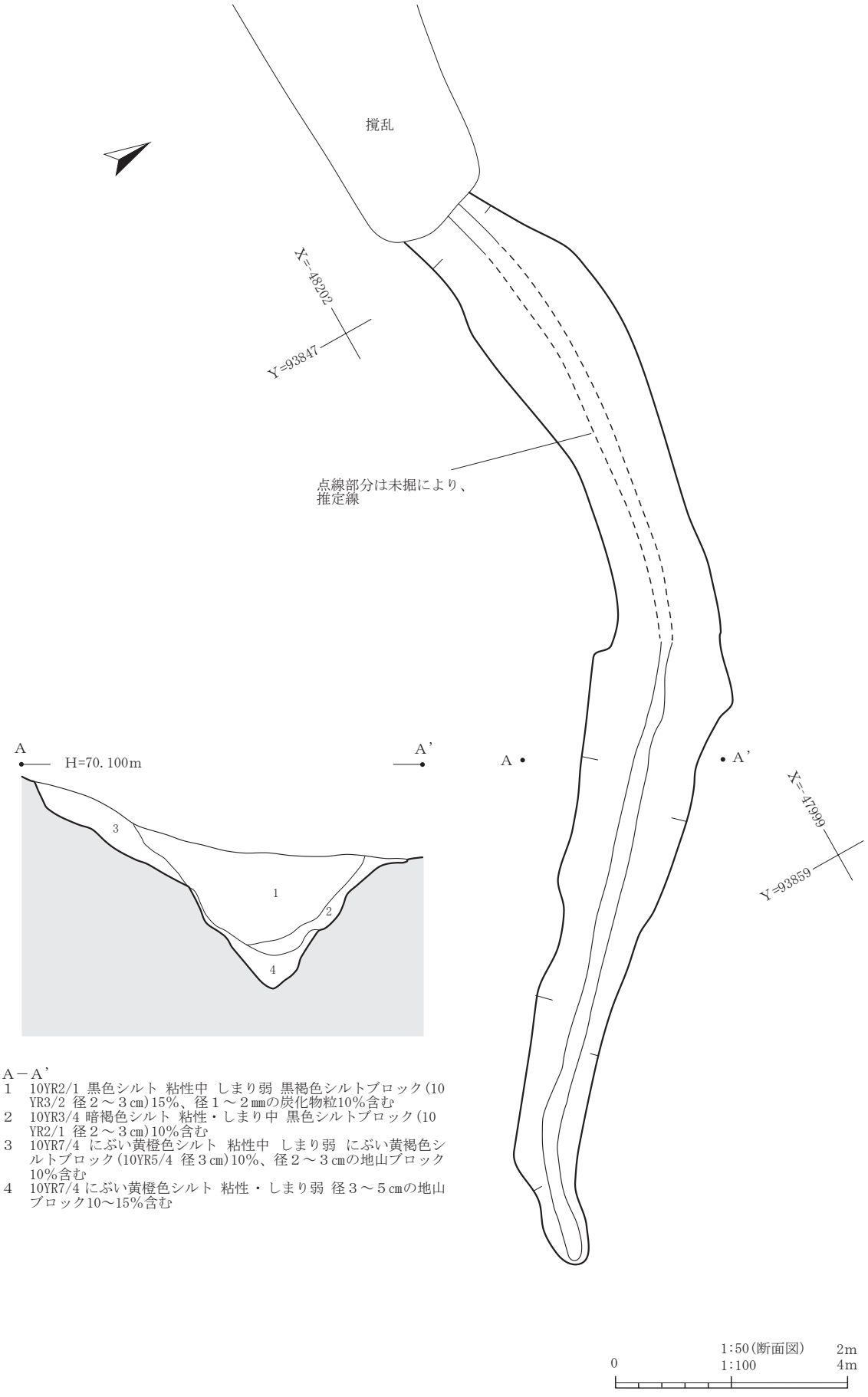
A－A'
1　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径１～２㎜の炭化物粒１％、径１～２㎜の風化花崗岩粒10～15％含む
2　10YR8/3 浅黄色風化花崗岩粒 粘性・しまりなし 暗褐色シルト粒(10YR 3/4 径１～２㎝) ５％含む
3　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルトブロック(10YR7/6 径２～３㎝)15％、径１～２㎜の炭化物粒２％含む
4　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルトブロック(10YR7/6 径３～５㎝)15％含む
5　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルトブロック(10YR7/6 径３～５㎝)15％、径１～２㎜の炭化物粒２％含む
6　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルトブロック(10YR4/4 径２～３㎝)10％、黄色シルトブロック(５Y8/6 径２～３㎝) ５％含む
7　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルトブロック(2.5Y5/6 径１～３㎝) ５％含む



第141図　１号溝跡（南西側）

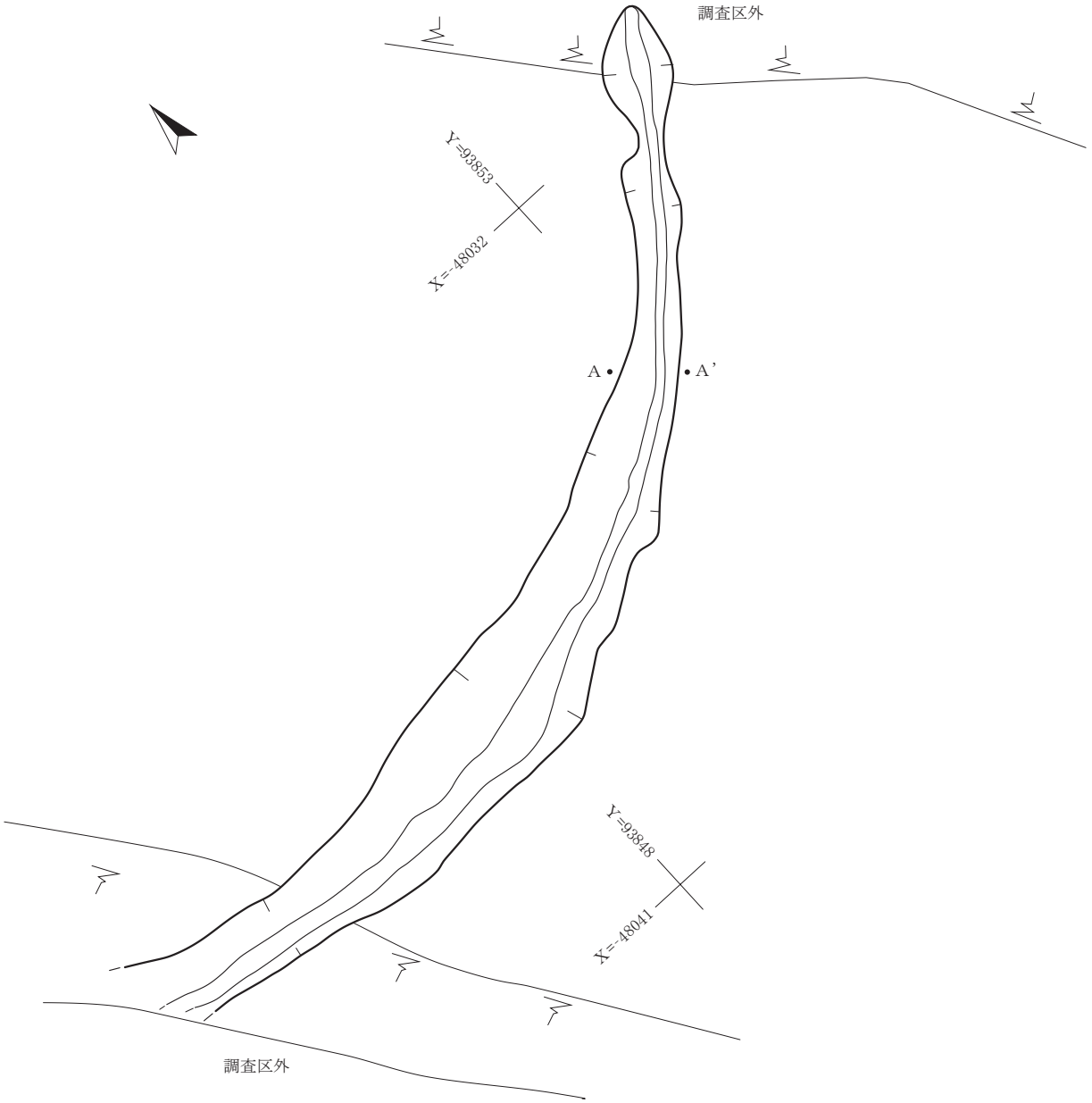


第142図　1号溝跡（北西側）



A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルトブロック(10YR3/2 径２～３㎝)15%、径１～２㎜の炭化物粒10%含む
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黒色シルトブロック(10YR2/1 径２～３㎝)10%含む
3　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性中 しまり弱 にぶい黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径３㎝)10%、径２～３㎝の地山ブロック10%含む
4　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 径３～５㎝の地山ブロック10～15%含む

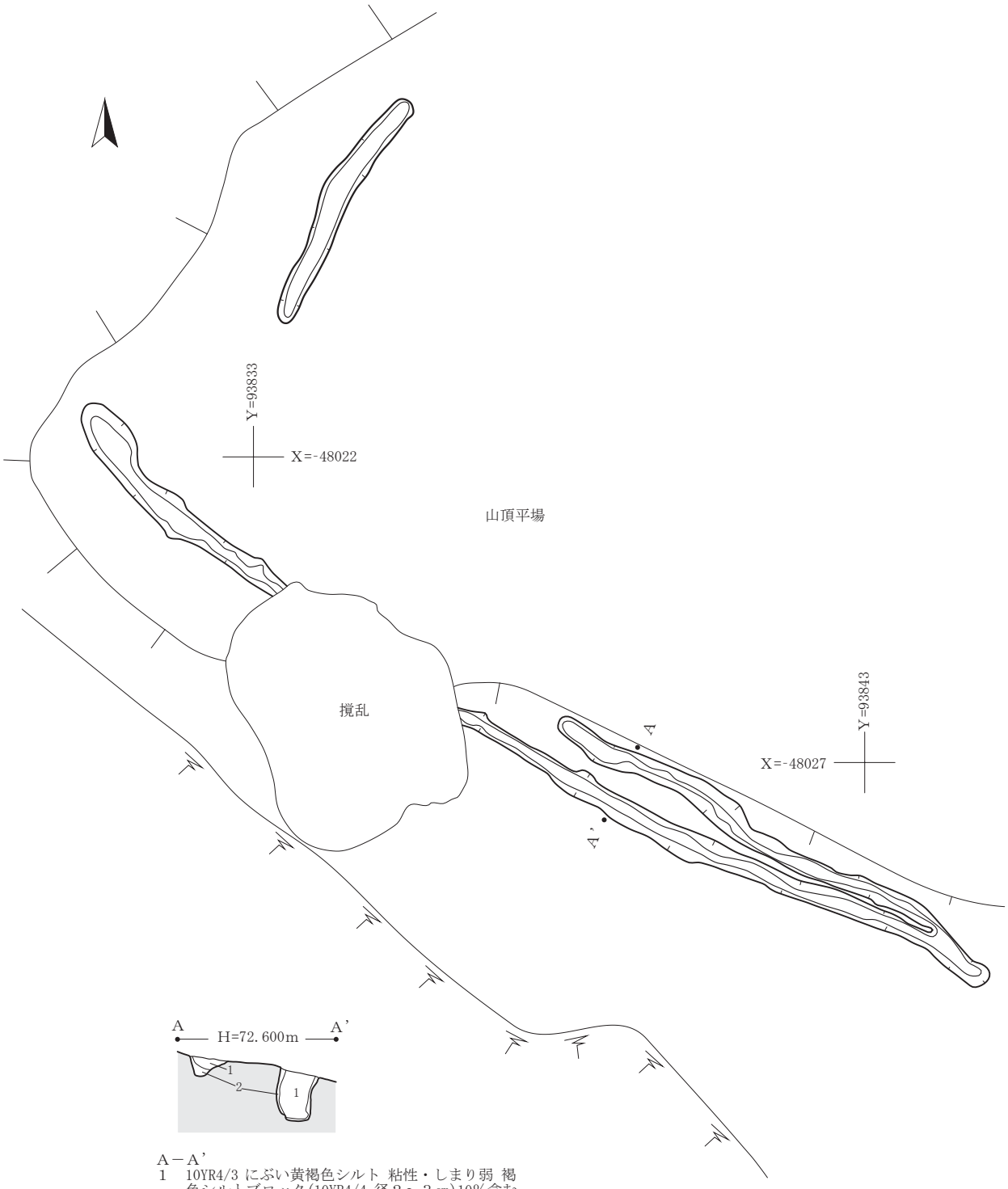
第143図　１号溝跡（北東側）



A－A'
1　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱
2　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱
暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径３㎝)10%、
にぶい黄褐色砂粒(10YR5/4)20%含む

1:50(断面図)　2m
0　1:100　4m

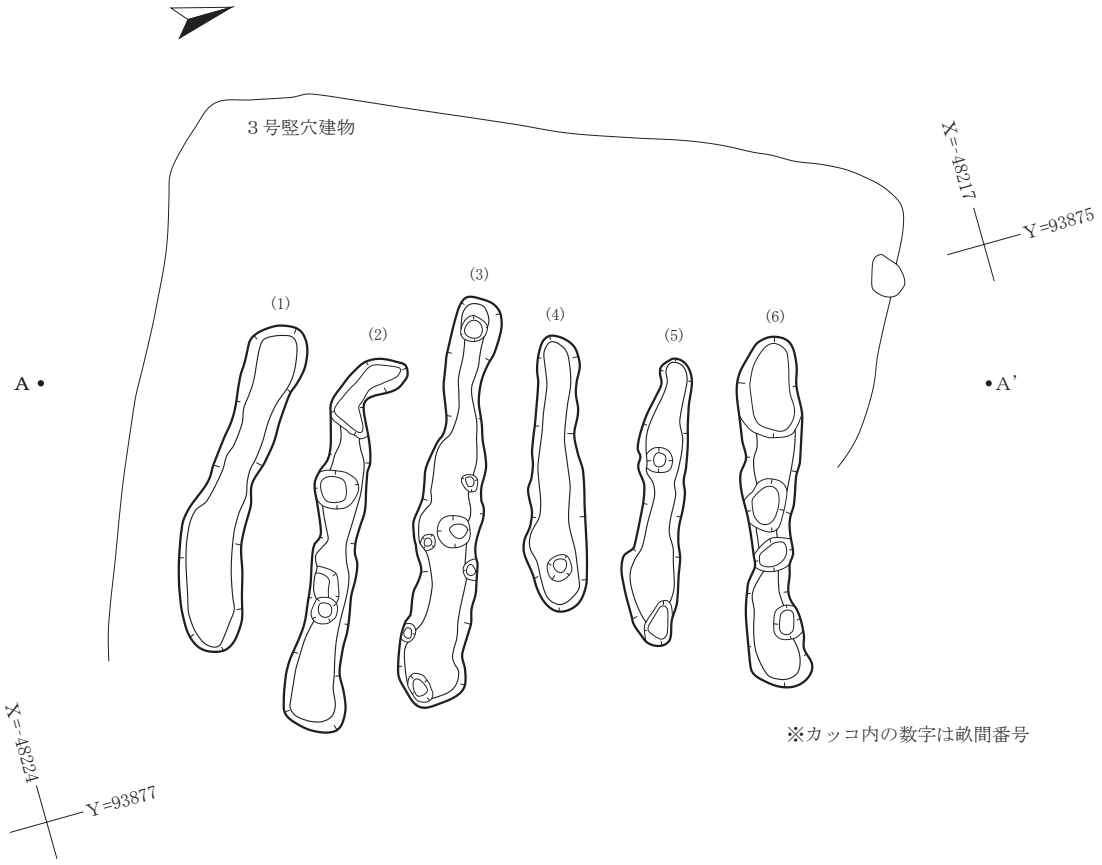
第144図　２号溝跡

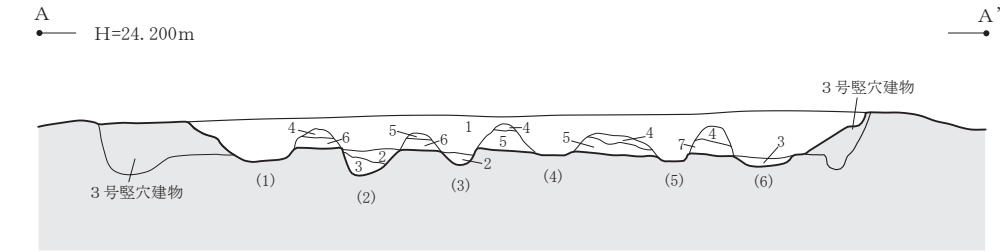


A－A'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 褐色シルトブロック(10YR4/4 径２～３㎝)10%含む
2　10YR8/3 浅黄橙色シルト 粘性中 しまり弱

1:50(断面図)　2m
0
1:100　4m

第145図　３号溝跡



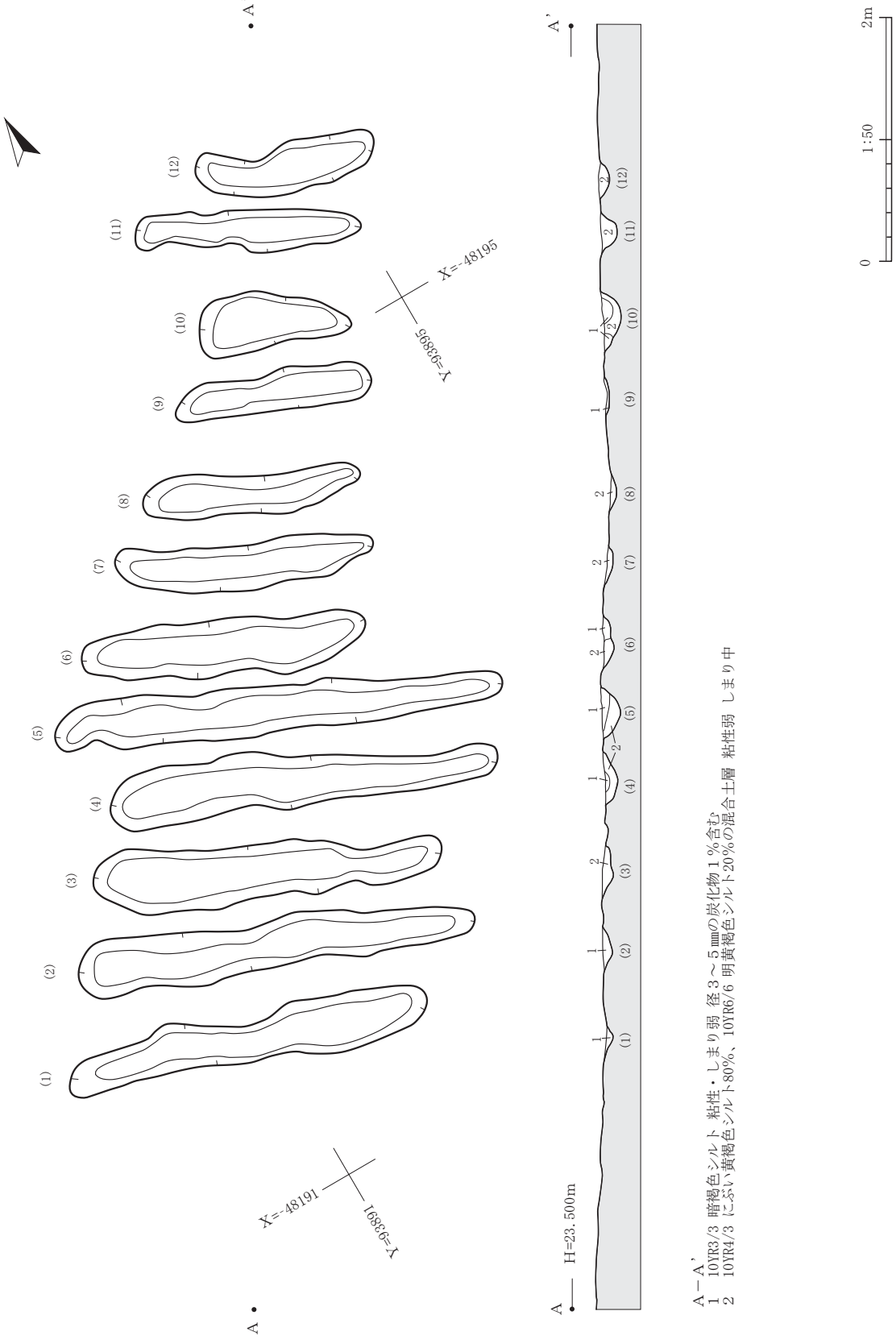


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10％含む
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり強

＊4～7層　3号竪穴建物の貼床土

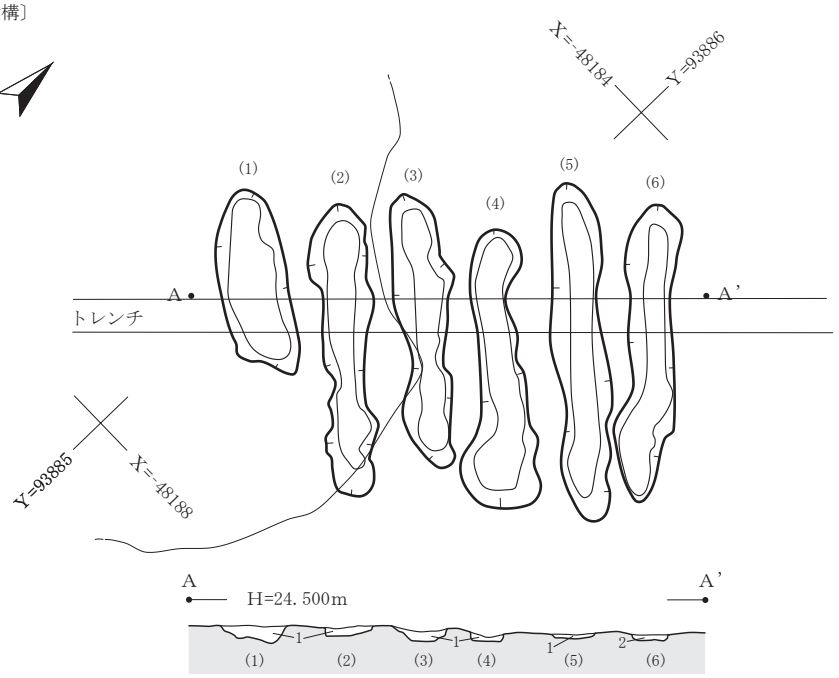
0　1:50　2m

第146図　1号畝間状遺構



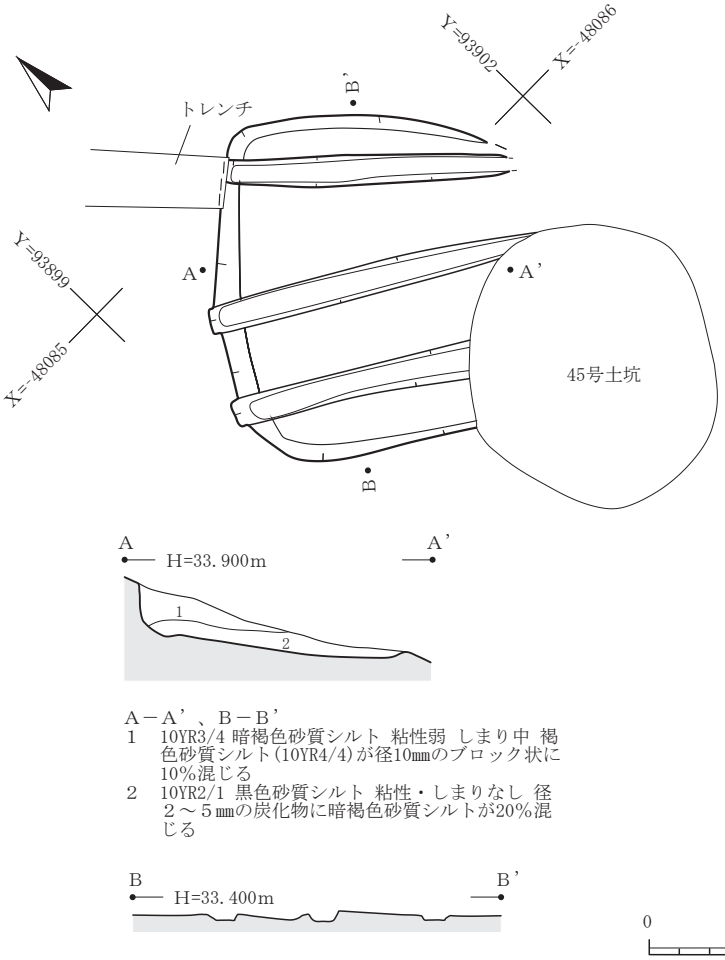
第147図　２号畝間状遺構

〔3号畝間状遺構〕



A－A'
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中

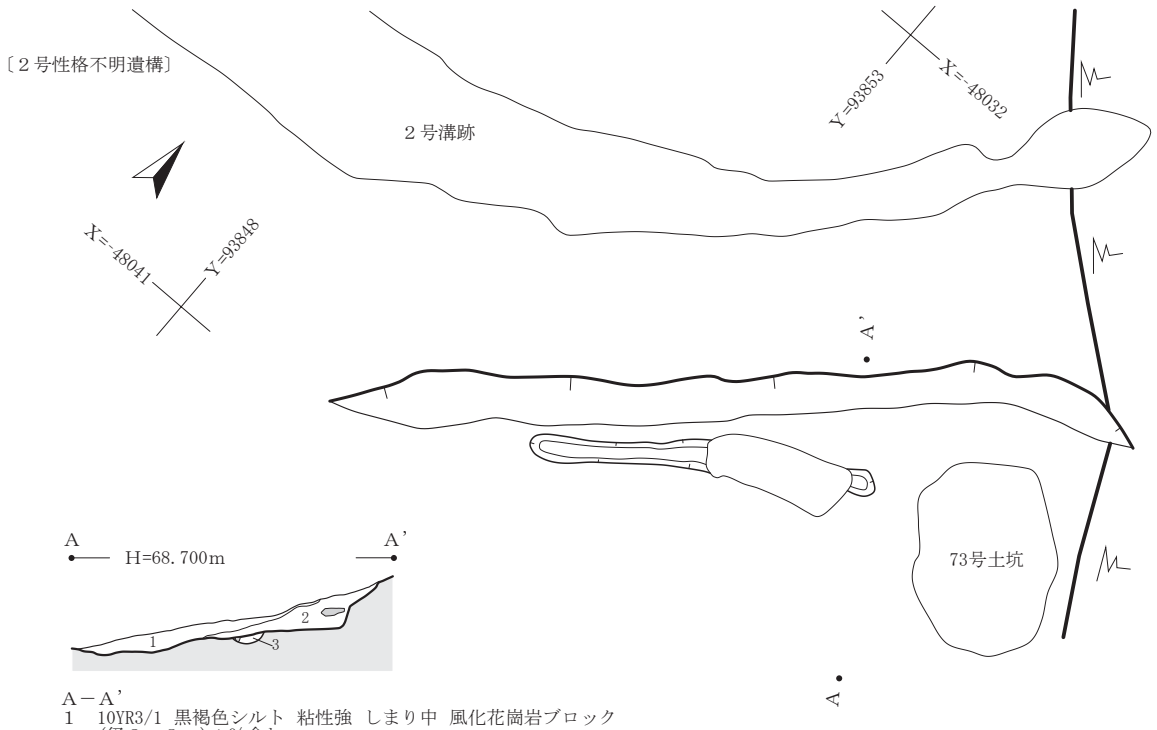
〔1号性格不明遺構〕



A－A'、B－B'
1　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂質シルト(10YR4/4)が径10㎜のブロック状に10%混じる
2　10YR2/1 黒色砂質シルト 粘性・しまりなし 径2～5㎜の炭化物に暗褐色砂質シルトが20%混じる

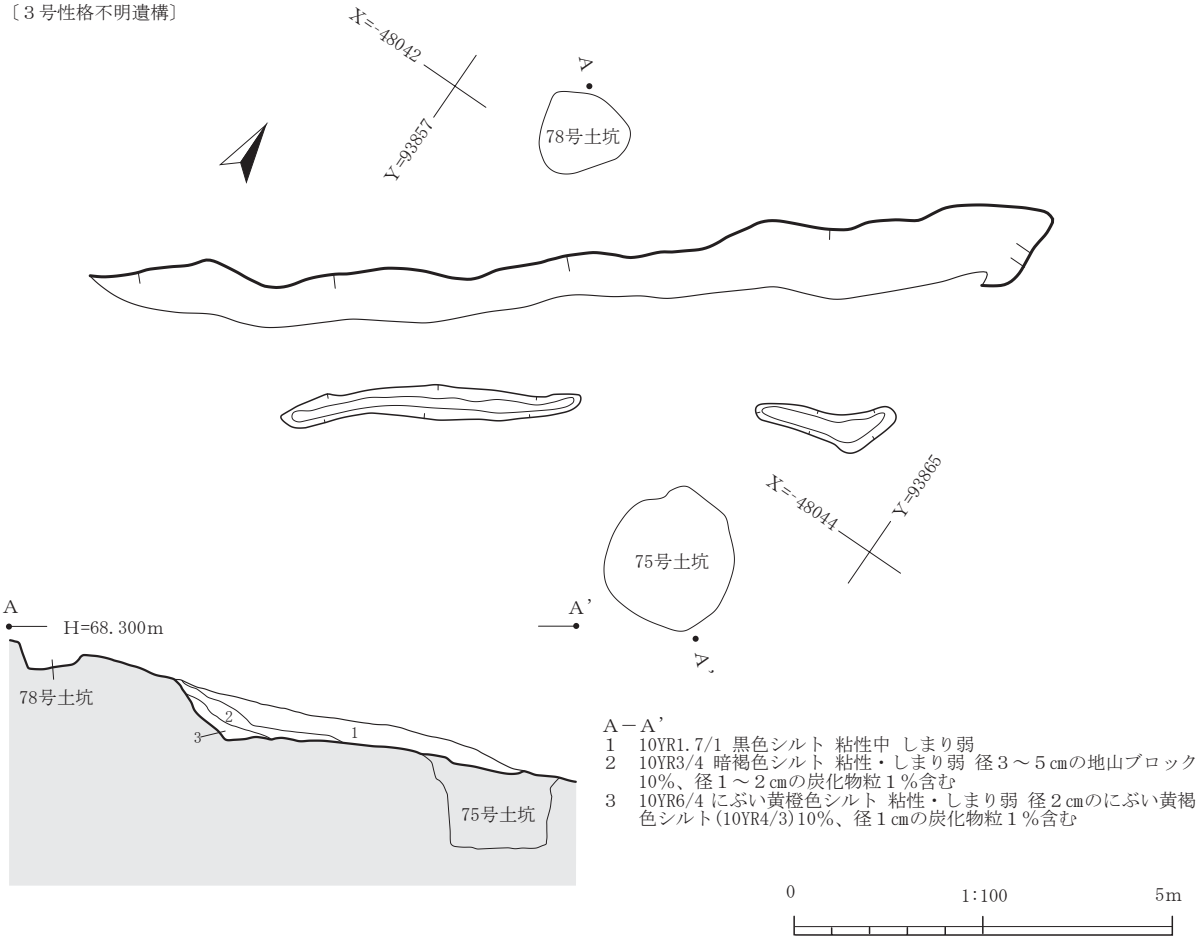
第148図　3号畝間状遺構、1号性格不明遺構

〔２号性格不明遺構〕



A－A'
1　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 風化花崗岩ブロック
(径２～３㎝) １％含む
2　2.5Y7/2 灰黄色シルト 粘性・しまり中 黄灰色シルトブロック
(2.5Y4/1 径５㎝)10％含む
3　2.5Y6/1 黄灰色シルト 粘性強 しまり中 風化花崗岩ブロック
(径10㎝)10％、径２㎝の礫１％含む

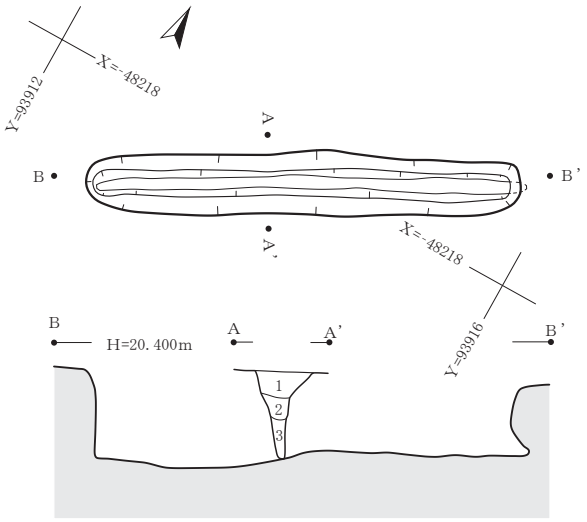
〔３号性格不明遺構〕



A－A'
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径３～５㎝の地山ブロック
10％、径１～２㎝の炭化物粒１％含む
3　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粘性・しまり弱 径２㎝のにぶい黄褐
色シルト(10YR4/3)10％、径１㎝の炭化物粒１％含む

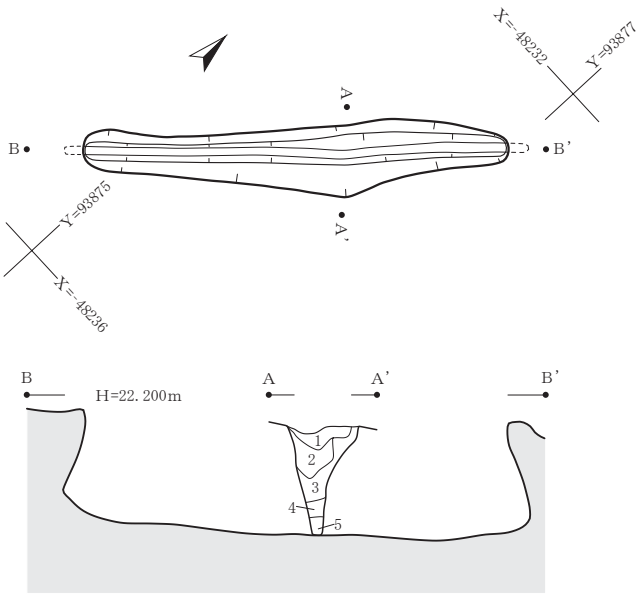
第149図　２・３号性格不明遺構

〔１号陥し穴状遺構〕



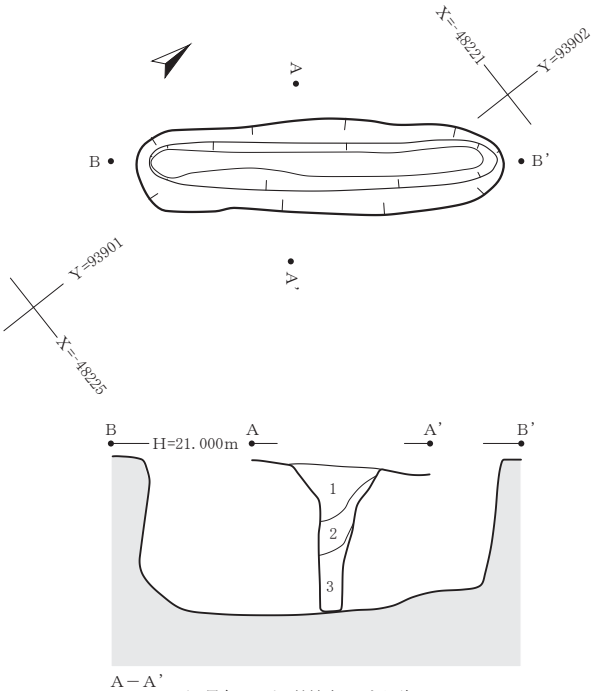
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまりなし 黄褐色シルト(10YR5/6)10%含む

〔２号陥し穴状遺構〕



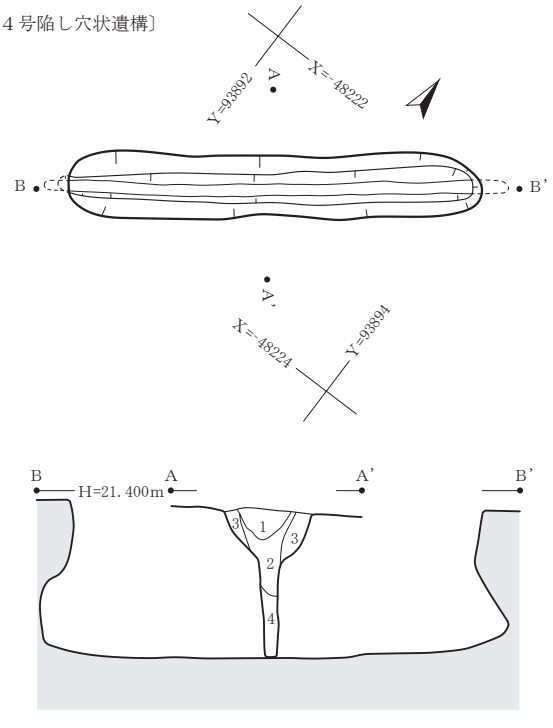
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 3～5%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径5～10㎜の礫1%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 20～25%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR2/1)10～15%含む

〔３号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3～5%含む

〔４号陥し穴状遺構〕

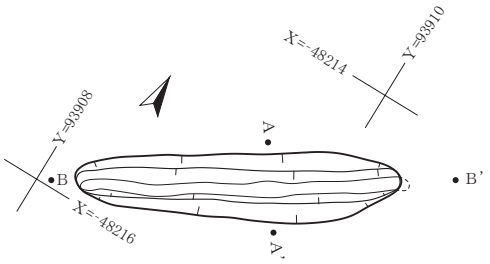


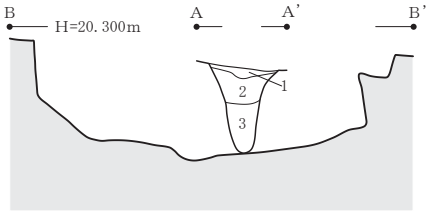
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)15%含む

0　1:60　2m

第150図　1～4号陥し穴状遺構

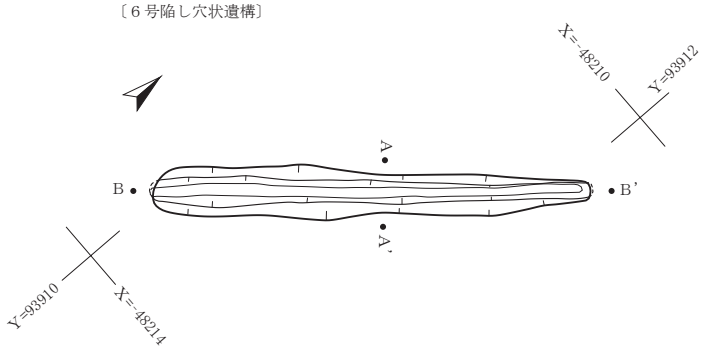
〔５号陥し穴状遺構〕

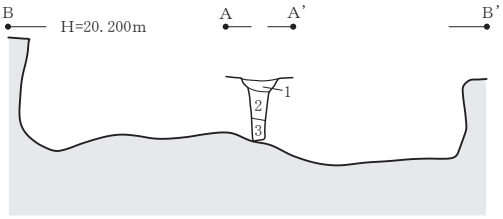




A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む

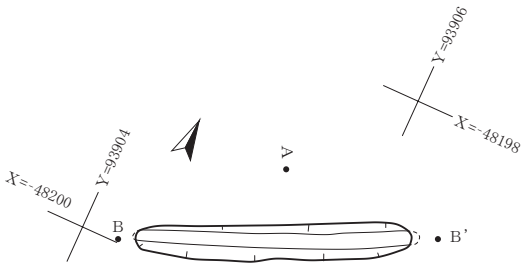
〔６号陥し穴状遺構〕

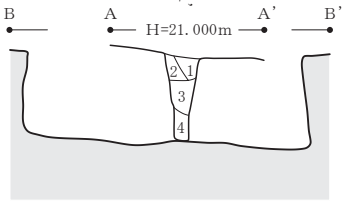




A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR2/1 黒色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性なし しまり中
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3%含む

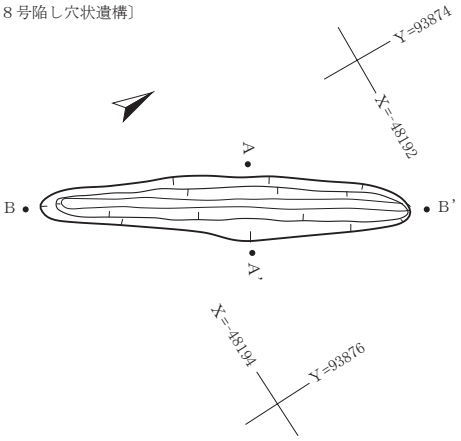
〔７号陥し穴状遺構〕

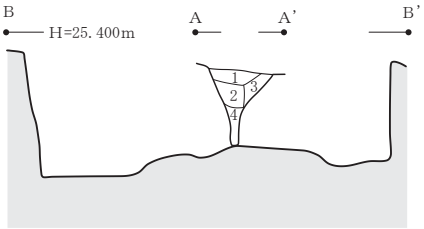




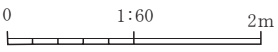
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱

〔８号陥し穴状遺構〕



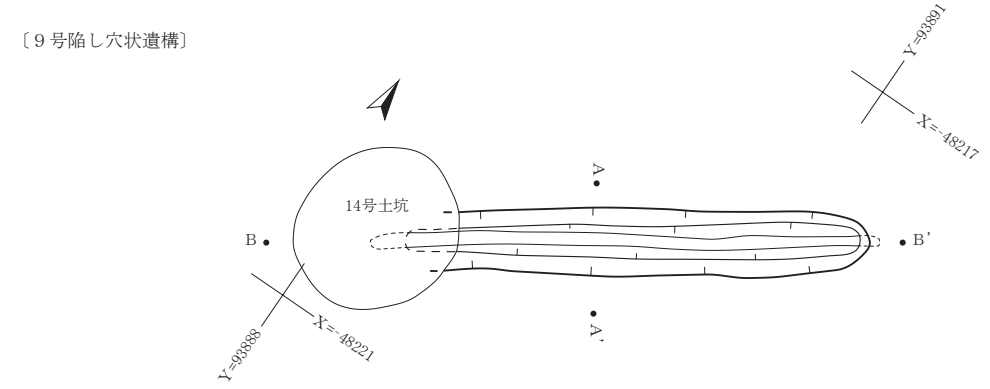


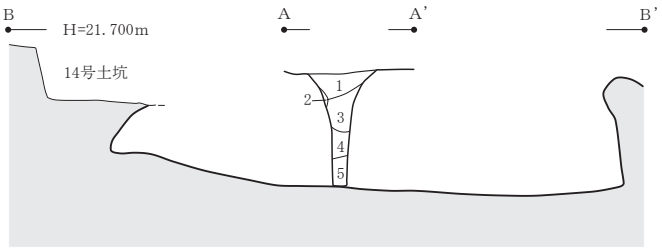
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 5%含む



第151図　５～８号陥し穴状遺構

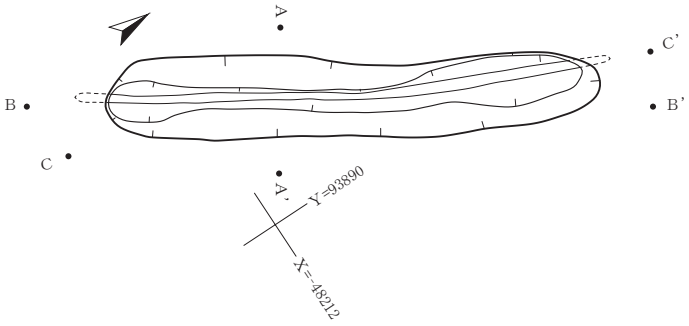
〔９号陥し穴状遺構〕

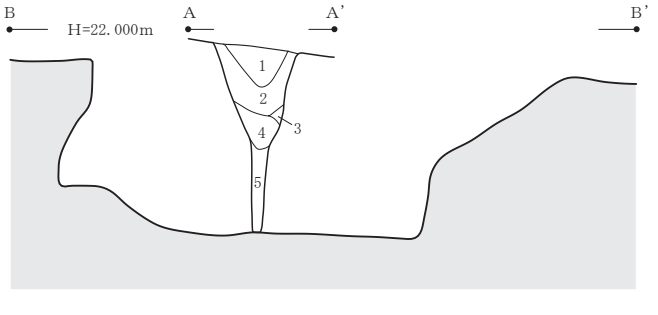


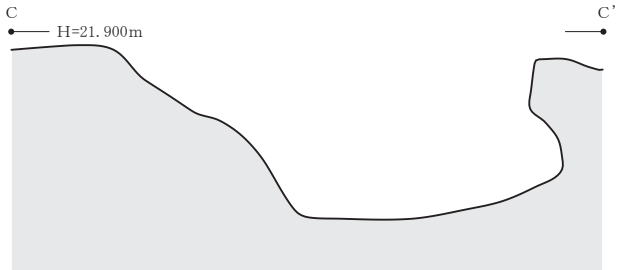


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8) １％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8)10％含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/2)10～15％含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱
5　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) ５％含む

〔10号陥し穴状遺構〕

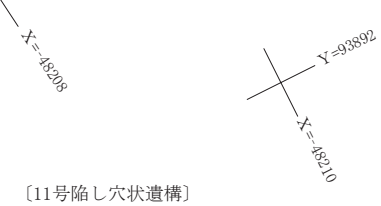


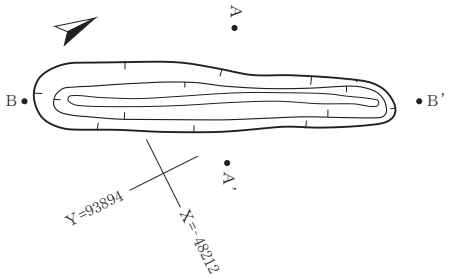


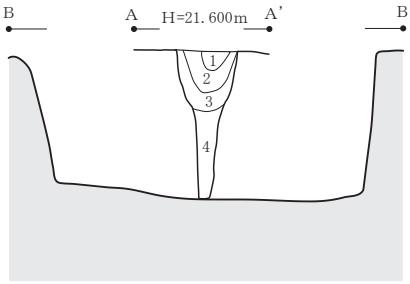


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中
3　10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり中
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8)10％含む
5　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1) ５％混じる

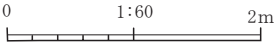
〔11号陥し穴状遺構〕





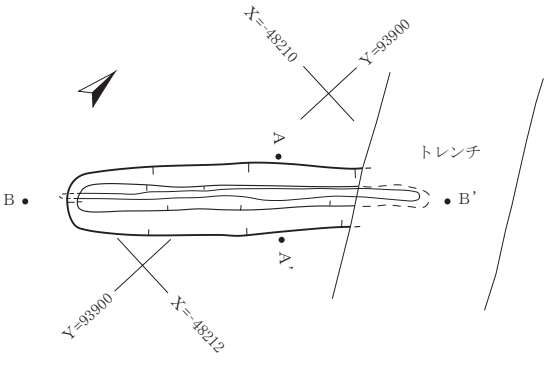


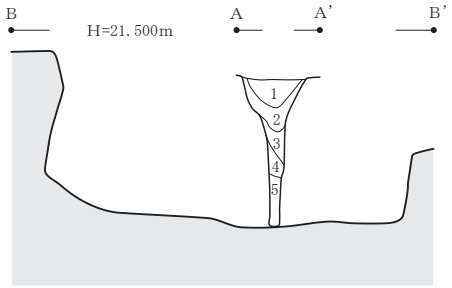
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) ３～５％含む



第152図　９～11号陥し穴状遺構

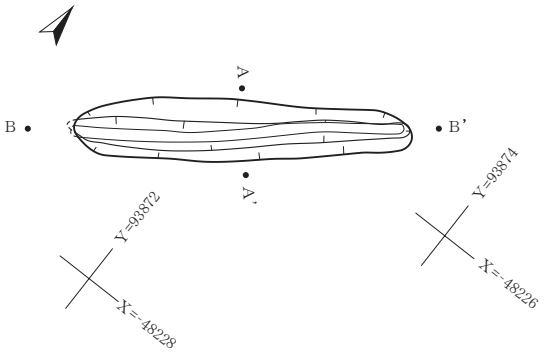
〔12号陥し穴状遺構〕

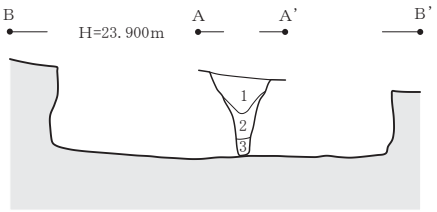




A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
3　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む

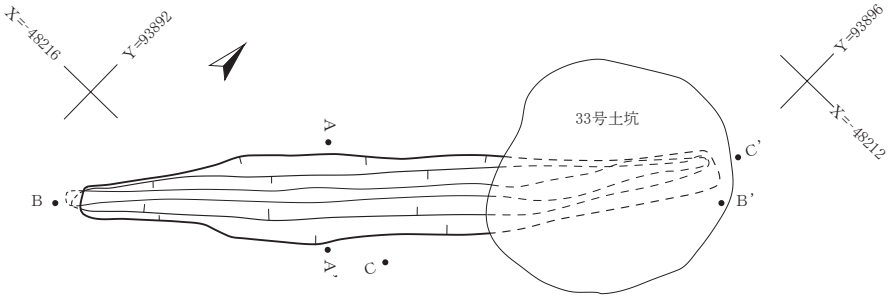
〔13号陥し穴状遺構〕

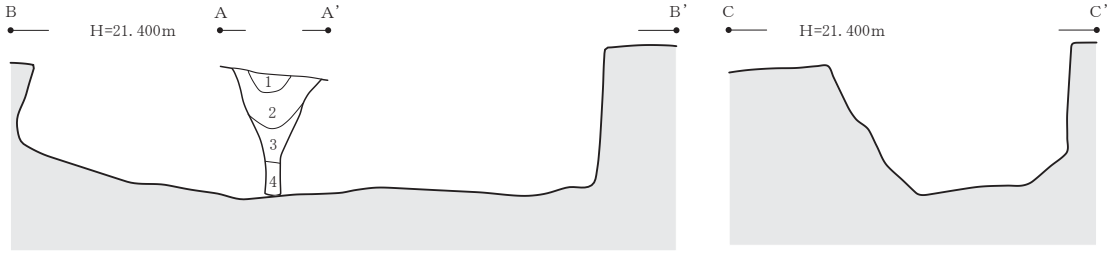




A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒色シルト(10YR2/1) 3～5％含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 7～10％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む

〔14号陥し穴状遺構〕



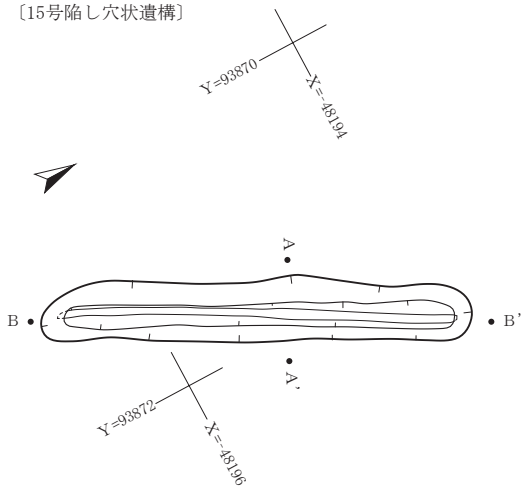


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
2　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)10％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 3％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8)10％含む

0　1:60　2m

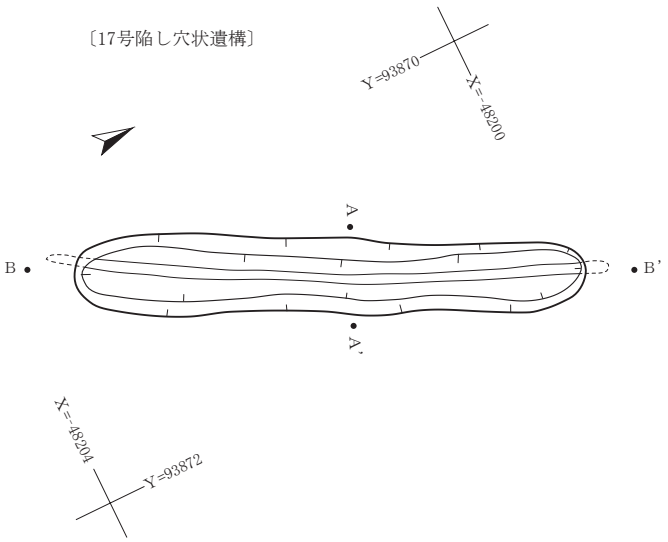
第153図　12～14号陥し穴状遺構

〔15号陥し穴状遺構〕



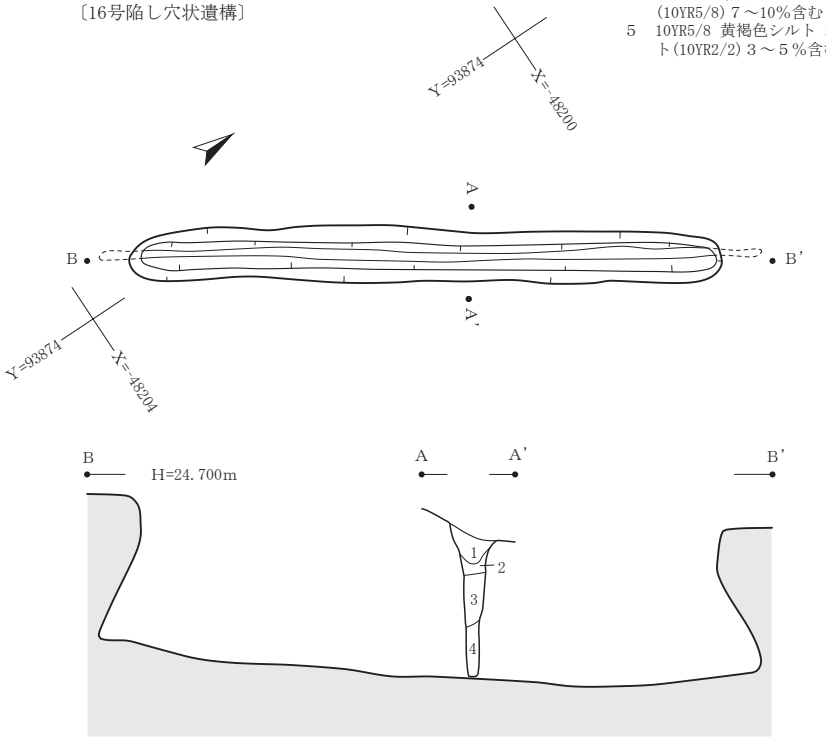
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
3　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 7～10%含む

〔17号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3) 3～5％含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 2～3％含む
3　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり中
4　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8) 7～10%含む
5　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 3～5％含む

〔16号陥し穴状遺構〕

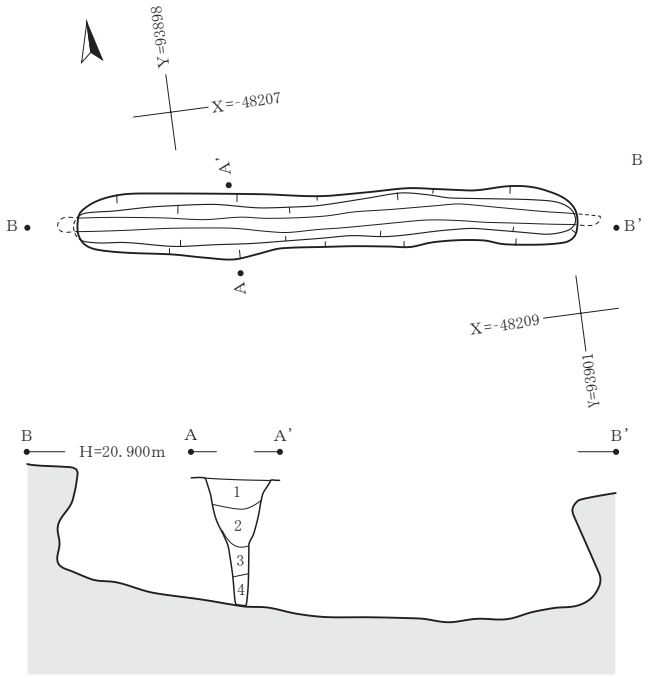


A－A'
1　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり弱
2　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 褐色シルト(10YR4/4)10%含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3～5％含む
4　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり強

0　1:60　2m

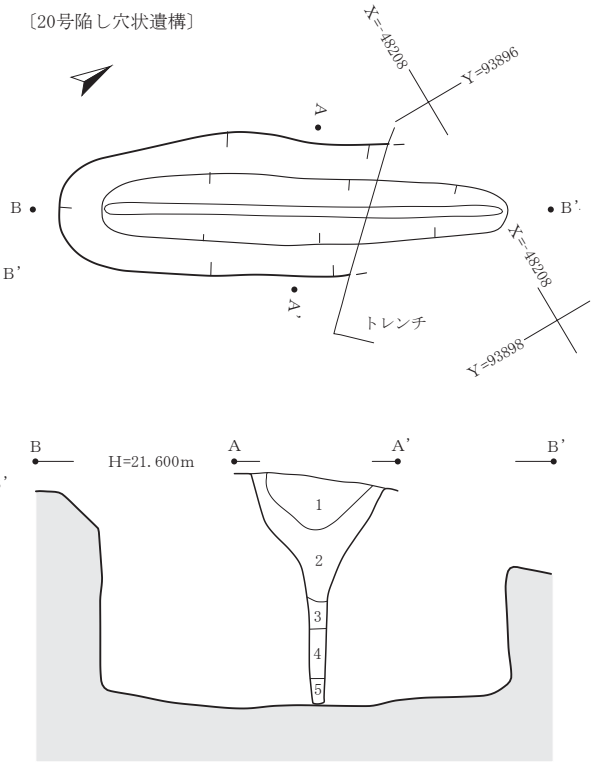
第154図　15～17号陥し穴状遺構

〔18号陥し穴状遺構〕



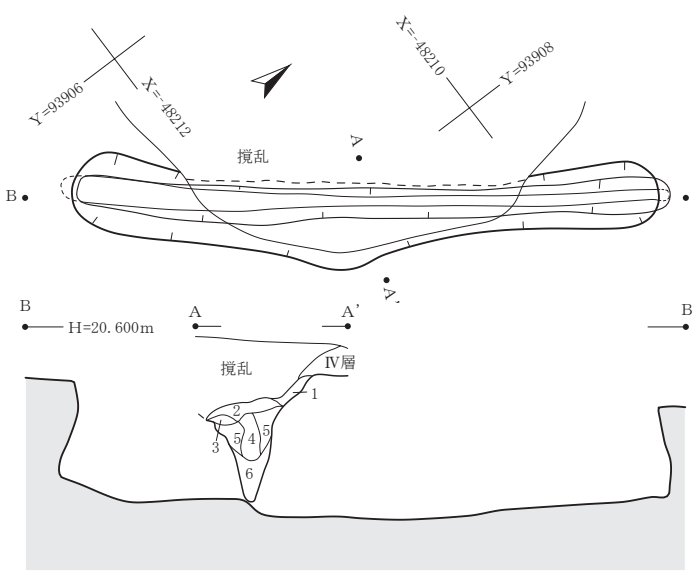
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)15～20%含む
3　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまりなし 黒褐色シルト(10YR2/2) 3 %含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8)10%含む

〔20号陥し穴状遺構〕



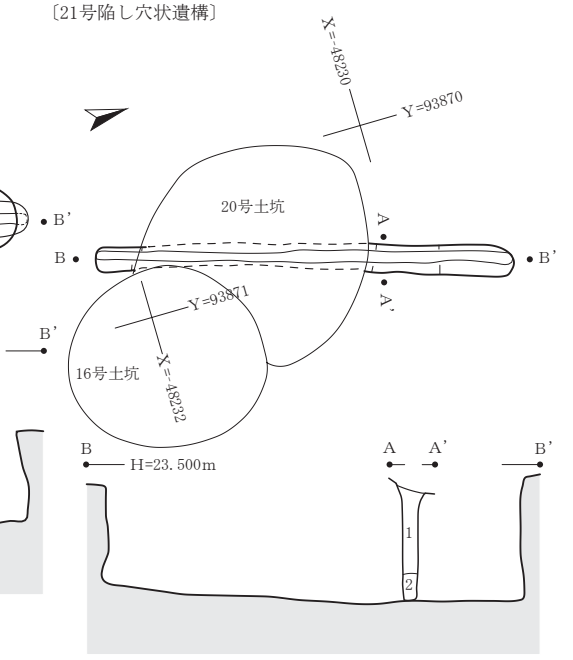
A－A'
1　10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)15%、黒褐色シルト(10YR2/2) 3 %含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/6) 5 %、明黄褐色シルト(10YR6/8) 1 %含む
3　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり中
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中
5　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中

〔19号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3 ～ 5 %含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1 ～ 2 %含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1 %含む
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 2 ～ 3 %含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 2 ～ 3 %含む

〔21号陥し穴状遺構〕

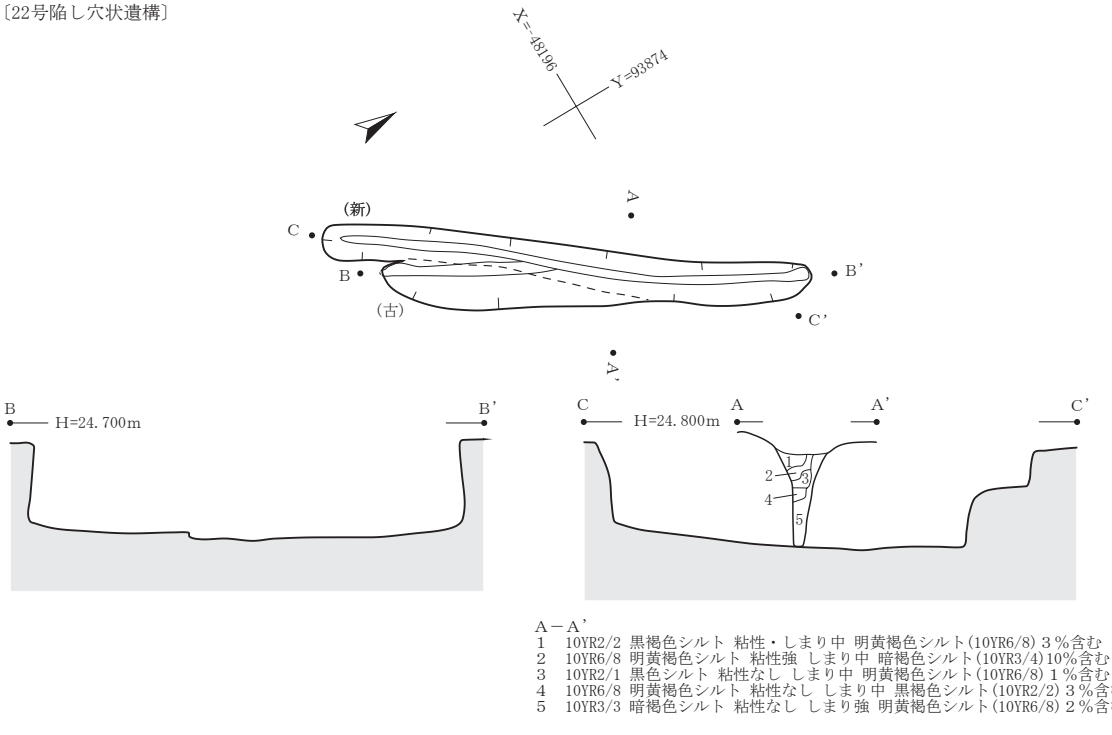


A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり弱
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまりなし

0　1:60　2m

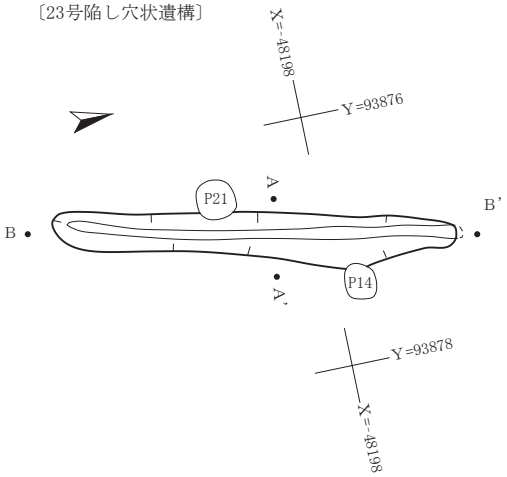
第155図　18～21号陥し穴状遺構

〔22号陥し穴状遺構〕



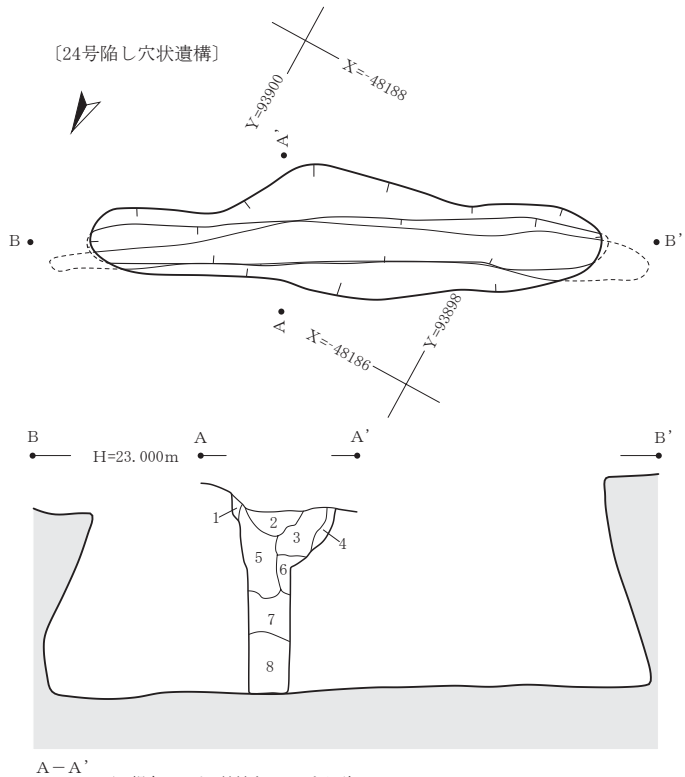
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 3％含む
2　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性強 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4) 10％含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
4　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 3％含む
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) 2％含む

〔23号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1％未満含む
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 (Ⅵ層由来) 黒色シルト(10YR2/1) 5％含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 1～2％含む
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 5％含む
6　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 10～15％含む

〔24号陥し穴状遺構〕

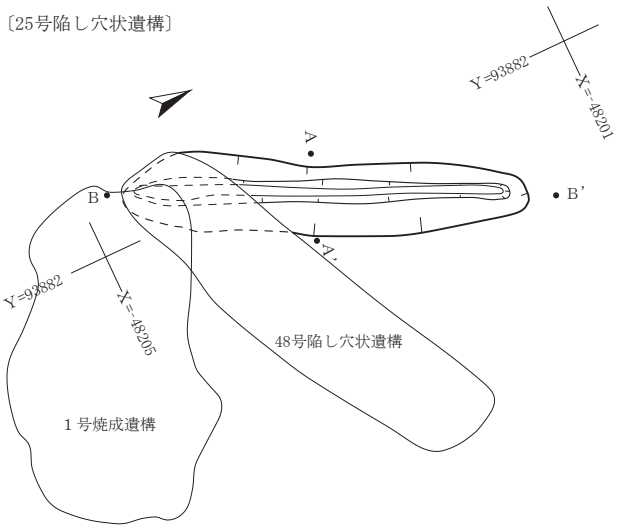


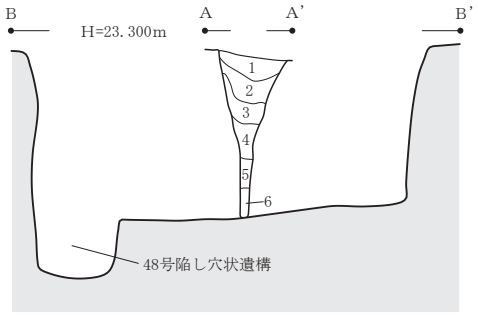
A－A'
1　10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり強
4　10YR4/4 褐色シルト 粘性なし しまり強
5　10YR4/3～4/4 にぶい黄褐～褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5％含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4) 1％未満含む
7　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性強 しまりなし にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 1％未満、黒褐色シルト(10YR2/2) 1％未満含む
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中

0　1:60　2m

第156図　22～24号陥し穴状遺構

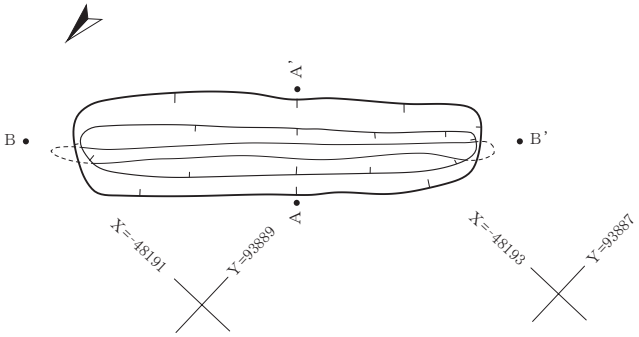
〔25号陥し穴状遺構〕

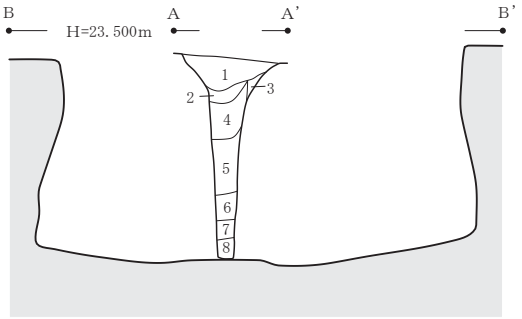




A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 5％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)20～25％含む
4　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6)30％含む
5　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強
6　10YR6/6 明黄褐色シルト40％、10YR3/1 黒褐色シルト60％の混合土層 粘性・しまり強

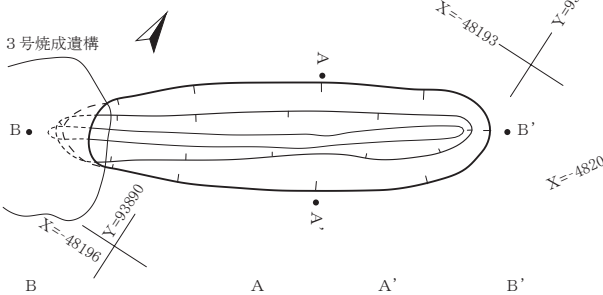
〔26号陥し穴状遺構〕

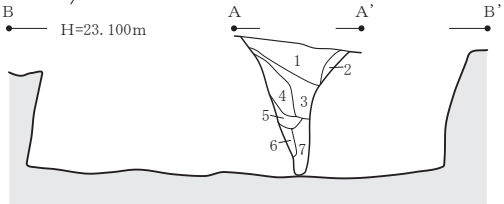




A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR3/2)10～15％含む
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
5　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR3/2)10％含む
6　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10％含む
7　10YR6/6 明黄褐色シルト50％、10YR3/2 黒褐色シルト50％の混合土層 粘性・しまり強
8　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強

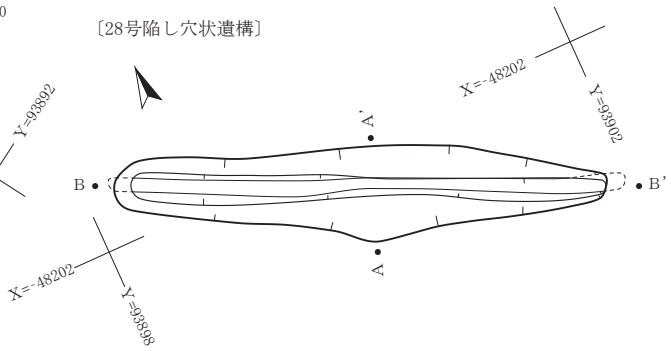
〔27号陥し穴状遺構〕

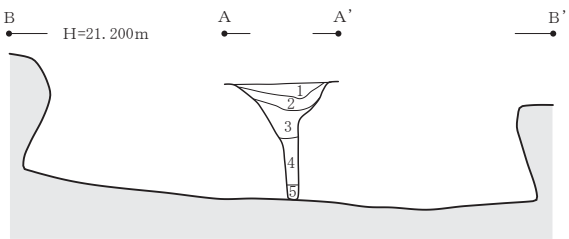




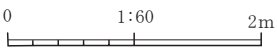
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/3)10％含む
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3％含む
5　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/3)10％含む
6　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 (Ⅵ層掘りすぎ)
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10％含む

〔28号陥し穴状遺構〕



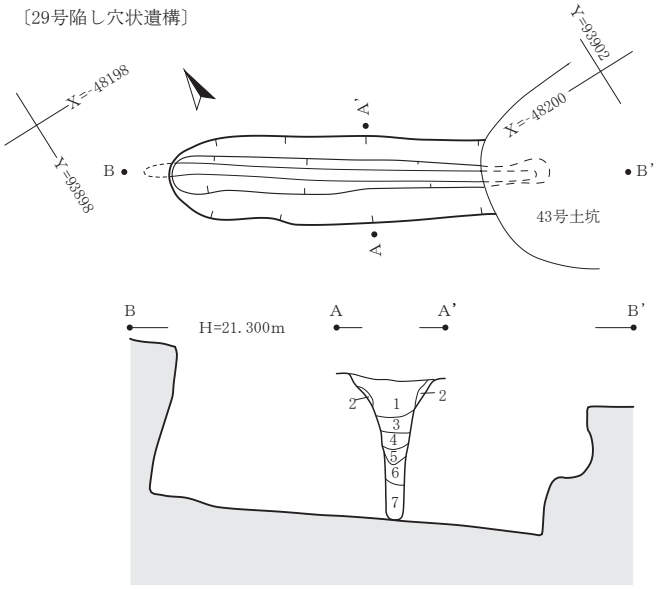


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黒色シルト(10YR2/1) 5～10％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト50％、10YR6/6 明黄褐色シルト50％の混合土層 粘性・しまり中
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5～7％含む



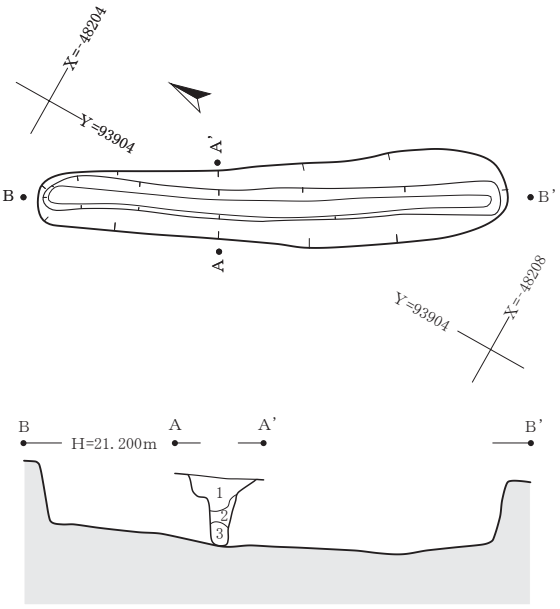
第157図　25～28号陥し穴状遺構

〔29号陥し穴状遺構〕



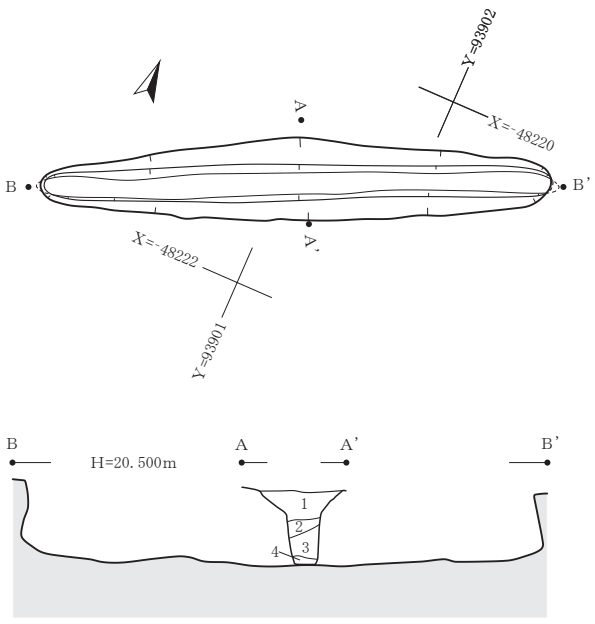
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト50%、10YR3/1 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性強 しまり中
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5～7％含む
5　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強
6　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
7　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中

〔30号陥し穴状遺構〕



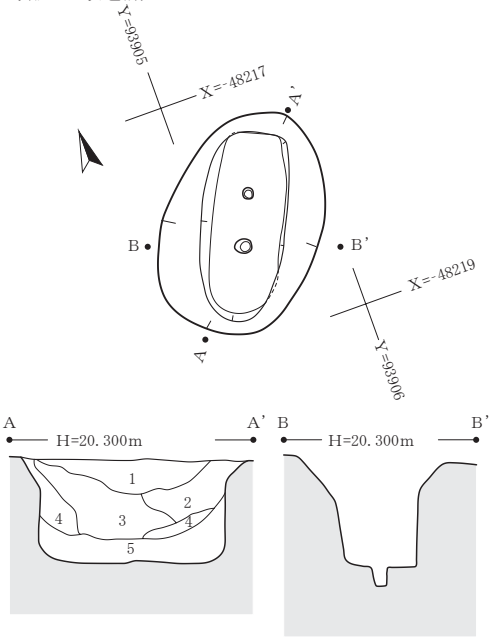
A－A'
1　10YR3/1 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり強
2　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
3　10YR3/1 黒褐色シルト80%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%の混合土層 粘性・しまり強

〔31号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 褐色シルト粒(10YR4/6 径2～3㎜)10%含む
3　10YR4/6 褐色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト粒(10YR3/2 径1～2㎜) 5～10%、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径3～5㎜)15～20%含む
4　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強

〔32号陥し穴状遺構〕

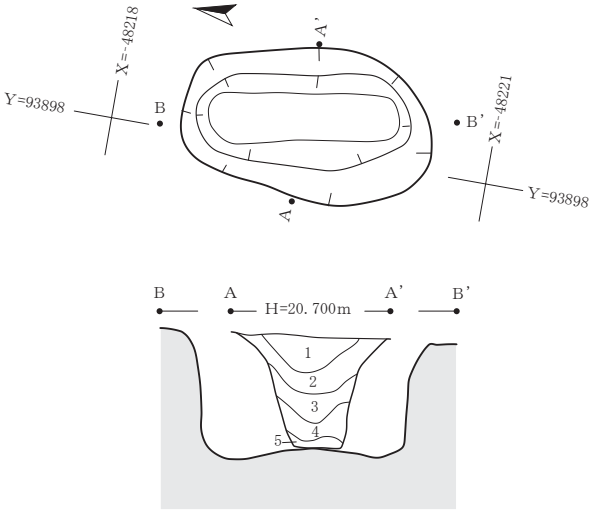


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 灰白色火山灰を20～30%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径3～5㎜) 5～10%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色火山灰粒(10YR6/6 径1～5㎝)20～30%、黒褐色シルト粒(10YR2/2 径5～10cm)10～15%含む(火山灰ブロック堆積)
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色火山灰粒(10YR6/6 径1～2㎝)5～10%含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 黄褐色シルト粒(10YR5/4 径2～5㎜)10～15%、黒色シルト粒(10YR2/1 径 1～3㎜)10～15%含む

0　1:60　2m

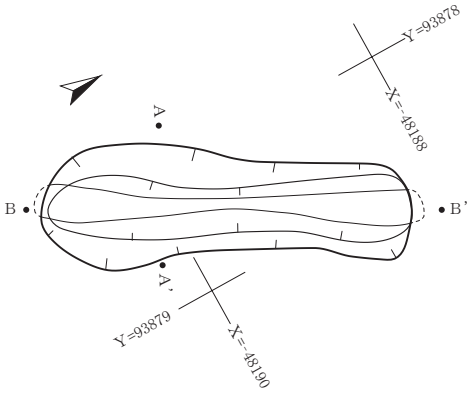
第158図　29～32号陥し穴状遺構

〔33号陥し穴状遺構〕



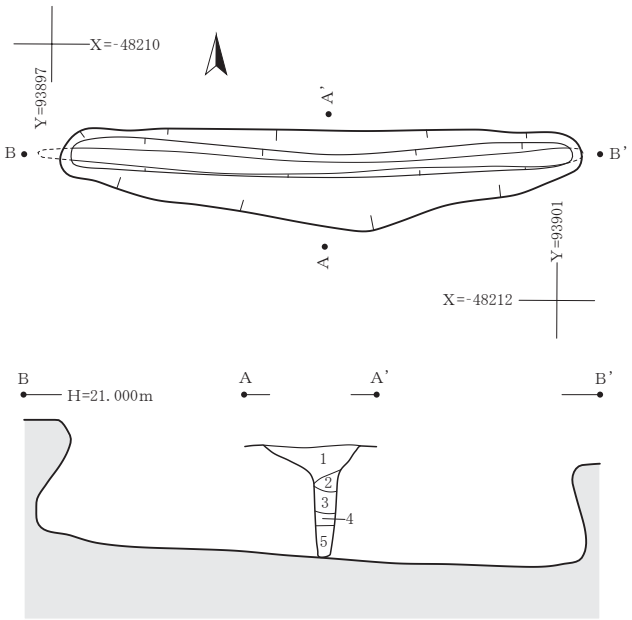
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 径２～３㎜の灰白色火山灰を５～10%、径１～２㎜の炭化物粒１～２%含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト粒(10YR2/3 径５～７㎜) ５～10%、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～２㎜) ２～３%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色シルト粒(10YR2/3 径５～７㎜)10%、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径５～７㎜)10～15%含む
4　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径５～７㎜)10～20%、Ⅴ層ブロック５%含む
5　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径７～10㎜)20～30%含む

〔34号陥し穴状遺構〕



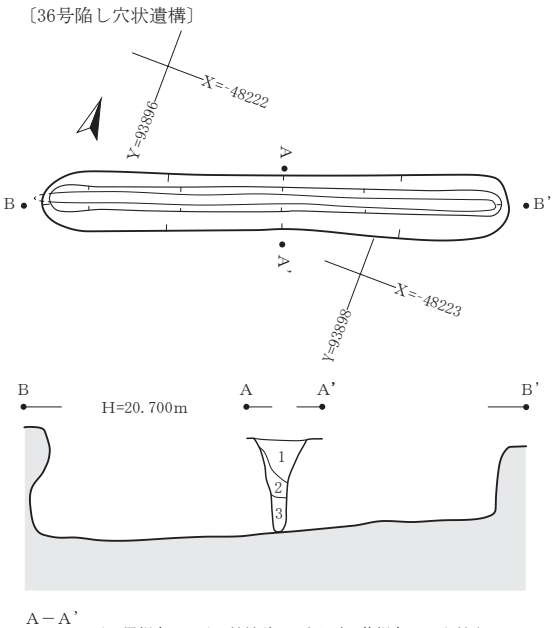
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10～15%含む
2　10YR3/1 黒褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり強
3　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強

〔35号陥し穴状遺構〕

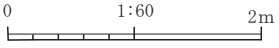


A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 径１～２㎜の白色砂粒２～３%、褐色シルト(10YR4/4) ５%含む
2　10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト粒(10YR2/3 径１～２㎜) ５%、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径２～３㎜)10%含む
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径３～５㎜) 20～30%、Ⅴ層ブロック１%含む
4　10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 褐色シルト粒(10YR4/6 径３～５㎜) 10%、黄褐色シルト(10YR5/6 径５㎜)10～20%含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径５～７㎜) 20%含む

〔36号陥し穴状遺構〕

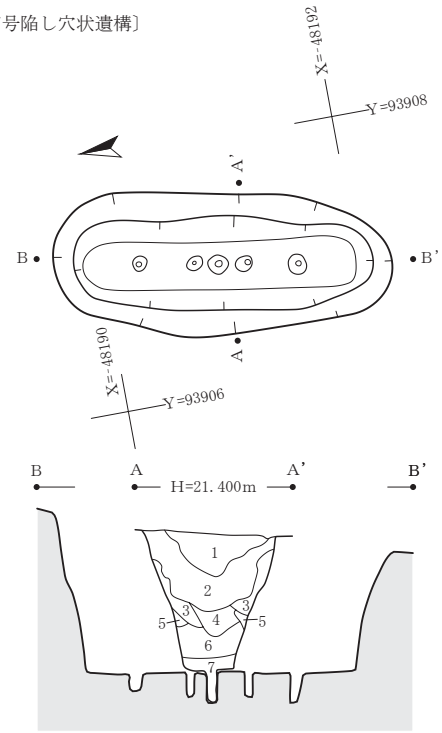


A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～３㎜)10～15%含む
2　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強 褐色シルト粒(10YR4/6 径３～４㎜)10%、黒褐色シルト粒(10YR3/2 径３～５㎜) ５～10%含む
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 褐色シルト粒(10YR4/6 径１～３㎜)10%、黒色シルト粒(10YR2/1 径１～２㎜) ３～５%含む



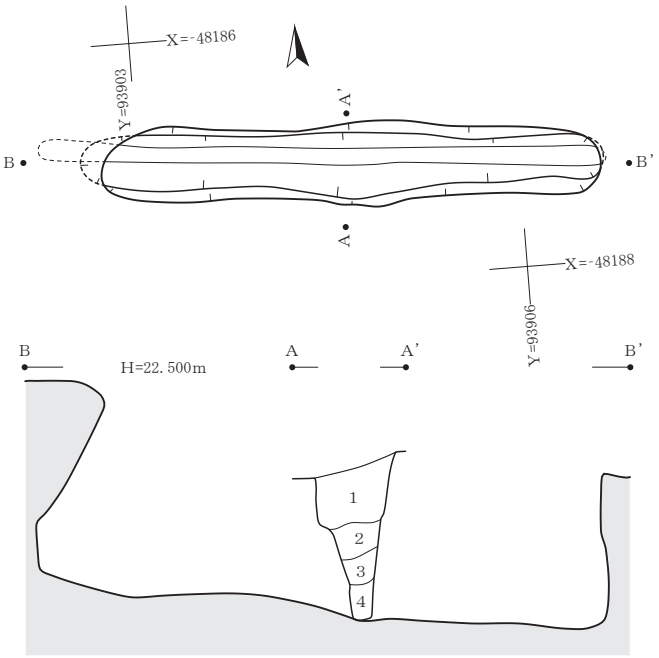
第159図　33～36号陥し穴状遺構

〔37号陥し穴状遺構〕



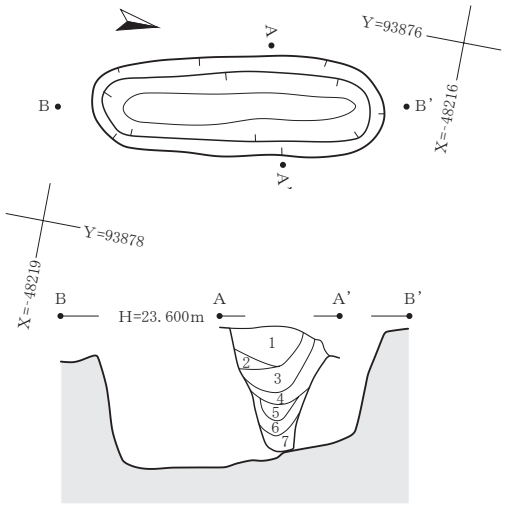
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 火山灰20～30％、径２～５㎜の炭化物粒５％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 火山灰３～５％、白色砂粒３～５％含む
3　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径２～３㎜) １％、径１～２㎜の白色砂粒１％含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト粒(10YR3/3 径２～３㎜)10～15%含む
5　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強
6　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト粒(10YR3/3 径５～７㎜)10%含む
7　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト粒(10YR2/3 径３～５㎜) １～２%、 黄褐色シルト粒(10YR 5/6 径１～３㎜) ２～３％含む

〔38号陥し穴状遺構〕



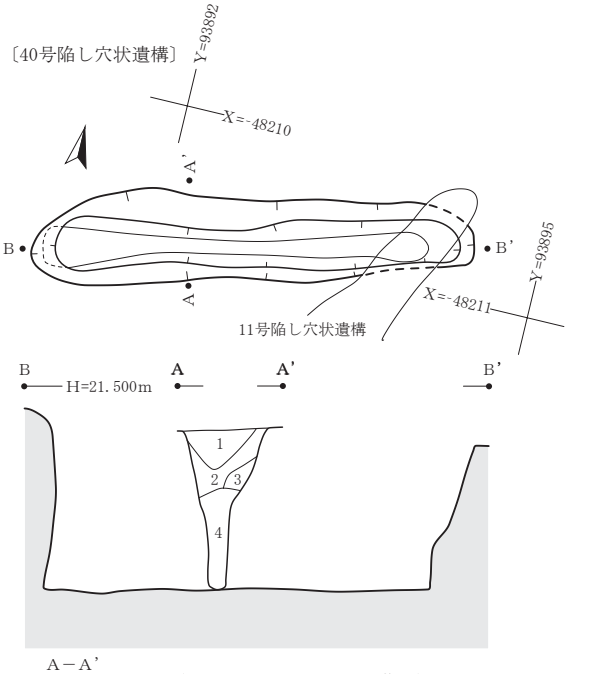
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 径２～３㎜の礫粒１％含む
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト粒(10YR4/4 径２～３㎜)10～15%、径１～２㎜の白色砂粒１％含む
3　10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり弱 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径３～４㎜)10～15%、黒褐色シルト粒(10YR2/2 径１～２㎜) １～２%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 褐色シルト粒(10YR4/4 径２～３㎜) ５～10%含む

〔39号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) ３％含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/8) １％含む
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8)10%含む
6　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性強 しまり弱 褐色シルト(10YR4/4)10%含む
7　10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性強 しまり弱

〔40号陥し穴状遺構〕

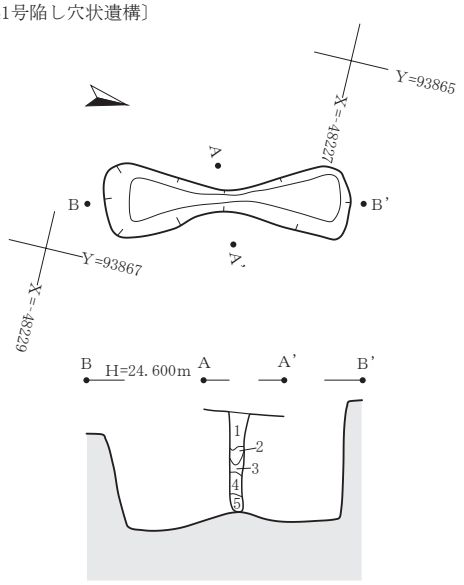


A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～２㎜) １～２%含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 暗褐色シルト粒(10YR3/3 径１～２㎜) １～２%、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径３～５㎜)10～15%含む
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト粒(10YR2/3 径３～５㎜) ５～10%含む
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径１～３㎜)10～15%、径１㎜の炭化物粒１%、径１㎜の白色砂粒１～２%含む

0　1:60　2m

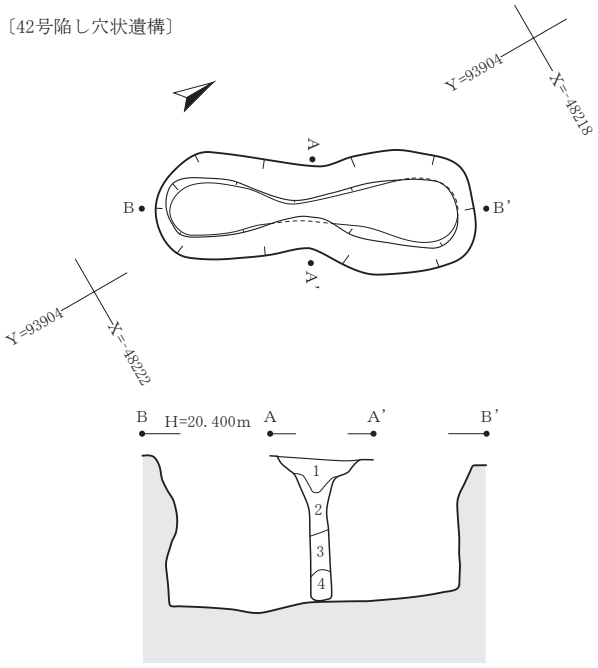
第160図　37～40号陥し穴状遺構

〔41号陥し穴状遺構〕



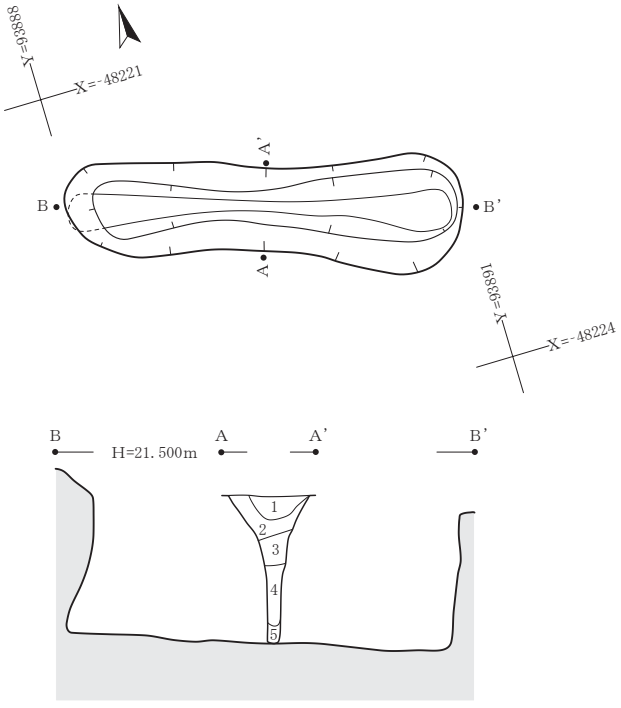
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 褐色シルト(10YR4/6) 1％含む
3　10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり中
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 1％含む
5　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/8) 5％含む

〔42号陥し穴状遺構〕



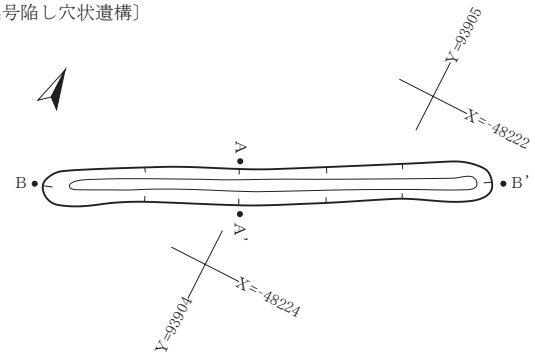
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト粒(10YR 2/3 径1～2㎜) 5％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径1～2㎜) 1～2％含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 黄褐色シルト粒(10YR 5/6 径5～10㎜)15～20％含む
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり強 暗褐色シルト粒(10YR 3/3 径2～3㎜) 1～2％含む
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1㎜白色砂粒1％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径1～3㎜) 2～3％含む

〔43号陥し穴状遺構〕

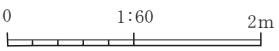


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 暗褐色シルト粒(10YR 3/4 径3～4㎜) 5％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径5～7㎜)10～15％含む
3　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト粒 (10YR 2/2 径1～2㎜)10％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径1～2㎜)10％含む
4　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径1～2㎜の白色砂粒2～3％、黄褐色シルト粒(10YR5/6 径1～2㎜)20～30％含む
5　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルト粒(10YR3/4 径1～2㎜)10％含む

〔44号陥し穴状遺構〕

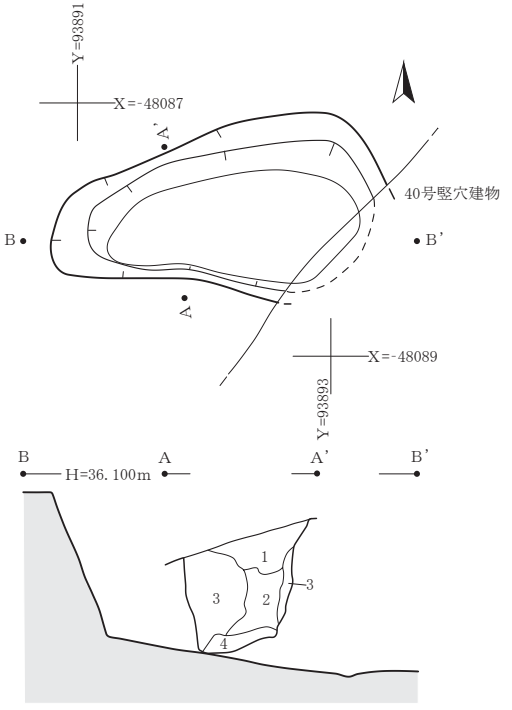


A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 径1～2㎜の白色砂粒1％、暗褐色シルト粒(10YR3/3 径3～5㎜) 5～10％含む



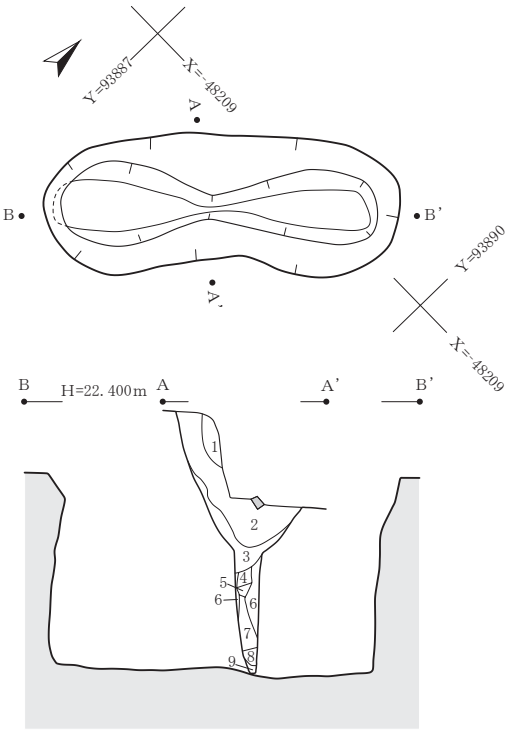
第161図　41～44号陥し穴状遺構

〔45号陥し穴状遺構〕



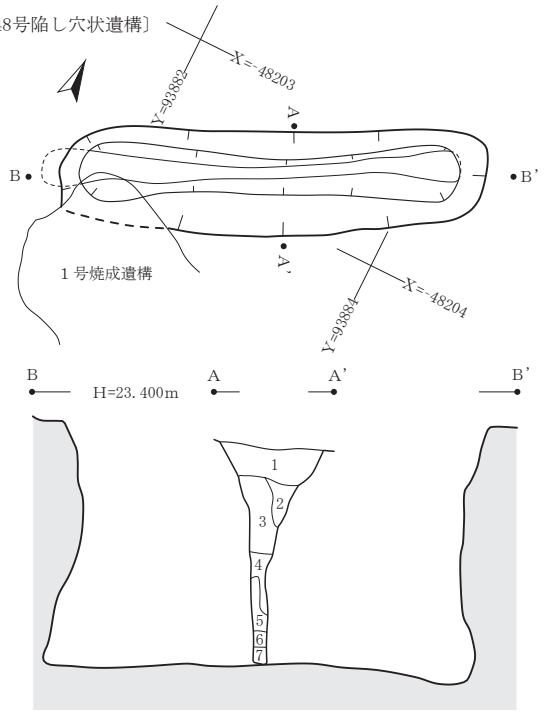
A－A'
1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱
2　10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 褐色シルト(10YR4/4)がブロック状に混じる
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱 褐色シルト(10YR4/4)に暗褐色シルト(10YR3/4)がブロック状に混じる 斜面下側では一部が互層になる
4　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性中 しまり弱

〔46号陥し穴状遺構〕



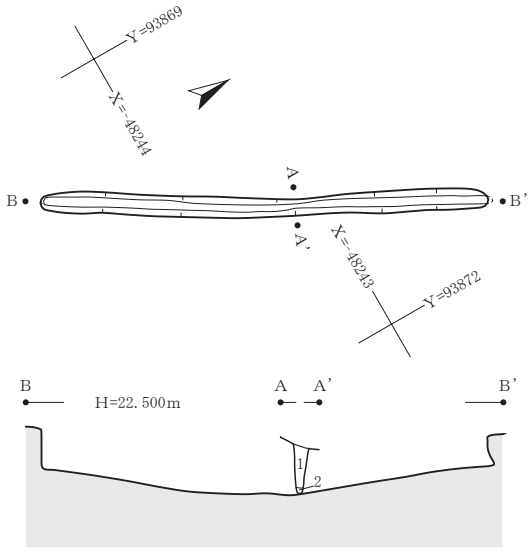
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3％含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強
3　10YR2/2 黒褐色シルト20%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト50%、10YR3/1 黒褐色シルト30%の混合土層 粘性・しまり強
4　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
5　10YR3/1 黒褐色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト30%の混合土層 粘性・しまり強
6　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 Ⅵ層
7　10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土質シルト(10YR6/6)10%含む
8　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 黒色シルト(10YR2/1)縞状に10%含む
9　10YR2/1 黒色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト50%の混合土層 粘性強 しまり中

〔48号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 5％含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1％含む
4　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1) 5％含む
5　10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強
6　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
7　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1)10～15%含む

〔47号陥し穴状遺構〕

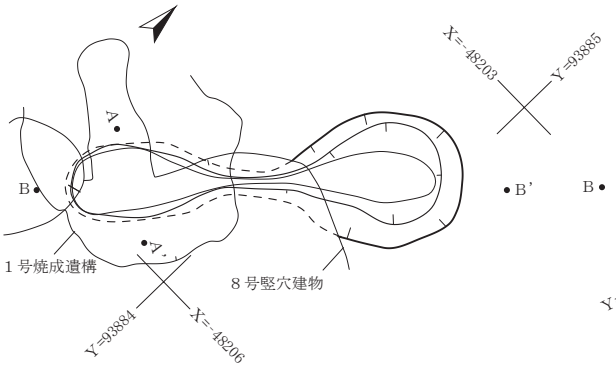


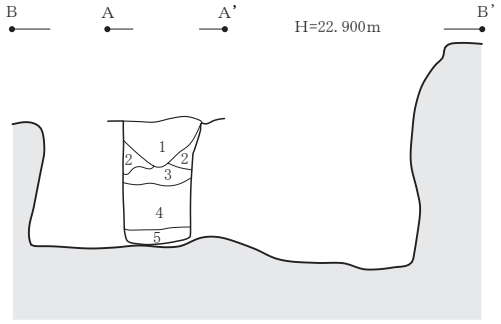
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中

0　1:60　2m

第162図　45～48号陥し穴状遺構

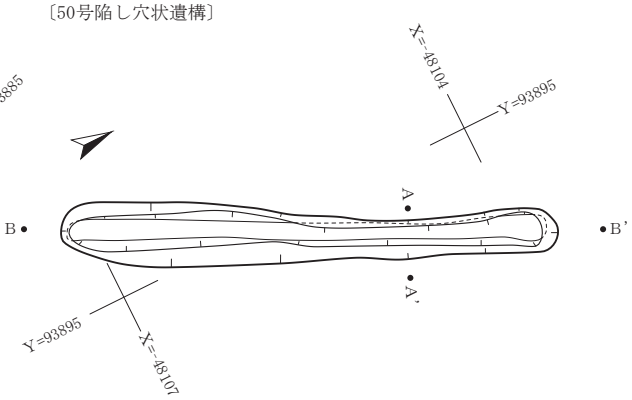
〔49号陥し穴状遺構〕

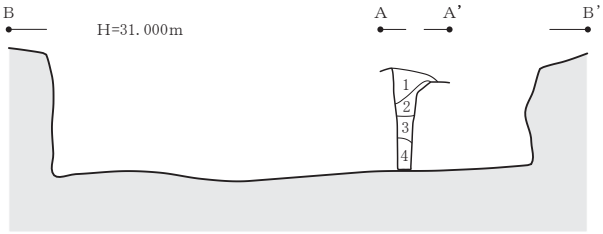




A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1～2%含む
2　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 3～5%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)10%含む
4　10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 5～7%含む
5　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり強

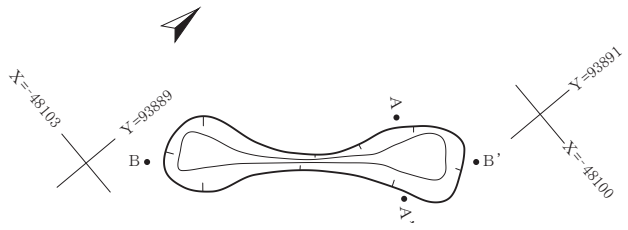
〔50号陥し穴状遺構〕

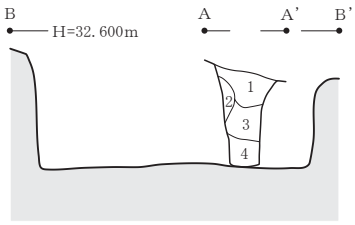




A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3%含む
2　10YR3/2 黒褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり強
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1～2%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1%含む

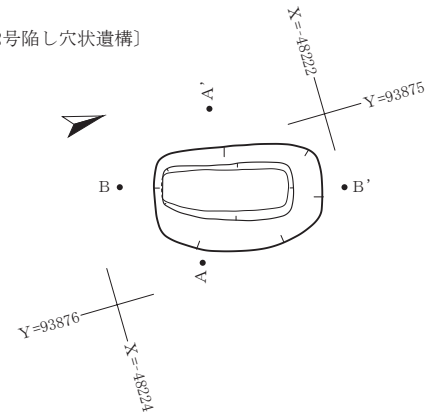
〔51号陥し穴状遺構〕

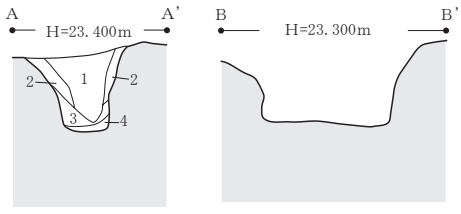




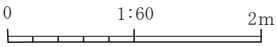
A－A'
1　10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり強
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)10%含む
3　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 褐色シルト(10YR4/6) 3%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 褐色シルト(10YR4/6) 5%含む

〔52号陥し穴状遺構〕



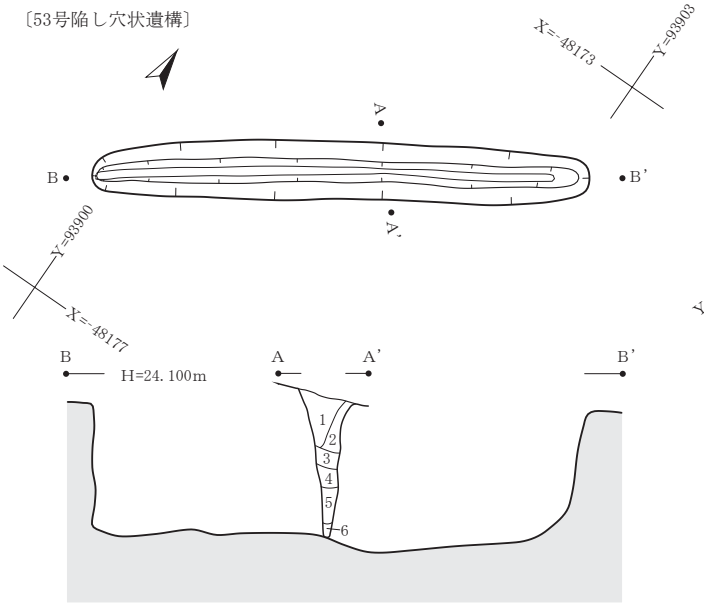


A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径2～3㎜礫粒3%含む
2　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 3～5%含む
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/2)10%含む
4　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6) 1%含む



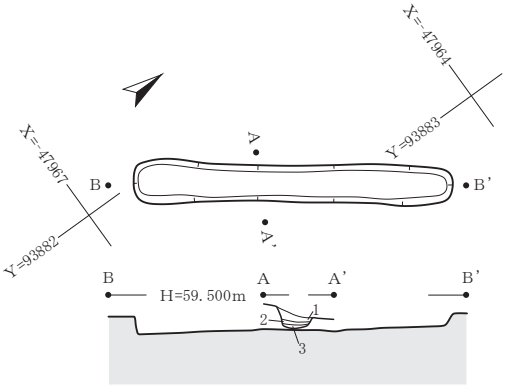
第163図　49～52号陥し穴状遺構

〔53号陥し穴状遺構〕



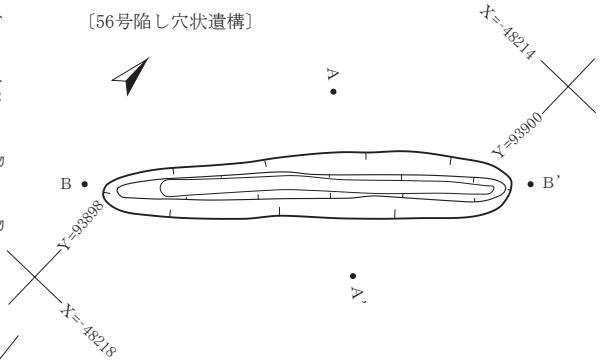
A－A'
1　10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/4 径10～30㎜)30%、黒褐色粘土質シルトブロック(10YR 2/2 径10～30㎜)10%、径１～２㎜の炭化物１%、径１～２㎜の白色礫１%含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径30～50㎜)30%、径１～２㎜の炭化物１%、径１～２㎜の白色礫１%含む
3　10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径１～２㎜の炭化物１%、径１～２㎜の白色礫１%含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径１～２㎜の炭化物１%含む
5　10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径１～２㎜の炭化物１%、径１～２㎜の白色礫１%含む
6　10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径１～２㎜の炭化物１%、径１～２㎜の白色礫１%混入

〔55号陥し穴状遺構〕



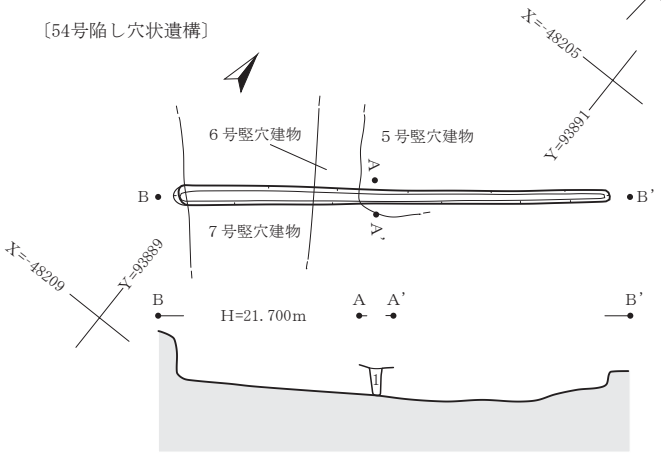
A－A'
1　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 炭化物粒１～３%含む
2　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱
3　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト(地山)

〔56号陥し穴状遺構〕



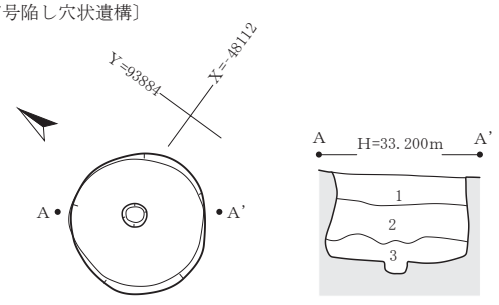
A－A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 褐色シルト(10YR4/4) １%未満含む
2　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
3　10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 Ⅵ層由来)10%含む

〔54号陥し穴状遺構〕



A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) ３～５%含む

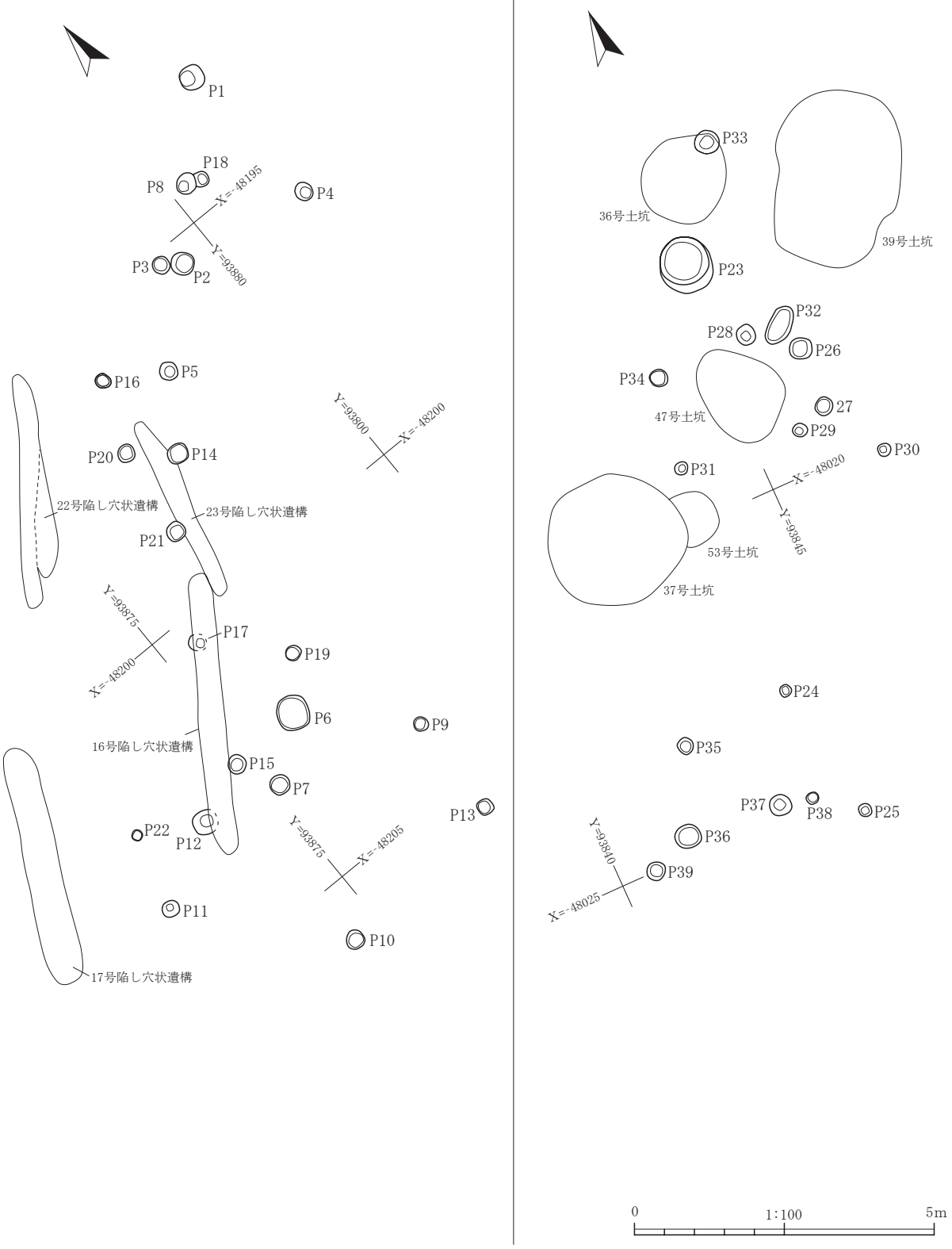
〔57号陥し穴状遺構〕



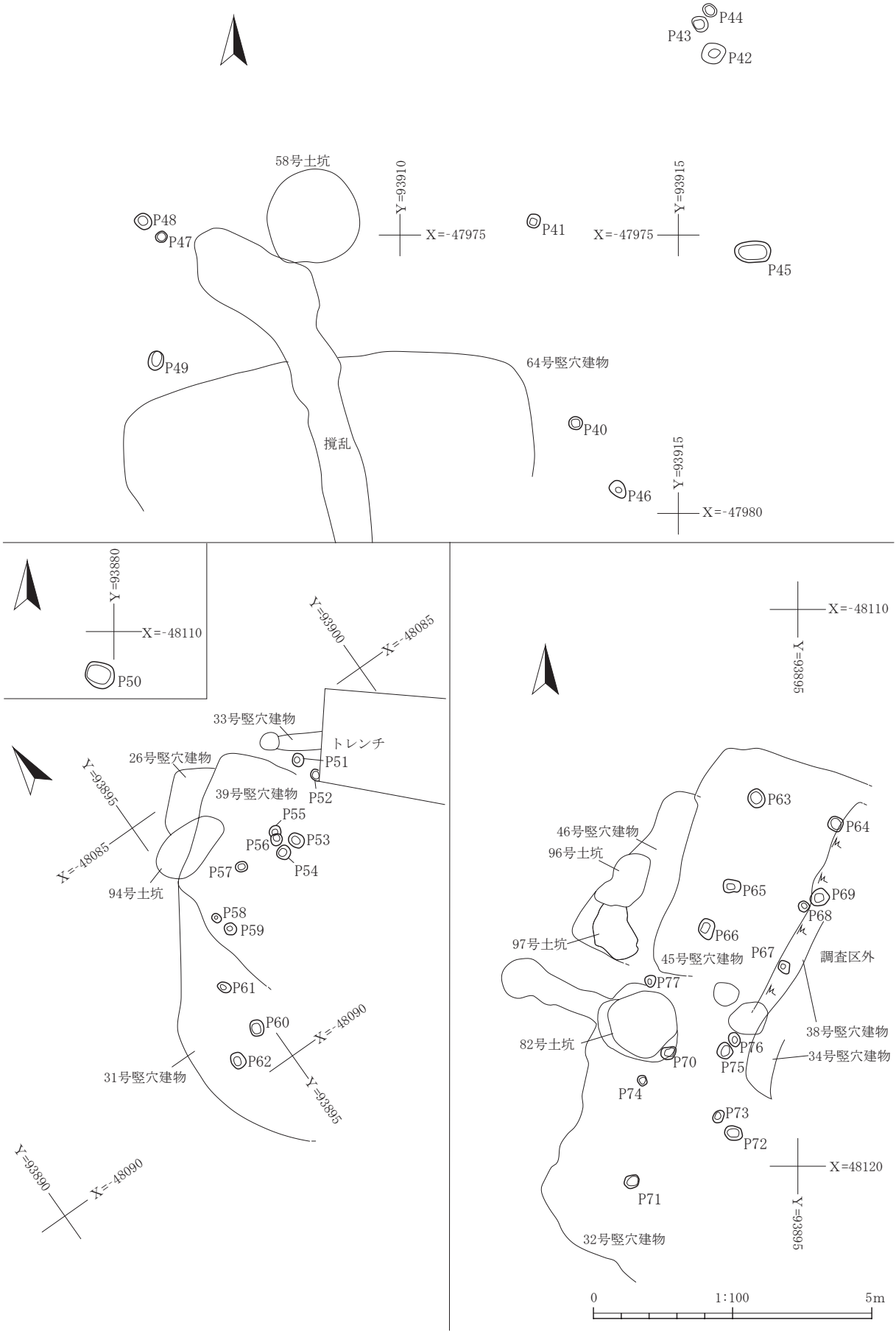
A－A'
1　10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 褐色シルト(10YR4/6) ３%、炭化物１%含む
2　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6) ５%含む
3　10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 褐色シルト(10YR4/6) ３%含む

0　1:60　2m

第164図　53～57号陥し穴状遺構



第165図　柱穴分布図1



第166図　柱穴分布図2

第３表　竪穴建物内柱穴一覧

遺構名		長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
１号竪穴建物	1	21	20	16	19.70	
	2	23	20	25	19.67	
	3	(26)	26	11	19.87	遺構内の土坑２に切られる
２号竪穴建物	1	32	26	52	21.20	
	2	31	28	48	21.09	
	3	29	27	56	20.96	
	4	24	24	25	21.05	
３号竪穴建物	1	44	43	36	23.07	
	2	28	22	35	23.09	
	3	32	31	19	22.82	
	4	48	(48)	28	22.88	１号畝間状遺構に切られる
５号竪穴建物	1	19	16	17	21.22	
６号竪穴建物	1	31	27	48	20.89	
	2	29	22	47	20.88	
	3	27	25	18	20.96	
	4	29	23	19	20.98	
	5	32	32	42	20.91	
10号竪穴建物	1	34	25	56	19.58	
	2	26	26	44	19.73	
12号竪穴建物	1	73	38	37	23.36	
	2	74	56	30	23.22	
13号竪穴建物	1	17	14	20	22.27	
	2	31	28	46	21.82	
	3	31	30	35	21.82	
	4	26	22	23	22.11	
	5	23	18	20	22.11	
	6	23	18	16	22.04	
	7	33	28	21	21.97	
	8	25	24	78	21.59	
14号竪穴建物	1	20	(19)	11	24.23	遺構内の壁溝に切られる
16号竪穴建物	1	20	16	53	20.94	
20号竪穴建物	1	14	14	32	31.93	
	2	13	12	25	31.85	
	3	14	13	24	32.02	
	4	15	12	24	31.87	
	5	15	12	27	31.81	
	6	15	13	45	31.66	
21号竪穴建物	1	41	42	38	32.46	
	2	36	34	18	35.74	
	3	46	41	16	32.69	
22号竪穴建物	1	51	49	23	32.70	
	2	56	54	25	32.62	
	3	49	46	20	32.70	
	4	89	43	25	32.63	
	5	43	38	24	32.65	
23号竪穴建物	1	29	19	41	35.41	
	2	33	30	50	35.30	
	3	30	24	42	35.33	
	4	42	31	29	35.79	
24号竪穴建物	1	55	42	4	30.54	
	2	24	19	14	30.85	
	3	27	17	43	30.23	
	4	52	47	100	29.69	
	5	41	37	45	30.23	
	6	22	18	25	30.57	

遺構名		長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
25号竪穴建物	1	25	24	43	34.04	
	2	29	25	8	34.08	
	3	24	18	37	34.07	
	4	19	(14)	20	34.30	
27号竪穴建物	1	22	20	36	34.48	
28号竪穴建物	1	49	45	10	34.16	
	2	20	19	35	33.88	
	3	24	25	52	33.67	
	4	19	19	12	34.06	
	5	26	23	16	34.13	
	6	23	22	20	34.08	
	7	55	49	10	34.19	
30号竪穴建物	1	15	14	30	36.93	
	2	29	22	30	36.97	
	3	22	22	43	36.85	
	4	21	20	26	37.00	
	5	23	19	47	36.77	
	6	53	49	6	37.20	
	7	21	20	22	37.03	
	8	24	17	34	36.90	
	9	24	21	32	36.88	
	10	23	23	46	36.77	
	11	18	15	25	36.97	
	12	17	15	35	36.79	
	13	21	21	43	36.50	
	14	23	22	42	36.76	
	15	23	20	33	36.85	
	16	19	16	22	36.98	
	17	20	18	15	37.05	
	18	20	20	21	37.01	
	19	24	18	27	36.66	
	20	19	16	25	36.91	
31号竪穴建物	1	29	24	17	33.94	
	2	24	24	92	34.04	
	3	31	26	14	33.95	
	4	26	20	60	34.07	
	5	24	22	4	34.08	
	6	19	14	4	34.11	
	7	22	19	8	34.06	
	8	31	26	48	33.54	
	9	26	26	15	33.78	
	10	30	26	16	33.71	
	11	23	22	30	33.68	
	12	(23)	21	34	33.70	P11に切られる
	13	(23)	18	10	33.75	トレンチに切られる
	14	26	21	22	33.78	
37号竪穴建物	1	32	29	43	46.26	
	2	26	16	46	46.14	
	3	41	36	51	46.41	
	4	22	17	38	46.26	
	5	34	25	15	46.58	
	6	31	(30)	30	46.50	P3に切られる
48号竪穴建物	1	37	33	48	32.68	

遺構名		長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
49号竪穴建物	1	54	45	49	32.53	
	2	31	25	13	32.96	
	3	32	27	28	32.86	
	4	32	29	52	32.76	
	5	47	45	57	32.59	
50号竪穴建物	1	19	16	92	34.13	
	2	32	21	27	33.93	
	3	19	18	26	33.94	
	4	19	16	8	34.12	
	5	19	17	7	34.13	
	6	22	17	16	34.05	
	7	36	35	56	33.67	
	8	16	15	6	34.10	
	9	18	15	4	34.12	
	10	19	15	5	34.17	
	11	20	17	22	33.98	
	12	17	16	20	34.02	
	13	17	15	8	34.11	
53号竪穴建物	1	81	53	28	43.82	
	2	33	48	84	43.73	
	3	17	13	13	41.95	
	4	75	66	15	42.62	
	5	31	28	20	42.01	
	6	32	30	8	42.01	
	7	12	11	12	42.05	
55号竪穴建物	1	34	31	30	43.72	
	2	45	34	9	44.07	
	3	23	21	10	43.96	
	4	29	27	40	43.77	
	5	30	25	13	43.98	
	6	37	32	45	43.81	
	7	(37)	34	20	43.92	調査区範囲に切られる
61号竪穴建物	1	60	58	14	59.20	
	2	61	54	24	58.82	
63号竪穴建物	1	64	62	56	64.34	
	2	54	49	22	64.63	
66号竪穴建物	1	34	33	46	46.20	
69号竪穴建物	1	29	23	29	19.10	
	2	19	19	30	19.08	
	3	34	33	24	18.92	
	4	34	32	41	18.80	
70号竪穴建物	1	16	16	25	19.63	
	2	18	14	30	19.56	
	3	18	16	42	19.40	
	4	17	14	25	19.54	
	5	26	25	20	19.63	
	6	38	33	20	19.63	
	7	31	26	8	19.74	
	8	37	31	8	19.67	
	9	41	36	14	19.55	
	10	21	15	32	19.44	
75号竪穴建物	1	12	12	10	42.6	
	2	12	9	2	42.69	
	3	17	13	8	42.61	

第４表　陥し穴状遺構一覧

遺構名		１号陥し穴状遺構	２号陥し穴状遺構	３号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＢ４ｃ・４ｄ	ＶＡ７ｐ・８ｏ	ＶＡ５ｔ・ＶＢ５ａ
検出状況		Ⅴ層	13号竪穴建物の床面で検出	Ⅴ層
重複関係		なし	13号竪穴建物と重複し、これより古い	北端が１号鍛冶炉と重複し、これより古い
形状	平面形	溝状	溝状	長楕円形
	断面	Ⅴ字状	Ⅴ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	345×51	336×56	289×75
	底部径	341×23	367×7	262×18
	深さ	54～74	88～94	103～121
長軸方向		Ｎ－59°－Ｅ	Ｎ－42°－Ｅ	Ｎ－37°－Ｅ
堆積土		上位は黒色シルト、中～下位は黒褐色シルト	上位は黒褐色シルト、中～下位は暗褐色シルトと黒褐色シルトの互層	上位は黒色シルト、中～下位は黒褐色シルト
底面の特徴		北東側オーバーハング	両端オーバーハング	南西側低い
遺物				
図版		150	150	150
写真図版		151	151	151

遺構名		４号陥し穴状遺構	５号陥し穴状遺構	６号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＡ５ｓ	ＶＢ３ｂ・４ｂ・３ｃ	ＶＢ３ｃ
検出状況		Ⅳ層	Ⅳ層	Ⅳ層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Ｙ字状	Ⅴ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	327×50	257×54	346×41
	底部径	367×8	260×12	342×10
	深さ	113～124	57～82	57～85
長軸方向		Ｎ－53°－Ｅ	Ｎ－59°－Ｅ	Ｎ-40°－Ｅ
堆積土		黒褐色シルト主体で上位の一部に黒色シルト	黒褐色シルト主体で上位の一部に黒色シルト	上・下位は黒褐色シルト、中位は黒色シルトと明黄褐色シルトの混合土
底面の特徴		両端がやや高いが平坦に近い	中央が深い。北東側がオーバーハング	高低差大きい
遺物				
図版		150	151	151
写真図版		151	152	152

遺構名		7号陥し穴状遺構	8号陥し穴状遺構	9号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ⅣB20a・20b	ⅣA19o	ⅤA4r・4s
検出状況		Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅴ層
重複関係		なし	なし	南西端が14号土坑と重複し、これに切られる
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	V字状	Y字状	V字状
規模	開口部径	219×27	292×48	(338)×54
	底部径	227×12	276×7	404×10
	深さ	66～74	60～97	86～95
長軸方向		N－65°－E	N－30°－E	N－55°－E
堆積土		黒褐色シルト主体で、上位の一部に黒色シルト	黒褐色シルト主体で、下位は黄褐色シルトが混じる	上位は黒色シルト、中位はにぶい黄褐色シルト、下位は黒褐～暗褐色シルト
底面の特徴		北東側がオーバーハング、底は凹凸があり、北東側に向かって下っている	凹凸があり、両端が低い	両端オーバーハング、南西側に向かって高くなっている
遺物				
図版		151	151	152
写真図版		152	152	153

遺構名		10号陥し穴状遺構	11号陥し穴状遺構	12号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ⅤA2s・3r	ⅤA3s	ⅤA3t・ⅤB3a
検出状況		Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅳ層
重複関係		なし	40号陥し穴状遺構と重複し、これよりも新しい	35号陥し穴状遺構と重複し、これよりも新しい
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Y字状	V字状に近い	Y字状
規模	開口部径	392×64	286×56	(232)×57
	底部径	422×7	246×6	283×8
	深さ	104～148	100～116	119～126
長軸方向		N－29°－E	N－27°－E	N－42°－E
堆積土		上位は黒色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は黒褐色シルト混じりの明黄褐色シルト	上位は黒色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は明黄褐色シルト混じりの黒褐色シルト	上位は黒色シルト、中～下位は黒褐色シルト
底面の特徴		両端が高く、オーバーハング、している	北東側に緩く下っている	北側トレンチにより削平。凹凸で南西側が高く、オーバーハングしている
遺物				
図版		152	152	153
写真図版		153	153	153

遺構名		13号陥し穴状遺構	14号陥し穴状遺構	15号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＡ６ｏ	ＶＡ３ｓ・４ｓ・３ｔ	ⅣA19ｏ・20ｏ
検出状況		Ⅳ層	Ⅳ層	Ⅳ層
重複関係		なし	33号土坑と重複し、これに切られている	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｖ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	267×49	505×72	338×49
	底部径	264×7	507×12	317×8
	深さ	55～64	89～113	99～102
長軸方向		Ｎ－53°－Ｅ	Ｎ－42°－Ｅ	Ｎ－28°－Ｅ
堆積土		上位は黒色シルト混じりの黒褐色シルト、中位はにぶい黄褐色シルト、下位は明黄褐色シルトの混じりの黒褐色シルト	上位は黒色シルト、中位は黒褐～暗褐色シルト、下位は黒褐色シルト	黒褐色シルト主体で明黄褐色シルト混じる
底面の特徴		平坦で南西側がオーバーハングしている	凹があり南西側がオーバーハングしている	南西端が高く、両端がオーバーハングしている
遺物				
図版		153	153	154
写真図版		154	154	154

遺構名		16号陥し穴状遺構	17号陥し穴状遺構	18号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ⅣA20ｐ、ＶＡ１ｐ・１ｏ	ＶＡ１ｏ	ＶＡ２ｔ・ＶＢ２ａ
検出状況		Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		なし	なし	位置的に20号陥し穴状遺構と重複する可能性あり
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｖ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	471×37	396×59	397×49
	底部径	542×6	445×6	430×8
	深さ	121～129	106～113	87～104
長軸方向		Ｎ－33°－Ｅ	Ｎ－25°－Ｅ	Ｎ－83°－Ｗ
堆積土		暗褐色シルトと黄褐色シルトが交互に堆積	上位は黒褐色シルト、中～下位は暗褐色シルトと黄褐色シルトが交互に堆積	上位は黒褐色シルト、中位は黄褐色シルト、下位は明黄褐色シルト混じりの黒褐色シルト
底面の特徴		南西端しが高く、両端がオーバーハングしている	南西側に向かって高く、両端がオーバーハングしている	西側に向かって高く、両端がオーバーハングしている
遺物				
図版		154	154	155
写真図版		154	155	155

遺構名		19号陥し穴状遺構	20号陥し穴状遺構	21号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＢ２ｂ・３ｂ	ＶＡ２ｔ・３ｔ	ＶＡ６ｏ・７ｏ
検出状況		Ⅳ層、遺構の中央部に攪乱うける	Ⅳ層、トレンチにより北側の上端削平	Ⅳ層
重複関係		なし	位置的に18号陥し穴遺構と重複する可能あり	16・20号土坑と重複し、これよりも古い
形状	平面形	溝状	長楕円形	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｙ字状	Ｕ字状
規模	開口部径	466×57	(246)×105	331×22
	底部径	482×18	315×8	315×8
	深さ	94～100	166～185	77～98
長軸方向		Ｎ－38°－Ｅ	Ｎ－31°－Ｅ	Ｎ－16°－Ｅ
堆積土		上～中位は明黄褐色シルト混じりの黒褐色シルト、下位は黒褐色シルト混じりの明黄褐色シルト	上位は褐色シルト、中～下位は黒色～黒褐色シルトと明黄褐色シルト層が交互に堆積	黒色シルトを主体とする
底面の特徴		中央部分が低く、両端がオーバーハングしている	平坦ではなく中央部分がやや低い	平坦ではなく中央部分がやや低い
遺物				
図版		155	155	155
写真図版		155	155	156

遺構名		22号陥し穴状遺構	23号陥し穴状遺構	24号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ⅣＡ20ｏ・20ｐ	ⅣＡ20ｐ	ⅣＡ18ｔ、ⅣＢ18a
検出状況		Ⅵ層、南側は掘り直しの可能性あり	Ⅵ層	Ⅵ層、開口部の一部が広がっている
重複関係		北東側半分が重複、新旧あり	P14・21と重複し、これらよりも古い	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｖ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	388×32	319×35	405×98
	底部径	372×7	313×6	476×31
	深さ	67～77	93	145～164
長軸方向		Ｎ－35°－Ｅ	Ｎ－13°－Ｅ	Ｎ－64°－Ｅ
堆積土		上～中位は黒褐色シルトと明黄褐色シルトの互層、下位は暗褐色シルト	全体に黒褐色シルトを主体とするが、上位に暗褐色シルト層と黄褐色シルト層が堆積	上～中位は褐～暗褐色シルト、下位明黄褐色シルト、最下部に黒褐色シルト
底面の特徴		南西側に向かって高くなっている。新旧部分に5cm ほどの段差あり	南側に向かって下がっている	平坦に近い
遺物				
図版		156	156	156
写真図版		156	156	156

遺構名		25号陥し穴状遺構	26号陥し穴状遺構	27号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＡ１ｑ	ⅣＡ19ｒ	ⅣＡ20ｒ・20ｓ
検出状況		Ⅳ層、南側は重複により削平されている	Ⅴ層	Ⅳ層
重複関係		１号焼成遺構より古く、48号陥し穴状遺構よりも新しい	なし	３号焼成遺構と重複し、これよりも古い
形状	平面形	溝状	長楕円形	長楕円形
	断面	Ｖ字状	Ｙ字状	Ｖ字状
規模	開口部径	322×54	322×75	320×84
	底部径	293×6	352×12	328×8
	深さ	124～135	150～168	82～104
長軸方向		Ｎ－25°－Ｅ	Ｎ－46°－Ｅ	Ｎ－56°－Ｅ
堆積土		上～中位は黒褐色シルト、下位は明黄褐色シルト	上位は黒褐色シルト、中位は黒褐～暗褐色シルト、下位は明黄褐色シルトと黒褐色シルトの互層	上位は黒色シルト、中位は黒褐色シルト、下位は明黄褐色シルト
底面の特徴		北側が高い	凹凸で中央低く、両端が高い	凹凸あり
遺物				
図版		157	157	157
写真図版		157	157	157

遺構名		28号陥し穴状遺構	29号陥し穴状遺構	30号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＡ１ｔ、ＶＢ１ａ	ⅣＡ20ｔ、ＶＢ１ａ	ＶＢ１ａ・２ａ・２ｂ
検出状況		Ⅵ層	Ⅴ層	Ⅵ層
重複関係		９号焼土と重複し、これよりも古い	43号土坑と重複し、これよりも古い	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面	Ｙ字状	Ｙ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	388×75	(248)×68	373×53
	底部径	410×8	312×8	351×12
	深さ	86～96	107～116	53
長軸方向		Ｎ－65°－Ｗ	Ｎ－58°－Ｗ	Ｎ－31°－Ｗ
堆積土		上位は黒褐色シルト、中位は黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土、下位は明黄褐色シルト混じりの黒褐色シルト	上位は黒褐色シルト、中位は明黄褐色シルト、下位は明黄褐色シルト混じりの黒褐色シルト	上・下位は黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土、中位は明黄褐色粘土質シルト
底面の特徴		傾斜しており、東側が低い	傾斜しており、東側が低い	傾斜しており、東側が低い
遺物				
図版		157	158	158
写真図版		157	158	158

遺構名		31号陥し穴状遺構	32号陥し穴状遺構	33号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＡ４ｔ、ＶＢ４ａ	ＶＢ４ａ・４ｂ	ＶＡ４ｔ・５ｔ
検出状況		Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	楕円形(小判形)	楕円形(小判形に近い)
	断面	Ｙ字状	Ｙ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	404×65	181×65	200×121
	底部径	415×16	149×55	151×35
	深さ	54～63	79～81	87～101
長軸方向		Ｎ－66°－Ｅ	Ｎ－40°－Ｅ、底部の軸方向は開口部よりも北向き	Ｎ－０°－Ｗ(真北)、底部の軸方向は開口部よりも北西向き
堆積土		上～中位は黒色シルト、下位は褐色シルト、最下部は黒褐色シルト	黒褐色シルトを主体をとする。上位に灰白色シルト(火山灰？)含む	黒褐色シルトを主体とする。上位に灰白色シルト(火山灰？)含む
底面の特徴		平坦であるが、凹凸あり	平坦で杭穴２個あり	中央が高く、両端が低い
遺物		251		
図版		158	158	159
写真図版		158	158	159

遺構名		34号陥し穴状遺構	35号陥し穴状遺構	36号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ⅣＡ18ｐ・19ｐ	ＶＡ３ｔ・ＶＢ３ａ	ＶＡ５ｔ
検出状況		Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		なし	12号陥し穴状遺構と重複し、これよりも古い	なし
形状	平面形	長楕円形	溝状	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｙ字状	Ｖ字状
規模	開口部径	293×90	413×77	370×41
	底部径	309×13	433×8	365×7
	深さ	127～153	86～92	61～84
長軸方向		Ｎ－30°－Ｅ	Ｎ－90°－Ｅ(東西方向)	Ｎ－70°－Ｅ
堆積土		上位は明黄褐色シルト混じりの黒色シルト、中位は黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土、下位は明黄褐色シルト、最下部に黒褐色シルト	上半は黒褐・褐色シルト、下半は黒色シルト主体	上位は黒褐色シルト、中～下位は黄褐色シルト主体
底面の特徴		両端オーバーハング、南側が低い	両端オーバーハング、東側に向かって傾斜して下る	西端オーバーハング、東側に向かって傾斜して上る
遺物				
図版		159	159	159
写真図版		159	159	159

遺構名		37号陥し穴状遺構	38号陥し穴状遺構	39号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		Ⅳ B18 b ・19 b	Ⅳ B18 a ・18 b	Ⅴ A４ p
検出状況		Ⅳ層	Ⅳ層	Ⅵ層
重複関係		なし	なし	位置的に３号竪穴建物と南端が重複する可能性あり
形状	平面形	楕円形	溝状	楕円形
	断面	逆台形	Ⅴ字状	Ⅴ字状
規模	開口部径	269×109	396×64	230×78
	底部径	217×39	451×13	184×19
	深さ	99～122	125～153	81～99
長軸方向		Ｎ－10°－Ｅ	Ｎ－84°－Ｗ	Ｎ－８°－Ｗ
堆積土		全体に黒褐～暗褐色シルト主体	上～中位は黒褐色シルト、下位は黄褐色シルト混じりの褐色シルト、最下部に黒褐色シルト	上～中位は黒褐～暗褐色シルト、下位は明黄褐色シルト主体
底面の特徴		平坦で杭穴５個あり	両端オーバーハング、東側に向かって傾斜して下る	南側に向かって傾斜して下がる
遺物				
図版		160	160	160
写真図版		160	160	160

遺構名		40号陥し穴状遺構	41号陥し穴状遺構	42号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		Ⅴ A３ s	Ⅴ A６ n	Ⅴ B４ a ・５ a
検出状況		Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		11号陥し穴状遺構と重複し、これよりも古い	なし	なし
形状	平面形	溝状	両端広く中央狭い	両端広く中央狭い
	断面	Ⅴ字状	Ｕ～Ⅴ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	351×67	194×17	253×64
	底部径	306×10	166×7	228×14
	深さ	117～133	75～92	98～121
長軸方向		Ｎ－75°－Ｅ	Ｎ－12°－Ｗ	Ｎ－31°－Ｅ
堆積土		上位は黒褐色シルト、中位は黄褐色シルト、下位は暗褐色シルト	上・下位は黒褐～暗褐色シルト、中位は黄褐色シルト	上位は黒褐色シルト、中位は黄褐色シルト、下位は暗褐色シルト
底面の特徴		平坦である	中央部分高く、両端が低い	南側に向かって傾斜して下がる
遺物				
図版		160	161	161
写真図版		160	161	161

遺構名		43号陥し穴状遺構	44号陥し穴状遺構	45号陥し穴状遺構
調査区		A	A	B
位置		ＶＡ５ｒ・５ｓ	ＶＢ５ａ・５ｂ	ⅢＡ18ｓ
検出状況		Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		なし	なし	40号竪穴建物と重複し、これよりも古い
形状	平面形	両端広く中央狭い	溝状	楕円状？
	断面	Ｙ字状	Ｖ字状	Ｕ字状に近い
規模	開口部径	317×65	357×29	220×142
	底部径	303×7	321×8	171×87
	深さ	109～114	24～34	108～119
長軸方向		Ｎ－72°－Ｗ	Ｎ－62°－Ｅ	東西方向
堆積土		上位は黒褐色シルト、中～下位は黄褐色シルト混じりの暗褐色シルト主体	暗褐色シルト混じりの黒褐色シルトの単層	斜面上方側が暗褐色シルト、下方側が黄褐色シルト主体
底面の特徴		東側に向かって傾斜して下がる	中央部分がやや高く両端が低い	東側に向かって傾斜して下がる
遺物				
図版		161	161	162
写真図版		161	161	162

遺構名		46号陥し穴状遺構	47号陥し穴状遺構	48号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＡ２ｒ・３ｒ	ＶＡ９ｎ・９ｏ	ＶＡ１ｑ
検出状況		Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅳ層
重複関係		９号竪穴建物と重複し、これよりも古い	なし	１号焼成遺構・25号陥し穴状遺構よりも新しい
形状	平面形	砂時計形	溝状	長楕円形
	断面	Ｙ字状	Ｖ字状	Ｙ字状
規模	開口部径	281×99	355×12	336×82
	底部径	250×3	355×4	331×9
	深さ	200	34～48	193～205
長軸方向		Ｎ－45°－Ｅ	Ｎ－29°－Ｅ	Ｎ－63°－Ｅ
堆積土		上位は黒褐色シルト、中位は明黄褐色シルト、下位は黒色シルトと明黄褐色粘土質シルトの混合土主体	大半が黒褐色シルトで下位に暗褐色シルト	上～中位は黒褐色シルト、下位は黒褐色シルト混じりの明黄褐色粘土質シルト主体
底面の特徴		段差入り、北西側が5㎝ほど低い	両端高く、中央部分が低い	平坦で東端のみ低い
遺物				
図版		162	162	162
写真図版		162	162	162

遺構名		49号陥し穴状遺構	50号陥し穴状遺構	51号陥し穴状遺構
調査区		A	B	B
位置		ＶＡ１ｑ・２ｑ	ⅣＡ１ｔ・２ｓ・２ｔ	ⅣＡ１ｒ・１ｓ
検出状況		Ⅳ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		１号焼成遺構・８号竪穴建物と重複関係にあり、これらよりも古い	24号竪穴建物と重複し、これよりも古い	なし
形状	平面形	砂時計形	溝状	砂時計形
	断面	Ｖ・Ｕ字状	Ｖ字状	Ｕ～Ｖ字状
規模	開口部径	(316)×(19)	394×30	237×12
	底部径	286×4	380×11	211×2
	深さ	103～163	81～95	71～90
長軸方向		Ｎ－44°－Ｅ	Ｎ－26°－Ｅ	Ｎ－40°－Ｅ
堆積土		黒褐色シルトと明黄褐色シルトが交互に堆積	明黄褐色シルト混じりの黒～黒褐色シルトを主体	黒～黒褐色シルト主体
底面の特徴		北東側が低い	平坦に近い	平坦に近い
遺物				
図版		163	163	163
写真図版		163	163	163

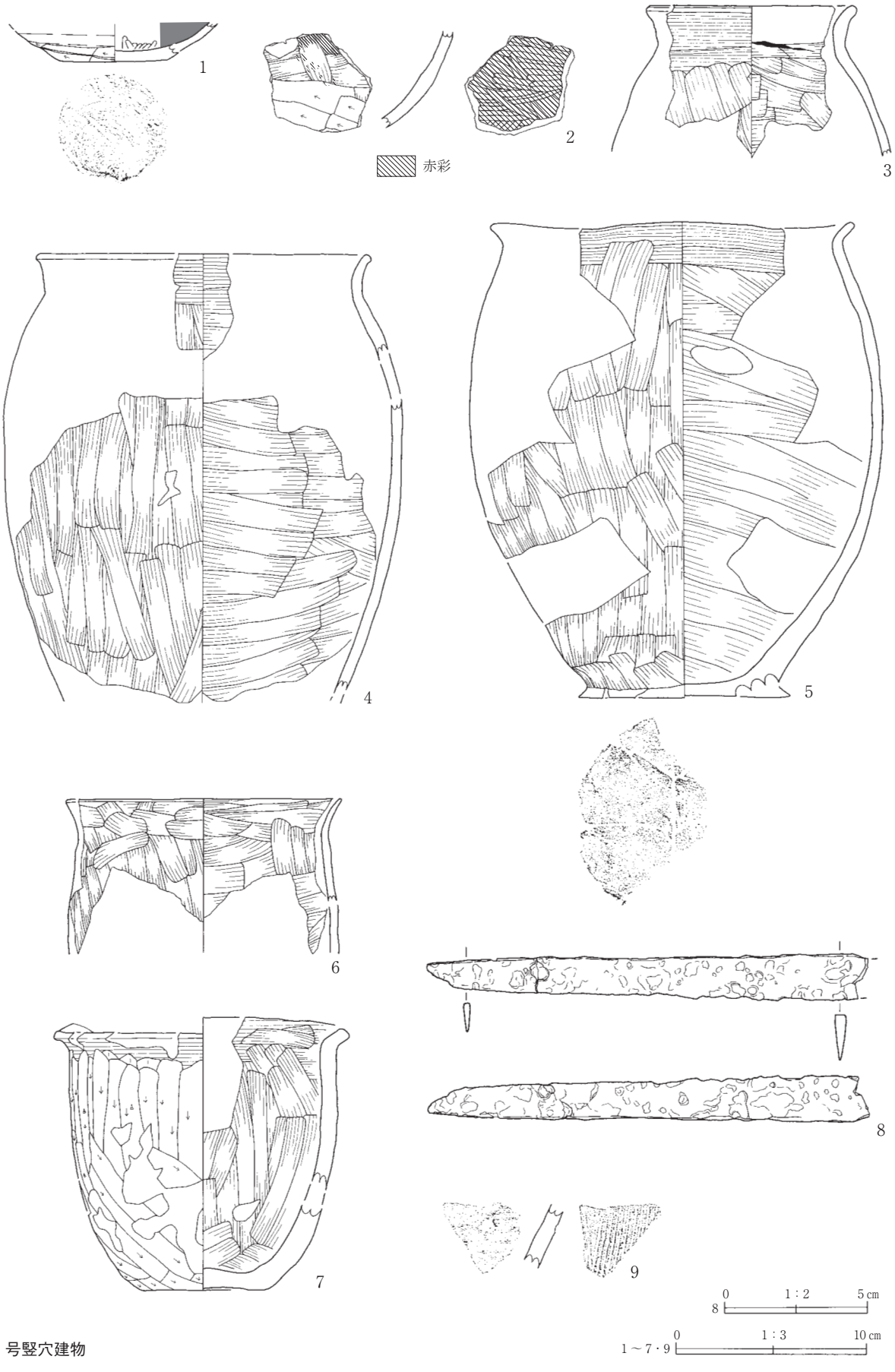
遺構名		52号陥し穴状遺構	53号陥し穴状遺構	54号陥し穴状遺構
調査区		A	A	A
位置		ＶＡ５ｐ	ⅣＢ15ａ・16ａ	ＶＡ２ｒ・２ｓ
検出状況		Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
重複関係		３号竪穴建物と重複し、これよりも古い	なし	５～７号竪穴建物と重複関係にあり、これらよりも古い
形状	平面形	楕円状	溝状	溝状
	断面	Ｖ字状	Ｖ字状	Ｕ字状
規模	開口部径	132×82	395×43	345×10
	底部径	99×33	362×5	336×5
	深さ	49～59	99～112	20
長軸方向		Ｎ－13°－Ｅ	Ｎ－55°－Ｅ	Ｎ－51°－Ｅ
堆積土		黄褐色シルト混じりの黒褐色シルト主体	上位は黒褐色粘土質シルト、中～下位は黄褐～にぶい黄褐色粘土質シルトを主体	黄褐色シルト混じりの黒褐色シルトの単層
底面の特徴		北側がやや低いが平坦に近い	凹凸で北東側が低い	北東側に向かって傾斜して下がる
遺物				
図版		163	164	164
写真図版		163	164	164

遺構名		55号陥し穴状遺構	56号陥し穴状遺構	57号陥し穴状遺構
調査区		C	A	B
位置		ⅡA13q・14q	ⅤA4t、ⅤB3a	ⅣA3q
検出状況		61号竪穴建物の床面で検出(Ⅳ層)	Ⅵ層	Ⅴ層
重複関係		61号竪穴建物と重複し、これよりも古い	なし	48・49号竪穴建物と重複し、これよりも古い
形状	平面形	溝状	溝状	円形
	断面	U字状	Y字状	ビーカー状
規模	開口部径	252×27	324×52	112×107
	底部径	244×18	265×8	106×100
	深さ	10～13	119～128	67
長軸方向		N－36°－E	N－45°－E	―
堆積土		大半が黄褐色シルトを主体とし、下位に黒色シルトが堆積	上～中位は黒褐色シルト、下位は黒色シルトを主体	上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色シルト、下位は黄褐色シルトを主体
底面の特徴		南西側に向かって緩く傾斜して下る	北東側に向かって緩く傾斜して下る	平坦で中央に杭穴が1個ある
遺物				252・253
図版		164	164	164
写真図版		164	164	164

第５表　柱穴状土坑一覧

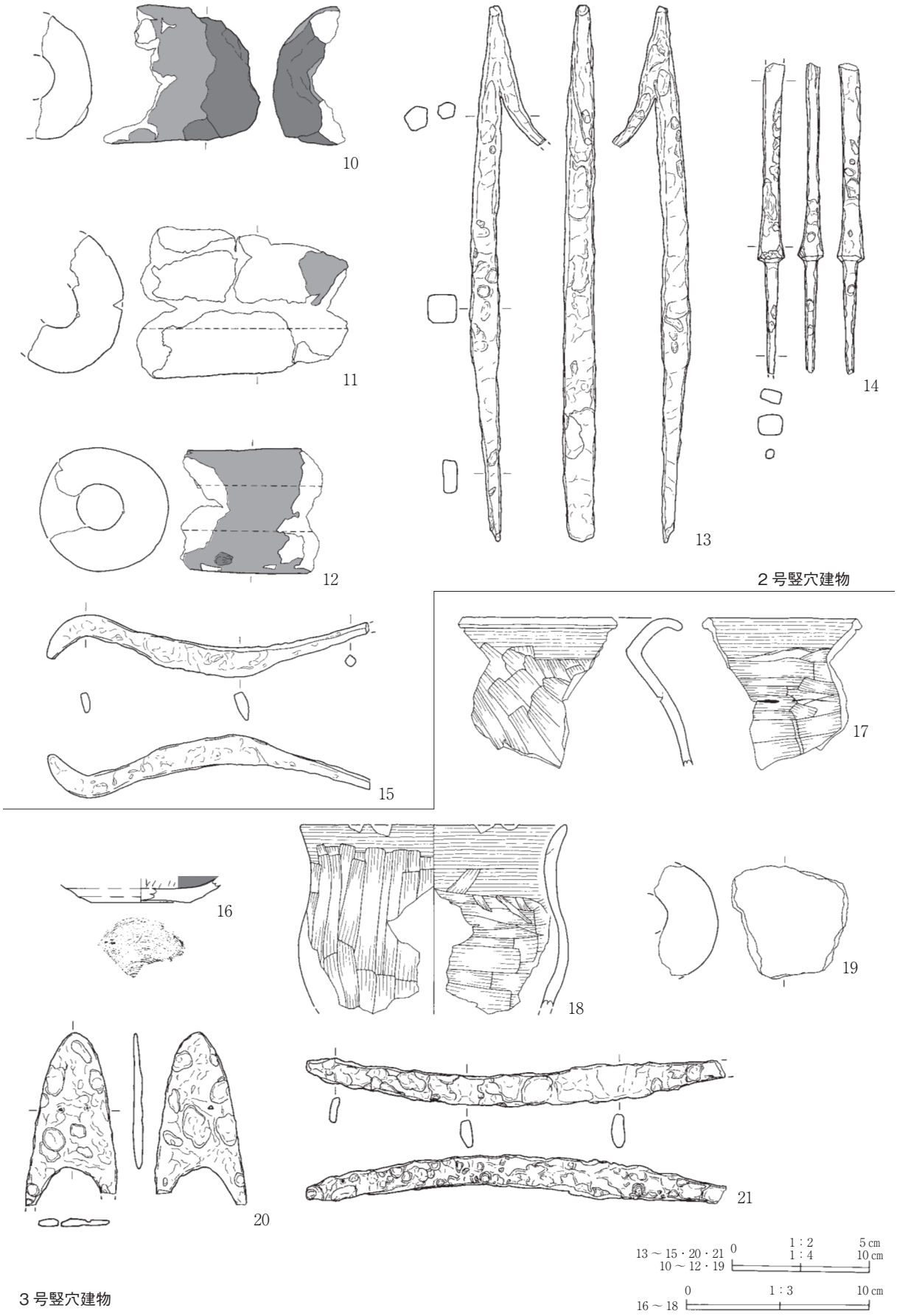
PNo	調査区	地点	径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	柱痕径(cm)	備考	出土遺物No	図版
1	A	ⅣA19q	40×32	55	23.56	28			165
2	A	ⅣA20p	38×37	64	23.68			256	165
3	A	ⅣA20p	30×29	50	23.72				165
4	A	ⅣA20q	31×30	44	23.29	20			165
5	A	ⅣA20p	30×30	54	23.71	22		257	165
6	A	ⅤA1p	58×53	12	23.97	42			165
7	A	ⅤA1p	34×33	18	23.96	20			165
8	A	ⅣA19q	35×32	79	23.3	23	P18を切る		165
9	A	ⅤA1p	25×24	9	23.82				165
10	A	ⅤA2o	32×30	26	24.03	21			165
11	A	ⅤA1o	29×26	68	24.09				165
12	A	ⅤA1o	41×40	63	23.98	20	16号陥し穴状遺構を切る		165
13	A	ⅤA2p	26×26	33	23.57				165
14	A	ⅣA20p	35×32	39	23.82	26	23号陥し穴状遺構を切る		165
15	A	ⅤA1o	33×30	22	24.04				165
16	A	ⅣA20p	27×23	36	24.02	12			165
17	A	ⅤA1p	－	61	23.76		16号陥し穴状遺構を切る		165
18	A	ⅣA19q	25×(23)	21	23.86		P8に切られる		165
19	A	ⅤA1p	26×24	20	23.91	16			165
20	A	ⅣA20p	30×28	62	23.81	17			165
21	A	ⅣA20p	32×30	47	23.88	14			165
22	A	ⅤA1o	18×17	60	24.13				165
23	C	ⅢA4i ⅢA4j	82×80	62	71.84			258	165
24	C	ⅢA5i	20×20	21	72.29				165
25	C	ⅢA6i	22×21	27	72.22				165
26	C	ⅢA4j	38×36	43	71.96				165
27	C	ⅢA4j	30×28	24	72.17				165
28	C	ⅢA4j	33×31	59	71.79				165
29	C	ⅢA4j	24×23	21	72.21				165
30	C	ⅢA5j	22×21	21	72.2				165
31	C	ⅢA4i	22×21	56	71.86				165
32	C	ⅢA4j	68×38	54	71.88				165
33	C	ⅢA3j	40×(26)	50	71.92		36号土坑を切る		165
34	C	ⅢA4i	30×29	47	71.93	20			165
35	C	ⅢA5i	27×26	34	72.11				165
36	C	ⅢA5i	44×40	28	72.24				165
37	C	ⅢA5i	36×35	24	72.25				165
38	C	ⅢA5i ⅢA6i	21×19	31	72.18				165
39	C	ⅢA5i ⅢA6i	31×30	40	72.12				165

PNo	調査区	地点	径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	柱痕径(cm)	備考	出土遺物No	図版
40	D	ⅡB16c	24×23	22	50.19				166
41	D	ⅡB16c	25×23	24	50.39				166
42	D	ⅡB15d	39×38	64	49.26				166
43	D	ⅡB15d	30×26	38	49.46				166
44	D	ⅡB15d	26×22	56	49.19				166
45	D	ⅡB16d	65×39	68	49.33				166
46	D	ⅡB16c	34×25	29	49.93				166
47	D	ⅡB15b ⅡB16b	20×19	19	50.97				166
48	D	ⅡB15b	30×27	32	50.89				166
49	D	ⅡB16b	35×27	27	50.76				166
50	B	ⅣA3p	53×45	40	33.59				166
51	B	ⅢA18t	23×20	23	33.78				166
52	B	ⅢA18t	20×(16)	12	33.76				166
53	B	ⅢA18t	29×24	19	33.72				166
54	B	ⅢA18t	25×24	17	33.77				166
55	B	ⅢA18t	21×(15)	35	33.7		P56に切られる。		166
56	B	ⅢA18t	21×20	32	33.67		P56を切る。		166
57	B	ⅢA18t	22×18	10	34.04				166
58	B	ⅢA18t	18×14	6	34.1				166
59	B	ⅢA18t	22×21	8	34.05				166
60	B	ⅢA18s	29×24	50	33.53				166
61	B	ⅢA18s	25×18	9	34.05				166
62	B	ⅢA18s	30×25	14	33.96				166
63	B	ⅣA3s	32×30	38	30.03				166
64	B	ⅣA3t	29×28	30	29.93				166
65	B	ⅣA3s ⅣA4s	32×25	38	29.99				166
66	B	ⅣA4s	38×30	28	30.07				166
67	B	ⅣA4s	26×21	25	30.03				166
68	B	ⅣA4t	20×20	17	30.02				166
69	B	ⅣA4t	35×30	72	29.63				166
70	B	ⅣA4s	30×24	53	29.94				166
71	B	ⅣA5s	28×23	53	29.92				166
72	B	ⅣA4s	33×26	78	29.61				166
73	B	ⅣA4s	25×19	25	30.13				166
74	B	ⅣA4s	19×17	10	30.29				166
75	B	ⅣA4s	29×28	25	30.06				166
76	B	ⅣA4s	26×19	11	30.19				166
77	B	ⅣA4s	22×19	39	30.49				166

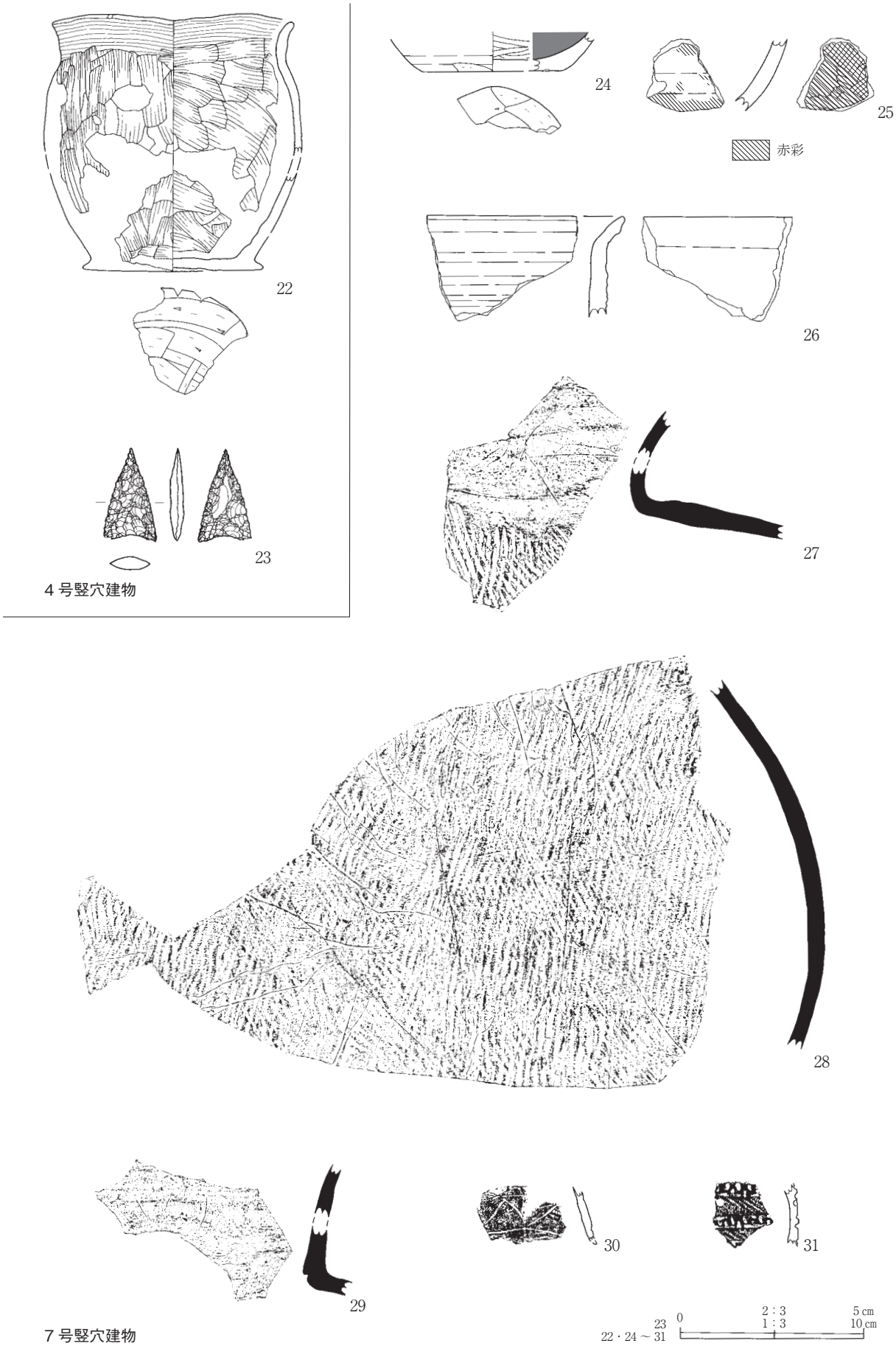


1 号竪穴建物

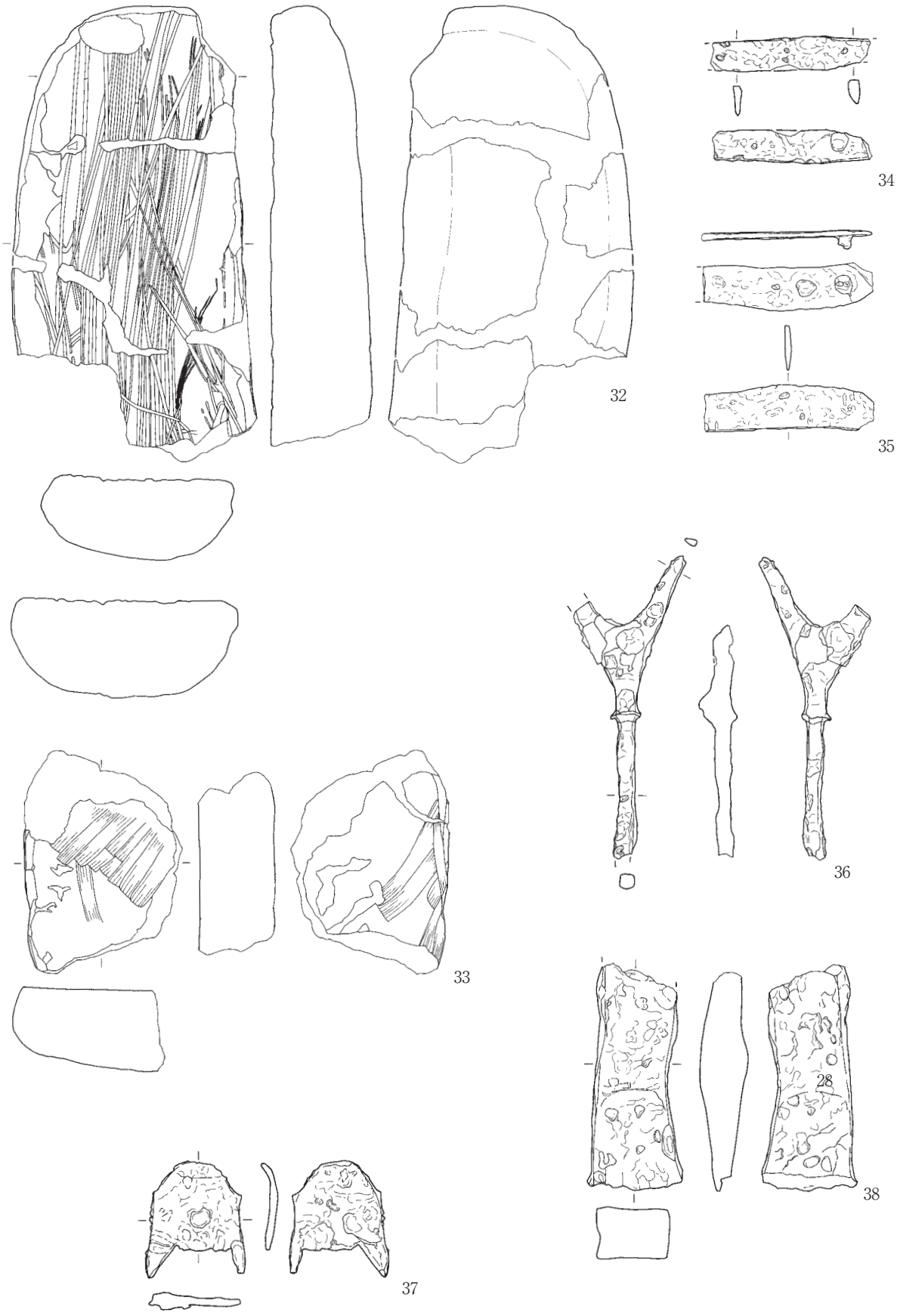
第167図　遺構内出土遺物 1



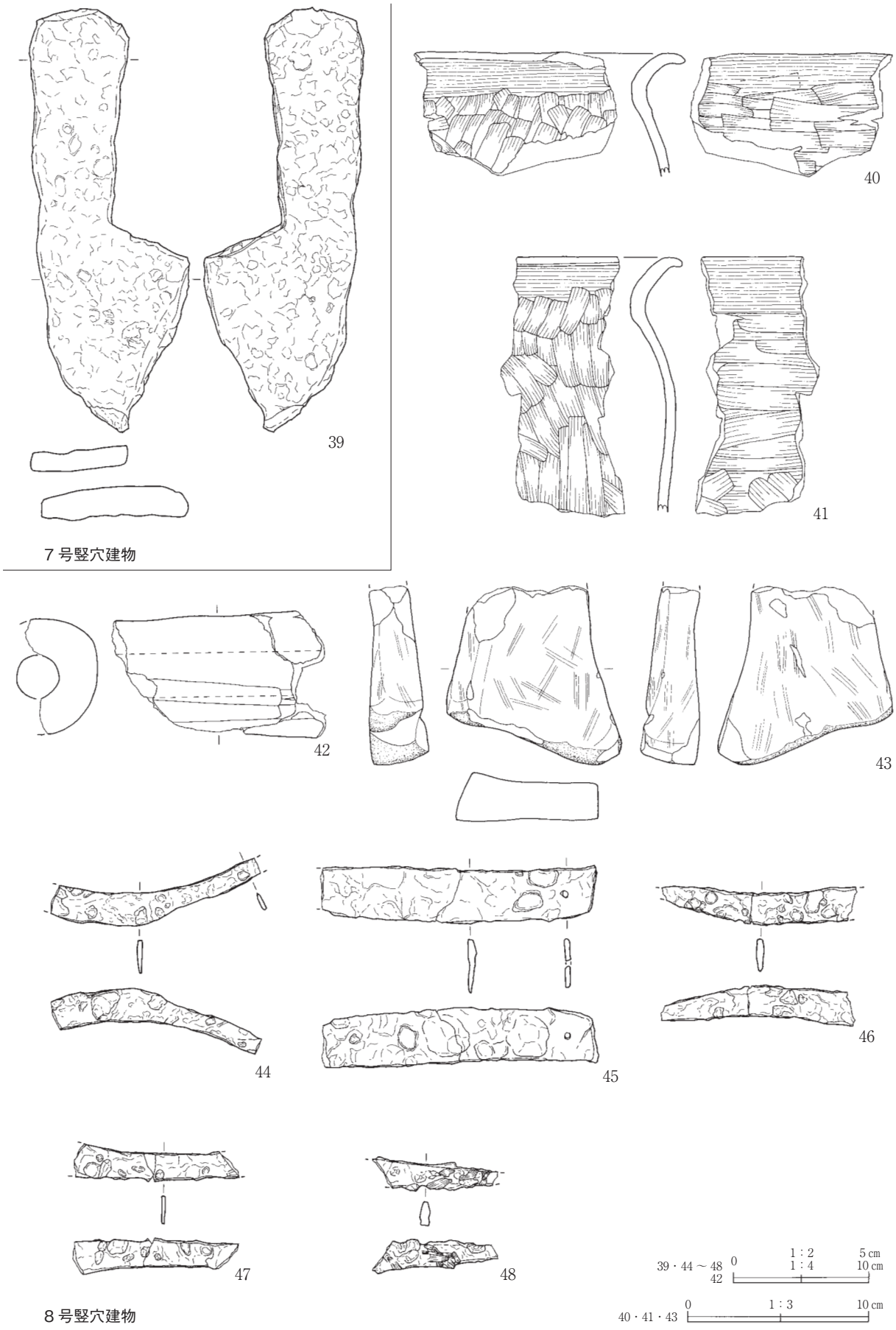
第168図　遺構内出土遺物２



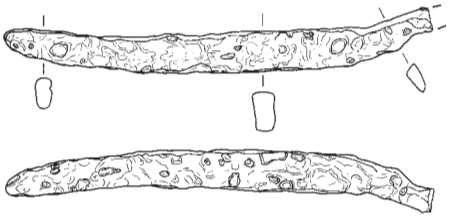
第169図　遺構内出土遺物３

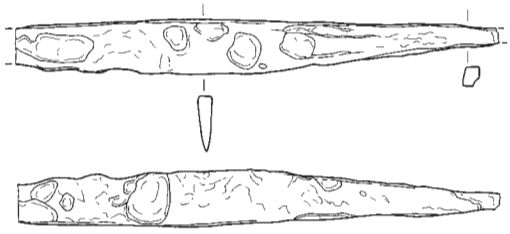


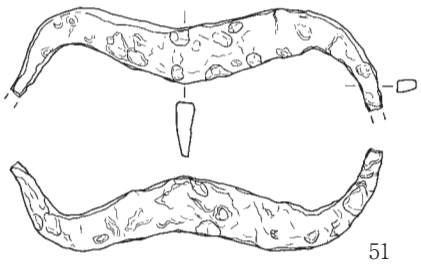
第170図　遺構内出土遺物４



第171図　遺構内出土遺物５


49

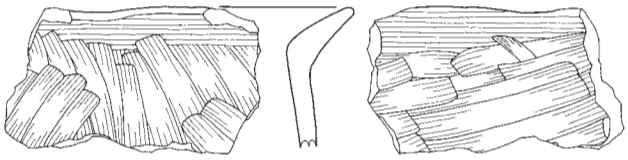

50


51

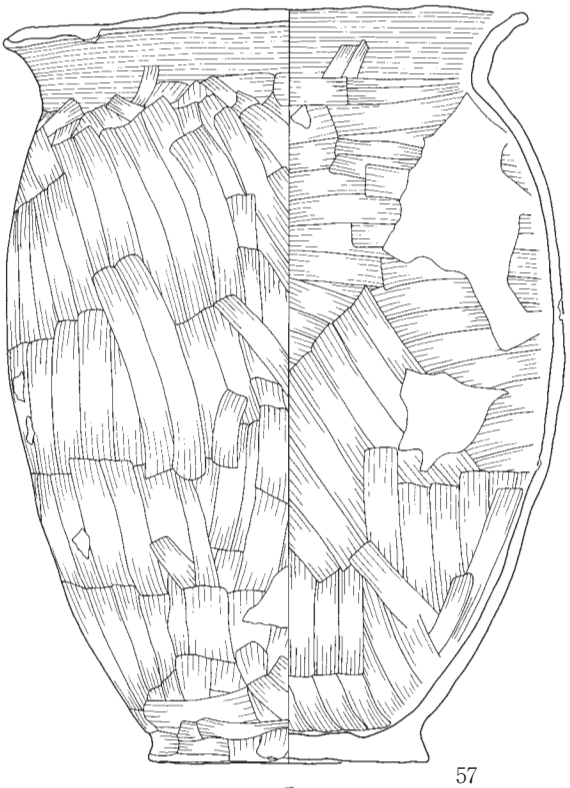
52

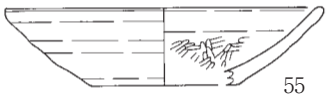
53

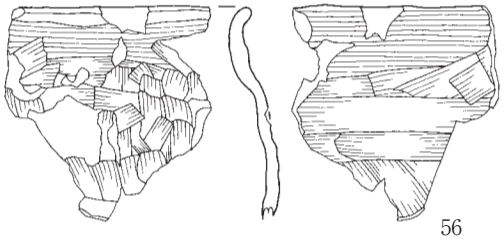
8 号竪穴建物


54

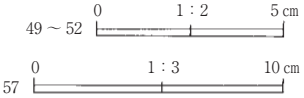
9 号竪穴建物

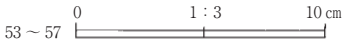

57


55

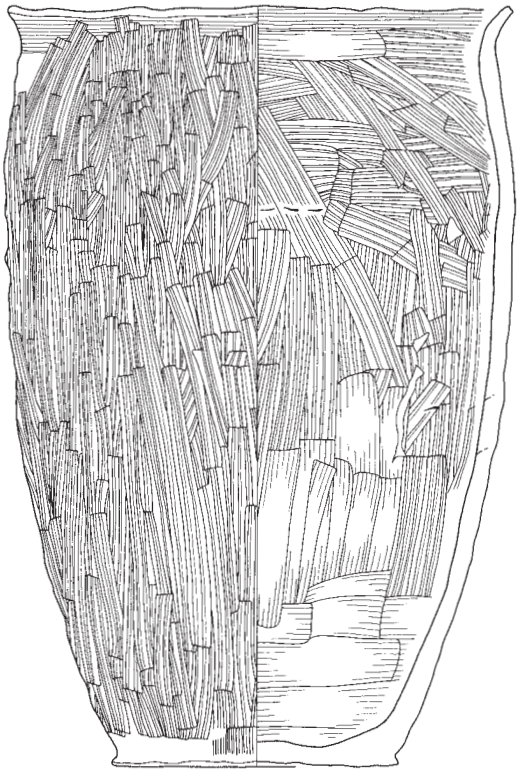

56

10 号竪穴建物

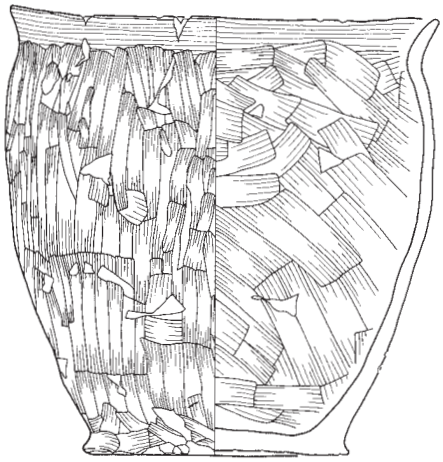




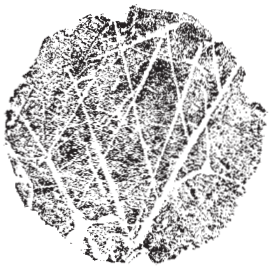
第172図　遺構内出土遺物６



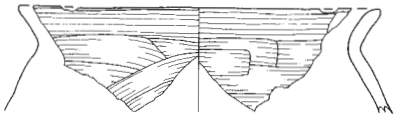
58



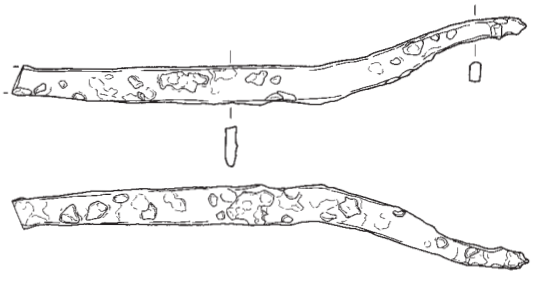
59



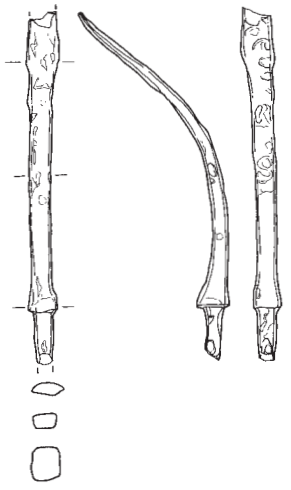
11 号竪穴建物



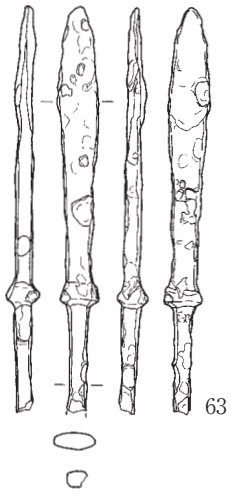
60



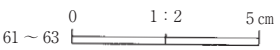
61

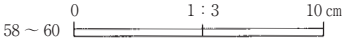


62



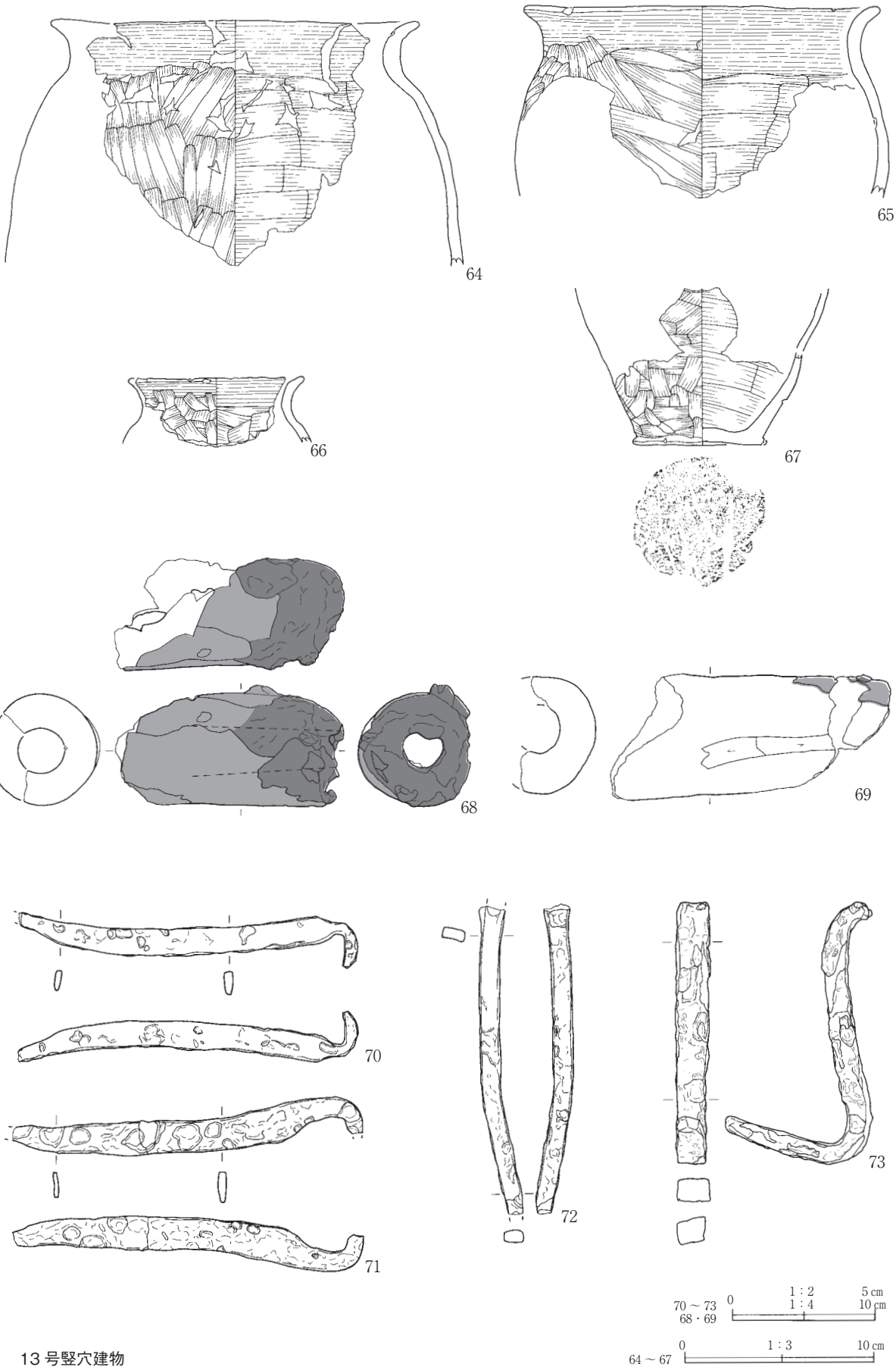
63





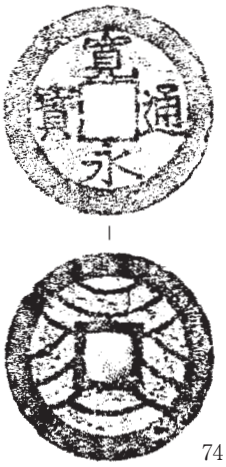
12 号竪穴建物

第173図　遺構内出土遺物７



13号竪穴建物

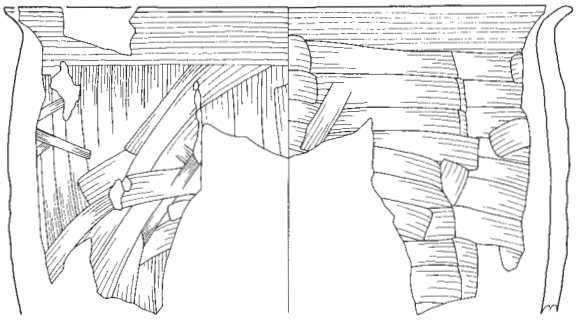
第174図　遺構内出土遺物８



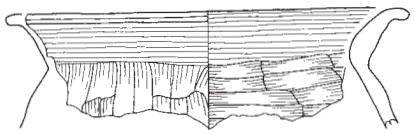
74

75

13 号竪穴建物



76



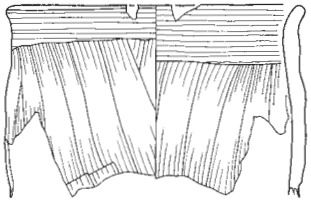
77

15 号竪穴建物

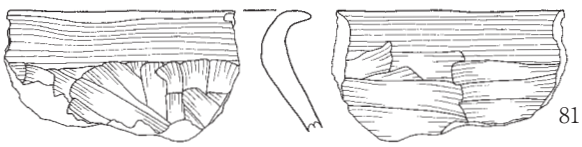
78

79

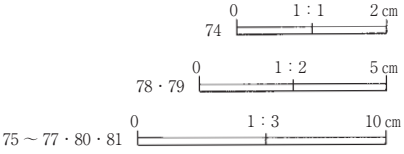
16 号竪穴建物



80

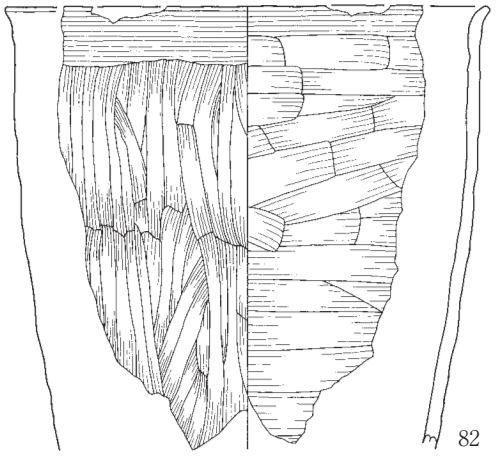


81

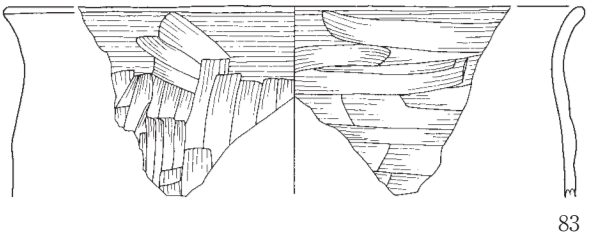


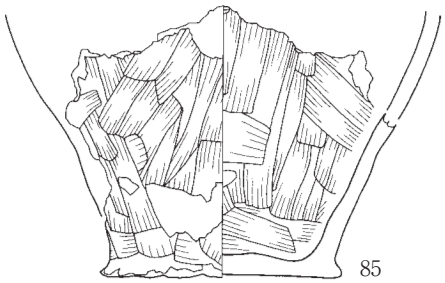
17 号竪穴建物

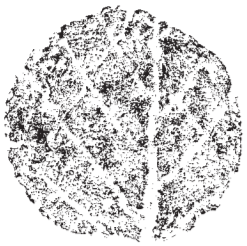
第175図　遺構内出土遺物９

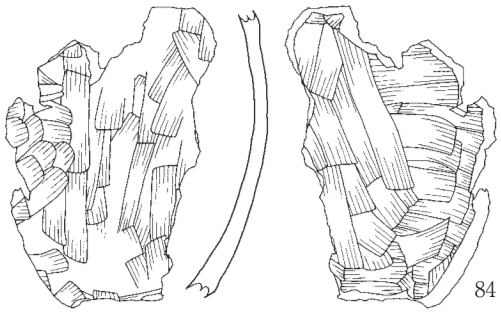


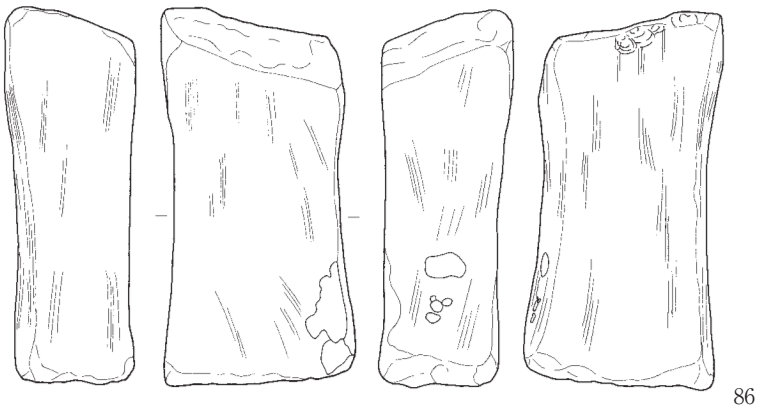
18 号竪穴建物

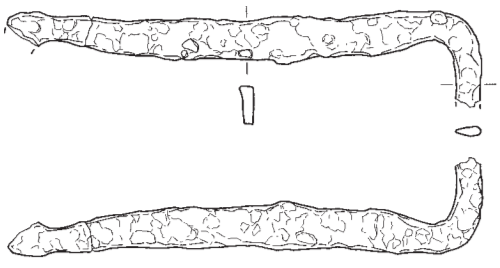




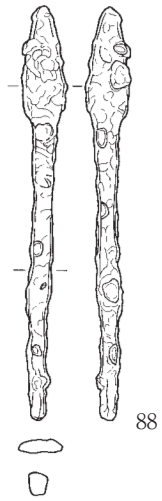


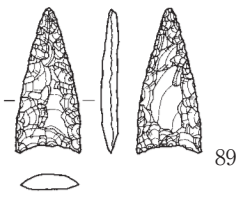




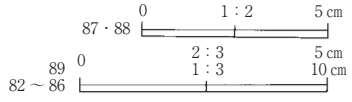


19 号竪穴建物

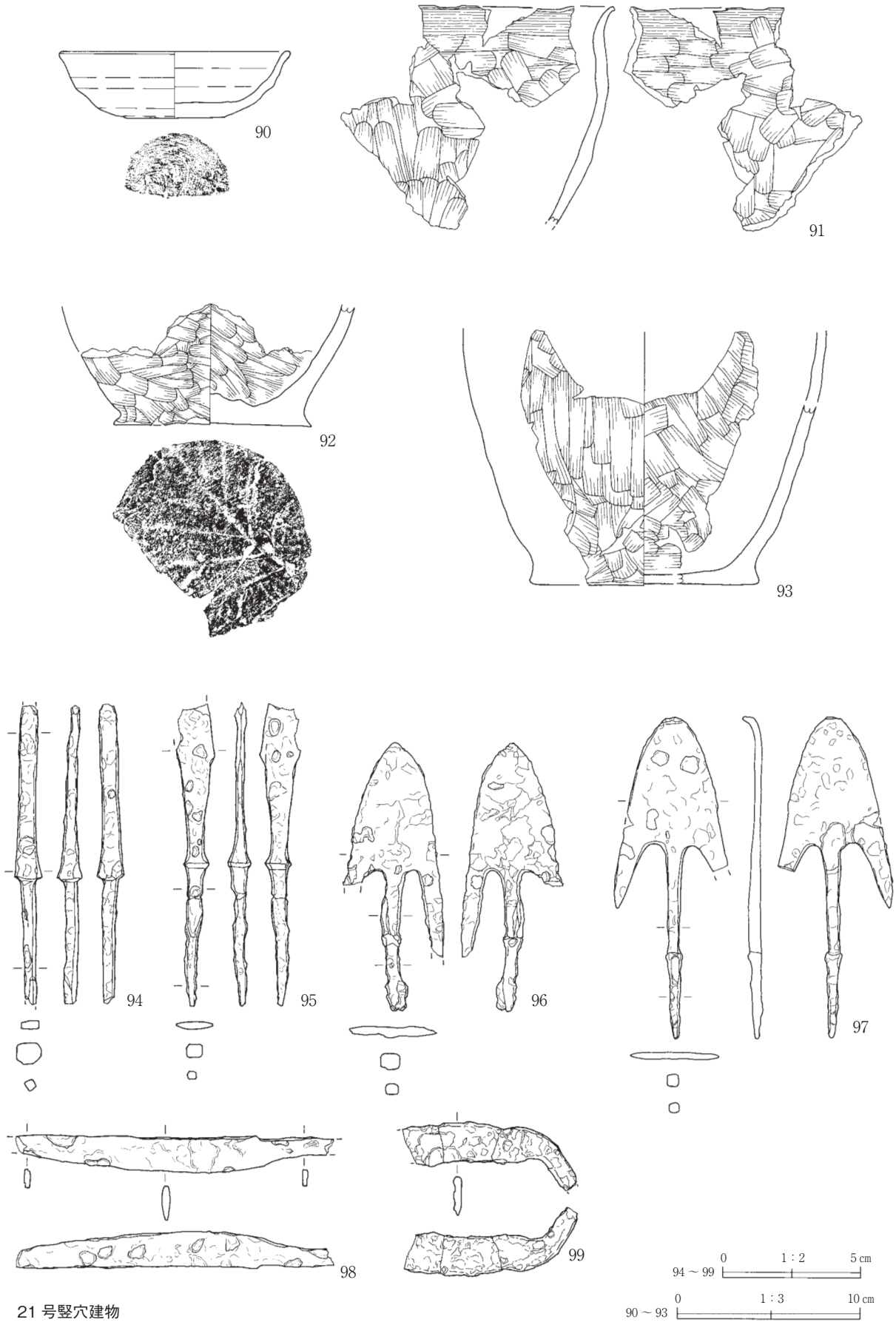




20 号竪穴建物

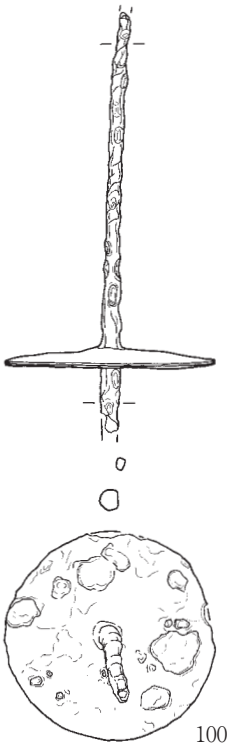


第176図　遺構内出土遺物10

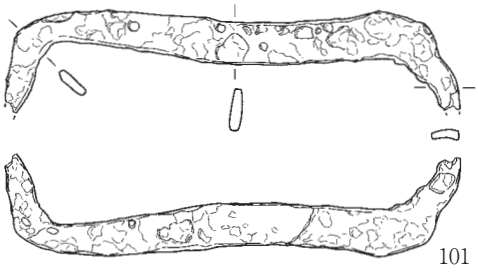


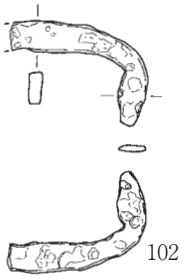
21 号竪穴建物

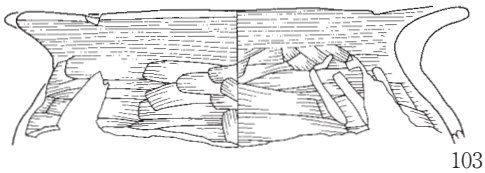
第177図　遺構内出土遺物11

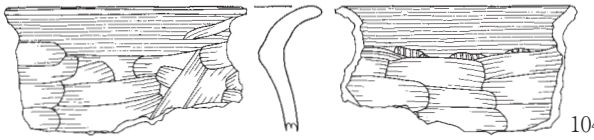

100

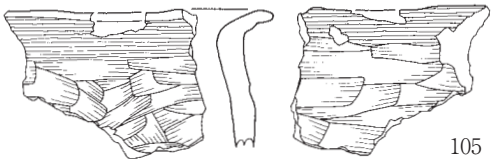
21 号竪穴建物

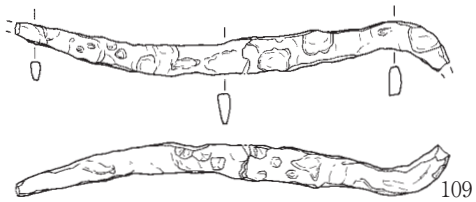

101


102


103

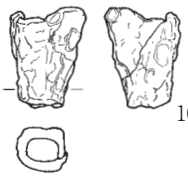

104

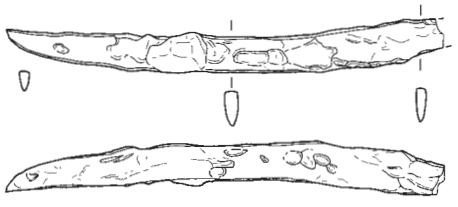

105

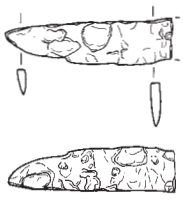

109

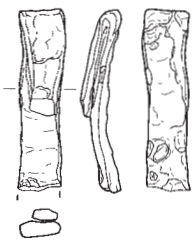
106

107

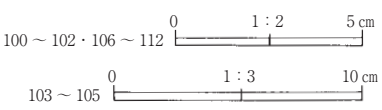

108


110

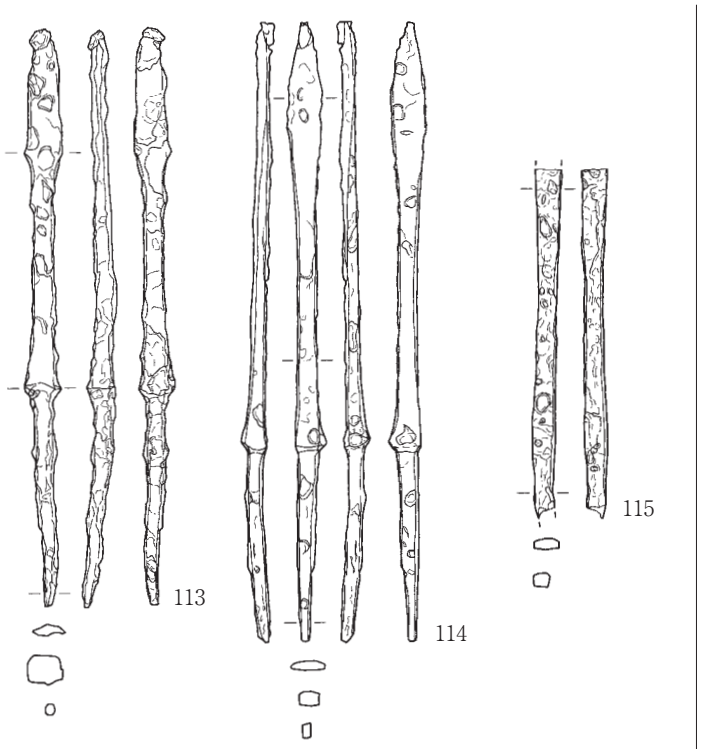

111


112

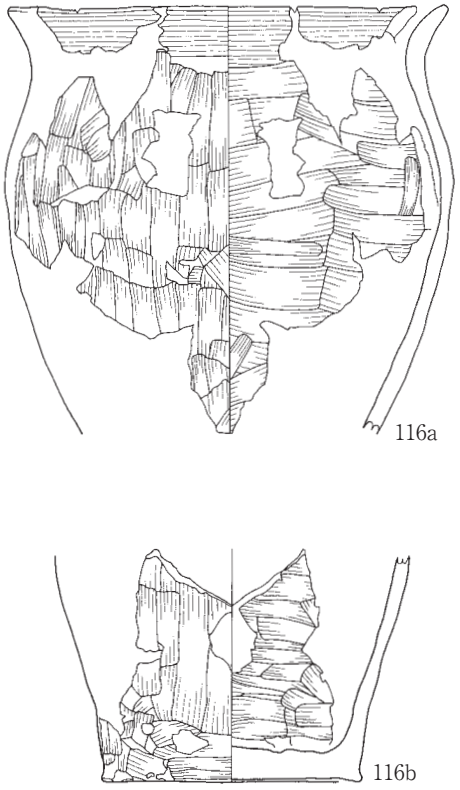
22 号竪穴建物

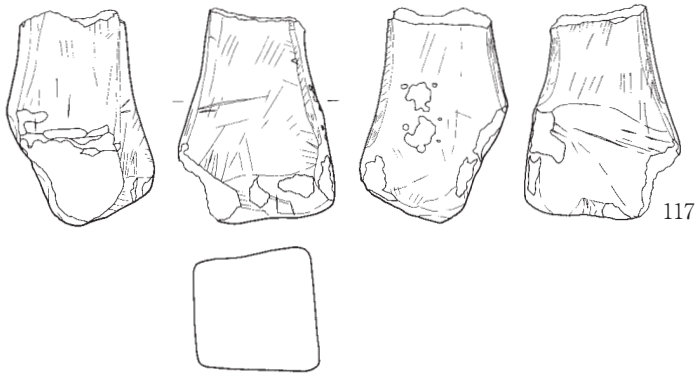


第178図　遺構内出土遺物12

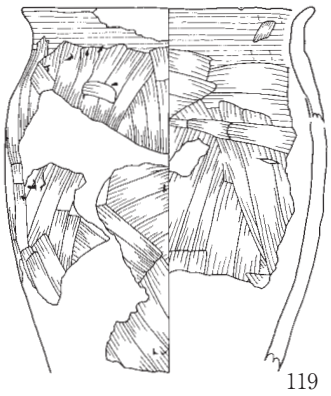


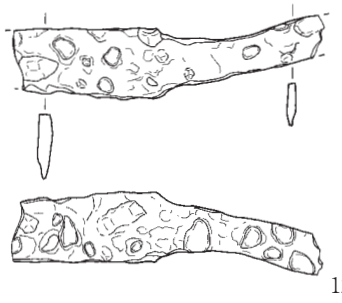
22 号竪穴建物

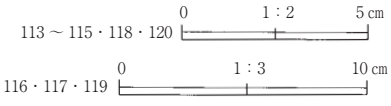




23 号竪穴建物

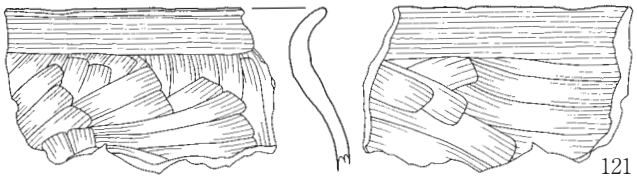




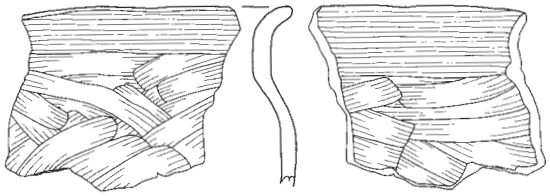


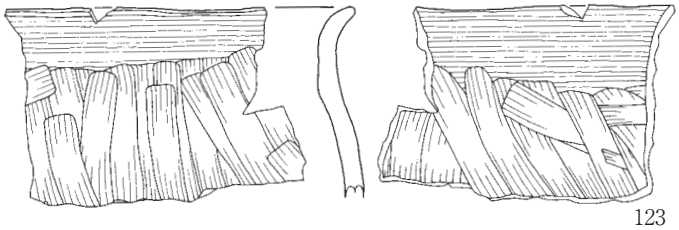
24 号竪穴建物

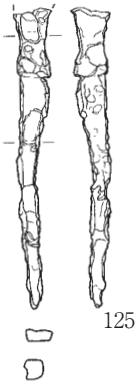
第179図　遺構内出土遺物13

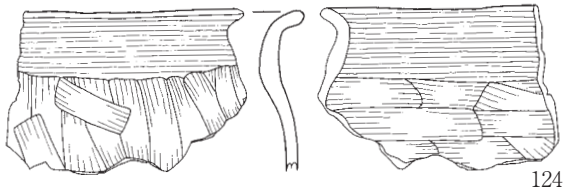


25 号竪穴建物

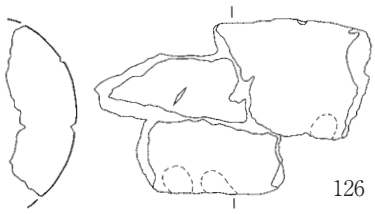




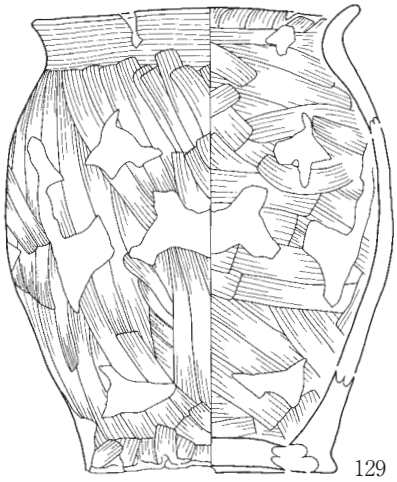


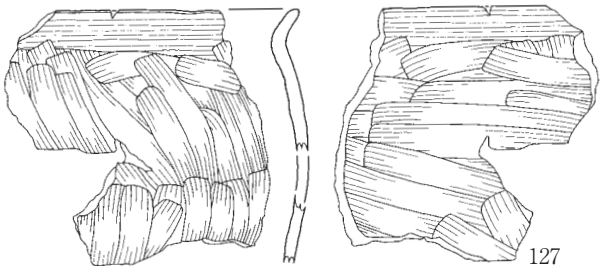


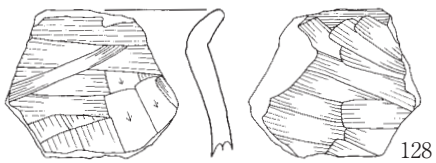
26 号竪穴建物



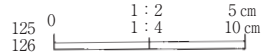
28 号竪穴建物



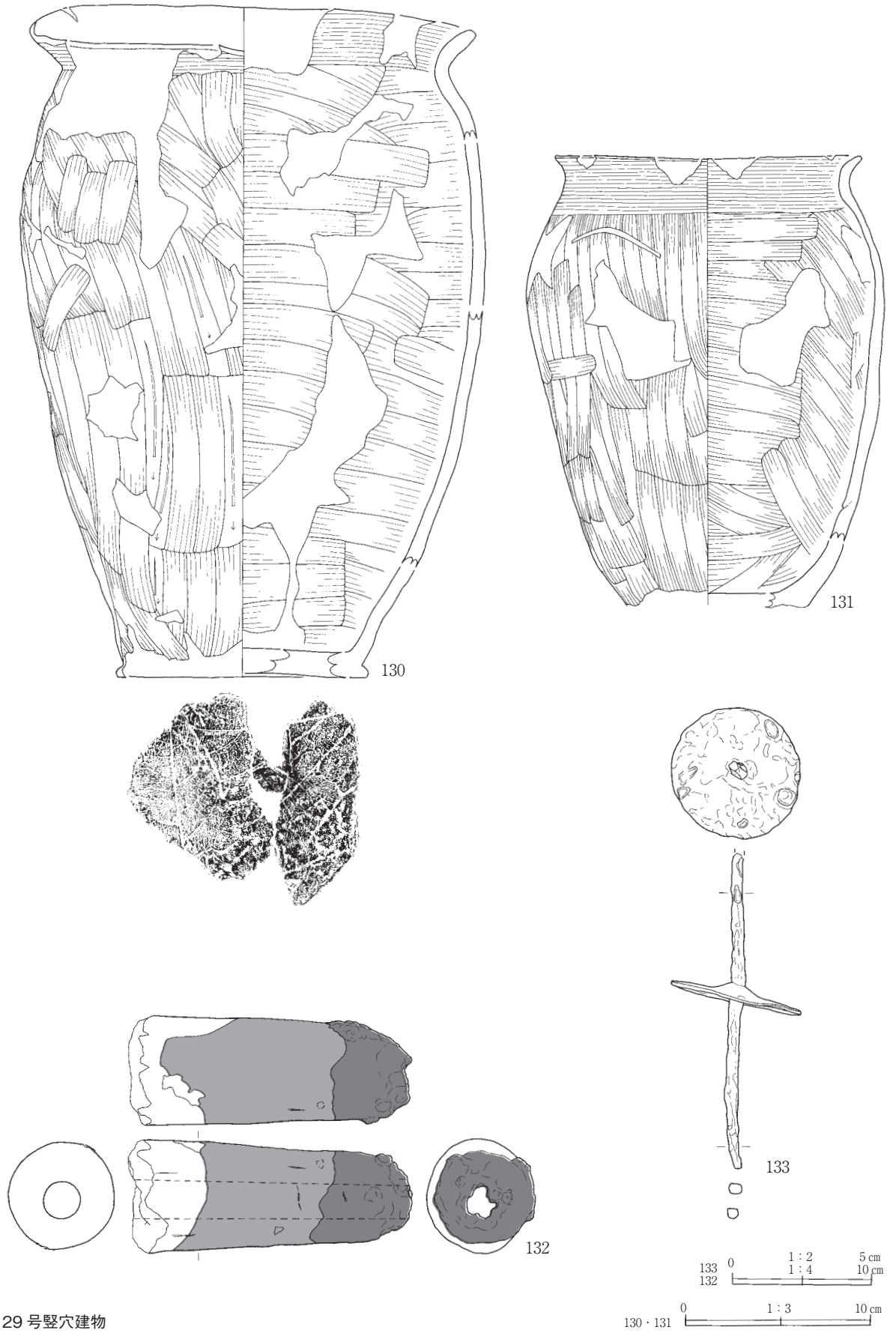




29 号竪穴建物

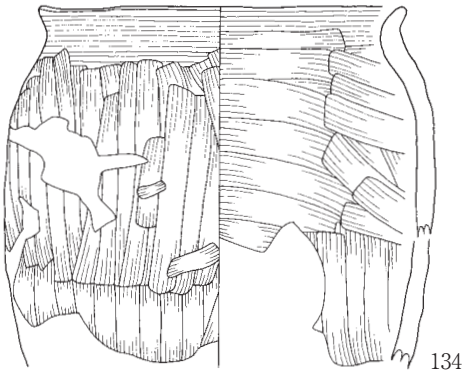


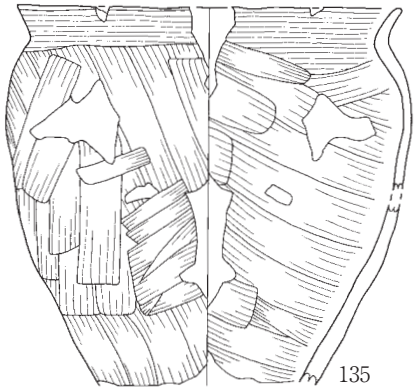
第180図　遺構内出土遺物14

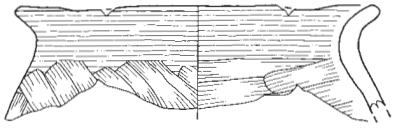


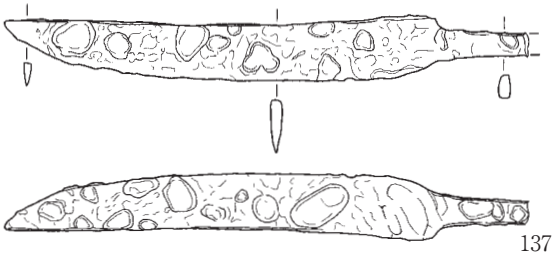
29 号竪穴建物

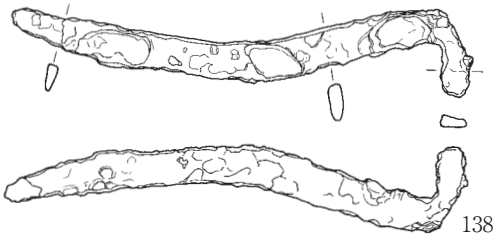
第181図　遺構内出土遺物15


134

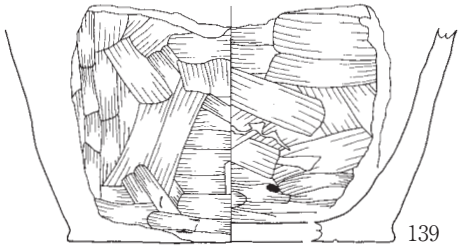

135

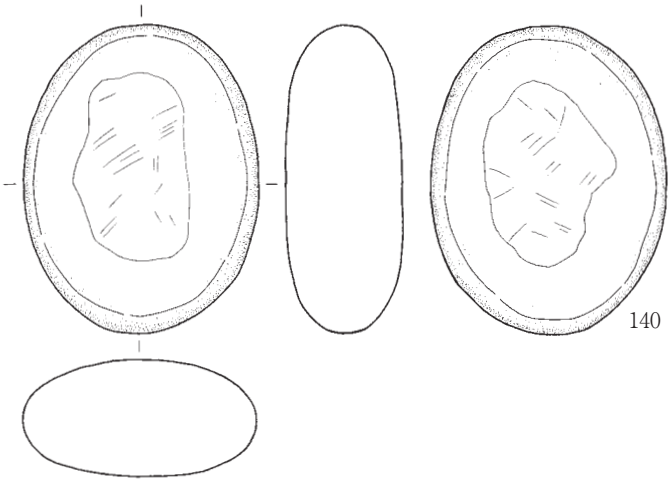

136

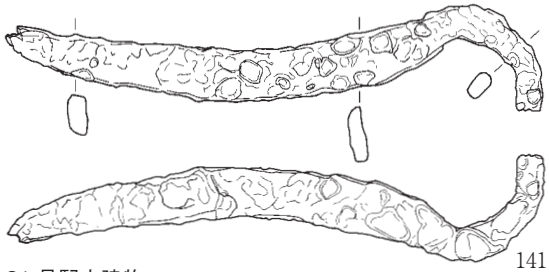

137


138

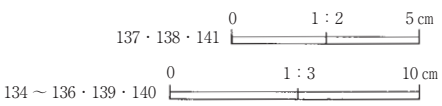
30 号竪穴建物


139

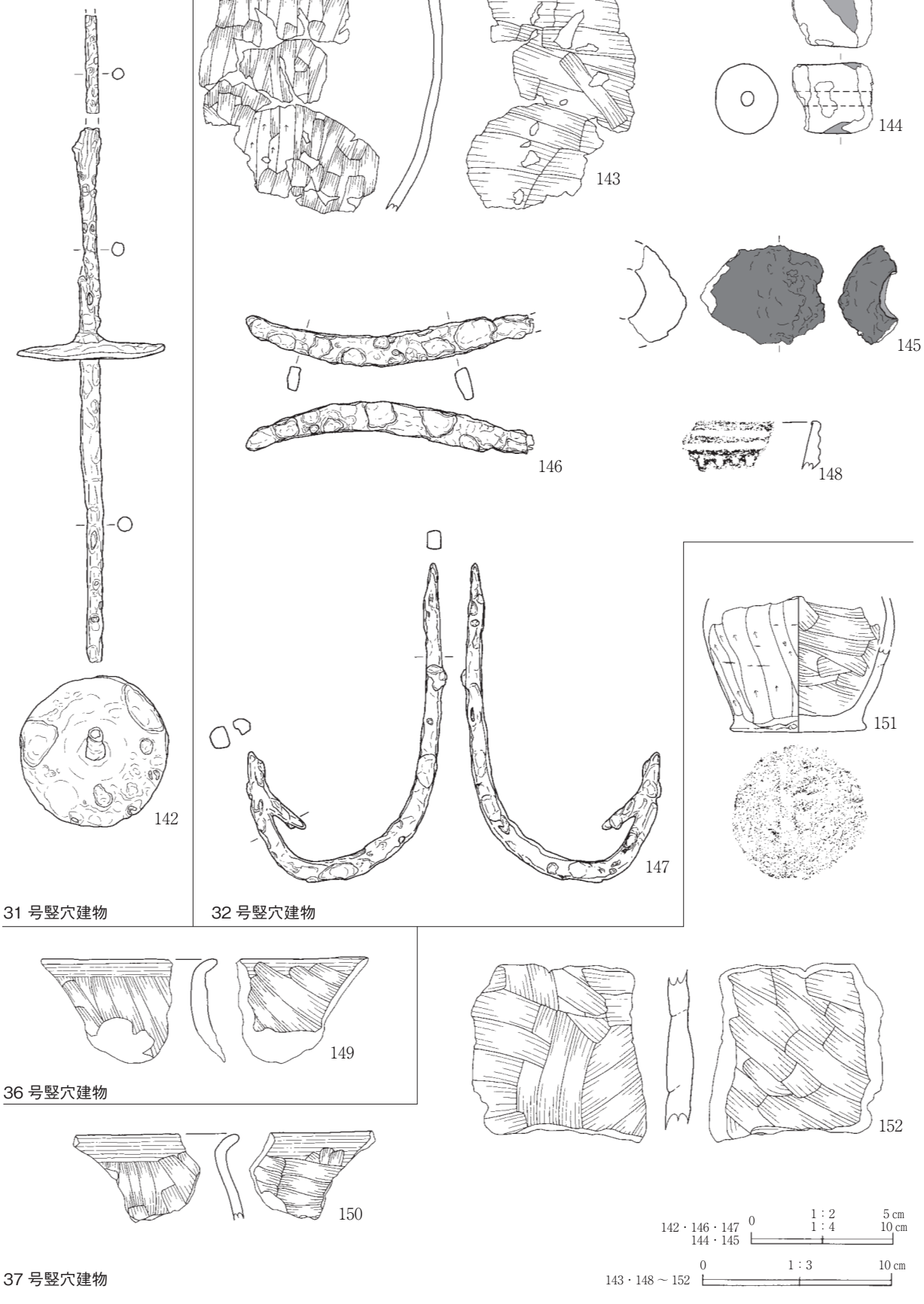

140


141

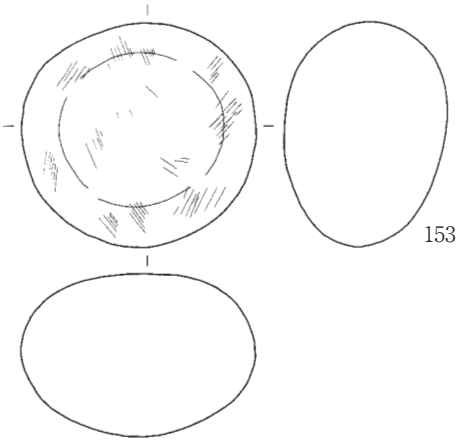
31 号竪穴建物



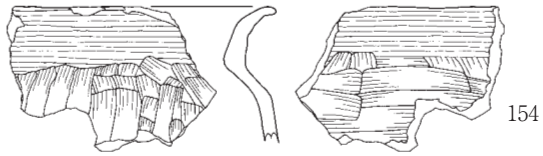
第182図　遺構内出土遺物16



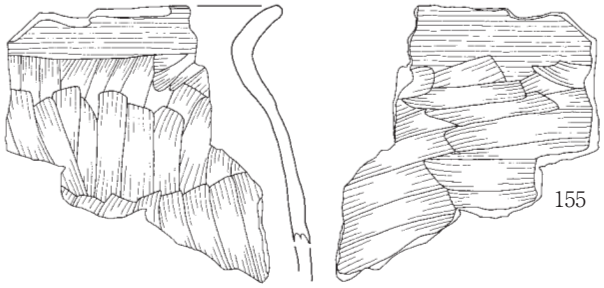
第183図　遺構内出土遺物17

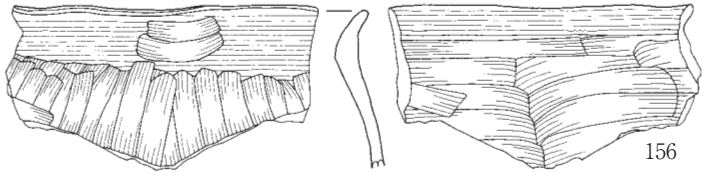


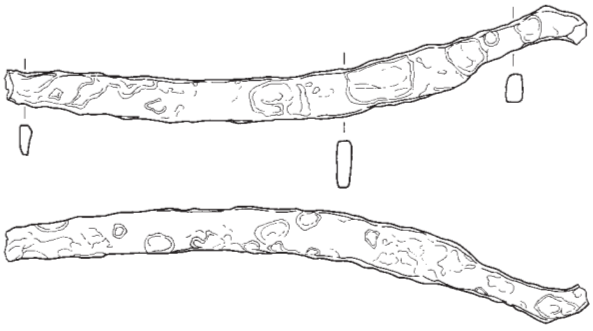
39 号竪穴建物



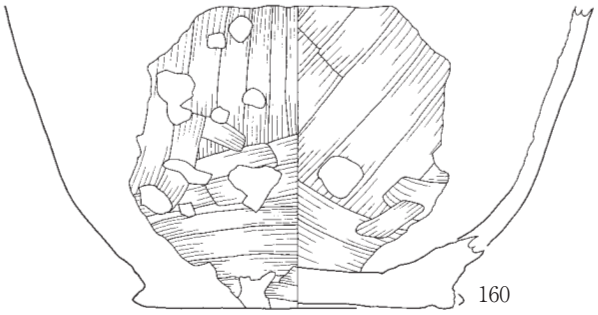
41 号竪穴建物

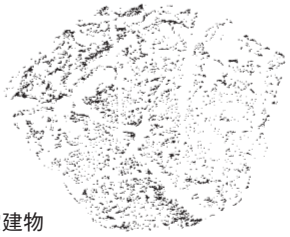




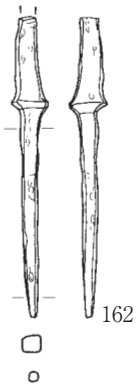


45 号竪穴建物



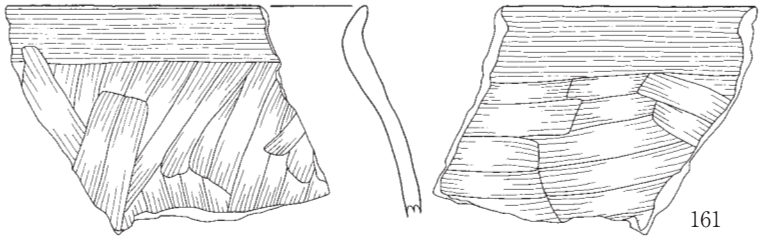


48 号竪穴建物

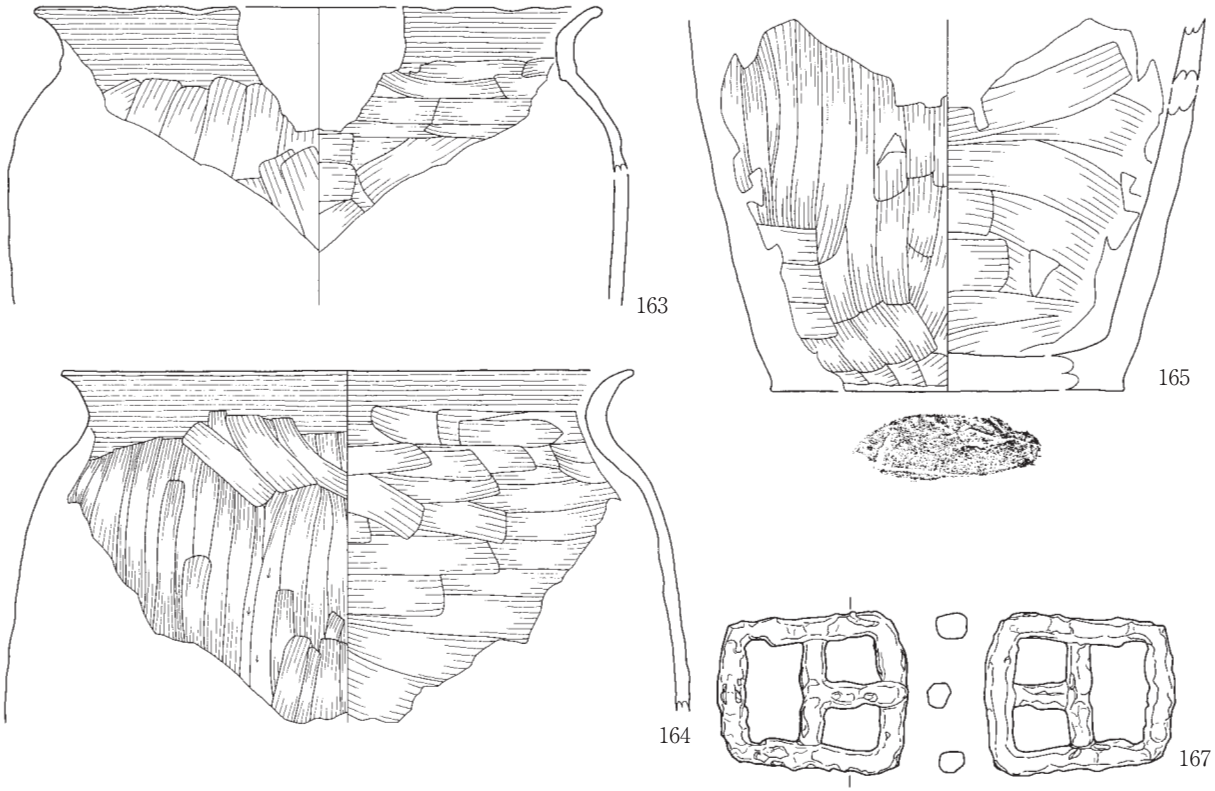


49 号竪穴建物

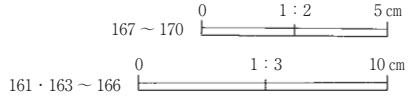
第184図　遺構内出土遺物18



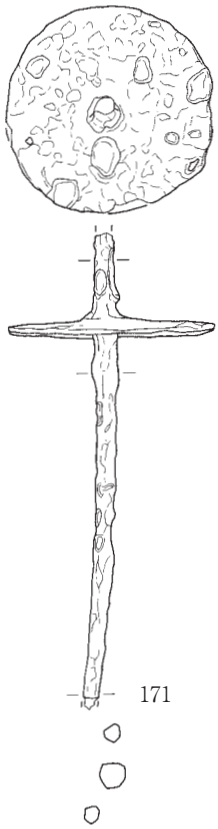
49 号竪穴建物



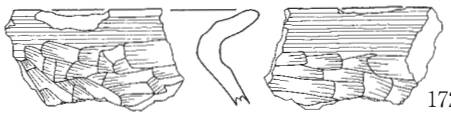
50 号竪穴建物



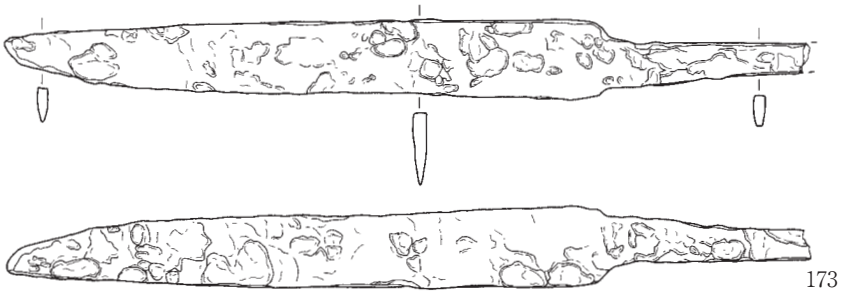
第185図　遺構内出土遺物19



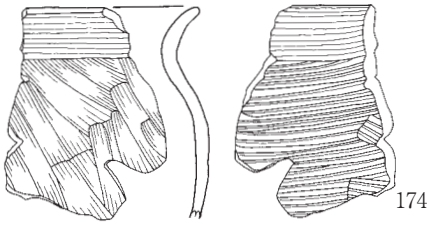
50 号竪穴建物



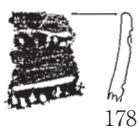
51 号竪穴建物



53 号竪穴建物



57 号竪穴建物

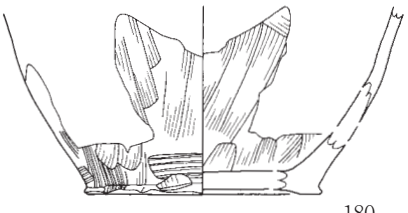


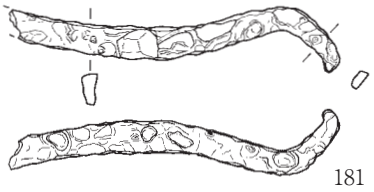
61 号竪穴建物

60 号竪穴建物

第186図　遺構内出土遺物20

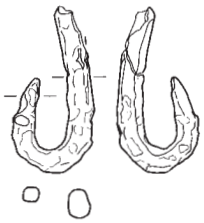
179


180


181

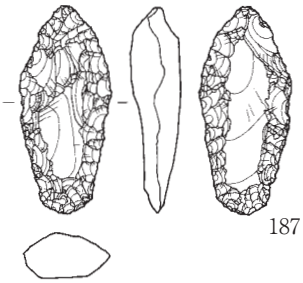
63 号竪穴建物

182

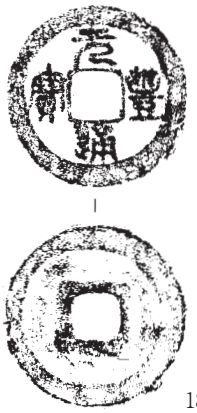

186

183

69 号竪穴建物


187

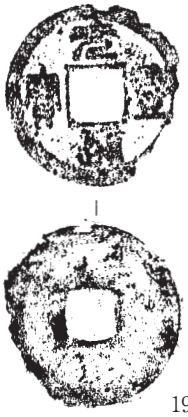
184


185

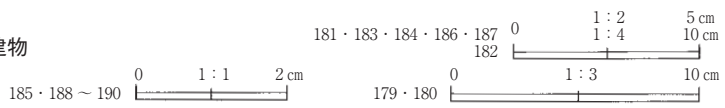
64 号竪穴建物

188

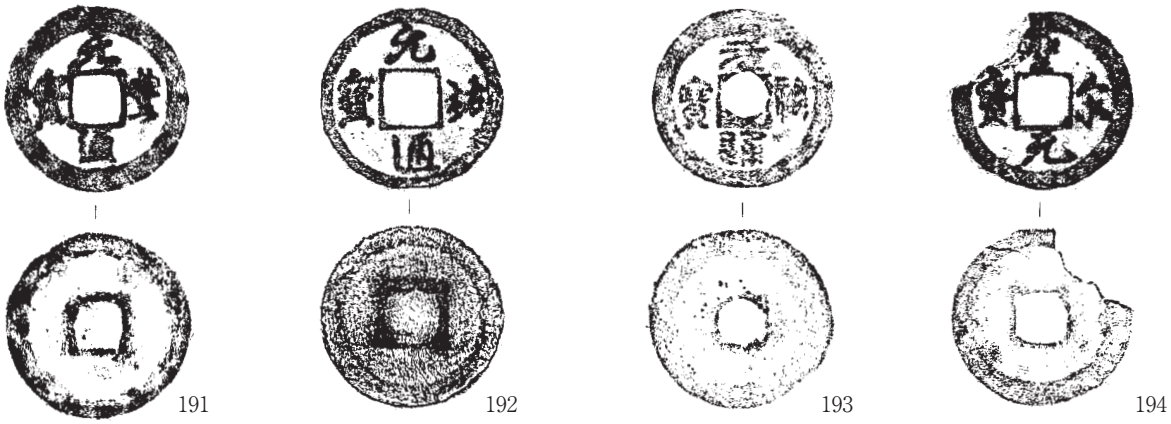
189


190

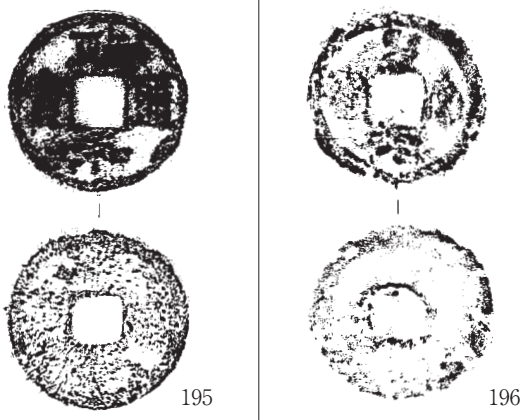
70 号竪穴建物



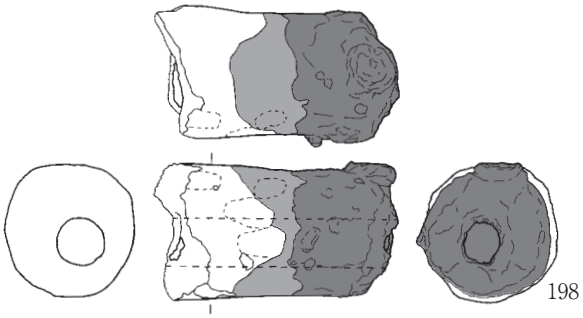
第187図　遺構内出土遺物21

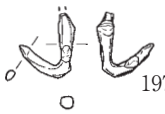


70 号竪穴建物

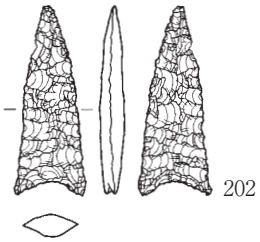


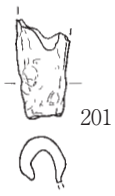
71 号竪穴建物

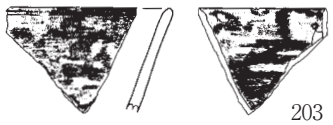




75 号竪穴建物

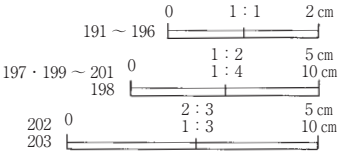




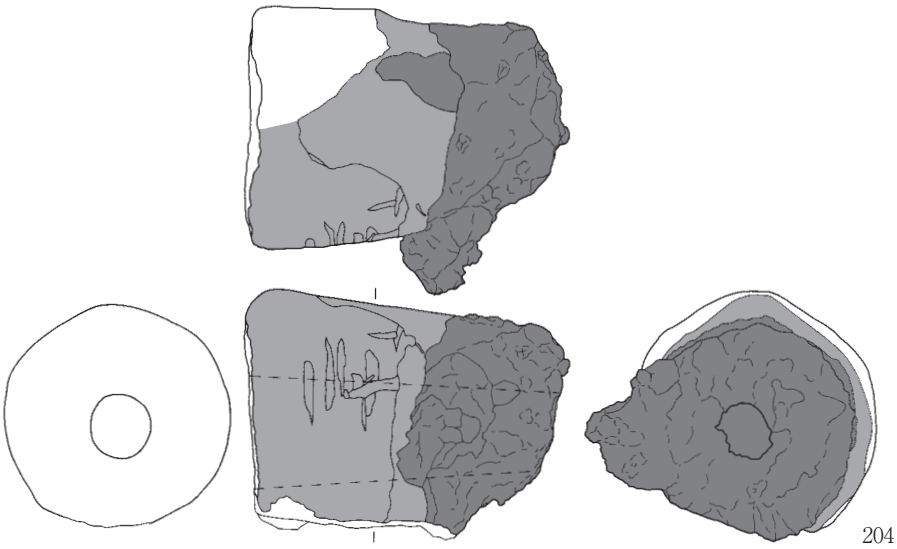


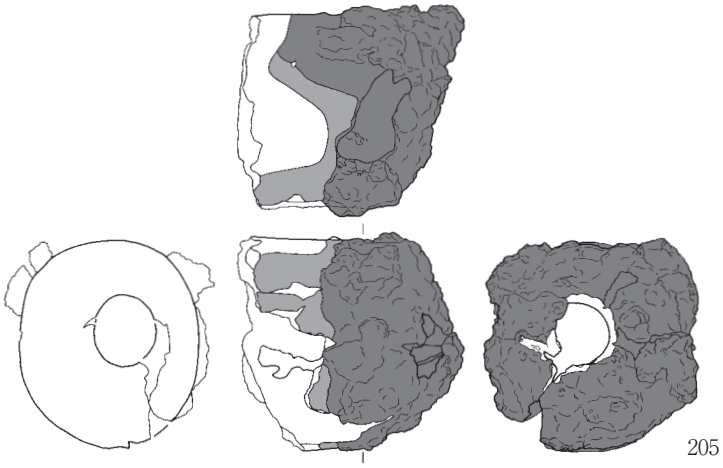
1 号排滓場

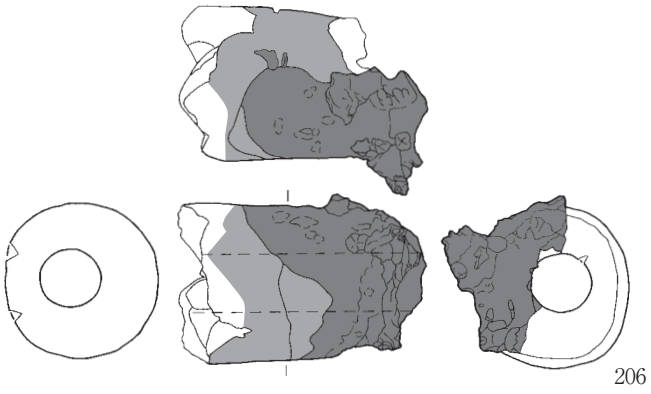
1 号鍛冶工房跡



第188図　遺構内出土遺物22



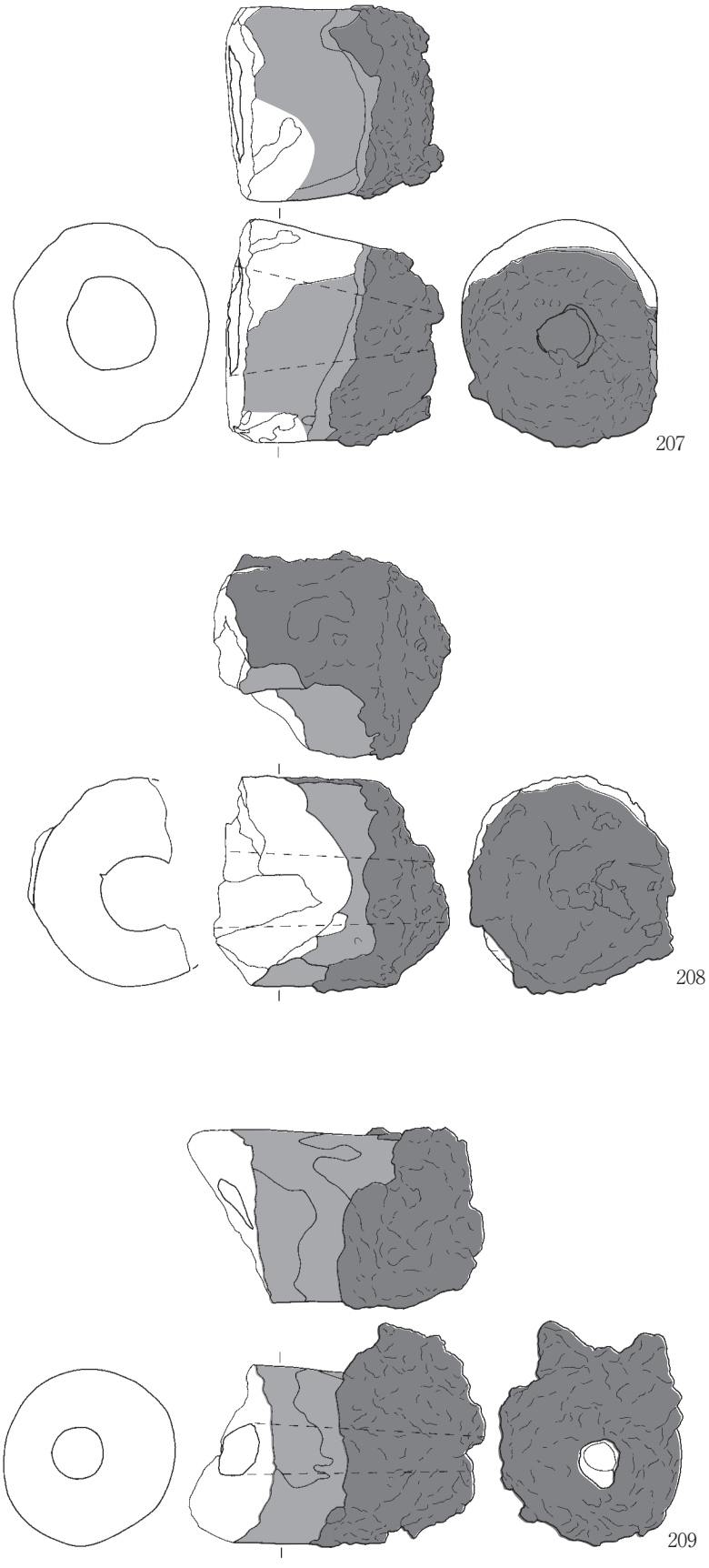




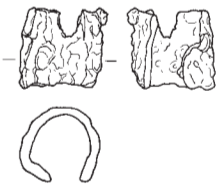
1 号排滓場

204 ～ 206　0　1：5　10 cm

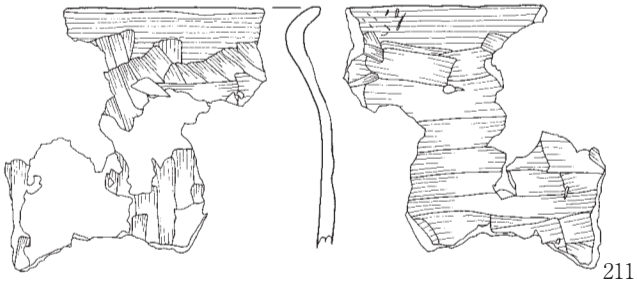
第189図　遺構内出土遺物23

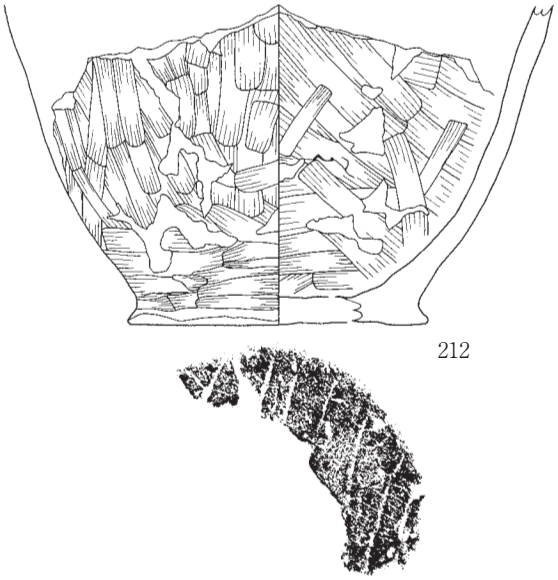


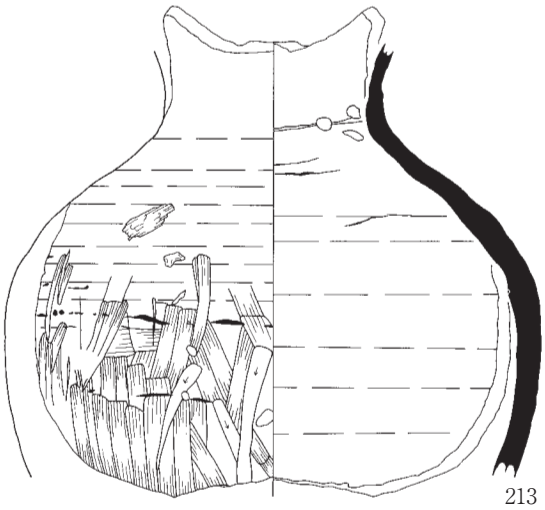
第190図　遺構内出土遺物24

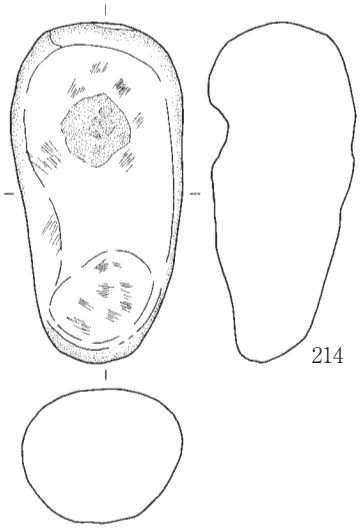


1 号焼土

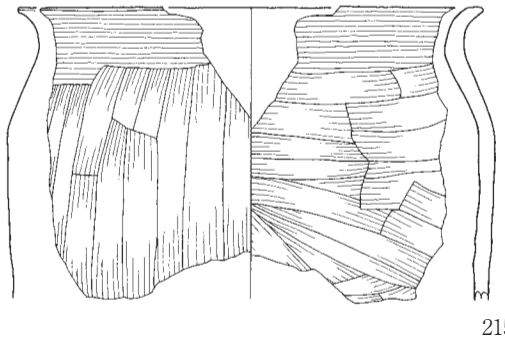




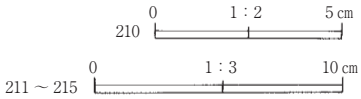




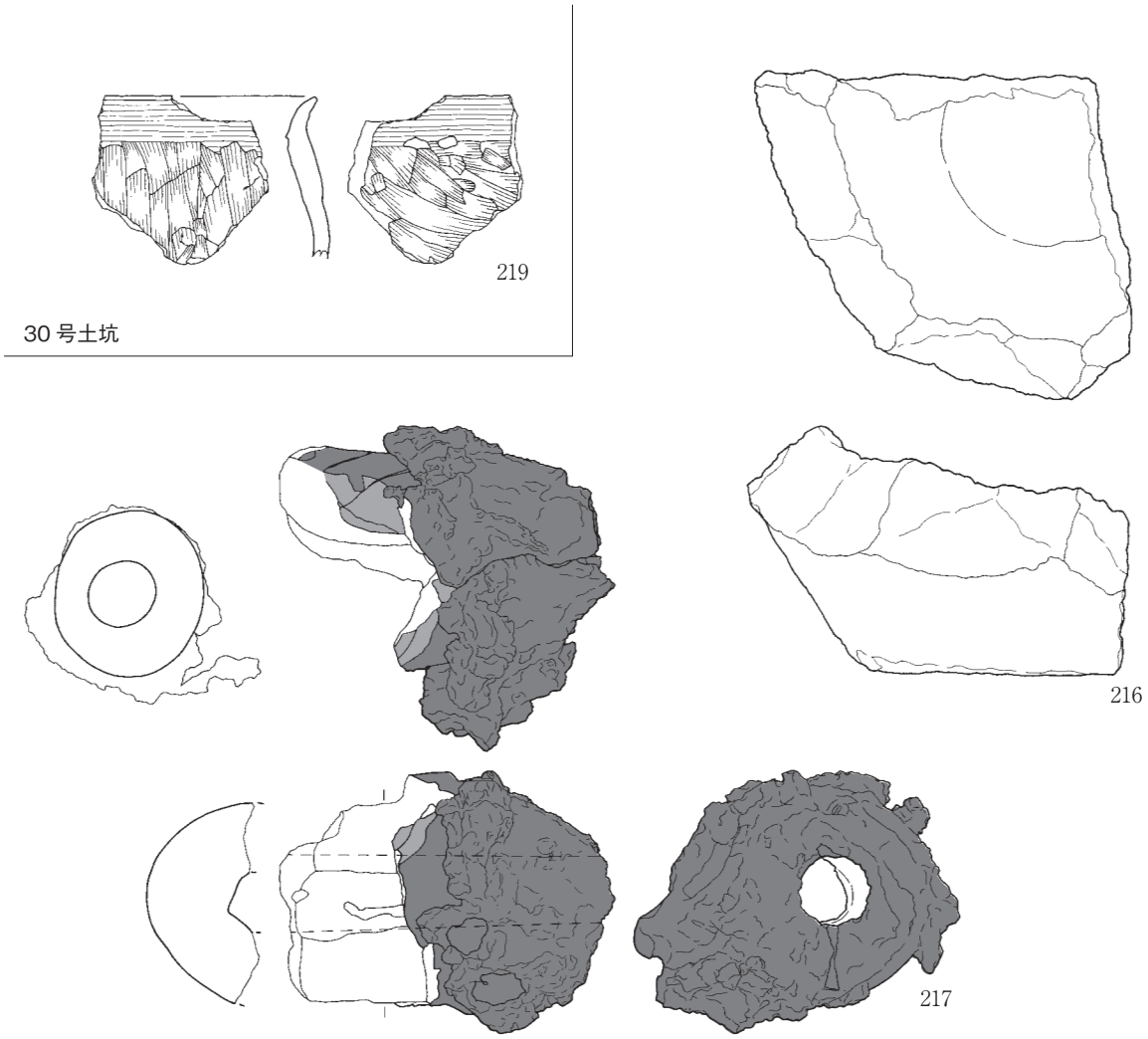
11 号土坑



13 号土坑



第191図　遺構内出土遺物25



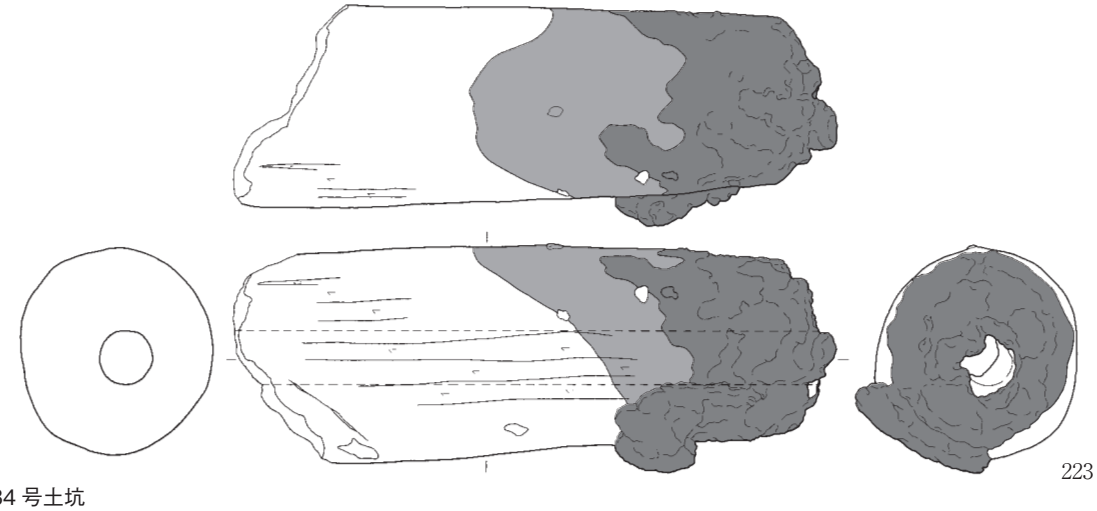
30 号土坑

21 号土坑

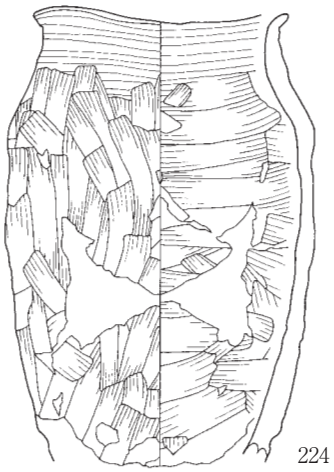
29 号土坑

31 号土坑

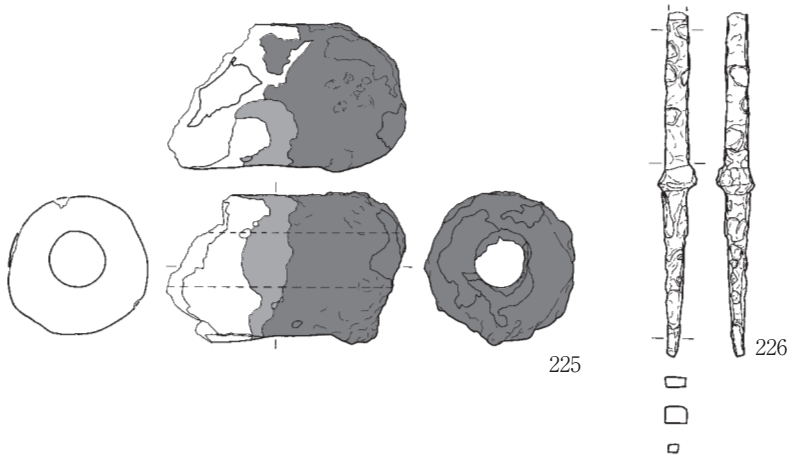
第192図　遺構内出土遺物26



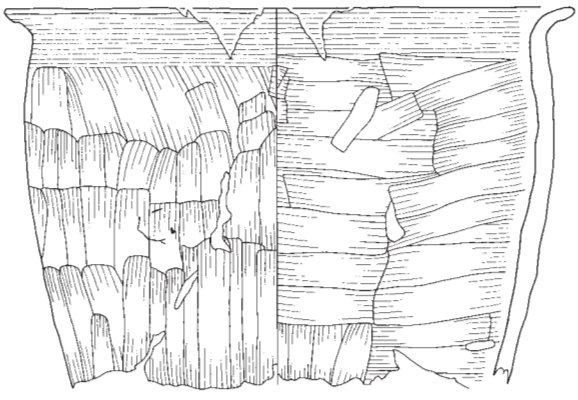
34 号土坑

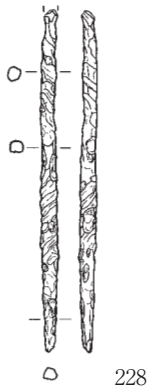


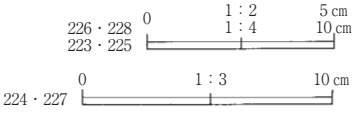
35 号土坑



39 号土坑

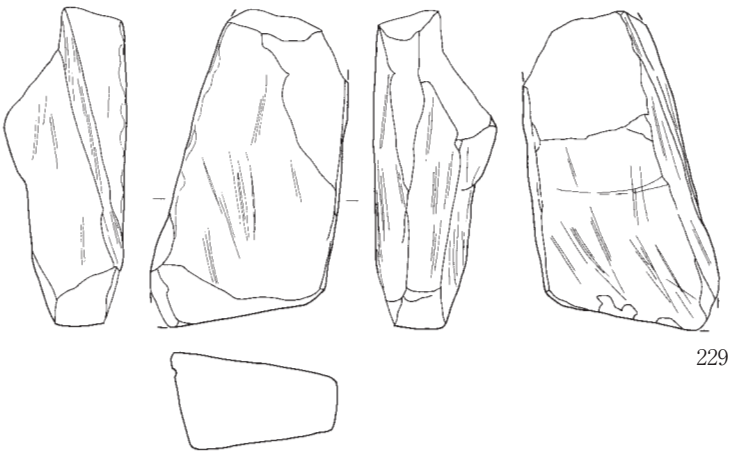




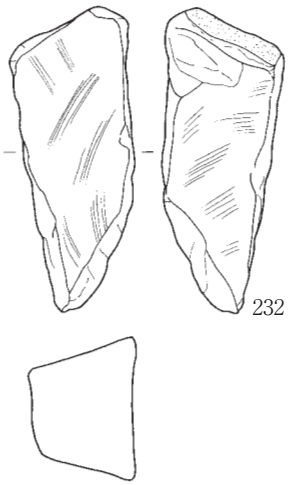


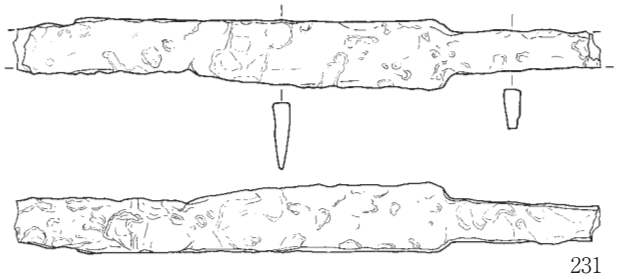
40 号土坑

第193図　遺構内出土遺物27

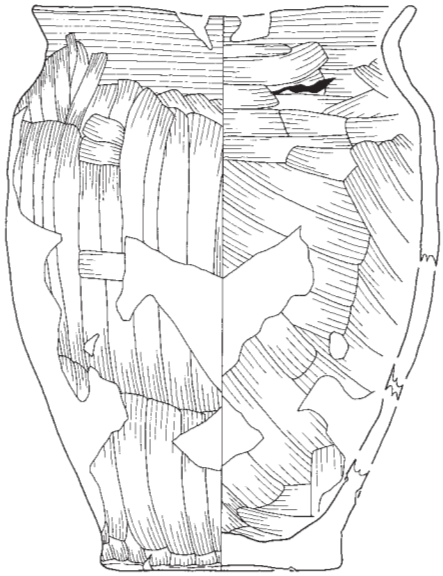


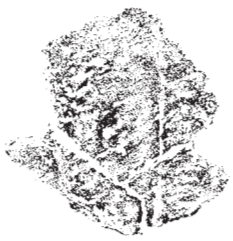
40 号土坑

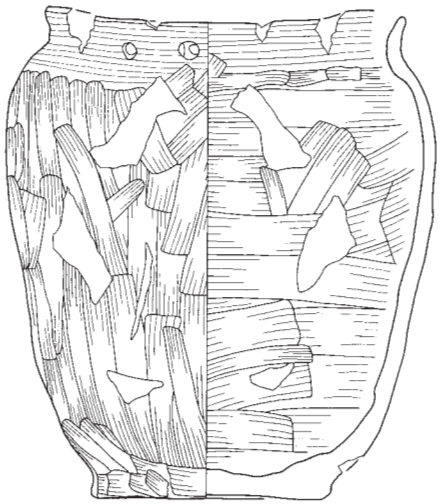


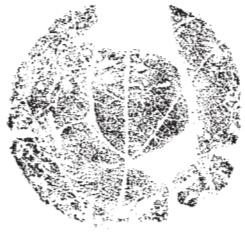


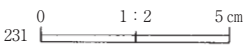
45 号土坑





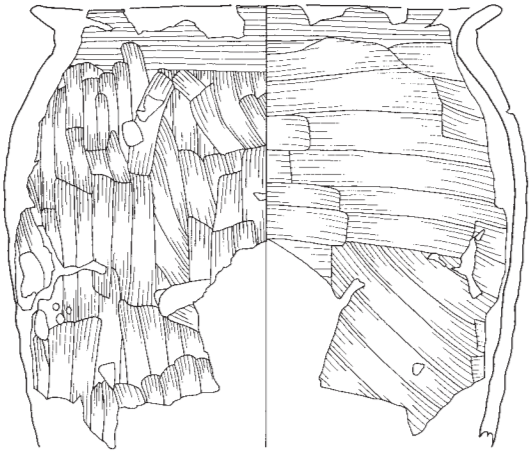


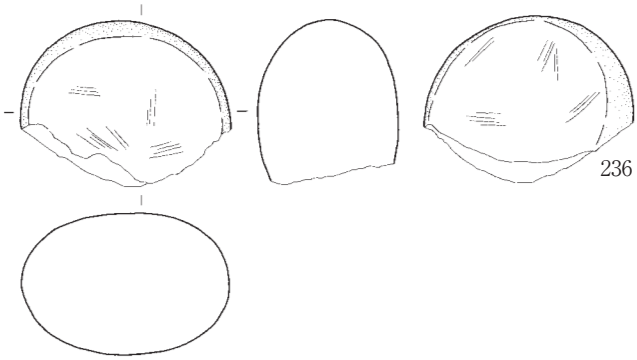


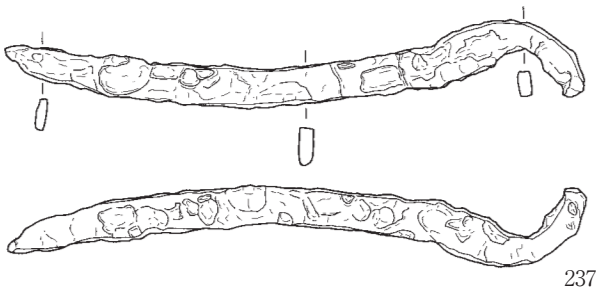


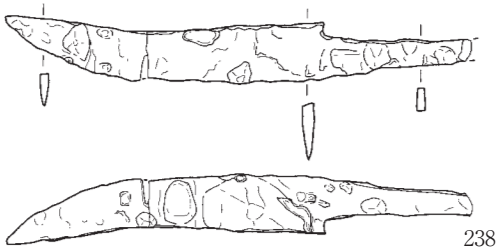
46 号土坑

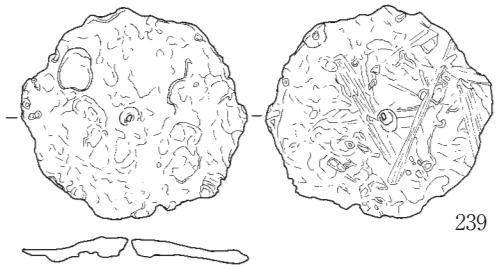
第194図　遺構内出土遺物28


235

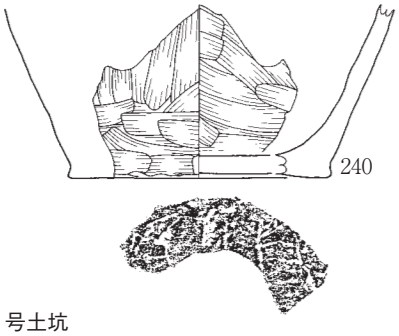

236


237

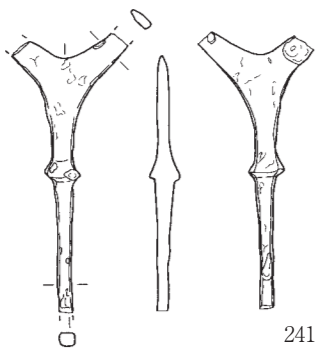

238

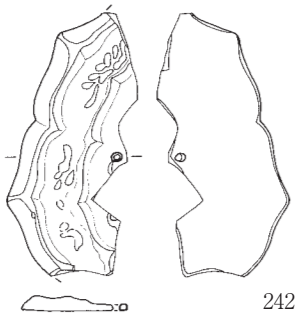

239

46 号土坑


240

51 号土坑


241

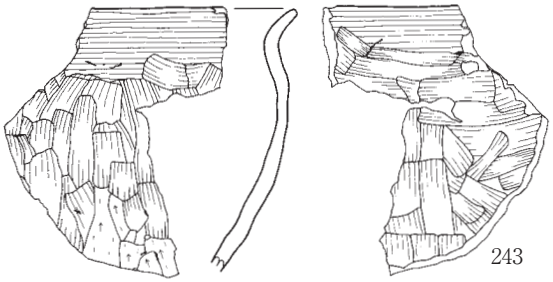

242

237 ～ 239・241・242　0　1：2　5 cm

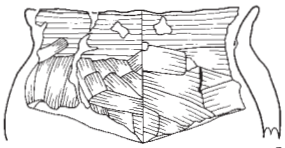
235・236・240　0　1：3　10 cm

54 号土坑

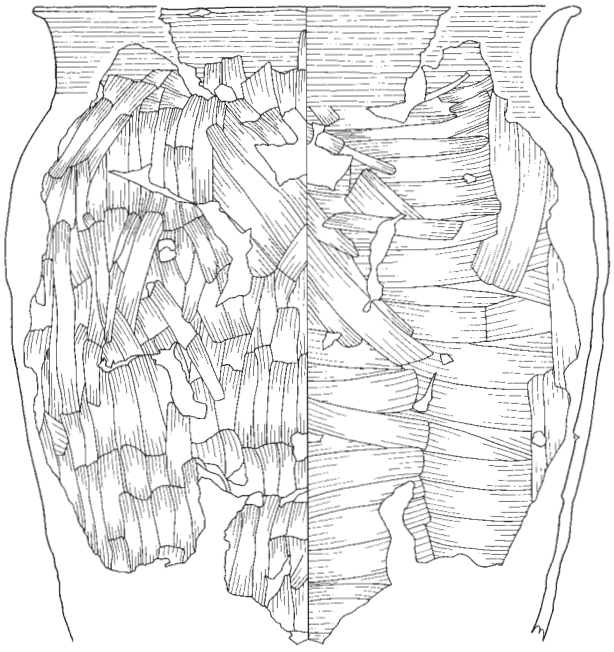
第195図　遺構内出土遺物29



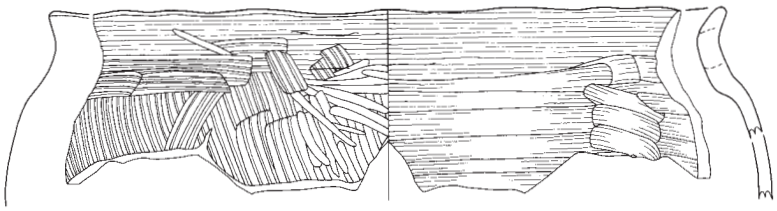
69 号土坑



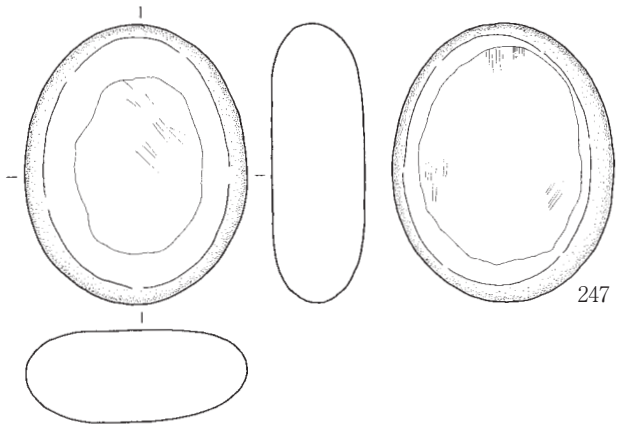
76 号土坑



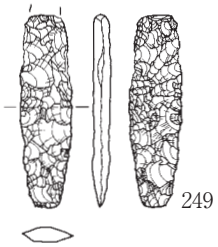
72 号土坑

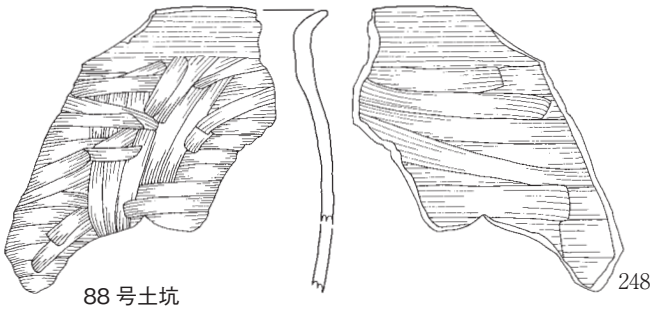


79 号土坑

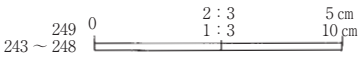


81 号土坑

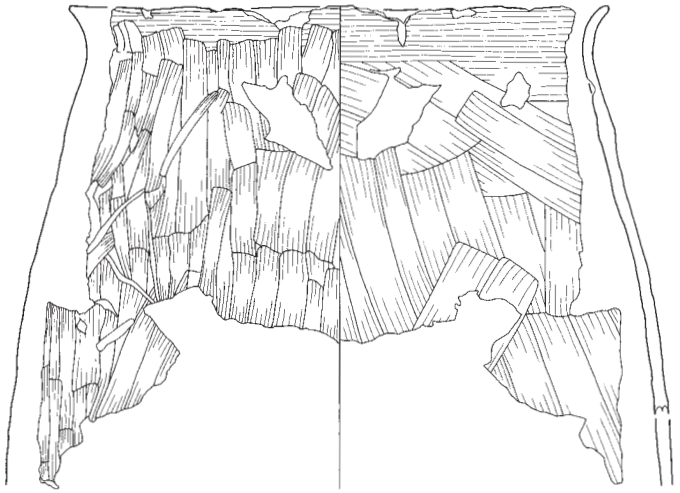




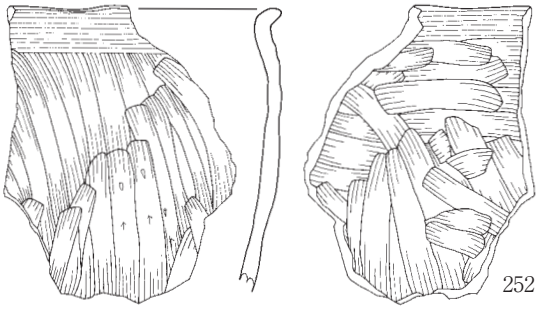
88 号土坑



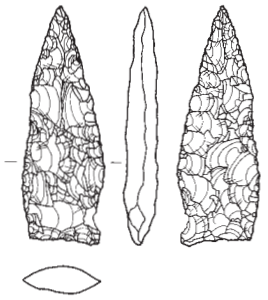
第196図　遺構内出土遺物30



97 号土坑　250

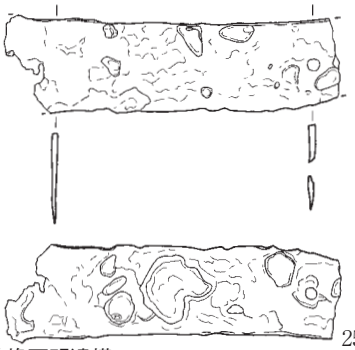


57 号陥し穴状遺構　252　253

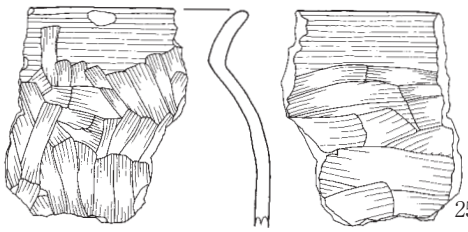


31 号陥し穴状遺構　251

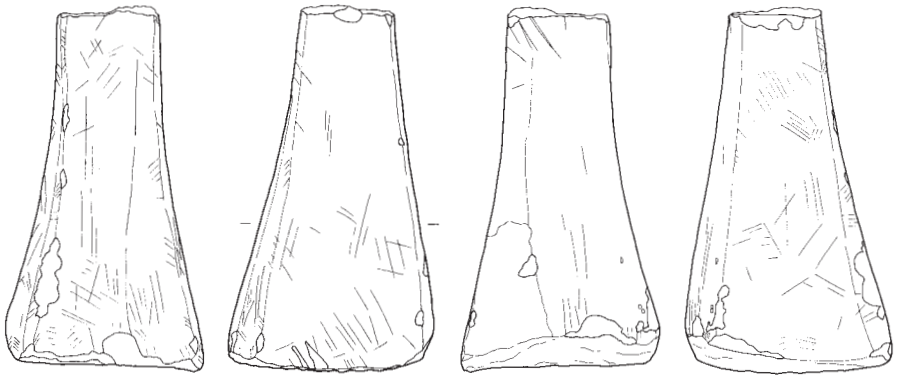
254



2 号性格不明遺構　255

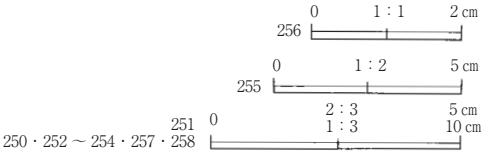


P23　258

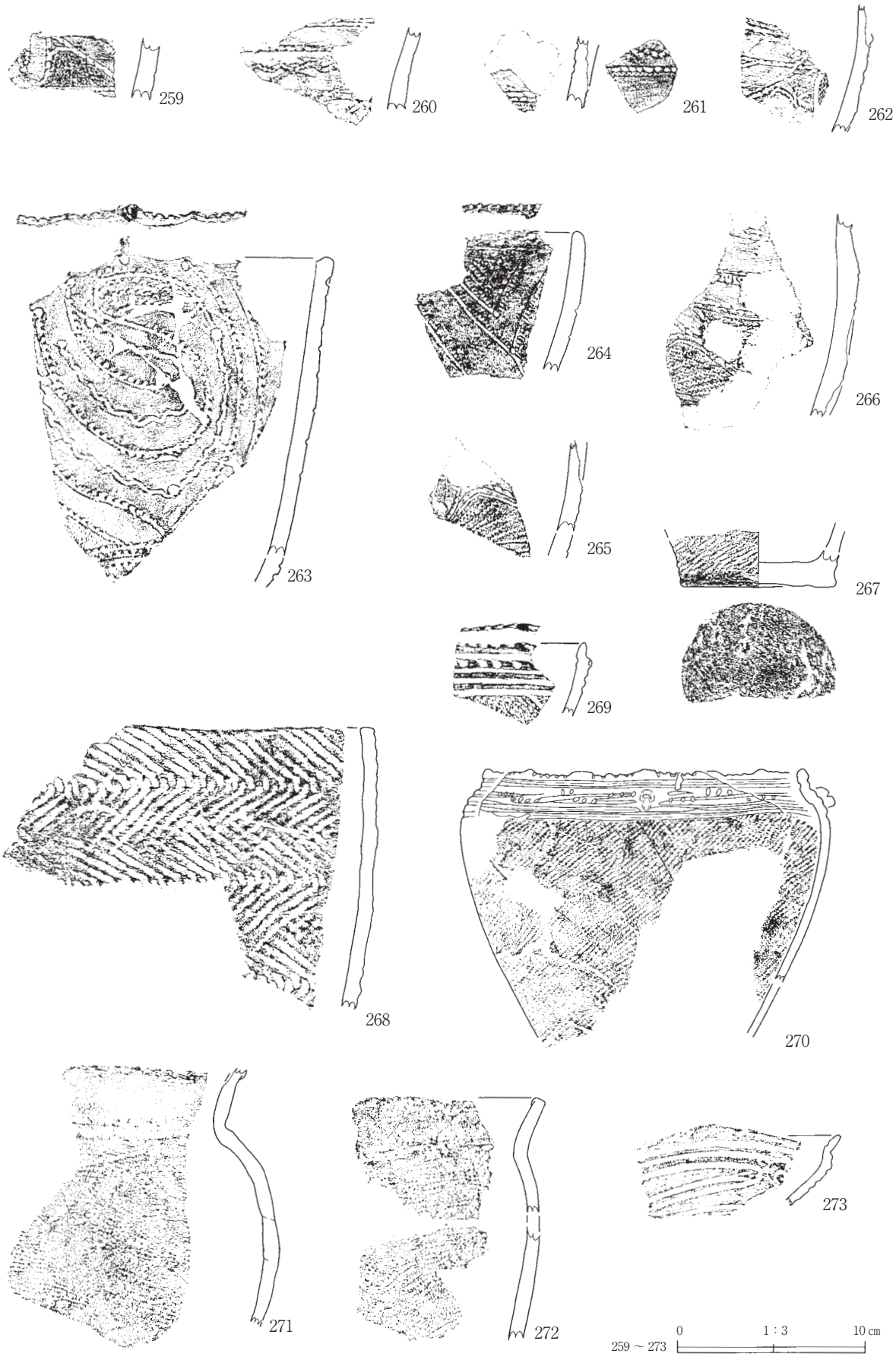


P5　257

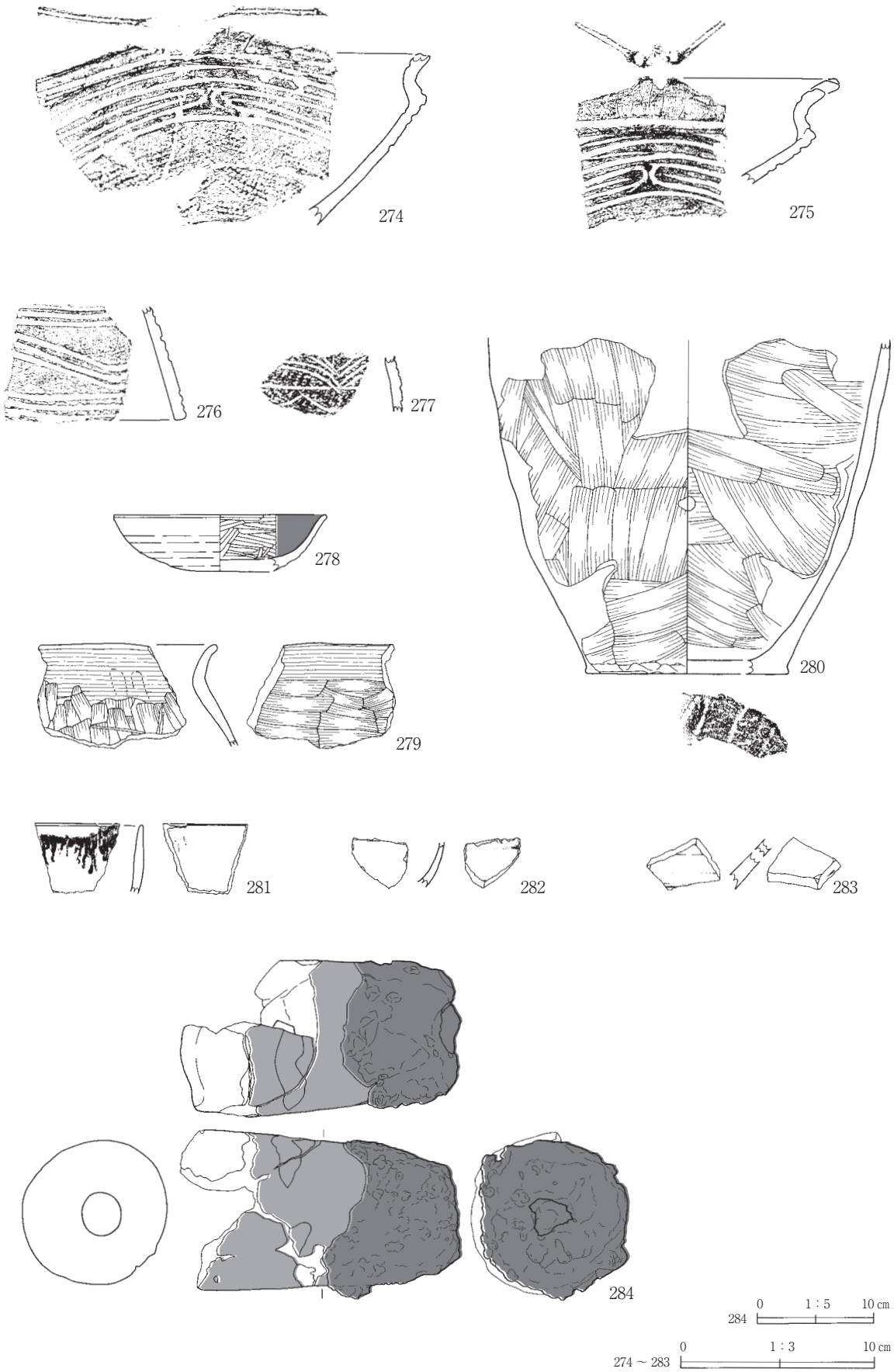
P2　256



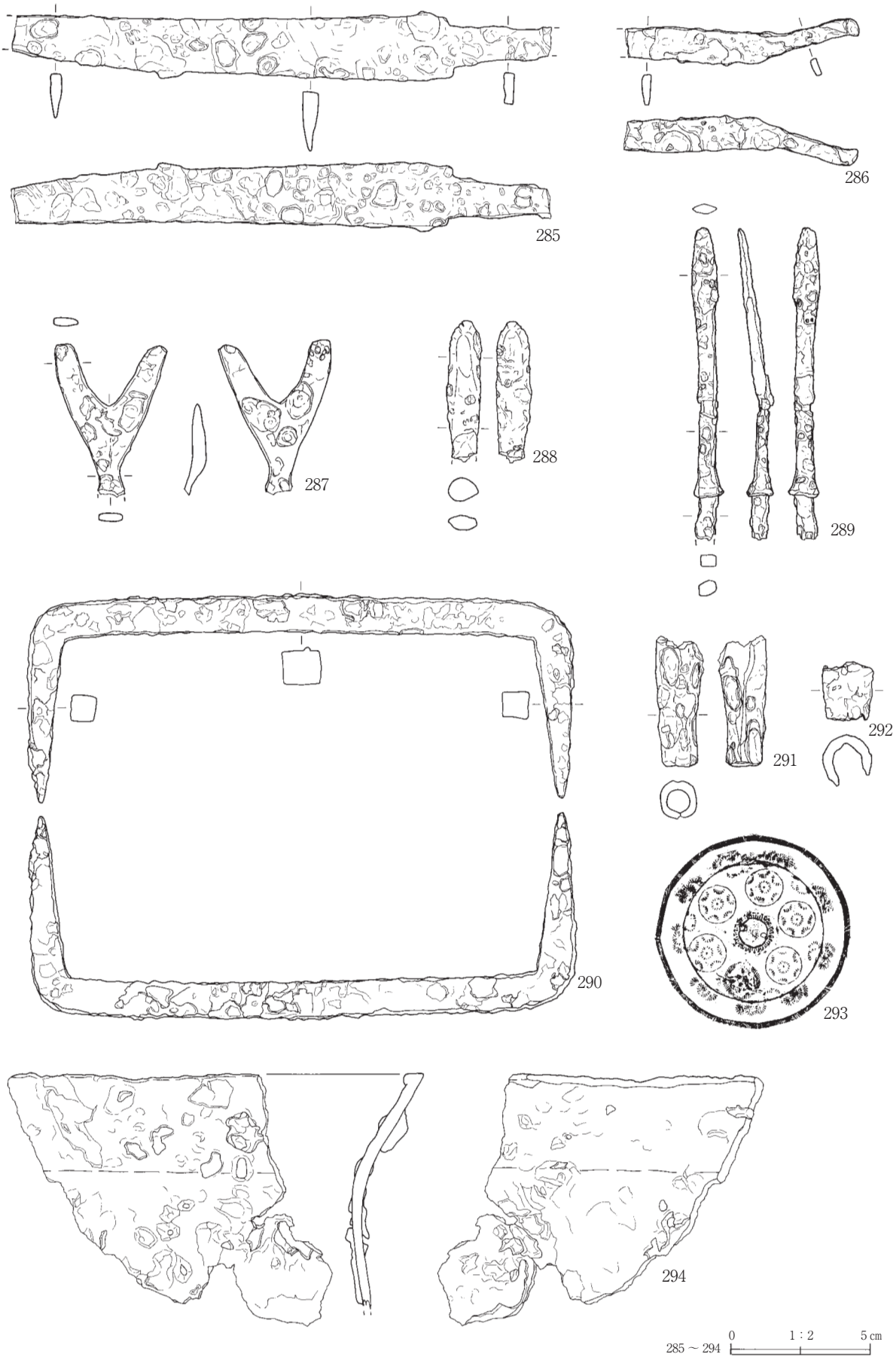
第197図　遺構内出土遺物31



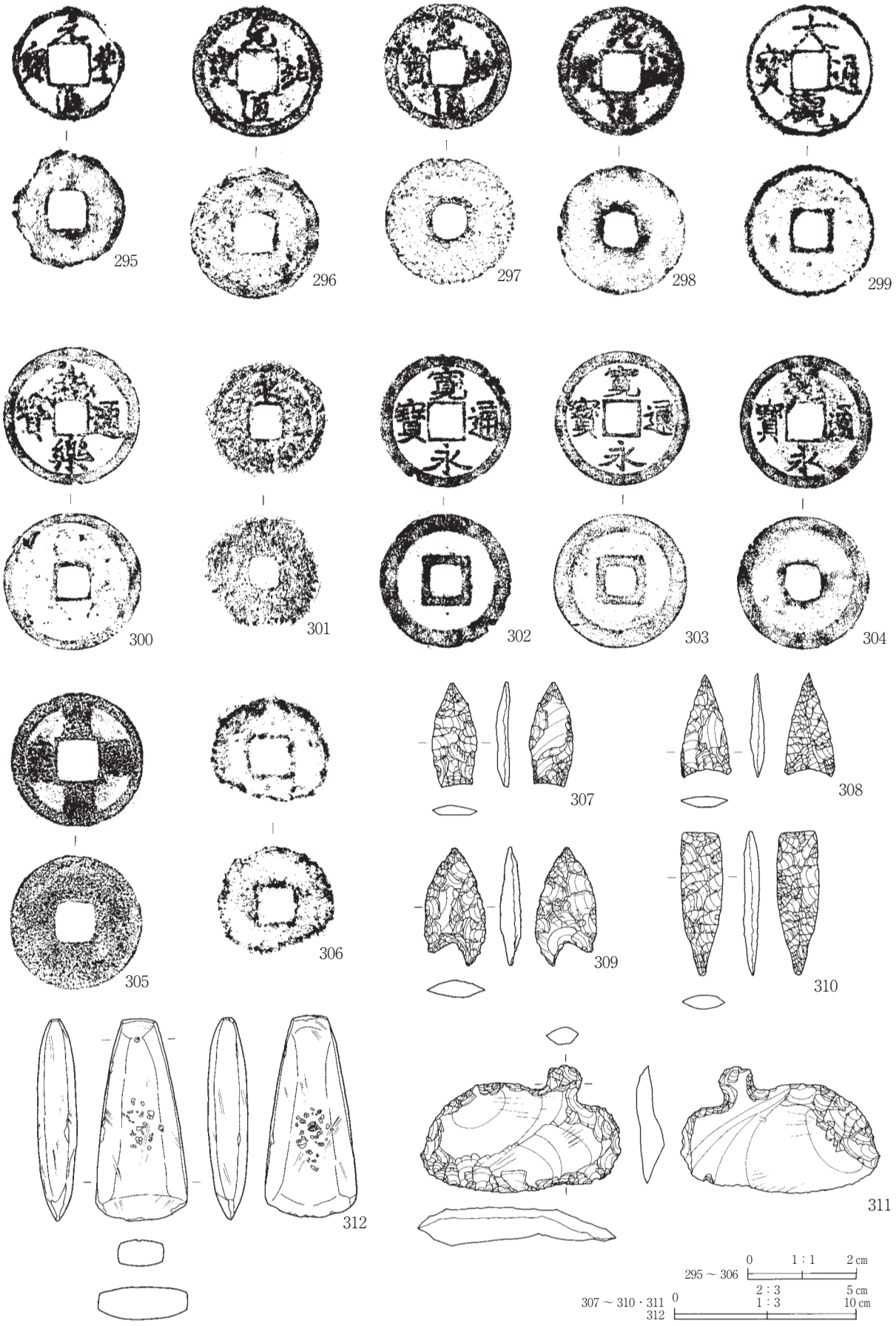
第198図　遺構外出土遺物１（縄文・弥生土器）



第199図　遺構外出土遺物２（弥生土器、土師器、陶器、羽口）



第200図　遺構外出土遺物３（金属遺物）



第201図　遺構外出土遺物４（銭貨・石器）

第６表　古代土器観察表

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	器面調整			計測値(cm)			備考	図版	写図
						外面	内面	底部外面	口径	器高	底径			
1	1号竪穴建物	埋土	土師器	坏	体～底部	体部：ロクロナデ	体部：内黒、ミガキ	回転糸切	－	<2.0>	5.6		167	171
2	1号竪穴建物	貼床内	土師器	坏	体部	ナデ(朱部分ミガキ)・ケズリ	ミガキ		－	<5.2>	－	両面赤彩	167	171
3	1号竪穴建物	カマド袖部	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(11.0)	<7.9>	－		167	171
4	1号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(17.4)	<23.4>	－		167	171
5	1号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横～斜)	木葉痕	(19.0)	<24.8>	(11.0)		167	171
6	1号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・縦)		(14.4)	<8.1>	－	内面に煤付着	167	171
7	1号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ケズリ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	ナデ→摩滅	15.4	14.2	6.4		167	171
16	3号竪穴建物	埋土	土師器	坏	体～底部	体部：ロクロナデ	体部：内黒ロクロナデ	回転糸切	－	<1.3>	(5.4)		168	172
17	3号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<8.2>	－		168	172
18	3号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(14.5)	<10.3>	－		168	172
22	4号竪穴建物	カマド周辺	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(上半→横・下→半横)	ケズリ	(13.0)	13.8	(9.7)		169	172
24	7号竪穴建物	埋土	土師器	坏	体～底部	体部：ロクロナデ、下部ケズリ	体部：内黒、ミガキ	ケズリ→摩滅弱	－	<2.1>	(7.4)		169	172
25	7号竪穴建物	埋土	土師器	坏	体部	体部：ロクロナデ	体部：ミガキ		－	<3.9>	－	両面赤彩	169	172
26	7号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁部	口縁：工具により沈線状の段を有するロクロナデ(横)	ロクロナデ		－	<5.7>	－		169	172
27	7号竪穴建物	埋土	須恵器	甕	口縁～体部	口縁：ロクロナデ 体部：タタキメ	口縁：ロクロナデ 体部：ロクロナデ		－	<6.8>	－		169	172
28	7・10号竪穴建物・7号焼成遺構	7号竪穴建物埋土 10号竪穴建物床面 7号焼成遺構検出面	須恵器	甕	体部	体部：タタキメ	体部：ナデ		－	<19.7>	－		169	172
29	7号竪穴建物	埋土	須恵器	壺	口縁(頚部)	ロクロナデ	ロクロナデ		－	<7.0>	－		169	173
40	8号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<6.6>	－	口縁部外面に煤付着	171	173
41	8号竪穴建物－土坑1	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<14.1>	－		171	173
54	9号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ強(横)	器体表面に煤付着	－	<5.8>	－		172	174
55	10号竪穴建物	貼床内	土師器	坏	口縁～底部	口縁～体部：ロクロナデ	体部：ミガキ	回転糸切？	(12.6)	3.1	(5.7)	内面黒色処理なし	172	174
56	10号竪穴建物	貼床内	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		－	<8.5>	－		172	174
57	10号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	木葉痕	20.8	30.0	11.1	外面上半に煤多く付着	172	175
58	11号竪穴建物	貼床内	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ハケメ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：上半ハケメ(斜)、下半ナデ(縦・横)	木葉痕	(20.0)	30.2	11.3		173	175
59	11号竪穴建物	カマド袖部付近	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	木葉痕	17.0	17.8	10.6		173	175
60	12号竪穴建物	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(14.4)	<4.2>	－		173	175
64	13号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(19.2)	<12.8>	－		174	175
65	13号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(18.6)	<10.0>	－		174	176
66	13号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		(9.2)	<3.6>	－		174	176
67	13号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(横・斜)	体部：ナデ(斜・縦)	木葉痕	－	<8.2>	6.9		174	176
76	15号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦→斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(22.5)	<12.1>	－		175	176
77	16号竪穴建物	カマド燃焼部付近	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(16.0)	<4.7>	－		175	176
80	17号竪穴建物	カマド燃焼部、床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：粗目ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)		(11.9)	<7.6>	－		175	177

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	器面調整			計測値(cm)			備考	図版	写図
						外面	内面	底部外面	口径	器高	底径			
81	17号竪穴建物	カマド埋土１層	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<5.2>	－		175	177
82	18号竪穴建物	焼土付近	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(19.3)	<17.7>	－		176	177
83	18号竪穴建物	焼土付近	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(23.2)	<7.5>	－		176	177
84	19号竪穴建物	床面	土師器	甕	体部	体部：ナデ(縦・斜)	体部：ナデ(縦・横)		－	<11.9>	－		176	177
85	19号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(斜)、下部のみ横	体部：ナデ(縦･斜)、下部のみ横	木葉痕	－	<10.8>	9.4	底部外面・胴部内面に煤付着	176	177
90	21号竪穴建物	埋土	土師器	坏	口縁～底部	口縁：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	口縁：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	回転糸切	(12.5)	3.6	(5.4)		177	177
91	21号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：上半ナデ(横･斜)、下半(縦)	口縁：ナデ(横) 体部:上半ナデ(横)、下半(縦・斜)		－	<12.1>	－		177	177
92	21号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(横・斜)	体部：ナデ(斜)	木葉痕	－	<6.6>	10.7		177	177
93	21号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(縦)、下部のみ横	体部：ナデ(斜)、下部のみ横	摩滅	－	<13.8>	(12.3)		177	177
103	22号竪穴建物	埋土上位	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・横)		(18.4)	<5.4>	－		178	178
104	22号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦→横)		－	<5.1>	－		178	178
105	22号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<5.9>	－		178	178
116a	23号竪穴建物	カマド２埋土、床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		(17.6)	<17.0>	－	外面に煤付着	179	179
116b	23号竪穴建物	カマド２埋土、床面	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(縦)、下部のみ横	体部：ナデ(横)	ナデ？→摩滅	－	<9.3>	10.2		179	179
119	24号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・横)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・縦)		11.6	<14.5>	－		179	179
121	25号竪穴建物	カマド	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		－	<6.5>	－		180	179
122	26号竪穴建物	カマド右袖堆積層	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<7.2>	－		180	179
123	26号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・横)		－	<7.8>	－		180	179
124	26号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<6.4>	－		180	179
127	29号竪穴建物	床面、カマド付近	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦→横)		－	<10.0>	－	口縁外面に煤付着	180	179
128	29号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(斜) 体部：ナデ(斜)		－	<5.8>	－		180	179
129	29号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横→縦) 体部：ナデ(斜・横)	木葉痕→外縁のみ再調整	(12.9)	18.3	(9.8)		180	180
130	29号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ケズリ→ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)	木葉痕	23.7	35.8	(13.2)		181	180
131	29号竪穴建物	床面、カマド付近	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		(16.3)	<24.0>	－		181	180
134	30号竪穴建物	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(斜) 体部：ナデ(横・縦・斜)		14.6	<14.2>	－		182	180
135	30号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(斜) 体部：ナデ(横・斜)		(15.2)	<15.0>	－		182	181
136	30号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(斜) 体部：ナデ(横・斜)		(14.4)	<4.5>	－		182	181
139	31号竪穴建物	カマド煙道部埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(斜・縦・横)	体部：ナデ(斜→横)	木葉痕	－	<9.4>	(12.8)		182	181
143	32号竪穴建物	検出面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		－	<13.2>	－		183	181
149	36号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)		－	<5.5>	－		183	181
150	37号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)		－	<4.6>	－		183	181
151	37号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ケズリ(縦)	体部：ナデ(横・斜)	ナデ→摩滅	－	<7.1>	7.1		183	181
152	37号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体部	体部：ナデ(斜・縦)	体部：ナデ(斜)		－	<9.4>	－		183	182

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	器面調整			計測値(cm)			備考	図版	写図
						外面	内面	底部外面	口径	器高	底径			
154	41号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・横)		－	<5.7>	－		184	182
155	45号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・横)		－	<11.0>	－		184	182
156	45号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<6.5>	－		184	182
159	48号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)		－	<5.7>	－		184	182
160	48号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(縦・横)	体部：ナデ(斜)	木葉痕	－	<12.0>	(13.2)		184	182
161	49号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・横)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		－	<9.0>	－		185	182
163	50号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ハケメ(横)・ ナデ(横)	木葉痕	(22.4)	<11.8>	－		185	182
164	50号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ハケメ(斜)		(22.6)	<13.9>	－	口縁外面に煤付着	185	182
165	50号竪穴建物	床面	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(縦・斜)	体部：ナデ(斜・横)	木葉痕	－	<14.7>	(13.8)		185	182
172	51号竪穴建物	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<4.0>	－		186	183
174	57号竪穴建物	床面	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ハケメ(横)		－	<8.4>	－		186	183
179	63号竪穴建物 ・69号土坑	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(縦・斜)	体部：ナデ(横・斜)	木葉痕	－	<13.5>	9.7		187	183
180	63号竪穴建物	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(縦・横)	体部：ナデ(斜)	木葉痕	－	<7.4>	(9.2)		187	183
211	11号土坑	埋土9～11層	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<10.4>	－		191	186
212	11号土坑	埋土9～11層	土師器	甕	体～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<12.7>	(11.7)		191	186
213	11号土坑	埋土9層	須恵器	壺	頸～体部	口縁：ロクロナデ 体部：上半ロクロナデ、下半ナデ・ケズリ(縦)	ロクロナデ		－	<19.4>	－		191	187
215	13号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(18.4)	<11.5>	－		191	187
219	30号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)		－	<6.6>	－		192	187
220	31号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		(12.4)	<4.8>	－		192	187
221	31号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<5.5>	－		192	187
224	35号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横、斜)		(10.0)	<18.1>	－		193	188
227	40号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横、斜)		(22.4)	<14.9>	－		193	188
230	45号土坑	埋土1層	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)		－	<4.1>	－		194	188
233	46号土坑	埋土3層	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)	木葉痕	15.0	22.0	(9.4)		194	189
234	46号土坑	埋土2層	土師器	甕	口縁～底部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)	木葉痕	14.0	19.2	(9.4)	口縁に孔２箇所	194	189
235	46号土坑	埋土1層	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		(18.7)	<17.6>	－		195	189
240	51号土坑	埋土	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(縦・横)	体部：ナデ(斜・粗)	木葉痕	－	<6.9>	(10.0)		195	189
243	69号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ・ケズリ(縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・縦・斜)		－	<10.8>	－		196	190
244	72号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ粗(縦･斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ粗(横･縦)		(21.9)	<25.5>	－		196	190
245	76号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜・横)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		(9.3)	<5.4>	－		196	190
246	79号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜･横)、ミガキ？	口縁：ナデ(縦→横) 体部：ナデ(横)		(27.0)	<7.4>	－		196	190
248	88号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・横)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<11.4>	－		196	190
250	97号土坑	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(縦・斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)		(21.3)	<19.1>	－		197	190

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	器面調整			計測値(cm)			備考	図版	写図
						外面	内面	底部外面	口径	器高	底径			
252	57号陥し穴状遺構	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ケズリ→ナデ(斜・縦)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・斜)		－	<11.8>	－	口縁部短く外反	197	190
253	57号陥し穴状遺構	埋土上位	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<5.5>	－		197	190
254	２号性格不明遺構	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜・横)		－	<4.0>	－	器体表面に煤付着	197	190
258	P23	埋土	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横)		－	<8.5>	－		197	191
278	ＶＡ３ｔ	Ⅱ層	土師器	坏	口縁～体部	口縁：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	口縁：ミガキ(横) 体部：ミガキ(斜・横)		(10.8)	<2.9>	－		199	192
279	ⅣＡ４ｐ	Ⅳ層	土師器	甕	口縁～体部	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(斜)	口縁：ナデ(横) 体部：ナデ(横・粗)		－	<5.4>	－	器体表面に刻線あり	199	192
280	ⅣＡ５ｐ	Ⅳ層	土師器	甕	体～底部	体部：ナデ(斜)	体部：ナデ(斜)	木葉痕	－	<17.1>	(10.2)		199	192

＊()は推定値、<>は残存値

第７表　縄文・弥生土器観察表

No	出土地点	層位	器種	部位	外面(文様)	器面調整		備考	図版	写図
						外面	内面			
30	７号竪穴建物	埋土	高坏？	台部	沈線文				169	173
31	７号竪穴建物	埋土	深鉢	口縁	沈線文間に交互刺突文、ＲＬ				169	173
53	８号竪穴建物	埋土	深鉢	口縁	沈線文間に交互刺突文、ＲＬ				172	174
75	13号竪穴建物	貼床内	深鉢	胴部	ＬＲＬ？(縦)				175	176
148	32号竪穴建物	埋土	深鉢	口縁部	沈線文、交互刺突文				183	181
177	61号竪穴建物	埋土上位	深鉢	口縁	沈線文間に交互刺突文、ＬＬＲ(直前段反撚)		ナデ		186	183
178	61号竪穴建物	埋土上位	深鉢	口縁	沈線文間に交互刺突文、ＬＲ				186	183
259	ＶＢ３ｅ	Ⅴ層	深鉢	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		ミガキ		198	191
260	ＶＢ３ｅ	Ⅴ層	深鉢	口縁部？			ミガキ		198	191
261	ＶＢ３ｅ	Ⅴ層	深鉢	口縁部	貝殻腹縁文		貝殻腹縁文		198	191
262	ＶＢ３ｅ	Ⅴ層	深鉢	口縁部	円形刺突文、貝殻腹縁文		ミガキ		198	191
263	ＶＢ１ｄ	Ⅴ層	深鉢	口縁部	波状口縁、円形刺突文、入組状文(貝殻腹縁文)、鋸歯状沈線		貝殻刺突文		198	191
264	ＶＢ10ａ(旧沢跡)	検出面	深鉢	口縁	波状口縁、円形刺突文、方形状文(貝殻腹縁文)				198	191
265	ＶＢ３ｅ	Ⅴ層	深鉢	口縁部	貝殻腹縁文、沈線		ミガキ		198	191
266	ＶＢ３ｅ	Ⅴ層			貝殻腹縁文、沈線		ミガキ		198	191
267	ＶＡ７ｇ	Ⅲ層	深鉢	底部	直前段反撚Ｒ｛R2(L2)｝		内外面ナデ		198	191
268	ＶＡ７ｇ	Ⅳ層	深鉢	口縁部	口縁平縁、結束縄文(第１種)				198	191
269	ⅢＡ18ｑ	Ⅱ層	鉢	口縁部	沈線文、刺突文、ＬＲＲ(前々段反撚)？		沈線文、ミガキ		198	191
270	ⅢＡ15ｐⅢＡ17ｐⅢＡ18ｑ	Ⅱ～Ⅲ層	台付鉢	口縁～体部	口縁に沈線文、羊歯状文、ＬＬＲ(直前段反撚)		口縁沈線文、ミガキ		198	192
271	ＶＢ８ｄ(旧沢跡)	埋土	深鉢	口縁～体部	口縁無文、ＬＲ		ナデ		198	192
272	ＶＢ８ｄ(旧沢跡)	埋土	深鉢	口縁～体部	口縁無文、ＬＲ				198	192
273	ＶＢ６ｄ	Ⅱ層	高坏？	口縁部	沈線文		口縁沈線文		198	192
274	ＶＢ８ｄ(旧沢跡)	埋土	高坏？	口縁～体部	沈線文、ＬＲ	ミガキ	口縁沈線文、ミガキ	器体表面に赤色顔料付着、弥生前期	199	192
275	ＶＢ８ｄ(旧沢跡)	埋土	高坏	口縁部	沈線文、突起、ＬＲ	ミガキ	口縁沈線文、ミガキ		199	192
276	ＶＢ８ｄ(旧沢跡)	埋土	高坏	台部	沈線３本１単位				199	192
277	ＶＡ１ｒ	Ⅳ層	不明	台部	沈線文、撚糸文				199	192

第８表　陶器観察表

No	出土地点	層位	種類	器種	部位	計測値(cm)			重量(g)	備考	図版	写図
						口径	器高	底径				
9	１号竪穴建物	貼床内	陶器	擂鉢	体部	－	<3.3>	－	16.9		167	171
203	１号排滓場	埋土	陶器	埦	口縁～体部	(11.8)	<4.2>	－	12.0		188	185
281	ⅢＡ20ｓ	Ⅱ層	陶器	埦	口縁～体部	(8.0)	<3.5>	－	10.0		199	192
282	ⅣＡ１ｒ	Ⅱ層	陶器	埦	体部	－	<2.3>	－	3.3		199	192
283	ＶＢ10ｂ	Ⅱ層	陶器	埦	体部	－	<2.6>	－	7.3		199	192

第９表　石器観察表

No	出土地点	層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考	図版	写図
				長さ	幅	厚さ					
23	４号竪穴建物	埋土	石鏃	2.5	1.4	0.3	0.9	頁岩・北上山地・中生代		169	172
43	８号竪穴建物	埋土	砥石	(9.6)	9.4	2.6	266.2	流紋岩・浄土ヶ浜／松山／立丸峠・新生代古第三紀		171	174
86	19号竪穴建物	床面	砥石	15.0	7.8	5.2	816.2	流紋岩・浄土ヶ浜／松山／立丸峠・新生代古第三紀		176	177
89	20号竪穴建物	埋土	石鏃	2.9	1.3	0.3	1.2	頁岩・北上山地・中生代		176	177
117	23号竪穴建物		砥石	(8.5)	(6.2)	4.9	319.0	流紋岩・浄土ヶ浜／松山／立丸峠・新生代古第三紀		179	179
140	31号竪穴建物	貼床内	磨石	12.2	9.3	4.6	783.7	花崗岩・北上山地・中生代白亜紀		182	181
153	39号竪穴建物	埋土２層	磨石類	8.9	9.3	6.5	746.1	砂岩・北上山地・中生代		184	182
166	50号竪穴建物	埋土３層	凹石	17.7	6.3	3.8	540.0	凝灰岩・北上山地・中生代		185	182
176	60号竪穴建物－土坑３	埋土	砥石	(17.1)	9.2	6.3	1461.6	流紋岩・浄土ヶ浜／松山／立丸峠・新生代古第三紀		186	183
187	69号竪穴建物	貼床内	削器	5.5	2.5	1.2	18.4	頁岩・北上山地・中生代		187	184
202	１号排滓場	埋土	石鏃	3.7	1.5	0.5	1.7	頁岩・北上山地・中生代		188	185
214	11号土坑	埋土	凹石	13.5	6.8	5.3	716.4	砂岩・北上山地・中生代		191	187
216	21号土坑	埋土	不明	(12.8)	(14.9)	8.4	1400.9	安山岩・奥羽山脈・新生代第四紀		192	187
229	40号土坑	埋土	砥石	(12.4)	7.7	3.8	388.8	流紋岩・浄土ヶ浜／松山／立丸峠・新生代古第三紀		194	188
232	45号土坑	埋土１層	砥石	11.9	4.8	5.6	337.0	流紋岩・浄土ヶ浜／松山／立丸峠・新生代古第三紀		194	189
236	46号土坑	埋土２層	磨石類	(6.6)	8.3	5.6	408.7	花崗岩・北上山地・中生代白亜紀		195	189
247	81号土坑	埋土	磨石	11.1	8.9	3.7	567.0	花崗岩・北上山地・中生代白亜紀		196	190
249	88号土坑	埋土	石匙	3.9	1.1	0.3	2.0	頁岩・北上山地・中生代	基部欠損	196	190
251	31号陥し穴状遺構	埋土下位	石鏃	4.8	1.7	0.6	4.3	頁岩・北上山地・中生代		197	190
257	Ｐ5	埋土	砥石	(14.5)	8.2	5.6	917.5	砂岩・宮古層群・中生代白亜紀		197	191
307	ⅣＡ14ｔ	撹乱埋土	石鏃	2.9	1.2	0.3	1.1	頁岩・北上山地・中生代		201	194
308	ＶＡ６ｑ	Ⅳ層	石鏃	2.9	1.3	0.4	1.1	頁岩・北上山地・中生代		201	194
309	ⅡＢ２ｂ	Ⅳ層	石鏃	3.2	1.7	0.5	2.5	赤色頁岩・北上山地・中生代		201	194
310	ⅣＡ９ｓ	撹乱埋土	石錐(石鏃を転用)	3.9	1.1	0.4	2.1	頁岩・北上山地・中生代		201	194
311	ⅣA20ｓ	Ⅱ層	石匙	3.4	5.4	0.6	12.4	頁岩・北上山地・中生代		201	194
312	ⅢA20ｒ	Ⅳ層	磨製石斧	10.9	4.9	1.7	178.3	蛇紋岩・早池峰山周辺・古生代オルドビス紀		201	194

第10表　土製品観察表

No	出土地点	層位	種別	計測値(cm)			重量(g)	表面	裏面	備考	図版	写図
				長さ	幅	厚さ						
32	７号竪穴建物	カマド右袖脇床面	土製研磨具	30.2	17.1	7.1	3410.0	ナデ	ナデ	細い溝状の使用痕跡あり	170	173
33	７号竪穴建物	カマド右袖内	土製研磨具	15.8	11.1	5.6	906.0	ナデ	ナデ	カマド芯材に転用、水分含むと脆い	170	173

第11表　金属遺物観察表

No	出土地点	層位	素材	器種	計測値(cm)			重量(g)	備考	図版	写図
					長さ	幅	厚さ				
8	1号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<15.4>	1.6	0.4	27.70		167	171
13	2号竪穴建物	床面	鉄	銛	19.5	2.5	1.0	88.72		168	172
14	2号竪穴建物	貼床内	鉄	鉄鏃	<11.3>	1.0	0.8	13.40		168	172
15	2号竪穴建物	埋土	鉄	不明	11.7	1.1	0.4	13.76		168	172
20	3号竪穴建物		鉄	鉄鏃	<6.3>	3.3	0.3	10.85		168	172
21	3号竪穴建物		鉄	刀子	<15.2>	1.4	0.5	23.93		168	172
34	7号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<5.6>	1.2	0.4	5.82		170	173
35	7号竪穴建物	埋土	鉄	穂摘具	<6.0>	1.5	0.2	5.20		170	173
36	7号竪穴建物	埋土	鉄	鉄鏃	<10.7>	4.0	0.5	17.85		170	173
37	7号竪穴建物	埋土	鉄	鉄鏃	4.1	3.5	0.3	9.76		170	173
38	7号竪穴建物	埋土下位	鉄	不明	<8.0>	3.4	1.8	157.77		170	173
39	7号竪穴建物	埋土下位	鉄	鋤・鍬	15.4	5.5	1.1	253.09		171	173
44	8号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<7.6>	1.2	0.2	5.33		171	174
45	8号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	10.0	2.0	0.3	16.07		171	174
46	8号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<7.1>	1.2	0.3	5.82		171	174
47	8号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<5.9>	1.0	0.2	5.27		171	174
48	8号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<4.5>	1.2	0.4	4.36	木質付着	171	174
49	8号竪穴建物周辺		鉄	刀子	<11.3>	1.1	0.6	22.77		172	174
50	8号竪穴建物－土坑1	埋土下位	鉄	刀子	<12.8>	1.5	0.4	15.88		172	174
51	8号竪穴建物	埋土	鉄	鎹？	<9.8>	1.5	0.5	23.23		172	174
52	8号竪穴建物－土坑1	埋土	鉄	棒状	<7.0>	0.7	0.5	6.64		172	174
61	12号竪穴建物	床面	鉄	刀子	<13.7>	1.1	0.3	17.93		173	175
62	12号竪穴建物	床面	鉄	鉄鏃	<9.3>	0.9	0.9	11.53		173	175
63	12号竪穴建物	床面	鉄	鉄鏃	<10.8>	1.1	0.5	13.48		173	175
70	13号竪穴建物	カマド左袖上面	鉄	刀子	<11.8>	1.6	0.3	15.38		174	176
71	13号竪穴建物	カマド左袖上面	鉄	刀子	<12.3>	1.2	0.3	11.76		174	176
72	13号竪穴建物	カマド左袖上面	鉄	不明	<10.7>	0.9	0.4	12.62		174	176
73	13号竪穴建物	埋土	鉄	不明	(13.4)	1.2	0.9	51.43		174	176
78	16号竪穴建物	床面	鉄	刀子	16.3	1.2	0.4	19.80		175	176
79	16号竪穴建物	床面	鉄	鉄鏃	<10.3>	1.2	0.5	9.61		175	176
87	19号竪穴建物	埋土上位	鉄	不明	<12.7>	2.4	0.4	17.73		176	177
88	20号竪穴建物付近		鉄	鉄鏃	11.1	1.2	0.6	8.90		176	177
94	21号竪穴建物		鉄	鉄鏃	<10.8>	1.0	0.8	12.36		177	177
95	21号竪穴建物内土坑2	埋土	鉄	鉄鏃	<11.0>	1.4	0.5	11.74		177	178
96	21号竪穴建物	床面	鉄	鉄鏃	9.7	3.7	0.4	23.13		177	178
97	21号竪穴建物	床面	鉄	鉄鏃	11.6	4.1	0.5	20.19		177	178
98	21号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<11.5>	1.3	0.3	11.30		177	178
99	21号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<6.3>	1.5	0.3	7.50		177	178
100	21号竪穴建物	埋土	鉄	紡錘車	<11.1>	5.6	0.5	37.55		178	178
101	21号竪穴建物		鉄	鎹	<12.1>	2.4	0.3	21.35		178	178
102	21号竪穴建物		鉄	鎹	<3.7>	2.2	0.4	3.37		178	178
106	22号竪穴建物		鉄	不明(筒状)	3.3	1.5	0.3	14.06		178	178
107	22号竪穴建物		鉄	不明(筒状)	3.2	2.1	0.3	16.00		178	178

No	出土地点	層位	素材	器種	計測値(cm)			重量(g)	備考	図版	写図
					長さ	幅	厚さ				
108	22号竪穴建物		鉄	不明(筒状)	2.7	2.0	0.3	9.00		178	178
109	22号竪穴建物	埋土下位	鉄	刀子	<11.5>	1.0	0.4	9.27		178	178
110	22号竪穴建物	埋土上位	鉄	刀子	<11.6>	1.2	0.4	12.58		178	178
111	22号竪穴建物	埋土上位	鉄	刀子	<4.4>	1.2	0.3	2.68		178	178
112	22号竪穴建物	埋土中位	鉄	刀子	(7.1)	1.2	0.4	8.25		178	178
113	22号竪穴建物	埋土上位	鉄	鉄鏃	15.3	1.0	0.8	14.95		179	178
114	22号竪穴建物－土坑1		鉄	鉄鏃	16.6	0.9	0.4	13.82		179	179
115	22号竪穴建物	床面	鉄	棒状	<9.4>	0.7	0.4	9.03		179	179
118	23号竪穴建物	床面	鉄	紡錘車	4.9	径4.9	0.3	19.73	円盤部分のみ	179	179
120	24号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	<8.3>	1.9	0.4	14.28		179	179
125	26号竪穴建物	貼床内	鉄	鉄鏃	<7.9>	1.0	0.5	6.39		180	179
133	29号竪穴建物	床面	鉄	紡錘車	<11.2>	径4.7	0.4	17.70		181	180
137	30号竪穴建物	床面	鉄	刀子	<13.9>	1.7	0.3	15.66	29号竪穴建物貼床の可能性あり	182	181
138	30号竪穴建物	カマド崩落土内	鉄	刀子	12.2	1.1	0.4	9.32		182	181
141	31号竪穴建物	床面	鉄	刀子	<14.2>	1.4	0.5	27.67		182	181
142	31号竪穴建物	床面	鉄	紡錘車	※ <22.2>	径5.2	0.5	41.36+1.43	※軸棒長さは５点の合計	183	181
146	32号竪穴建物	カマド煙出部埋土	鉄	刀子	<10.0>	1.1	0.5	14.78		183	181
147	32号竪穴建物	トレンチ	鉄	釣針	11.2	6.9	0.7	34.75		183	181
157	45号竪穴建物	埋土	鉄	刀子	12.3	1.2	0.3	16.28		184	182
158	45号竪穴建物	周溝埋土	鉄	刀子	<15.5>	1.3	0.4	20.70		184	182
162	49号竪穴建物		鉄	鉄鏃	<8.0>	1.0	0.4	6.45		184	182
167	50号竪穴建物	床面	鉄	鉸具	4.3	5.0	0.7	31.98		185	183
168	50号竪穴建物	床面	鉄	刀子	<8.2>	2.4	0.3	11.19		185	183
169	50号竪穴建物	床面	鉄	刀子	(9.5)	1.1	0.5	15.23		185	183
170	50号竪穴建物	床面	鉄	不明(筒状)	1.6	1.3	0.2	4.28		185	183
171	50号竪穴建物	床面	鉄	紡錘車	<12.7>	径5.5	0.7	31.65		186	183
173	53号竪穴建物	埋土３層	鉄	刀子	<21.3>	2.1	0.4	50.08		186	183
175	57号竪穴建物	床面	鉄	鉄鏃	<9.6>	0.9	0.4	7.63		186	183
181	63号竪穴建物	床面	鉄	刀子	<8.8>	0.9	0.4	10.36		187	184
183	64号竪穴建物	埋土	鉄	釘	7.0	1.5	0.8	13.48		187	184
184	64号竪穴建物	埋土	鉄	鋤・鍬	<10.8>	3.4	0.6	57.78		187	184
186	69号竪穴建物	埋土	鉄	釣針	4.4	2.1	0.8	7.71		187	184
197	75号竪穴建物	埋土３層	鉄	釣針	<1.7>	1.5	0.4	0.64		188	185
199	１号鍛冶工房跡	埋土中位	鉄	不明	<16.5>	2.7	0.5	50.27		188	185
200	１号排滓場	埋土	鉄	不明(筒状)	2.5	2.0	0.4	6.72		188	185
201	１号排滓場	埋土	鉄	不明(筒状)	<2.6>	1.4	0.3	4.65		188	185
210	１号焼土	焼土内	鉄	不明(筒状)	2.1	2.2	0.3	7.08		191	186
218	29号土坑	埋土中	鉄	鉄鏃	<10.8>	1.4	0.5	13.05		192	187
222	31号土坑	埋土中	鉄	鉄鏃	<12.2>	1.1	0.4	12.56		192	188
226	39号土坑	埋土中	鉄	鉄鏃	<9.1>	1.0	0.5	7.51		193	188
228	40号土坑	埋土中	鉄	紡錘車？	<9.0>	0.5	0.4	2.69	軸棒のみ	193	188
231	45号土坑	埋土中位	鉄	刀子	<15.3>	1.9	0.5	29.37		194	188

No	出土地点	層位	素材	器種	計測値(cm)			重量(g)	備考	図版	写図
					長さ	幅	厚さ				
237	46号土坑	埋土３層下位	鉄	刀子	15.4	1.3	0.4	26.15		195	189
238	46号土坑	埋土３層	鉄	刀子	<12.4>	1.5	0.3	12.82		195	189
239	46号土坑	埋土上位	鉄	紡錘車	5.6	6.8	0.6	22.91	円盤部分のみ	195	189
241	54号土坑	埋土中位	鉄	鉄鏃	<7.4>	3.1	0.8	9.88		195	189
242	54号土坑	埋土中位	銅	八稜鏡	<7.0>	3.5	0.4	37.42	直径約12cm、孔１箇所、切断痕あり	195	190
255	２号性格不明遺構	埋土	鉄	刀子	<8.9>	2.5	0.2	11.58		197	191
285	ⅢＡ18ｔ	Ⅳ層	鉄	刀子	<19.1>	2.4	0.6	58.61		200	193
286	ⅣＢ20ａ	Ⅱ層	鉄	刀子	<8.3>	1.2	0.3	7.81		200	193
287	ⅣＡ１ｐ	Ⅳ層	鉄	鉄鏃	<5.5>	4.0	0.5	13.53		200	193
288	ⅢＡ19ｑ	埋土	鉄	鉄鏃	<5.0>	1.2	0.9	4.93		200	193
289	ＶＢ７ｂ	検出面	鉄	鉄鏃	<11.0>	1.1	0.5	12.71		200	193
290	ⅡＢ10ｄ	検出面	鉄	鎹	19.3	1.3	1.4	246.40		200	193
291	ⅢＡ18ｔ	Ⅳ層	鉄	不明(筒状)	<4.6>	1.7	0.3	15.62		200	193
292	ＶＡ７ｐ		鉄	不明(筒状)	2.1	1.8	0.4	6.22		200	193
293	Ｄ区	表採	銅	和鏡	10.3	径10.3	0.7	196.70	菊花双鳥文	200	193
294	ＶＢ８ｄ(旧沢跡)	埋土	鉄	鍋	<9.0>	11.4	0.7	117.77		200	193

第12表　羽口観察表

No	出土地点	層位	計測値(cm)			重量(g)	横方向に沈線	外面整形痕	色調	備考	図版	写図
			残存長	内径	口径							
10	２号竪穴建物	床面	11.4	(3.2)	(9.9)	280.2		ナデ(縦)	にぶい黄橙		168	171
11	２号竪穴建物	床面	15.3	(3.4)	(11.0)	639.4		ナデ(縦)	にぶい黄橙		168	171
12	２号竪穴建物	煙道部	10.2	3.3	9.1	553.0		ナデ(縦)	浅黄		168	171
19	３号竪穴建物	カマド２付近	8.5	－	(9.0)	265.5		ナデ(縦)	にぶい黄橙		168	172
42	８号竪穴建物－土坑１	底面	15.5	(3.1)	(9.1)	546.1		ケズリ→ナデ(縦)	褐灰		171	174
68	13号竪穴建物	床面直上	16.1	3.2	7.7	652.6		ナデ(縦)	にぶい黄橙		174	176
69	13号竪穴建物	床面直上	19.6	(3.3)	8.5	562.3		ケズリ→ナデ(縦)	にぶい黄橙	両端欠損	174	176
126	28号竪穴建物	床面	14.6	－	(9.0)	339.9		ナデ(縦)、指頭による整形痕	褐灰	両端欠損	180	179
132	29号竪穴建物	床面	20.2	2.6	8.1	953.2		ナデ(縦)	淡黄		181	180
144	32号竪穴建物	カマド燃焼部	5.6	1.0	5.0	128.6		ナデ(縦)	にぶい黄橙		183	181
145	32号竪穴建物	撹乱	8.7	－	－	155.1			褐灰		183	181
182	64号竪穴建物	埋土下位	15.6	(3.2)	(8.7)	488.2		ナデ(縦)			187	184
198	１号鍛冶工房跡－P3	底面	12.8	2.5	7.1	544.6		ナデ(縦)、指頭による整形痕	灰黄褐	ケズリによる面取痕残る	188	185
204	１号排滓場	埋土	21.5	4.2	16.5	4600.0	○	ナデ(縦)	褐灰	末端部有、ほぼ完形	189	185
205	１号排滓場	埋土	15.0	4.7	13.9	2046.6		ナデ(縦)	にぶい黄橙		189	185
206	１号排滓場	埋土	16.4	3.7	10.6	1264.4		ナデ(縦)			189	186
207	１号排滓場	埋土１層	15.7	6.7	16.2	3003.8		ナデ(縦)			190	186
208	１号排滓場	埋土１層	17.0	(5.3)	15.3	2843.8		ナデ(縦)		先端部鉄滓で塞がる	190	186
209	１号排滓場	埋土１層	21.5	3.7	12.8	3555.0		ナデ(縦)			190	186
217	21号土坑	埋土	22.0	4.6	(13.4)	3285.0		ナデ(縦)	褐灰		192	187
223	34号土坑	底面	31.4	2.8	11.1	3350.0		ケズリ→ナデ(縦)	橙		193	188
225	39号土坑	埋土	12.5	2.9	7.7	476.0		ナデ(縦)	にぶい黄橙		193	188
284	ⅣＡ４ｐ	埋土	23.7	3.7	13.7	3016.1		ナデ(縦)	にぶい黄橙		199	192

第13表　銭貨観察表

No	出土地点	層位	素材	銭名	初鋳造年	計測値(㎜)					量目(g)	備考	図版	写図
						銭径(A)/(B)		内径(C)/(D)		銭厚				
74	13号竪穴建物	検出面	銅	寛永通寶	1636年	28.5	28.3	21.0	21.0	1.31～1.52	4.43	背十一波	175	176
185	64号竪穴建物	埋土	銅	元豊通寶	北宋／1078年	24.6	24.4	18.3	18.4	1.33～1.44	3.46		187	184
188	70号竪穴建物	床面	銅	祥符元寶	北宋／1009年	25.0	24.9	18.2	18.2	1.03～1.15	3.40		187	184
189	70号竪穴建物	床面	銅	熙寧元寶	北宋／1068年	23.9	23.9	20.3	20.5	1.37～1.54	3.18		187	184
190	70号竪穴建物	床面	銅	元豊通寶	北宋／1078年	24.5	23.9	19.3	－	1.07～1.33	2.61		187	184
191	70号竪穴建物	床面	銅	元豊通寶	北宋／1078年	24.8	24.6	17.7	18.4	1.28～1.56	3.75		188	184
192	70号竪穴建物	床面	銅	元祐通寶	北宋／1086年	24.3	24.5	20.1	20.1	1.09～1.19	3.27		188	184
193	70号竪穴建物	床面	銅	元祐通寶	北宋／1086年	24.0	24.6	17.6	18.8	1.20～1.40	3.49		188	184
194	70号竪穴建物	床面	銅	聖宋元寶	北宋／1101年～	24.0	23.9	18.4	18.3	1.12～1.19	1.62		188	184
195	70号竪穴建物	床面	銅	政和通寶	北宋／1111年	23.8	23.8	20.6	20.7	1.05～1.22	2.86		188	184
196	71号竪穴建物、1号排滓場	埋土	銅	聖宋元寶？	北宋／1101年～	24.2	22.9	19.6	19.9	1.50～1.61	2.86		188	185
256	Ｐ２	埋土	銅	判読不能		－	－	－	－	(0.87～1.02)	0.92	残存1/2弱	197	191
295	ⅤＢ９ｂ(旧沢跡)	埋土	銅	元豊通寶	北宋／1078年	21.2	21.4	－	19.0	1.15～1.38	1.63		201	194
296	ⅤＢ10ｂ(旧沢跡)	埋土	銅	元祐通寶	北宋／1086年	24.1	24.0	19.0	19.1	1.21～1.35	2.54		201	194
297	ⅢＡ５ｉ	Ⅱ層	銅	元祐通寶	北宋／1086年	23.1	23.7	18.1	17.7	1.26～1.38	3.15		201	194
298	ⅡＢ15ａ	撹乱	銅	元祐通寶	北宋／1086年	23.8	23.5	20.1	18.9	1.04～1.16	2.58		201	194
299	ⅢＡ６ｊ	表土	銅	大観通寶	北宋／1107年	24.6	24.5	21.0	21.5	1.60～1.68	2.51		201	194
300	ⅤＢ10ｂ(旧沢跡)	埋土	銅	永楽通寶	明銭／1408年	25.3	25.4	20.0	19.9	1.08～1.29	2.37		201	194
301	ⅣＡ14ｔ	表土	銅	永■■■		20.4	21.1	18.4	17.9	0.51～0.57	0.77	永楽通寶か？	201	194
302	ⅡＢ16ｂ	木根(撹乱)	銅	寛永通寶	1636年	24.5	24.5	20.1	19.8	1.04～1.07	2.33		201	194
303	ⅢＡ５ｉ	Ⅱ層	銅	寛永通寶	1636年	24.8	24.8	19.9	19.5	1.02～1.15	2.92		201	194
304	ⅡＢ15ａ	撹乱	銅	寛永通寶	1636年	24.4	24.5	20.2	20.1	0.82～0.99	2.28		201	194
305	ⅣＡ17ｔ	表土	銅	判読不能		24.4	24.3	20.1	19.6	1.08～1.14	3.39	文字摩滅	201	194
306	ⅢＡ５ｉ	Ⅱ層	銅	無文銭		－	－	－	－	(0.70～0.71)	1.28		201	194

第14表　鉄滓観察表

No	出土地点	層位	種別	計測値(cm)			重量(g)	磁着	メタル度	表面色調	写図
				長さ	幅	厚さ					
313	1号排滓場		炉内滓	8.9	7.4	6.1	259.1	なし		灰	195
314	1号排滓場		炉内滓	9.5	5.6	5.7	225.0	なし		暗灰	195
315	1号排滓場		炉内滓	12.0	9.9	5.5	421.2	あり	L	黒褐	195
316	1号排滓場		炉内滓	14.1	9.0	7.4	1000.3	あり	L	灰	195
317	1号排滓場		炉内滓	9.8	5.0	5.4	138.5	あり	L	黒褐	195
318	21号土坑		炉内滓	10.6	6.1	5.9	166.3	あり	L	褐灰	195
319	1号鍛冶工房跡	埋土一括	炉内滓	5.6	5.3	4.6	82.1	あり	L	褐灰	195
320	1号鍛冶工房跡	鍛冶炉内	炉内滓	6.5	4.0	2.6	48.8	あり	L	黒褐	195
321	2号竪穴建物		炉内滓	5.8	2.8	2.6	23.8	あり	L	黒褐	195
322	3号竪穴建物		炉内滓	6.4	5.5	2.8	83.1	あり	L	灰	195
323	7号竪穴建物	埋土	炉内滓	9.0	6.0	3.2	164.9	あり	L	青灰	195
324	22号竪穴建物		炉内滓	5.0	4.4	2.8	53.2	あり	L	灰	195
325	ⅤＡ５ｑ	Ⅳ層	炉内滓	4.8	3.3	2.7	32.1	あり	L	青灰	195
326	ⅢＡ20ｑ	Ⅱ層	炉内滓	5.9	4.1	2.4	59.0	あり	L	オリーブ灰	195
327	1号排滓場		炉内滓	9.5	9.4	7.4	248.2	あり	M	褐灰	195
328	1号排滓場		炉内滓	11.4	7.3	5.4	457.7	あり	M	褐灰	195
329	1号排滓場		炉内滓	12.1	9.3	7.8	642.7	あり	M	褐灰	196

No	出土地点	層位	種別	計測値(cm)			重量(g)	磁着	メタル度	表面色調	写図
				長さ	幅	厚さ					
330	1号排滓場		炉内滓	12.3	10.2	7.6	823.8	あり	M	黒褐	196
331	21号土坑		炉内滓	7.9	7.3	4.0	207.7	あり	M	黒褐	196
332	7号竪穴建物	埋土	炉内滓	5.0	4.7	4.6	94.6	あり	M	灰褐	196
333	7号竪穴建物	貼床内	炉内滓	8.4	5.1	4.1	176.7	あり	M	オリーブ灰	196
334	23号竪穴建物	埋土	炉内滓	10.0	7.7	4.3	237.7	あり	M	灰黄褐	196
335	13号竪穴建物	埋土一括	炉内滓	8.0	5.6	4.7	146.5	あり	M	黄灰	196
336	ⅤＢ９ｂ(旧沢跡)	埋土	炉内滓	5.9	5.1	2.3	70.9	あり	M	黄灰	196
337	15号土坑	埋土一括	炉内滓	11.1	8.7	4.9	313.4	あり	M	黒褐	196
338	1号鍛冶工房跡	竪穴状遺構内－埋土	炉内滓	7.3	6.5	3.4	171.0	あり	L	灰黄	196
339	1号鍛冶工房跡	竪穴状遺構内－埋土	炉内滓	6.0	5.4	2.7	62.9	あり	L	青灰	196
340	1号排滓場		炉内滓	10.5	8.7	8.0	910.6	あり	L	褐灰	196
341	1号排滓場		炉内滓	10.9	7.2	6.1	380.9	あり	L	褐灰	196
342	1号排滓場		炉内滓	11.2	8.3	7.0	855.0	あり	L	灰	196
343	ⅣＡ４ｐ		炉内滓	8.2	6.3	5.2	332.7	あり	L	灰	196
344	21号土坑		炉内滓	8.4	8.4	5.3	498.7	あり	L	灰	197
345	21号土坑		炉内滓	8.0	6.1	5.8	215.0	あり	L	灰	197
346	1号排滓場		炉内滓	12.9	7.5	5.9	489.5	あり	L	黒褐	197
347	53号竪穴建物	検出面	炉内滓	9.6	9.3	4.5	426.3	あり	L	暗灰	197
348	75号竪穴建物	埋土	炉内滓	6.0	5.3	3.7	95.9	あり	L	褐灰	197
349	ⅡＢ17ｃ	表土	炉内滓	14.4	13.2	5.1	629.4	あり	L	黒褐	197
350	2号竪穴建物		炉内滓	5.9	4.9	4.1	107.7	あり	L	黒褐	197
351	69号竪穴建物		炉内滓	6.1	5.5	2.7	99.7	あり	L	黒褐	197
352	22号竪穴建物		炉内滓	9.3	5.2	3.5	156.8	あり	L	褐灰	197
353	22号竪穴建物		炉内滓	7.1	6.1	3.3	111.4	あり	L	青灰	197
354	8号竪穴建物	床面	炉内滓	6.2	5.4	3.6	123.9	あり	L	青灰	197
355	28号竪穴建物	埋土3層	炉内滓	7.0	4.4	2.5	69.8	あり	L	灰	197
356	9号土坑	埋土	炉内滓	10.3	7.5	5.4	465.3	あり	L	褐灰	197
357	1号排滓場		炉内滓	10.9	9.7	9.7	871.0	なし		灰黄褐	197
358	1号排滓場		炉内滓	16.9	13.0	10.2	1796.8	なし		暗青灰	197
359	1号排滓場		炉内滓	12.1	11.7	5.7	431.3	なし		灰	198
360	1号排滓場		炉内滓	10.7	9.1	6.2	332.2	なし		灰	198
361	21号土坑		炉内滓	11.9	9.1	6.0	336.2	なし		灰	198
362	1号排滓場		炉内滓	17.1	10.7	8.1	1493.5	なし		褐灰	198
363	21号土坑		炉内滓	9.3	7.5	5.8	239.2	なし		赤黒	198
364	1号排滓場		炉内滓	9.1	5.8	4.8	201.2	なし		暗赤灰	198
365	7号竪穴建物		炉内滓	7.3	6.7	3.4	144.5	なし		黄灰	198
366	20号竪穴建物		炉内滓	10.3	7.3	6.5	183.6	なし		褐灰	198
367	1号排滓場		炉底滓	14.4	9.3	3.6	316.2	なし		灰	198
368	1号排滓場		炉底滓	13.7	10.5	5.2	383.4	なし		赤灰	199
369	1号排滓場		炉底滓	22.0	17.5	8.5	4135.0	なし		灰	198
370	1号排滓場		炉底滓	11.2	9.6	3.5	275.6	あり	L	灰	199
371	1号排滓場		炉底滓	9.4	7.8	5.7	331.9	あり	L	暗オリーブ灰	199
372	1号排滓場		炉底滓	19.3	15.5	3.8	684.8	あり	L	灰	199
373	1号排滓場		炉底滓	15.3	9.2	7.5	1588.8	あり	L	暗赤褐	199
374	1号排滓場		炉底滓	10.9	7.2	3.4	173.2	あり	M	灰	199
375	1号排滓場		炉底滓	8.8	7.8	6.6	296.8	あり	M	灰	199

No	出土地点	層位	種別	計測値(cm)			重量(g)	磁着	メタル度	表面色調	写図
				長さ	幅	厚さ					
376	1号排滓場		炉底滓	12.5	10.8	4.4	349.8	あり	M	灰	199
377	1号排滓場		炉底滓	11.7	10.8	7.0	1079.4	あり	H	灰	199
378	1号排滓場		炉底滓	14.0	10.3	6.9	599.2	あり	H	黒褐	199
379	1号排滓場		炉壁融着滓	14.5	12.4	4.1	455.7	なし		赤灰	200
380	1号排滓場		炉壁融着滓	17.3	11.9	4.8	816.3	なし		灰	200
381	1号排滓場		炉壁融着滓	18.8	14.6	5.2	596.1	なし		灰	200
382	1号排滓場		炉壁融着滓	20.0	13.8	6.5	1097.8	なし		灰	200
383	1号排滓場		炉壁融着滓	18.0	14.2	5.5	678.4	あり	L	暗灰	201
384	1号排滓場		炉壁融着滓	19.0	13.7	4.6	557.1	あり	L	褐灰	201
385	1号排滓場		炉壁融着滓	15.3	11.1	4.7	504.6	あり	M	灰褐	201
386	1号排滓場		流出滓	20.4	17.0	5.4	2203.6	なし		灰	201
387	1号排滓場		流出滓	34.0	16.0	12.5	5010.9	なし		灰	202
388	31号竪穴建物		流出滓	6.4	5.1	2.5	110.9	なし		灰	202
389	21号竪穴建物		流出滓	5.8	5.0	2.9	11.6	あり	L	灰	202
390	1号排滓場		流出滓	8.1	5.2	3.8	222.5	あり	M	灰	202
391	1号排滓場		鳥足状流動滓	5.5	4.2	1.7	38.2	なし		灰	202
392	1号排滓場		鳥足状流動滓	4.8	3.2	1.2	22.5	なし		灰	202
393	1号排滓場		鳥足状流動滓	6.0	4.7	2.6	69.4	なし		灰	202
394	21号土坑		棒状流動滓	4.4	1.8	1.3	19.8	なし		暗灰	202
395	1号排滓場		再結合滓	13.9	9.5	9.0	1293.3	なし		赤灰	202
396	1号排滓場		再結合滓	5.0	5.0	3.4	122.7	なし		暗灰	202
397	1号排滓場		再結合滓	3.7	2.5	2.5	20.1	なし		灰	202
398	2号竪穴建物		再結合滓	10.4	6.6	3.8	250.1	あり	L	赤灰	202
399	1号排滓場		再結合滓	22.5	22.5	19.0	10000.0	あり	M	赤灰	203
400	1号排滓場		鍛冶滓	7.6	5.9	3.7	64.6	なし		褐灰	203
401	1号排滓場		鍛冶滓	6.0	4.7	4.8	92.1	あり	L	黒褐	203
402	2号竪穴建物		鍛冶滓	7.6	6.0	3.2	83.1	あり	L	灰	203
403	21号竪穴建物		鍛冶滓	9.1	6.4	3.2	152.3	あり	L	灰	203
404	21号竪穴建物		鍛冶滓	9.0	6.3	3.8	188.0	あり	M	灰褐	203
405	50号竪穴建物	床面南側	鍛冶滓	6.3	5.3	3.3	73.0	あり	M	褐灰	203
406	ⅢA17q		鍛冶滓	6.7	5.1	3.6	64.3	あり	M	灰褐	203

第15表　鉄滓一覧表

遺構名・出土地点	層位	鉄塊系遺物	炉内滓			炉底滓				炉内流出滓	流出滓（ガス質・緻密）				流出孔滓
			含鉄（大）	含鉄（小）	含鉄（サビ付着のみ）	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無		磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	
1号竪穴建物	埋土	109.3	13.4	243.6	476.2	148.2			76.0					244.1	
	カマド			392.0											
2号竪穴建物	埋土	1199.8	231.6	394.9	2.1		137.0	198.4	2.5					11.3	
	P4埋土								4.0						
3号竪穴建物	—	105.8	201.6	217.9	54.5	635.2		58.1							
7号竪穴建物	埋土	2344.7	363.5	437.1	462.3	1355.2	781.6	221.1	363.1					308.9	
	貼床内	2616.3	206.5			970.3	539.2								
8号竪穴建物	埋土		324.9	251.6	47.4		1057.4	161.4	995.9				24.4	47.4	
	床面	1410.5				392.5									
	土坑1埋土	97.3													
11号竪穴建物	不明	143.6													143.6
12号竪穴建物	床面	24.8	349.4			269.9									
13号竪穴建物	埋土	125.3	308.7	58.2											
19号竪穴建物	—		32.9		461.3				102.9					18.3	
20号竪穴建物	埋土				271.8	376.7								48.7	
	床面							376.7							
21号竪穴建物	埋土	187.4	31.9	60.6	254.7	93.8		93.8	104.0				560.8	1528.3	203.6
	土坑1埋土			1.8											
22号竪穴建物	—	1175.0	1143.0	1380.3	139.1	53.7	103.7	245.4	292.9			349.6	20.0	29.6	
23号竪穴建物	検出面	23.0	22.9												
	埋土	338.9	362.8		799.3										
	カマド	14.0					202.0								
24号竪穴建物	埋土	44.9	55.9	65.3	130.6	124.0							65.8	95.9	
	カマド煙道部		32.1			87.1								95.9	
25号竪穴建物	床面					598.3									
26号竪穴建物	床面			15.4					51.1						
28号竪穴建物	埋土下位													197.4	
	埋土3層	115.8													
30号竪穴建物	埋土													270.0	
	床面付近					754.4									
31号竪穴建物	貼床内													110.9	
32号竪穴建物	埋土								22.3					323.5	
	攪乱	87.2		67.0											
39号竪穴建物	床面					128.6									
45号竪穴建物	埋土				117.2	209.5								129.0	
	周溝埋土														
48号竪穴建物	埋土												281.4	15.8	
49号竪穴建物	—			15.2				683.9	226.1		13.5				
50号竪穴建物	床面	161.0	147.7												
51号竪穴建物	埋土	4.1	23.4												
53号竪穴建物	検出面	427.3													

鳥脚状	炉壁融着滓				工具付着滓	砂鉄焼結滓	再結合滓				鍛冶滓				椀形滓磁着有	鍛造剥片	粒状滓	総計(g)
	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無			磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無				
				61.1						29.9								1401.8
									6.6				19.7					418.3
			22.5						311.8				83.3					2595.2
																		4.0
				20.2				31.0		8.3								1332.6
										212.3								6849.8
							175.5											4507.8
		169.0		0.3			505.7											3585.4
																		1803.0
																		97.3
																		287.1
							174.6											818.7
												15.7						507.9
																		615.4
																		697.2
																		376.7
									11.2	28.6	340.3	188.0	152.3					3839.3
																		1.8
		8.2	1.2	196.2					67.7	257.1						20.2		5482.9
																		45.9
																		1501.0
																		216.0
							96.2											678.6
																		215.1
																		598.3
																		66.5
																		197.4
																		115.8
																		270.0
																		754.4
																		110.9
																		345.8
																		154.2
																		128.6
																		455.7
									153.0									153.0
																		297.2
																		938.7
												73.0						381.7
																		27.5
																		427.3

遺構名・出土地点	層位	鉄塊系遺物	炉内滓			炉底滓				炉内流出滓	流出滓（ガス質・緻密）				流出孔滓
			含鉄（大）	含鉄（小）	含鉄（サビ付着のみ）	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無		磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	
55号竪穴建物	埋土下位													109.4	
56号竪穴建物	床面								867.1						
60号竪穴建物	土坑３埋土	224.7													
64号竪穴建物	埋土	283.5	75.0					34.0	13.0						
65・66号竪穴建物	埋土上位						135.7								
68号竪穴建物	埋土							278.8							
69号竪穴建物	埋土一括	156.6	100.1											111.7	
70号竪穴建物	埋土	15.3	32.8		6.8										
72号竪穴建物	埋土		41.4												
75号竪穴建物	埋土	96.4													
１号鍛冶工房跡	埋土	622.9	858.2	546.4		600.4	102.2	31.2							
	炉跡	259.9	92.5												
	焼土周辺		594.7	26.9											
１号排滓場		28028.5	67407.4	35218.8	191138.0	14369.0	22839.7	17784.6	174644.5		331.4	335.1	782.3	2321500.0	5903.4
１号鍛冶炉	埋土	71.9	52.5	55.0										23.1	
	検出面	25.2	30.2	27.4											
６号焼土	—	264.6													
３号焼成遺構	埋土		4.8	1.9	3.9		133.5				12.4			36.0	
７号焼成遺構	検出面～埋土１層	24.1	7.8	5.0	10.2		86.7	70.3						7.8	
４号土坑	埋土	25.2	75.5	20.3			44.8								
６号土坑	埋土				24.8										
10号土坑	埋土	4.8													
11号土坑	埋土			16.4											
12号土坑	埋土			3.8											
14号土坑	埋土	41.6	88.6	60.3	3.0										
15号土坑	埋土	43.4	14.6	338.3											
20号土坑	埋土	2.3	32.4	35.3											
21号土坑	埋土	3507.6	6438.3	6312.4	9390.7	1687.6	1543.2	660.7	2822.7					19800.0	19.8
25号土坑	埋土	39.5													
27号土坑	埋土		66.2			207.4									
28号土坑	埋土	22.7													
29号土坑	埋土		43.3	41.4	33.3										
31号土坑	埋土								425.6				111.3		
32号土坑	埋土	131.6	86.6	15.1											
35号土坑	埋土			8.3											
39号土坑	埋土	56.9													
40号土坑	埋土	74.3	106.0												
46号土坑	１層南側														
	２層南側	29.6													
	３層南側				103.4										
49号土坑	埋土中		93.8												

鳥脚状	炉壁融着滓				工具付着滓	砂鉄焼結滓	再結合滓				鍛冶滓				椀形滓磁着有	鍛造剥片	粒状滓	総計(g)
	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無			磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無				
																		109.4
																		867.1
																		224.7
																		405.5
																		135.7
																		278.8
																		368.4
																		54.9
																		41.4
																		96.4
							44.4	44.0	77.4		6.3	81.5	28.2					3043.1
																11.3	0.6	364.3
																		621.6
679.3	13598.2	1389.6	3166.7	86043.4			14788.4	12925.9	583.0	181566.4	641.4	107.5	624.1	3285.4				3199682.0
												5.1	7.9					215.5
																180.7	4.3	267.8
																		264.6
																		192.5
				4.9				24.3	13.6									254.7
																		165.8
																		24.8
							11.9											16.7
																		16.4
																		3.8
																		193.5
																		396.3
									4.8									74.8
	327.3	1287.1	294.8	5729.1			365.0	1071.1	178.4	580.2	116.0		81.8	96.1				62309.9
																		39.5
																		273.6
																		22.7
																		118.0
									47.6									584.5
																		233.3
																		8.3
																		56.9
																		180.3
								24.8										24.8
																		29.6
							49.2											152.6
																		93.8

遺構名・出土地点	層位	鉄塊系遺物	炉内滓			炉底滓				炉内流出滓	流出滓（ガス質・緻密）				流出孔滓
			含鉄（大）	含鉄（小）	含鉄（サビ付着のみ）	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無		磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	
51号土坑	埋土			3.9											
	埋土下部	24.8													
55号土坑	埋土														
68号土坑	埋土				85.5										
72号土坑	埋土	71.5	4.7				48.7								
79号土坑	埋土													64.9	
80号土坑	埋土													103.5	
81号土坑	埋土	465.5													
88号土坑	埋土	52.0													
97号土坑	埋土													122.0	
102号土坑	埋土２層													473.5	
P23	埋土	35.2	22.3	7.6	27.6				42.3						
ⅡB17b	表土	630.5									14.1				
ⅢA16s	Ⅴ層						103.7	165.3							
ⅢA17q	Ⅱ～Ⅳ層														
ⅢA17s	Ⅴ層													153.6	
ⅢA18r	Ⅳ～Ⅴ層													262.6	
ⅢA18t	Ⅳ層													26.0	
ⅢA19r	Ⅱ～Ⅳ層						196.9								
ⅢA19s	Ⅳ～Ⅴ層	396.6												23.3	
ⅢA19t	Ⅳ層										35.7				
ⅢA20q	—				73.3				327.7						
	Ⅱ層			78.9											
	Ⅳ層	38.2													
	Ⅱ～Ⅳ層	36.6	6.8												
ⅢA20r	Ⅱ～Ⅳ層													24.3	
	Ⅳ層	59.8	11.3			148.4									
ⅢA20s	Ⅳ層				60.4									222.3	
ⅢB17a	Ⅳ～Ⅴ層	169.3													
ⅣA1r	Ⅱ～Ⅳ層	10.5	51.2								46.9				
ⅣA1s	Ⅱ層				91.4									107.4	
ⅣA2p	Ⅰ～Ⅵ層	29.9													
ⅣA2r	Ⅱ～Ⅳ層	10.2												9.6	
ⅣA3p	—	9.1		6.1											
	遺構の埋土？				17.4			34.8							
ⅣA3r	—			49.3										67.7	
ⅣA4p	Ⅳ層	9.2													
	埋土	430.4	855.0	12.6	2069.3	57.2	58.9	63.0	1637.0				4.2	18224.4	
ⅣA4s	埋土								27.7					135.7	
	遺構検出面			40.3							352.0			100.4	
ⅣA5p	Ⅳ層	25.0	32.6								133.2				

鳥脚状	炉壁融着滓				工具付着滓	砂鉄焼結滓	再結合滓				鍛冶滓				椀形滓磁着有	鍛造剥片	粒状滓	総計(g)
	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無			磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無				
																		3.9
																		24.8
										92.3								92.3
																		85.5
																		124.9
																		64.9
																		103.5
										47.8								513.3
																		52.0
																		122.0
																		473.5
																		135.0
																		644.6
																		269.0
												64.4						64.4
																		153.6
																		262.6
																		26.0
																		196.9
																		419.9
																		35.7
																		401.0
																		78.9
																		38.2
																		43.4
																		24.3
										669.8								889.3
																		282.7
																		169.3
																		108.6
																		198.8
																		29.9
																		19.8
																		15.2
																		52.2
										49.7								166.7
																		9.2
				832.6						319.7				55.1				24619.4
																		163.4
																		492.7
																		190.8

遺構名・出土地点	層位	鉄塊系遺物	炉内滓			炉底滓				炉内流出滓	流出滓（ガス質・緻密）				流出孔滓
			含鉄（大）	含鉄（小）	含鉄（サビ付着のみ）	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無		磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	
ⅣＡ５ｑ	Ⅰ～Ⅴ層	15.7	141.2		48.2									74.2	
ⅣＡ５ｒ	Ⅳ層		40.4	3.9											
ⅣＡ６ｐ	Ⅱ層		7.3					7.5							
ⅣＡ６ｑ	Ⅱ層			0.9											
	Ⅳ層														
ⅣＡ７ｑ	Ⅳ層	1069.9	75.0	0.9	92.8		60.8		42.4			72.5	7.7		
ⅣＡ18ｔ	Ⅳ～Ⅴ層	166.4													
ⅣＡ19ｔ	Ⅱ層	276.4	112.7	3.3				224.2						444.7	
ⅣＡ20ｔ	Ⅱ層	204.8													
ⅣＢ16ｂ	Ⅱ層														
ⅣＢ19ａ	Ⅱ層	31.2	34.8	22.1										73.5	
ⅣＢ19ｂ	Ⅱ層	117.6	120.2	27.4	45.2										
ⅣＢ19ｃ	Ⅱ層	32.4													
	Ⅳ層		40.0												
ⅣＢ20ａ	Ⅱ層													63.7	
ⅣＢ20ｂ	Ⅱ層													27.2	
ＶＡ１ｒ	Ⅳ層	380.3	110.0	367.7		938.1			46.9						
ＶＡ３ｔ	Ⅱ層														
ＶＡ４ｒ	Ⅱ層	161.8	138.5				142.9								
ＶＡ５ｑ	Ⅳ層	100.5	21.2	117.3		135.7								18.4	
ＶＡ６ｑ	Ⅳ層	254.7	217.7											211.9	
ＶＡ７ｎ	検出面	404.3													
ＶＡ７ｐ	―	5.2	24.8		14.9									142.0	
ＶＢ１ａ	Ⅱ層	347.6	27.2												
ＶＢ３ｂ	Ⅳ層													23.1	
ＶＢ３ｅ	Ⅴ層													13.1	
ＶＢ４ａ	Ⅱ層	165.5	13.7				60.8								
ＶＢ５ａ	―			17.0											
ＶＢ５ｃ	Ⅳ層			3.8										8.8	
ＶＢ８ａ	検出段階	80.4	75.5											54.9	
ＶＢ８ｃ	Ⅳ層		31.4												
	Ⅳ層	71.9	55.4												
ＶＢ８ｄ	埋土一括	251.4		4.2	2.1										
ＶＢ９ｂ	Ⅱ層	1045.2	205.5	87.5	38.1	158.4		122.4						228.1	
ＶＢ９ｃ	Ⅱ層		9.2								86.2	29.7			
ＶＢ10ｂ	沢跡Ⅱ層	69.4	63.5		201.5									299.2	
Ｂ区内	―	114.5	46.5				36.4		19.6						
Ｃ区内	埋土上位	39.0			24.2			131.3	52.0						
出土地点不明	―	161.3													

鳥脚状	炉壁融着滓				工具付着滓	砂鉄焼結滓	再結合滓				鍛冶滓				椀形滓磁着有	鍛造剥片	粒状滓	総計(g)
	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無			磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無	磁着強	磁着中	磁着弱	磁着無				
																		279.3
																		44.3
																		14.8
																		0.9
													25.1					25.1
									54.9									1476.9
																		166.4
																		1061.3
																		204.8
								269.3										269.3
																		161.6
																		310.4
																		32.4
																		40.0
																		63.7
																		27.2
																		1843.0
								61.2										61.2
																		443.2
																		393.1
																		684.3
																		404.3
										11.3				25.3				223.5
																		374.8
																		23.1
																		13.1
																		240.0
																		17.0
																		12.6
																		210.8
																		31.4
																		127.3
																		257.7
	533.4	114.8		84.7			501.5											3119.6
								37.4										162.5
																		633.6
																		217.0
																		246.5
																		161.3
																	総量	3361751.5

第16表　古代土器重量表（1）

遺構内

遺構名	土師器	須恵器	遺構名	土師器	須恵器	遺構名	土師器	須恵器
1号竪穴建物	4886.7	116.1	52号竪穴建物	197.2		31号土坑	979.2	
2号竪穴建物	1655.4	41.3	53号竪穴建物	44.1	67.1	32号土坑	420.5	
3号竪穴建物	1688.8		54号竪穴建物	63.0		35号土坑	313.0	
4号竪穴建物	350.8		55号竪穴建物	126.5		39号土坑	78.9	
5号竪穴建物	95.2		56号竪穴建物	23.6		40号土坑	682.3	
6号竪穴建物	35.8	19.1	57号竪穴建物	1591.3		44号土坑	164.2	
7号竪穴建物	8262.7	975.6	59号竪穴建物	270.4		45号土坑	286.9	
8号竪穴建物	4194.4	51.4	60号竪穴建物	833.3		46号土坑	2839.8	
9号竪穴建物	90.2		61号竪穴建物	7.4		49号土坑	34.1	
10号竪穴建物	872.4	593.3	63号竪穴建物	496.5		50号土坑	133.4	
11号竪穴建物	1721.5		64号竪穴建物	117.0		51号土坑	319.9	8.8
12号竪穴建物	554.1	93.5	65号竪穴建物	41.0		52号土坑	11.6	
13号竪穴建物	5362.4	82.0	69号竪穴建物	53.6	78.7	53号土坑	52.3	
15号竪穴建物	214.6		70号竪穴建物	31.8		54号土坑	394.4	10.7
16号竪穴建物	66.7		72号竪穴建物	307.8		59号土坑	55.0	
17号竪穴建物	195.0		1号鍛冶工房跡	544.7	47.4	62号土坑	205.3	69.0
18号竪穴建物	408.4		1号排滓場	1212.0	102.5	64号土坑	253.5	
19号竪穴建物	1510.4		1号鍛冶炉	3.3		66号土坑	15.7	
20号竪穴建物	369.8		3号焼土	9.5		67号土坑	31.1	
21号竪穴建物	6851.5	38.4	6号焼土		13.3	68号土坑	697.3	
22号竪穴建物	7715.3	134.6	1号焼成遺構	25.0		69号土坑	380.5	
23号竪穴建物	1763.5	5.8	3号焼成遺構	45.8		72号土坑	908.4	
24号竪穴建物	4128.0		7号焼成遺構	291.1	28.2	76号土坑	79.8	
25号竪穴建物	1515.7		8号焼成遺構	280.1		79号土坑	566.5	
26号竪穴建物	1058.1		10号焼成遺構	46.2		80号土坑	109.8	
28号竪穴建物	384.2	142.2	16号焼成遺構	90.8		81号土坑	151.9	
29号竪穴建物	5062.1		17号焼成遺構	53.5		82号土坑	121.9	
30号竪穴建物	1551.7		4号土坑	389.3	21.9	83号土坑	196.8	
31号竪穴建物	584.3		5号土坑	136.8		84号土坑	145.3	49.1
32号竪穴建物	1605.2		6号土坑	69.9		88号土坑	1002.3	
35号竪穴建物	126.2		10号土坑	716.4		89号土坑	85.6	
36号竪穴建物	354.5		11号土坑	788.6	528.4	93号土坑	30.9	
37号竪穴建物	1072.8		12号土坑	338.8	30.1	94号土坑	1.4	
39号竪穴建物	688.0		13号土坑	353.0		97号土坑	445.7	
40号竪穴建物	14.7		14号土坑	96.0		99号土坑	32.4	
41号竪穴建物	144.7		15号土坑	50.2		102号土坑	278.6	
43号竪穴建物	54.4		20号土坑	50.2		1号陥し穴状遺構	29.0	
44号竪穴建物	61.1		21号土坑	4.2		57号陥し穴状遺構	519.9	
45号竪穴建物	1224.0		23号土坑	349.5	25.7	2号性格不明遺構	41.3	
47号竪穴建物	188.4		25号土坑	21.1		3号性格不明遺構	19.1	
48号竪穴建物	1448.4	102.8	27号土坑	291.8	31.3	P23	77.4	
49号竪穴建物	934.8	4.0	28号土坑	386.1	13.7	P31	17.5	
50号竪穴建物	2658.5		29号土坑	650.3		合計	98778.2	3526.0
51号竪穴建物	120.1		30号土坑	223.6				

＊単位はｇ

第16表　古代土器重量表（２）

遺構外

グリッド	調査区	土師器	須恵器	グリッド	調査区	土師器	須恵器	グリッド	調査区	土師器	須恵器
ⅡＢ12b	D区	26.0		ⅡＡ２r	B区	626.9		ＶＡ１ｒ	A区	1215.8	
ⅡＢ14a	D区	41.9		ⅣＡ２s	B区	39.8		ＶＡ1ｔ	A区	19.6	
ⅡＢ15d	D区	4.2		ⅣＡ３p	B区	174.3		ＶＡ３t	A区	312.7	11.1
ⅢＡ15p	B区	14.2		ⅣＡ３r	B区	476.5		ＶＡ４r	A区	255.9	17.0
ⅢＡ15q	B区	55.2		ⅣＡ３s	B区	649.9		ＶＡ６q	A区	157.3	43.0
ⅢＡ16p	B区	30.3		ⅣＡ４p	B区	1097.4	32.4	ＶＡ７h	A区	40.8	
ⅢＡ17p	B区	59.9		ⅣＡ４ｓ	B区	167.4		ＶＡ７q	A区		37.8
ⅢＡ17q	B区	55.8		ⅣＡ５p	B区	1704.0	46.2	ＶＡ９t	A区		206.7
ⅢＡ17s	B区	10.7		ⅣＡ５q	B区	1721.0	48.6	ＶＢ１a	A区	79.5	
ⅢＡ18q	B区	1128.6		ⅣＡ５r	B区	43.5		ＶＢ２ｅ	A区	26.4	
ⅢＡ18r	B区	80.0		ⅣＡ６p	B区	456.5		ＶＢ３c	A区	32.0	
ⅢＡ18s	B区	26.5		ⅣＡ６q	B区	1792.3		ＶＢ３e	A区	63.6	
ⅢＡ18t	B区	95.1		ⅣＡ７p	B区	154.3		ＶＢ４a	A区	88.4	
ⅢＡ19g	B区	54.4	133.0	ⅣＡ７q	B区	410.6		ＶＢ５c	A区	14.0	
ⅢＡ19p	B区	140.2		ⅣＡ８p	B区	8.7		ＶＢ６c	A区	58.2	
ⅢＡ19r	B区	332.7		ⅣＡ16q	A区	783.4		ＶＢ７b	A区	5.9	
ⅢＡ19s	B区	256.3	8.3	ⅣＡ18t	A区	122.5	31.5	ＶＢ７d	A区	92.5	
ⅢＡ19t	B区	141.7		ⅣＡ19a	A区		22.1	ＶＢ８a	A区	47.5	
ⅢＡ20q	B区	413.1		ⅣＢ19b	A区		25.0	ＶＢ８d	A区	133.1	104.7
ⅢＡ20r	B区	813.3		ⅣＡ19t	A区	480.8		ＶＢ９b	A区	126.6	13.1
ⅢＡ20s	B区	322.2	37.0	ⅣＡ20s	A区	92.6		ＶＢ９c	A区	21.4	
ⅢＡ20t	B区	61.0		ⅣＡ20t	A区	261.8		ＶＢ10a	A区	60.9	10.5
ⅢＢ14b	B区	25.8		ⅣＢ８d	A区	6.1		ＶＢ10b	A区	28.7	
ⅢＢ15a	B区	13.9		ⅣＢ16c	A区	50.9		ＶＢ10c	A区	3.9	
ⅢＢ16a	B区	119.2		ⅣＢ18b	A区	44.7		A区内（出土地点不明）	A区	313.3	
ⅢＢ17a	B区	240.6		ⅣＢ18c	A区	11.2					
ⅢＢ18a	B区	198.3		ⅣＢ19a	A区	232.6		B区内（出土地点不明）	B区	267.1	
ⅣＡ１p	B区	21.5		ⅣＢ19b	A区	297.0					
ⅣＡ１q	B区	87.4		ⅣＢ19c	A区	240.6		C区内（出土地点不明）	C区	177.5	
ⅣＡ１r	B区	145.1		ⅣＢ20a	A区	22.4					
ⅣＡ１s	B区	260.0		ⅣＢ20b	A区	33.9		出土地点不明・表採	不明	690.1	9.5
ⅣＡ２p	B区	8.8		ⅣＢ20c	A区	27.4					
								合計		21847.6	837.5

※単位はｇ

第17表　金属遺物重量表

遺構名・出土地点	重量（ｇ）	遺構名・出土地点	重量（ｇ）	遺構名・出土地点	重量（ｇ）	遺構名・出土地点	重量（ｇ）	遺構名・出土地点	重量（ｇ）
１号竪穴建物	28.7	26号竪穴建物	6.4	69号竪穴建物	7.7	45号土坑	47.8	ⅣＡ５ｐ	18.0
２号竪穴建物	123.4	29号竪穴建物	19.9	70号竪穴建物	0.9	46号土坑	63.4	ⅣＡ19ｑ	5.5
３号竪穴建物	34.8	30号竪穴建物	34.3	75号竪穴建物	1.4	54号土坑	47.3	ⅣＢ20ａ	7.8
７号竪穴建物	476.5	31号竪穴建物	70.5	１号鍛冶工房跡	79.2	59号土坑	7.3	ＶＡ５ｑ	32.4
８号竪穴建物	117.6	32号竪穴建物	59.2	１号排滓場	101.9	２号性格不明遺構	21.6	ＶＡ６ｑ	14.3
12号竪穴建物	42.9	37号竪穴建物	2.4	１号焼土	7.1	ⅡＢ10ｄ	246.4	ＶＡ７ｐ	6.2
13号竪穴建物	120.3	45号竪穴建物	37.0	３号焼成遺構	2.2	ⅢＡ17ｑ	9.9	ＶＢ７ｂ	12.7
16号竪穴建物	29.4	49号竪穴建物	6.5	10号焼成遺構	2.5	ⅢＡ18ｔ	74.2	ＶＢ８ｄ	117.8
19号竪穴建物	17.7	50号竪穴建物	113.8	15号土坑	1.9	ⅢＡ19ｑ	4.9	ＶＢ９ｂ	42.3
20号竪穴建物	8.9	53号竪穴建物	50.1	29号土坑	13.1	ⅣＡ１ｐ	13.5	ＶＢ10ｂ	12.8
21号竪穴建物	153.3	57号竪穴建物	7.6	31号土坑	12.6	ⅣＡ１ｒ	9.4	C区	4.9
22号竪穴建物	168.8	61号竪穴建物	25.9	32号土坑	3.5	ⅣＡ３ｐ	12.3	表採	196.7
23号竪穴建物	19.7	63号竪穴建物	10.4	39号土坑	12.0	ⅣＡ４ｂ	8.9	総量	3173.1
24号竪穴建物	24.5	64号竪穴建物	71.3	40号土坑	2.7	ⅣＡ４ｓ	4.6		

第18表　縄文・弥生土器重量表

遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)
2号竪穴建物	84.1	61号竪穴建物	16.3	51号土坑	3.3	ⅣＡ６ｑ	22.0	ＶＢ３ｅ	540.9
3号竪穴建物	30.4	69号竪穴建物	36.6	31号陥し穴状遺構	6.1	ⅣＡ７ｑ	8.1	ＶＢ４ａ	127.0
4号竪穴建物	157.2	70号竪穴建物	4.7	ⅡＢ12ｂ	8.8	ⅣＡ８ｐ	146.7	ＶＢ４ｃ	7.3
7号竪穴建物	578.0	72号竪穴建物	9.0	ⅢＡ15ｐ	91.9	ⅣＡ19ｔ	26.4	ＶＢ４ｄ	32.8
8号竪穴建物	31.6	1号鍛冶工房跡	24.7	ⅢＡ17ｐ	110.1	ⅣＢ19ａ	8.0	ＶＢ５ｃ	13.5
9号竪穴建物	7.7	1号排滓場	48.0	ⅢＡ18ｑ	94.3	ⅣＢ19ｂ	12.3	ＶＢ６ｄ	22.9
11号竪穴建物	25.2	6号焼土	10.8	ⅢＡ19ｑ	9.9	ⅣＢ20ｂ	14.5	ＶＢ８ｄ	902.1
13号竪穴建物	650.9	4号土坑	12.4	ⅢＡ19ｓ	7.1	ＶＡ１ｒ	138.0	ＶＢ９ｂ	3.7
16号竪穴建物	37.0	11号土坑	7.2	ⅢＡ20ｑ	37.0	ＶＡ１ｔ	13.3	ＶＢ10ａ	75.7
19号竪穴建物	42.2	12号土坑	16.3	ⅢＡ20ｒ	34.3	ＶＡ３ｔ	41.5	ＶＢ10ｃ	75.8
21号竪穴建物－土坑1	42.2	14号土坑	35.9	ⅢＡ20ｓ	12.8	ＶＡ４ｒ	33.9	Ａ区	26.7
23号竪穴建物	3.1	20号土坑	9.8	ⅣＡ２ｑ	8.4	ＶＡ６ｑ	281.1	Ｂ区	9.6
24号竪穴建物	133.3	28号土坑	9.1	ⅣＡ５ｐ	5.6	ＶＡ７ｑ	330.2	Ｃ区	54.9
24号竪穴建物	25.7	30号土坑	18.1	ⅣＡ５ｓ	10.9	ＶＢ１ａ	8.6	不明	27.6
55号竪穴建物	12.1	50号土坑	6.6	ⅣＡ６ｐ	7.0	ＶＢ１ｄ	241.5	合計	5820.3

第19表　羽口重量表

遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)
2号竪穴建物	1674.3	26号竪穴建物	5.7	71号竪穴建物	16.3	59号土坑	11.8	ⅣＡ５ｐ	98.5
3号竪穴建物	431.0	28号竪穴建物	365.3	7号焼成遺構	30.7	81号土坑	10.7	ⅣＡ７ｑ	142.5
8号竪穴建物	1295.5	29号竪穴建物	957.4	1号鍛冶工房跡	544.6	2号性格不明遺構	4.4	ⅣＡ18ｑ	1478.2
12号竪穴建物	62.1	32号竪穴建物	283.7	1号排滓場	73445.0	ⅢＡ17ｓ	24.8	ⅣＡ19ｔ	6.6
13号竪穴建物	1249.7	39号竪穴建物	14.5	21号土坑	4999.7	ⅢＡ19ｑ	50.7	ⅣＢ19ｂ	156.6
19号竪穴建物	3.5	45号竪穴建物	23.1	31号土坑	42.3	ⅢＡ20ｑ	76.6	ＶＡ１ｓ	114.5
20号竪穴建物	119.0	49号竪穴建物	12.6	34号土坑	3475.0	ⅢＡ20ｒ	70.2	ＶＡ４ｒ	8.6
21号竪穴建物	44.4	50号竪穴建物	26.4	39号土坑	487.2	ⅢＢ	14.8	Ａ区	7.1
22号竪穴建物	277.0	64号竪穴建物	525.4	44号土坑	3.6	ⅣＡ４ｐ	14097.5	総量	106789.1

第20表　鉄滓重量表

遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)	遺構名・出土地点	重量(g)
1号竪穴建物	1820.1	28号竪穴建物	313.2	68号竪穴建物	278.8	14号土坑	193.5	55号土坑	92.3
2号竪穴建物	2599.2	30号竪穴建物	1024.4	69号竪穴建物	368.4	15号土坑	396.3	68号土坑	85.5
3号竪穴建物	1332.6	31号竪穴建物	110.9	70号竪穴建物	54.9	20号土坑	74.8	72号土坑	124.9
7号竪穴建物	11357.6	32号竪穴建物	500.0	72号竪穴建物	41.4	21号土坑	62309.9	79号土坑	64.9
8号竪穴建物	5485.7	39号竪穴建物	128.6	75号竪穴建物	96.4	25号土坑	39.5	80号土坑	103.5
11号竪穴建物	287.1	45号竪穴建物	608.7	1号鍛冶工房跡	4381.4	27号土坑	273.6	81号土坑	513.3
12号竪穴建物	818.7	48号竪穴建物	297.2	1号排滓場	3199682.0	28号土坑	22.7	88号土坑	52.0
13号竪穴建物	507.9	49号竪穴建物	938.7	1号鍛冶炉	483.3	29号土坑	118.0	97号土坑	122.0
19号竪穴建物	615.4	50号竪穴建物	381.7	6号焼土	264.6	31号土坑	584.5	102号土坑	473.5
20号竪穴建物	1073.9	51号竪穴建物	27.5	3号焼成遺構	192.5	32号土坑	233.3	P23	135.0
21号竪穴建物	3841.1	53号竪穴建物	427.3	7号焼成遺構	254.7	35号土坑	8.3	Ａ区(遺構外)	11613.2
22号竪穴建物	5482.9	55号竪穴建物	109.4	4号土坑	165.8	39号土坑	56.9	Ｂ区(遺構外)	31480.2
23号竪穴建物	1762.9	56号竪穴建物	867.1	6号土坑	24.8	40号土坑	180.3	Ｃ区(遺構外)	246.5
24号竪穴建物	893.7	60号竪穴建物	224.7	10号土坑	16.7	46号土坑	207.0	Ｄ区(遺構外)	644.6
25号竪穴建物	598.3	64号竪穴建物	405.5	11号土坑	16.4	49号土坑	93.8	出土地点不明	161.3
26号竪穴建物	66.5	65・66号竪穴建物	135.7	12号土坑	3.8	51号土坑	28.7	総量	3361534.4

Ⅳ　調査のまとめ

1　調査区別の概要

今回の調査では、縄文時代～近世まで幅広い時代の遺構・遺物が見つかった。特に古代は竪穴建物を主に多くの遺構が見つかった。本文でも述べたように調査区は緩斜面～丘陵地山頂まで比高差が約50mある。いずれも遺構は南向きの斜面側に分布する。調査区別の遺構数は以下の表のとおりであるが、調査区ごとの特徴について述べたい。

第21表　調査区別の遺構数

遺構名／調査区	竪穴建物	鍛冶工房跡	排滓場	鍛冶炉	焼土遺構	焼成遺構	土坑	溝跡	畝間状遺構	陥し穴状遺構	性格不明遺構
A	23	1	1	1	12	7	26		3	52	
B	39					6	42			4	1
C	7					1	30	3		1	2
D	6					5	4				

A区

調査区南側、津軽石川支流の七田川左岸の段丘上に立地し、標高は18～26mと比高差が８mある緩斜面で、古代は23棟の竪穴建物をはじめ畝間状遺構３箇所、鍛冶工房跡、排滓場、鍛冶炉各１基などの生産関連遺構が検出された。地形的な制限もなく居住に最も適した地形と考えられ、重複している竪穴建物は同じ場所で建て替えたと考えられる５～７号竪穴建物と３号竪穴建物以外では９号竪穴建物と７号竪穴建物に切り合いが確認できるのみである。また、カマドが確認できた竪穴の多くは斜面の傾斜に沿って煙道部が設けられているが、３号竪穴建物の旧カマドと10号竪穴建物は斜面に対し90°傾いた南西方向を向くことから、前者とは時期差があることが考えられる。

B区

A区北側の緩斜面～丘陵地裾の斜面地で標高30～50mと比高差が約20mあり、調査区北西側の約１/３が急斜面であるため、遺構は緩斜面地に集中する傾向にあり、中でも竪穴建物は特定の場所で複数が重複、あるいは近接した場所に構築されている。例えば29・30・43・44号竪穴建物、26・31・39～42・53号竪穴建物、25・27・28・50号竪穴建物、32・34・38・45～47号竪穴建物は４～６棟の痕跡が密集している。これ以外にも24・51号竪穴建物、48・49号竪穴建物、52・53号竪穴建物、57・58号竪穴建物が挙げられる。これらに共通するのは竪穴建物の壁が等高線に平行であること、カマド煙道部は斜面に対し、直交して掘削されていることである。また斜面の緩い場所にある22号竪穴建物以外は斜面上方側の壁面しか残存していない。重複関係にある遺構を出土遺物などで比較しても明確な時期差を示すものは少ない。これは各遺構から出土した遺物が乏しく、時期を特定するのが難しいのも一因であるが、検出面や埋土の状況から推測するに、地山である風化花崗岩を含む土砂が斜面のため崩落ないし、流れ込んだ影響で、建て替えの頻度が早かった可能性が考えられる。一方で、同じような場所に竪穴建物を構築しているのは、計画的な土地利用が行われた可能性が考えられる。

第22表　竪穴建物の新旧関係

調査区	古 ……▶ 新
A	5号竪穴建物 ……▶ 6号竪穴建物 ……▶ 7号竪穴建物 ……▶ 9号竪穴建物
B	43号竪穴建物 ……▶ 44号竪穴建物 ……▶ 30号竪穴建物 ……▶ 29号竪穴建物 27号竪穴建物 ……▶ 28号竪穴建物 ……▶ 50号竪穴建物 ……▶ 25号竪穴建物 31号竪穴建物 ……▶ 41号竪穴建物 ……▶ 42号竪穴建物 ……▶ 40号竪穴建物 ……▶ 26号竪穴建物 ……▶ 39号竪穴建物 32号竪穴建物 ……▶ 38号竪穴建物 ……▶ 34号竪穴建物 ……▶ 45号竪穴建物 ……▶ 46号竪穴建物 / ……▶ 47号竪穴建物 48号竪穴建物 ……▶ 49号竪穴建物 51号竪穴建物 ……▶ 24号竪穴建物 52号竪穴建物 ……▶ 53号竪穴建物 58号竪穴建物 ……▶ 57号竪穴建物
D	65号竪穴建物 ……▶ 37号竪穴建物 ……▶ 66号竪穴建物 67号竪穴建物 ……▶ 68号竪穴建物

C区

調査区北側の丘陵地山頂の尾根とそこから下る斜面地からなり、標高は58～72mで尾根頂部の最も標高の高い場所に人為的に造成したと考えられる平場が27×17mの範囲に広がっている。検出した遺構は平場および尾根頂部に近い場所から見つかり、特に山頂平場とそこから南側に延びる斜面に多い。南側斜面部は平場同様人為的な造成により、地山を階段状（竪穴建物の壁状）に削り出し、その平場に沿って溝が巡らされている箇所が２箇所ある（２・３号性格不明遺構とした）。斜面下方には62・63号竪穴建物も検出していることから、これらも竪穴建物を構築した痕跡である可能性もある。見つかった遺構・遺物は古代が主体で、他に縄文・弥生時代の遺物も僅少出土しているが、遺構は55号陥し穴状遺構のみである。

C区の平場から見た南側斜面（手前は２号溝跡）

D区

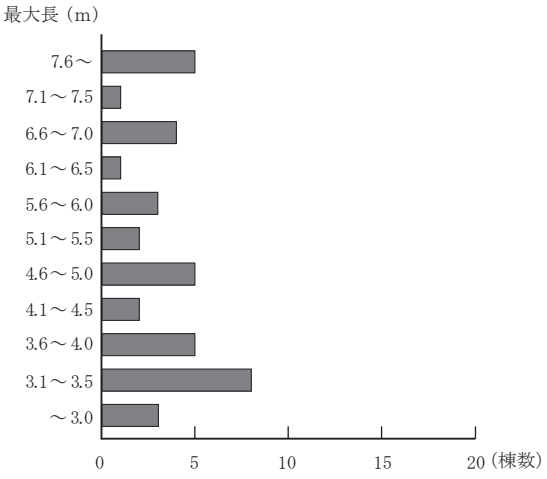
調査区北東側に位置し、丘陵地の尾根裾にある。地形的には斜面地の北側と平場である南側に分かれる。北側の斜面地は居住地として利用されていたと考えられ、竪穴建物が重複して検出された。一方、南側の平場は神社があったと伝聞した場所で、表採で和鏡、54号土坑の埋土からは稀少である平安時代の八稜鏡の破片が出土したことから、古くより信仰の場所として利用されていたと考えられる。

2　遺構について

竪穴建物

竪穴建物は75棟検出した。規模は削平されたものが多いため、長さが曖昧なものもあるが、残存する壁面から測った壁長の平均は約5.2mで、一辺５cm以下の小～中規模のものが多い傾向にある。このうち古代の竪穴建物は68棟でカマドを確認できたのは37棟あり、他は重複や削平のため壁面の一部しか確認できなかったものも含まれる。煙道部の軸方向が北西を向くのは35棟、南西が３棟でうち１

棟はカマドの移設を伴う建て替え（南西→北西）が行われたものである。カマドの軸方向は前述したとおり、斜面の傾斜に起因するもので、時期的な要素による違いを見出すことはできない。柱穴の配列であるが、主柱穴を４個確認でき、規則性が認められたのは２・３・６・52号竪穴建物の４棟で、52号竪穴建物はカマドがない。他に１・20・49号竪穴建物も壁面が削平されていたり、調査区外であったりするものもあるが主柱穴を確認できた。これ以外にも重複や斜面下方側の床面が削平されているためにカマド側の床面に２個のみ確認できるものもある（21・25・28号竪穴建物）。主柱穴の位置的な関係をみると大抵の竪穴建物では柱から遺構壁面までの距離は均等に近いが、３号竪穴建物のみ偏った位置に設置され、壁面と重なった位置にある。各竪穴建物の時期は出土遺物が少ないことや重複による遺物の混入などから判断するのは難しいが、おおよそ９世紀後半～10世紀前半の範疇にあると考えられる。１号竪穴建物は床面近くから十和田ａテフラが検出されたことから、10世紀初頭、21号竪穴建物は出土遺物の特徴から10世紀前半頃と比較的新しい時期のものである。柱穴の配列から中世に属する可能性が考えられる竪穴建物は69・70号竪穴建物の２棟で、70号竪穴建物からは銭貨（北宋銭）が８点出土している。



第202図　竪穴建物の規模

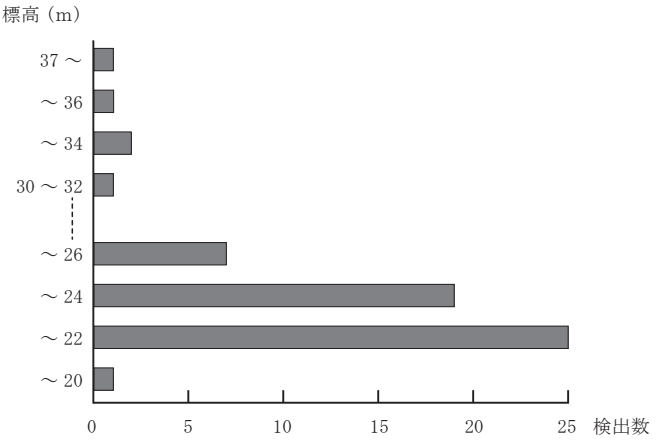
鍛冶関連遺構

今回の調査で製鉄炉、精錬炉は見つからなかったが、鍛冶関連遺構としては鍛冶工房跡１基、排滓場１箇所、鍛錬鍛冶炉１基を検出した。また、これ以外にも21号土坑と７号焼成遺構が鍛冶関連遺構の可能性がある。１号排滓場からは周辺も含め多くの鉄滓や羽口が見つかっているが、特に製錬滓の割合が高く、周辺に製鉄炉が存在した可能性も考えられるとの分析結果を得ている。時期は放射性炭素年代測定の結果、15世紀に属する。また、出土した羽口は口径値が10～16㎝と大きいのが特徴である。１号鍛冶工房跡、１号鍛冶炉、これ以外にも22号竪穴建物内で鍛造剥片が出土したことから鍛錬鍛冶を行っていたことが明らかになった。また８号竪穴建物においてはカマド脇土坑の底面が焼成による被熱で還元していることと羽口が出土していることから、鍛冶を行った可能性がある。

焼成遺構

19基検出した。土坑状に掘り込み底面に焼成痕跡が確認できるもので、形状は円～楕円形を基調とするものから不整形など様々である。焼成痕跡は底面全体ではなく、壁面に近いところに形成されるものが多い。形状からは８・18号焼成遺構が類似する。いずれも円形の形状を呈し、壁が垂直に掘り込まれた土坑状で底面が平坦である。全体に遺構の性格としては鍛冶関連遺構が想定されたが、遺構から鉄滓が出土したのは３・７号焼成遺構のみである。また、８号焼成遺構から炭化種子、10号焼成遺構からは骨片が出土しており、食料加工施設としての利用も考えられる。16号焼成遺構からは白色粘土塊が出土したが土器焼成に関わる痕跡は確認されなかった。時期は放射性炭素年代測定による分析で１号焼成遺構が11～12世紀、７号焼成遺構が13世紀である。他遺構との検出状況の類似性からの判断となるが、２・３・５・６・14号焼成遺構が１号焼成遺構と近い11～12世紀の可能性があり、また８・17・

18号焼成遺構は周辺遺構との関連から９世紀後半～10世紀初頭頃と推測される。



第203図　標高別の陥し穴状遺構検出数

陥し穴状遺構

今回の調査区で57基検出した。調査区別では標高の低いＡ区が最も多く52基が検出され、他はＢ区４基、Ｃ区１基である。平面の形状別では溝状38基、長楕円形（楕円、小判形含む）12基、円形１基の他両端が広く、中央が狭くなっているタイプが６基で溝状が最も多い。また、円形の陥し穴状遺構を１基としたが、これ以外にも土坑の中に陥し穴状遺構として利用されていたものがある可能性も考えられる。

標高別の検出数をみると旧沢跡に近くなるほど数が多く、軸方向は斜面の傾斜に対して直交して掘られているものが多い。水辺には狩りの対象となる動物が集まりやすいことに加え、丘陵地に比べ、開けた場所であるため、視界が広く、狩猟に適していたためと考えられる。北に隣接する払川Ⅲ遺跡でも陥し穴状遺構が61基と多数検出されているが、払川Ⅲ遺跡では谷地に挟まれた地形で緩斜面が狭かった影響のためか、斜面に沿って陥し穴状遺構が構築されているものが多い傾向にある。形状による時期差などさらなる検討が必要ではあるが、縄文時代の人々が食料確保の手段として当地を狩猟場として活用していたのは明らかである。

3　遺物について

今回の調査で遺物は古代土器、縄文・弥生土器、陶器、石器、金属遺物、羽口、土製品、銭貨、鉄滓類、炭化種子、骨片などが出土した。各遺物の特徴については遺構本文中で述べたとおりである。

今節では主に出土量の多い土器と金属遺物について全体的な傾向や特徴などを補足する。

土器

各遺構から出土した遺物については遺構本文中の記述のとおりであるが、傾向として古代の土器についていえば全体の総量に占める割合が須恵器は２％と少ない。器種別では甕が大半を占め、坏は図化・掲載した106点中８点と少なく、須恵器の坏は不掲載を含めても１点も出土していない。甕はすべて非轆轤使用で口縁部形状は「く」の字状に屈曲するものと緩く外反しているものがあるが、時期的には９世紀後半～10世紀前半の範疇にあると考えられる。

縄文・弥生土器は今回の調査で総量５,826.0ｇが出土した。遺構内から出土しているものはすべて古代の土器が供伴しており、客体的な出土傾向にある。遺構外からは全体の約６割が出土してるが、そのうちの約１/３が旧沢跡からの出土である。層位的に取り上げたものはＡ区南東のＶＢグリッドのＶ層で取り上げた縄文時代早期中葉の物見台式土器の一群のみである。

金属遺物

総量で3731.7ｇ、このうち不掲載としたものも含めると200点を超える数が出土した。掲載した遺

物の種別の中で多いのは鉄鏃25点、刀子36点、紡錘車７点、筒状製品９点などで、他に穂摘具、鋤・鍬先などの農耕具、釣針、銛などの漁撈具、鏡などがある。鉄鏃と刀子については出土数が多く、形式的な分類が可能である。第204図は鉄鏃と刀子の掲載遺物について形状が判別できるものを集成したものである。

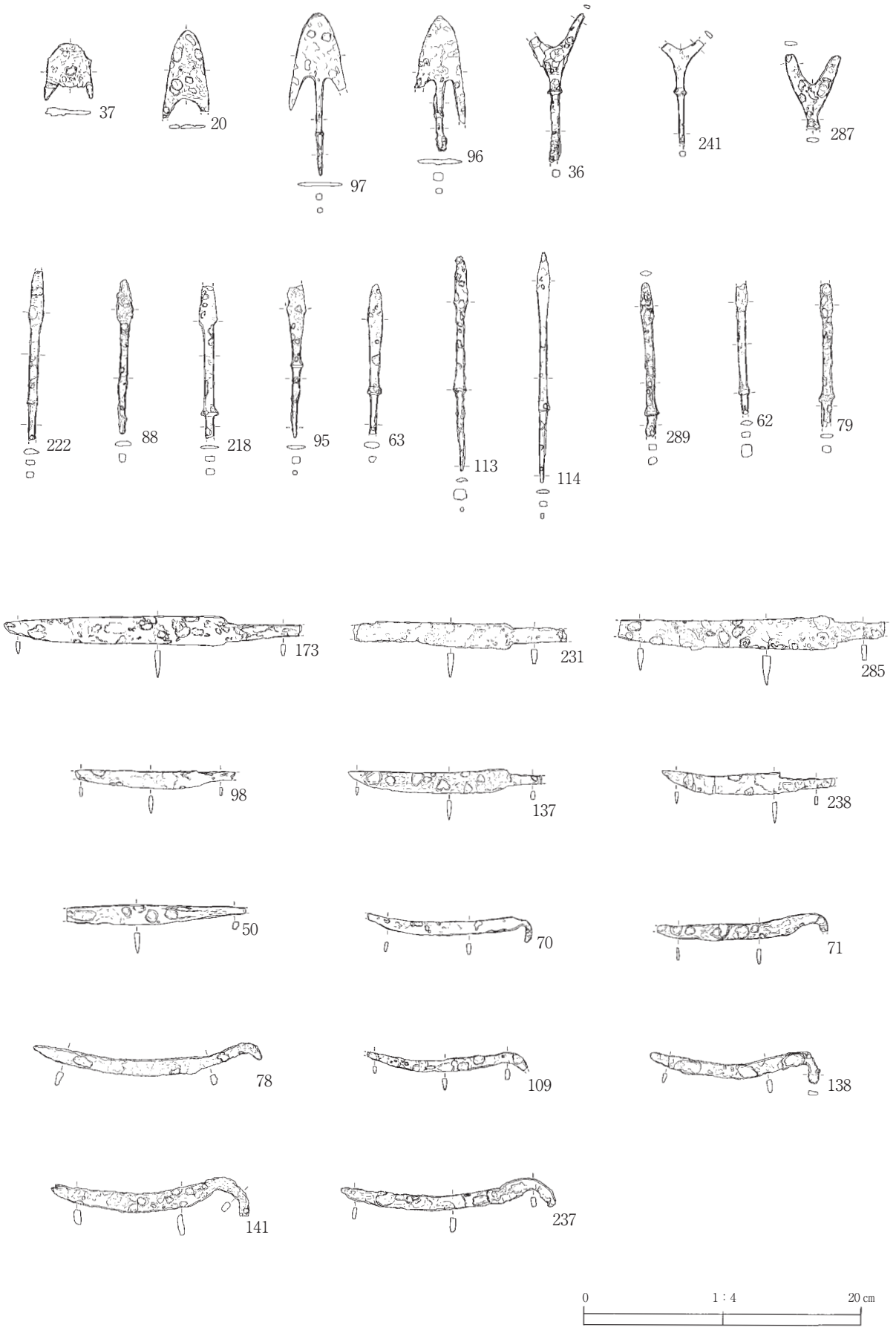
鉄鏃は25点出土し、ほかに長頸鏃の破片は他の製品の一部の可能性もあるため不明製品として掲載したものや不掲載となったものにも含まれている可能性があるため、点数はさらに増える可能性がある。残存状況により17点を分類の対象とした。出土した鉄鏃は無頸、短頸、長頸鏃に大別でき、その形態からさらに形式分類が可能である。なお、名称については津野（2001）を参考にした。無頸鏃は２点が出土した（20・37）。平面形は20が五角形、37が長三角形式を呈する。短頸鏃は５点出土した（36・96・97・241・287）。96・97は鏃身が長三角形を呈する短頸鏃で両側縁に刃部を形成し、底辺部には深く腸抉をもつ。頸部断面形は角状で、茎部先端は細く尖った形状を呈する。36・241・287は平面形状がＹ字状を呈するもので、刃部が長く二股に分かれている。頸部は短く茎部はいずれも欠損している。長頸鏃は10点出土した（62・63・79・88・95・113・114・218・222・289）。鑿箭式で小型の鏃身部と長い頸部を有し、刃部は両側縁につく。頸部関はいずれも台形関である。鏃身と頸部との境目である鏃身関が明瞭でないものもある（63・114）。

刀子は36点出土した。不掲載となったものを含めると、点数はさらに増える。残存状況により全体の形状がおおよそ判明したのは14点で、これらについて特徴を列記するが、劣化による変形や錆、接合状態により、記述と図が異なった形状に見える場合があることをあらかじめ断っておきたい。出土した刀子は茎部の形状により２つに大別され、①茎部が直線的な形状をするものと②茎部が刃部側に屈曲し、蕨手刀の柄頭と類似する形状を呈するものとに分かれる。①では刀身の形態では刃部が直線的で刀身の両側に関をもち関部が角関もしくは撫関となるもの（173・231・285）と刃部が峰に向かって外反するもの（98・137・238）があり、関は刀身背側が明瞭で、撫関もしくは角関をもち、刃部側は撫関、無関である。②は70・71・78・109・138・141・237が該当する。刃部が刀身背側に弓状に外反し、関は撫関もしくは無関である。141・237は刃部が刀身背側よりも若干厚みがないだけで、鋭利でないものもある。このような形態の違いは①と②のタイプが同一遺構内から出土していることから、機能差による可能性が考えられる。また、②のタイプのうち刃部が鋭利でないものについても製作途中のものなのか、あるいは別の用途に使用する道具なのかも含め、検討が必要と思われる。

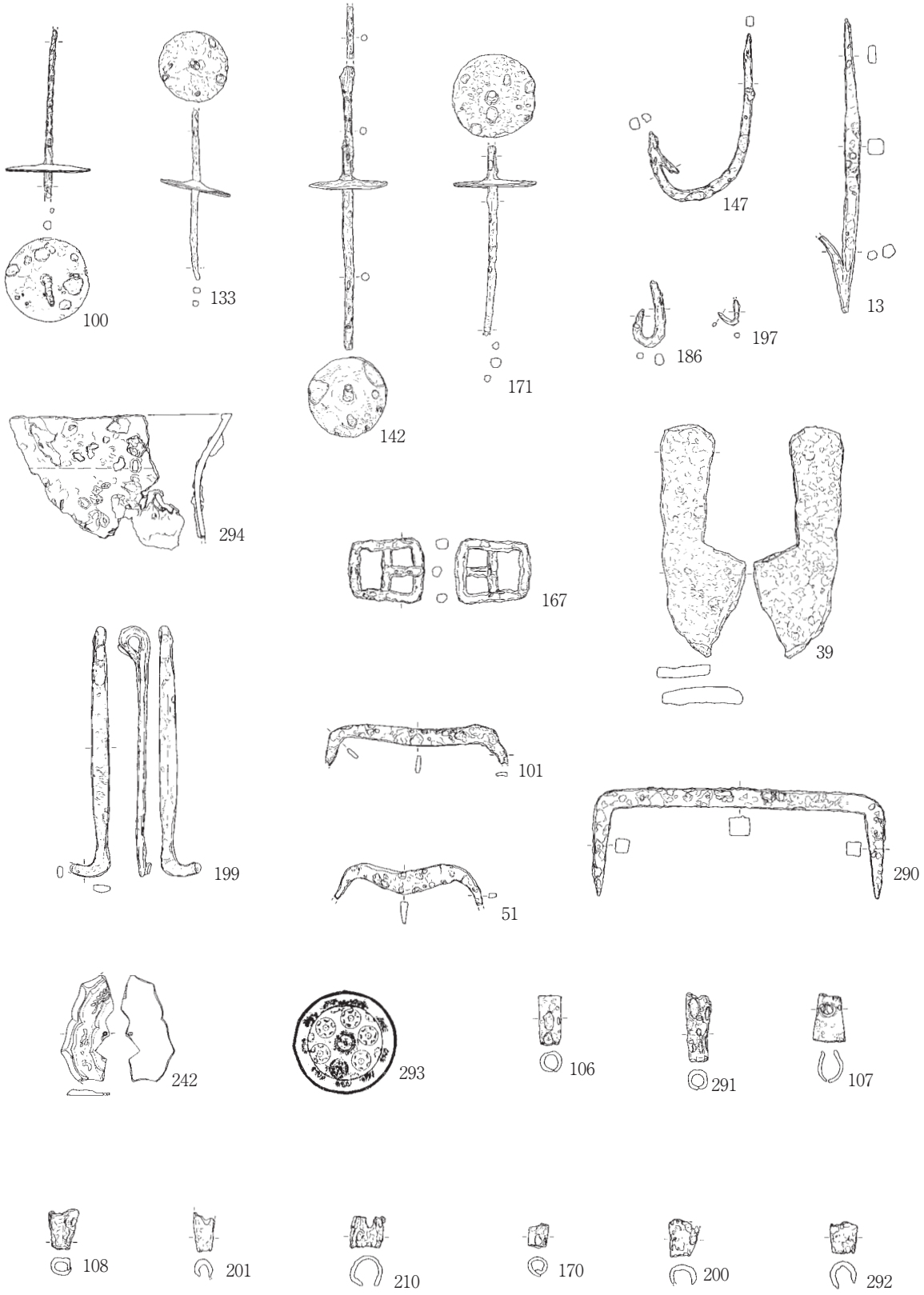
これ以外の金属遺物で特筆すべき遺物としてＤ区から出土した鏡２点がある。242は56号土坑から出土した。青銅製の八稜鏡で色調はくすんだ銀色で外縁～界圏付近までの一部断片であるが、直径は推定で約12㎝、重さ37.4ｇを測る。縁の形状は蒲鉾式で外区に対し内区は約１／２ほどの厚さである。内区中央が残存しないため鈕座は残っていないが、別途穿孔した痕跡が１箇所ある。欠損箇所は意図的にW字状に加工したと考えられる。時期は平安時代である。293は和鏡で口径10.3㎝、円と菊花文を組み合わせ双鳥を配置した文様構成である。

その他の遺物

土器・金属遺物以外では羽口が最も多く出土している。羽口は９世紀後半～10世紀前半の竪穴建物と15世紀の排滓場から多く出土してるが、竪穴建物から出土した羽口の口径値が平均8.6㎝、最大で11.0㎝であるのに対し、排滓場から出土したものは口径値の平均14.2㎝、最大16.5㎝を測り、前者に比べ大きい傾向にある。他に７号竪穴建物のカマド付近から土製研磨具が出土した。鉄器の研磨に使用したと推測されるが対象物や砥石との使い分けなどは使用痕からは判断できなかった。



第204図　金属遺物集成図１



第205図　金属遺物集成図２

4　総　　括

今回の調査で出土した遺物の年代は縄文時代～近世まで幅広く見つかっている。縄文～弥生時代は陥し穴状遺構が検出され、主に狩猟場としての利用を確認した。他に遺構は見つかっていないが、A区南東部付近のⅤ層で早期中葉の土器群がまとまって出土していることから、調査区外に該期の遺構が存在する可能性がある。また弥生時代については本遺跡の北東に位置し、津軽石川下流域にある赤前Ⅲ遺跡や赤前Ⅳ八枚田遺跡において過去に実施された調査で遺構・遺物が見つかっているが、本遺跡でも旧沢跡を中心に遺跡全体から遺物が出土していることや南に隣接する荷竹日影Ⅱ遺跡で赤穴式の土器片が出土していることなどから、遺跡周辺に集落が存在する可能性を示唆している。古代～中世は今回の調査で遺構数・遺物量が最も多く、特に９世紀後半～10世紀前半にわたる多数の竪穴建物が調査区全域で検出され、集落を形成していたことが明らかになった。特に鉄生産に関わる遺構や遺物が顕著で、古代の竪穴建物や工房内では鍛錬鍛冶の痕跡、中世では炉の本体はないが、排滓場から羽口をはじめ、大量の鉄滓が出土している。中でも鉄滓は製錬滓の割合が高く、周辺に製鉄炉が存在した可能性も考えられる。このような活動が花崗岩地帯にある遺跡周辺で採取できる砂鉄の原料を素に９世紀以降、断続的に15世紀まで行われたことが判明した。近世については今回の調査範囲においては遺構・遺物ともに少ないことから、詳細は不明である。

今回の報告では整理作業の時間的制約もあり、遺構・遺物について詳細な検討がほとんどできなかったが、当地域における当時の様子の一端を明らかにしたという意味においては、重要な意味をもつと考える。今後、調査・整理作業中である周辺遺跡の成果を待ち、本遺跡との関連性や遺跡の詳細がさらに解明されることを期待したい。

引用・参考文献

中野正樹編　1969「和鏡」『日本の美術42』　至文堂

津野　仁　　2001「中世鉄鏃の形成過程と北方系の鉄鏃」『土曜考古』第25号

西澤正晴　　2002「第５章・第２節（４）鉄製品」『島田Ⅱ遺跡第２～４次発掘調査報告書』　第450集　財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

宮古市教育委員会　1995『磯鶏館山遺跡』　宮古市埋蔵文化財調査報告書第43集

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2004『島田Ⅱ遺跡第２～４次発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第450集

2014『松山館跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第625集

2015『豊間根新田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第642集

2015『払川Ⅱ遺跡・払川Ⅲ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第643集

2016『赤前Ⅲ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第650集

2017『中村遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第671集

附編　自然科学分析

1　火山灰分析

株式会社　火山灰考古学研究所

1．はじめに

東北地方太平洋沿岸の三陸地方中部に位置する宮古市域とその周辺の地層や土壌の中には、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、十和田、鳴子など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、姶良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物（さいせつぶつ），いわゆる火山灰）が数多く認められる。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003，2011など）に収録されており、考古遺跡などで調査分析を行って年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古遺物や遺構の年代などに関する情報を得られるようになっている。

宮古市荷竹日向Ⅰ遺跡の発掘調査でも、考古学的に９世紀後半～10世紀初頭の可能性が考えられる１号竪穴建物の埋土中に灰白色の火山灰の薄層が認められたことから、発掘調査担当者により床面～西壁面付近から採取・送付された火山灰試料を対象に、テフラ分析（テフラ検出分析，テフラ組成分析，火山ガラスの屈折率測定）を実施して、すでに年代が明らかにされている指標テフラとの同定を行うことになった。

2．テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

１号竪穴建物の埋土（床面～西壁面付近）から採取された火山灰試料に含まれるテフラ粒子の特徴を定性的に明らかにするために、テフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

1）試料10g を秤量。
2）超音波洗浄により泥分を除去。
3）80°Ｃで恒温乾燥。
4）実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

（2）分　析　結　果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。火山灰試料（床面～西壁面付近）中に、比較的粗粒の軽石やスコリアは含まれていないものの、火山ガラスが比較的多く認められる。火山ガラスは、分厚い中間型、繊維束状軽石型、スポンジ状軽石型、そして平板状のいわゆるバブル型である。それらの色調は、無色透明や淡褐色である。不透明鉱物以外の重鉱物としては、黒雲母、斜方輝石、角閃石、単斜輝石が認められる。

3．テフラ組成分析

（1）分析試料と分析方法

火山灰試料（床面～西壁面付近）に含まれる火山ガラスの形態色調別含有率、さらに軽鉱物や重鉱

物の含有率を明らかにするために火山ガラス比分析を行った。さらに、含まれる重鉱物の組み合わせを定量的に求めるために重鉱物組成分析（火山ガラス比分析と合わせテフラ組成分析とする）を行った。分析の手順は次のとおりである。

1）テフラ検出分析終了後の試料から、分析篩により1/4～1/8mm と1/8～1/16mm の粒子を篩別。
2）偏光顕微鏡下で1/4～1/8mm 粒径の250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別含有率ならびに軽鉱物や重鉱物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。
3）偏光顕微鏡下で1/4～1/8mm 粒径の重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（テフラ組成分析）。

（2）分　析　結　果

テフラ組成分析の結果を、ダイヤグラムにして図１に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果の内訳を表２および表３に示す。

火山灰試料（床面～西壁面付近）に含まれる火山ガラスは、含有率が高い順に、繊維束状軽石型(5.2％)、中間型（3.6％)、スポンジ状軽石型（2.0％)、無色透明バブル型（0.4％）である。このうち、中間型ガラスの中には淡緑色のものが含まれている。また、軽鉱物と重鉱物の含有率は、それぞれ55.6％と6.4％である。

一方、不透明鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石（29.6％)、角閃石（20.0％)、単斜輝石(11.2％)、黒雲母（3.2％)、カンラン石（0.4％）が含まれている。

４．屈 折 率 測 定 （火山ガラス）

（１）測定試料と測定方法

火山灰試料（床面～西壁面付近）に含まれる火山ガラスを対象に、指標テフラとの同定精度を向上させるために含まれる火山ガラス（ｎ）の屈折率測定を行った。測定方法は、温度変化型屈折率法(壇原，1993）で、1/8～１/16mm の火山ガラスを測定対象とした。

（2）測　定　結　果

屈折率の測定結果を表４に示す。この表には、三陸地方中部周辺の後期更新世後半以降の代表的な指標テフラの火山ガラスの屈折率特性も合わせて示した。火山灰試料（床面～西壁面付近）に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）の range は、1.499-1.511である。実際には、この値は、1.499（１粒子)、1.502（１粒子)、1.504-1.511（28粒子）からなる。

５．考　　察

テフラ検出分析およびテフラ組成分析の対象となった１号竪穴建物床面～西壁面付近の火山灰試料に含まれる火山ガラスは、火山ガラスの形態やその屈折率特性から、十和田系テフラが混在していると考えられる。ただし、角閃石や黒雲母が多く含まれていることを考えると、テフラの純度が高いとは言いにくい。ただし、添付された試料採取地点の写真をみる限り、実際には灰白～白色を呈する細粒火山灰の薄層が認められていることから、純度の問題は試料採取段階での影響と考えられる。

さて、試料中に含まれる十和田系テフラとしては、火山ガラスの屈折率がやや低めのもの（n：1.499-1.508程度）について AD915年に十和田火山から噴出した十和田 a 火山灰（To-a，大池，1972，町田ほか，1981)、やや高めのもの（n：1.510-1.511程度）について、約6,000年前の十和田中

掫テフラ（To-Cu，大池ほか，1966，早川1983，町田・新井，1992，2003，2011）に由来する可能性が高いと推定される。

もともとの試料採取対象の火山灰層の灰白～白色という色調は、三陸地方南部～仙台平野周辺でのTo-aの色調の特徴である。その一方で、三陸地方北部～中部におけるTo-Cuは、下部の比較的薄い黄色細粒火山灰層と、上部の比較的厚い灰～黄灰色の細粒火山灰層の組み合わせからなる。このことを考慮すると、１号竪穴建物の覆土中に認められた火山灰の薄層は、To-aの可能性が高いと判断される。したがって、人為的に住居址が埋められたりしていないかぎり、１号竪穴建物の層位は、To-aより下位にあると推定される。この層位は、考古学的な遺構の推定年代（９世紀後半～10世紀初頭）と矛盾しない。

これまで、To-aについては、三陸地方中部での検出例は意外に少ない傾向にあり、今回のTo-aの可能性が高い火山灰層の検出は貴重なデータとなる。なお、テフラの一次堆積層か否かの判断や、高純度の試料採取には、火山灰編年学の研究者による現地調査が必要であることから、今後は専門家による現地での作業を期待したい。

６．ま　と　め

宮古市荷竹日向Ｉ遺跡の発掘調査で検出された１号竪穴建物埋土から採取・送付された火山灰試料を対象に、テフラ分析（テフラ検出分析，テフラ組成分析，火山ガラスの屈折率測定）を実施した。その結果、十和田ａ火山灰（To-a，AD915年）と十和田中掫テフラ（To-Cu，約6,000年前）に由来するテフラ粒子が検出された。野外での層相を考慮すると、１号竪穴建物埋土中で認められた細粒火山灰層はTo-aの可能性が高く、１号竪穴建物の層位はTo-aより下位と考えられる。

文献

壇原　徹（1993）温度変化型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀研究試料分析法２」，p.149-158.

早川由紀夫（1983）十和田中掫テフラ層の分布，粒度，組成，年代．火山，28，p.263-273.

町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田 洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

町田 洋・新井房夫（2011）新編火山灰アトラス（第２刷）．東京大学出版会，336p.

町田 洋・新井房夫・森脇 広（1981）日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.

大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11，p.232-233.

大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之（1966）馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰．第四紀研究，５，p.29-35.

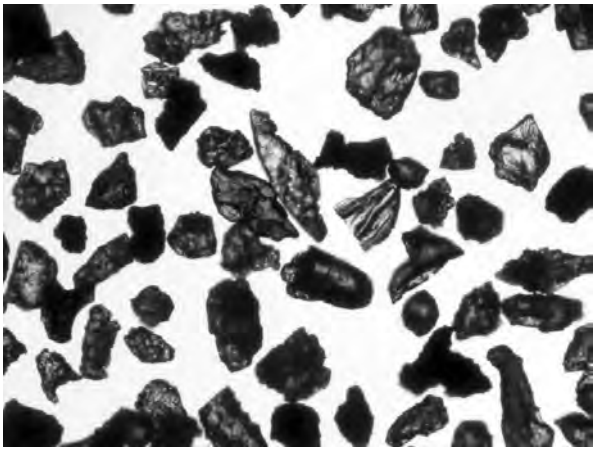


写真１　荷竹日向Ⅰ遺跡１号竪穴建物火山灰試料（床面～西壁面付近）の顕微鏡写真（透過光）
中央右：繊維束状軽石型ガラス，中央下：単斜輝石，中央左：角閃石.

表1　テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	（不透明鉱物以外）
1号竪穴建物	火山灰試料（床面～西壁面付近）				**	md，pm（fb），pm（sp），bw	無色透明，淡褐	bi，opx，am，cpx

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，sc：スコリア型，sp：スポンジ状，
fb：繊維束状，ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，bi：黒雲母．

表2　火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw（cl）	bw（pb）	bw（br）	md	pm（sp）	pm（fb）	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
1号竪穴建物	火山灰試料（床面～西壁面付近）	1	0	0	9	5	13	139	16	67	250

bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，sc：スコリア型，cl：無色透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポンジ状，fb：繊維束状．数字は粒子数．

表3　重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
1号竪穴建物	火山灰試料（床面～西壁面付近）	1	74	28	50	8	84	5	250

ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，bi：黒雲母，opq：不透明鉱物（黒色で光沢をもつもの）．数字は粒子数．

表4　屈折率測定結果

地点・テフラ	試料	火山ガラス		文献
		屈折率（n）	測定点数	
荷竹日向Ⅰ遺跡1号竪穴建物	火山灰試料 （床面～西壁面付近）	1.499-1.511 （1.499, 1.502, 1.504-1.511）	30 （1，1，28）	本報告
指標テフラ（後期更新世以降）				
十和田a（To-a）　岩手周辺		1.500-1.508		町田・新井（2011）
十和田a（To-a）　宮城周辺		1.503-1.507		町田・新井（2011）
十和田中掫（To-Cu）		1.508-1.512		町田・新井（2011）
秋田駒柳沢（Ak-Y）		?		町田・新井（2011）
肘折尾花沢（Hj-O）		1.499-1.504		町田・新井（2011）
秋田駒小岩井（Ak-K）		?		町田・新井（2011）
十和田八戸（To-H）		1.505-1.509		町田・新井（2011）
浅間板鼻黄色（As-YP）		1.501-1.505		町田・新井（2011）
鳴子潟沼上原（Nk-U）		1.492-1.500		早田（2001）
姶良Tn（AT）		1.498-1.501		町田・新井（2011）
十和田大不動（To-Of）		1.505-1.511		町田・新井（2011）
西岩手雪浦・生出（Iw-Y，Od）		1.508-1.508		町田・新井（2011）
鳴子柳沢（Nr-Y）		1.500-1.503		町田・新井（2011）
焼石山形（Yk-Y）		1.501-1.503		町田・新井（2011）
焼石村崎野（Yk-M）		1.503-1.508		町田・新井（2011）
十和田川口（Kw）		?		町田・新井（2011）
阿蘇4（Aso-4）		1.506-1.510		町田・新井（2011）
鳴子荷坂（Nr-N）		1.500-1.502		町田・新井（2011）
肘折北原（Hj-Kth）		1.499-1.502		町田・新井（2011）
三瓶木次（SK）		1.496-1.498		町田・新井（2011）
洞爺（Toya）		1.494-1.498		町田・新井（2011）

本報告における屈折率の測定は，温度変化型屈折率測定装置による．

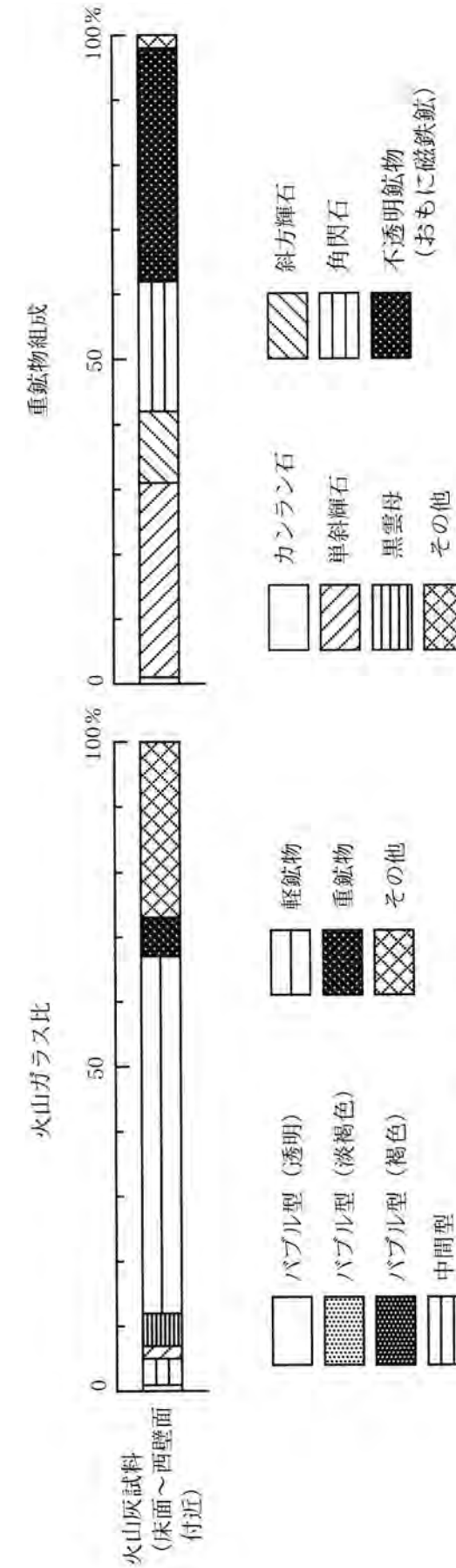


図１　荷竹日向Ⅰ遺跡１号竪穴建物火山灰試料のテフラ組成ダイヤグラム

２　放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．試　　料

荷竹日向Ⅰ遺跡は、宮古市役所から南南西約9.3㎞に位置し、西側から延びる丘陵地の先端部に立地する。検出遺構は古代が中心で、竪穴建物、土坑、畝間状遺構、焼土遺構、鍛冶工房跡等が検出される。他に中世、縄文時代の遺構が検出される。

分析試料は、全て炭化材である。22号竪穴建物床面（試料番号１）、24号竪穴建物埋土（試料番号２）、59号竪穴建物－土坑１埋土（試料番号３）、39号竪穴建物床面（試料番号４）、55号竪穴建物埋土下部（試料番号５）、29号竪穴建物埋土下部（試料番号６）、１号焼成遺構埋土（試料番号７）、１号排滓場埋土（試料番号８）、21号土坑埋土（試料番号９）、７号焼成遺構検出面～埋土１層（試料番号10）、60号竪穴建物埋土中（試料番号11）、１号排滓場埋土１層（試料番号12）、51号土坑埋土（試料番号13）、48号土坑埋土下位（試料番号14）の14点である。

分析にあたり、出土遺物・検出状況から現地調査で推定される各遺構の年代は以下のとおりであった。

試料１　22号竪穴建物・・・９世紀後半～10世紀前半
試料２　24号竪穴建物・・・平安時代
試料３　59号竪穴建物－土坑２・・・時期不明
試料４　39号竪穴建物・・・時期不明
試料５　55号竪穴建物・・・時期不明
試料６　29号竪穴建物・・・９世紀後半～10世紀前半
試料７　１号焼成遺構・・・９世紀後半～10世紀前半
試料８　１号排滓場・・・９世紀後半～10世紀前半
試料９　21号土坑・・・９世紀後半～10世紀前半
試料10　７号焼成遺構・・・時期不明
試料11　60号竪穴建物・・・平安時代
試料12　１号排滓場・・・９世紀後半～10世紀前半
試料13　51号土坑・・・９世紀後半～10世紀前半
試料14　48号土坑・・・時期不明

２．分　析　方　法

炭化材は、形状を観察し、最外年輪付近から約50mg の年代測定用試料を切り出す。切り出した植物片から、メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を、物理的に除去する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は HCl、NaOH 共に 1 mol/L である。試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube

とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径１㎜の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C６等）、バックグラウンド試料（IAEA-C１）の測定も行う。

δ^{13}Cは試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver and Polach 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.2（Bronk & Lee, 2013）を用いる。較正曲線はIntcal13（Reimer et al., 2013）を用いる。

３．結　　果

結果を表１に示す。今回の試料はいずれも保存状態が良く、定法でのAAA処理が可能である。また、年代測定を行うのに十分な炭素を回収できた。年代値は、22号竪穴建物は1095±20BP、24号竪穴建物は1000±25BP、59号竪穴建物は1150±20BP、39号竪穴建物は1060±25BP、55号竪穴建物は1050±20BP、29号竪穴建物は1030±25BP、１号焼成遺構は965±25BP、１号排滓場（試料８）は410±20BP、21号土坑は495±25BP、７号焼成遺構は765±25BP、60号竪穴建物は925±20BP、１号排滓場（試料12）は450±20BP、51号土坑は1150±20BP、48号土坑970±20BPである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪（年輪は細胞壁のみなので、形成当時の^{14}C年代を反映している）等を用いて作られており、最新のものは2013年に発表されたIntcal13（Reimer et ai., 2013）である。また、較正年代を求めるソフトウエアはいくつか公開されているが、今回はOxcal4.2（Bronk & Lee, 2013）を用いる。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが（Stuiver and Polach 1977）、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う比較、再計算がしやすいように、表には丸めない値（１年単位）を記す（表２、図１）。２σの値は、22号竪穴建物はcalAD890～995、24号竪穴建物はcalAD985～1150、59号竪穴建物はcalAD775～970、39号竪穴建物はcalAD900～1025、55号竪穴建物はcalAD905～1025、29号竪穴建物はcalAD980～1030、１号焼成遺構はcalAD1020～1155、１号排滓場（試料８）はcalAD1435～1615、21号土坑はcalAD1410～1445、７号焼成遺構はcalAD1220～1280、60号竪穴建物はcalAD1035～1160、１号排滓場（試料12）はcalAD1420～1465、51号土坑はcalAD775～970、48号土坑はcalAD1015～1155である。

現地調査による出土遺物・検出状況から推測した年代との比較では22号竪穴建物は現地調査所見では９世紀後半～10世紀前半、24号竪穴建物は平安時代と考えられており、分析結果とほぼ一致する。59号竪穴建物は現地調査所見では時期不明とされたが、分析結果からは平安時代と推定される。39・55号竪穴建物は、現地調査所見では時期不明、29号竪穴建物は９世紀後半～10世紀前半とされるが、

分析結果では10世紀末～11世紀始めの値を示し、互いに年代値が近い。１号焼成遺構は周辺の遺構・遺物から９世紀後半と推測したが、分析結果では11～12世紀と推定される。１号排滓場と21号土坑は平安時代の土器が混入していたことから現地調査所見では９世紀後半～10世紀前半と考えたが、分析結果からは、15世紀頃に中心があり、推定年代より新しい。７号焼成遺構は現地調査所見では時期不明とされるが、分析結果では13世紀頃と推定される。60号竪穴建物は現地調査所見では平安時代との所見で、分析結果では11～12世紀と推定される。51号土坑は現地調査所見では９世紀後半～10世紀前半と考えられているが、分析結果はやや古く、59号竪穴建物に近い。48号土坑は現地調査所見では時期不明とされるが、分析結果は１号焼成遺構、60号竪穴建物と近く、11～12世紀である。

なお、年代測定の結果のみでみると22・59号竪穴建物、51号土坑が calAD900年前後、24・29・39・55号竪穴建物 calAD1000年前後、１号焼成遺構、60号竪穴建物、48号土坑が calAD1100年前後、７号焼成遺構が calAD1250年前後、１号排滓場、21号土坑が calAD1450年前後にあたる。年代測定の結果からみると、いくつかのグループに分けられそうだが、推定時代と異なるものもあり、遺物の状況や層位なども含めて検討して行く必要がある。

引用文献

Bronk Ramsey, C., & Lee, S., 2013, Recent and Planned Developments of the Program OxCal. Radiocarbon, 55, 720–730.

Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Haflidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869–1887.

Stuiver Minze and Polach A Henry, 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355–363.

表1. 放射性炭素年代測定結果

試料名			形状	樹皮	年輪数	採取位置	樹種	処理	δ13C（‰）	年代値（BP）	Code No.	
											pal-	PLD-
1	22号竪穴建物	床面	ミカン割状	無	8年	外側3年分	クリ	AAA	−29.30±0.44	1095±20	10084	32120
2	24号竪穴建物	埋土	芯持丸木	無	6年	半割(6年分)	カエデ属	AAA	−28.63±0.42	1000±25	10085	32121
3	59号竪穴建物	埋土	ミカン割状	無	17年	外側6年分	ケヤキ	AAA	−32.54±0.33	1150±20	10086	32122
4	39号竪穴建物	床面	破片	無	14年	外側6年分	コナラ節	AAA	−26.55±0.42	1060±25	10087	32123
5	55号竪穴建物	埋土下部	分割状	無	3年	外側2年分	クリ	AAA	−28.21±0.40	1050±20	10088	32124
6	29号竪穴建物	埋土下部	破片	無	30年以上	外側8年分	クリ	AAA	−31.99±0.57	1030±25	10089	32125
7	1号焼成遺構	埋土	破片	無	18年	外側10年分	クリ	AAA	−32.30±0.36	965±25	10090	32126
8	1号排滓場	埋土	ミカン割状	無	9年	外側2年分	クリ	AAA	−29.98±0.35	410±20	10091	32127
9	21号土坑	埋土	破片	無	9年	外側5年分	クリ	AAA	−29.94±0.35	495±25	10092	32128
10	7号焼成遺構	検出面～埋土1層	破片	無	37年	外側10年分	クリ	AAA	−28.19±0.38	765±25	10093	32129
11	60号竪穴建物	埋土中	ミカン割状	無	13年	外側6年分	クリ	AAA	−32.04±0.38	925±20	10094	32130
12	1号排滓場	埋土1層	半裁状	無	7年	外側2年分	クリ	AAA	−32.61±0.36	450±20	10095	32319
13	51号土坑	埋土	ミカン割状	無	11年	外側4年分	マツ属複維管束亜属	AAA	−31.04±0.32	1150±20	10096	32320
14	48号土坑	埋土下位	芯持丸木	無	30年以上	外側10年分	コナラ節	AAA	−30.23±0.35	970±20	10097	32321

1）年代値の算出には、Libby の半減期5568年を使用。
2）BP 年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は、酸、アルカリ、酸処理を示す。

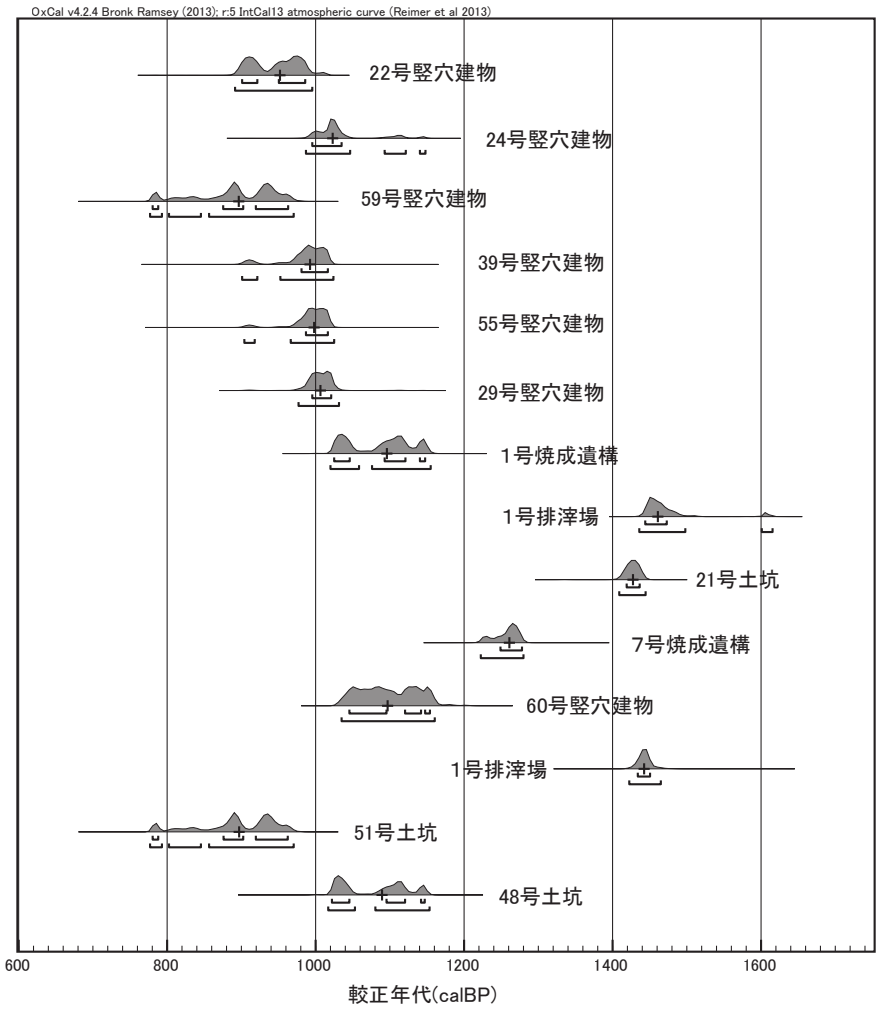


図1，暦年較正結果
上段はσの範囲、下段が2σの範囲、+ は中央値を示す。

表2.　暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代																Code No.	
		年代値														相対比	中央値		
22号竪穴建物	1094±22	σ	cal	AD	901	–	cal	AD	921	cal	BP	1,049	–	1,029	0.255	calAD	pal-	PLD-
			cal	AD	950	–	cal	AD	986	cal	BP	1,000	–	964	0.427	952	10084	32120
		2σ	cal	AD	891	–	cal	AD	995	cal	BP	1,059	–	955	0.954			
24号竪穴建物	1002±24	σ	cal	AD	995	–	cal	AD	1,035	cal	BP	955	–	915	0.682	calAD	pal-	PLD-
			cal	AD	987	–	cal	AD	1,046	cal	BP	963	–	904	0.837	1023	10085	32121
		2σ	cal	AD	1,093	–	cal	AD	1,121	cal	BP	857	–	829	0.099			
			cal	AD	1,140	–	cal	AD	1,148	cal	BP	810	–	802	0.018			
59号竪穴建物	1149±21		cal	AD	780	–	cal	AD	788	cal	BP	1,170	–	1,162	0.044	calAD	pal-	PLD-
		σ	cal	AD	875	–	cal	AD	902	cal	BP	1,075	–	1,048	0.260	896	10086	32122
			cal	AD	919	–	cal	AD	963	cal	BP	1,031	–	987	0.377			
			cal	AD	777	–	cal	AD	793	cal	BP	1,173	–	1,157	0.070			
		2σ	cal	AD	802	–	cal	AD	845	cal	BP	1,148	–	1,105	0.119			
			cal	AD	856	–	cal	AD	970	cal	BP	1,094	–	980	0.765			
39号竪穴建物	1058±23	σ	cal	AD	981	–	cal	AD	1,016	cal	BP	969	–	934	0.682	calAD	pal-	PLD-
		2σ	cal	AD	901	–	cal	AD	921	cal	BP	1,049	–	1,029	0.079	992	10087	32123
			cal	AD	952	–	cal	AD	1,024	cal	BP	998	–	926	0.875			
55号竪穴建物	1051±22	σ	cal	AD	987	–	cal	AD	1,016	cal	BP	963	–	934	0.682	calAD	pal-	PLD-
		2σ	cal	AD	904	–	cal	AD	918	cal	BP	1,046	–	1,032	0.035	998	10088	32124
			cal	AD	966	–	cal	AD	1,025	cal	BP	984	–	925	0.919			
29号竪穴建物	1028±24	σ	cal	AD	995	–	cal	AD	1,021	cal	BP	955	–	929	0.682	calAD	pal-	PLD-
		2σ	cal	AD	977	–	cal	AD	1,031	cal	BP	973	–	919	0.954	1006	10089	32125
1号焼成遺構	963±23		cal	AD	1,025	–	cal	AD	1,046	cal	BP	925	–	904	0.278	calAD	pal-	PLD-
		σ	cal	AD	1,093	–	cal	AD	1,121	cal	BP	857	–	829	0.331	1096	10090	32126
			cal	AD	1,140	–	cal	AD	1,147	cal	BP	810	–	803	0.073			
		2σ	cal	AD	1,020	–	cal	AD	1,058	cal	BP	930	–	892	0.339			
			cal	AD	1,076	–	cal	AD	1,155	cal	BP	874	–	795	0.615			
1号排滓場	411±22	σ	cal	AD	1,444	–	cal	AD	1,473	cal	BP	506	–	477	0.682	calAD	pal-	PLD-
		2σ	cal	AD	1,436	–	cal	AD	1,498	cal	BP	514	–	452	0.900	1461	10091	32127
			cal	AD	1,601	–	cal	AD	1,615	cal	BP	349	–	335	0.054			
21号土坑	495±23	σ	cal	AD	1,419	–	cal	AD	1,436	cal	BP	531	–	514	0.682	calAD	pal-	PLD-
		2σ	cal	AD	1,409	–	cal	AD	1,444	cal	BP	541	–	506	0.954	1427	10092	32128
7号焼成遺構	764±23	σ	cal	AD	1,249	–	cal	AD	1,278	cal	BP	701	–	672	0.682	calAD	pal-	PLD-
		2σ	cal	AD	1,222	–	cal	AD	1,280	cal	BP	728	–	670	0.954	1261	10093	32129
60号竪穴建物	925±22		cal	AD	1,045	–	cal	AD	1,095	cal	BP	905	–	855	0.431	calAD	pal-	PLD-
		σ	cal	AD	1,120	–	cal	AD	1,142	cal	BP	830	–	808	0.195	1097	10094	32130
			cal	AD	1,147	–	cal	AD	1,154	cal	BP	803	–	796	0.057			
		2σ	cal	AD	1,035	–	cal	AD	1,160	cal	BP	915	–	790	0.954			
1号排滓場	448±22	σ	cal	AD	1,434	–	cal	AD	1,450	cal	BP	516	–	500	0.682	calAD	pal-	PLD-
		2σ	cal	AD	1,422	–	cal	AD	1,465	cal	BP	528	–	485	0.954	1442	10095	32319
51号土坑	1149±20		cal	AD	780	–	cal	AD	788	cal	BP	1,170	–	1,162	0.043	calAD	pal-	PLD-
		σ	cal	AD	876	–	cal	AD	902	cal	BP	1,074	–	1,048	0.262	897	10096	32320
			cal	AD	919	–	cal	AD	962	cal	BP	1,031	–	988	0.377			
			cal	AD	777	–	cal	AD	793	cal	BP	1,173	–	1,157	0.069			
		2σ	cal	AD	802	–	cal	AD	845	cal	BP	1,148	–	1,105	0.112			
			cal	AD	856	–	cal	AD	970	cal	BP	1,094	–	980	0.774			
48号土坑	972±22		cal	AD	1,022	–	cal	AD	1,045	cal	BP	928	–	905	0.360	calAD	pal-	PLD-
		σ	cal	AD	1,095	–	cal	AD	1,120	cal	BP	855	–	830	0.276	1089	10097	32321
			cal	AD	1,142	–	cal	AD	1,147	cal	BP	808	–	803	0.046			
		2σ	cal	AD	1,017	–	cal	AD	1,053	cal	BP	933	–	897	0.422			
			cal	AD	1,080	–	cal	AD	1,153	cal	BP	870	–	797	0.532			

1）計算には、Oxcal　V4.2を使用
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3）1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4）統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95% である
5）相対比は、確率的に真の値が存在する比率を示したものである。
6）中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したもの。

3　鉄滓類の分析

株式会社古環境研究所

1．は　じ　め　に

荷竹日向Ⅰ遺跡は、岩手県宮古市津軽石第16地割荷竹ほかに所在する。発掘調査では、古代の鍛冶工房１箇所、鍛冶炉１基、排滓場１箇所などの遺構に伴い、大量の鉄滓が出土している。なお遺跡の北側には、古代の製鉄炉２基が確認された払川Ⅲ遺跡が所在する。そこで、地域周辺での鉄～鉄器生産の実態を検討することを目的として、出土鉄滓の調査を実施する運びとなった。

2．試 料 と 方 法

（1）供　試　材

試料を Table1に示す。出土した製鉄～鍛冶関連遺物20点の調査を行った。

（2）調　査　項　目

1）肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

2）顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の＃150、＃240、＃320、＃600、＃1000、及びダイヤモンド粒子の３μｍと１μｍで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

3）X線回折

鉄滓中の化合物を同定するため、X 線回折を実施した。X 線を照射すると化合物の結晶の種類に応じて、それぞれ固有の反射（回折）された特性 X 線が検出される。このことを利用して、試料中の化合物を同定する。

4）化学組成分析

出土鉄滓の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析

Table1　供試材の履歴と調査項目

試料番号	遺跡名	遺構名	遺物名称	推定年代	計測値		調査項目						備考
					大きさ（mm）	重量（g）	磁着力調査	金属探知器反応	顕微鏡組織	X線回折	化学分析	外観写真	
NIT-1	荷竹日向Ⅰ	1号鍛冶工房内竪穴床面	鍛冶滓（ｶﾞﾗｽ質滓）	古代	42×39.5×35	31.5	3	なし	○	○	○	○	
NIT-2			椀形鍛冶滓		61×38×26	43.4	3	なし	○	○	○	○	
NIT-3			含鉄鉄滓		51×35×20	28.2	6	10×10㎜	○	○	○	○	
NIT-4		1号排滓場埋土	炉内滓（含鉄）		97×81×73	419.3	4	10×10㎜	○	○	○	○	
NIT-5			炉内滓		96×68×37	199.2	5	なし	○	○	○	○	
NIT-6			炉内滓（炉壁付）		124×95×42	301.4	5	なし	○	○	○	○	
NIT-7			流動滓		156×156×36	1583.9	2	なし	○	○	○	○	
NIT-8			流動滓		60×46.5×26	69.4	2	なし	○	○	○	○	
NIT-9			流動滓		55.5×23×14	30.4	2	なし	○	○	○	○	
NIT-10			炉内滓		80×47×39	87.1	5	なし	○	○	○	○	
NIT-11			炉内滓		90×63×44	146.0	5	なし	○	○	○	○	
NIT-12			炉内滓		89×65×51.5	378.2	4	なし	○	○	○	○	
NIT-13			鍛冶滓		84×83×62	398.3	4	なし	○	○	○	○	
NIT-14			流動滓		195×170×56	2467.9	3	なし	○	○	○	○	
NIT-15			炉内滓（炉壁付）		155×144×110	2069.2	1	なし	○	○	○	○	
NIT-16		23号竪穴建物埋土	椀形鍛冶滓		93×70×52	435.5	7	なし	○	○	○	○	
NIT-17			椀形鍛冶滓		103×65×29	269.8	5	なし	○	○	○	○	
NIT-18			流動滓		96×83×24	254.4	3	なし	○	○	○	○	
NIT-19			椀形鍛冶滓		49×49×20	26.6	6	なし	○	○	○	○	
NIT-20		1号鍛冶工房跡内鍛冶炉検出面	椀形鍛冶滓		63×38×15	24.8	4	なし	○	○	○	○	

＊1号排滓場は放射性炭素年代測定により、のちに中世であることが判明した。

3．調　査　結　果

（1）1号鍛冶工房跡　工房内竪穴床面出土遺物

・NIT －1：鍛冶滓

1）肉眼観察：小形で不定形の鍛冶滓（31.5g）である。黒色ガラス質滓部分には、炉材粘土に混和された小礫が複数含まれる。暗灰色の滓部の表面は、細かい木炭痕による微細な凹凸が顕著である。また破面の気孔は少なく緻密である。着磁性は弱い。

2）顕微鏡組織：Photo.1①～③に示す。①の左側は鍛冶滓部分で、②はその拡大である。淡褐色多角形結晶マグネタイト（Magnetite：$2FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、白色粒状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）が晶出する。これに対して右側の暗黒色部は、羽口などの炉材粘土の溶融物と推定される。③はその拡大で、素地はガラス質滓（非晶質硅酸塩）である。右側の暗色粒は石英（Quartz：SiO_2）と推定される。炉材の耐火性を高めるために、真砂（花こう岩の風化砂）が混和された可能性が考えられる。また滓中に点在する微細な明白色粒は金属鉄である。

3）X線回折測定結果：Fig.1上段に示す。鍛冶滓部分の主要構成鉱物として、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）、炉材粘土の溶融物（ガラス質滓）の構成鉱物として、石英（Quartz：SiO_2）、トリディマイト（Tridymite：SiO_2）が確認された。

4）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は24.52%と低めであった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.08%、酸化第1鉄（FeO）が24.63%、酸化第2鉄（Fe_2O_3）7.58%の割合であった。造滓成分（SiO_2＋ Al_2O_3＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）は64.45%と高値であるが、塩基性成分（CaO ＋ MgO）の割合は1.97%と低い。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱[注1]）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.51%、バナジウム（V）が0.04%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.05%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.03%、銅（Cu）＜0.01%と低値である。

当鉄滓は製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓と推定される。炉材粘土の溶融物（ガラス質滓）の割合が高く、X線回折では石英（Quartz：SiO_2）に加えてトリディマイト（Tridymite：SiO_2）が検出された。炉材粘土中に混和された石英が、高温（870℃以上）に曝されて転移したものと考えられる。

・NIT －2：椀形鍛冶滓

1）肉眼観察：やや小形の椀形鍛冶滓の破片（43.4g）である。上下面とも細かい木炭痕による凹凸が著しい。一部には木炭を噛み込んでいる。表面には茶褐色の錆化物が広い範囲で付着するが、まとまった鉄部はなく、着磁性も弱い。また滓の地の色調は黒灰色である。側面2面は破面で、微細な気孔が若干点在するが緻密である。

2）顕微鏡組織：Photo.1④～⑥に示す。④上面表層に付着する黒色部は木炭である。⑤はその拡大で、木口面が観察される。発達した導管が分布する広葉樹材の黒炭であった。⑥は滓部の拡大である。滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。またウスタイト粒内の微細な暗灰色結晶は、色調からヘルシナイト（Hercynite：$FeO{\cdot}Al_2O_3$）と推測される。

3）X線回折測定結果：Fig.1下段に示す。鍛冶滓部分の主要構成鉱物は、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった〔ヘルシナイト（Hercynite：$FeO{\cdot}Al_2O_3$）は検出限界以下であった〕。さらにレピドクロサイト〔Lepidocrocite：FeO(OH)〕、ゲーサイト〔Goethite：FeO(OH)〕などの水酸化鉄も含有する。これは滓中の微細な錆化鉄部を反映したものと

考えられる。
４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）54.70% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.21%、酸化第１鉄（FeO）が57.58%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）13.93% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）23.65% で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）の割合は0.88% と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.48%、バナジウム（V）が0.10% と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.03%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.07%、銅（Cu）＜0.01% と低値である。
当鉄滓は酸化鉄（FeO）と、羽口などの炉材粘土（SiO_2主成分）溶融物主体の滓であった。製鉄原料起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）は低減傾向が著しく、鍛錬鍛冶滓に分類される。

・NIT －3：含鉄鉄滓
１）肉眼観察：ごく小形の含鉄鉄滓（28.2g）である。明瞭な破面はなく、表面全体に細かい木炭痕による凹凸がみられる。また表面には、茶褐色の錆化物が付着する。特殊金属探知器反応があり（10×10㎜）、内部には金属鉄が残存すると推測される。滓部は暗灰色で、気孔は少なく緻密である。
２）顕微鏡組織：Photo.2①～③に示す。①および②上側の暗灰色部は鉄滓部分である。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト（Magnetite:$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱（Tinanomagnetite）と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。①～③の明白色部は金属鉄で、３％ナイタルで腐食した組織を示している。ほとんど炭素を含まないフェライト単相（Ferrite：α相）の組織が確認された。
３）X 線回折測定結果：Fig.2上段に示す。滓部の主要鉱物組成として、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）が確認される。さらに金属鉄（Iron：Fe）、ゲーサイト〔Goethite：α－FeO(OH)〕、アカガネイト〔Akaganeite：β－FeO(OH)〕、レピドクロサイト〔Lepidocrocite：γ－FeO(OH)〕などの水酸化鉄も強い回折強度を示している。これは滓中の金属鉄部および錆化物の影響と考えられる。
４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）51.45% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は5.82%、酸化第１鉄（FeO）35.96%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）25.27% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）は20.51% で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は3.36% であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は5.31%、バナジウム（V）が0.29% と高めであった。また酸化マンガン（MnO）は0.56%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.22% と高めの傾向を示す。銅（Cu）は＜0.01% と低値であった。
当鉄滓は製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の割合が高く、製錬滓と推定される。

（２）１号排滓場埋土出土遺物

・NIT －4：炉内滓
１）肉眼観察：やや大形で不定形の製錬滓（炉内滓）破片の（419.3g）と推定される。内側表層は木炭痕による細かい凹凸がみられる。また茶褐色の錆化鉄部が点在する。その一部は特殊金属探知器で反応があり（10×10㎜）、金属鉄が残存すると考えられる。外面側には、被熱した灰褐色の粘土が薄く付着しており、炉壁に接する位置で生じたものと考えられる。
２）顕微鏡組織：Photo.2④～⑥に示す。素地部分は暗黒色のガラス質滓であるが、内部に１箇所、

まとまりのよいフェライト単相～亜共析組織の金属鉄（④⑤の明白色）部が確認された。黒色層状のパーライト（Pearlite）の面積率から、炭素含有率は0.2% 以下の軟鉄と推定される。

また⑥に示すように、滓部（暗黒色部）では、白色針状結晶イルメナイト（Ilmenite：$FeO \cdot TiO_2$）、淡褐色片状結晶シュードブルーカイト（Pseudobrookite：$Fe_2O_3 \cdot TiO_2$）が部分的に晶出する。これは高温下で生じる砂鉄製錬滓の特徴といえる（注2）。

3）X線回折測定結果：Fig.2下段に示す。石英（Quartz：SiO_2）、斜長石〔Anorthite sodian disoedered：(Ca, Na)(Si, Al)$_4O_8$〕が確認された。これらは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推定される。さらにマグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）が検出されたが、顕微鏡観察の項で述べたイルメナイト（Ilmenite：$FeO \cdot TiO_2$）、シュードブルーカイト（Pseudobrookite：$Fe_2O_3 \cdot TiO_2$）といった鉄チタン酸化物は、回折ピークは確認されず、検出限界以下であった。他に金属鉄（Iron：Fe）や、ゲーサイト〔Goethite：α − FeO(OH)〕、（水酸化鉄）も強い回折強度を示している。これは滓中の金属鉄部および錆化物の影響と考えられる。

4）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は15.86% と低値である。このうち金属鉄（Metallic Fe）は2.19%、酸化第１鉄（FeO）が4.17%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）14.92% であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）の割合は72.02% と高く、塩基性成分（CaO + MgO）も5.77% と高め傾向を示す。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は1.30%、バナジウム（V）が0.06% である。また酸化マンガン（MnO）は0.23%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）は0.19% である。銅（Cu）は＜0.01% と低値である。

当鉄滓は製鉄炉の内面が溶融してできたガラス質滓と推定される。滓中には砂鉄製錬に伴う鉄チタン酸化物が部分的に晶出する。

・NIT −5：炉内滓

1）肉眼観察：不定形でやや薄手の製錬滓（炉内滓）の破片（199.2g）である。内面側には比較的大形の木炭痕が点在する。また表面は茶褐色の鉄錆化物が目立つ。特殊金属探知器での反応があるため、内部には微細な金属鉄が残存する可能性が高い。また外面側には、被熱した灰褐色の炉材粘土が薄く付着する。

2）顕微鏡組織：Photo.3①～③に示す。①の右上は滓部で、②はその拡大である。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。淡灰色柱状結晶はファヤライトである。

一方、①左下の暗灰色部はガラス質滓である。滓中には炉壁粘土に混和された石英・長石類などの無色鉱物が点在する。さらに被熱砂鉄粒子も確認された。③の中央左寄りは還元・滓化が進んだ砂鉄粒子の痕跡で、非常に微細な明白色粒は金属鉄である。また右寄りの被熱砂鉄粒子は、外周に淡褐色多角形結晶マグネタイト（またはチタン磁鉄鉱）が晶出している。

3）X線回折測定結果：Fig.3上段に示す。滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO \cdot TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトにチタン（TiO_2）が少量固溶している可能性も考えられる〕。また。石英（Quartz：SiO_2）、斜長石〔Anorthite sodian disoedered：(Ca, Na)(Si, Al)$_4O_8$〕が確認された。これらは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推定される。さらにゲーサイト〔Goethite：α − FeO(OH)〕、レピドクロサイト〔Lepidocrocite：γ − FeO(OH)〕などの水酸化鉄も強い回折強度を示している。これは滓中の錆化鉄の影響と考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）37.53% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.20%、酸化第１鉄（FeO）が31.34%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）18.54% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）の割合は40.01% と高めであるが、塩基性成分（CaO + MgO）は2.84% と低めである。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は2.57%、バナジウム（V）が0.24% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.49%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.46% と高め傾向を示す。銅（Cu）は＜0.01% であった。

当鉄滓も製鉄炉内面の粘土溶融物の割合が高い滓であった。またガラス質滓中に被熱砂鉄粒子が存在しており、砂鉄製錬滓に分類される。

・NIT －6：炉内滓（炉壁付）

１）肉眼観察：やや大形の炉内滓破片（301.4g）である。内面は細かい凹凸のある滓部で、長さ６㎝程の非常に大形の木炭痕が一箇所確認される。また薄く茶褐色の鉄錆化物が付着するが、まとまった鉄部はなく、金属探知器での反応もみられない。また外面側は淡褐色の炉壁で、胎土中には短く切ったスサや真砂（花こう岩の風化砂）が多量に混和されている。

２）顕微鏡組織：Photo.3④～⑥に示す。④の上側は内面表層の滓部で、⑤はその拡大である。滓中の微細な青灰色部は錆化鉄である。また滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに暗灰色多角形結晶ヘルシナイト（Hercynite：$FeO \cdot Al_2O_3$）、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶はファヤライトである。

④の下側はガラス質滓である。滓中には炉壁粘土に混和された石英・長石類などの無色鉱物が点在する。さらに⑥左上のような、熱影響を受けて分解・滓化しかけた砂鉄粒子も確認された。

３）X 線回折測定結果：Fig.3下段に示す。滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）、ヘルシナイト（Hercynite：$FeO \cdot Al_2O_3$）であった。また石英（Quartz：SiO_2）、斜長石〔Anorthite sodian disoedered：$(Ca, Na)(Si, Al)_4O_8$〕が確認された。これらは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推定される。さらにゲーサイト〔Goethite：α － FeO(OH)〕、レピドクロサイト〔Lepidocrocite：γ － FeO(OH)〕などの水酸化鉄も強い回折強度を示している。これは滓中の錆化鉄の影響と考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は24.39% と低めであった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.14%、酸化第１鉄（FeO）が17.11%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）15.67% であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）の割合は59.76% と高いが、塩基性成分（CaO + MgO）の割合は3.27% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）1.30%、バナジウム（V）0.08% である。また酸化マンガン（MnO）は0.23%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）が0.19% であった。銅（Cu）は＜0.01% と低値である。

当鉄滓も炉内滓（NIT －5）と同様、製鉄炉内面の粘土溶融物の割合が高い滓であった。またガラス質滓中には被熱砂鉄粒子が存在しており、砂鉄製錬滓に分類される。

・NIT －7：流動滓

１）肉眼観察：大形の流動滓の破片（1583.9g）である。上面には細かい皺状の凹凸がみられる。側面は一部を除き破面で、比較的大きな気孔が点在する。また下面表層にはやや細かい気孔が密にみられるが、非常に重量感のある滓である。

２）顕微鏡組織：Photo.4①～③に示す。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶はファヤライトが晶出する。また②の中央は熱影響を受けて分解・滓化しかけた砂鉄粒子である。③中央の微細な不定形明白色部は金属鉄で、ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織であった。

３）X 線回折測定結果：Fig.4上段に示す。滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO{\cdot}TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトにチタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。また石英（Quartz：SiO_2）も検出された。これは滓表面に固着した砂の影響と考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）50.04% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.38%、酸化第１鉄（FeO）57.87%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）6.70% の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）は28.14% で、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は4.12% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は2.80%、バナジウム（V）が0.21% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.55% と高めで、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.74% と高値傾向を示す。銅（Cu）は＜0.01% であった。

以上の鉱物、化学組成から、当鉄滓は比較的チタン含有率の低い砂鉄を製錬した反応副生物（砂鉄製錬滓）と推定される。

・NIT －8：流動滓

１）肉眼観察：やや小形で不定形の流動滓の端部破片（69.4g）である。上面は比較的平滑で、微かに皺状の凹凸がみられる。側面２面は破面で、気孔は少なく緻密である。下面には部分的に薄く炉壁粘土が付着する。

２）顕微鏡組織：Photo.4④～⑥に示す。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶はファヤライトが晶出する。

また⑤の中央やや下寄りは微小金属鉄粒である。素地は黒色層状のパーライトで、白色針状のセメンタイト（Cementite：Fe_3C）が析出する。過共析組織（C ＞0.77%）が確認された。

３）X 線回折測定結果：Fig.4下段に示す。滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO{\cdot}TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトにチタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。さらに金属鉄（Iron：Fe）も検出された。また石英（Quartz：SiO_2）は滓表面に固着した炉壁中の砂の影響と考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）44.19% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.43%、酸化第１鉄（FeO）が51.45%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）5.39% の割合であった。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）は35.66% で、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は5.06% とやや高めである。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は3.00%、バナジウム（V）が0.30% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.49%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.43% とやや高めである。銅（Cu）は＜0.01% と低値であった。

当鉄滓も流動滓（NIT －7）と砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の割合が近似する。

比較的チタン含有率の低い砂鉄を製錬した反応副生物（砂鉄製錬滓）と推定される。

・NIT －9：流動滓

１）肉眼観察：二条の流動滓が溶着した、細い棒状の製錬滓の破片（30.4g）である。短軸両端は破面で、非常に緻密な滓である。また表面には細かい炉材粘土粉や砂粒が付着する。特に下面側は著しい。

２）顕微鏡組織：Photo.5①～③に示す。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶はファヤライトが晶出する。また③中央の微細な不定形明白色部は金属鉄である。ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織であった。

３）X 線回折測定結果：Fig.5上段に示す。滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO{\cdot}TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトにチタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）45.56% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.31%、酸化第１鉄（FeO）が52.29%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）6.59% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）33.46% で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は4.68% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は2.74%、バナジウム（V）が0.19% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.55%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.78% と高値傾向を示す。銅（Cu）は＜0.01% と低値であった。

当鉄滓も流動滓（NIT －7、8）と砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の割合は近似する。比較的チタン含有率の低い砂鉄を製錬した滓と推定される。

・NIT －10：炉内滓

１）肉眼観察：不定形の炉内滓破片（87.1g）である。表面全体に木炭痕による凹凸がみられる。やや軽い質感で、粘土溶融物の割合が高いと推測される。また部分的に茶褐色の錆化鉄部があり、錆化に伴う放射割れも生じているが、金属探知器での反応はない。

２）顕微鏡組織：Photo.5④～⑥に示す。④の上側は滓部で、⑤はその拡大である。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また滓中に点在する微細な青灰色部は錆化鉄である。

一方④の下側はガラス質滓で、⑥はその拡大である。滓中には炉壁粘土中に混和された真砂（花こう岩の風化砂）が多数点在する。

３）X 線回折測定結果：Fig.5下段に示す。滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO{\cdot}TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトにチタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。また石英（Quartz：SiO_2）、斜長石〔Anorthite sodian disoedered：$(Ca, Na)(Si, Al)_4O_8$〕が確認された。これらは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推定される。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）33.28% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.16%、酸化第１鉄（FeO）が30.03%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）13.98% の割合であった。造滓成分（SiO_2

＋ Al_2O_3＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）は46.39% と高めで、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は3.65% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は3.36%、バナジウム（V）が0.19% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.54%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.64% とやや高めであった。銅（Cu）は＜0.01% と低値である。

当鉄滓も流動滓（NIT －7～ 9）と砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の割合が近似する。比較的チタン含有率の低い砂鉄を製錬した滓と推定される。

・NIT －11：炉内滓

１）肉眼観察：不定形の炉内滓（146.0g）である。上面は木炭痕による凹凸が顕著で、木炭の噛み込みもみられる。やや軽い質感で、粘土溶融物の割合が高いと推測される。また下面表層には広い範囲で茶褐色の鉄錆化物が付着するが、金属探知器での反応はない。

２）顕微鏡組織：Photo.6①～③に示す。①および②の左側は滓部である。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また①および②右側に多数確認される灰褐色粒は砂鉄粒子である。ほとんどの砂鉄粒子に熱影響がないため、鉄滓の廃棄後二次的に表面に付着したと推測される。また①右側の暗黒色部は木炭破片で、③はその拡大である。年輪に沿って導管が並ぶ広葉樹の環孔材であった。

３）X 線回折測定結果：Fig.6上段に示す。滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。また石英（Quartz：SiO_2）が確認された。これは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）の影響と推測される。さらにゲーサイト〔Goethite：α － FeO(OH)〕、レピドクロサイト〔Lepidocrocite：γ － FeO(OH)〕などの水酸化鉄も強い回折強度を示している。これは滓中の錆化鉄の影響と考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）37.36% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.42%、酸化第１鉄（FeO）が24.57%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）25.51% の割合であった。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）は40.11% と高めで、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は2.87% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は2.93%、バナジウム（V）が0.19% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.48%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.47% と高め傾向を示す。銅（Cu）は＜0.01% と低値であった。

当鉄滓も炉内滓（NIT －10）と、よく似た鉱物・化学組成であり、比較的チタン含有率の低い砂鉄を製錬した反応副生物（砂鉄製錬滓）と推定される。

・NIT －12：炉内滓

１）肉眼観察：緻密で重量感のある炉内滓の破片（378.2g）である。上下面は試料本来の表面であるが、側面は全面破面である。また茶褐色の鉄錆化物が点々と付着するが、金属探知器での反応はない。上下面には木炭痕が散在しており、一部木炭も残存する。

２）顕微鏡組織：Photo.6④～⑥に示す。④の上側表面には微細な木炭破片が付着する。⑤右側はその拡大である。内部に導管が分布する広葉樹材の黒炭である。また表面および滓中の青灰色部は錆化鉄である。金属組織痕跡は不明瞭であり、炭素含有率の推定等は困難な状態であった。

④の下側は滓部で、⑤の左下および⑥はその拡大である。淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに淡灰色柱状

結晶ファヤライトが晶出する。

３）X 線回折測定結果：Fig.6下段に示す。滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト（Wustite：FeO）、マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）であった。さらに石英（Quartz：SiO_2）も検出された。これは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）の影響と推測される。ゲーサイト〔Goethite：α − FeO(OH)〕（水酸化鉄）も強い回折強度を示している。これは滓中の錆化鉄の影響と考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）52.58% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.30%、酸化第１鉄（FeO）52.88%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）15.98% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）は22.87% で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は3.27% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は3.58%、バナジウム（V）が0.46% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.38%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）が0.40% である。銅（Cu）は＜0.01% であった。

当鉄滓の製鉄原料（砂鉄）起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）は、１号排滓場出土製錬滓（流動滓：NIT −7〜 9）よりも高い割合を示す。このことから、当鉄滓も砂鉄製錬滓と推定される。

・NIT −13：鍛冶滓

１）肉眼観察：厚手の鉄滓破片（398.3g）である。上下面は試料本来の表面であるが、側面は全面破面である。表面には広い範囲で茶褐色の鉄錆化物が付着するが、金属探知器での反応はなく、まとまった鉄部はみられない。また上面側には木炭痕が散在しており、一部木炭も残存する。

２）顕微鏡組織：Photo.7①〜③に示す。①の上側は滓部で、②はその拡大である。発達した白色粒状結晶ウスタイトが凝集する。鉄素材の吹き減り（酸化による損失）で生じる。鍛錬鍛冶滓によくみられる晶癖である。さらに少量淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する①左側の黒色部は木炭破片である。内部に導管が分布する広葉樹材の黒炭であった。①の下側に多数点在する灰褐色粒は砂鉄粒子で、③はその拡大である。熱影響を受けた粒子はなく、廃棄後に付着したものと考えられる。

３）X 線回折測定結果：Fig.7上段に示す。滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）であった。さらにマグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）も検出されるが、これは遺物表面に付着した砂鉄の影響があると考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は61.21% と高値であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.20%、酸化第１鉄（FeO）が65.37%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）14.59% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）は13.68% と低めで、塩基性成分（CaO + MgO）も2.51% と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は2.39%、バナジウム（V）が0.32% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.44%、二酸化ジルコニウム（ZrO2）も0.62% と高め傾向を示す。銅（Cu）は＜0.01% と低値であった。

当鉄滓は酸化鉄（FeO）主体で、鉄素材の吹き減り（酸化による損失）に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。化学組成をみると、製鉄原料（砂鉄）起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の割合は当遺跡出土製錬滓と近似するが、これは廃棄後二次的に砂鉄（含チタン鉄鉱）が付着したためと考えられる。

・NIT －14：流動滓

１）肉眼観察：非常に大形の流動滓（2467.9g）の破片である。滓の色調は暗灰色で、表面に皺状の凹凸がみられる。気孔は少なく緻密で重量感のある滓である。表面には茶褐色の鉄錆化物が部分的に付着するが、金属探知器での反応はなく、まとまった鉄部はみられない。また下面には広い範囲で淡褐色の炉壁粉や真砂（花崗岩の風化砂）が付着する。

２）顕微鏡組織：Photo.7④～⑥に示す。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。

３）X 線回折測定結果：Fig.7下段に示す。滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト（Wustite：FeO）、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO{\cdot}TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトにチタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）50.00% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.13%、酸化第１鉄（FeO）が55.90%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）9.19% の割合であった。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）は26.95% で、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は3.54% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は3.84%、バナジウム（V）が0.21% であった。また酸化マンガン（MnO）は0.62%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.34% と高めである。銅（Cu）は＜0.01% と低値である。

当鉄滓の化学組成は炉内滓（NIT －12）と近似する。比較的チタン含有率の低い砂鉄を製錬した反応副生物（砂鉄製錬滓）と推定される。

・NIT －15：炉内滓（炉壁付）

１）肉眼観察：非常に大形で厚手の炉内滓（2069.2g）である。内側は暗灰色流動状の製錬滓と黒色ガラス質滓（炉壁内面溶融物）が確認される。製錬滓の気孔は少なく緻密で重量感がある。また内面表層には茶褐色の錆化鉄部が点在するが、金属探知器の反応はない。外面側には全面灰褐色～淡橙色の炉壁粘土が付着する。

２）顕微鏡組織：Photo.8①～③に示す。①中央は滓部で、②はその拡大である。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

一方①の左上、および右下はガラス質滓で、熱影響を受けた砂粒が点在する。これらは炉材粘土中に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推定される。

また②③の微小明白色粒は金属鉄である。②は亜共析組織で、黒色層状のパーライトの割合から、炭素含有率は0.3% 前後と推定される。③右下には非常に微細な金属鉄粒（フェライト単相）が点在する。周囲の微細な淡褐色結晶〔（鉄）チタン酸化物〕は、砂鉄粒子の形状を微かにとどめている。

３）X 線回折測定結果：Fig.8上段に示す。滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト（Wustite：FeO）、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。さらに石英（Quartz：SiO_2）も検出された。これは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）の影響と推測される。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）43.15% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.17%、酸化第１鉄（FeO）が50.68%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）5.14% の割合であった。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）の割合は37.83% と高めで、このうち塩基性成分（CaO ＋

MgO）は4.07% であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は2.21%、バナジウム（V）が0.18% である。また酸化マンガン（MnO）は0.42%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.60% と高めであった。銅（Cu）は＜0.01% と低値である。

当鉄滓は砂鉄製錬滓に分類される。１号排滓場から出土した炉内滓（炉壁付：NIT －6）と同様、製鉄炉内面の粘土溶融物の割合が高い滓であった。また還元・滓化の進んだ砂鉄粒子の痕跡（Photo.8③右下）も確認された。

（３）22号竪穴建物埋土出土遺物

・NIT －16：椀形鍛冶滓

１）肉眼観察：やや厚手の椀形鍛冶滓の破片（435.5g）と推定される。表面には広い範囲で茶褐色の錆化鉄部が付着するが、まとまった鉄部はなく、金属探知器での反応もみられない。側面３面は破面で気孔は少なく緻密である。下面は全体に細かい木炭痕による凹凸が著しい。

２）顕微鏡組織：Photo.8④～⑥に示す。滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。またウスタイト粒内の微細な暗灰色結晶は、色調からヘルシナイトと推測される。

⑤中央は微小金属鉄である。３% ナイタルで腐食した組織を示す。少量黒色層状のパーライトが析出する亜共析組織（＜0.77%）であった。また④右下の黒色部は、滓の下面に付着した木炭破片である。⑥の右下はその拡大で、木口面が観察される。発達した導管が分布する広葉樹材の黒炭であった。

３）X 線回折測定結果：Fig.8下段に示す。滓部の主要構成鉱物は、ウスタイト（Wustite：FeO）、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった〔ヘルシナイト（Hercynite：$FeO{\cdot}Al_2O_3$）、ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO{\cdot}TiO_2$）は検出限界以下であった。マグネタイトにアルミナ（Al_2O_3）、チタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。さらにレピドクロサイト〔Lepidocrocite：FeO(OH)〕、ゲーサイト〔Goethite：FeO(OH)〕などの水酸化鉄も検出された。これは滓中の微細な錆化鉄部を反映したものと考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）53.41% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.02%、酸化第１鉄（FeO）が51.73%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）18.83% の割合であった。造滓成分（$SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$）は23.76% で、このうち塩基性成分（$CaO + MgO$）は1.23% と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は1.18%、バナジウム（V）が0.10% と低めであった。また酸化マンガン（MnO）は0.08%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）が0.06% と低値である。銅（Cu）も＜0.01% と低値であった。

当鉄滓は他の同遺跡出土製錬滓と比較して、砂鉄起源の脈石成分は低減傾向を示す。チタニア（TiO_2）、バナジウム（V）割合は、製錬滓（炉材粘土溶融物の割合の高いものを除く）の約１／２程度まで低減する。また酸化マンガン（MnO）、ジルコン（ZrO_2）の低減傾向も顕著である。また製鉄炉の炉内滓と比較すると滓中の結晶が微細である。これらの特徴から、当鉄滓は精錬鍛冶滓の可能性が高いと考えられる。

・NIT －17：椀形鍛冶滓

１）肉眼観察：やや薄手の椀形鍛冶滓（269.8g）の破片である。上下面と側面１面は試料本来の表面である。上面には茶褐色の鉄錆化物が付着するが、まとまった鉄部はなく、金属探知器の反応もみられない。側面３面は破面である。破面には細かい気孔が多数散在するが、緻密で重量感のある滓である。下面には細かい木炭痕による凹凸がみられる。また鍛冶炉床土が部分的に付着する。

２）顕微鏡組織：Photo.9①～③に示す。①の上面表層側の淡褐色多角形結晶はマグネタイトと推定される。②はその拡大で、一部中央に暗灰色部が確認されるものがある。この暗灰色部はヘルシナイト（Hercynite：$FeO \cdot Al_2O_3$）と考えられる。さらに淡灰色柱状結晶ファヤライトも晶出する。これに対して、内部では白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。③はその拡大である。
３）X 線回折測定結果：Fig.9上段に示す。滓部の主要構成鉱物は、ウスタイト（Wustite：FeO）、マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）である〔ヘルシナイト（Hercynite：$FeO \cdot Al_2O_3$）は検出限界以下であった〕。
４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は62.96% と高値であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.01%、酸化第１鉄（FeO）が65.92%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）16.74% の割合である。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）14.02% と低めで、塩基性成分（CaO + MgO）は0.99% と低値である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.82%、バナジウム（V）が0.05% と低値であった。酸化マンガン（MnO）は0.06%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.07% と低く、銅（Cu）も＜0.01% と低値である。

当鉄滓は酸化鉄（FeO）主体で、製鉄原料（砂鉄）起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の低減傾向が著しい。鉄素材の吹き減り（酸化による損失）に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

・NIT －18：流動滓
１）肉眼観察：不定形の流動滓（254.4g）の破片である。上下面とも表面は滑らかで、下面には一部砂が付着する。破面の気孔はほとんどなく、緻密で重量感のある滓である。
２）顕微鏡組織：Photo.9④～⑥に示す。滓中の淡褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグネタイトに少量チタニア（TiO_2）を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。⑥の微小明白色部は金属鉄である。３% ナイタルで腐食したところ、ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織が確認された。
３）X 線回折測定結果：Fig.9下段に示す。滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト（Wustite：FeO）、マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO \cdot TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトにチタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。
４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）48.31% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.17%、酸化第１鉄（FeO）が58.22%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）4.13% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）は30.13% で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）は2.74% と低めであった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は3.23%、バナジウム（V）が0.20% である。また酸化マンガン（MnO）は0.43%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.64% とやや高めであった。銅（Cu）は＜0.01% と低値である。

当鉄滓も他遺構から出土した製錬滓と類似する鉱物、化学組成であった。比較的チタン含有率の低い砂鉄を製錬した反応副生物（砂鉄製錬滓）と推定される。

・NIT －19：椀形鍛冶滓
１）肉眼観察：ごく小形でほぼ完形の椀形鍛冶滓（26.6g）と推定される。表面には茶褐色の鉄錆化物が薄く付着するが、まとまった鉄部はなく、金属探知器の反応もない。滓の地の色調は黒灰色で、細かい木炭痕による凹凸が著しい。表面の気孔は少なく緻密な滓である。

２）顕微鏡組織：Photo.10①～③に示す。滓中には発達した白色粒状結晶ウスタイトが凝集する。その粒内の暗灰色微結晶はヘルシナイトと推測される。さらに淡灰色柱状結晶ファヤライトも晶出する。

また②③中央は微小金属鉄粒で、３％ナイタルで腐食した組織を示している。②はほぼフェライト単相、③は亜共析組織を呈する。

３）X 線回折測定結果：Fig.10上段に示す。滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト（Wustite：FeO）、マグネタイト（Magnetite：$FeO{\cdot}Fe_2O_3$）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。ヘルシナイト（Hercynite：$FeO{\cdot}Al_2O_3$）、ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO{\cdot}TiO_2$）は回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった〔マグネタイトに、アルミナ（Al_2O_3）、チタニア（TiO_2）が少量固溶している可能性もある〕。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）は62.05% と高い割合であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.25%、酸化第１鉄（FeO）が61.96%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）19.50% の割合である。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）は13.57% と低めで、塩基性成分（CaO + MgO）も1.56% と低値であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は1.92%、バナジウム（V）0.12% であった。また酸化マンガン（MnO）が0.14%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）は0.19% である。銅（Cu）は＜0.01% と低値であった。

当鉄滓は製錬滓と比較すると、砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）は低減しているが、鍛錬鍛冶滓よりも高い割合を示す。この特徴から、精錬鍛冶滓の可能性が高いと考えられる。

（４）１号鍛冶工房跡内鍛冶炉検出面出土遺物

・NIT －20：椀形鍛冶滓

１）肉眼観察：ごく小形でほぼ完形の椀形鍛冶滓（24.8g）である。全体に軽い質感で、炉材粘土の溶融物の割合が高い滓と推測される。表面には薄く茶褐色の錆化物が付着するが、まとまった鉄部はなく、金属探知器の反応もない。

２）顕微鏡組織：Photo.10④～⑥に示す。滓中には淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。さらに少量白色樹枝状結晶ウスタイトも確認される。なお滓中には１箇所薄板状の白色部がみられる。⑤の左上はその拡大で、熱間での鍛打作業で生じた鍛造剥片（注３）が、鍛冶炉内に飛散したものの可能性がある。また④の暗灰色部はガラス質滓で、内部には炉材粘土中に混和された砂粒も点在する。⑥右側の暗色粒はその拡大である。

３）X 線回折測定結果：Fig.10下段に示す。滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）であった。また石英（Quartz：SiO_2）、斜長石〔Anorthite sodian disoedered：$(Ca, Na)(Si, Al)_4O_8$〕が確認された。これらは炉材粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推定される。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は22.44% と低値であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.06%、酸化第１鉄（FeO）が21.83%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）7.75% であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）は66.46% と高値で、塩基性成分（CaO + MgO）は4.25% である。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.65%、バナジウム（V）0.01% と低値であった。また酸化マンガン（MnO）0.10%、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）も0.01%、銅（Cu）＜0.01% と低値である。

当鉄滓は製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO、ZrO_2）の低減傾向が顕著であった。炉材粘土の溶融物（ガラス質滓）の割合が高い、鍛錬鍛冶滓と推定される。

4．ま と め

荷竹日向Ⅰ遺跡から出土した製鉄～鍛冶関連遺物を調査した結果、発掘調査地区の近接地で、比較的チタン含有率の低い砂鉄を製鉄原料として、鉄生産が行われたものと推定される。その生成鉄（製錬鉄塊系遺物）をもとに、精錬鍛冶～鍛錬鍛冶作業が行われたと考えられる。

なお近接する払川Ⅲ遺跡でも、製鉄～鍛冶の一貫生産が推定される遺物群が確認されている。東北地方北部では、こうした製鉄～鍛冶一貫体制がとられた集落遺跡は９世紀後半から11世紀代にかけて多数確認されている。荷竹日向Ⅰ遺跡・払川Ⅲ遺跡も同様の特徴を示す、生産遺跡群といえる。また詳細は以下の通りである。

（１）出土鉄滓20点のうち、13点（NIT －3～ 12、14、15、18）は砂鉄製錬滓と推定される。特に１号排滓場から出土した遺物群は製錬滓の割合が高く、周辺に製鉄炉が存在した可能性も考えられる。これらの製錬滓のチタン含有率は、炉材粘土溶融物（ガラス質滓）の割合の高い滓を除いても、2.74% ～ 5.31%TiO_2とやや低めである。払川Ⅲ遺跡出土製錬滓も4.19%、6.28%TiO_2とほぼ同等のチタン含有率であった。また宮古市に所在する島田Ⅱ遺跡も、出土砂鉄のチタン含有率は0.60～2.52%TiO_2、鉄滓は2.04～ 7.62%TiO_2との報告がある（注４）。当遺跡でも地域周辺に分布する、比較的チタン含有率の低い砂鉄を製鉄原料としていたと推定される。

他の製鉄原料（砂鉄）起源の脈石成分として、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）の高値傾向が挙げられる。磁鉄鉱（含チタン鉄鉱）とともに母岩（珪長質の火成岩）に含まれるジルコン（Zircon：$ZrSiO_2$）（注５）が、砂鉄中に濃集したものと考えられる。

（２）砂鉄製錬滓のうち２点（NIT －3、4）には、内部に７～ 10㎜程度のまとまった金属鉄部が確認された。ともに炭素含有率の低い軟鉄であった。このうち含鉄鉄滓（NIT －3）は鍛冶炉を伴う１号鍛冶工房跡から出土している。鍛冶原料（製錬鉄塊系遺物）ともに、工房に搬入されたが、製錬滓の割合の高い部分が残された可能性が考えられる。

（３）残る鉄滓２点（NIT －16、19）は精錬鍛冶滓、５点（NIT －1、2、13、17、20）は鍛錬鍛冶滓と推定される。熱間で鉄素材を鍛打して鉄器を作る作業まで、一貫して行われていたことを示す遺物群と言える。

（４）鉄滓表層に付着した微細な木炭破片（NIT －2、11～ 13、16）は、いずれも内部に発達した導管が分布する広葉樹材であった。製鉄～鍛冶の各工程で、主に広葉樹材の黒炭を用いていた可能性が考えられる。

（注）

１）木下亀城・小川留太郎『岩石鉱物』保育社　1995

チタン鉄鉱は赤鉄鉱とあらゆる割合に混じりあった固溶体をつくる。（中略）チタン鉄鉱と赤鉄鉱の固溶体には、チタン鉄鉱あるいは赤鉄鉱の結晶をなし、全体が完全に均質なものと、チタン鉄鉱と赤鉄鉱が平行にならんで規則正しい縞状構造を示すものとがある。

チタン鉄鉱は磁鉄鉱とも固溶体をつくり、これにも均質なものと、縞状のものとがある。（中略）このようなチタン鉄鉱と赤鉄鉱、または磁鉄鉱との固溶体を含チタン鉄鉱 Titaniferous iron ore という。

２）J.B.Mac chesney and A. Murau：American Mineralogist，46（1961），572〔イルミナイト（Ilmenite：FeO･TiO_2）、シュードブルーカイト（Pseudobrookite：Fe_2O_3･TiO_2）の晶出は FeO－TiO_2二元平衡状態図から高温化操業が推定される。〕

３）鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌（金肌）やスケー

ルとも呼ばれる。

鍛造剥片の酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト（Hematite：Fe_2O_3）、中間層マグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4）、大部分は内層ウスタイト（Wustite：FeO）の３層から構成される。このうちのヘマタイト相は1450℃を越えると存在しなく、ウスタイト相は570℃以上で生成されるのはFe－O系平衡状態図から説明される。

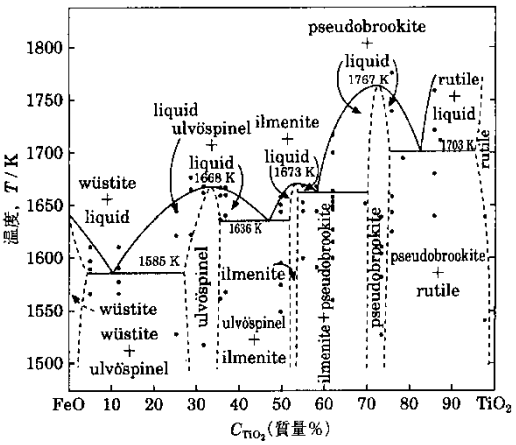
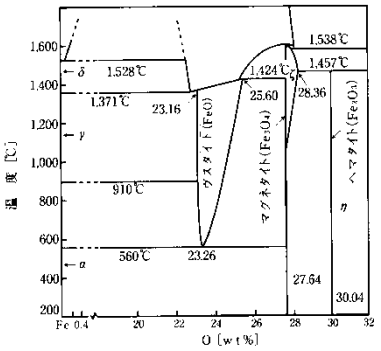
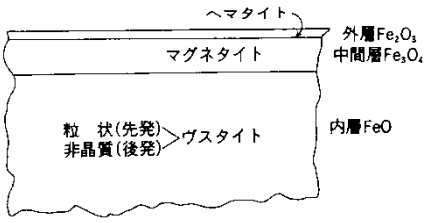


図３　FeO-TiO_2 二元平衡状態図



Fe-O系平衡状態図

鍛造剝片３層分離型模式図



４）『島田Ⅱ遺跡第２～４次発掘調査報告書』（財）岩手県文化振興事業団・埋蔵文化財センター　2004
５）黒田吉益･諏訪兼位　1983『偏光顕微鏡と造岩鉱物[第２版]』共立出版株式会社　第５章　鉱物各論　D. ジルコン（zircon）産状:ジルコンは副成分鉱物として、すべての火成岩に含まれる。火成岩のなかでも深成岩に多く、とくにNaに富む深成岩（閃長岩，花崗岩など）に多い。

Table2　供試材の化学組成

試料番号	遺跡名	遺構名	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第１鉄 (FeO)	酸化第２鉄 (Fe_2O_3)	二酸化珪素 (SiO_2) *	酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ (Al_2O_3) *	酸化ｶﾙｼｳﾑ (CaO) *	酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ (MgO) *	酸化ｶﾘｳﾑ (K_2O) *	酸化ﾅﾄﾘｳﾑ (Na_2O) *	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ (MnO)	二酸化ﾁﾀﾝ (TiO_2)	酸化ｸﾛﾑ (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	炭素 (C)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	銅 (Cu)	二酸化ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ (ZrO_2)	造滓成分 Σ*	造滓成分 / TotalFe	TiO_2 / TotalFe	注
NIT-1	荷竹日向Ⅰ	１号鍛冶工房内竪穴床面	鍛冶滓（ｶﾞﾗｽ質滓）	古代	24.52	0.08	24.63	7.58	46.96	10.93	1.26	0.71	2.34	2.25	0.05	0.51	0.05	0.012	0.19	0.07	0.04	<0.01	0.03	64.45	2.628	0.021	
NIT-2			椀形鍛冶滓		54.70	0.21	57.58	13.93	17.31	4.19	0.57	0.31	0.60	0.67	0.03	0.48	0.05	0.026	0.24	0.25	0.10	<0.01	0.07	23.65	0.432	0.009	
NIT-3			含鉄鉄滓		51.45	5.82	35.96	25.27	12.25	4.01	2.15	1.21	0.56	0.33	0.56	5.31	0.14	0.071	0.46	0.19	0.29	<0.01	0.22	20.51	0.399	0.103	
NIT-4		１号排滓場埋土	炉内滓（含鉄）		15.86	2.19	4.17	14.92	45.19	16.64	4.12	1.65	2.64	1.78	0.23	1.30	0.07	0.084	0.52	0.21	0.06	<0.01	0.19	72.02	4.541	0.082	
NIT-5			炉内滓		37.53	0.20	31.34	18.54	25.66	9.96	1.73	1.11	0.80	0.75	0.49	2.57	0.15	0.048	0.50	0.28	0.24	<0.01	0.46	40.01	1.066	0.068	
NIT-6			炉内滓（炉壁付）		24.39	0.14	17.11	15.67	37.68	14.91	2.03	1.24	2.50	1.40	0.23	1.30	0.06	0.026	0.61	0.23	0.08	<0.01	0.19	59.76	2.450	0.053	
NIT-7			流動滓		50.04	0.38	57.87	6.70	17.25	5.39	3.09	1.03	0.80	0.58	0.55	2.80	0.06	0.032	0.86	0.02	0.21	<0.01	0.74	28.14	0.562	0.056	
NIT-8			流動滓		44.19	0.43	51.45	5.39	21.85	7.17	3.48	1.58	0.86	0.72	0.49	3.00	0.11	0.031	0.89	<0.01	0.30	<0.01	0.43	35.66	0.807	0.068	
NIT-9			流動滓		45.56	0.31	52.29	6.59	20.74	6.39	3.59	1.09	0.97	0.68	0.55	2.74	0.06	0.043	0.94	0.03	0.19	<0.01	0.78	33.46	0.734	0.060	
NIT-10			炉内滓		33.28	0.16	30.03	13.98	29.71	10.98	2.32	1.33	1.05	1.00	0.54	3.36	0.10	0.053	0.54	0.20	0.19	<0.01	0.64	46.39	1.394	0.101	
NIT-11			炉内滓		37.36	0.42	24.57	25.51	25.86	9.69	1.59	1.28	0.86	0.83	0.48	2.93	0.14	0.012	0.44	0.36	0.19	<0.01	0.47	40.11	1.074	0.078	
NIT-12			炉内滓		52.58	0.30	52.88	15.98	13.37	5.47	2.18	1.09	0.42	0.34	0.38	3.58	0.13	0.026	0.72	0.13	0.46	<0.01	0.40	22.87	0.435	0.068	
NIT-13			鍛冶滓		61.21	0.20	65.37	14.59	8.00	2.74	1.78	0.73	0.23	0.20	0.44	2.39	0.07	0.029	0.66	0.02	0.32	<0.01	0.62	13.68	0.223	0.039	
NIT-14			流動滓		50.00	0.13	55.90	9.19	16.88	5.61	2.24	1.30	0.49	0.43	0.62	3.84	0.10	0.038	0.85	<0.01	0.21	<0.01	0.34	26.95	0.539	0.077	
NIT-15			炉内滓（炉壁付）		43.15	0.17	50.68	5.14	23.95	8.28	2.88	1.19	0.88	0.65	0.42	2.21	0.06	0.023	0.72	0.05	0.18	<0.01	0.60	37.83	0.877	0.051	
NIT-16		23号竪穴建物埋土	椀形鍛冶滓		53.41	0.02	51.73	18.83	16.66	4.83	0.75	0.48	0.61	0.43	0.08	1.18	0.05	0.031	0.26	0.13	0.10	<0.01	0.06	23.76	0.445	0.022	
NIT-17			椀形鍛冶滓		62.96	0.01	65.92	16.74	9.18	3.12	0.64	0.35	0.45	0.28	0.06	0.82	0.05	0.029	0.17	0.06	0.05	<0.01	0.07	14.02	0.223	0.013	
NIT-18			流動滓		48.31	0.17	58.22	4.13	19.83	6.13	1.94	0.80	0.66	0.77	0.43	3.23	0.06	0.024	0.62	<0.01	0.20	<0.01	0.64	30.13	0.624	0.067	
NIT-19			椀形鍛冶滓		62.05	0.25	61.96	19.50	8.33	2.80	1.08	0.48	0.61	0.27	0.14	1.92	0.07	0.016	0.20	0.06	0.12	<0.01	0.19	13.57	0.219	0.031	
NIT-20		１号鍛冶工房跡内鍛冶炉	椀形鍛冶滓		22.44	0.06	21.83	7.75	42.23	14.67	2.83	1.42	3.59	1.72	0.10	0.65	0.08	0.028	0.53	0.13	0.01	<0.01	0.01	66.46	2.962	0.029	

Table3　出土遺物の調査結果のまとめ

試料番号	遺跡名	遺構名	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成（%）								所見
						Total Fe	Fe_2O_3	塩基性成分	TiO_2	V	MnO	造滓成分	Cu	
NIT-1	荷竹日向Ⅰ	1号鍛冶工房内竪穴床面	鍛冶滓（ｶﾞﾗｽ質滓）	古代	滓部：M+W+F、ｶﾞﾗｽ質滓（石英混在）、微小金属鉄粒	24.52	7.58	1.97	0.51	0.04	0.05	64.45	<0.01	鍛錬鍛冶滓（炉材粘土の溶融物の割合が高い）
NIT-2			椀形鍛冶滓		滓部 W（微細 M）+F、木炭破片：広葉樹材	54.70	13.93	0.88	0.48	0.10	0.03	23.65	<0.01	鍛錬鍛冶滓
NIT-3			含鉄鉄滓		滓部：M+W+F、金属鉄部：ﾌｪﾗｲﾄ単相	51.45	25.27	3.36	5.31	0.29	0.56	20.51	<0.01	砂鉄製錬滓（金属鉄部：製錬滓と未分離の軟鉄）
NIT-4		1号排滓場埋土	炉内滓（含鉄）		滓部：ｶﾞﾗｽ質滓、（I+Ps）、金属鉄部：ﾌｪﾗｲﾄ単相～亜共析組織	15.86	14.92	5.77	1.30	0.06	0.23	72.02	<0.01	砂鉄製錬滓（炉壁内面溶融物主体、高温製錬金属鉄部：軟鉄）
NIT-5			炉内滓		滓部：M+F、ｶﾞﾗｽ質滓（石英・長石類混在）、被熱砂鉄	37.53	18.54	2.84	2.57	0.24	0.49	40.01	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-6			炉内滓（炉壁付）		滓部：M+H+W+F、被熱砂鉄、微細錆化鉄部	24.39	15.67	3.27	1.30	0.08	0.23	59.76	<0.01	内面：砂鉄製錬滓、外側：炉壁
NIT-7			流動滓		滓部：M+W+F、被熱砂鉄、微小金属鉄：ﾌｪﾗｲﾄ単相	50.04	6.70	4.12	2.80	0.21	0.55	28.14	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-8			流動滓		滓部：M+W+F、微小金属鉄：過共析組織	44.19	5.39	5.06	3.00	0.30	0.49	35.66	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-9			流動滓		滓部：M+W+F、微小金属鉄：ﾌｪﾗｲﾄ単相	45.56	6.59	4.68	2.74	0.19	0.55	33.46	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-10			炉内滓		滓部：M+W+F、ｶﾞﾗｽ質滓（石英・長石類混在）	33.28	13.98	3.65	3.36	0.19	0.54	46.39	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-11			炉内滓		滓部：M+F、砂鉄付着（熱影響なし）、木炭破片：広葉樹環孔材	37.36	25.51	2.87	2.93	0.19	0.48	40.11	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-12			炉内滓		滓部：M+W+F、木炭破片：広葉樹材	52.58	15.98	3.27	3.58	0.46	0.38	22.87	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-13			鍛冶滓		滓部：W+F、砂鉄付着（熱影響なし）木炭破片：広葉樹材	61.21	14.59	2.51	2.39	0.32	0.44	13.68	<0.01	鉄滓：鍛錬鍛冶滓〔鉄素材の吹き減り（酸化に伴う損失）による反応副生物〕、砂鉄：廃棄後付着
NIT-14			流動滓		滓部：M+W+F	50.00	9.19	3.54	3.84	0.21	0.62	26.95	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-15			炉内滓（炉壁付）		滓部：M+F、ｶﾞﾗｽ質滓（石英混在）、被熱砂鉄、微小金属鉄：ﾌｪﾗｲﾄ単相～亜共析組織	43.15	5.14	4.07	2.21	0.18	0.42	37.83	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-16		23号竪穴建物埋土	椀形鍛冶滓		滓部 W（微細 M）+F、木炭破片：広葉樹材	53.41	18.83	1.23	1.18	0.10	0.08	23.76	<0.01	精錬鍛冶滓の可能性が高い
NIT-17			椀形鍛冶滓		滓部：M+W+F、微小金属鉄粒	62.96	16.74	0.99	0.82	0.05	0.06	14.02	<0.01	鍛錬鍛冶滓
NIT-18			流動滓		滓部：M+W+F、微小金属鉄：ﾌｪﾗｲﾄ単相	48.31	4.13	2.74	3.23	0.20	0.43	30.13	<0.01	砂鉄製錬滓
NIT-19			椀形鍛冶滓		滓部：W（微細 M）+F、微小金属鉄：ﾌｪﾗｲﾄ単相～亜共析組織	62.05	19.50	1.56	1.92	0.12	0.14	13.57	<0.01	精錬鍛冶滓の可能性が高い
NIT-20		1号鍛冶工房跡内鍛冶炉	椀形鍛冶滓		滓部：W+F、被熱鍛造剥片、ｶﾞﾗｽ質滓（石英・長石類）混在	22.44	7.75	4.25	0.65	0.01	0.10	66.46	<0.01	鍛錬鍛冶滓

W: Wustite（FeO）、M: Magnetite（Fe_3O_4）、F: Fayalite（$2FeO \cdot SiO_2$）、I: Ilmenite（$FeO \cdot TiO_2$）、Ps: Pseudobrookite（$Fe_2O_3 \cdot TiO_2$）

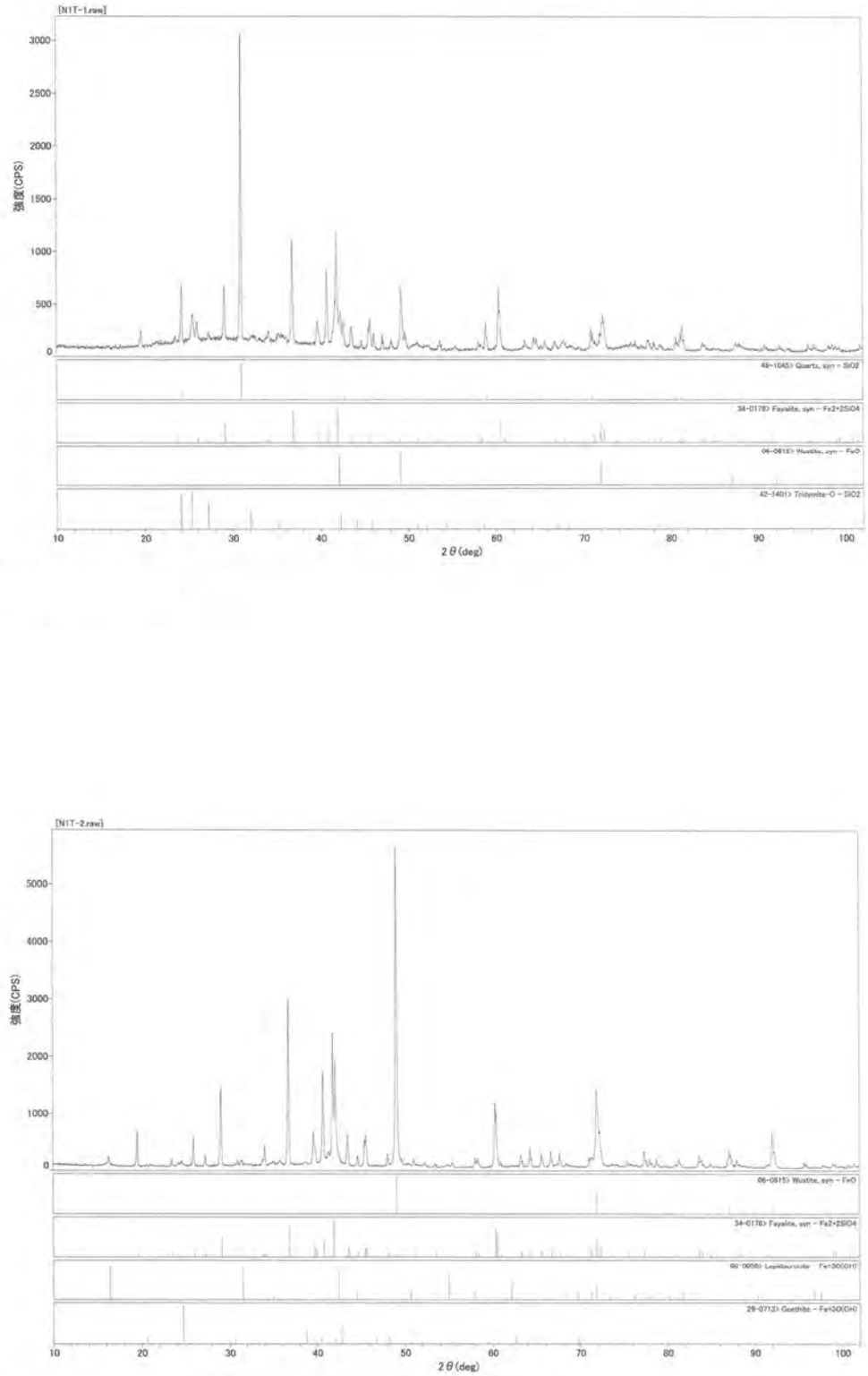


Fig.1　上段：鍛冶滓（NIT-1）、下段：椀形鍛冶滓（NIT-2）の X 線回折測定結果

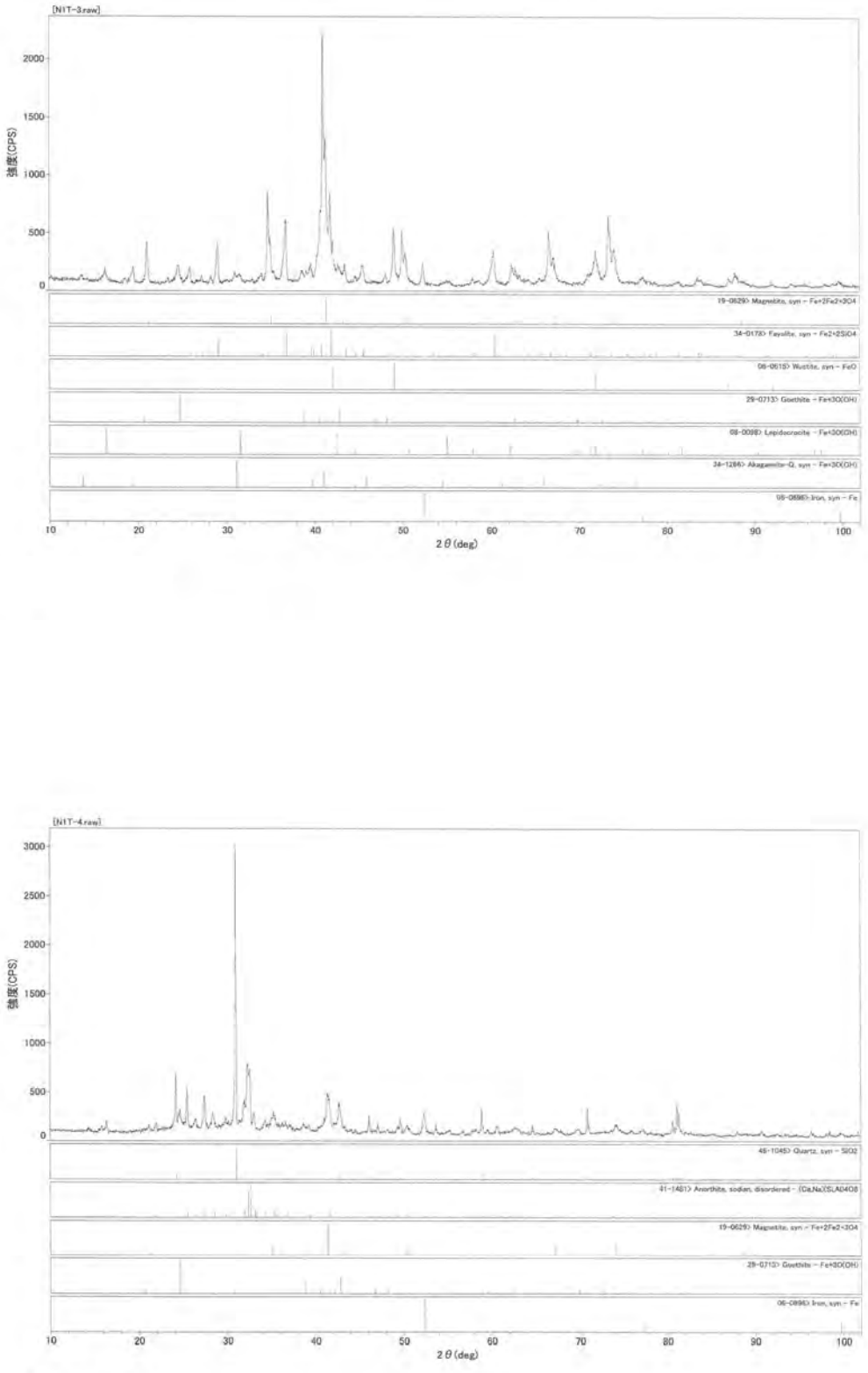


Fig.2　上段：含鉄鉄滓（NIT-3）、下段：炉内滓（NIT-4）の X 線回折測定結果

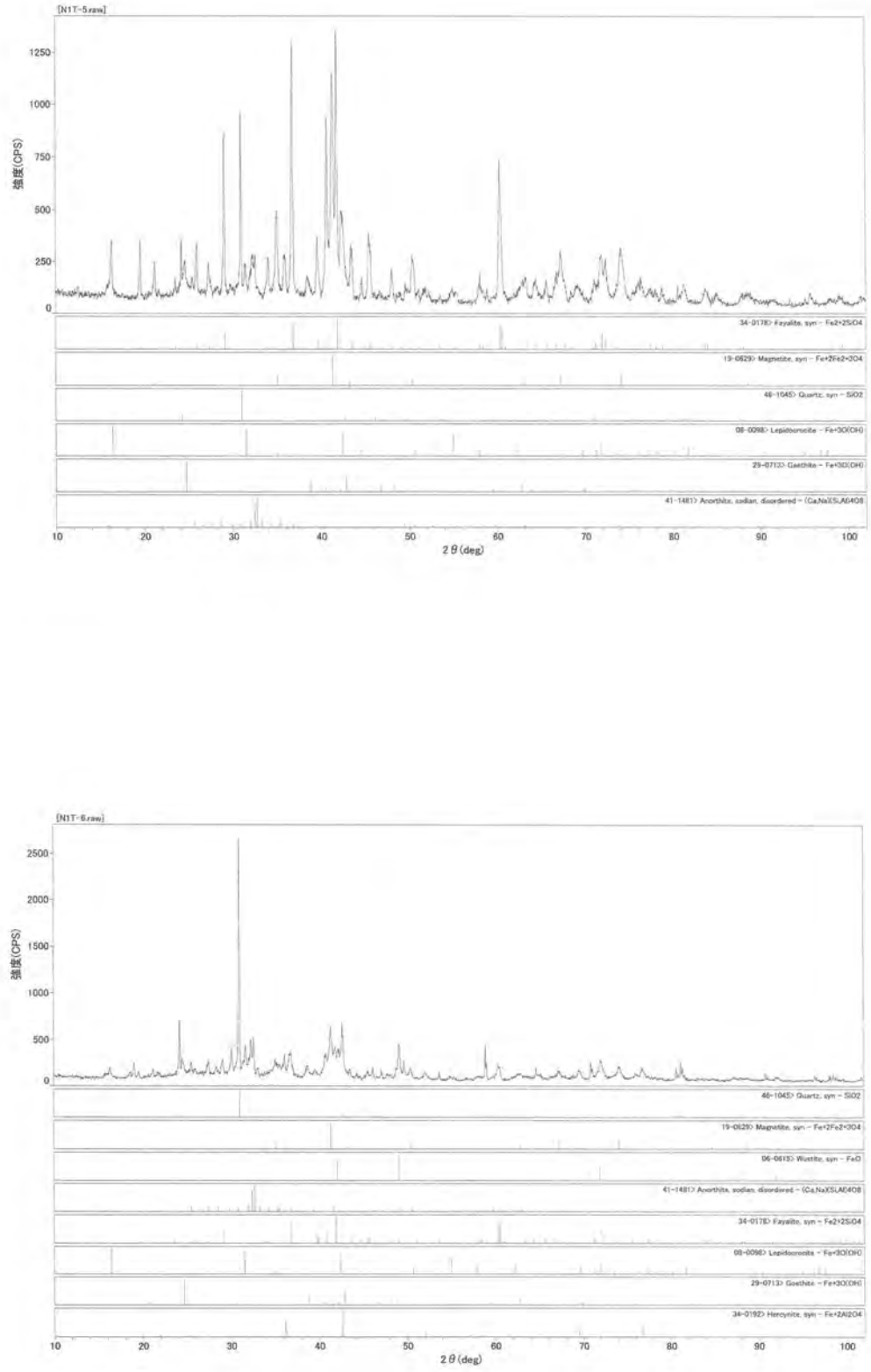


Fig.3　炉内滓（上段：NIT-5、下段：NIT-6）の X 線回折測定結果

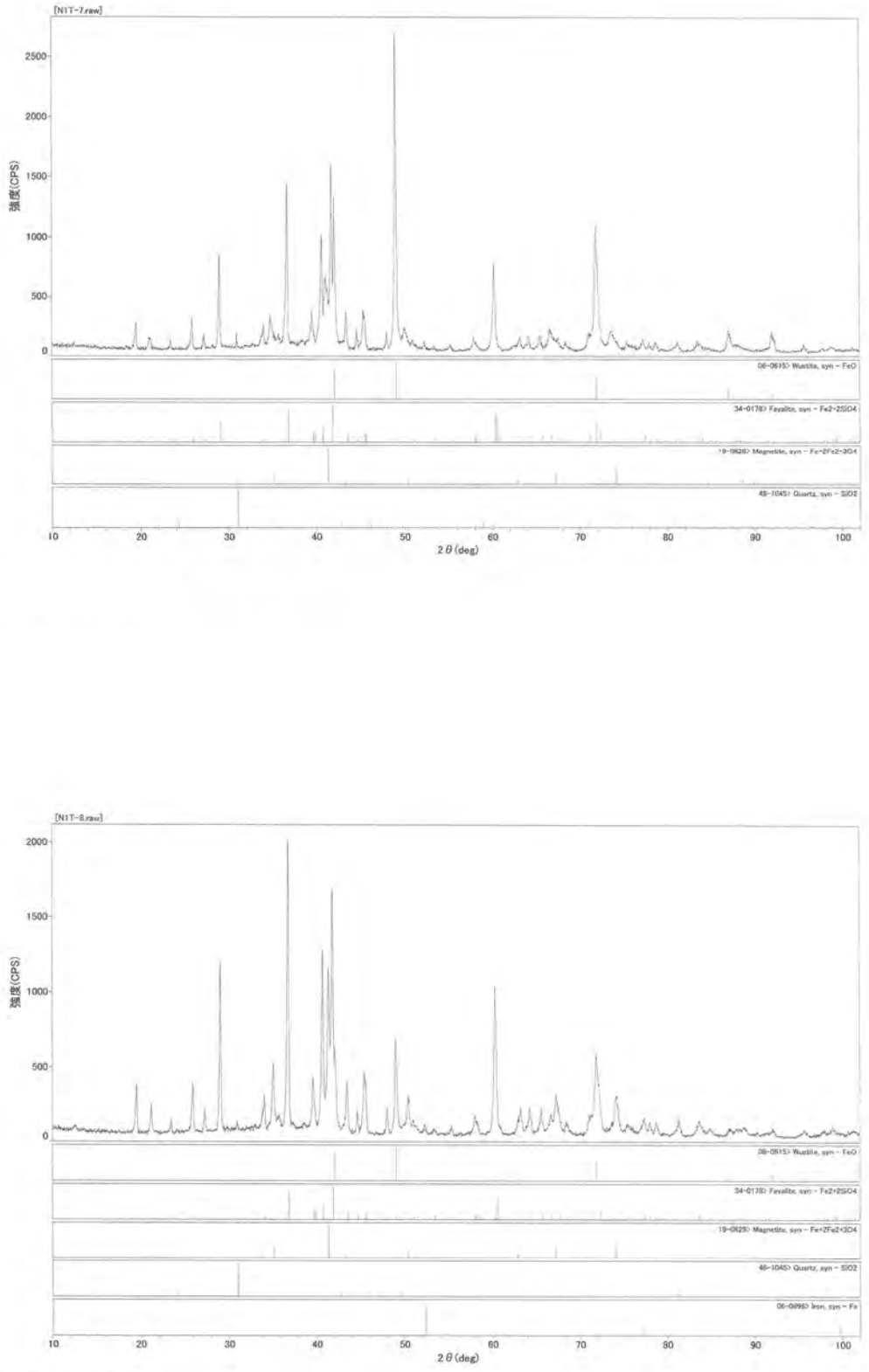


Fig.4　流動滓（上段：NIT-7、下段：NIT-8）の X 線回折測定結果

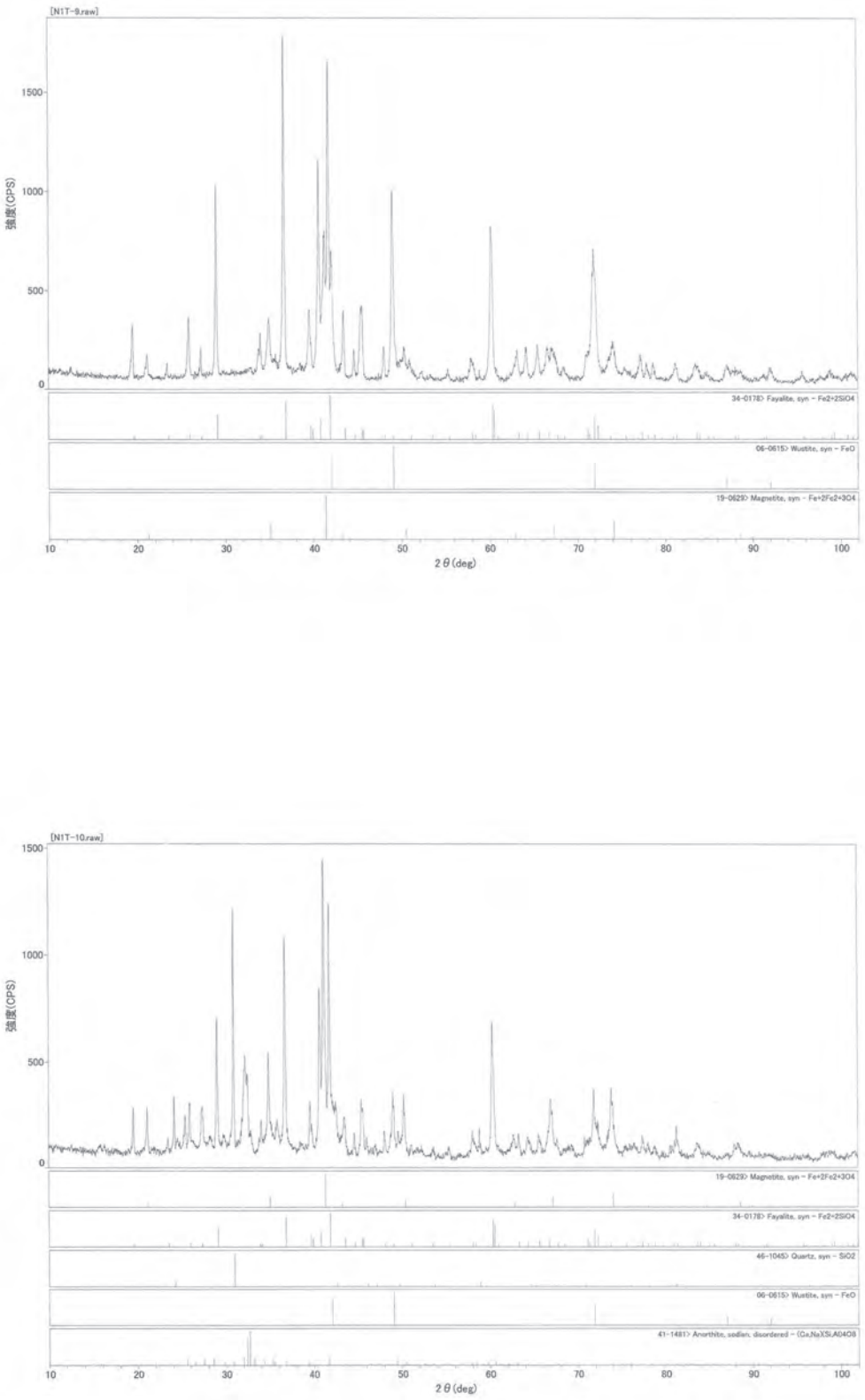


Fig.5　上段：流動滓（NIT-9）、下段：炉内滓（NIT-10）のＸ線回折測定結果

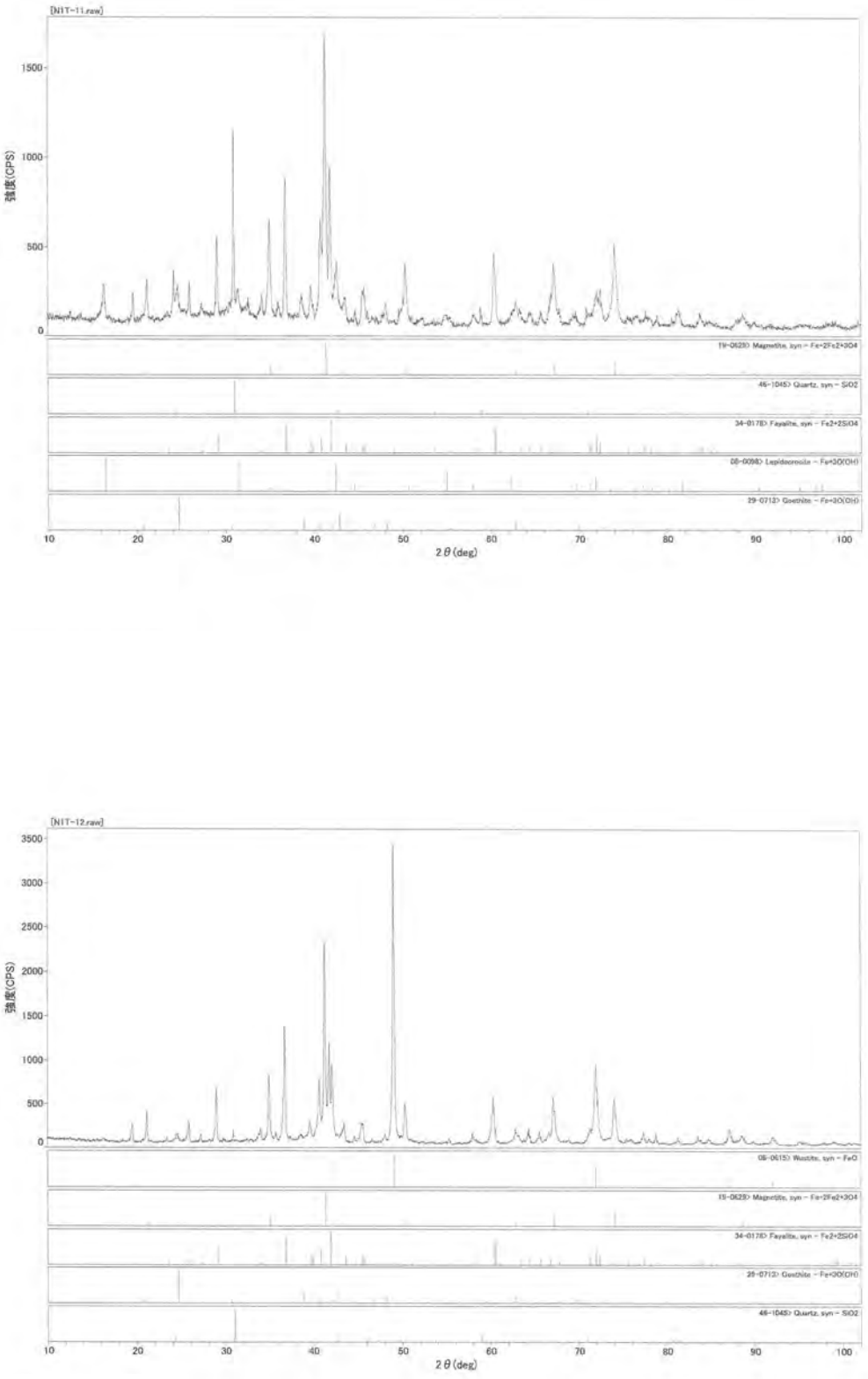


Fig.6　炉内滓（上段：NIT-11、下段：NIT-12）の X 線回折測定結果

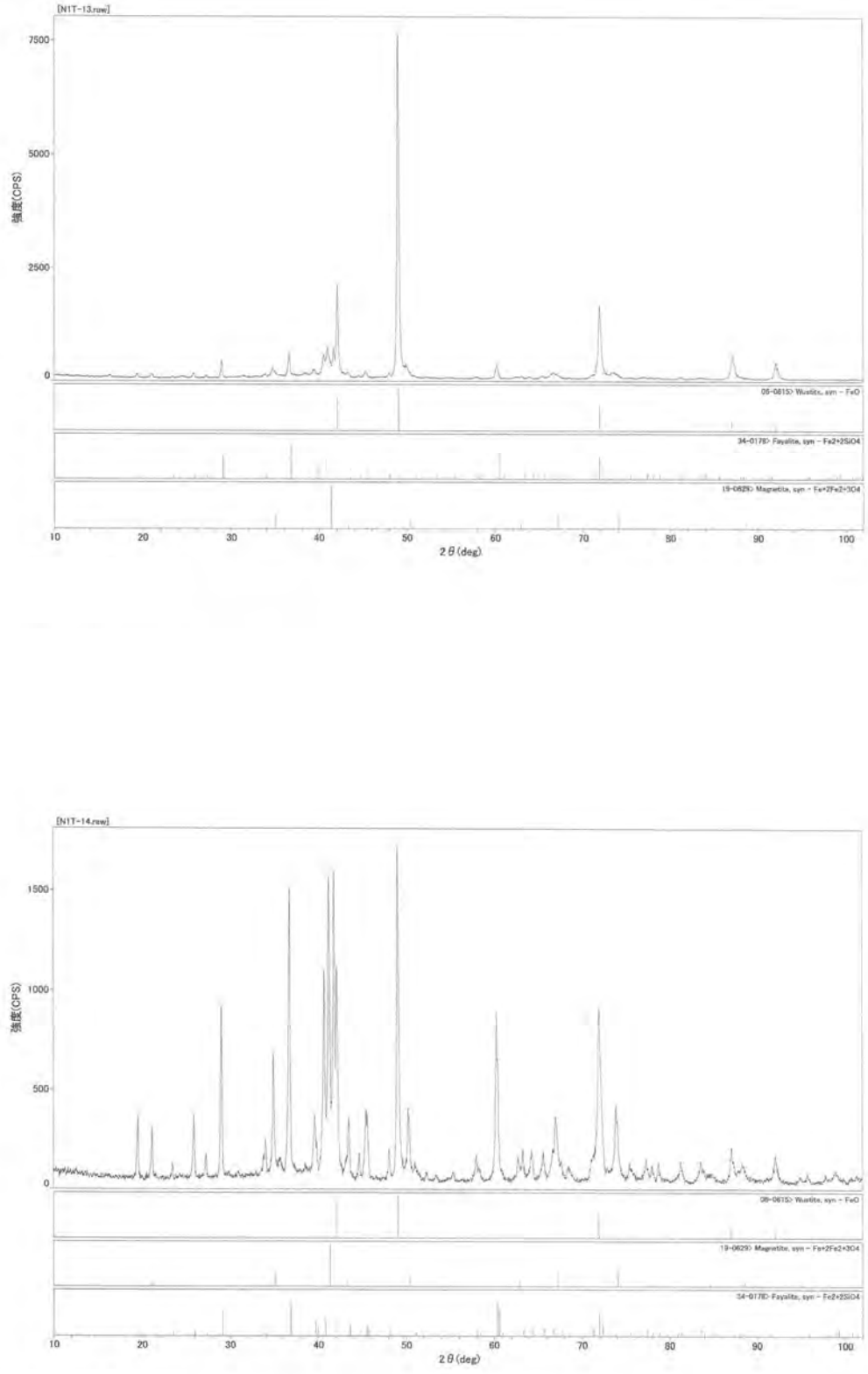


Fig.7　上段：鍛冶滓（NIT-13）、 下段：流動滓（NIT-14）の X 線回折測定結果

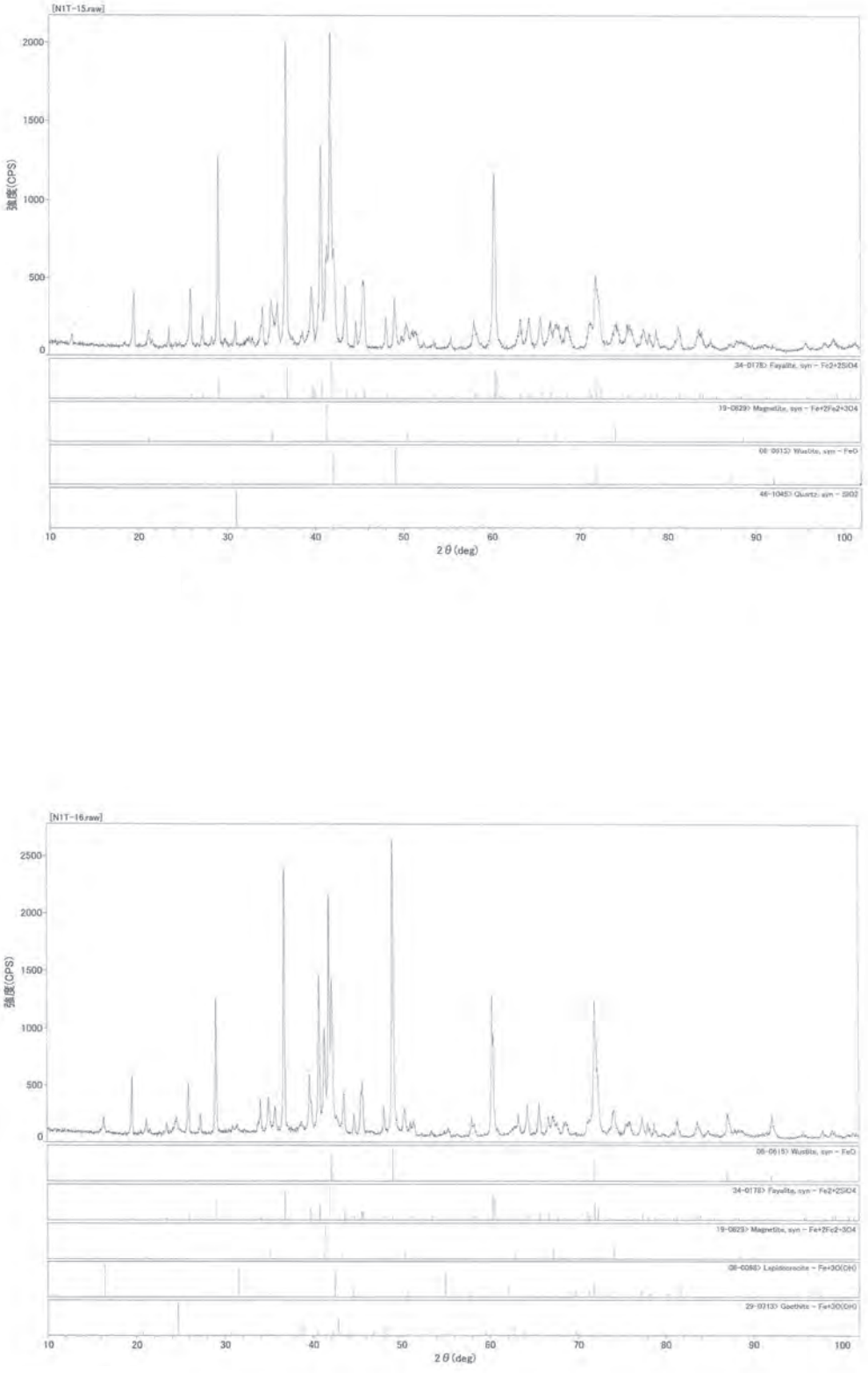


Fig.8　上段：炉内滓（NIT-15）、下段：椀形鍛冶滓（NIT-16）の X 線回折測定結果

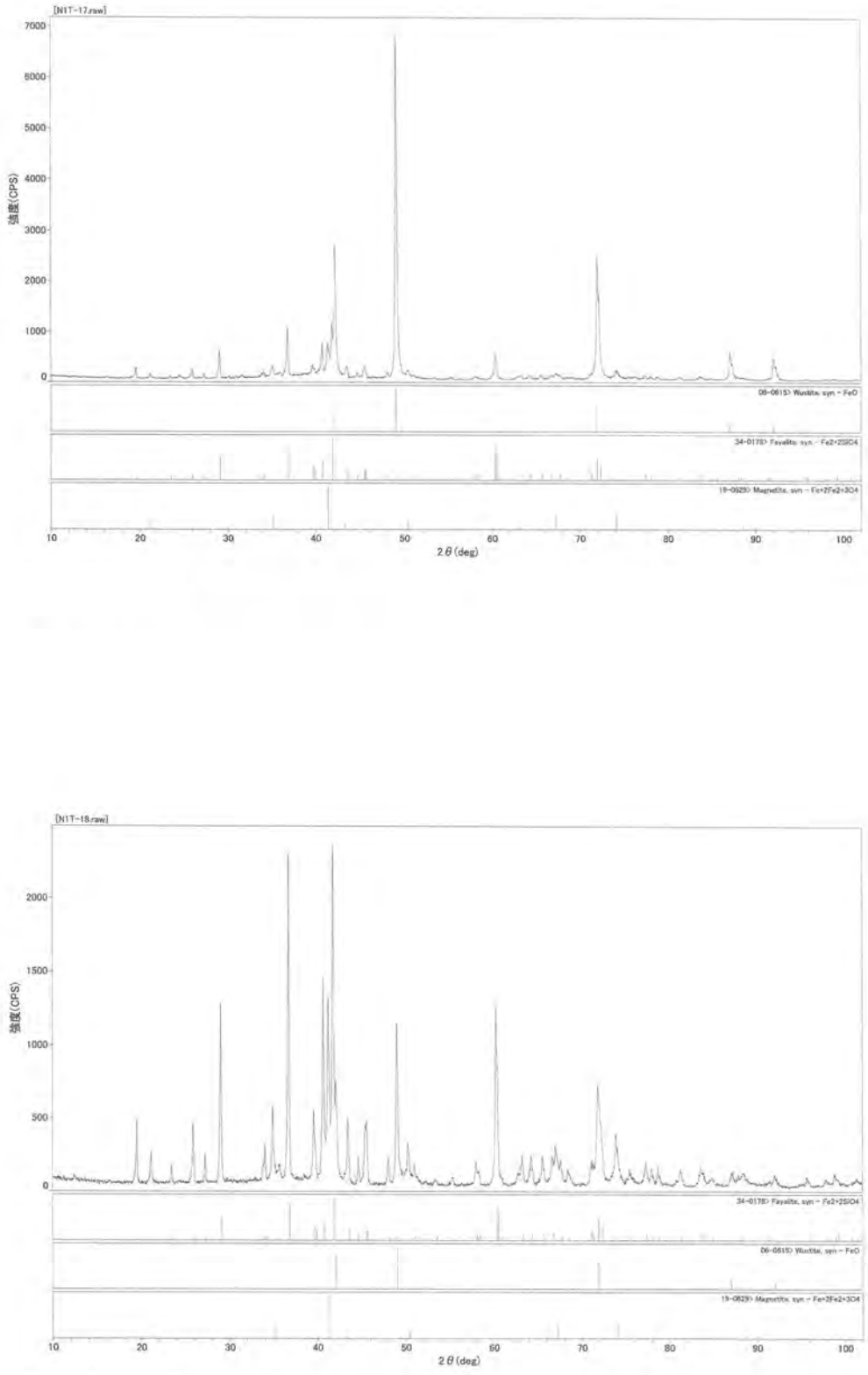


Fig.9　上段：椀形鍛冶滓（NIT-17）、下段：流動滓（NIT-18）の X 線回折測定結果

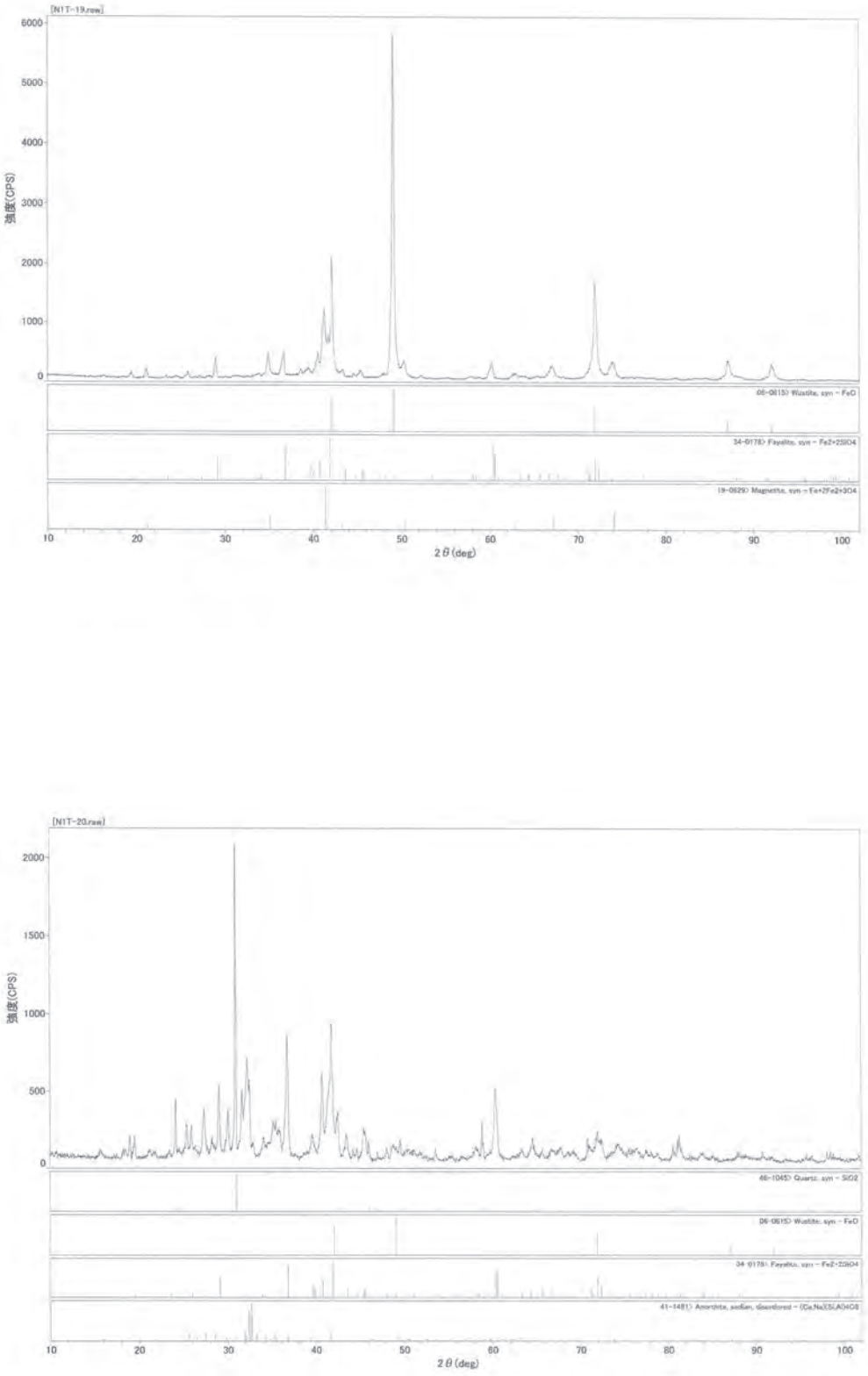
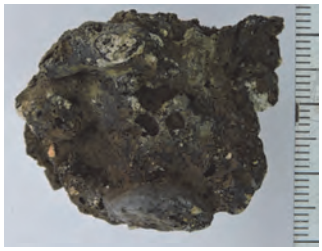
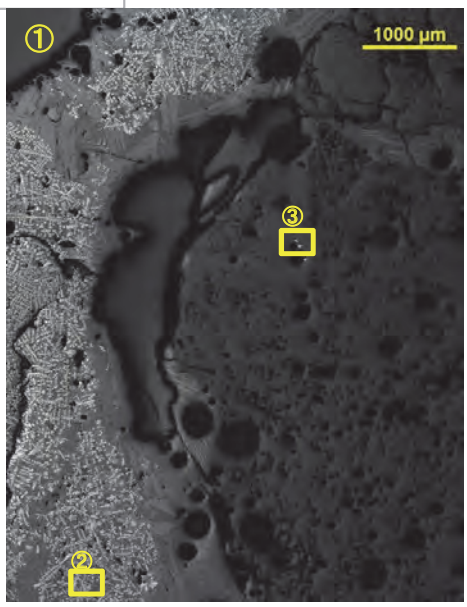
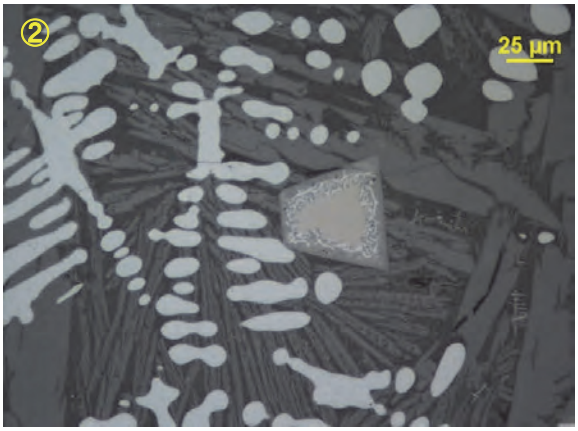


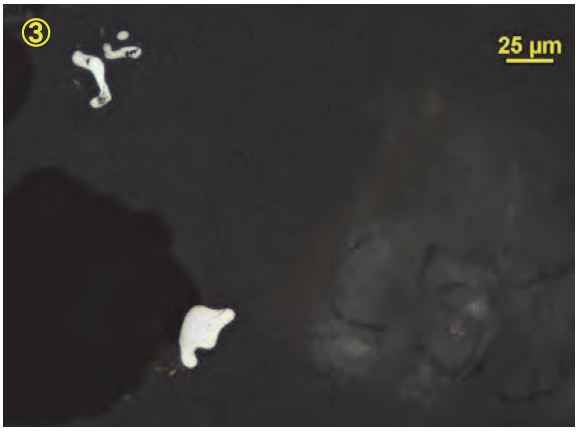
Fig.10　椀形鍛冶滓（上段：NIT-19、下段：NIT-20）のX線回折測定結果

NIT-1 鍛冶滓
①左側滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、右側:ｶﾞﾗｽ質滓（石英・長石類混在）、微小明白色粒:金属鉄
②滓部、③ｶﾞﾗｽ質滓拡大

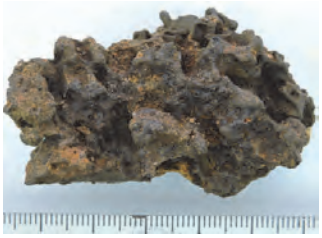


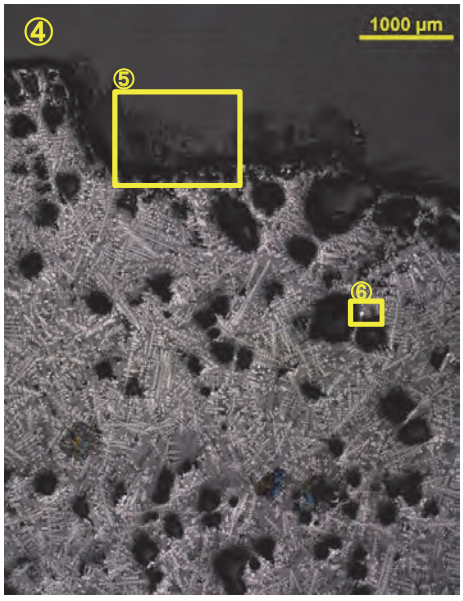


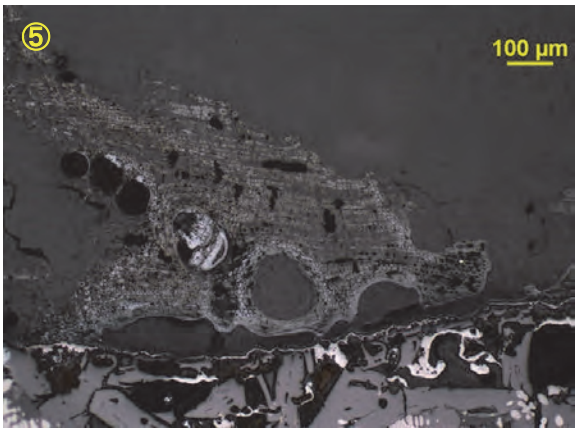




NIT-2
椀形鍛冶滓
④表層木炭破片付着、広葉樹材、滓部:ｳｽﾀｲﾄ（ﾍﾙｼﾅｲﾄ）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、⑤木炭、⑥滓部拡大







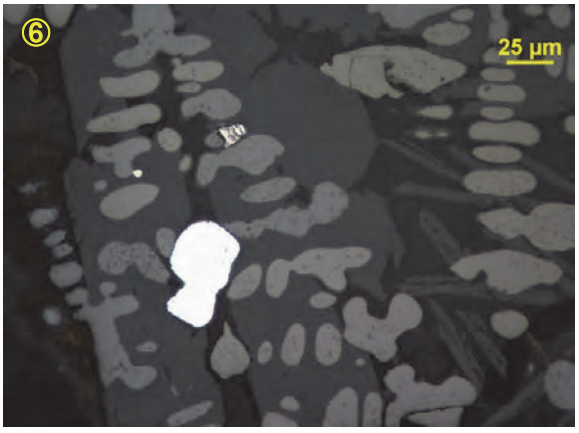
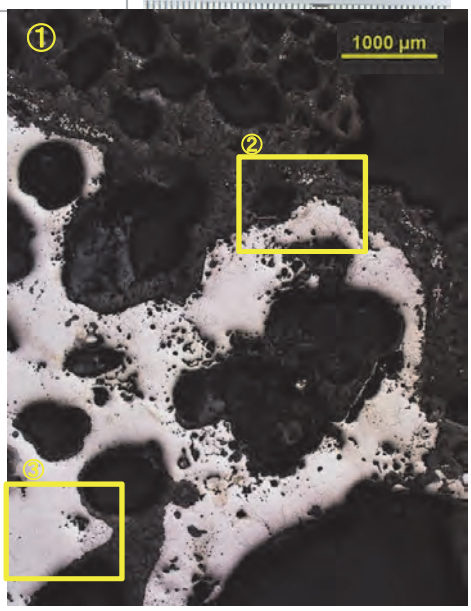
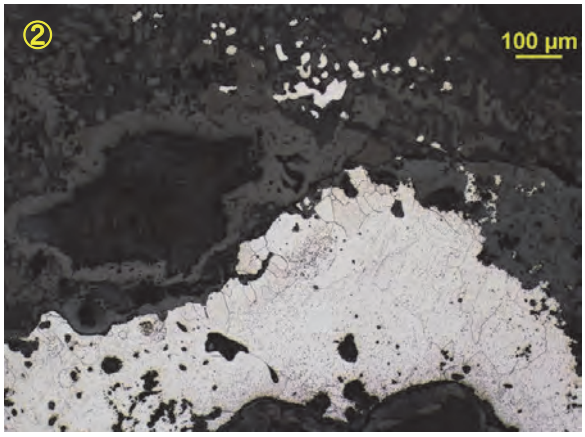
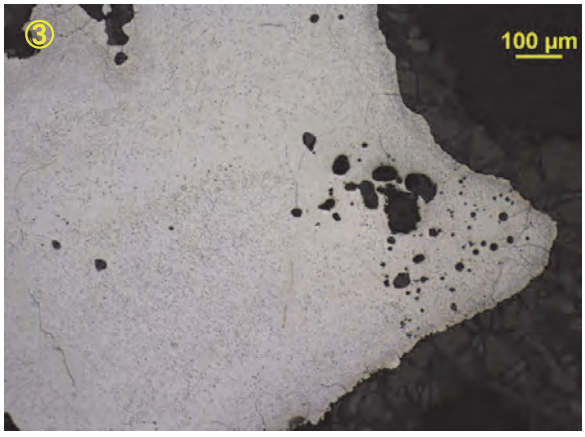


Photo.1　鍛冶滓の顕微鏡組織

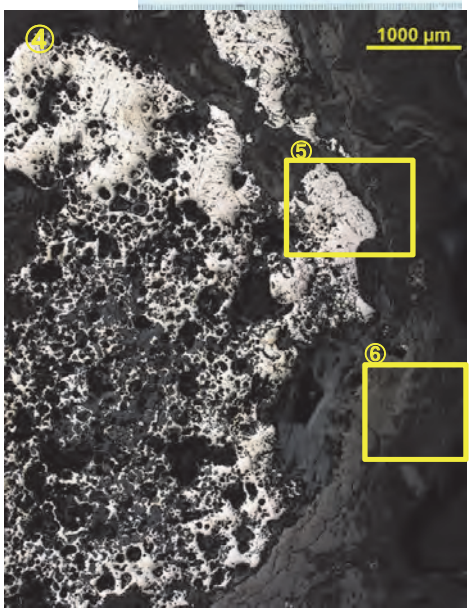
NIT-3
含鉄鉄滓
①～③金属鉄部:ﾅｲﾀﾙetch ﾌｪﾗｲﾄ単相、ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ(またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱)･ｳｽﾀｲﾄ･ﾌｧﾔﾗｲﾄ

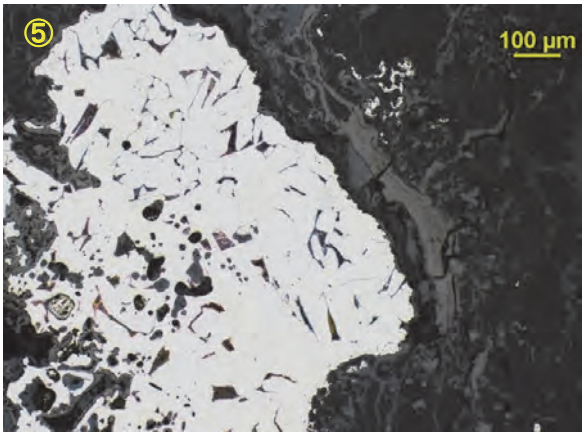






NIT-4
炉内滓(含鉄)
④～⑥金属鉄部:ﾅｲﾀﾙetch ﾌｪﾗｲﾄ単相～亜共析組織、滓部:ｲﾙﾒﾅｲﾄ





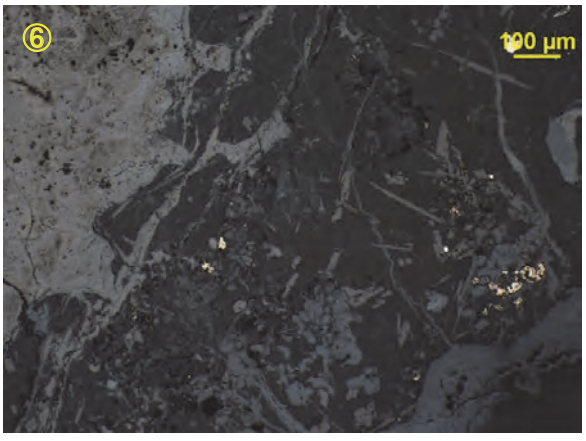
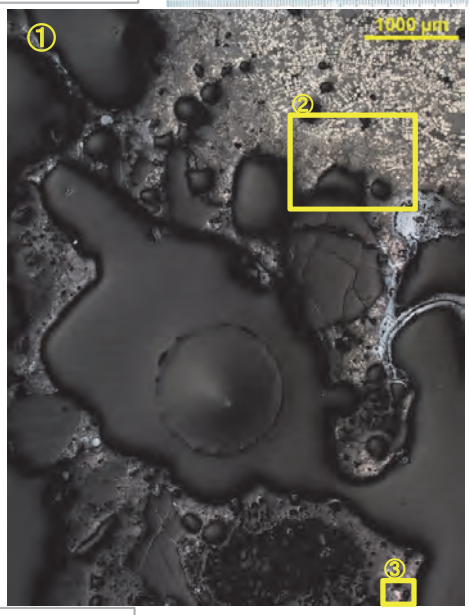
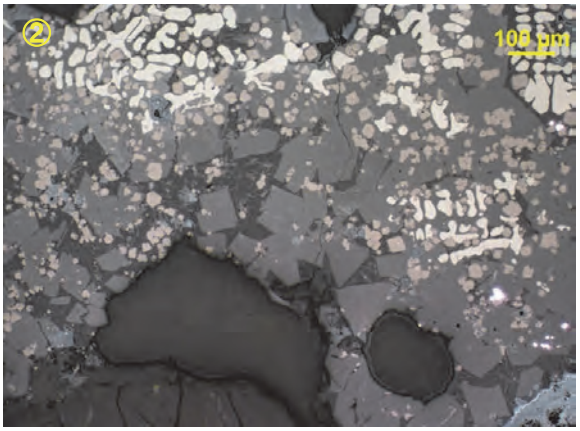
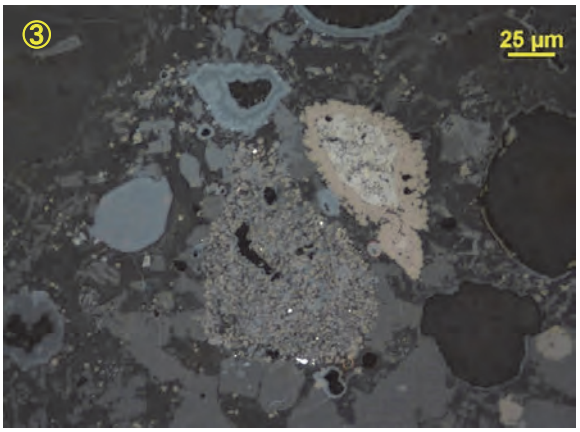


Photo.2　含鉄鉄滓・炉内滓（含鉄）の顕微鏡組織

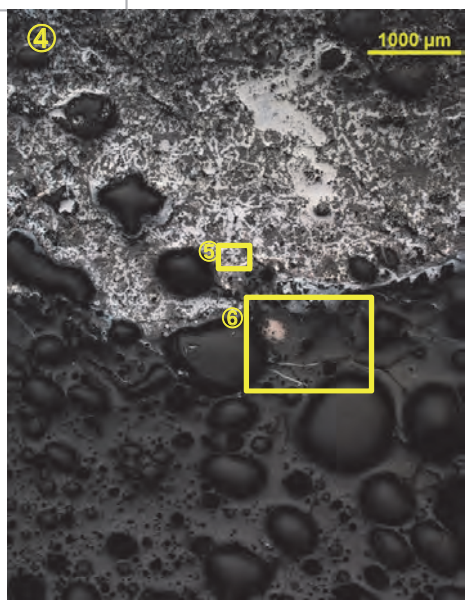
NIT-5　炉底滓
①上側滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、下側:ｶﾞﾗｽ質滓（石英・長石類混在）、②滓部、③被熱砂鉄粒子拡大

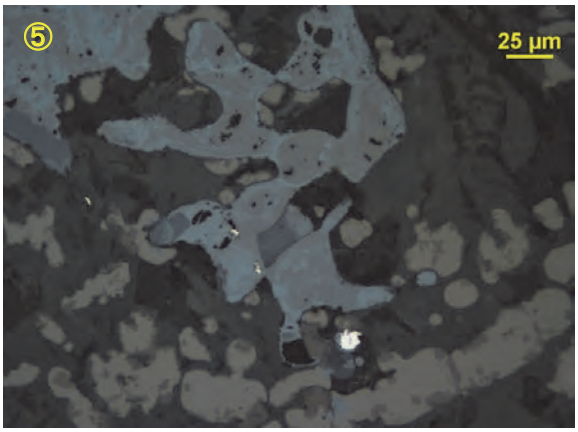






NIT-6　炉内滓
（炉壁付）
④上側滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（ﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ﾍﾙｼﾅｲﾄ・ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、不定形明灰色部:錆化鉄、下側:ｶﾞﾗｽ質滓、⑤滓部拡大、⑥ｶﾞﾗｽ質滓、被熱砂鉄粒子





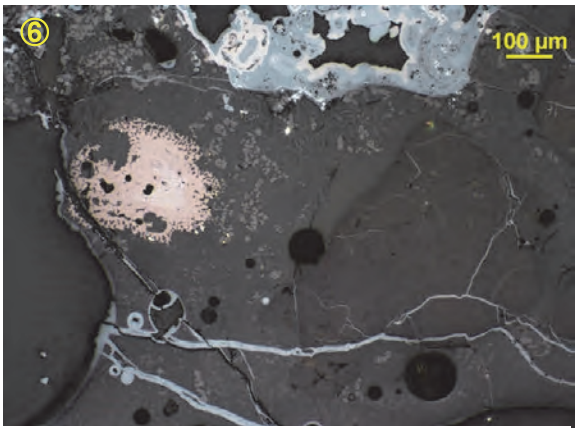
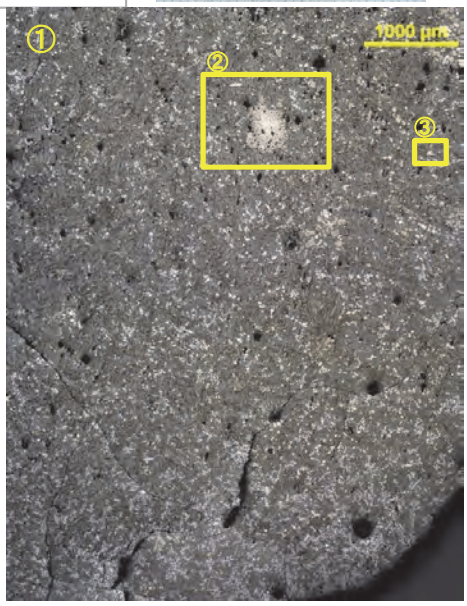
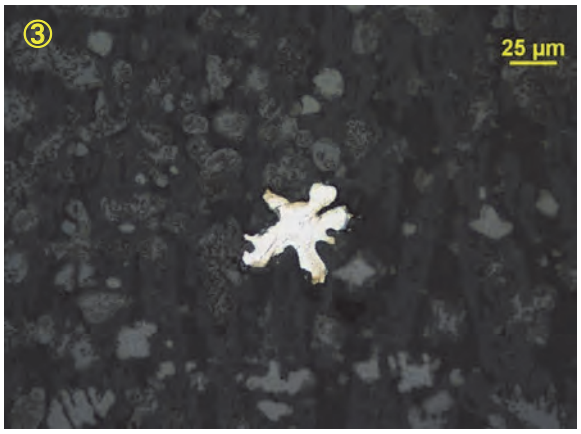


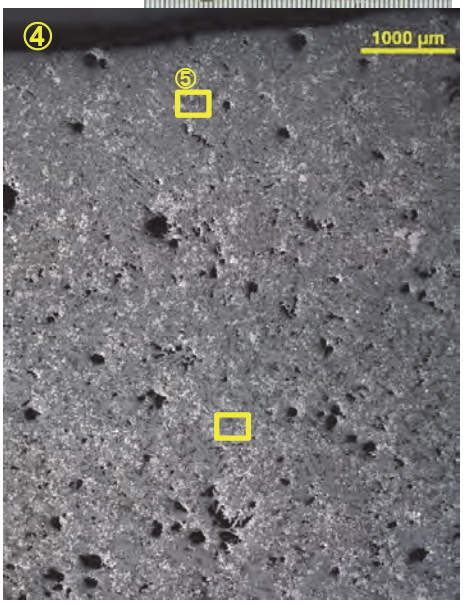
Photo.3　炉内滓の顕微鏡組織

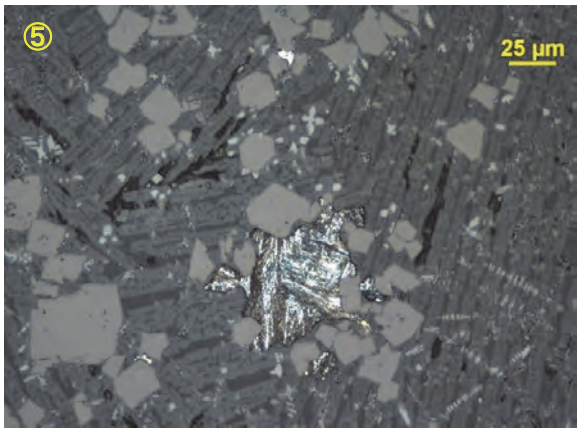
NIT-7　流動滓
①～③滓部:ウスタイト・マグネタイト（またはチタン磁鉄鉱）・ファヤライト、②中央:被熱砂鉄粒子、外周部滓化、③中央:微小金属鉄、ナイタルetch:フェライト





NIT-8　流動滓
④～⑥滓部:ウスタイト・マグネタイト（またはチタン磁鉄鉱）・ファヤライト、⑤中央:微小金属鉄、ナイタルetch:針状セメンタイト・パーライト





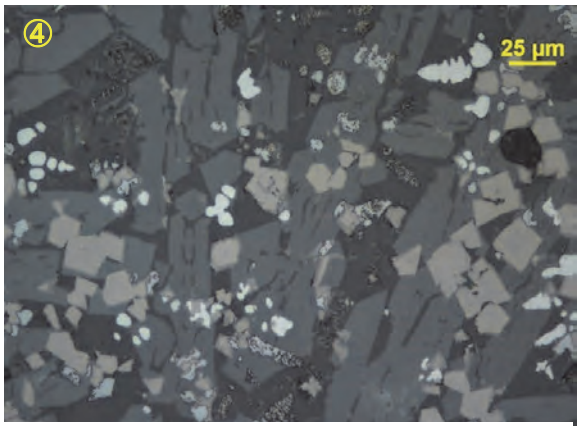
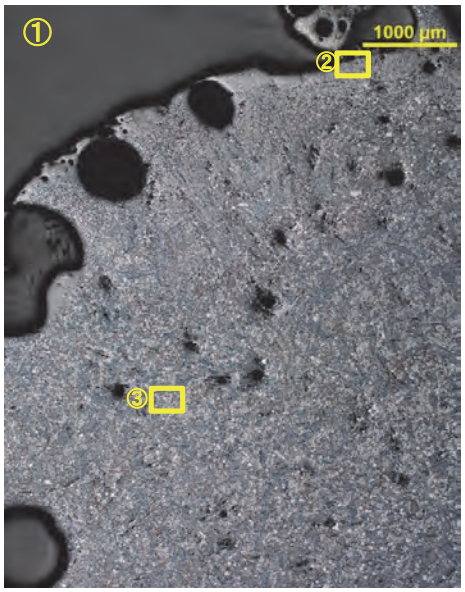
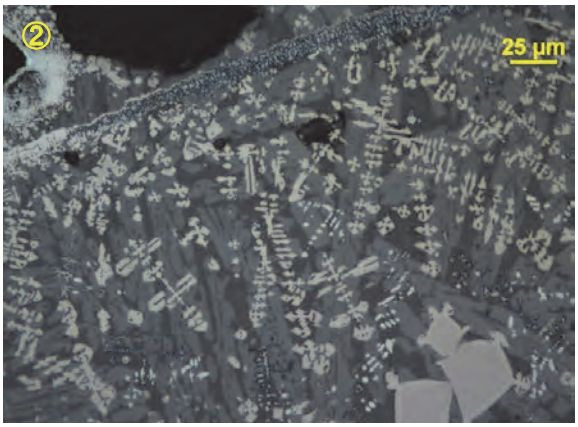
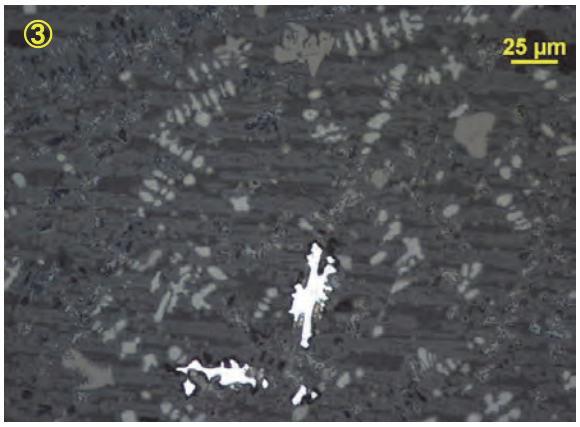


Photo.4　流動滓の顕微鏡組織

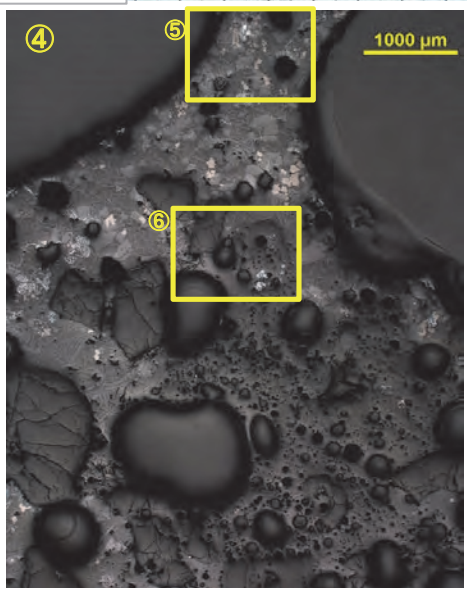
NIT-9　流動滓
①～③滓部:ｳｽﾀｲﾄ・ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、③中央:微小金属鉄、ﾅｲﾀﾙetch:ﾌｪﾗｲﾄ

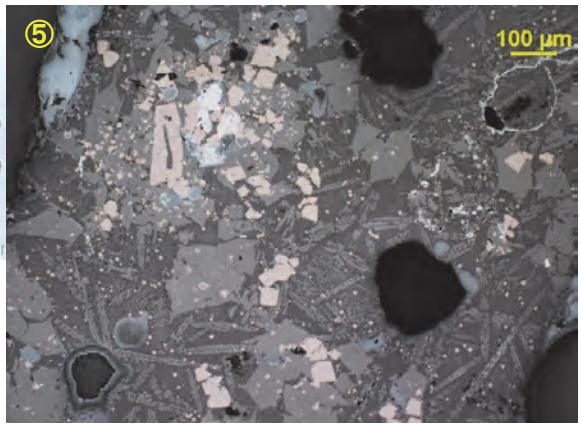






NIT-10　炉内滓
④上側滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、下側:ｶﾞﾗｽ質滓（石英・長石類混在）
⑤滓部、⑥ｶﾞﾗｽ質滓拡大、不定形青灰色部:錆化鉄





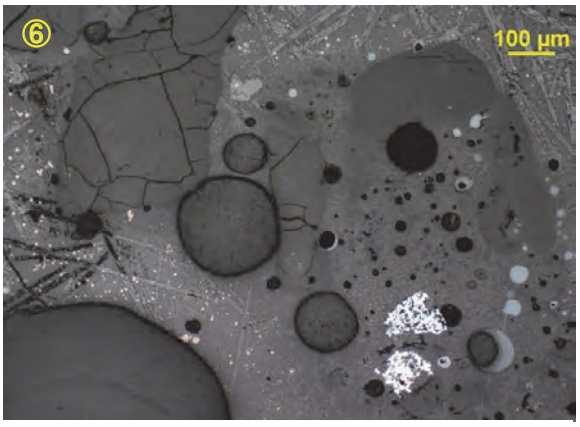
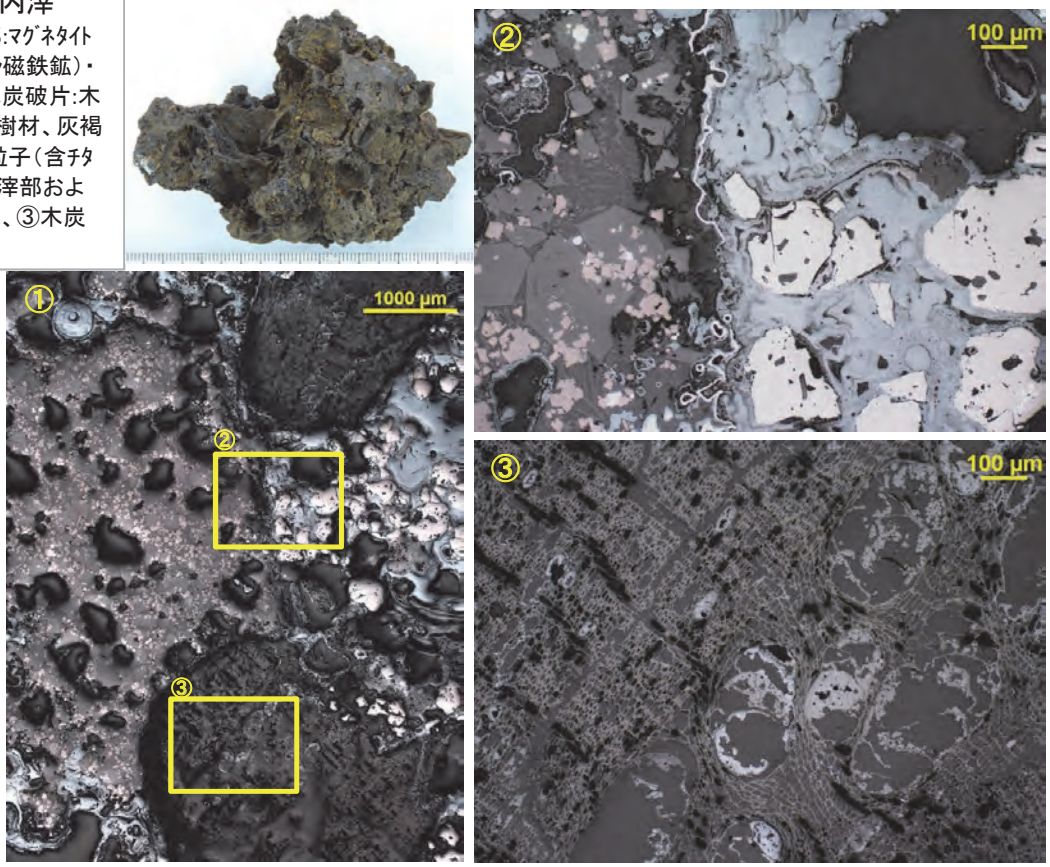


Photo.5　炉内滓の顕微鏡組織

NIT-11 炉内滓
①左側滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、木炭破片:木口面、広葉樹材、灰褐色粒:砂鉄粒子（含ﾁﾀﾝ鉄鉱）、②滓部および砂鉄粒子、③木炭拡大



NIT-12 炉内滓
④上側表面:木炭付着、広葉樹材、滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、⑤右上木炭破片、⑤左下および⑥滓部拡大

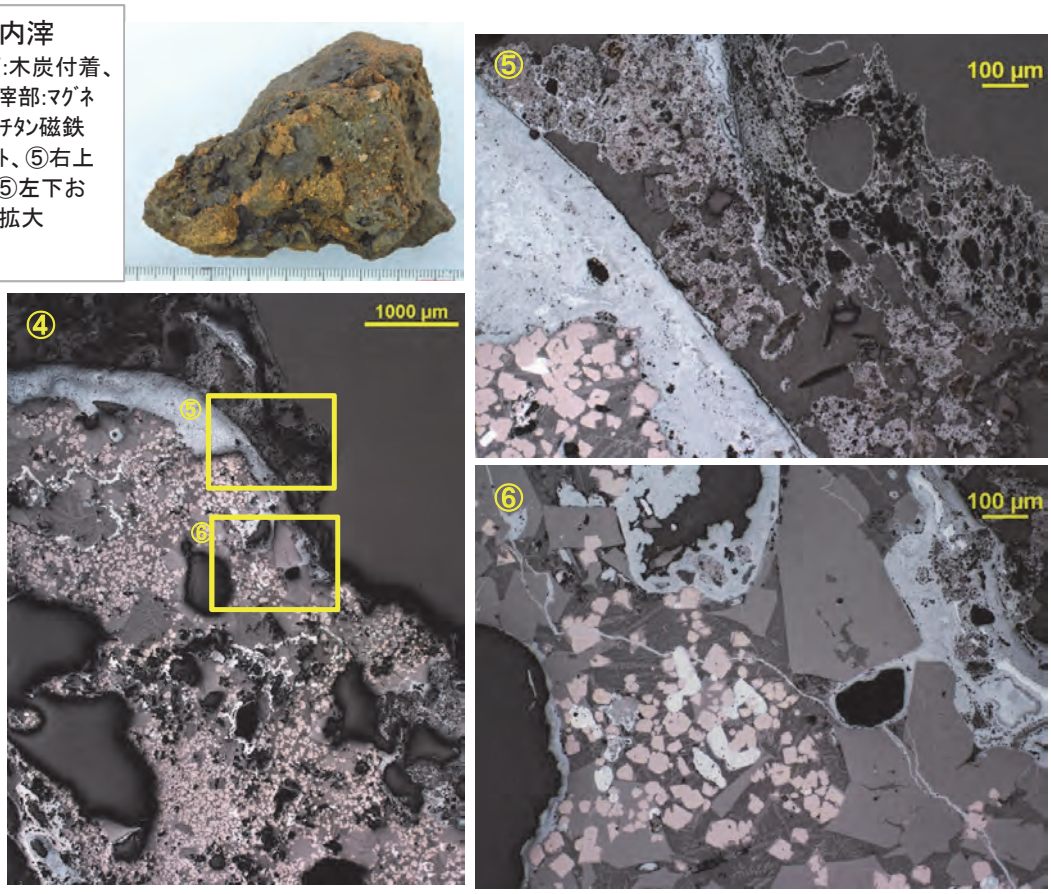
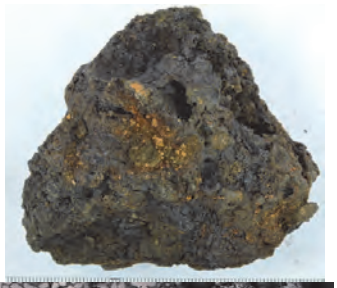
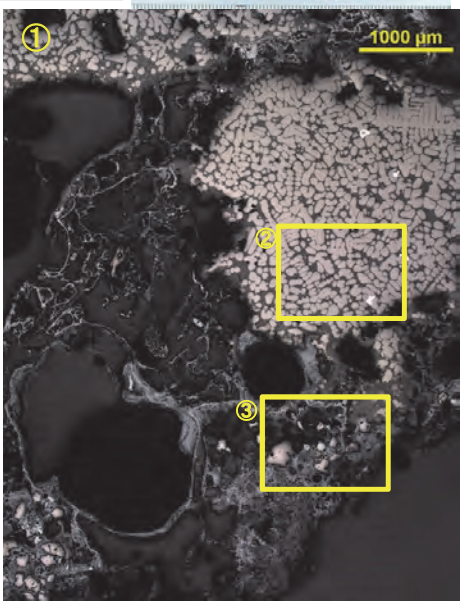
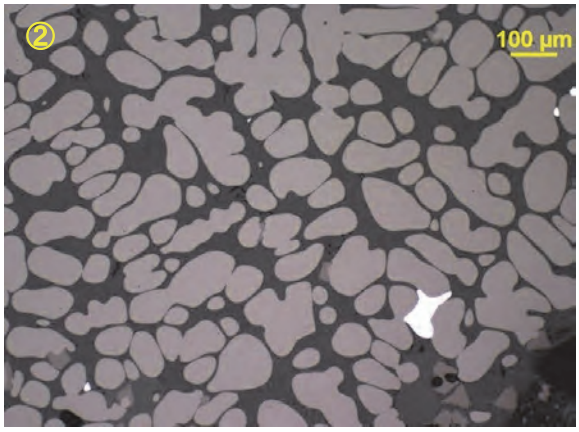


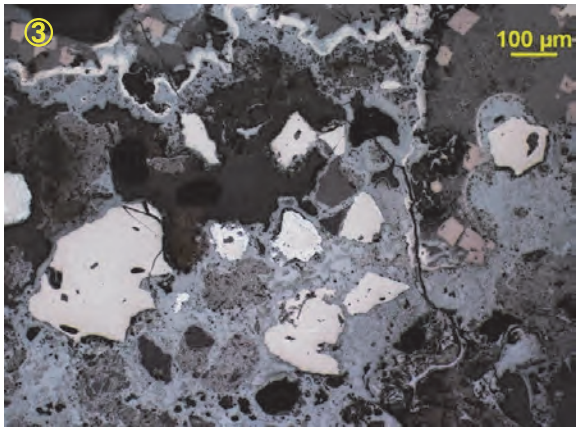
Photo.6　炉内滓の顕微鏡組織

NIT-13　鍛冶滓
①右上滓部:ｳｽﾀｲﾄ、左側黒色部):木炭破片、広葉樹材、下面表層:砂鉄(含ﾁﾀﾝ鉄鉱付着)
②滓部、③付着砂鉄拡大

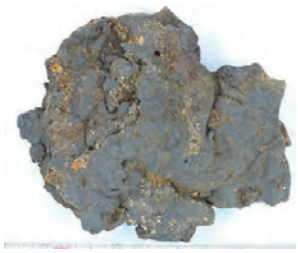


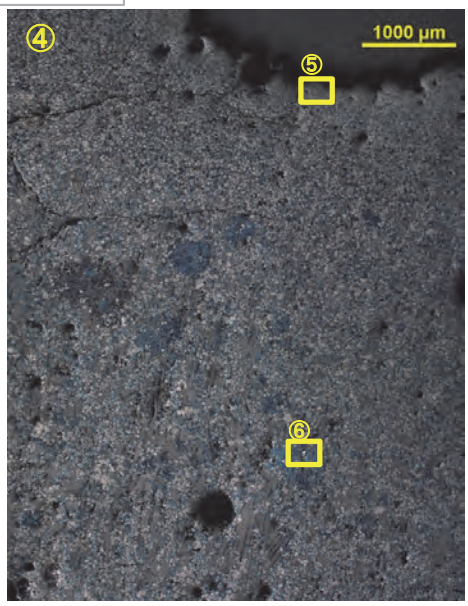


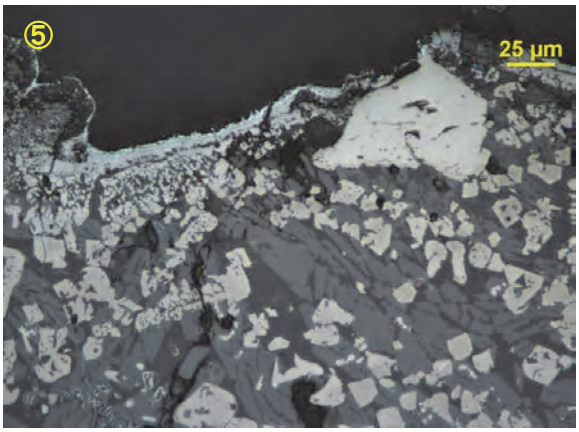




NIT-14 流動滓
④～⑥滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ(またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱)・ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、微小明白色粒:金属鉄







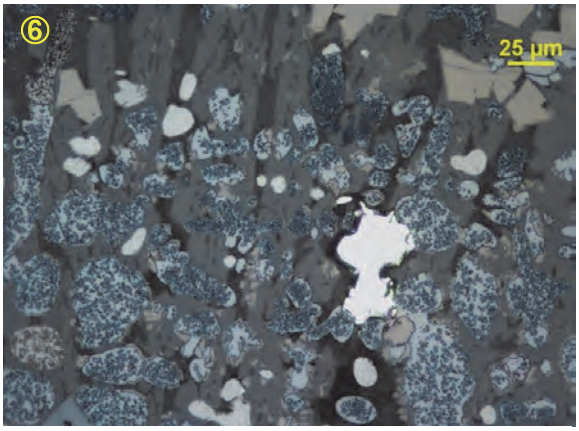
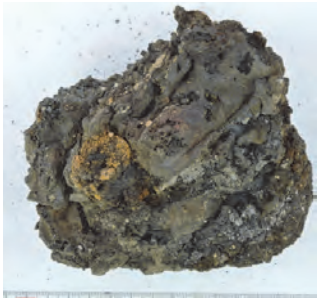
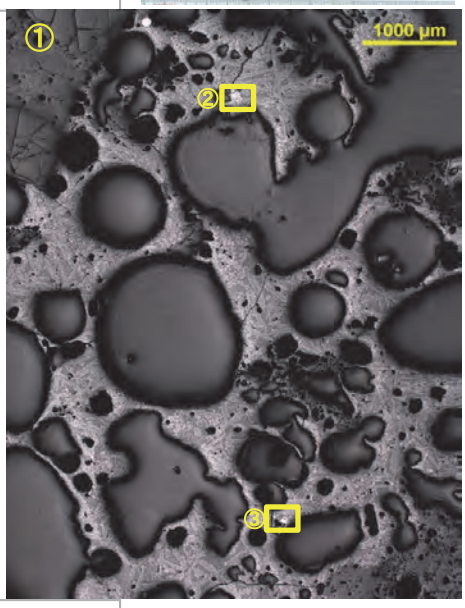
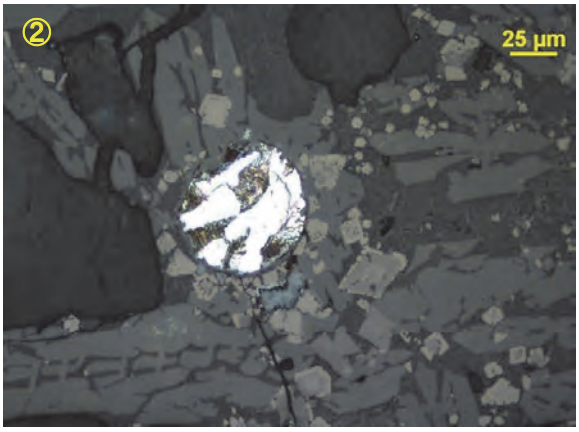


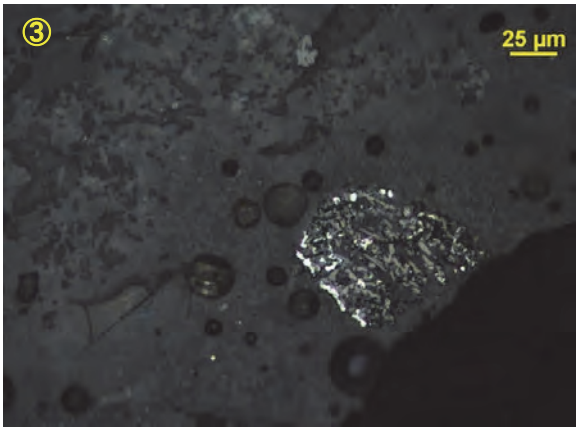
Photo.7　鍛冶滓・流動滓の顕微鏡組織

NIT-15 炉内滓
（炉壁付）
①滓部:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、ｶﾞﾗｽ質滓（石英・長石類混在）、微小金属鉄　ﾅｲﾀﾙetch②亜共析組織、③ﾌｪﾗｲﾄ単相

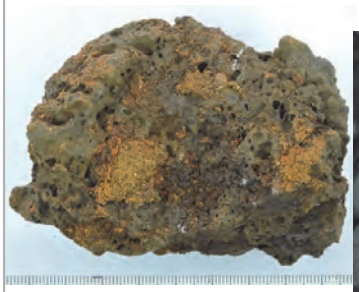


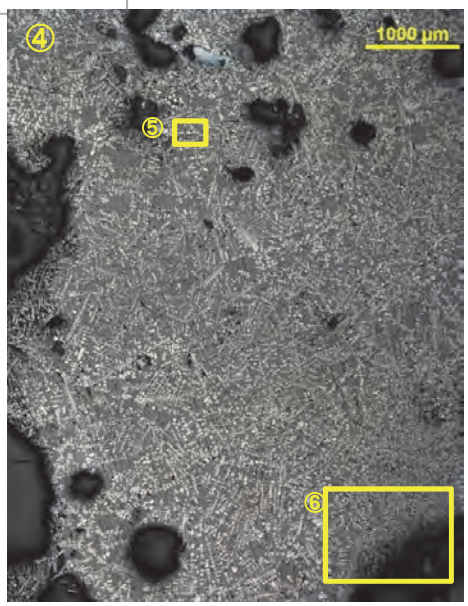


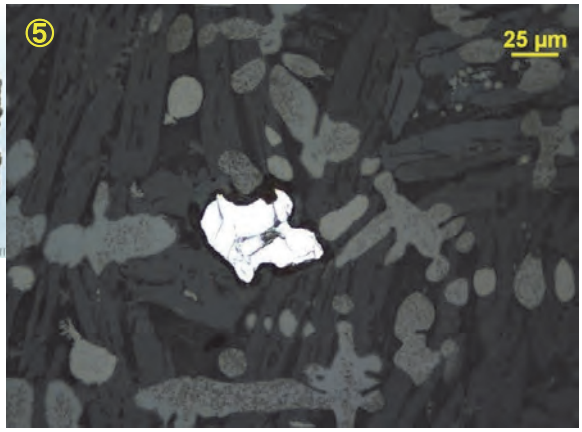




NIT-16
椀形鍛冶滓
④～⑥滓部:ｳｽﾀｲﾄ・微小ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ（またはﾁﾀﾝ磁鉄鉱）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ
⑤微小明白色粒:金属鉄、ﾅｲﾀﾙetch 亜共析組織、⑥下面表層:木炭付着







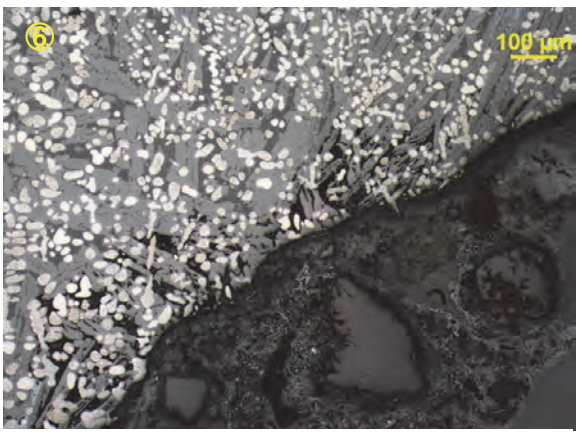
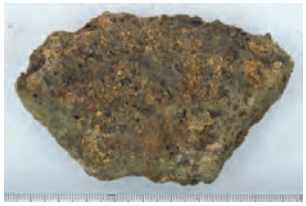
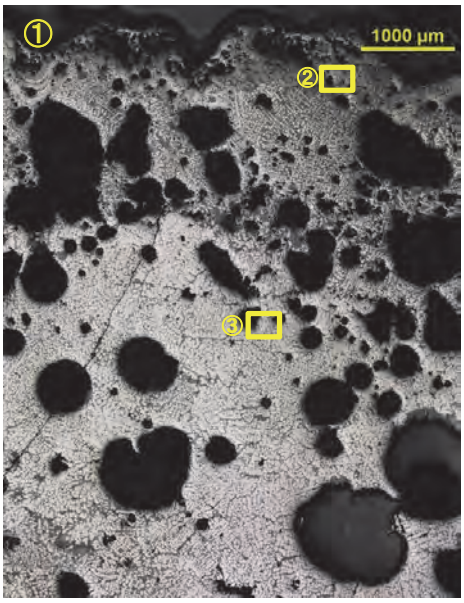
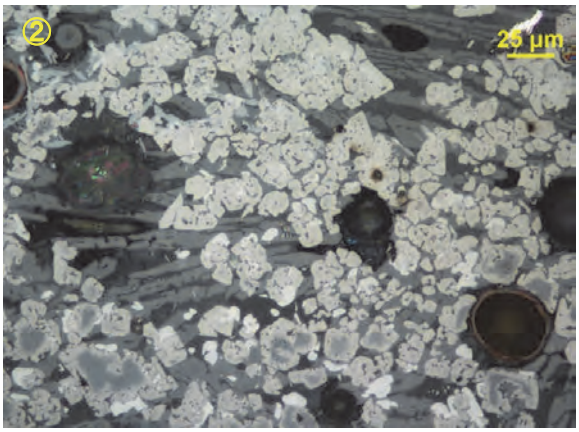


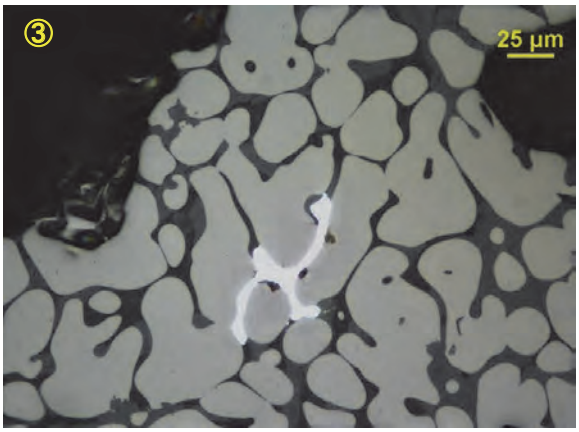
Photo.8　炉内滓・椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

NIT-17
椀形鍛冶滓
①～③滓部:ウスタイト・マグネタイト・ヘルシナイト・ファヤライト、③中央:微小金属鉄

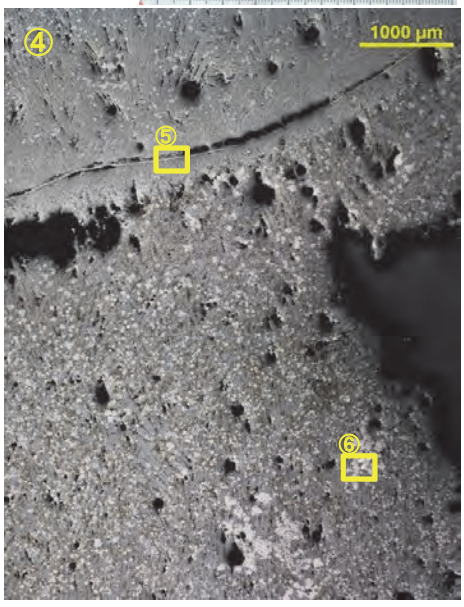


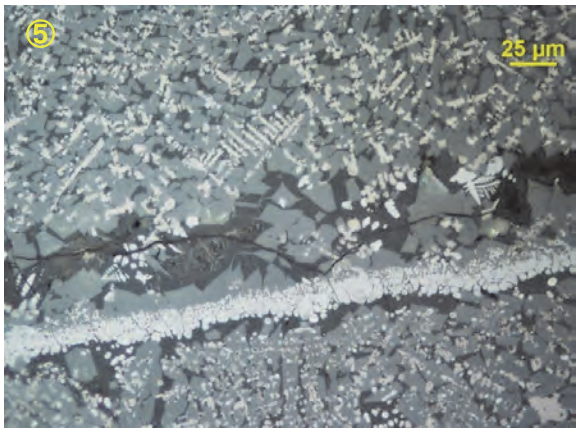






NIT-18 流出滓
④～⑥マグネタイト（またはチタン磁鉄鉱）・ウスタイト・ファヤライト、⑥微小明白色部:金属鉄、ナイタルetch フェライト単相





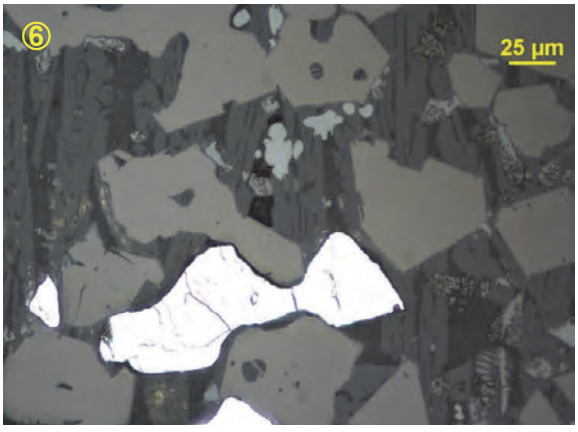
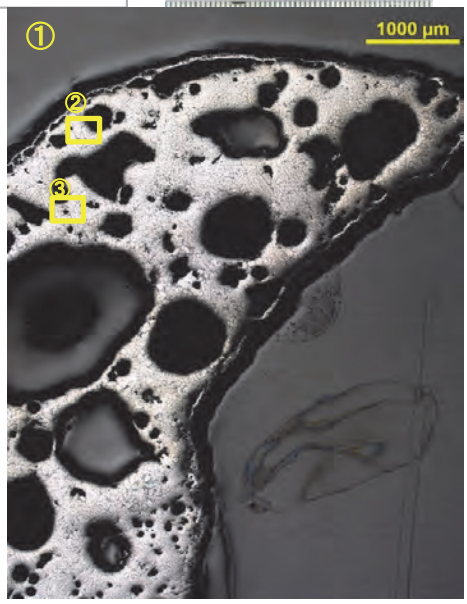
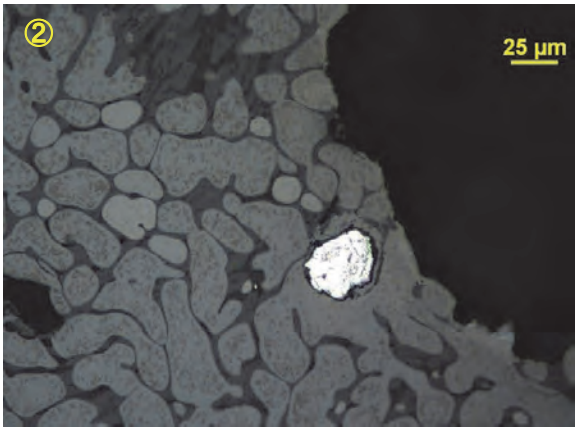
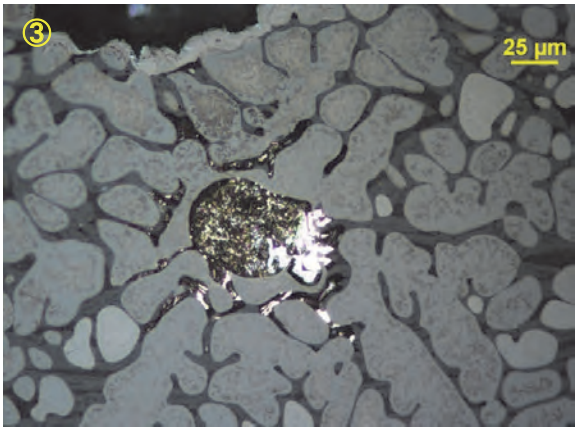


Photo.9　鍛冶滓・流出滓の顕微鏡組織

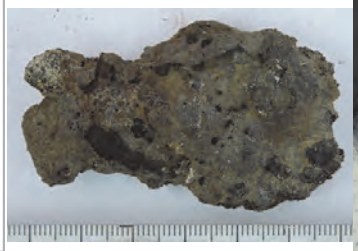
NIT-19
椀形鍛冶滓
①～③滓部:ｳｽﾀｲﾄ・(粒内微結晶:ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ)・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、微小金属鉄粒:ﾅｲﾀﾙ etch ②ﾌｪﾗｲﾄ、③亜共析組織

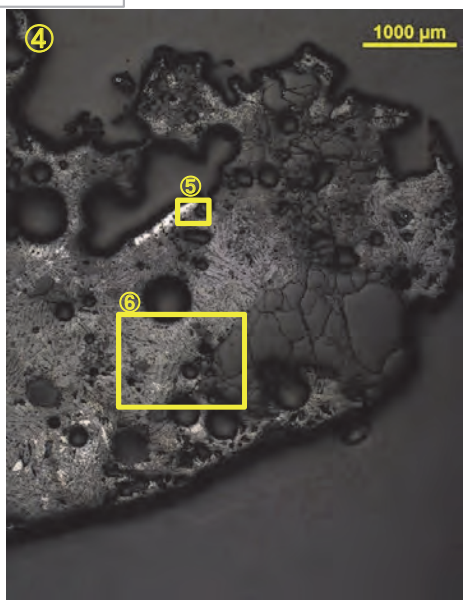


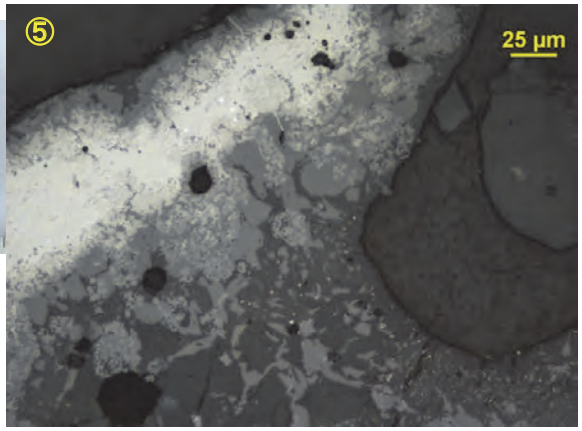




NIT-20
椀形鍛冶滓
④～⑥滓部:微小ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ
⑤左上明灰色部:鍛造剥片(分解・滓化)、⑥右側暗色粒:被熱砂粒(石英など)







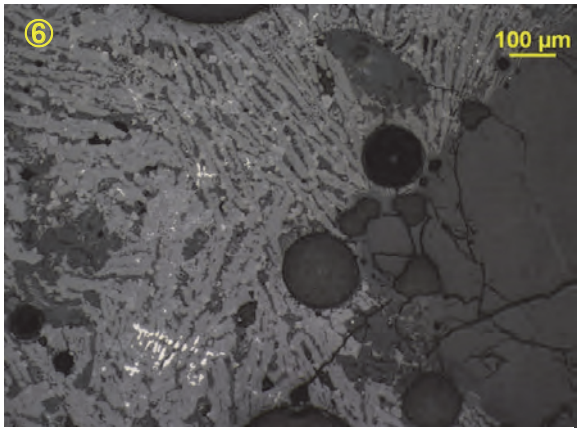


Photo.10　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

報 告 書 抄 録

ふ り が な	にちくひなた１いせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書
副 書 名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第681集
編 著 者 名	溜 浩二郎・立花雄太郎
編 集 機 関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター
所　在　地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL（019）638-9001
発 行 年 月 日	西暦2018年３月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
荷竹日向Ⅰ遺跡（にちくひなた いせき）	岩手県宮古市（いわてけん みやこし）津軽石第16地割荷竹ほか（つがるいしだいち わりにちく）	03202	LG63-0231	39度 33分 39秒	141度 55分 34秒	2014.04.10 ～ 2014.12.26 2015.04.16 ～ 2015.05.15	15,600㎡	三陸沿岸道路建設関連事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荷竹日向Ⅰ遺跡	散布地	縄文･弥生	陥し穴状遺構　57基	土器、石器	平安～中世の集落跡で平安時代前半（９世紀後半～10世紀前半）を主とする。竪穴建物内外において鍛冶に関連した遺構が見つかっている。神社跡地のある丘陵地中腹の平場で検出した土坑内から切断痕のある八稜鏡の破片が出土した。遺物は他に羽口や研磨具などの土製品や鍛造剥片をはじめとする鉄滓類、竪穴建物のカマドや焼成遺構から炭化種子や骨片など多種にわたる。
	集落跡	平安～中世	竪穴住居跡　75棟 鍛冶工房跡　１基 排滓場　１箇所 鍛冶炉　１基 焼土遺構　12基 焼成遺構　19基 土坑　102基	土師器、須恵器、金属遺物、羽口、土製研磨具、八稜鏡、石器、銭貨、鉄滓類、炭化種子、骨片、琥珀	
		近世（時期不明含む）	柱穴状土坑　77基	陶器	

要　　約	荷竹日向Ⅰ遺跡は宮古市南部に位置し、津軽石川の支流である七田川左岸の河岸段丘および丘陵地上に立地する。出土遺物の年代は縄文時代～近世まで幅広く見つかっている。このうち主体となるのは古代～中世で、調査区の全面にわたり多数の竪穴建物が検出され、竪穴内外から鍛冶に関連した遺構が見つかっている。縄文～弥生時代は陥し穴状遺構が検出され、主に狩猟場としての利用を確認したが、旧沢跡を中心に遺跡内から遺物が出土していることから周辺に集落が存在する可能性を示唆している。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第681集

荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査
〈第１分冊　本文・図版・表・附編〉

印　刷　平成30年３月９日
発　行　平成30年３月16日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話（019）638－9001

発　行　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027－0029　岩手県宮古市藤の川４番１号
電話（0193）62－1711
（公財）岩手県文化振興事業団
〒020－0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電話（019）654－2235

印　刷　川嶋印刷株式会社
〒029－4194　岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21
電話（0191）46－4161

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2018